

# 練馬区障害者基礎調査 報告書

令和5年（2023年）10月

練馬区



# 目 次

I	調査の概要	1
1	調査の目的	1
2	調査対象	1
(1)	障害者調査	1
(2)	事業所調査	1
3	調査時期	1
4	調査方法	1
5	回収状況	2
(1)	障害者調査	2
(2)	事業所調査	2
6	主な調査項目	2
7	報告書を利用するにあたって	5
II	調査結果のまとめ	6
III	調査結果の詳細（障害者調査）	13
1	基本属性	13
(1)	性別	13
(2)	年齢	13
(3)	調査票の記入者	14
(4)	居住形態	15
(5)	施設入所期間（施設入所者のみ）	15
(6)	施設所在地（施設入所者のみ）	15
(7)	同居者（複数回答）	16
(8)	収入源（複数回答）	17
(9)	主な生計維持者	17
(10)	障害の程度	19
(11)	重複障害の状況	20
(12)	障害の種類等	21
(13)	手帳を取得した年齢、精神疾患・難病の発症年齢等	24
(14)	障害支援区分認定の状況	26
(15)	発達障害、高次脳機能障害、難病等の診断状況（複数回答）	26
(16)	医療的ケアの状況	27
(17)	介助者が不在の時などの短期入所（ショートステイ）の利用状況について	28
2	介助・援助の状況について	29
(1)	介助・援助者	29
(2)	介助・援助者のうち最も長く介助・援助している人	31
(3)	最も長く介助・援助している人の年齢	32
(4)	介助・援助の内容（複数回答）	33
(5)	介助・援助者が不在のときに希望する対応（複数回答）	38
(6)	必要とする介助・援助の有無	43
(7)	必要だが受けていない介助・援助（自由回答）	48
(8)	地域生活支援拠点について	49
3	日中の過ごし方について	57
4	教育について	61
(1)	通園・通学先	61
(2)	通園・通学にあたって充実してほしいこと（複数回答）	62
5	雇用・就労について	64
(1)	就労形態	64
(2)	就労内容	67

(3) 職場の所在地（就労者全体と一般就労別）	72
(4) 1年間の就労収入	74
(5) 仕事をする上での不安や不満（複数回答）	75
(6) 働いていない理由（複数回答）	80
(7) 今後の就労意向	84
(8) 働きたいが働けない理由（自由回答）（施設入所者のみ）	86
(9) 働くために大切だと思う環境（複数回答）	87
(10) 希望する余暇の過ごし方（複数回答）	93
6 外出や社会参加について	97
(1) 外出の際の移動手段（複数回答）	97
(2) 外出の際に困っていること（複数回答）	102
(3) 今後してみたい活動（複数回答）	108
(4) 活動に参加するために必要な支援（複数回答）	108
7 健康状況や医療について	113
(1) 医療の受診状況	113
(2) 入院歴の有無と入院期間	115
(3) 通院する際の介助の必要性（難病患者のみ）	118
(4) 健康管理や医療について困ったことや不便に感じたこと（複数回答）	119
8 相談や情報の入手について	125
(1) 悩みごとや心配ごとがあるときの家族や親せき以外の相談先（複数回答）	125
(2) 福祉サービスなどの情報入手先（複数回答）	131
(3) 情報通信機器（ICT機器）の利用頻度	137
(4) コミュニケーション手段	139
(5) コミュニケーションや情報取得のために充実すべきこと（複数回答）	144
9 障害福祉サービスについて	149
(1) 最近1年間に利用したサービス（複数回答）	149
(2) 必要だと思うサービスの利用状況	154
(3) 必要だと思うサービスをあまり利用できていない理由（複数回答）	158
(4) 今後も引き続き、あるいは新たに利用したいと思う福祉サービス（複数回答）	160
(5) 必要だと思う入浴サービス（複数回答）	165
(6) グループホーム利用時に必要なこと（複数回答）	166
(7) 改善が必要だと思うサービスと必要なこと（自由回答）	166
(8) 今あるサービス以外に必要なサービス（自由回答）（難病患者のみ）	169
(9) 介護保険サービスの利用状況（複数回答）	169
(10) 要介護認定の有無	174
(11) 障害福祉サービスとの併用で困っていること（複数回答）	174
10 将来について	179
(1) 今後希望する日中の過ごし方（複数回答）	179
(2) 希望する暮らし方	183
(3) ひとりで暮らすために必要なこと（複数回答）	192
(4) 地域で暮らすために必要な手助け・環境（複数回答）（施設入所者のみ）	197
(5) 練馬区での定住意向	198
(6) 練馬区での定住意向に対する理由（自由回答）	199
11 災害対策について	201
(1) 避難拠点の認知度	201
(2) 避難拠点まで自力避難の可否	202
(3) 災害に備えて必要な対策（複数回答）	205
12 権利擁護について	211
(1) 差別や人権侵害を受けていると感じることの有無	211
(2) 地域での障害に対する理解	213

(3) 障害および障害者への区民の理解を深めるために必要なこと（複数回答）	214
(4) 合理的配慮を求めたことの有無	219
(5) 合理的配慮を求めたことがない理由	223
(6) 成年後見制度	228
1 3 障害者施策全般について	230
(1) 障害者施策を充実するために必要なこと（複数回答）	230
(2) 新型コロナウイルス感染症の影響	237
(3) 区の障害者施策等への意見・要望（自由回答）	242
1 4 介助・援助者の意向	245
(1) 介助・援助する方の性別	245
(2) 介助・援助する方の年齢	245
(3) 介助・援助する方の続柄	248
(4) 介助・援助する方の健康状態	249
(5) 介助・援助する方の就労・就学状況	250
(6) 介助・援助するにあたって困っていること（複数回答）	251
(7) 当該障害者以外の育児・介護等の状況	257
(8) 家族等支援として区に充実してほしい施策（複数回答）	264
(9) 地域で暮らすことの可能性と地域で暮らすための支援や環境（施設入所者のみ）	270
(10) 介助・援助者の障害者施策等に対する意見・要望（自由回答）	273
<b>IV 調査結果の詳細（事業所調査）</b>	<b>276</b>
1 事業所の基本情報	276
(1) 運営主体	276
(2) 事業所の所在地	276
(3) 事業所の開始年度	276
(4) 提供しているサービス（複数回答）	277
(5) 事業所の定員（定員のあるサービスのみ）	279
(6) 事業所の利用者数	280
(7) 事業所の職員数	282
(8) 職種別の職員数	283
(9) 経験年数別の職員数	284
2 運営状況について	285
(1) 事業所の平均的な利用率（利用定員が定められている事業所）	285
(2) 事業の収支状況	286
(3) 事業を運営する上での課題（複数回答）	287
3 人材確保・人材育成について	288
(1) 職員の過不足	288
(2) 不足している職員の職種（複数回答）	289
(3) 職員の不足による運営の支障（複数回答）	291
(4) 過去1年間の採用者数（新規採用・未経験者・経験者）・退職者数	292
(5) 人材確保のための取組（複数回答）	293
(6) 処遇改善加算の取得	294
(7) 人材育成のための取組（複数回答）	294
(8) 早期離職防止や定着促進のための取組	295
(9) 過去1年間に参加した研修内容（複数回答）	296
(10) 練馬福祉人材育成・研修センターの利用	297
(11) 練馬福祉人材育成・研修センターを利用したことがない理由	297
(12) 人材確保・人材育成について、練馬区に取り組んでほしいこと（自由回答）	298
4 サービスの提供状況について	299
(1) サービスの提供状況	299
(2) サービスを提供しようとしてできなかったこと	300

(3) サービスを提供しようとしてできなかった理由 (自由回答) .....	300
(4) 特定相談支援事業所の指定を取る予定の有無.....	301
(5) 特定相談支援事業所の指定を取る予定がない理由 (複数回答) .....	301
(6) 福祉サービス・介護保険サービス以外に行っている、または今後実施したいサービス (複数回答) .....	302
(7) サービス、地域連携、社会貢献活動の具体的内容 (自由回答) .....	303
(8) 提供している介護保険サービスの種類 (複数回答) .....	303
(9) 共生型サービスの指定を取る予定の有無.....	304
(10) 指定を取る予定のある (既に指定を受けている) 共生型サービスの種類 (複数回答) .	304
(11) 新たに参入を検討しているサービス (複数回答) .....	305
5 サービス向上のための取組について .....	306
(1) サービス向上のための取組 (複数回答) .....	306
(2) 利用者やご家族からの苦情や要望 (複数回答) .....	307
(3) 利用者の高齢化・重度化 (複数回答) .....	308
(4) 継続してサービスを利用することが困難な方 (複数回答) .....	309
(5) 高齢化・重度化に伴う利用者ニーズ (複数回答) .....	310
(6) 問題が生じた場合の相談先 (複数回答) .....	311
(7) 問題が生じた場合の相談内容 (複数回答) .....	312
(8) 障害者地域活動支援センターに期待すること (自由回答) .....	313
6 その他 .....	314
(1) コンプライアンスの取組 (複数回答) .....	314
(2) ICT機器の活用.....	315
(3) 意思決定支援 .....	316
(4) 障害者虐待防止についての取組状況 .....	317
(5) BCPの策定状況 .....	317
(6) 災害時の対策 (複数回答) .....	318
(7) 区の障害者施策等への意見・要望 (自由回答) .....	319
<b>資 料 使用した調査票.....</b>	<b>320</b>



# I 調査の概要

## 1 調査の目的

本調査は、練馬区障害者計画（一部改定）・第七期障害福祉計画・第三期障害児福祉計画を策定するため、障害のある区民の生活実態、意向、ニーズ等および区内の障害福祉サービス事業所等の運営状況を把握し、計画策定の基礎資料として活用することを目的に実施した。

## 2 調査対象

### (1) 障害者調査

身体障害者手帳所持者、愛の手帳所持者、自立支援医療制度（精神通院）の利用者、難病医療費助成制度の申請者、施設入所者から、計4,600名を無作為抽出した。また、児童発達支援事業所において利用者250名に配布し、あわせて4,850名に対して調査を行った。

(単位：人)

区分	身体障害者手帳	愛の手帳	自立支援医療制度（精神通院）利用者	難病患者	施設入所者	合計
対象者数	20,167	5,426	15,640	6,011	486	47,730
調査数	1,250	900	1,100	900	450	4,600

(注) 母数は、令和5年3月31日現在である。施設入所者は、令和5年3月中に施設を利用した方である。

### 【身体障害者数内訳】

(単位：人)

	対象者数	調査数
視覚障害	1,513	200
聴覚平衡機能障害	2,116	200
音声言語機能障害	262	50
肢体不自由	9,053	450
内部障害	7,223	350
合計	20,167	1,250

### (2) 事業所調査

区内で障害福祉サービス等を提供する全ての事業所（378事業所）に対して調査を行った。

## 3 調査時期

令和5年7月

## 4 調査方法

郵送配布・郵送回収（児童発達支援事業利用者については、事業所において配布・郵送回収）

## 5 回収状況

### (1) 障害者調査

区分	配布数	有効回収数	有効回収率
身体障害者（児）	1,250	562	45.0%
知的障害者（児）	900	442	49.1%
精神障害者（児）	1,100	452	41.1%
難病患者	900	437	48.6%
施設入所者	450	303	67.3%
児童発達支援事業利用者	250	153	61.2%
合計	4,850	2,349	48.4%

### (2) 事業所調査

配布数	有効回収数	有効回収率
378	156	41.3%

## 6 主な調査項目

### 【基本属性】

- ・性別、年齢、調査票の記入者、居住形態、同居者、収入源、主な生計維持者、障害の程度、各種手帳を取得した年齢等、障害支援区分認定の状況、発達障害や高次脳機能障害等の診断状況、医療的ケアの状況
- ・（施設入所者のみ）施設入所期間、施設所在地
- ・（身体障害者手帳所持者のみ）障害の種類
- ・（精神障害者のみ）診断名
- ・（難病患者のみ）罹患している主な難病の疾患名

### 【介助・援助者の状況について】

- ・主な介助・援助者、介助・援助の内容、介助・援助者が不在のときに希望する対応、必要とする介助・援助の有無、地域生活支援拠点

### 【日中の過ごし方について】

- ・日中の主な過ごし方

### 【教育について】

- ・通園・通学先、通園・通学にあたって充実してほしいこと

### 【雇用・就労について】

- ・（就労者のみ）就労形態、就労内容、職場の所在地、1年間の就労収入、仕事をする上での不安や不満
- ・（非就労者のみ）今後の就労意向、働きたいが働けないと思う理由
- ・働くために大切だと思う環境、希望する余暇の過ごし方

### 【外出や社会参加の状況について】

- ・外出の際の移動手段、外出の際に困っていること、今後してみたい活動、活動に参加するために必要な支援

### 【健康状況や医療について】

- ・（精神障害者・難病患者のみ）医療の受診形態、入院歴の有無と入院期間
- ・（難病患者のみ）通院する際の介助の必要性
- ・健康管理や医療で困ったことや不便に感じたこと

**【相談や情報の入手について】**

- ・悩みごとや心配ごとがあるときの家族や親せき以外の相談先、福祉サービスなどの情報の入手先
- ・情報通信機器（ICT 機器）の利用頻度、コミュニケーション手段・機器等の利用状況 等

**【福祉サービスについて】**

- ・最近1年間に利用した福祉サービス、必要だと思うサービスの利用状況、必要だと思うサービスを利用できていない理由
- ・今後も引き続き、あるいは新たに利用したいと思う福祉サービス
- ・介護保険サービスの利用状況、要介護認定の有無、障害福祉サービスとの併用で困っていること

**【将来について】**

- ・希望する日中の過ごし方、希望する暮らし方、ひとりで暮らすために必要なこと、練馬区での定住意向
- ・（施設入所者のみ）必要な手助けや環境、練馬区への居住意向

**【災害対策について】**

- ・最寄りの避難拠点の認知度、最寄りの避難拠点まで自力避難の可否、災害に備えて必要な対策

**【権利擁護について】**

- ・差別や人権侵害を受けていると感じることの有無、地域での障害に対する理解の感じ方、障害および障害者への区民の理解を深めるために必要なこと
- ・合理的配慮を求めた経験、合理的配慮を求めたことがない理由
- ・成年後見制度の利用意向、成年後見制度を利用しない（したくない）理由

**【障害者施策全般について】**

- ・障害者施策を充実するために必要なこと
- ・新型コロナウイルス感染症の影響

**【介助・援助者の意向】**

- ・介助・援助者の性別、介助・援助者の年齢、介助・援助者の続柄
- ・介助・援助するにあたって困っていること、当該障害者以外の育児・介護の状況
- ・介助・援助者の健康状態、介助・援助者の就労・就学状況
- ・家族等支援として区に充実してほしい施策
- ・（施設入所者のみ）地域で暮らすことの可能性、地域で暮らすために必要な支援や環境

**【事業所の基本情報】**

- ・運営主体、所在地、開始年度、提供しているサービス、定員、利用者数、職員数 等

**【事業所の運営状況について】**

- ・利用率、収支状況、運営上の課題

**【事業所における人材確保・人材育成について】**

- ・職員の過不足、不足している職種、職員不足による運営の支障
- ・過去1年間の採用者数・退職者数、人材確保・人材育成のための取組
- ・処遇改善加算の取得状況、過去1年間に参加した研修内容
- ・練馬福祉人材育成・研修センターの利用、期待すること

**【事業所におけるサービスの提供状況について】**

- ・サービスの提供状況、サービスを提供しようとしてできなかったこととその理由
- ・特定相談支援事業所の指定を取る予定の有無、取る予定がない理由
- ・障害福祉サービス・介護保険サービス以外に提供しているサービス
- ・提供している介護保険サービスの種類
- ・共生型サービスの指定を取る予定の有無、取る予定のある共生型サービスの種類
- ・今後、新たに参入を検討しているサービス

**【事業所におけるサービス向上の取組について】**

- ・サービス向上のための取組
- ・利用者やご家族からの苦情や要望
- ・利用者の高齢化・重度化、それに伴う利用者ニーズ
- ・問題が生じた際の相談先、相談内容

**【その他】**

- ・コンプライアンスの取組
- ・ICT機器の活用
- ・意思決定支援の取組
- ・虐待防止の取組
- ・BCPの策定状況
- ・災害時の対策
- ・意見・要望

## 7 報告書を利用するにあたって

- 図・表中のnとは、基数となる実数のことである。
- 回答はnを100%として百分率で算出してある。小数点以下第2位を四捨五入しているため、百分率の合計が全体を示す数値と一致しないことがある。
- 図・表中の―は回答者が皆無のものである。
- 複数回答ができる質問では、回答比率の合計が100%を超える。
- 質問において、年齢別、障害の程度別など調査対象者の基本属性を中心としたクロス集計結果の図・表については、基本属性等に「無回答」があるため、全体の示す数値と一致しない。
- 図・表において、回答の選択肢表記を簡略化している場合がある。
- 障害間比較または前回調査（令和元年度実施）との比較のため、便宜上表記を統一している場合がある。なお、障害間比較は知的障害者、精神障害者、難病患者、施設入所者対象の調査票表記を身体障害者等対象の調査票に統一しており、前回調査の表記は今回調査の表記に統一している。
- 前回調査の概要は以下のとおりである。

○前回調査の概要					
調査対象は、身体障害者手帳所持者、愛の手帳所持者、自立支援医療制度（精神通院）利用者、難病医療費助成制度申請者、施設入所者から、合計4,500名を無作為抽出して調査を実施した。内訳は次のとおりである。					
■調査対象					
(単位：人)					
区 分	身体障害者手帳	愛の手帳	自立支援医療制度（精神通院）利用者	難病患者	施設入所者
対象者数	20,343	4,972	13,024	4,914	461
調査数	1,250	900	1,100	900	150

(注) 母数は、平成31年3月31日現在

- 今回の基礎調査報告書では、身体障害者手帳所持者を「身体障害者」、愛の手帳所持者を「知的障害者」、自立支援医療制度（精神通院）の利用者を「精神障害者」、難病医療費助成制度の申請者を「難病患者」と区分している。

## II 調査結果のまとめ

調査について、全体の結果を簡潔に把握できるよう、概要をまとめた。調査結果の詳細については、参照ページをご覧ください。

### (障害者調査)

#### ■基本属性

平均年齢は、身体障害者では 59.6 歳、知的障害者では 28.0 歳、精神障害者では 55.8 歳、難病患者では 60.9 歳、施設入所者では 53.9 歳、児童発達支援事業利用者では 4.0 歳となっている。[13 頁]

障害の程度は、身体障害者では「1 級」が 35.8%、「2 級」が 19.4%、「3 級」が 10.9%、「4 級」が 16.9%、「5 級」が 6.2%、「6 級」が 6.2%となっている。知的障害者では「1 度」が 8.1%、「2 度」が 24.7%、「3 度」が 22.2%、「4 度」が 34.6%となっている。精神障害者の診断名は「気分障害（うつ病、躁うつ病など）」が 52.7%と最も多く、次いで「統合失調症」が 17.7%、「発達障害」が 14.8%となっている。難病患者の疾患は「免疫系疾患」が 25.8%と最も多く、次いで「神経・筋疾患」が 25.6%、「消化器系疾患」が 19.9%となっている。[19～22 頁]

身体障害者手帳の 1 番目に記載された障害の種類は、「内部障害（心臓、じん臓、呼吸器、ぼうこう、直腸、小腸、肝機能、免疫の機能の障害）」が 27.8%と最も多く、次いで「肢体不自由（上肢、下肢等）」が 24.9%、「聴覚障害」が 15.5%、「視覚障害」が 14.4%となっている。[21 頁]

障害支援区分の認定を「受けている」と回答した人の障害支援区分は、身体障害者、知的障害者、施設入所者では「区分 6」がそれぞれ 26.2%、26.2%、60.4%と最も多くなっており、精神障害者では「区分 2」が 19.4%と最も多くなっている。[26 頁]

#### ■介助・援助の状況について

身体障害者の 49.8%、知的障害者の 86.0%、精神障害者の 40.2%、難病患者の 31.4%は、ふだん何らかの介助・援助を受けている。最も長く介助・援助している人は、身体障害者、難病患者では「配偶者（夫または妻）」、知的障害者、精神障害者では「父、母」がそれぞれ 3 割台～8 割台と最も多くなっている。[29～32 頁]

ふだん受けている介助・援助は、身体障害者、難病患者では「外出」、知的障害者では「金銭管理」、精神障害者では「食事のしたく」がそれぞれ 5 割台～6 割台と最も多くなっている。[33 頁]

ふだんの生活の中で、「必要とする介助・援助は受けていると思う」と回答した人は、身体障害者では 34.5%、知的障害者では 72.2%、精神障害者では 29.6%、難病患者では 21.3%、児童発達支援事業利用者では 55.6%となっている。なお、知的障害者、児童発達支援事業利用者を除いて、約 4 割～6 割が「特に介助・援助を必要としていない」と回答している。[43 頁]

#### ■日中の過ごし方について

日中の主な過ごし方は、身体障害者では「自宅にすることが多い」が 40.9%、知的障害者では「幼稚園や保育園、学校などに通っている」が 38.7%、精神障害者では「自宅にすることが多い」が 44.0%、難病患者では「自宅で療養している」が 45.3%、児童発達支援事業利用者では「幼稚園に通っている」が 49.0%とそれぞれ最も多くなっている。[57 頁]

現在働いている人は、身体障害者では 32.2%、知的障害者では 29.2%、精神障害者では 35.4%、難病患者では 40.3%となっている。[57 頁]

## ■教育について

現在の通園・通学先は、身体障害者、知的障害者では「特別支援学校」がそれぞれ 47.1%、63.2%と最も多くなっている。次いで身体障害者では「通常の学級」が 25.5%、知的障害者では「特別支援学級」が 24.6%となっている。[61 頁]

通園・通学に際し充実してほしいことは、身体障害者、知的障害者では「夏休みなど長期休みの際の取組を充実してほしい」、児童発達支援事業利用者では「特に困っていることはない」が最も多くなっている。[62 頁]

## ■雇用・就労について

現在、働いている人の就労形態は、身体障害者では「非正規職員（契約、パート、派遣等）」が 35.9%、知的障害者では「就労移行支援・就労継続支援事業所」が 44.2%、精神障害者では「非正規職員（契約、パート、派遣等）」が 40.0%、難病患者では「会社・団体等の正規職員」が 56.8%とそれぞれ最も多くなっている。[64 頁]

1年間の就労収入は、身体障害者、知的障害者、精神障害者、難病患者では「100万円～300万円未満」が3割台～4割台と最も多くなっている。知的障害者では20万円未満（「2万円未満」、「2～5万円未満」、「5万円～20万円未満」の合計）が43.4%となっている。[74 頁]

働くために大切だと思う環境は、身体障害者、精神障害者、難病患者では「健康状態にあわせた働き方ができること」がそれぞれ 48.8%、58.6%、68.4%と最も多く、知的障害者では「障害のある人であった仕事が用意されること」が 67.2%、施設入所者では「障害のある人であった仕事が用意されること」が 32.0%となっている。[87 頁]

希望する余暇の過ごし方については、身体障害者、精神障害者では「自宅で過ごしたい」がそれぞれ 58.7%、64.2%と最も多く、知的障害者では「買い物や散歩などに出かけたい」が 55.9%と最も多くなっている。[93 頁]

## ■外出や社会参加について

外出の際の移動手段について、いずれの障害種別においても「徒歩」が最も多く、身体障害者では 62.6%、知的障害者では 71.3%、精神障害者では 75.4%、難病患者では 71.6%、施設入所者では 55.1%、児童発達支援事業利用者では 87.6%となっている。[97 頁]

外出の際に困っていることは、身体障害者、難病患者では「建物などに段差が多く、利用しにくい」がそれぞれ 19.6%、14.4%、知的障害者、施設入所者では「他人との会話が難しい」がそれぞれ 25.1%、24.1%、精神障害者では「他人の視線が気になる」が 18.1%、児童発達支援事業利用者では「電車やバスなどが利用しづらい」が 20.3%となっている。[102 頁]

希望する活動に参加するために必要な支援は、身体障害者では「障害のある人に配慮した施設や設備があること」が 30.8%、知的障害者、施設入所者では「介助者・援助者がいること」がそれぞれ 45.7%、47.5%、精神障害者、児童発達支援事業利用者では「活動する場所が近くにあること」がそれぞれ 29.6%、67.3%、難病患者では「活動についての情報が提供されること」が 28.6%と最も多くなっている。[108 頁]

## ■健康状況や医療について

医療の受診形態で「通院している」人は、精神障害者では 86.9%、難病患者では 89.5%となっている。[113 頁]

精神疾患、難病疾患で入院歴が「ある」人は、精神障害者では 37.8%、難病患者では 62.2%で、入院期間は、精神障害者、難病患者ともに“1年未満”（「3か月未満」、「3か月～1年未満」の合計）がそれぞれ7割以上となっている。また、難病患者で通院する際に「付添いなどの介助が必要」が 21.5%となっている。[115 頁～118 頁]

健康管理や医療で困ったことや不便に感じたことは、身体障害者、知的障害者、精神障害者、難病患者では「特に困っていることはない」がそれぞれ4割以上を占めている中で、身体障害者、精神障害者、難病患者では「医療費の負担が大きい」がそれぞれ12.8%、15.9%、25.4%となっており、児童発達支援事業利用者では「休日・夜間の相談や治療をしてくれる病院・診療所が少ない」が17.0%となっている。[119頁]

## ■相談や情報の入手について

悩みごとや心配ごとがあるときの家族や親せき以外の相談先は、身体障害者では「友人・知人」が24.2%、知的障害者では「学校、職場」が24.9%、精神障害者、難病患者では「病院・診療所」がそれぞれ31.6%、27.9%、施設入所者では「福祉施設」が40.9%と最も多くなっている。また、知的障害者では次いで「総合福祉事務所」が20.4%となっている。[125頁]

福祉サービスなどの情報の入手先は、身体障害者、知的障害者、精神障害者、難病患者では「ねりま区報」がそれぞれ44.5%、28.5%、29.0%、30.9%と最も多く、施設入所者では「学校、職場、施設」が25.7%、児童発達支援事業利用者では「区のホームページ」が45.8%と最も多くなっている。[131頁]

コミュニケーションの際の手段・機器等の利用状況は、身体障害者、精神障害者、難病患者では「携帯/スマートフォンのメール・SNS」がそれぞれ54.3%、59.5%、69.8%と最も多くなっている。[139頁]

コミュニケーションや情報取得のために充実すべきことは、身体障害者、難病患者では「パソコン/携帯メール・SNSによる情報提供を増やす」がそれぞれ28.8%、36.8%、知的障害者では「コミュニケーションを支援する人を増やす」が32.8%と最も多くなっている。[144頁]

## ■障害福祉サービスについて

最近1年間に利用した福祉サービスは、身体障害者では「福祉タクシー券の交付、自動車燃料費の助成等」が27.2%、知的障害者では「児童発達支援・放課後等デイサービスなど」が28.1%、精神障害者では「訪問看護などの医療系サービス」が12.8%、難病患者では「日常生活用具の給付、レンタル」が11.4%となっている。[149頁]

必要だと思うサービスの利用状況は、いずれの障害種別においても「十分利用している」と「十分ではないが、ほぼ利用している」を合わせた“利用している”が、「あまり利用していない」と回答した人を上回っている。[154頁]

必要だと思うサービスを「あまり利用していない」理由は、身体障害者、知的障害者、精神障害者、難病患者では「どのようなサービスがあるかわからないから」がそれぞれ39.8%、43.6%、50.6%、53.3%と最も多くなっている。[158頁]

今後も引き続き、あるいは新たに利用したいと思う福祉サービスは、身体障害者では「福祉タクシー券の交付、自動車燃料費の助成等」が41.6%、知的障害者では「移動支援・同行援護」が34.2%、精神障害者では「訪問看護などの医療系サービス」が13.3%、児童発達支援事業利用者では「児童発達支援・放課後等デイサービスなど」が75.2%と最も多くなっている。[160頁]

介護保険の要介護認定を受けたことが「ある」と回答した人は、身体障害者では87.6%、知的障害者では55.0%、精神障害者では77.6%、難病患者では95.0%となっている。[174頁]

## ■将来について

今後希望する日中の過ごし方は、身体障害者、精神障害者では「自宅で過ごしたい」がそれぞれ49.8%、51.8%、知的障害者では「一般企業などで働きたい」が28.5%、施設入所者では「今いる施設で過ごしたい」が69.6%と最も多くなっている。[179頁]

希望する暮らし方（5年後）は、身体障害者、知的障害者、精神障害者、難病患者では「家族と一緒に暮らしたい」が約5割～約7割と最も多くなっている。身体障害者、精神障害者、難病患者では「ひとりで暮らしたい」、知的障害者では「グループホームで暮らしたい」が次いで多くなっている。施設入所者では「施設に入所したまま暮らしたい」が61.7%と最も多くなっている。なお、10年後、20年後も、5年後と同様の傾向にある。[183頁、186頁、189頁]

練馬区での定住意向は、「住み続けたい」が身体障害者では79.0%、知的障害者では66.1%、精神障害者では68.6%、難病患者では68.0%、児童発達支援事業利用者では72.5%となっている。施設入所者では練馬区に「住みたい」が16.2%となっている。[197頁]

## ■災害対策について

最寄りの避難拠点の認知度は、身体障害者では77.0%、知的障害者では59.3%、精神障害者では66.2%、難病患者では76.9%、児童発達支援事業利用者では81.7%となっている。最寄りの避難拠点を知っている人のうち、自力避難が「できると思う」と回答した人は、身体障害者では68.1%、知的障害者では42.4%、精神障害者では83.6%、難病患者では75.9%、児童発達支援事業利用者では86.4%となっている。[201頁、202頁]

災害に備えて、または災害時に必要な対策は、「避難しやすい避難所を整備する」と回答した人は、身体障害者では42.3%、知的障害者では46.8%、精神障害者では50.4%、難病患者では48.7%、児童発達支援事業利用者では62.1%と最も多くなっている。[205頁]

## ■権利擁護について

障害があることで、差別や人権侵害を受けていると感じている人（「いつも感じる」、「たまに感じる」の合計）は、身体障害者では28.3%、知的障害者では48.2%、精神障害者では34.1%、難病患者では8.3%、施設入所者では15.5%となっている。また、地域で暮らす上で、障害に対して理解を得られていないと感じている人（「時々得られていないと感じる」、「あまり得られていないと感じる」、「まったく得られていないと感じる」の合計）は、身体障害者では41.7%、知的障害者では57.9%、精神障害者では43.4%、難病患者では28.4%となっている。[211頁、213頁]

障害および障害者への区民の理解を深めるために必要なことは、身体障害者、精神障害者、難病患者では「障害への理解を深めるための広報・啓発を充実する」がそれぞれ35.6%、36.5%、41.6%、知的障害者では「障害や発達に課題のある子どもへの支援の充実」が45.2%、施設入所者では「福祉施設が地域住民との交流を進める」が19.5%と最も多くなっている。[214頁]

合理的配慮を求めたことが「ある」と回答した人は、身体障害者では23.7%、知的障害者では24.4%、精神障害者では18.6%、難病患者では8.5%、施設入所者では26.7%、児童発達支援事業利用者では16.3%となっている。また、合理的配慮を求めたことがない理由について、身体障害者、知的障害者、精神障害者、難病患者、児童発達支援事業利用者では「合理的配慮を必要とする場面・機会にあつたことがない」が4割台～7割台と最も多く、施設入所者では「合理的配慮について知らなかった」が44.6%と最も多くなっている。[219頁、223頁]

成年後見制度の“利用意向がある”人（「現在利用している」、「今後利用したい」の合計）とは、身体障害者では11.7%、知的障害者では26.2%、精神障害者では11.7%、難病患者では7.5%、施設入所者では35.3%となっている。成年後見制度を「利用したいと思わない」理由は、身体障害者、精神障害者、難病患者では「必要がない」が5割～6割となっており、知的障害者では「十分な支援が受けられるかわからない」が46.4%と最も多くなっている。[228頁]

## ■障害者施策全般について

障害者施策を充実するために必要なことは、身体障害者では「障害者や高齢者にやさしいまちづくりをすすめること」が42.3%、知的障害者、難病患者、施設入所者では「当事者のみでなく、家族を支える支援を充実すること」がそれぞれ62.0%、41.9%、31.7%、精神障害者では「障害のある方の働く場の確保や働き続けるための支援を充実すること」が43.8%、児童発達支援事業利用者では「障害の早期発見・早期療育に努めること」が71.2%と最も多くなっている。[230 頁]

新型コロナウイルス感染症の影響で生活に必要な外出の頻度が「減った」と回答した人は、身体障害者では38.1%、知的障害者では36.4%、精神障害者では32.5%、難病患者では46.0%、施設入所者では65.7%となっている。[238 頁]

## ■介助・援助者の意向

介助・援助するにあたって困っていることは、身体障害者では「特にない」が13.9%、知的障害者では「長期的な外出ができない」、「精神的な負担が大きい」がともに27.1%、精神障害者、児童発達支援事業利用者では「精神的な負担が大きい」がそれぞれ12.6%、34.0%、難病患者の介助・援助者では「長期的な外出ができない」、「年齢的に負担が大きい」がともに8.0%と最も多くなっている。[251 頁]

当該障害者以外に育児・介護等を「している」と回答した人は身体障害者では13.3%、知的障害者では27.6%、精神障害者では8.2%、難病患者では5.5%、児童発達支援事業利用者では31.4%となっている。[257 頁]

区に充実してほしい家族等支援施策は、身体障害者、難病患者、児童発達支援事業利用者では「区からの情報提供を増やす」がそれぞれ17.4%、12.4%、41.2%、知的障害者では「家族等の休養目的のショートステイを充実させる」が37.6%、精神障害者では「家族等に対する相談体制を充実させる」が11.9%と最も多くなっている。[264 頁]

施設入所者について、今後、地域で暮らすことが「条件を整えば可能だと思う」と回答した介助・援助者は15.5%、地域での暮らし方は、「グループホームで共同生活」が78.7%となっている。[270 頁]

## （事業所調査）

### ■事業所の基本情報

事業所の運営主体は「企業（株式会社・有限会社等）」が31.4%、所在地は「石神井圏域」が28.2%、事業所の開始年度は「平成」が75.6%、提供しているサービスは「居宅介護」が29.5%と最も多くなっている。[276 頁、277 頁]

事業所の定員について、「就労継続支援（B型）」の平均値は28.9人、「共同生活援助（グループホーム）」の平均値は18.0人、「放課後等デイサービス」の平均値は10.4人となっている。[279 頁]

職員数は常勤、非常勤ともに「5人未満」がそれぞれ53.8%、26.9%と最も多くなっている。[282 頁]

経験年数別の職員数は、どの経験年数においても「5人未満」が最も多くなっている。[284 頁]

### ■運営状況について

平均的な利用率は、「80%未満」が31.2%、「80～89%」が17.4%、「90～99%」が14.5%、「100%以上」が5.1%となっている。[285 頁]

事業の収支状況は、「黒字だった」が28.2%、「ほぼ収支が均衡した」が26.9%、「やや赤字だった」が16.0%、「大幅な赤字だった」が11.5%となっている。[286 頁]

事業を運営する上での課題は、「スタッフの確保」が58.3%と最も多く、次いで「スタッフの人材育成」が46.2%となっている。[287頁]

## ■人材確保・人材育成について

職員の過不足については、“不足している”（「大変不足している」、「不足している」、「やや不足している」の合計）と回答した事業所が6割を超えており、不足している職員の職種は、「介護職員（ヘルパー）」が43.8%と最も多く、次いで「生活支援員」が21.0%となっている。[288頁、289頁]

職員の不足による運営の支障としては、「利用者の受け入れを減らしている」が30.5%と最も多く、次いで「サービスの量・質の低下を招き、利用者のニーズに応えきれなくなっている」が23.8%となっている。[291頁]

人材確保のための取組は、「ハローワークを通じて募集した」が51.9%と最も多くなっている。[292頁]

人材育成のための取組は、「事業所での研修実施」が78.2%、過去1年間に参加した研修内容は、「区が実施する集団指導」が67.9%と最も多くなっている。[294頁、296頁]

なお、練馬福祉人材育成・研修センターについては、「効果がある」が34.6%、「一部効果がある」が28.8%、「センターを利用したことがない」が20.5%となっている。[297頁]

## ■サービスの提供状況について

これまでにサービスを提供しようとしてできなかったことについては、「ある」と回答した事業所は30.8%となっている。[300頁]

特定相談支援事業所の指定については、「指定をとる予定はない」が98.0%と回答した事業所が多く、特定相談支援事業所の指定を取る予定がない理由は、「職員体制が整わない」が48.0%と最も多くなっている。[301頁]

提供している介護保険サービスの種類は、「訪問サービス」が26.9%と最も多くなっている。[303頁]

共生型サービスの指定については、「既に指定を受けている」が5.2%、「指定を受ける予定はない」が90.8%となっており、指定を取る予定のある共生型サービスの種類については、「ホームヘルプ（訪問介護）」が37.5%と最も多くなっている。[304頁]

今後、新たに展開しようとしているサービスは、「就労継続支援（B型）」が3.8%、「生活介護」が2.6%となっている。[305頁]

## ■サービス向上のための取組について

サービス向上のために行っている取組は、事故防止のためにヒヤリ・ハット事例の収集・共有を図っている」が66.0%と最も多く、次いで「各種研修会、学習会、セミナーの実施や参加」が64.1%となっている。[306頁]

利用者やご家族からの苦情や要望は、「利用日などが希望通りにならない」、「サービス内容に不安がある」がともに14.1%となっている。また、「特に苦情や要望を受けることはない」が46.8%と最も多くなっている。[307頁]

利用者の高齢化・重度化については、「利用者の高齢化が進んでいる」が49.4%と最も多く、次いで「利用者の高齢化や障害の重度化を感じることはない」が29.5%となっており、利用者の高齢化・重度化に伴い高まってきているニーズは、「障害福祉サービスから介護サービスへのよりスムーズな移行」が39.1%と最も多くなっている。[308頁、310頁]

問題が生じた場合の相談先は、「練馬区」が82.1%と最も多く、問題が生じた場合の相談内容は、「困難な事例への対応に関すること」が57.7%と最も多くなっている。[311頁、312頁]

## ■その他

コンプライアンスの取組は、「職員に対して、コンプライアンス教育を行っている」が54.5%と最も多く、次いで「定期的に職員のコンプライアンスのセルフチェックを行っている」が26.9%と続いている。[314 頁]

事業所でのICT機器の活用については、「パソコンで利用者情報（個別支援計画等）を共有している」が57.1%と最も多く、次いで「記録から障害福祉サービス請求までを一元化したシステムを利用している」が33.3%となっている。[315 頁]

意思決定支援の取組状況について、「意思決定支援に関する研究を受講している」が23.1%となっている。また、「いずれも行っていない」が50.0%となっている。[316 頁]

障害者虐待防止についての取組状況は、「従業者への研修実施」が88.5%と最も多く、次いで「虐待防止のための責任者の設置」が84.0%となっている。[317 頁]

BCPの策定状況については、「感染症にかかるBCPのみ策定している」が9.6%、「自然災害に係るBCPのみ策定している」が9.0%、「どちらのBCPも策定している」が37.8%となっている。[317 頁]

大規模災害時を想定した利用者の安否確認等の取組は、「定期的に防災訓練を実施している」が59.0%と最も多く、次いで「ふだんから被災情報収集および職員への連絡体制を確認している」が50.0%となっている。[318 頁]

### Ⅲ 調査結果の詳細（障害者調査）

#### 1 基本属性

##### (1) 性別

本調査における回答者の性別は、身体障害者では「男性」が54.3%、「女性」が44.8%となっている。

知的障害者では「男性」が61.8%、「女性」が36.9%となっている。

精神障害者では「男性」が43.1%、「女性」が54.0%となっている。

難病患者では「男性」が38.4%、「女性」が60.2%となっている。

施設入所者では「男性」が56.1%、「女性」が42.6%となっている。

児童発達支援事業利用者では「男性」が69.9%、「女性」が30.1%となっている。

(単位：%)

区分	n	男性	女性	その他	無回答
身体障害者	562	54.3	44.8	-	0.9
知的障害者	442	61.8	36.9	-	1.4
精神障害者	452	43.1	54.0	0.2	2.7
難病患者	437	38.4	60.2	-	1.4
施設入所者	303	56.1	42.6	-	1.3
児童発達支援事業利用者	153	69.9	30.1	-	-

##### (2) 年齢

身体障害者の平均年齢は、59.6歳となっている。

知的障害者の平均年齢は、28.0歳となっている。

精神障害者の平均年齢は、55.8歳となっている。

難病患者の平均年齢は、60.9歳となっている。

施設入所者の平均年齢は、53.9歳となっている。

児童発達支援事業利用者の平均年齢は、4.0歳となっている。

(単位：%)

区分	n	10歳未満	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	無回答	平均年齢
身体障害者	562	0.9	8.4	2.7	2.1	7.8	19.0	19.6	35.2	4.3	59.6歳
知的障害者	442	11.8	29.2	17.9	14.7	8.8	6.6	3.4	3.4	4.3	28.0歳
精神障害者	452	0.2	0.7	5.1	10.0	14.8	23.7	20.6	19.7	5.3	55.8歳
難病患者	437	0.5	0.2	4.6	7.1	10.8	17.8	20.6	34.8	3.7	60.9歳
施設入所者	303	-	0.7	4.6	7.3	21.5	30.4	21.5	10.2	4.0	53.9歳

(単位：%)

区分	n	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	無回答	平均年齢
児童発達支援事業利用者	153	-	0.7	5.2	13.1	28.8	29.4	3.9	8.9	4.0歳

年齢4区分別にみると、身体障害者では「0～17歳」が8.5%、「18～44歳」が8.0%、「45～64歳」が40.2%、「65歳以上」が39.0%となっている。

知的障害者では「0～17歳」が35.7%、「18～44歳」が42.1%、「45～64歳」が12.2%、「65歳以上」が5.7%となっている。

精神障害者では「0～17歳」が0.7%、「18～44歳」が23.0%、「45～64歳」が42.7%、「65歳以上」が28.3%となっている。

難病患者では「0～17歳」が0.7%、「18～44歳」が17.6%、「45～64歳」が32.3%、「65歳以上」が45.8%となっている。

施設入所者では「18～44歳」が20.1%、「45～64歳」が57.1%、「65歳以上」が18.8%となっている。

(単位：%)

区 分	n	0～17歳	18～44歳	45～64歳	65歳以上	無回答
身体障害者	562	8.5	8.0	40.2	39.0	4.3
知的障害者	442	35.7	42.1	12.2	5.7	4.3
精神障害者	452	0.7	23.0	42.7	28.3	5.3
難病患者	437	0.7	17.6	32.3	45.8	3.7
施設入所者	303	-	20.1	57.1	18.8	4.0

### (3) 調査票の記入者

調査票の記入者は、身体障害者では「本人が自分一人で記入」が65.1%となっている。

知的障害者では「本人の意向を考えながら家族や介助者が記入」が60.6%となっている。

精神障害者では「本人が自分一人で記入」が83.0%となっている。

難病患者では「本人が自分一人で記入」が84.7%となっている。

施設入所者では、本人の意向を考えながら家族や介助者が記入」が72.9%となっている。

児童発達支援事業利用者では「母親」が93.5%となっている。

(単位：%)

区 分	n	本人が自分一人で記入	本人に聞いて家族や介助者が代筆	本人の意向を考えながら家族や介助者が記入	無回答
身体障害者	562	65.1	17.6	16.4	0.9
知的障害者	442	21.0	16.7	60.6	1.6
精神障害者	452	83.0	7.1	8.4	1.5
難病患者	437	84.7	4.8	9.6	0.9
施設入所者	303	2.6	21.8	72.9	2.6

(単位：%)

区 分	n	父親	母親	祖父	祖母	その他	無回答
児童発達支援事業利用者	153	5.9	93.5	-	0.7	-	-

#### (4) 居住形態

現在の居住形態は、身体障害者では「自分の持ち家（購入マンションも含む）」が47.0%と最も多く、次いで「親など家族の持ち家（購入マンションも含む）」が21.7%となっている。

知的障害者では「親など家族の持ち家（購入マンションも含む）」が52.7%と最も多く、次いで「アパート、賃貸マンション、借家」が21.9%となっている。

精神障害者では「親など家族の持ち家（購入マンションも含む）」が29.2%と最も多く、次いで「アパート、賃貸マンション、借家」が27.0%となっている。

難病患者では「自分の持ち家（購入マンションも含む）」が49.2%と最も多く、次いで「アパート、賃貸マンション、借家」が26.8%となっている。

(単位：%)

区分	n	自分の持ち家 (購入マンションも含む)	親など家族の持ち家 (購入マンションも含む)	公営住宅	アパート、賃貸マンション、借家	グループホーム	社宅、会社の寮	福祉施設	病院に入院している	その他	無回答
身体障害者	562	47.0	21.7	9.1	16.5	1.6	0.2	2.0	0.7	-	1.2
知的障害者	442	7.9	52.7	6.3	21.9	5.0	1.4	2.0	0.5	0.5	7.9
精神障害者	452	26.3	29.2	10.8	27.0	1.1	0.4	1.5	0.9	1.8	0.9
難病患者	437	49.2	14.6	5.0	26.8	0.2	0.7	1.1	1.4	0.5	0.5

#### (5) 施設入所期間（施設入所者のみ）

施設入所者の入所期間は、「10年以上」が60.7%と最も多く、次いで「5年以上10年未満」が22.1%、「1年以上5年未満」が11.9%となっている。

(単位：%)

区分	n	1年未満	1年以上5年未満	5年以上10年未満	10年以上	無回答
施設入所者	303	4.3	11.9	22.1	60.7	1.0

#### (6) 施設所在地（施設入所者のみ）

入所している施設の場所は、「東京都外」が53.8%と最も多く、次いで「東京都内」が27.4%、「練馬区内」が15.0%となっている。

(単位：%)

区分	n	練馬区内	23区内 (練馬区を除く)	東京都内	東京都外	無回答
施設入所者	303	15.0	3.0	27.4	53.8	0.3

## (7) 同居者（複数回答）

同居者は、身体障害者では「配偶者（夫または妻）」が39.9%と最も多く、次いで「父、母」が28.8%となっている。なお、「自分一人だけで暮らしている」が21.2%となっている。

知的障害者では「父、母」が84.6%と最も多く、次いで「兄弟、姉妹」が41.2%となっている。

精神障害者では「父、母」が31.9%と最も多く、次いで「自分一人だけで暮らしている」が29.4%、「配偶者（夫または妻）」が26.5%となっている。

難病患者では「配偶者（夫または妻）」が56.5%と最も多く、次いで「息子、娘（息子または娘の配偶者も含む）」が31.1%となっている。

児童発達支援事業利用者では「母親」が98.0%と最も多く、次いで「父親」が94.1%、「兄弟、姉妹」が57.5%となっている。

(単位：%)

区分	n	自分一人だけで暮らしている	配偶者	息子、娘	父、母	祖父、祖母	兄弟、姉妹	その他	グループホーム等での集団生活	無回答
身体障害者	562	21.2	39.9	18.7	28.8	0.9	11.6	2.7	3.4	1.1
知的障害者	442	5.0	0.5	1.6	84.6	5.7	41.2	2.7	5.9	1.1
精神障害者	452	29.4	26.5	15.9	31.9	1.3	10.8	1.8	2.4	0.7
難病患者	437	19.2	56.5	31.1	11.9	0.5	1.8	3.0	1.1	0.2

(単位：%)

区分	n	父親	母親	祖父	祖母	兄弟、姉妹	その他	無回答
児童発達支援事業利用者	153	94.1	98.0	2.6	6.5	57.5	0.7	-

## (8) 収入源（複数回答）

収入源は、身体障害者では「年金・手当」が62.8%と最も多く、次いで「就労による収入」が31.5%となっている。

知的障害者では「年金・手当」が48.0%と最も多く、次いで「就労による収入」、「家族などからの仕送り」がともに27.6%となっている。

精神障害者では「年金・手当」が48.5%と最も多く、次いで「就労による収入」が34.5%となっている。

難病患者では「年金・手当」が53.3%と最も多く、次いで「就労による収入」が42.3%となっている。

施設入所者では「年金・手当」が86.5%と最も多くなっている。

(単位：%)

区分	n	就労による収入	年金・手当	生活保護費	家族などからの仕送り	その他	収入はない	無回答
身体障害者	562	31.5	62.8	5.0	2.3	5.2	12.5	0.7
知的障害者	442	27.6	48.0	2.5	27.6	2.3	31.7	1.6
精神障害者	452	34.5	48.5	15.3	2.4	7.5	11.1	1.5
難病患者	437	42.3	53.3	3.2	3.2	2.7	8.5	0.2
施設入所者	303	10.6	86.5	-	8.3	0.3	6.3	2.0

## (9) 主な生計維持者

### ① 主な生計維持者

主な生計維持者は、身体障害者では「本人」が50.9%と最も多くなっている。

知的障害者では「父」が64.3%と最も多くなっている。

精神障害者では「本人」が45.6%と最も多くなっている。

難病患者では「本人」が50.3%と最も多くなっている。

(単位：%)

区分	n	本人	配偶者(夫・妻)	父	母	子	祖父・祖母	兄弟・姉妹	その他	無回答
身体障害者	562	50.9	15.7	15.5	4.6	4.6	0.2	2.1	1.1	5.3
知的障害者	442	10.9	0.2	64.3	13.6	0.5	0.2	3.6	1.1	5.7
精神障害者	452	45.6	17.9	15.5	6.0	2.9	-	3.5	2.0	6.6
難病患者	437	50.3	34.8	2.7	3.0	3.7	-	0.2	2.1	3.2

## ② 父親の年齢（父親が主な生計維持者）

父親が主な生計維持者の場合の父親の年齢は、身体障害者では「50歳代」が33.3%と最も多くなっている。

知的障害者では「40歳代」が29.6%と最も多くなっている。

精神障害者では「70歳以上」が61.4%と最も多くなっている。

(単位：%)

区分	n	30歳未満	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	無回答	平均年齢
身体障害者	87	-	3.4	21.8	33.3	8.0	29.9	3.4	60.0歳
知的障害者	284	-	4.6	29.6	28.5	21.5	12.3	3.5	55.7歳
精神障害者	70	-	-	-	11.4	25.7	61.4	1.4	73.8歳
難病患者	12	-	-	8.3	50.0	16.7	25.0	-	62.0歳

## ③ 母親の年齢（母親が主な生計維持者）

母親が主な生計維持者の場合の母親の年齢は、身体障害者、精神障害者では「70歳以上」がそれぞれ61.5%、70.4%と最も多くなっている。

知的障害者では「50歳代」が31.7%と最も多くなっている。

(単位：%)

区分	n	30歳未満	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	無回答	平均年齢
身体障害者	26	-	-	19.2	7.7	7.7	61.5	3.8	70.8歳
知的障害者	60	-	1.7	20.0	31.7	16.7	28.3	1.7	61.6歳
精神障害者	27	-	-	-	7.4	18.5	70.4	3.7	75.1歳
難病患者	13	-	-	7.7	30.8	-	53.8	7.7	70.2歳

## (10) 障害の程度

### 障害の程度

身体障害者の障害の程度は、「1級」が35.8%、「2級」が19.4%、「3級」が10.9%、「4級」が16.9%、「5級」が6.2%、「6級」が6.2%となっている。また、施設入所者では「1級」が55.6%と最も多く、次いで「2級」が14.8%となっている。

(単位：%)

区分	n	1級	2級	3級	4級	5級	6級	無回答
身体障害者	562	35.8	19.4	10.9	16.9	6.2	6.2	4.6
知的障害者	82	61.0	15.9	8.5	6.1	1.2	6.1	1.2
精神障害者	22	13.6	22.7	18.2	31.8	-	-	13.6
難病患者	74	24.3	23.0	18.9	25.7	6.8	1.4	-
施設入所者	81	55.6	14.8	7.4	8.6	7.4	1.2	4.9
児童発達支援事業利用者	12	91.7	-	-	-	-	-	8.3

知的障害者の障害の程度は、「1度」が8.1%、「2度」が24.7%、「3度」が22.2%、「4度」が34.6%となっている。また、施設入所者では「2度」が59.6%と最も多くなっている。

(単位：%)

区分	n	1度	2度	3度	4度	無回答
身体障害者	59	18.6	42.4	15.3	22.0	1.7
知的障害者	442	8.1	24.7	22.2	34.6	10.4
精神障害者	22	-	18.2	27.3	40.9	13.6
難病患者	5	40.0	-	-	60.0	-
施設入所者	265	3.8	59.6	24.5	9.1	3.0
児童発達支援事業利用者	19	5.3	5.3	26.3	42.1	21.1

精神障害者(452人)のうち、精神障害者保健福祉手帳所持者(198人)の障害の程度は、「1級」が5.6%、「2級」が51.0%、「3級」が40.9%となっている。

(単位：%)

区分	n	1級	2級	3級	無回答
身体障害者	28	25.0	60.7	14.3	-
知的障害者	25	4.0	60.0	24.0	12.0
精神障害者	198	5.6	51.0	40.9	2.5
難病患者	9	11.1	33.3	55.6	-
施設入所者	8	12.5	25.0	25.0	37.5

## (11) 重複障害の状況

回答者の手帳の所持状況等により障害の重複状況をみると、身体障害者では 16.2%、知的障害者では 24.5%、精神障害者では 10.2%、難病患者では 1.2%、施設入所者では 20.8%となっている。

(単位：%)

区分	n	身体障害のみ	身体・知的の重複	身体・精神の重複	身体・知的・精神の重複	無回答
身体障害者	562	73.0	10.5	5.0	0.7	12.3

(単位：%)

区分	n	知的障害のみ	知的・身体 of 重複	知的・精神 of 重複	知的・身体・精神 of 重複	無回答
知的障害者	442	57.9	18.6	5.7	0.2	18.1

(単位：%)

区分	n	精神障害のみ		精神・身体 of 重複	精神・知的 of 重複	精神・身体・知的 of 重複	無回答
		手帳あり	手帳なし				
精神障害者	452	43.8	39.8	4.9	4.9	0.4	9.3

(単位：%)

区分	n	手帳なし	手帳あり						無回答
			身体のみ	知的のみ	精神のみ	身体・知的 of 重複	身体・精神 of 重複	知的・精神 of 重複	
難病患者	437	72.3	16.2	0.5	1.1	0.2	0.5	0.5	8.7

(単位：%)

区分	n	身体障害のみ	知的障害のみ	身体・知的 of 重複	身体・精神 of 重複	身体・知的・精神 of 重複	無回答
施設入所者	303	26.7	87.5	18.8	1.0	1.0	4.6

(単位：%)

区分	n	手帳なし	手帳あり						無回答
			身体のみ	知的のみ	精神のみ	身体・知的 of 重複	身体・精神 of 重複	知的・精神 of 重複	
児童発達支援事業利用者	153	79.1	7.8	12.4	-	2.0	-	-	2.6

## (12) 障害の種類等

### ① 身体障害者の障害の種類

身体障害者手帳の1番目に記載された障害の種類は、「内部障害（心臓、じん臓、呼吸器、ぼうこう、直腸、小腸、肝機能、免疫の機能の障害）」が27.8%と最も多く、次いで「肢体不自由（上肢、下肢等）」が24.9%、「聴覚障害」が15.5%、「視覚障害」が14.4%となっている。

(単位：%)

区分	n	視覚障害	聴覚障害	平衡機能障害	音声・言語・そしゃく機能の障害	肢体不自由（上肢、下肢等）	肢体不自由（体幹）	内部障害	その他	無回答
身体障害者	562	14.4	15.5	0.4	4.4	24.9	7.1	27.8	1.2	4.3
知的障害者	82	4.9	11.0	-	1.2	46.3	20.7	7.3	2.4	6.1
精神障害者	22	-	13.6	-	9.1	31.8	9.1	9.1	9.1	18.2
難病患者	74	6.8	2.7	4.1	1.4	40.5	16.2	25.7	1.4	1.4
施設入所者	81	12.3	8.6	1.2	2.5	39.5	11.1	3.7	3.7	17.3
児童発達支援事業利用者	12	16.7	-	-	-	33.3	16.7	25.0	-	8.3

身体障害者手帳の2番目に記載された障害の種類は、「肢体不自由（体幹）」が36.8%と最も多く、次いで「肢体不自由（上肢、下肢等）」が17.1%となっている。

(単位：%)

区分	n	視覚障害	聴覚障害	平衡機能障害	音声・言語・そしゃく機能の障害	肢体不自由（上肢、下肢等）	肢体不自由（体幹）	内部障害	その他	無回答
身体障害者	76	5.3	6.6	2.6	10.5	17.1	36.8	15.8	5.3	
知的障害者	28	3.6	3.6	-	3.6	25.0	64.3	-	-	
精神障害者	2	50.0	-	-	-	-	-	50.0	-	
難病患者	15	-	13.3	-	20.0	13.3	40.0	13.3	-	
施設入所者	18	-	-	-	27.8	22.2	38.9	-	11.1	
児童発達支援事業利用者	5	-	-	-	-	20.0	80.0	-	-	

## ② 精神障害者の診断名（複数回答）

精神障害者の診断名は、「気分障害」が 52.7%と最も多く、次いで「統合失調症」が 17.7%、「発達障害」が 14.8%となっている。

(単位：%)

区分	n	統合失調症	気分障害	依存症	認知症	高次脳機能障害	発達障害	パーソナリティ障害	摂食障害	その他	難病	無回答
精神障害者	452	17.7	52.7	2.0	3.1	1.8	14.8	1.5	2.0	17.5	1.3	9.3

※「気分障害（うつ病、躁うつ病など）」、「依存症（薬物、アルコールなど）」、「認知症（アルツハイマー、血管性、その他を含む）」、「発達障害（自閉スペクトラム症、AD/HD、学習障害など）」、「摂食障害（拒食症、過食症など）」を略している。

### ※精神障害者の分類

この報告書において、各設問のクロス集計を行う際に、疾患別により傾向を比較する場合には、上記の表の区分に基づき、「統合失調症」、「気分障害」、「発達障害」、それ以外の区分をまとめた「その他」の4つのカテゴリーに分類している。

## ③ 難病患者の疾患名

難病患者が罹患している疾患を疾患群別に整理すると、「免疫系疾患」が 25.8%と最も多く、次いで「神経・筋疾患」が 25.6%、「消化器系疾患」が 19.9%となっている。なお、複数の難病を罹患している場合があるため、個別疾患の割合を足し上げると 100%を超える。

(単位：%)

n 437	神経・筋疾患	代謝系疾患	皮膚・結合組織疾患	免疫系疾患	循環器系疾患	血液系疾患	腎・泌尿器系疾患	骨・関節系疾患
	25.6	0.2	5.3	25.8	1.3	3.4	5.5	5.3
	内分泌系疾患	呼吸器系疾患	視覚系疾患	聴覚・平衡機能系疾患	消化器系疾患	染色体または遺伝子に変化を伴う症候群	耳鼻科系疾患	無回答
2.3	4.1	0.7	-	19.9	0.2	2.7	3.2	

### 【神経・筋疾患】

(単位：%)

球脊髄性筋萎縮症	筋萎縮性側索硬化症	進行性核上性麻痺	パーキンソン病	大脳皮質基底核変性症	シャルコー・マリー・トゥース病	重症筋無力症	多発性硬化症／視神経脊髄炎	封入体筋炎
0.2	0.5	0.5	13.3	0.5	0.2	3.2	2.0	0.5
多系統萎縮症	脊髄小脳変性症（多系統萎縮症を除く。）	もやもや病	先天性ミオパチー	前頭側頭葉変性症	先天性核上性球麻痺	結節性硬化症		
0.2	3.0	0.9	0.2	0.5	0.2	0.2		

## 【免疫系疾患】

(単位：%)

高安動脈炎	巨細胞性動脈炎	顕微鏡的多発血管炎	多発血管炎性肉芽腫症	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	悪性関節リウマチ	バージャー病	原発性抗リン脂質抗体症候群	全身性エリテマトーデス	皮膚筋炎／多発性筋炎
0.7	0.2	0.9	0.7	0.9	0.5	0.2	0.2	8.5	3.7
混合性結合組織病	シェーグレン症候群	成人スチル病	ベーチェット病	若年性特発性関節炎	IgG4関連疾患	好酸球性副鼻腔炎			
1.3	4.1	0.5	1.6	0.2	0.7	2.5			

## 【消化器系疾患】

(単位：%)

特発性門脈圧亢進症	原発性胆汁性胆管炎	原発性硬化性胆管炎	自己免疫性肝炎	クローン病	潰瘍性大腸炎
0.2	1.6	0.2	0.7	4.1	13.3

## 【その他】

(単位：%)

全身性アミロイドーシス	神経線維腫症	天疱瘡	全身性強皮症	特発性拡張型心筋症	肥大型心筋症	再生不良性貧血	自己免疫性溶血性貧血	特発性血小板減少性紫斑病
0.2	0.7	0.7	2.1	0.9	0.2	1.1	0.2	0.7
血栓性血小板減少性紫斑病	原発性免疫不全症候群	IgA腎症	多発性嚢胞腎	黄色靱帯骨化症	後縦靱帯骨化症	特発性大腿骨頭壊死症	下垂体性ADH分泌異常症	下垂体性PRL分泌亢進症
0.5	0.5	0.9	2.5	0.7	2.3	1.8	0.7	0.2
下垂体前葉機能低下症	甲状腺ホルモン不応症	サルコイドーシス	特発性間質性肺炎	肺動脈性肺高血圧症	慢性血栓塞栓性肺高血圧症	リンパ脈管筋腫症	網膜色素変性症	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)
1.1	0.2	1.3	1.1	0.7	0.7	0.2	0.7	0.2
マルファン症候群	エーラス・ダンロス症候群	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	一次性ネフローゼ症候群	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	間質性膀胱炎(ハンナ型)	強直性脊椎炎	好酸球性副鼻腔炎	先天異常症候群
0.2	0.2	0.2	2.1	0.2	0.2	0.5	0.2	0.2
特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。)	特発性多中心性キャッスルマン病	ハッチンソン・ギルフォード症候群						
0.2	0.2	0.2						

### (13) 手帳を取得した年齢、精神疾患・難病の発症年齢等

身体障害者手帳を取得した年齢は、「60歳以上」が29.7%と最も多く、次いで「50歳代」が19.7%となっている。また、施設入所者では「10歳未満」が18.5%と最も多くなっている。

愛の手帳を取得した年齢は、「10歳未満」が57.6%と最も多く、次いで「10歳代」が32.1%となっている。また、施設入所者では「20歳代」が25.7%と最も多く、次いで「10歳代」が23.0%となっている。

(単位：%)

区分	n	10歳未満	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳以上	無回答	平均年齢
身体障害者	492	16.9	7.1	7.1	6.7	12.8	19.7	29.7	14.2	42.8歳
知的障害者	374	57.6	32.1	5.3	1.6	2.1	0.8	0.5	18.1	10.4歳
施設入所者	207									
身体障害者手帳	46	18.5	6.2	8.6	4.9	11.1	6.2	3.7	40.7	27.6歳
愛の手帳	192	16.2	23.0	25.7	4.2	1.9	0.4	-	28.7	18.1歳

児童発達支援事業利用者で身体障害者手帳を取得した年齢は「1歳」が41.7%と最も多く、愛の手帳を取得した年齢は「3歳」が42.1%と最も多くなっている。

(単位：%)

区分	n	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	無回答	平均年齢
児童発達支援事業利用者	28									
身体障害者手帳	12	-	41.7	-	16.7	-	-	-	41.7	1.6歳
愛の手帳	19	-	10.5	21.1	42.1	15.8	5.3	-	5.3	2.8歳

精神疾患の発症年齢は、「20歳代」が22.8%と最も多く、次いで「40歳代」が14.6%となっている。

(単位：%)

区分	n	10歳未満	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳以上	無回答	平均年齢
精神疾患の発症年齢	452	2.4	11.5	22.8	13.3	14.6	11.3	8.8	15.3	35.5歳

難病の発症年齢は、「60歳以上」が27.8%と最も多く、次いで「40歳代」が16.9%、「50歳代」が14.4%となっている。平均年齢は46.9歳となっている。

また、医療費助成の申請年齢は「60歳以上」が28.8%と最も多くなっている。

① (単位：%)

区分	n	10歳未満	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳以上	無回答	平均年齢
難病の発症年齢①	403	1.2	5.7	12.4	13.4	16.9	14.4	27.8	8.2	46.9歳
医療費助成の申請年齢①	403	0.7	2.5	10.7	12.7	15.4	15.6	28.8	13.6	50.0歳

② (単位：%)

区分	n	10歳未満	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳以上	無回答	平均年齢
難病の発症年齢②	20	-	-	20.0	10.0	10.0	25.0	15.0	20.0	45.6歳
医療費助成の申請年齢②	20	-	-	15.0	5.0	-	20.0	20.0	40.0	50.3歳

※疾患を2つ回答した人について、2つ目の疾患は②の表となっている

## (14) 障害支援区分認定の状況

障害支援区分の認定を「受けている」と回答した人は、身体障害者では11.6%、知的障害者では27.6%、精神障害者では6.9%、難病患者では3.9%、施設入所者では85.8%となっている。

(単位：%)

区 分	n	受けている	受けていない	無回答
身体障害者	562	11.6	71.5	16.9
知的障害者	442	27.6	50.7	21.7
精神障害者	452	6.9	56.6	36.5
難病患者	437	3.9	68.0	28.1
施設入所者	303	85.8	2.0	12.2

障害支援区分の認定を「受けている」と回答した人の障害支援区分は、身体障害者、知的障害者、施設入所者では「区分6」がそれぞれ26.2%、26.2%、60.4%と最も多く、精神障害者では「区分2」が19.4%と最も多くなっている。

(単位：%)

区 分	n	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	無回答
身体障害者	65	4.6	9.2	7.7	12.3	7.7	26.2	32.3
知的障害者	122	4.9	15.6	13.1	12.3	18.9	26.2	9.0
精神障害者	31	6.5	19.4	3.2	9.7	6.5	-	54.8
難病患者	17	-	11.8	11.8	5.9	-	11.8	58.8
施設入所者	260	0.4	1.5	0.0	6.9	27.7	60.4	3.1

## (15) 発達障害、高次脳機能障害、難病等の診断状況（複数回答）

「発達障害（自閉スペクトラム症、AD/HD、学習障害など）」と診断されたことがある人は、知的障害者では45.2%、児童発達支援事業利用者では37.3%となっている。

「高次脳機能障害」と診断されたことがある人は、身体障害者では5.3%となっている。

「難病」と診断されたことがある人は、身体障害者では15.3%となっている。

(単位：%)

区 分	n	発達障害	高次脳機能障害	難病	強度行動障害	特にない	無回答
身体障害者	562	2.7	5.3	15.3	0.5	64.8	12.6
知的障害者	442	45.2	1.6	4.8	1.8	33.3	16.3
施設入所者	303	0.4	1.5	-	6.9	27.7	60.4
児童発達支援事業利用者	153	37.3	0.7	6.5	-	47.7	8.5

## (16) 医療的ケアの状況

医療的ケアが「必要」と回答した人は、身体障害者では 16.2%、知的障害者では 8.4%、精神障害者では 9.1%、難病患者では 9.2%となっている。

(単位：%)

区分	n	必要	必要ではない	無回答
身体障害者	562	16.2	75.3	8.5
知的障害者	442	8.4	80.1	11.5
精神障害者	452	9.1	72.1	18.8
難病患者	437	9.2	78.0	12.8
施設入所者	303	6.9	87.1	5.9
児童発達支援事業利用者	153	5.2	85.0	9.8

医療的ケアの状況についてみると、身体障害者では「たん等の吸引」が 17.6%と最も多く、次いで「胃ろう」が 12.1%となっている。

知的障害者では「たん等の吸引」が 37.8%と最も多く、次いで「胃ろう」が 29.7%、「吸入」が 21.6%となっている。

難病患者では「経管栄養」、「たん等の吸引」がともに 20.0%と最も多くなっている。

(単位：%)

区分	n	経管 栄養	胃ろう	腸ろう	たん 等の 吸引	吸入	気管 カニ ュー ーレ	導尿	人口 呼吸器	気管 切開	その他	無回答
身体障害者	91	8.8	12.1	1.1	17.6	9.9	5.5	11.0	8.8	5.5	52.7	20.9
知的障害者	37	13.5	29.7	2.7	37.8	21.6	13.5	8.1	8.1	13.5	48.6	8.1
精神障害者	41	4.9	-	-	2.4	-	-	-	-	-	65.9	29.3
難病患者	40	20.0	15.0	-	20.0	2.5	-	10.0	7.5	-	47.5	15.0
施設入所者	21	14.3	14.3	-	23.8	-	-	28.6	-	-	33.3	-
児童発達支援事業利用者	8	50.0	37.5	-	50.0	50.0	25.0	12.5	25.0	25.0	25.0	-

※ベース：医療的ケアが必要と回答した人

### (17) 介助者が不在の時などの短期入所（ショートステイ）の利用状況について

短期入所（ショートステイ）の利用状況について、身体障害者では「利用したいが医療的ケアが理由で受け入れ先がない」が14.3%と最も多くなっている。

難病患者では「区内の短期入所（ショートステイ）を利用している」が15.0%と最も多くなっている。

(単位：%)

区分	n	区内の短期入所（ショートステイ）を利用している	区外の短期入所（ショートステイ）を利用している	利用したいが医療的ケアが理由で受け入れ先がない	利用の必要がない	その他	無回答
身体障害者	91	7.7	4.4	14.3	44.0	16.5	17.6
知的障害者	6	-	16.7	16.7	-	-	83.3
精神障害者	41	2.4	-	4.9	31.7	24.4	39.0
難病患者	40	15.0	5.0	-	40.0	20.0	22.5
児童発達支援事業利用者	8	12.5	25.0	-	25.0	50.0	-

※ベース：医療的ケアが必要と回答した人

## 2 介助・援助の状況について

### (1) 介助・援助者

身体障害者では「特に介助等は受けていない」人が42.5%となっており、主な介助・援助者としては「配偶者（夫または妻）」が18.0%と最も多く、次いで「父、母」が17.4%となっている。

知的障害者では「父、母」が75.6%と最も多くなっている。

精神障害者では「特に介助等は受けていない」人が48.5%となっており、主な介助・援助者としては「父、母」が15.7%と最も多く、次いで「配偶者（夫または妻）」が10.6%となっている。

難病患者では「特に介助等は受けていない」が64.3%となっており、主な介助・援助者としては「配偶者（夫または妻）」が16.9%と最も多く、次いで「息子、娘（息子、娘の配偶者も含む）」が11.4%となっている。

児童発達支援事業利用者では「母」が56.2%と最も多くなっている。

(単位：%)

区 分	身体障害者 (n=562)	知的障害者 (n=442)	精神障害者 (n=452)	難病患者 (n=437)
特に介助等は受けていない	42.5(1位)	5.2	48.5(1位)	64.3(1位)
配偶者（夫または妻）	18.0(2位)	0.2	10.6	16.9(2位)
父、母	17.4(3位)	75.6(1位)	15.7(2位)	2.1
息子、娘（息子、娘の配偶者も含む）	10.3	0.5	6.2	11.4(3位)
祖父、祖母	0.9	5.9	0.4	-
兄弟、姉妹	5.7	23.1(2位)	7.5	1.8
行政の職員（ワーカー・保健師等）	0.9	7.9	3.8	1.1
病院の職員（看護師・精神保健福祉士等）	1.6	7.0	4.0	1.4
施設の職員	5.5	8.1	3.8	3.0
訪問看護師	4.3	6.3	6.2	5.0
ホームヘルパー	9.1	9.7	4.0	5.7
その他	3.4	10.0(3位)	2.9	1.6
無回答	7.7	8.8	11.3(3位)	4.3

区 分	児童発達支援 事業利用者 (n=153)
とくに介助等は受けていない	37.3(3位)
父	38.6(2位)
母	56.2(1位)
祖父、祖母	7.8
訪問看護師	1.3
ホームヘルパー	1.3
その他	0.7
無回答	6.5

【前回調査との比較】

(単位：%)

区分		1位	2位	3位
身体障害者	今回 (n=562)	とくに介助等は受けていない (42.5)	配偶者 (18.0)	父、母 (17.4)
	前回 (n=659)	とくに介助等は受けていない (43.1)	父、母 (21.2)	配偶者 (17.8)
知的障害者	今回 (n=442)	父、母 (75.6)	兄弟、姉妹 (23.1)	その他 (10.0)
	前回 (n=474)	父、母 (78.5)	兄弟、姉妹 (23.2)	施設の職員 (14.6)
精神障害者	今回 (n=452)	とくに介助等は受けていない (48.5)	父、母 (15.7)	配偶者 (10.6)
	前回 (n=451)	とくに介助等は受けていない (48.8)	父、母 (21.1)	配偶者 (11.3)
難病患者	今回 (n=437)	とくに介助等は受けていない (64.3)	配偶者 (16.9)	息子、娘 (11.4)
	前回 (n=475)	とくに介助等は受けていない (59.6)	配偶者 (22.3)	息子、娘 (11.2)
児童発達支援事業利用者	今回 (n=153)	母 (56.2)	父 (38.6)	とくに介助等は受けていない (37.3)
	前回 (n=127)	母 (58.3)	父 (31.5)	とくに介助等は受けていない (30.7)

## (2) 介助・援助者のうち最も長く介助・援助している人

最も長く介助・援助している人は、身体障害者では「配偶者（夫または妻）」が33.9%と最も多く、次いで「父、母」が33.6%となっている。

知的障害者では「父、母」が81.3%と最も多くなっている。

精神障害者では「父、母」が32.4%と最も多くなっている。

難病患者では「配偶者（夫または妻）」が37.5%と最も多くなっている。

児童発達支援事業利用者では「母親」が83.7%と最も多くなっている。

(単位：%)

区分	身体障害者 (n=280)	知的障害者 (n=380)	精神障害者 (n=182)	難病患者 (n=136)
配偶者（夫または妻）	33.9(1位)	0.3	21.4(2位)	37.5(1位)
父、母	33.6(2位)	81.3(1位)	32.4(1位)	5.9
息子、娘（息子、娘の配偶者も含む）	10.0(3位)	0.3	6.6	18.4(3位)
祖父、祖母	-	0.5	-	-
兄弟、姉妹	3.6	2.6(3位)	9.9	2.2
行政の職員（ワーカー・保健師等）	0.4	-	3.3	-
病院の職員（看護師・精神保健福祉士等）	1.1	0.8	1.6	0.7
施設の職員	4.6	2.4	2.7	0.7
訪問看護師	0.4	0.3	2.2	0.7
ホームヘルパー	3.6	1.1	1.6	3.7
その他	0.7	1.8	2.2	1.5
無回答	8.2	8.7(2位)	15.9(3位)	28.7(2位)

※ベース：介助・援助を受けていると回答した人

区分	児童発達支援 事業利用者 (n=86)
父	2.3
母	83.7
祖父、祖母	1.2
訪問看護師	-
ホームヘルパー	-
その他	-
無回答	12.8

※ベース：介助・援助を受けていると回答した人

### (3) 最も長く介助・援助している人の年齢

最も長く介助・援助している人の年齢について、身体障害者、精神障害者、難病患者では「70歳以上」がそれぞれ27.9%、29.7%、27.9%と最も多く、平均年齢はそれぞれ62.2歳、64.5歳、64.0歳となっている。

知的障害者では「40歳代」、「50歳代」がともに23.9%と最も多く、平均年齢は55.9歳となっている。

児童発達支援事業利用者では「30歳代」が29.3%と最も多く、平均年齢は38.4歳となっている。

(単位：%)

区分	n	10歳未満	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	無回答	平均年齢
身体障害者	280	-	-	1.1	2.1	12.9	17.9	14.3	27.9	22.9	62.2歳
知的障害者	380	-	-	0.3	3.4	23.9	23.9	16.3	13.7	18.4	55.9歳
精神障害者	182	1.1	0.5	2.2	2.2	5.5	11.5	15.9	29.7	31.4	64.5歳
難病患者	136	0.7	0.7	0.7	2.2	7.4	10.3	16.9	27.9	33.1	64.0歳
児童発達支援事業利用者	86	0.2	-	0.2	29.3	26.0	1.6	0.1	-	16.3	38.4歳

※ベース：介助・援助を受けていると回答した人

#### (4) 介助・援助の内容（複数回答）

介助・援助の内容は、身体障害者、難病患者では「外出」がそれぞれ 61.4%、62.2%と最も多くなっている。

知的障害者では「金銭管理」が 67.6%と最も多くなっている。

精神障害者では「食事のしたく」が 56.0%と最も多くなっている。

(単位：%)

区 分	身体障害者 (n=280)	知的障害者 (n=380)	難病患者 (n=136)	児童発達支援 事業利用者 (n=86)
食事	35.0	38.2	20.6	51.2
トイレ	29.3	37.6	22.8	68.6(3位)
入浴	39.6(3位)	45.8	33.1(3位)	76.7(1位)
衣服の着脱	36.4	33.4	30.1	58.1
家の中の移動	23.2	15.0	18.4	14.0
家事（調理、掃除、洗濯）	50.7(2位)	64.5(2位)	50.7(2位)	
外出	61.4(1位)	64.5(2位)	58.1(1位)	
服薬	36.8	47.9	25.7	69.8(2位)
医療的ケアに関わる介助	25.4	18.2	23.5	59.3
他の人と意思疎通を図りたいとき	24.6	46.3	12.5	14.0
金銭管理	33.2	67.6(1位)	29.4	44.2
その他	10.0	7.1	8.1	2.3
無回答	8.9	6.6	12.5	4.7

※ベース：介助・援助を受けていると回答した人

区 分	精神障害者 (n=182)
部屋の整理・整頓・掃除	51.1(3位)
衣類の洗濯	45.6
日用品の買い物	53.8(2位)
食事のしたく	56.0(1位)
外出（通院を含む）	44.5
服薬	28.0
医療的ケアに関わる介助	16.5
他の人と意思疎通を図りたいとき	24.2
金銭管理	39.6
その他	14.3
無回答	5.5

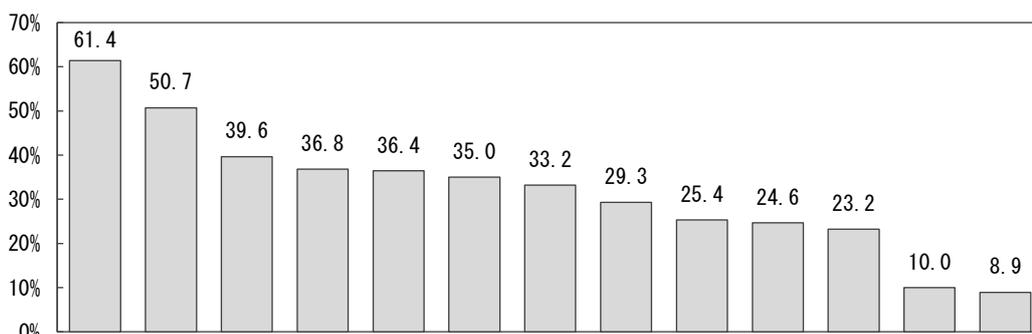
※ベース：介助・援助を受けていると回答した人

## 【身体障害者】

障害の程度別にみると、重度（1・2級）では多くの項目で介助・援助を必要とする人が多くなっている。

障害の種類別にみると、視覚障害では「外出」の際に介助・援助を受けている人が70.8%と最も多く、聴覚障害では「他の人と意思疎通を図りたいとき」が60.0%と他の障害の種類と比べて多くなっている。また、肢体不自由（体幹）では、多くの項目について介助・援助を受けている人が多くなっており、「入浴」が75.0%、「衣服の着脱」が75.0%、「外出」が71.9%と特に多くなっている。

年齢4区分別にみると、どの年代においても「外出」が最も多くなっている。



【障害程度別】

	外出	家事（調理、掃除、洗濯）	入浴	服薬	衣服の着脱	食事	金銭管理	トイレ	医療的ケアに関わる介助	他の人と意思疎通を図りたいとき	家の中の移動	その他	無回答
全体 (n=280)	61.4	50.7	39.6	36.8	36.4	35.0	33.2	29.3	25.4	24.6	23.2	10.0	8.9
重度（1・2級） (n=184)	65.2	53.3	47.3	39.7	41.3	39.7	36.4	35.9	26.6	25.5	28.8	7.6	8.2
中度（3・4級） (n=67)	50.7	41.8	23.9	29.9	26.9	23.9	19.4	14.9	25.4	19.4	13.4	17.9	9.0
軽度（5・6級） (n=17)	70.6	52.9	17.6	29.4	17.6	23.5	47.1	11.8	23.5	35.3	11.8	11.8	0.0

【障害の種類別】

視覚障害 (n=48)	70.8	52.1	14.6	27.1	14.6	22.9	31.3	8.3	14.6	18.8	4.2	8.3	12.5
聴覚障害 (n=30)	33.3	23.3	13.3	16.7	13.3	13.3	20.0	6.7	10.0	60.0	10.0	20.0	3.3
平衡機能障害 (n=1)	100	100	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害 (n=11)	63.6	27.3	36.4	45.5	36.4	36.4	54.5	27.3	54.5	45.5	27.3	0.0	0.0
肢体不自由（上肢、下肢等） (n=87)	77.0	57.5	62.1	48.3	56.3	44.8	39.1	46.0	23.0	21.8	34.5	9.2	2.3
肢体不自由（体幹） (n=32)	71.9	68.8	75.0	56.3	75.0	65.6	43.8	68.8	53.1	34.4	50.0	12.5	6.3
内部障害 (n=52)	38.5	50.0	17.3	25.0	13.5	23.1	19.2	9.6	23.1	3.8	11.5	9.6	15.4
その他 (n=5)	60.0	40.0	40.0	40.0	40.0	40.0	60.0	40.0	40.0	20.0	40.0	20.0	20.0

【年齢4区分別】

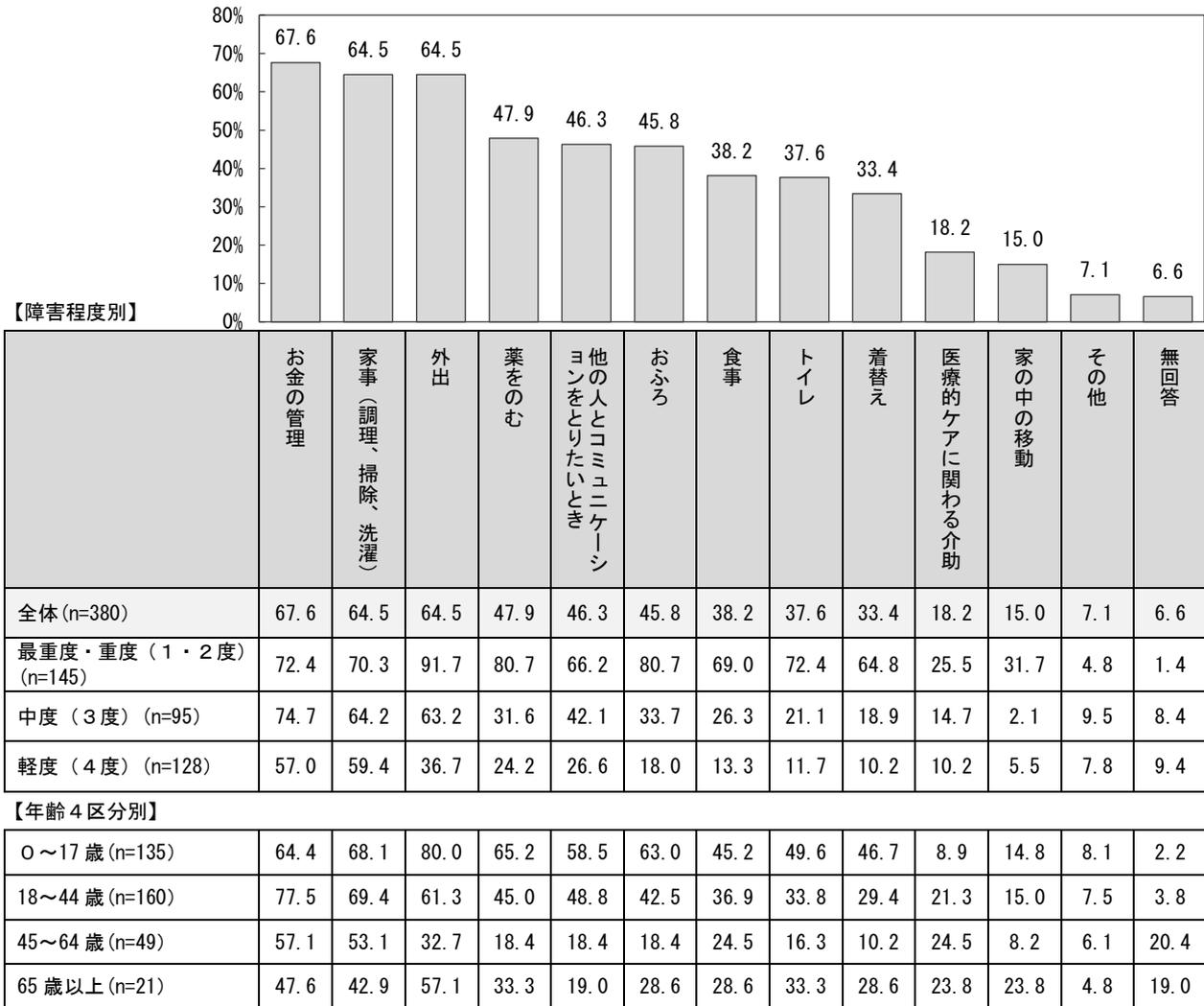
0～17歳 (n=39)	76.9	51.3	66.7	74.4	59.0	53.8	56.4	61.5	33.3	48.7	43.6	12.8	0.0
18～44歳 (n=28)	82.1	67.9	57.1	67.9	53.6	64.3	50.0	53.6	32.1	50.0	39.3	7.1	0.0
45～64歳 (n=94)	56.4	46.8	31.9	23.4	28.7	25.5	23.4	20.2	24.5	25.5	14.9	9.6	7.4
65歳以上 (n=107)	55.1	48.6	32.7	29.0	32.7	29.9	29.9	21.5	22.4	10.3	19.6	8.4	15.9

※ベース：介助・援助を受けていると回答した人

**【知的障害者】**

障害の程度別にみると、程度が重いほど介助・援助を必要とする人が多く、最重度・重度（1・2度）では「外出」が91.7%、「おふろ」が80.7%で、それぞれ8割以上の人が介助・援助を受けている状況となっている。

年齢4区分別にみると、0～17歳では「外出」が80.0%と最も多く、18～44歳、45～64歳では「お金の管理」がそれぞれ77.5%、57.1%と最も多くなっている。

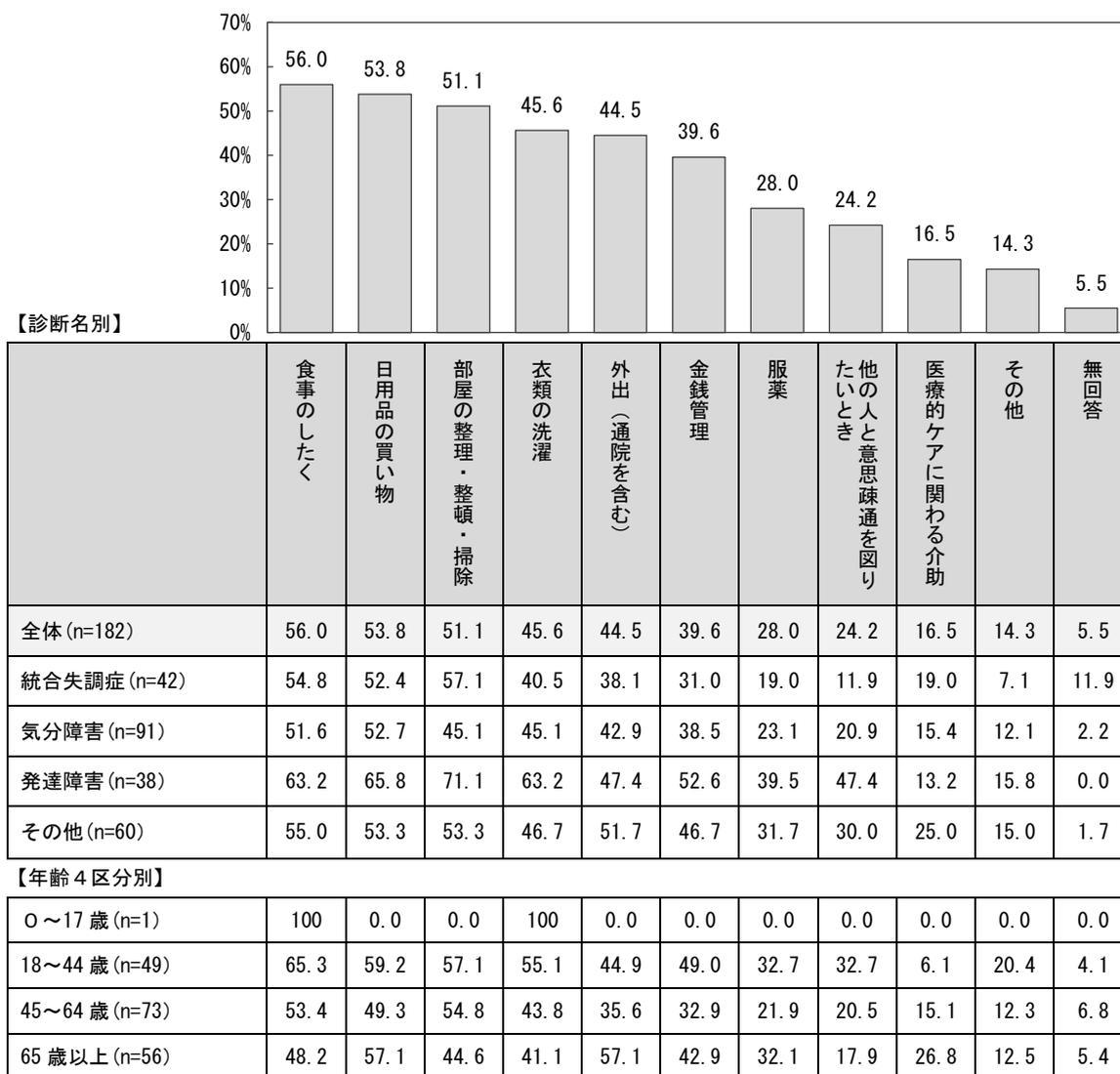


※ベース：介助・援助を受けていると回答した人

## 【精神障害者】

診断名別にみると、発達障害と診断されている人では、統合失調症や気分障害と診断されている人に比べて、多くの項目で介助・援助を必要とする人が多くなっている。

年齢4区分別にみると、18～44歳では「食事のしたく」が65.3%と最も多く、45～64歳では「部屋の整理・整頓・掃除」が54.8%と最も多くなっている。また、65歳以上では「日用品の買い物」、「外出（通院を含む）」がともに57.1%と最も多くなっている。

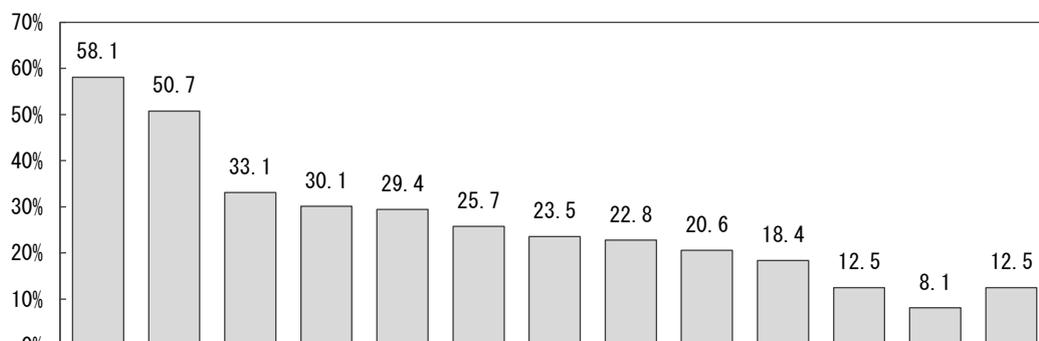


※ベース：介助・援助を受けていると回答した人

## 【難病患者】

疾患群別にみると、神経・筋疾患では「外出」が58.2%と最も多く、次いで「入浴」、「衣服の着脱」がともに46.3%となっている。

年齢4区分別にみると、65歳以上では「外出」が59.0%と最も多く、次いで「家事（調理、掃除、洗濯）」が50.0%となっている。



【疾患群別】

疾患群別	外出	家事 (調理、掃除、洗濯)	入浴	衣服の着脱	金銭管理	服薬	医療的ケアに関わる介助	トイレ	食事	家の中の移動	他人と意思疎通を図りたいとき	その他	無回答
全体 (n=136)	58.1	50.7	33.1	30.1	29.4	25.7	23.5	22.8	20.6	18.4	12.5	8.1	12.5
神経・筋疾患 (n=67)	58.2	43.3	46.3	46.3	35.8	35.8	25.4	37.3	31.3	31.3	14.9	6.0	11.9
免疫系疾患 (n=21)	57.1	66.7	23.8	14.3	19.0	19.0	19.0	14.3	14.3	9.5	14.3	14.3	14.3
消化器系疾患 (n=9)	44.4	22.2	0.0	0.0	22.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	22.2	11.1
その他 (n=35)	62.9	62.9	22.9	17.1	28.6	17.1	25.7	5.7	8.6	2.9	11.4	5.7	11.4

【年齢4区分別】

年齢4区分別	外出	家事 (調理、掃除、洗濯)	入浴	衣服の着脱	金銭管理	服薬	医療的ケアに関わる介助	トイレ	食事	家の中の移動	他人と意思疎通を図りたいとき	その他	無回答
0~17歳 (n=0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
18~44歳 (n=10)	70.0	50.0	10.0	10.0	30.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10.0
45~64歳 (n=22)	50.0	54.5	4.5	9.1	22.7	4.5	9.1	9.1	9.1	4.5	4.5	4.5	9.1
65歳以上 (n=100)	59.0	50.0	41.0	37.0	31.0	31.0	27.0	26.0	23.0	21.0	14.0	8.0	14.0

※ベース：介助・援助を受けていると回答した人

(5) 介助・援助者が不在のときに希望する対応（複数回答）

知的障害者、児童発達支援事業利用者では「同居している他の家族に頼みたい」が最も多く、次いで知的障害者では「施設への短期入所（ショートステイ）を利用したい」、児童発達支援事業利用者では「子育てサービスを利用したい」となっている。

(単位：%)

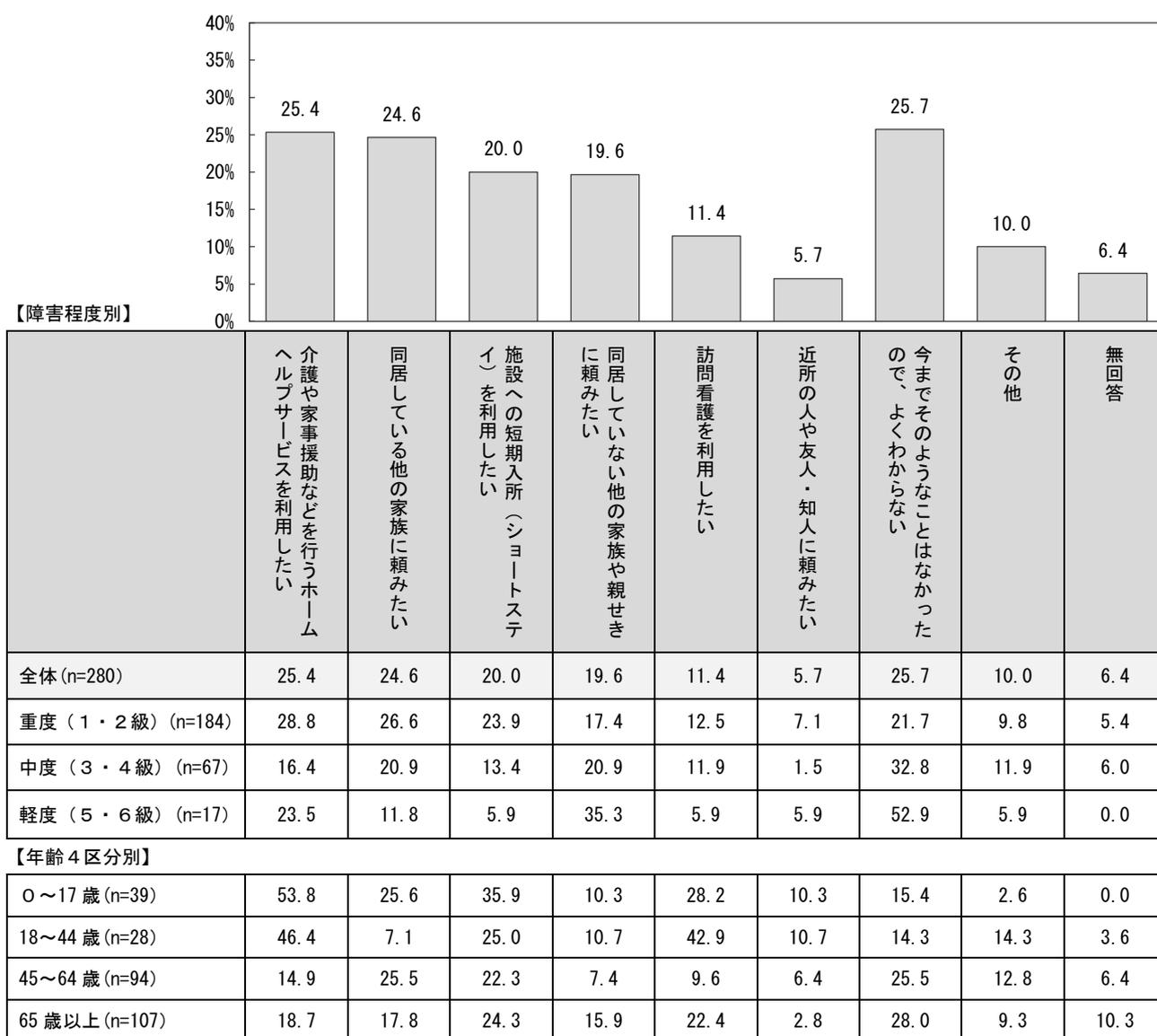
区分	身体障害者 (n=280)	知的障害者 (n=380)	精神障害者 (n=182)	難病患者 (n=136)	児童発達 支援事業 利用者 (n=86)
同居している他の家族に頼みたい	24.6(3位)	48.9(1位)	20.9(2位)	16.2(3位)	77.9(1位)
同居していない他の家族や親せきに頼みたい	19.6	18.2	15.4	15.4	33.7(3位)
介護や家事援助などを行うホームヘルプサービスを利用したい	25.4(2位)	18.9	18.7(3位)	22.8(2位)	20.9
訪問看護を利用したい	11.4	7.1	8.8	13.2	12.8
施設への短期入所（ショートステイ）を利用したい	20.0	29.5(2位)	10.4	15.4	11.6
近所の人や友人・知人に頼みたい	5.7	3.7	7.1	4.4	7.0
子育てサービスを利用したい					47.7(2位)
今までそのようなことはなかったなので、よくわからない	25.7(1位)	26.1(3位)	31.3(1位)	29.4(1位)	3.5
その他	10.0	6.6	14.8	6.6	3.5
無回答	6.4	8.2	8.8	14.0	3.5

※ベース：介助・援助を受けていると回答した人

## 【身体障害者】

障害の程度別にみると、重度（1・2級）では「介護や家事援助などを行うホームヘルプサービスを利用したい」が28.8%と最も多くなっている。

年齢4区別にみると、0～17歳、18～44歳では「介護や家事援助などを行うホームヘルプサービスを利用したい」がそれぞれ53.8%、46.4%と最も多くなっている。また、45～64歳では「同居している他の家族に頼みたい」が25.5%と最も多く、65歳以上では「施設への短期入所（ショートステイ）を利用したい」が24.3%と最も多くなっている。

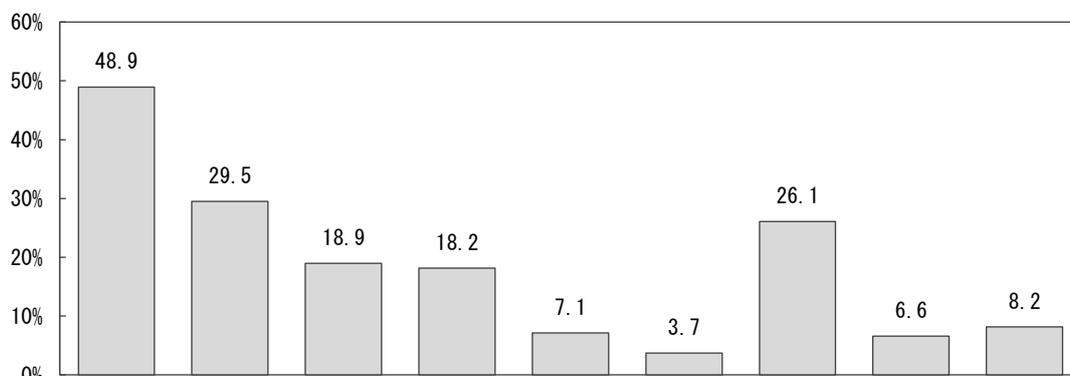


※ベース：介助・援助を受けていると回答した人

## 【知的障害者】

障害の程度別にみると、最重度・重度（1・2度）では「施設への短期入所（ショートステイ）を利用したい」が52.4%と最も多くなっている。

年齢4区分別にみると、0～17歳、18～44歳では「いっしょに住んでいるほかの家族にたのみたい」がそれぞれ69.6%、45.6%と最も多くなっている。



【障害程度別】

障害程度	いっしょに住んでいるほかの家族にたのみたい	施設への短期入所（ショートステイ）を利用したい	ホームヘルプサービスを利用したい	いっしょに住んでいないほかの家族や親せきにたのみたい	訪問看護を利用したい	近所の人や友だち・知り合いにたのみたい	いままでそのようなことはなかったので、よくわからない	その他	無回答
全体 (n=380)	48.9	29.5	18.9	18.2	7.1	3.7	26.1	6.6	8.2
最重度・重度 (1・2度) (n=145)	50.3	52.4	27.6	13.1	11.7	2.1	21.4	4.1	4.1
中度 (3度) (n=95)	47.4	20.0	13.7	27.4	1.1	4.2	30.5	7.4	10.5
軽度 (4度) (n=128)	47.7	11.7	13.3	17.2	7.0	5.5	29.7	8.6	9.4

【年齢4区分別】

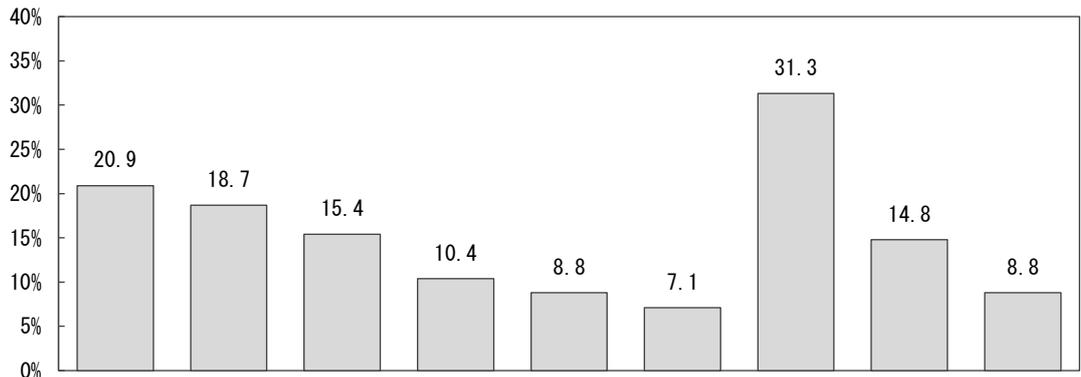
年齢区別	いっしょに住んでいるほかの家族にたのみたい	施設への短期入所（ショートステイ）を利用したい	ホームヘルプサービスを利用したい	いっしょに住んでいないほかの家族や親せきにたのみたい	訪問看護を利用したい	近所の人や友だち・知り合いにたのみたい	いままでそのようなことはなかったので、よくわからない	その他	無回答
0～17歳 (n=135)	69.6	31.9	18.5	27.4	7.4	5.2	25.9	4.4	2.2
18～44歳 (n=160)	45.6	32.5	20.0	12.5	6.3	3.8	26.9	6.3	5.6
45～64歳 (n=49)	20.4	24.5	18.4	22.4	10.2	2.0	16.3	10.2	22.4
65歳以上 (n=21)	19.0	9.5	9.5	4.8	4.8	0.0	33.3	14.3	28.6

※ベース：介助・援助を受けていると回答した人

## 【精神障害者】

診断名別にみると、統合失調症と診断されている人では「介護や家事援助などを行うホームヘルプサービスを利用したい」、「同居していない他の家族や親せきに頼みたい」がそれぞれ14.3%と最も多くなっており、気分障害と診断されている人では「同居していない他の家族や親せきに頼みたい」が18.7%と最も多くなっている。

年齢4区分別にみると、18～44歳、45～64歳では「同居している他の家族に頼みたい」がそれぞれ30.6%、23.3%と最も多くなっている。また、65歳以上では「介護や家事援助などを行うホームヘルプサービスを利用したい」が21.4%となっている。



【診断名別】

診断名別	同居している他の家族に頼みたい	介護や家事援助などを行うホームヘルプサービスを利用したい	同居していない他の家族や親せきに頼みたい	施設への短期入所（ショートステイ）を利用したい	訪問看護を利用したい	近所の人や友人・知人に頼みたい	今までそのようなことはなかった ので、よくわからない	その他	無回答
全体 (n=182)	20.9	18.7	15.4	10.4	8.8	7.1	31.3	14.8	8.8
統合失調症 (n=42)	7.1	14.3	14.3	2.4	11.9	2.4	45.2	23.8	7.1
気分障害 (n=91)	16.5	16.5	18.7	7.7	11.0	11.0	30.8	14.3	8.8
発達障害 (n=38)	34.2	18.4	10.5	15.8	5.3	0.0	36.8	18.4	7.9
その他 (n=60)	25.0	20.0	20.0	15.0	6.7	10.0	26.7	16.7	8.3

【年齢4区分別】

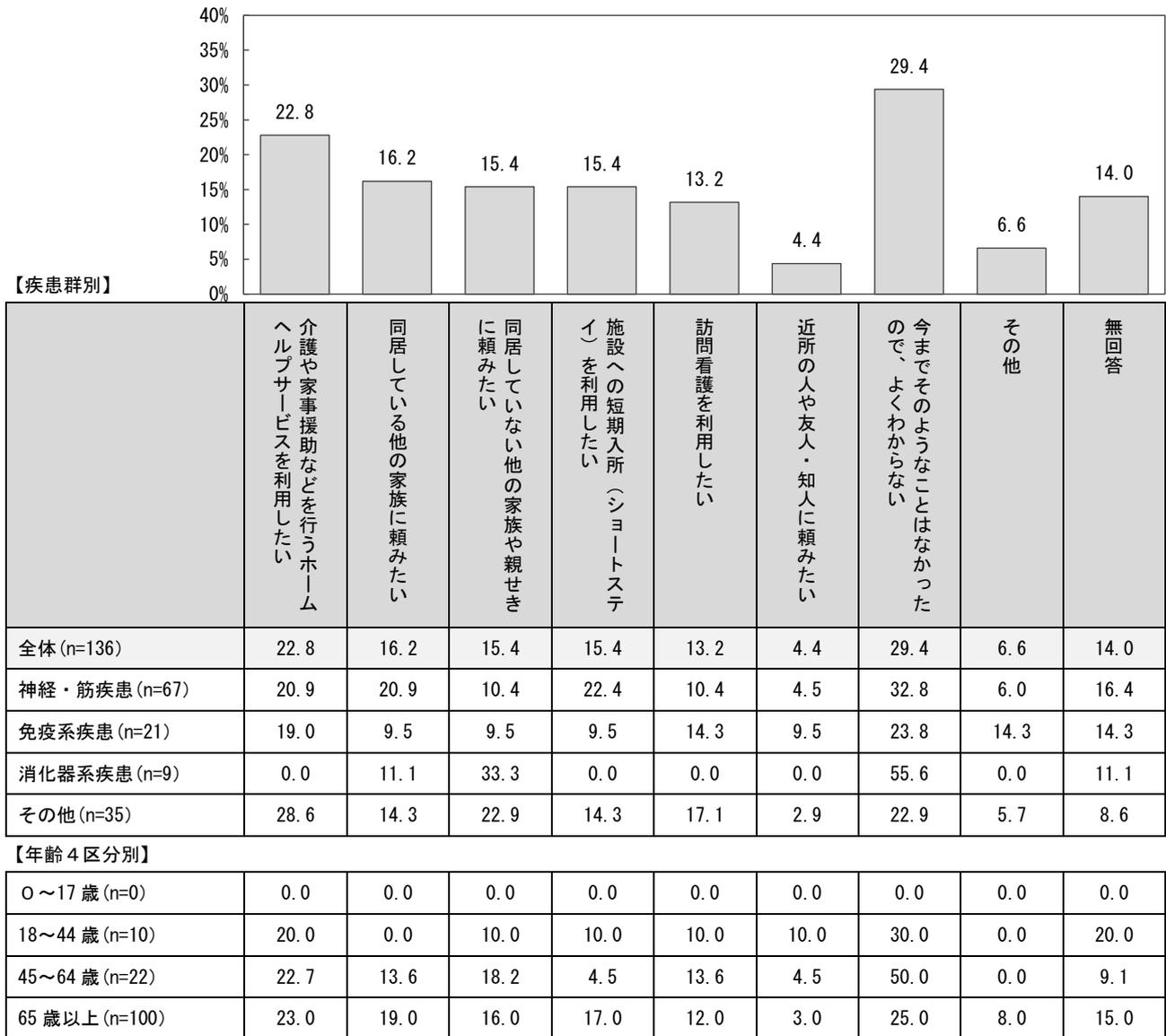
年齢4区分別	同居している他の家族に頼みたい	介護や家事援助などを行うホームヘルプサービスを利用したい	同居していない他の家族や親せきに頼みたい	施設への短期入所（ショートステイ）を利用したい	訪問看護を利用したい	近所の人や友人・知人に頼みたい	今までそのようなことはなかった ので、よくわからない	その他	無回答
0～17歳 (n=1)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100
18～44歳 (n=49)	30.6	14.3	12.2	14.3	8.2	8.2	30.6	16.3	4.1
45～64歳 (n=73)	23.3	19.2	15.1	8.2	11.0	8.2	32.9	19.2	5.5
65歳以上 (n=56)	8.9	21.4	17.9	8.9	5.4	5.4	28.6	8.9	14.3

※ベース：介助・援助を受けていると回答した人

**【難病患者】**

疾患群別にみると、神経・筋疾患では「施設への短期入所（ショートステイ）を利用したい」が22.4%と最も多くなっている。

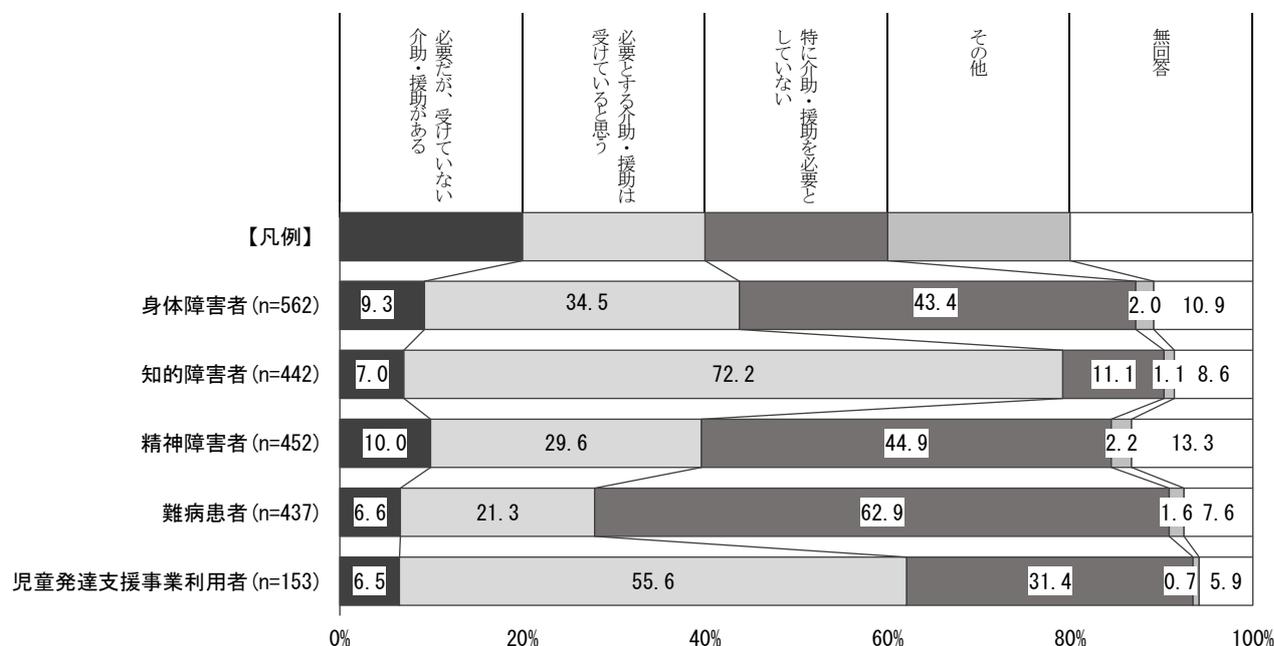
年齢4区分別にみると、65歳以上では「介護や家事援助などを行うホームヘルプサービスを利用したい」が23.0%となっている。



※ベース：介助・援助を受けていると回答した人

## (6) 必要とする介助・援助の有無

必要とする介助・援助を受けていると思うかについては、知的障害者、児童発達支援事業利用者では「必要とする介助・援助はを受けていると思う」がそれぞれ72.2%、55.6%となっている。また、身体障害者、精神障害者、難病患者では約4割～約6割が「特に介助・援助を必要としない」と回答している。



### 【前回調査との比較】

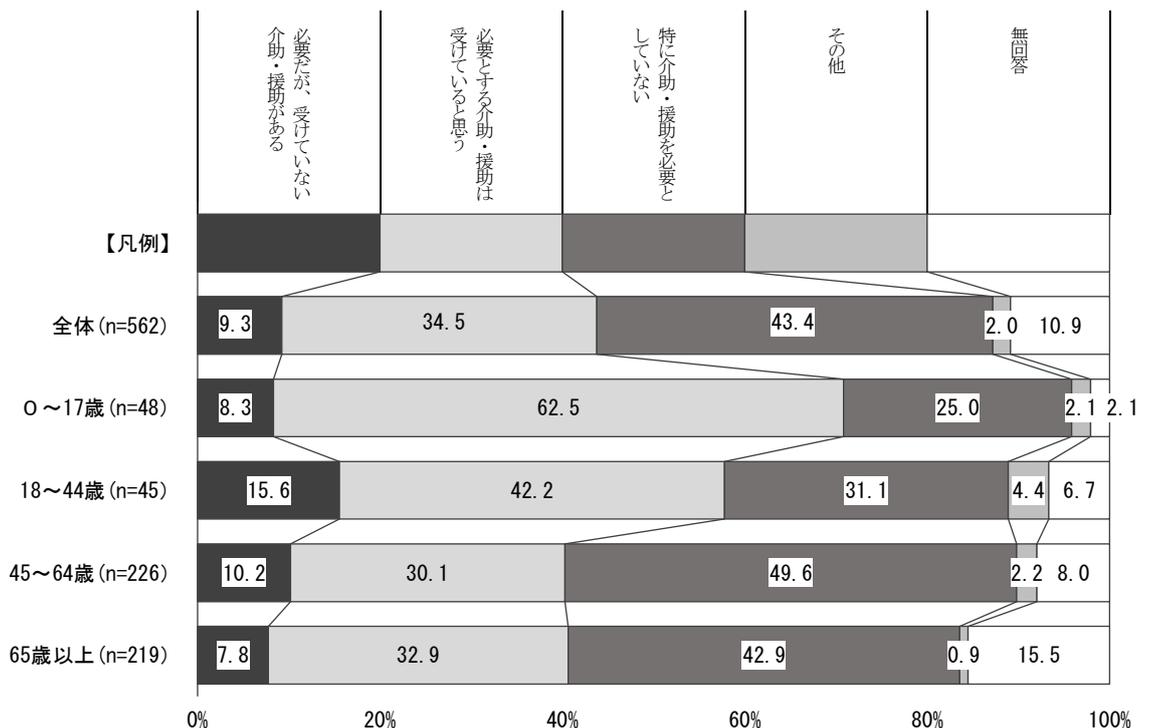
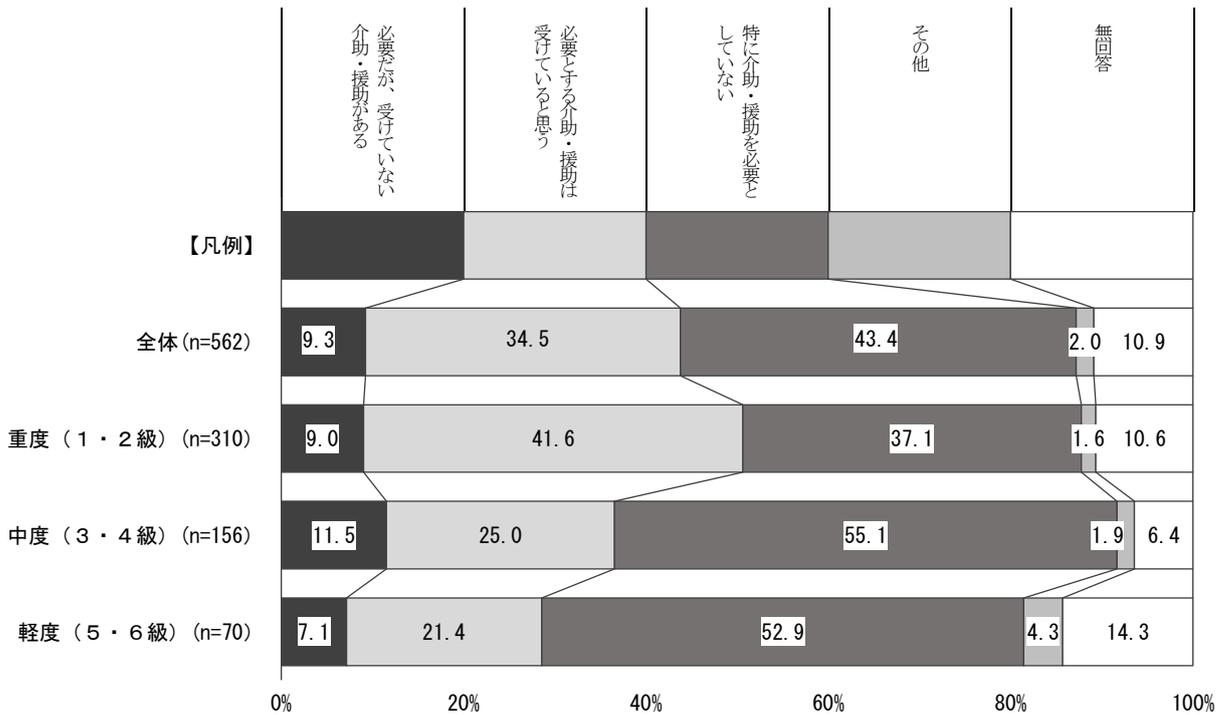
(単位：%)

区分		1位	2位	3位
身体障害者	今回 (n=562)	特に介助・援助を必要としない (43.4)	必要とする介助・援助はを受けていると思う (34.5)	必要だが、受けていない介助・援助がある (9.3)
	前回 (n=659)	特に介助・援助を必要としない (40.1)	必要とする介助・援助はを受けていると思う (36.9)	必要だが、受けていない介助・援助がある (10.6)
知的障害者	今回 (n=442)	必要とする介助・援助はを受けていると思う (72.2)	特に介助・援助を必要としない (11.1)	必要だが、受けていない介助・援助がある (7.0)
	前回 (n=474)	必要とする介助・援助はを受けていると思う (71.3)	特に介助・援助を必要としない (11.8)	必要だが、受けていない介助・援助がある (7.4)
精神障害者	今回 (n=452)	特に介助・援助を必要としない (44.9)	必要とする介助・援助はを受けていると思う (29.6)	必要だが、受けていない介助・援助がある (10.0)
	前回 (n=451)	特に介助・援助を必要としない (43.7)	必要とする介助・援助はを受けていると思う (35.0)	必要だが、受けていない介助・援助がある (11.8)
難病患者	今回 (n=437)	特に介助・援助を必要としない (62.9)	必要とする介助・援助はを受けていると思う (21.3)	必要だが、受けていない介助・援助がある (6.6)
	前回 (n=475)	特に介助・援助を必要としない (55.4)	必要とする介助・援助はを受けていると思う (29.7)	必要だが、受けていない介助・援助がある (6.1)
児童発達支援事業利用者	今回 (n=153)	必要とする介助・援助はを受けていると思う (55.6)	特に介助・援助を必要としない (31.4)	必要だが、受けていない介助・援助がある (6.5)
	前回 (n=127)	必要とする介助・援助はを受けていると思う (52.8)	特に介助・援助を必要としない (33.1)	必要だが、受けていない介助・援助がある (4.7)

## 【身体障害者】

障害の程度別にみると、「必要とする介助・援助は受けていると思う」人は、障害が重いほど多く、重度（1・2級）では41.6%となっている。一方で、「特に介助・援助を必要としない」人は、軽度（5・6級）では52.9%、中度（3・4級）では55.1%とそれぞれ半数を超えている。

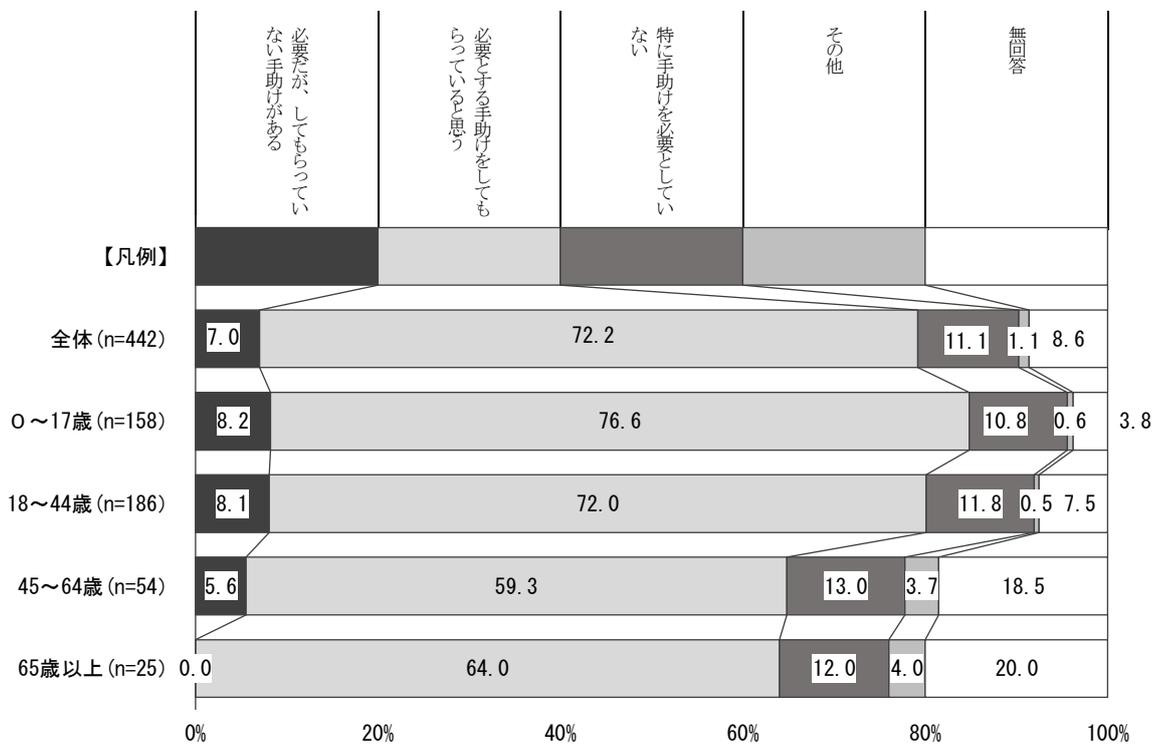
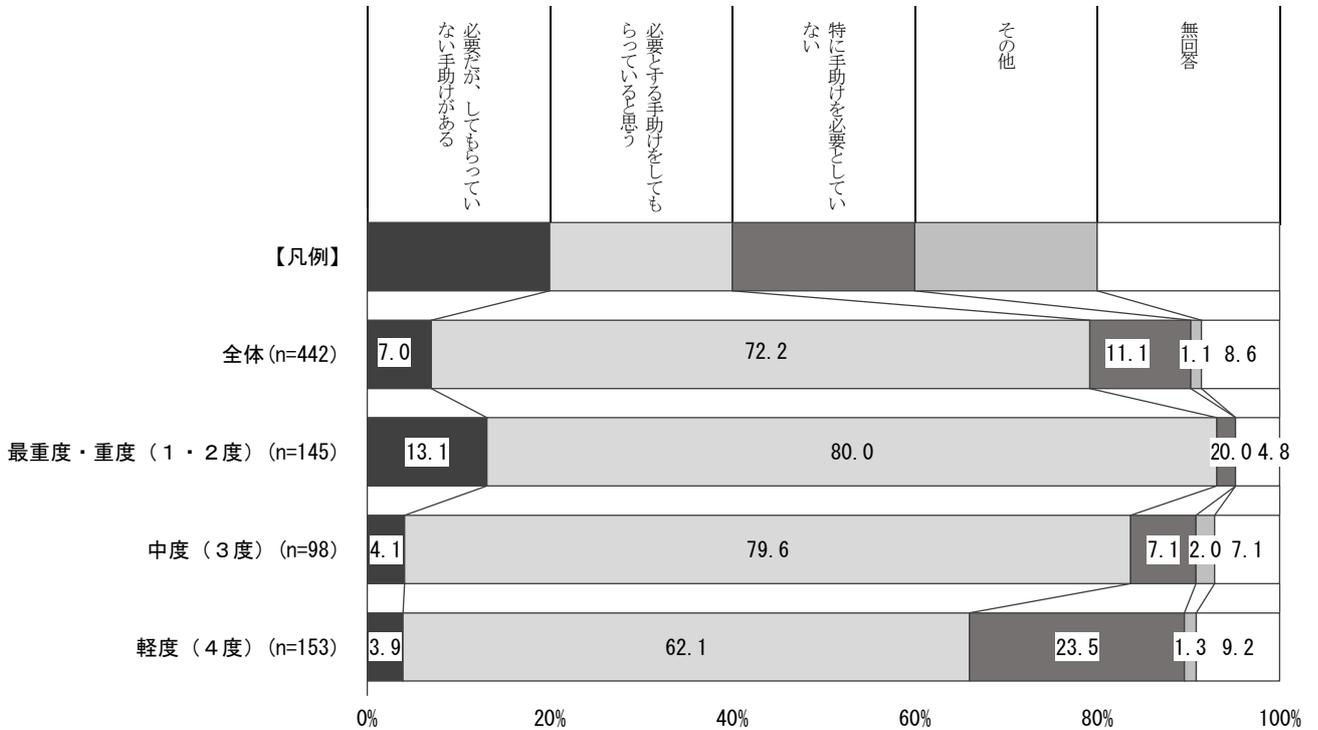
年齢4区分別にみると、0～17歳では「必要とする介助・援助は受けていると思う」が62.5%と他の年代と比べて多くなっている。なお、45歳～64歳、65歳以上では「特に介助・援助を必要としない」がそれぞれ49.6%、42.9%となっている。



## 【知的障害者】

障害の程度別にみると、約6割～8割が「必要とする手助けをしてもらっていると思う」と回答しており、程度が重い人ほど多くなっている。

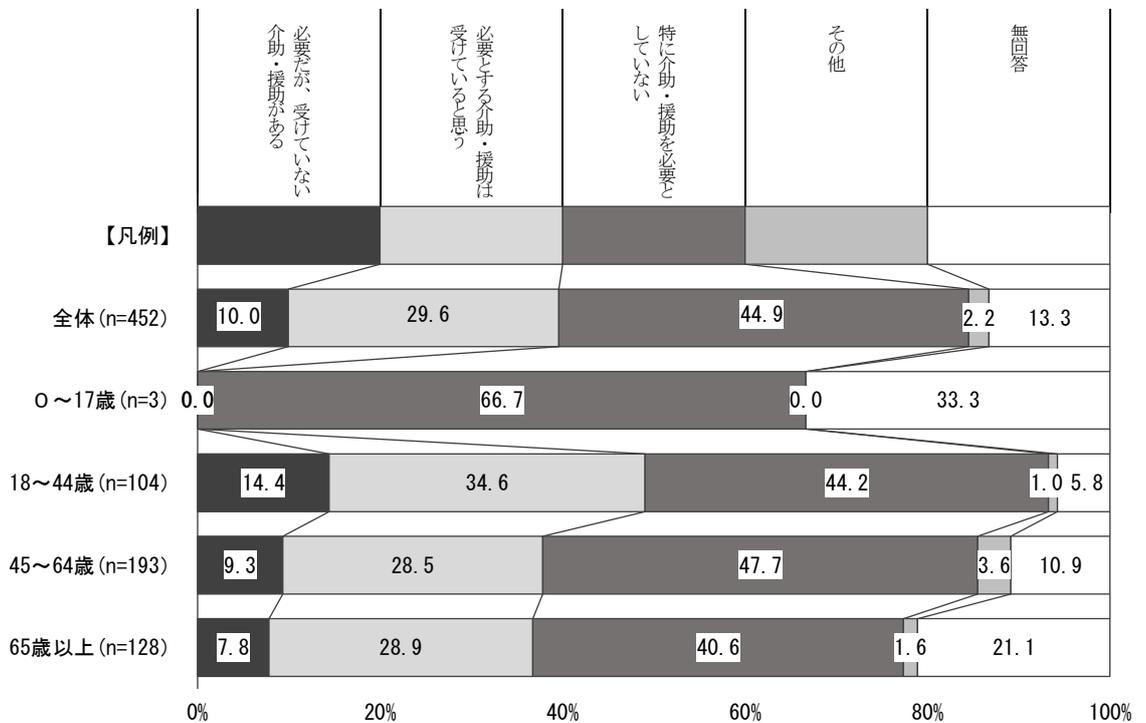
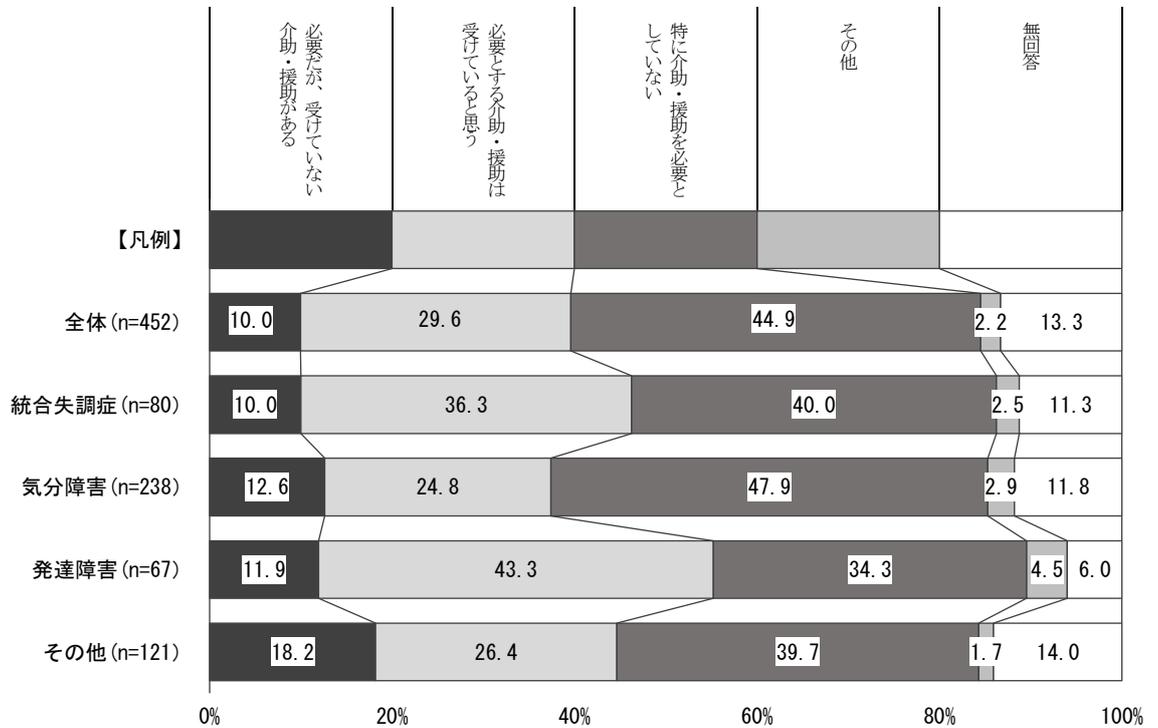
年齢4区分別にみると、どの年代においても約6割～7割が「必要とする手助けをもらっていると思う」と回答している。



## 【精神障害者】

診断名別にみると、統合失調症および発達障害と診断されている人では「必要とする介助・援助は受けていると思う」が多く、約4割となっている。また、どの診断名においても約3割～5割が「特に介助・援助を必要としていない」と回答している。

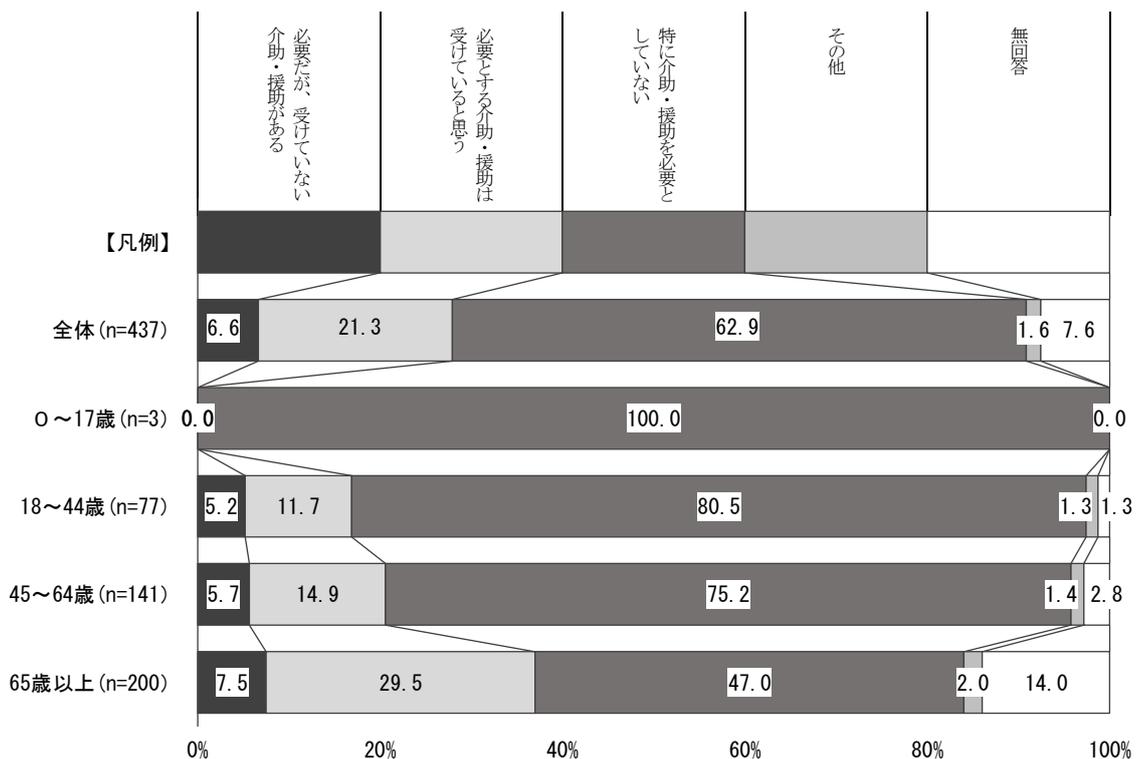
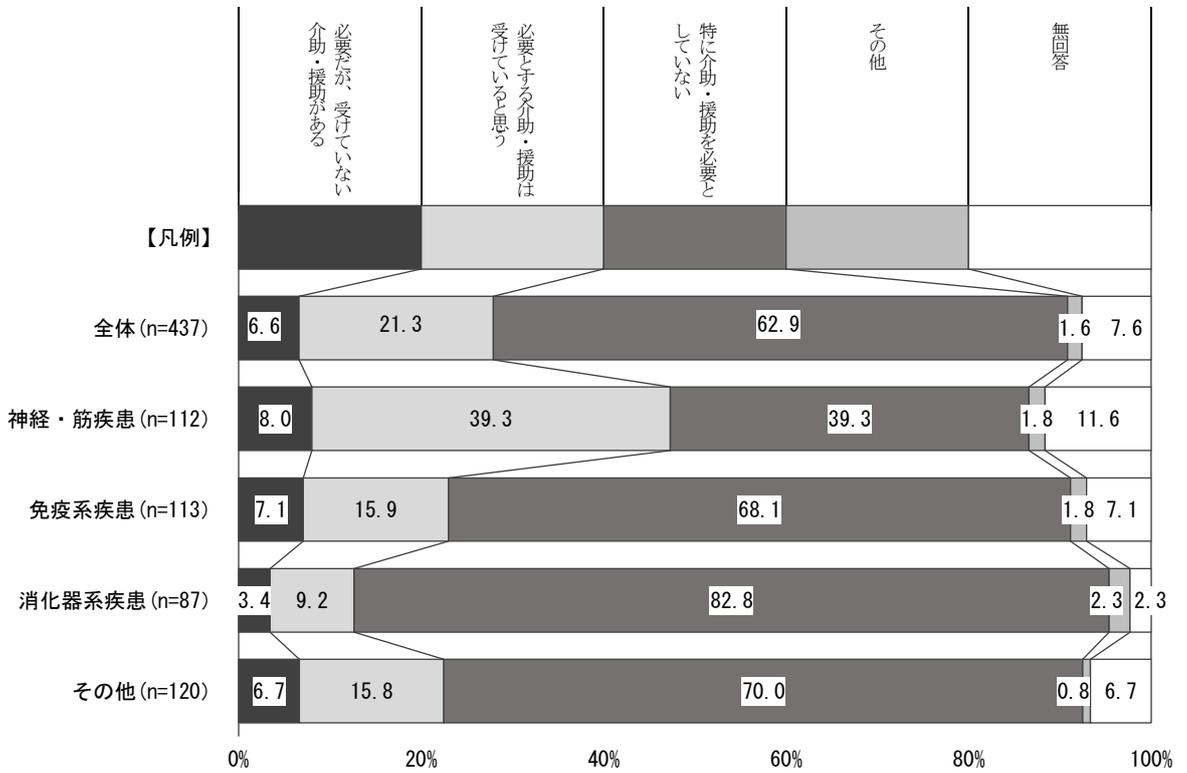
年齢4区分別にみると、どの年代においても約4～6割が「とくに介助・援助を必要としない」と回答している。



## 【難病患者】

疾患群別にみると、「必要とする介助・援助は受けていると思う」と回答した人の割合は、神経・筋疾患では39.3%となっている。神経・筋疾患以外の疾患では、「特に介助・援助を必要としていない」が半数を超えている。

年齢4区分別にみると、年代が上がるにつれて「必要とする介助・援助は受けていると思う」人が多くなっている。



## (7) 必要だが受けていない介助・援助（自由回答）

主な回答内容は、次のとおりである。

### 【身体障害者】

- ・通勤・通学、通院時などの外出支援
- ・訪問入浴サービス
- ・短期入所
- ・食事や掃除、買い物等の援助
- ・手話通訳
- ・口述筆記者
- ・代筆、ハガキ等の読み上げ
- ・外出時の運転代行ボランティア
- ・福祉タクシー

### 【知的障害者】

- ・通勤・通学、通院時などの外出支援
- ・食事や掃除、買い物等の援助
- ・余暇活動支援
- ・金銭管理
- ・休日の余暇的な外出支援
- ・学校の放課後や休業中の居場所
- ・夜間の支援

### 【精神障害者】

- ・通勤・通学、通院時などの外出支援
- ・食事や掃除、買い物等の援助
- ・経済的な援助
- ・グループホーム
- ・書類やメールの代筆
- ・電話や会話の代弁
- ・就労移行支援
- ・余暇活動支援

### 【難病患者】

- ・通院時などの外出支援
- ・食事や掃除、買い物等の援助
- ・相談支援

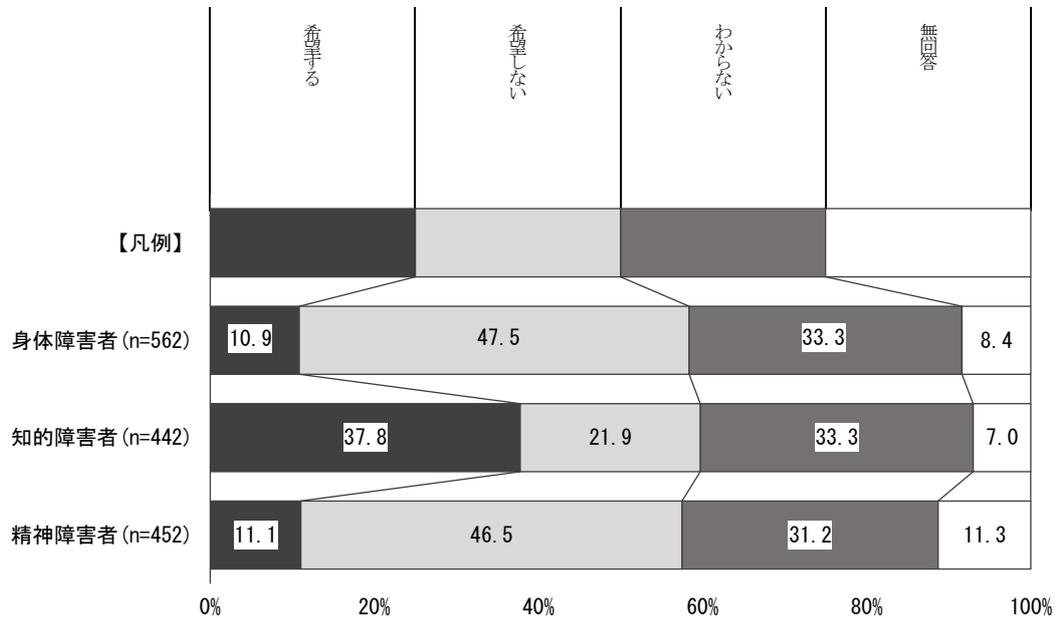
### 【児童発達支援事業利用者】

- ・療育
- ・移動支援
- ・言語訓練

## (8) 地域生活支援拠点について

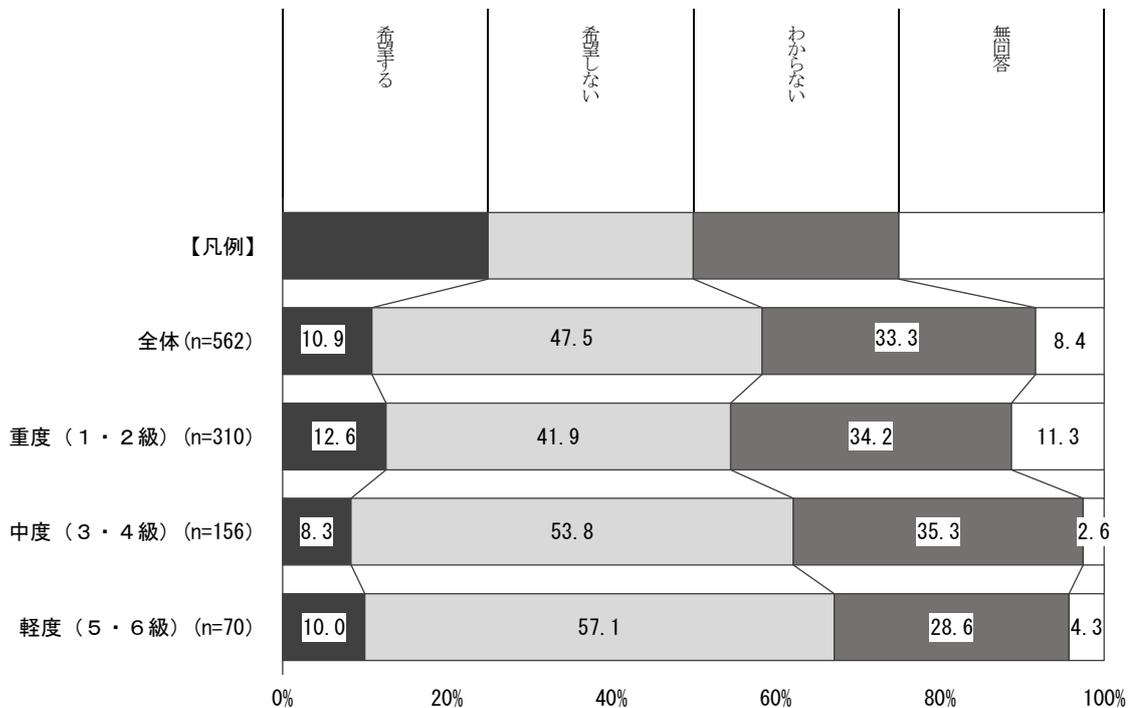
### ①「体験の機会・場」の利用

地域生活支援拠点の「体験の機会・場」の利用意向について、知的障害者では「希望する」が37.8%と他の障害種別と比べて多くなっている。



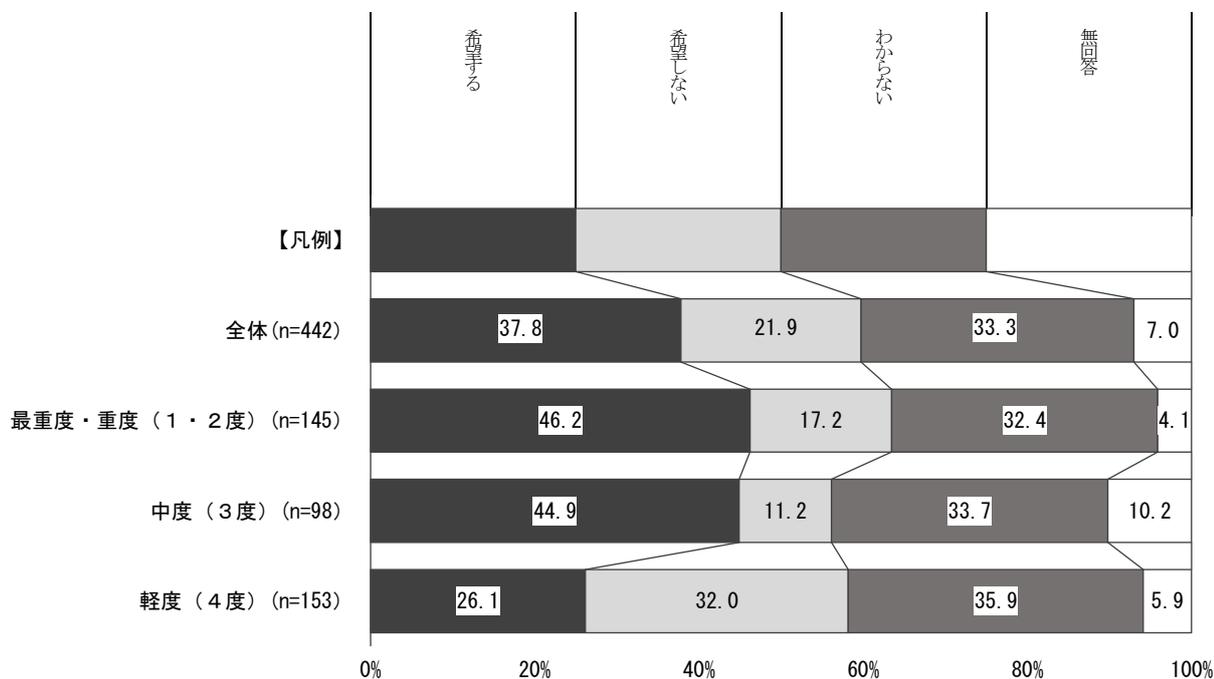
### 【身体障害者】

障害の程度別にみると、体験の機会・場を「希望しない」が重度（1・2級）では41.9%、中度（3・4級）では53.8%、軽度（5・6級）では57.1%と障害が軽くなるにつれて「希望しない」が多くなっている。



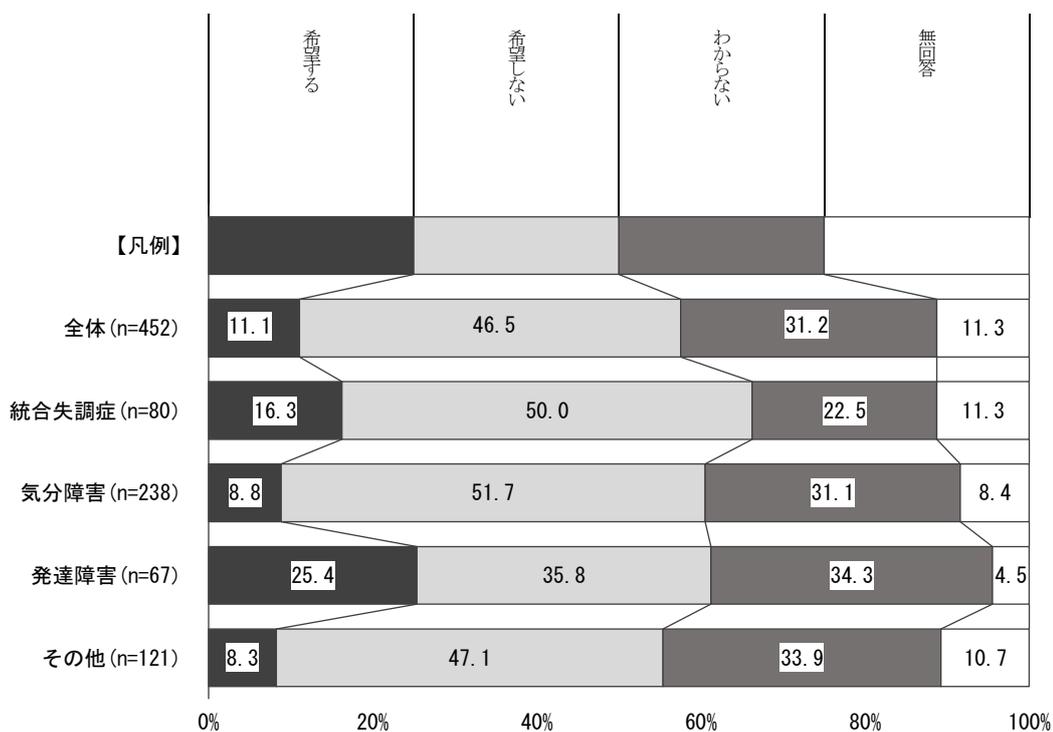
## 【知的障害者】

障害の程度別にみると、体験の機会・場を「希望する」が最重度・重度（1・2度）では46.2%、中度（3度）では44.9%、軽度（4度）では26.1%と障害が重くなるにつれて「希望する」が多くなっている。



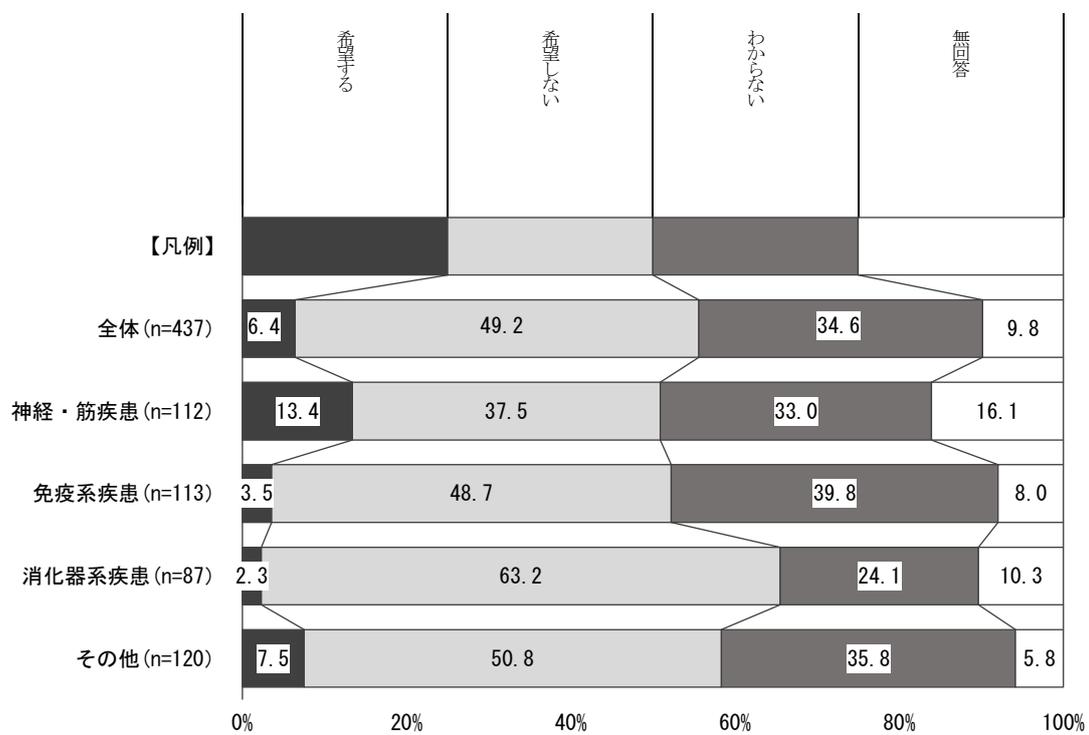
## 【精神障害者】

診断名別にみると、発達障害と診断されている人で体験の機会・場を「希望する」が25.4%と他の診断名と比べて多くなっている。



## 【難病患者】

疾患群別にみると、神経・筋疾患では体験の機会・場を「希望する」が13.4%と他の疾患群と比べて多くなっている。



## ②希望しない理由

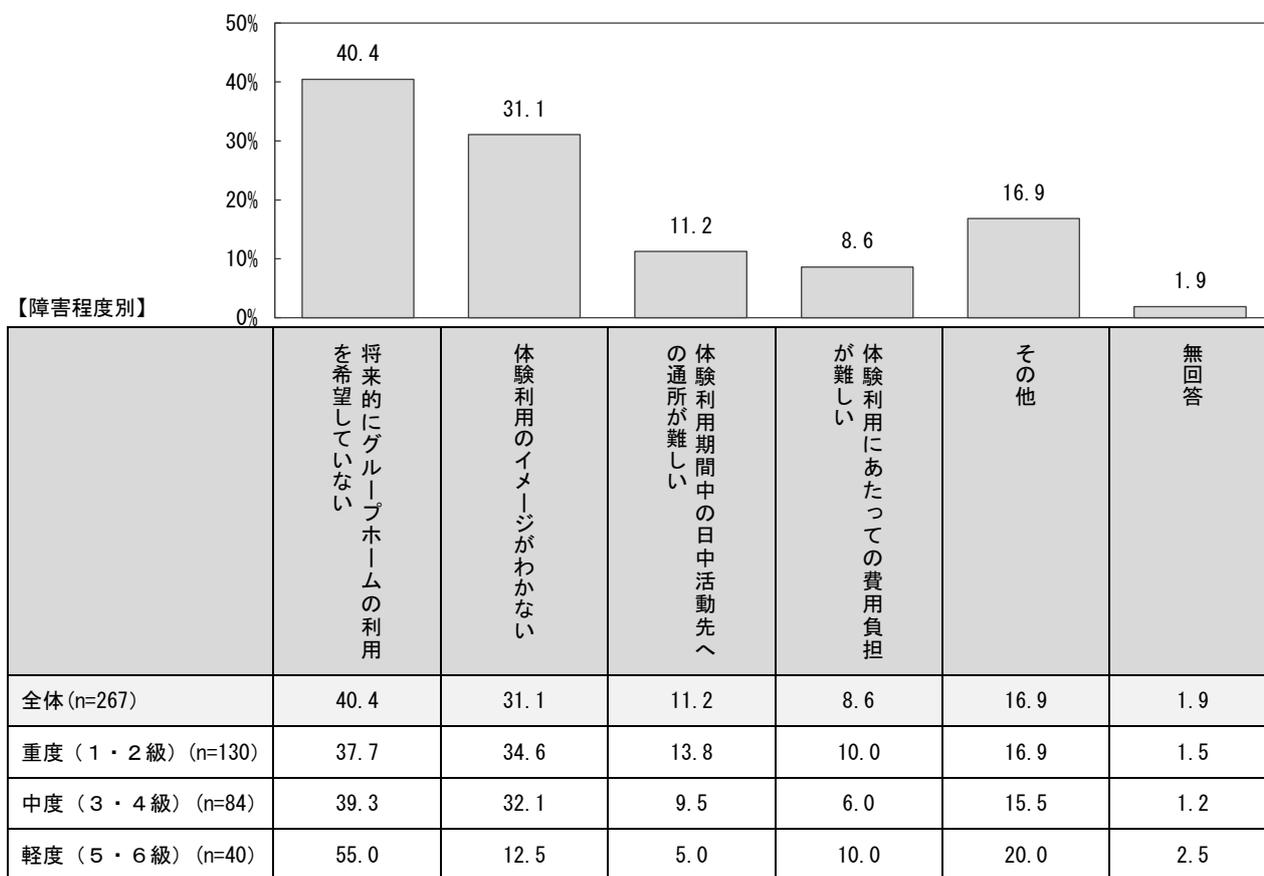
「体験の機会・場」を希望しない理由について、どの障害種別においても「将来的にグループホームの利用を希望していない」が最も多くなっている。身体障害者、精神障害者、難病患者では「体験のイメージがわからない」が次いで多くなっている。

(単位：%)

区 分	身体障害者 (n=267)	知的障害者 (n=97)	精神障害者 (n=210)	難病患者 (n=215)
将来的にグループホームの利用を希望していない	40.4(1位)	41.2(1位)	51.4(1位)	42.3(1位)
体験利用のイメージがわからない	31.1(2位)	19.6(3位)	20.5(2位)	30.7(2位)
体験利用にあたっての費用負担が難しい	8.6	5.2	8.1	6.5
体験利用期間中の日中活動先への通所が難しい	11.2	13.4	5.2	7.9
その他	16.9(3位)	29.9(2位)	16.7(3位)	14.4(3位)
無回答	1.9	-	3.8	1.9

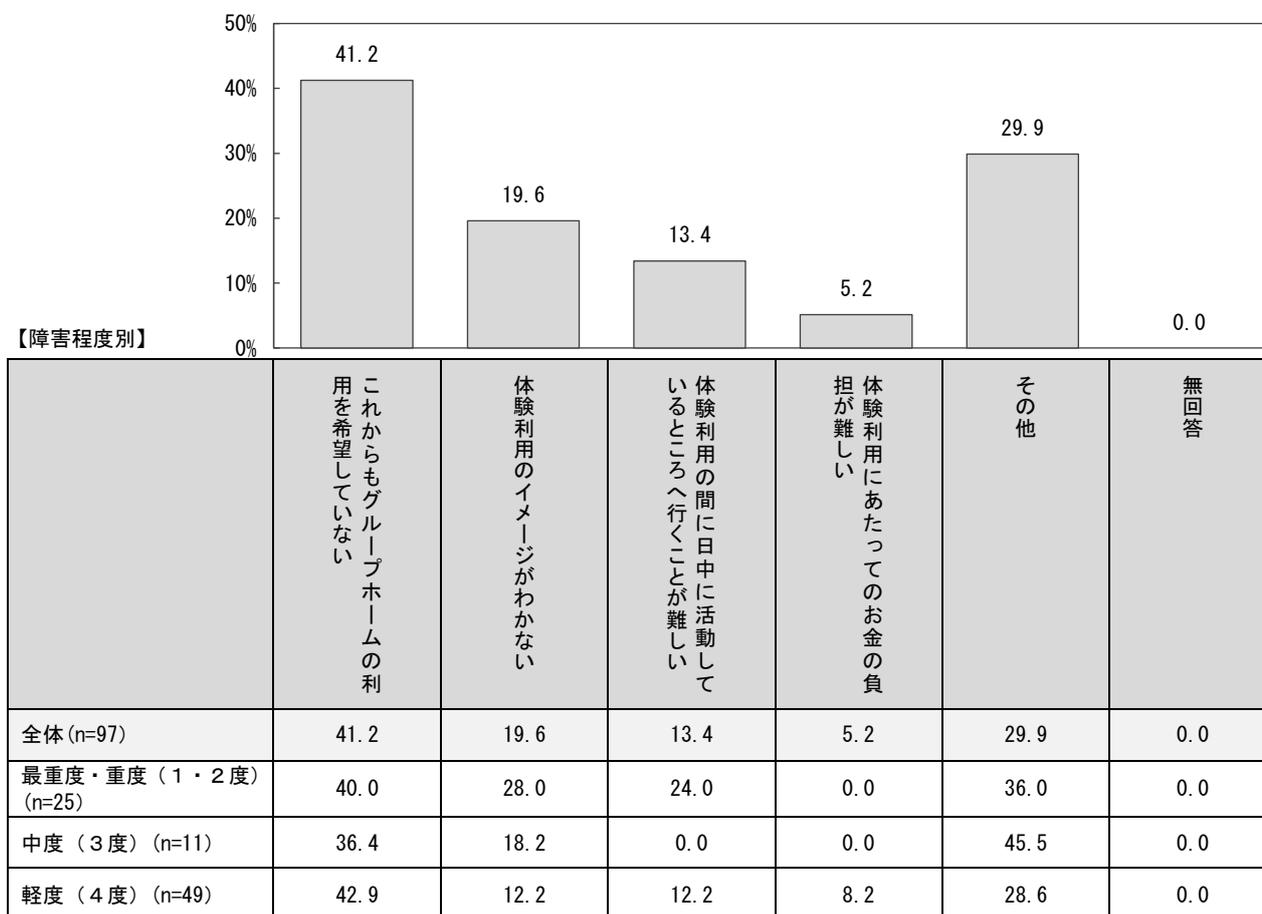
## 【身体障害者】

障害の程度別にみると、どの障害の程度においても「将来的にグループホームの利用を希望していない」が最も多く、重度（1・2級）では37.7%、中度（3・4級）では39.3%、軽度（5・6級）では55.0%となっている。



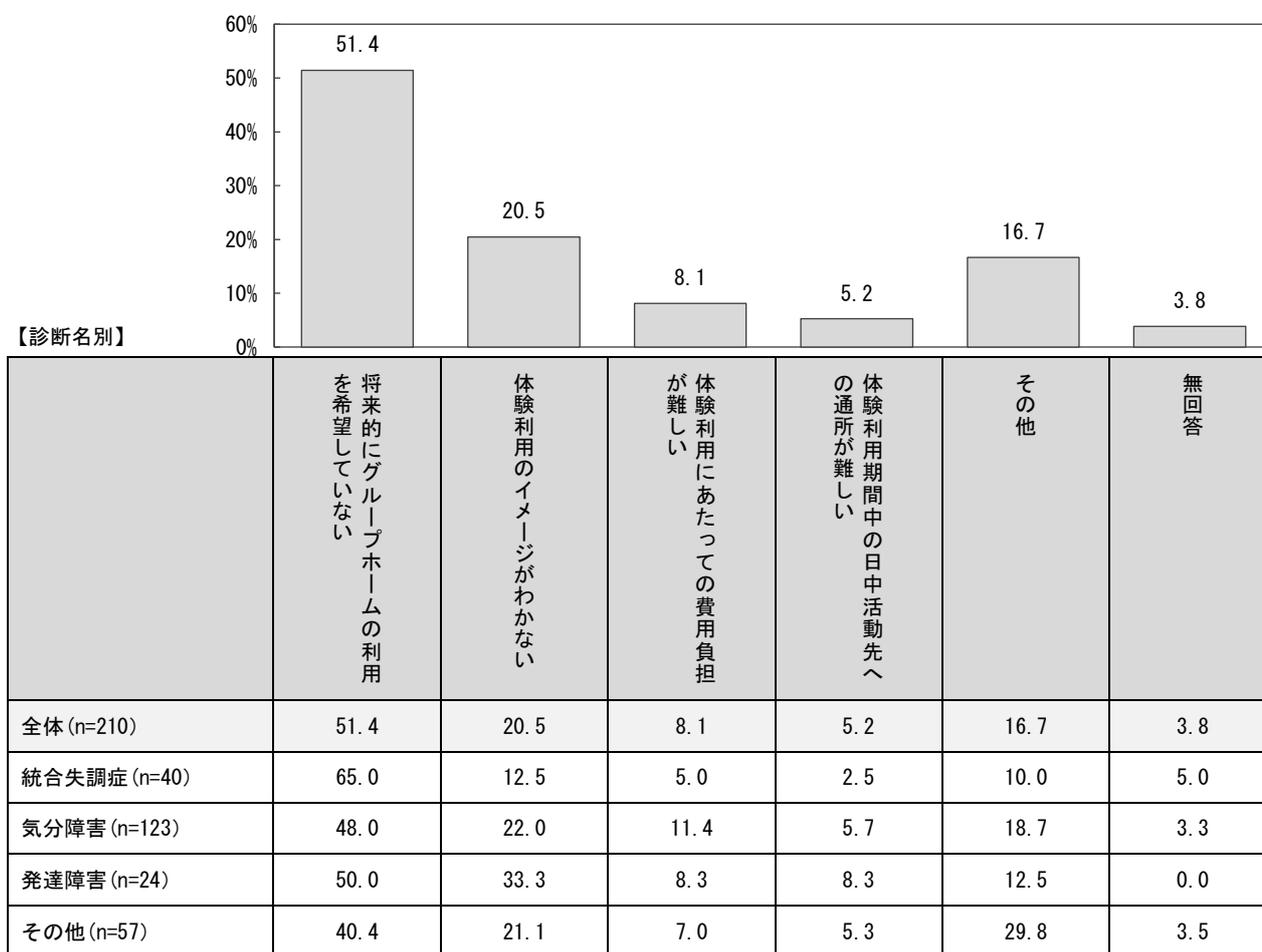
## 【知的障害者】

障害の程度別にみると、どの障害の程度においても「これからもグループホームの利用を希望していない」が最も多く、最重度・重度（1・2度）では40.0%、中度（3度）では36.4%、軽度では42.9%となっている。



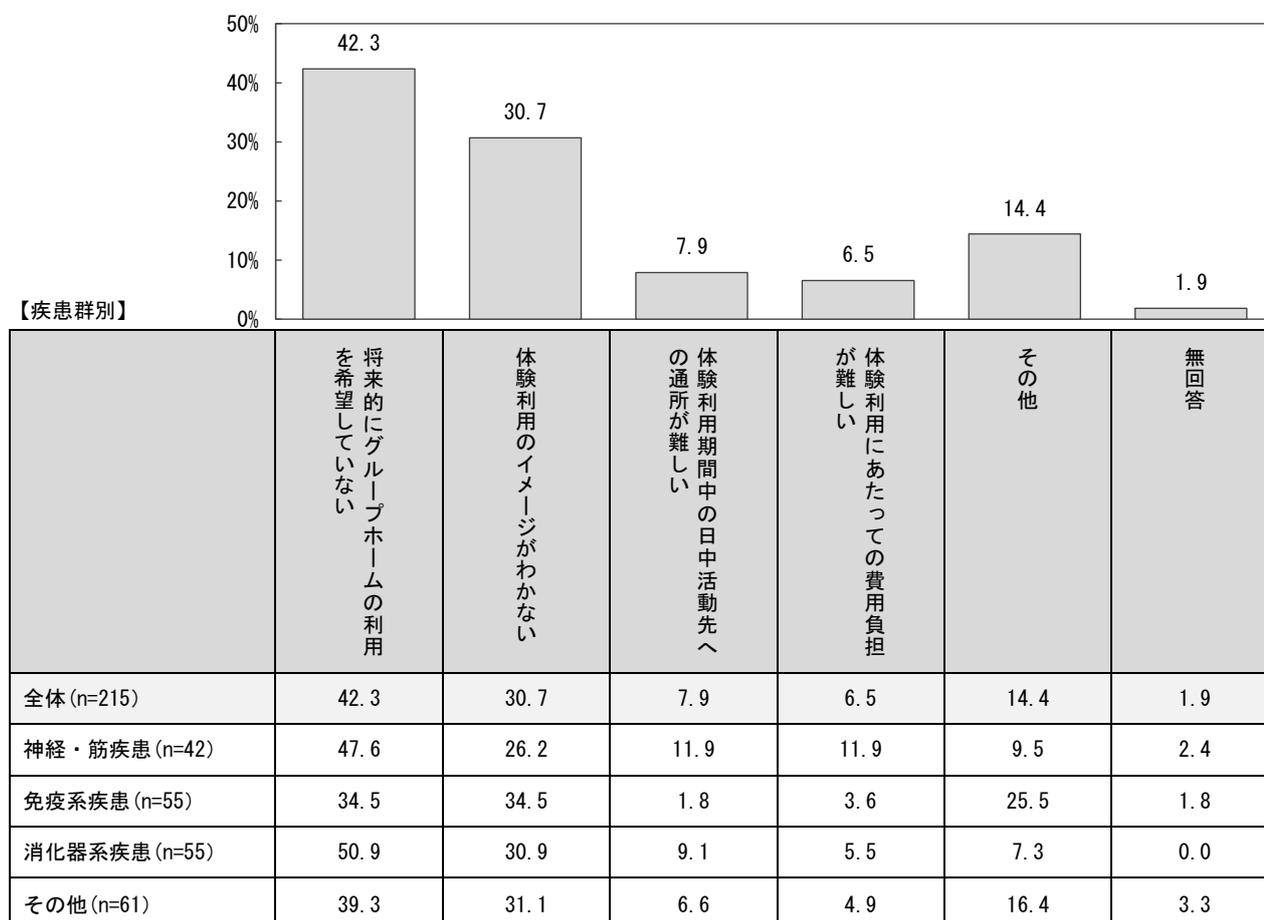
## 【精神障害者】

診断名別にみると、どの診断においても「将来的にグループホームの利用を希望していない」が最も多く、統合失調症と診断されている人では 65.0%、気分障害と診断されている人では 48.0%、発達障害と診断されている人では 50.0%となっている。



## 【難病患者】

疾患群別にみると、神経・筋疾患、消化器系疾患では「将来的にグループホームの利用を希望していない」がそれぞれ47.6%、50.9%と最も多くなっている。また、免疫系疾患では「将来的にグループホームの利用を希望していない」、「体験利用のイメージがわからない」がともに34.5%となっている。



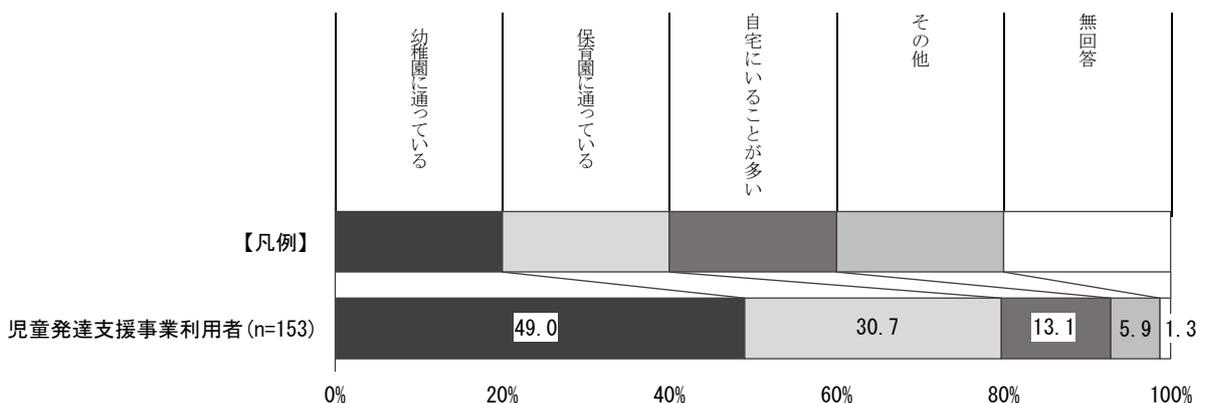
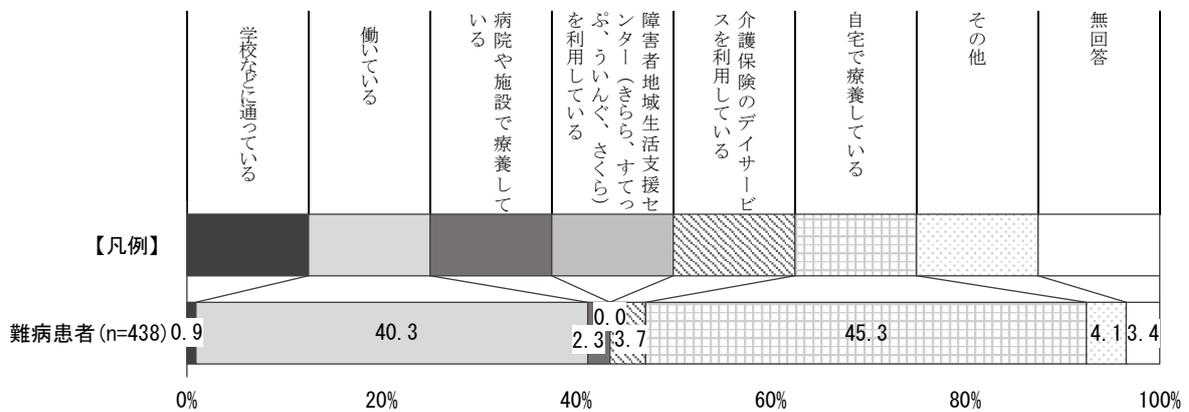
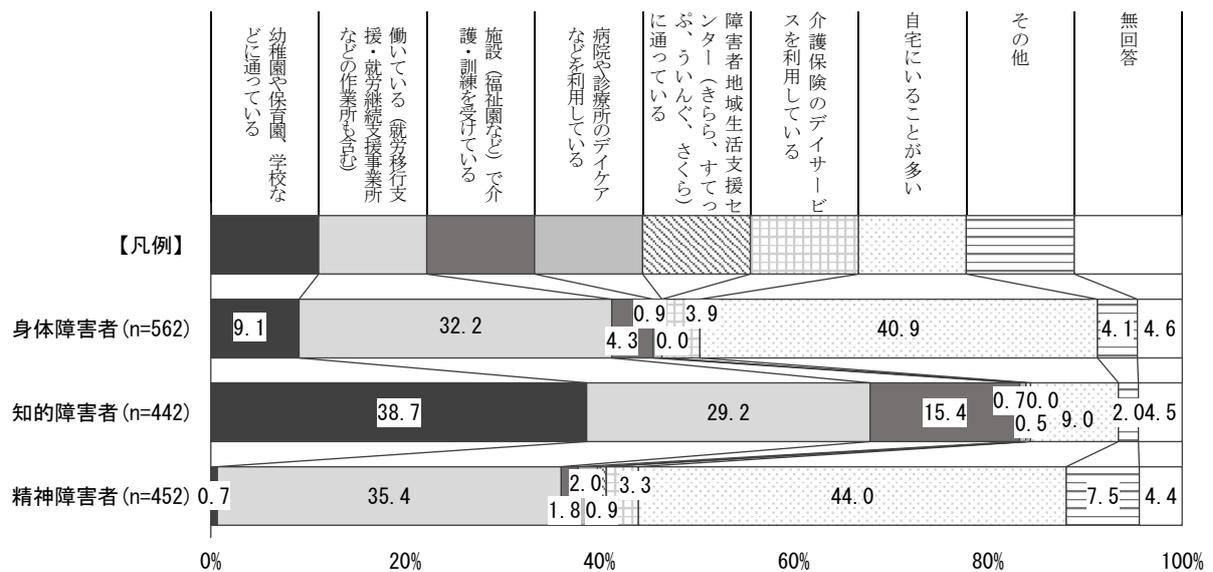
### 3 日中の過ごし方について

日中の主な過ごし方は、身体障害者、精神障害者では「自宅にすることが多い」がそれぞれ40.9%、44.0%と最も多く、次いで「働いている」がそれぞれ32.2%、35.4%となっている。

知的障害者では「幼稚園や保育園、学校などに通っている」が38.7%と最も多く、次いで「会社など（就労移行支援・就労継続支援事業所などの作業所も含む）」が29.2%、「施設（福祉園など）」が15.4%となっている。

難病患者では「自宅で療養している」が45.3%と最も多く、次いで「働いている」が40.3%となっている。

児童発達支援事業利用者では「幼稚園に通っている」が49.0%と最も多く、次いで「保育園に通っている」が30.7%、「自宅にすることが多い」が13.1%となっている。



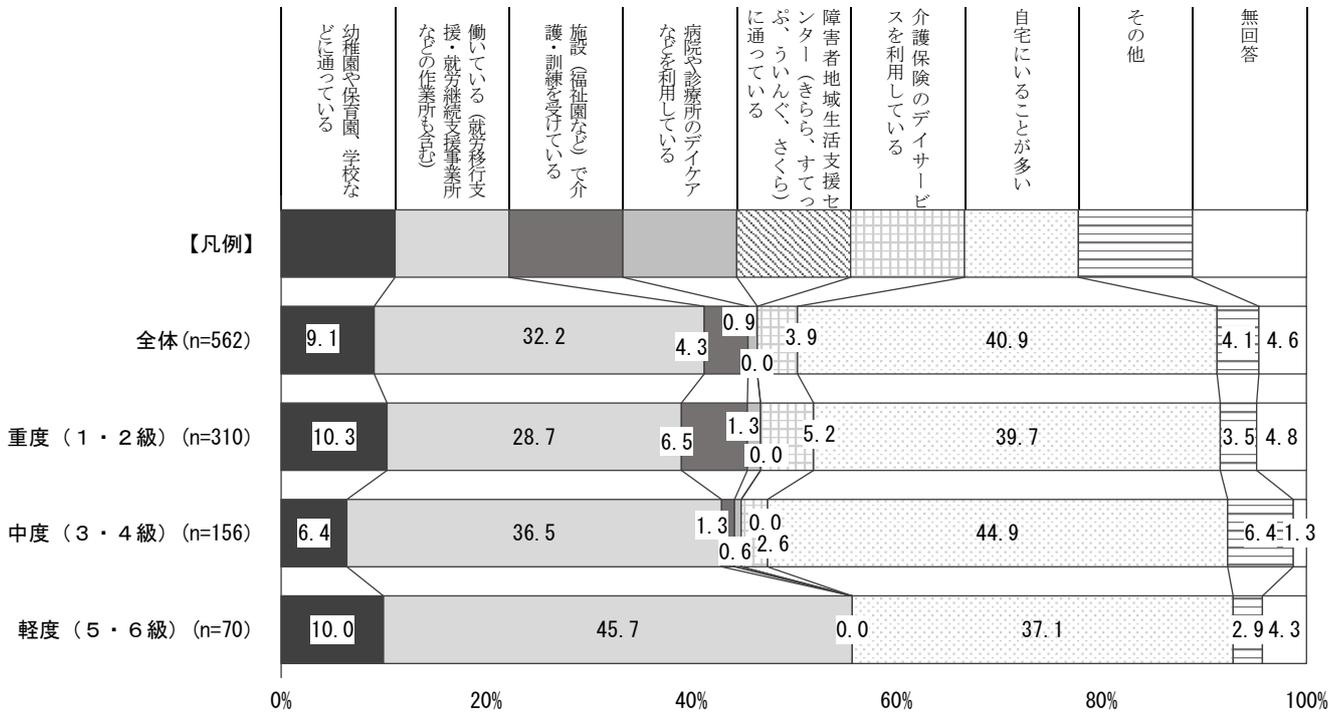
【前回調査との比較】

(単位：%)

区分		1位	2位	3位
身体障害者	今回 (n=562)	自宅にすることが多い (40.9)	働いている (32.2)	幼稚園や保育園、学校などに通っている (9.1)
	前回 (n=659)	自宅にすることが多い (42.6)	働いている (31.0)	幼稚園や保育園、学校などに通っている (9.0)
知的障害者	今回 (n=442)	幼稚園や保育園、学校などに通っている (38.7)	働いている (29.2)	施設(福祉園など)で介護・訓練を受けている (15.4)
	前回 (n=474)	働いている (39.2)	幼稚園や保育園、学校などに通っている (34.6)	施設(福祉園など)で介護・訓練を受けている (18.4)
精神障害者	今回 (n=452)	自宅にすることが多い (44.0)	働いている (35.4)	その他 (7.5)
	前回 (n=451)	働いている (44.6)	自宅にすることが多い (39.0)	病院や診療所のデイケアなどを利用している (5.5)
難病患者	今回 (n=437)	自宅で療養している (45.3)	働いている (40.3)	その他 (4.1)
	前回 (n=475)	自宅にしている (37.9)	働いている (34.9)	自宅で療養している (14.1)
児童発達支援事業利用者	今回 (n=153)	幼稚園に通っている (49.0)	保育園に通っている (30.7)	自宅にすることが多い (13.1)
	前回 (n=127)	幼稚園に通っている (40.2)	自宅にすることが多い (26.0)	保育園に通っている (22.8)

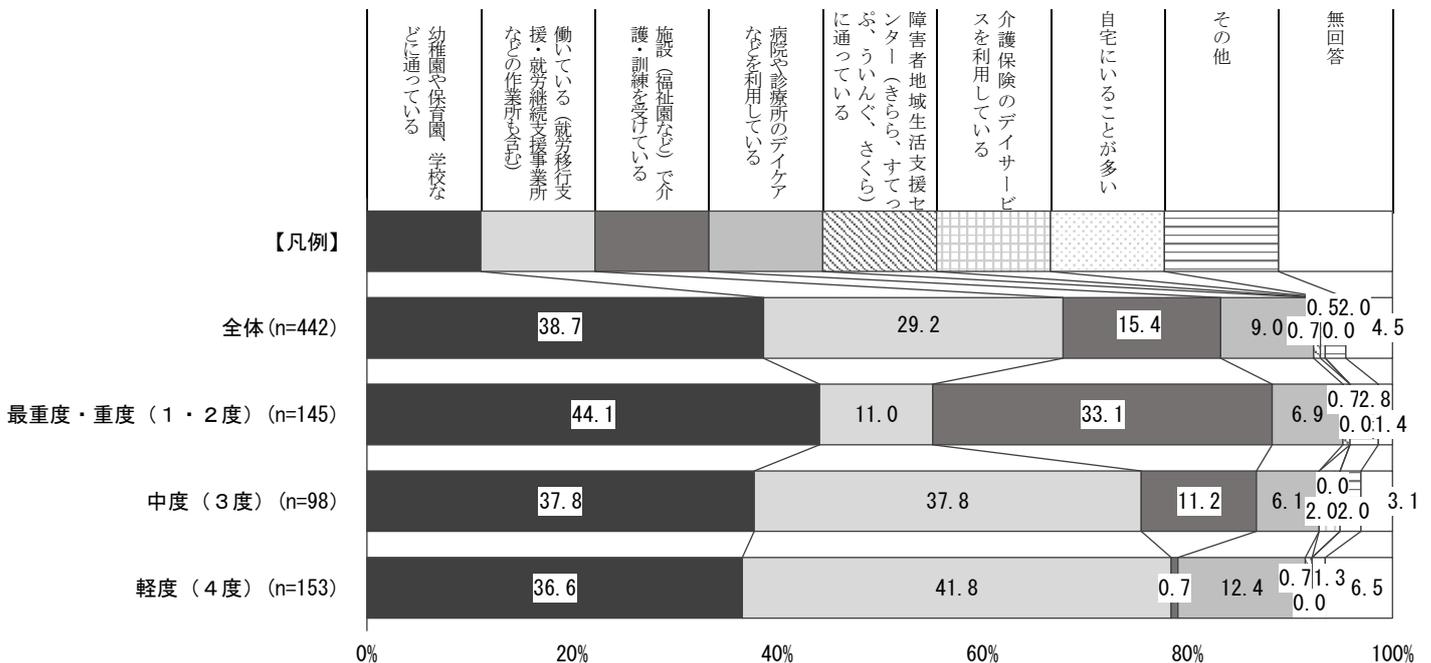
## 【身体障害者】

障害の程度別にみると、重度（1・2級）、中度（3・4級）では「自宅にすることが多い」がそれぞれ39.7%、44.9%と最も多くなっている。また、軽度（5・6級）では「働いている（就労移行支援・就労継続支援事業所などの作業所も含む）」が45.7%と最も多くなっている。



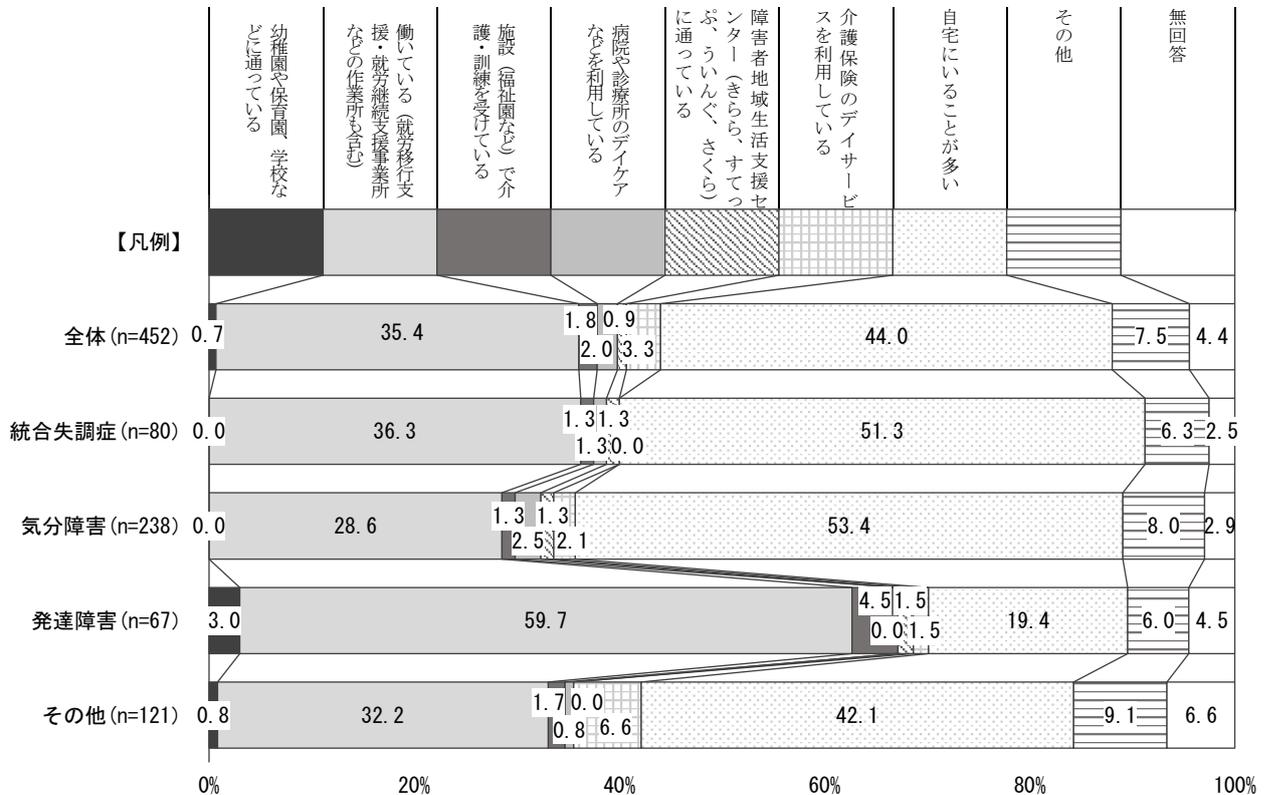
## 【知的障害者】

障害の程度別にみると、最重度・重度（1・2度）では「幼稚園や保育園、学校などに通っている」が44.1%、中度（3度）では「幼稚園や保育園、学校などに通っている」、「働いている（就労移行支援・就労継続支援事業所などの作業所も含む）」がともに37.8%、軽度（4度）では「働いている（就労移行支援・就労継続支援事業所などの作業所も含む）」が41.8%と最も多くなっている。



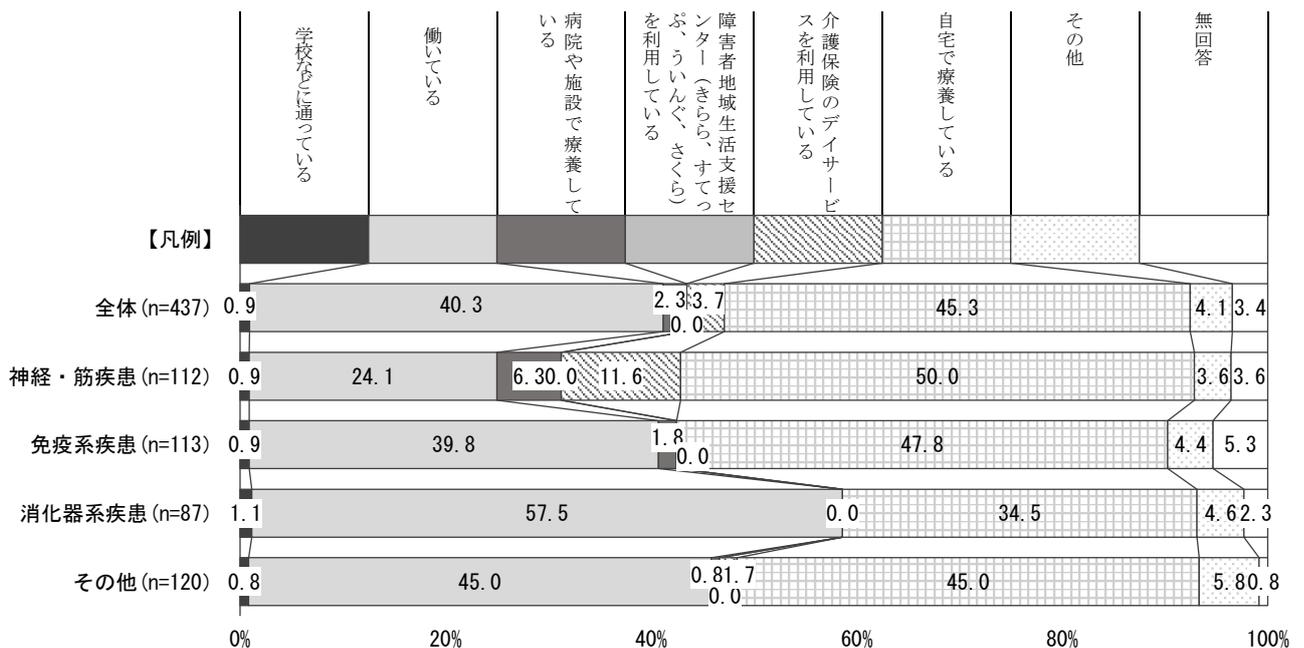
## 【精神障害者】

診断名別にみると、統合失調症、気分障害と診断されている人では「自宅にすることが多い」がそれぞれ51.3%、53.4%と最も多く、発達障害と診断されている人では「働いている（就労移行支援・就労継続支援事業所などの作業所も含む）」が59.7%と最も多くなっている。



## 【難病患者者】

疾患群別にみると、消化器系疾患では「働いている」が57.5%と最も多くなっている。また、神経・筋疾患、免疫系疾患では「自宅に療養している」がそれぞれ50.0%、47.8%と最も多くなっている。



## 4 教育について

### (1) 通園・通学先

現在の通園・通学先は、身体障害者、知的障害者では「特別支援学校」がそれぞれ 47.1%、63.2%と最も多く、次いで身体障害者では「通常の学級」が 25.5%、知的障害者では「特別支援学級」が 24.6%となっている。

(単位：%)

区分	身体障害者 (n=51)	知的障害者 (n=171)	精神障害者 (n=3)	難病患者 (n=4)	児童発達 支援事業 利用者 (n=122)
幼稚園	-	0.6	-		49.0 (1位)
保育園	2.0	2.3	-		30.7 (2位)
児童発達支援事業所等	2.0	-	-		
特別支援学校	47.1 (1位)	63.2 (1位)	-	-	
特別支援学級	19.6 (3位)	24.6 (2位)	-	-	
通常の学級	25.5 (2位)	1.8	-	-	
高等学校	2.0	2.9 (3位)	66.7 (1位)	25.0 (2位)	
職業訓練校	-	1.8	-	-	
専門学校・大学	2.0	-	33.3 (2位)	75.0 (1位)	
自宅					13.1 (3位)
その他	-	1.2	-	-	5.9
無回答	-	1.8	-	-	1.3

※ベース：幼稚園や保育園、学校などに通っていると回答した人

## (2) 通園・通学にあたって充実してほしいこと（複数回答）

通園・通学にあたって充実してほしいことは、身体障害者、知的障害者では「夏休みなど長期休みの際の取組を充実してほしい」が37.3%、50.3%と最も多くなっている。児童発達支援事業利用者では「特に困っていることはない」が37.7%と最も多くなっている。

(単位：%)

区 分	身体障害者 (n=51)	知的障害者 (n=171)	精神障害者 (n=3)	難病患者 (n=4)	児童発達 支援事業 利用者 (n=122)
通いやすくしてほしい（通学手段の改善など）	25.5	34.5（3位）	-	-	9.8
施設・設備などを充実してほしい	33.3（2位）	11.1	-	-	8.2
介助体制を充実してほしい	23.5	9.4	-	-	19.7（3位）
先生・生徒の理解などが深まってほしい	27.5	21.6	33.3（2位）	25.0（2位）	35.2（2位）
放課後の居場所づくりを充実してほしい	29.4（3位）	35.1（2位）	-	-	
夏休みなど長期休みの際の取組を充実してほしい	37.3（1位）	50.3（1位）	-	-	19.7
その他	9.8	12.3	-	-	9.0
特に困っていることはない	15.7	18.1	66.7（1位）	75.0（1位）	37.7（1位）
無回答	-	3.5	-	-	0.8

※ベース：幼稚園や保育園、学校などに通っていると回答した人

【前回調査との比較】

(単位：%)

区分		1位	2位	3位
身体障害者	今回 (n=51)	夏休みなど長期休み の際の取組を充実し てほしい (37.3)	施設・設備などを 充実してほしい (33.3)	放課後の居場所づく りを充実してほしい (29.4)
	前回 (n=59)	施設・設備などを 充実してほしい (37.3)	通いやすくしてほしい (30.5)	先生・生徒の理解な どが深まってほしい (28.8)
知的障害者	今回 (n=171)	夏休みなど長期休み の際の取組を充実し てほしい (50.3)	放課後の居場所づく りを充実してほしい (35.1)	通いやすくしてほしい (34.5)
	前回 (n=164)	夏休みなど長期休み の際の取組を充実し てほしい (43.3)	通いやすくしてほしい (32.3)	放課後の居場所づく りを充実してほしい (30.5)
精神障害者	今回 (n=3)	特に困っていること はない (66.7)	先生・生徒の理解など が深まってほしい (33.3)	
	前回 (n=8)	先生・生徒の理解な どが深まってほしい /夏休みなど長期休 みの際の取組を充実 してほしい/特に困 っていることはない (同率 25.0)		
児童発達 支援事業 利用者	今回 (n=122)	特に困っていること はない (37.7)	先生・生徒の理解など が深まってほしい (35.2)	介助体制を充実して ほしい/夏休みなど 長期休みの際の取組 を充実してほしい (同率 19.7)
	前回 (n=80)	特に困っていること はない (41.3)	先生・生徒の理解など が深まってほしい (28.8)	夏休みなど長期休み の際の取組を充実し てほしい (20.0)

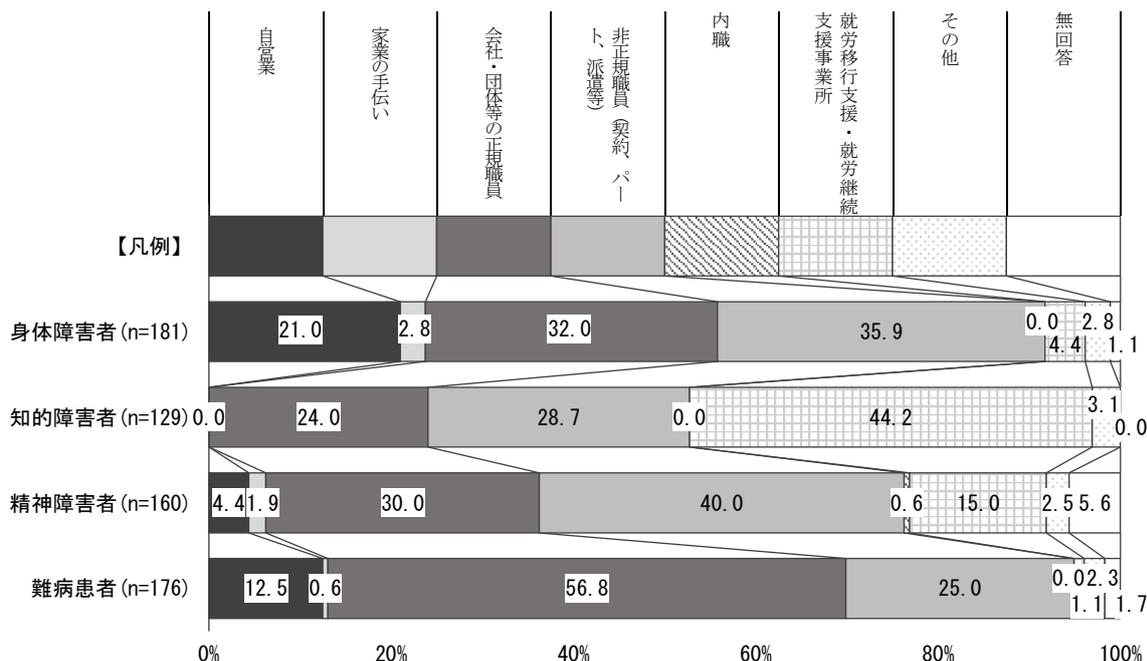
## 5 雇用・就労について

### (1) 就労形態

現在働いている人の就労形態は、身体障害者、精神障害者では「非正規職員（契約、パート、派遣等）」がそれぞれ 35.9%、40.0%と最も多く、次いで「会社・団体等の正規職員」がそれぞれ 32.0%、30.0%となっている。

知的障害者では「就労移行支援・就労継続支援事業所」が 44.2%と最も多く、次いで「非正規職員」が 28.7%、「会社・団体などの正規職員」が 24.0%となっている。

難病患者では「会社・団体等の正規職員」が 56.8%と最も多く、次いで「非正規職員（契約、パート、派遣等）」が 25.0%、「自営業」が 12.5%となっている。



※ベース：働いていると回答した人

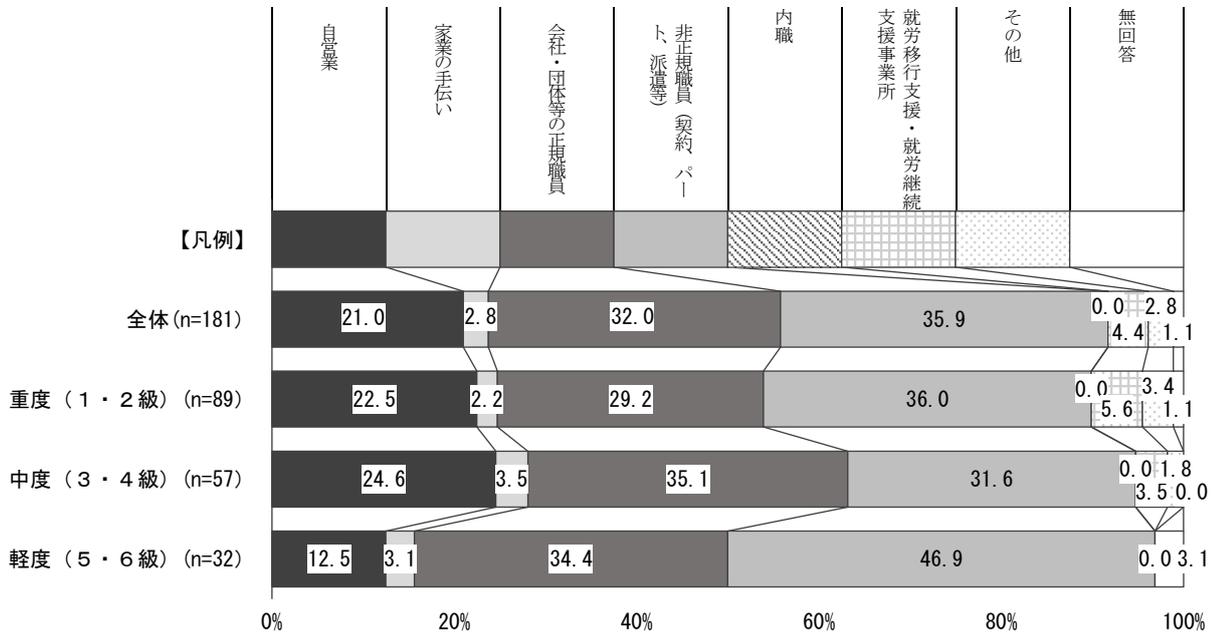
### 【前回調査との比較】

(単位：%)

区分		1位	2位	3位
身体障害者	今回 (n=181)	非正規職員 (35.9)	会社・団体等の正規職員 (32.0)	自営業 (21.0)
	前回 (n=204)	会社・団体等の正規職員 (35.3)	非正規職員 (26.0)	自営業 (15.7)
知的障害者	今回 (n=129)	就労移行支援・就労継続支援事業所 (44.2)	非正規職員 (28.7)	会社・団体等の正規職員 (24.0)
	前回 (n=186)	就労移行支援・就労継続支援事業所 (54.8)	非正規職員 (24.2)	家業の手伝い (11.3)
精神障害者	今回 (n=160)	非正規職員 (40.0)	会社・団体等の正規職員 (30.0)	就労移行支援・就労継続支援事業所 (15.0)
	前回 (n=201)	非正規職員 (43.8)	会社・団体等の正規職員 (25.9)	就労移行支援・就労継続支援事業所 (13.4)
難病患者	今回 (n=176)	会社・団体等の正規職員 (56.8)	非正規職員 (25.0)	自営業 (12.5)
	前回 (n=166)	会社・団体等の正規職員 (48.8)	非正規職員 (30.1)	自営業 (15.1)

## 【身体障害者】

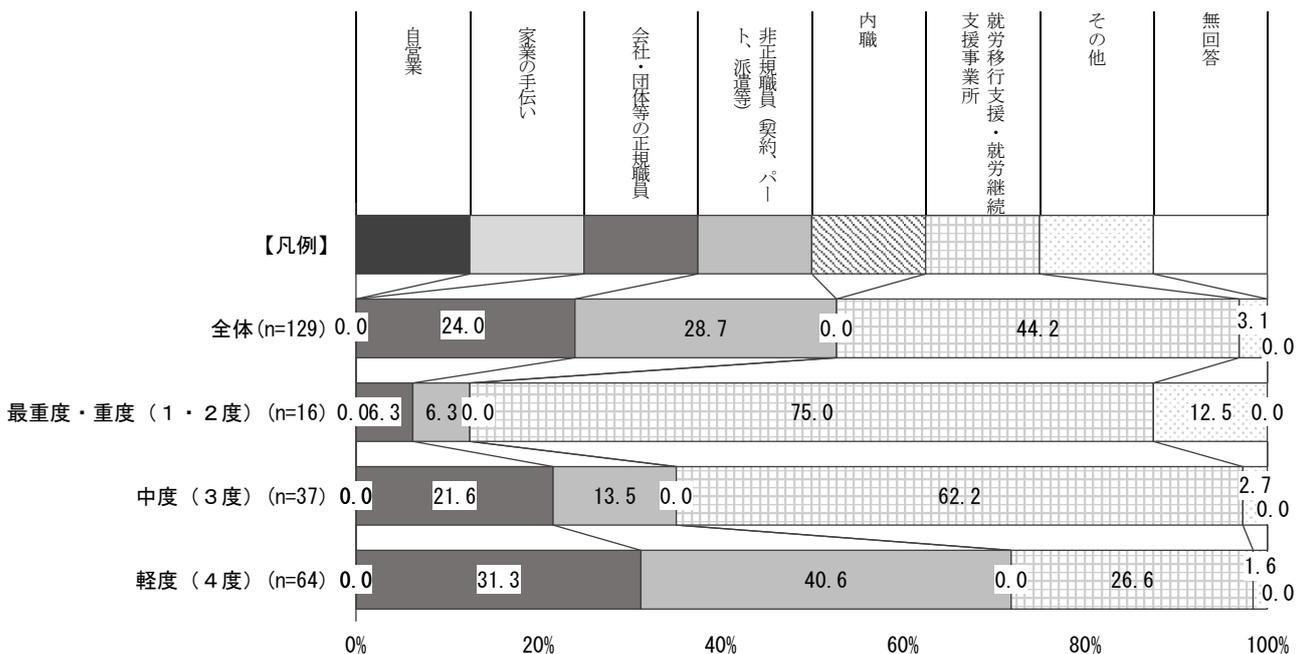
障害の程度別にみると、中度（3・4級）では「会社・団体等の正規職員」が35.1%と最も多くなっている。一方で、軽度（5・6級）では「非正規職員（契約、パート、派遣等）」が46.9%と最も多くなっている。



※ベース：働いていると回答した人

## 【知的障害者】

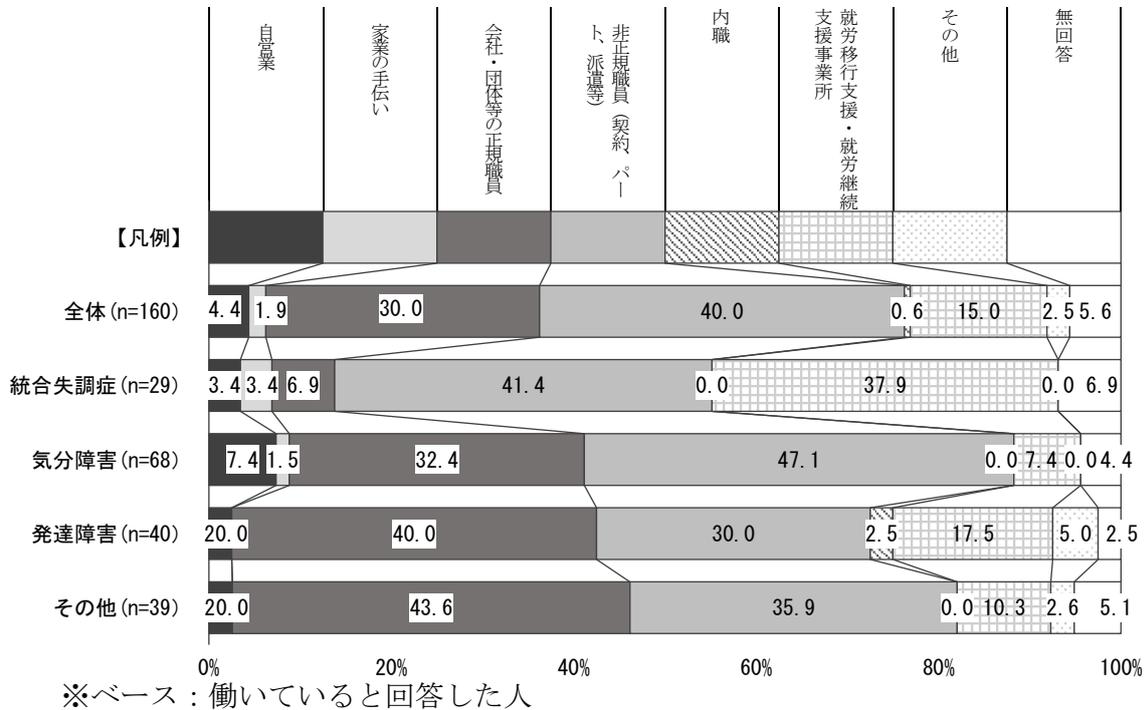
障害の程度別にみると、最重度・重度（1・2度）と中度（3度）では「就労移行支援・就労継続支援事業所」がそれぞれ75.0%、62.2%と最も多くなっている。軽度（4度）では「非正規職員（契約、パート、派遣など）」が40.6%と最も多く、次いで「会社・団体等の正規職員」が31.3%となっている。



※ベース：働いていると回答した人

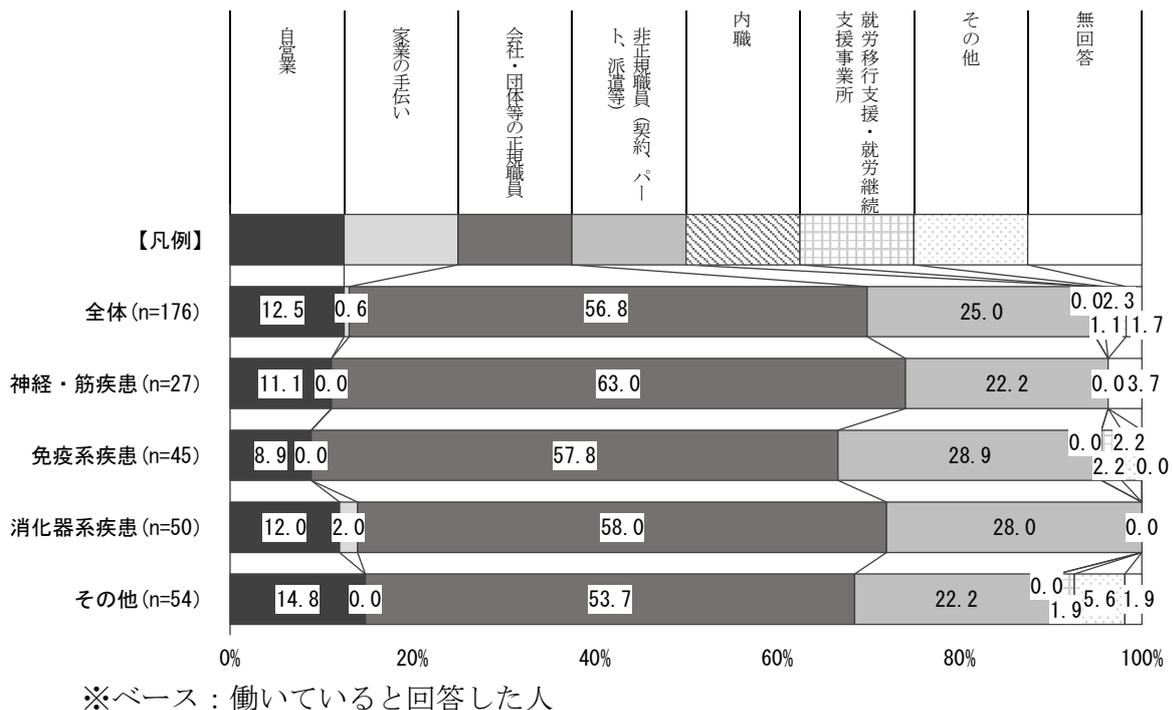
## 【精神障害者】

診断名別にみると、統合失調症、気分障害と診断されている人では「非正規職員（契約、パート、派遣等）」がそれぞれ41.4%、47.1%と最も多くなっている。また、発達障害と診断されている人では「会社・団体等の正規職員」が40.0%と最も多くなっている。



## 【難病患者】

疾患群別にみると、「会社・団体等の正規職員」と回答した人は、神経・筋疾患では63.0%、免疫系疾患では57.8%、消化器系疾患では58.0%とそれぞれの疾患群で最も多くなっている。



## (2) 就労内容

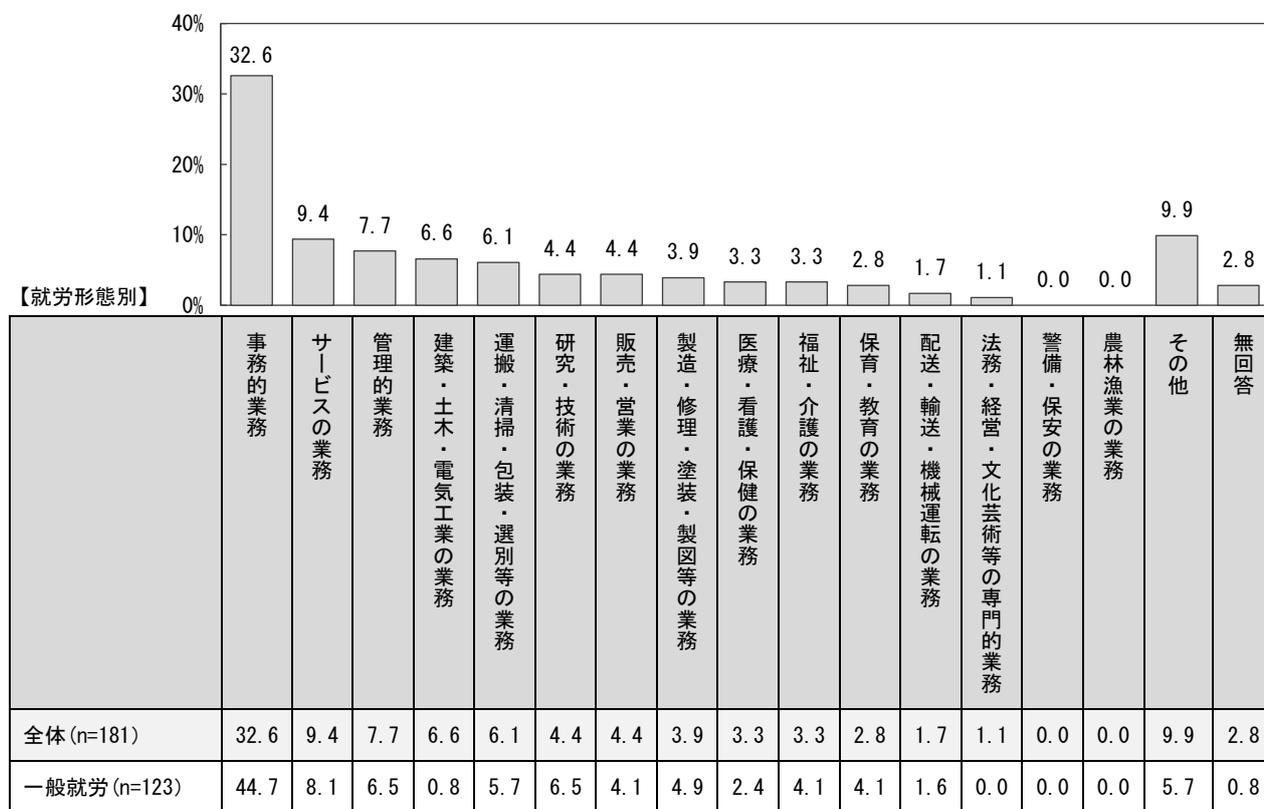
就労内容について、身体障害者、精神障害者、難病患者では「事務的業務」がそれぞれ 32.6%、33.1%、31.3%と最も多くなっている。また、知的障害者では「運搬・清掃・包装・選別等の業務」が 25.6%と最も多くなっている。

(単位：%)

区 分	身体障害者 (n=181)	知的障害者 (n=129)	精神障害者 (n=160)	難病患者 (n=176)
管理的業務	7.7 (3位)	0.8	4.4	6.3
研究・技術の業務	4.4	0.8	1.3	8.5
法務・経営・文化芸術等の 専門的業務	1.1	-	1.3	5.1
医療・看護・保健の業務	3.3	1.6	3.8	2.3
保育・教育の業務	2.8	0.8	1.3	5.1
事務的業務	32.6 (1位)	14.7 (3位)	33.1 (1位)	31.3 (1位)
販売・営業の業務	4.4	6.2	6.9	10.2 (2位)
福祉・介護の業務	3.3	1.6	5.0	3.4
サービスの業務	9.4	10.1	5.6	10.2 (2位)
警備・保安の業務	-	-	0.6	-
農林漁業の業務	-	2.3	0.6	-
製造・修理・塗装・製図等 の業務	3.9	6.2	4.4	2.3
配送・輸送・機械運転の業 務	1.7	1.6	1.9	1.7
建築・土木・電気工業の業 務	6.6	-	3.8	4.5
運搬・清掃・包装・選別等 の業務	6.1	25.6 (1位)	10.6 (3位)	2.3
その他	9.9 (2位)	20.9 (2位)	11.3 (2位)	6.3
無回答	2.8	7.0	4.4	0.6

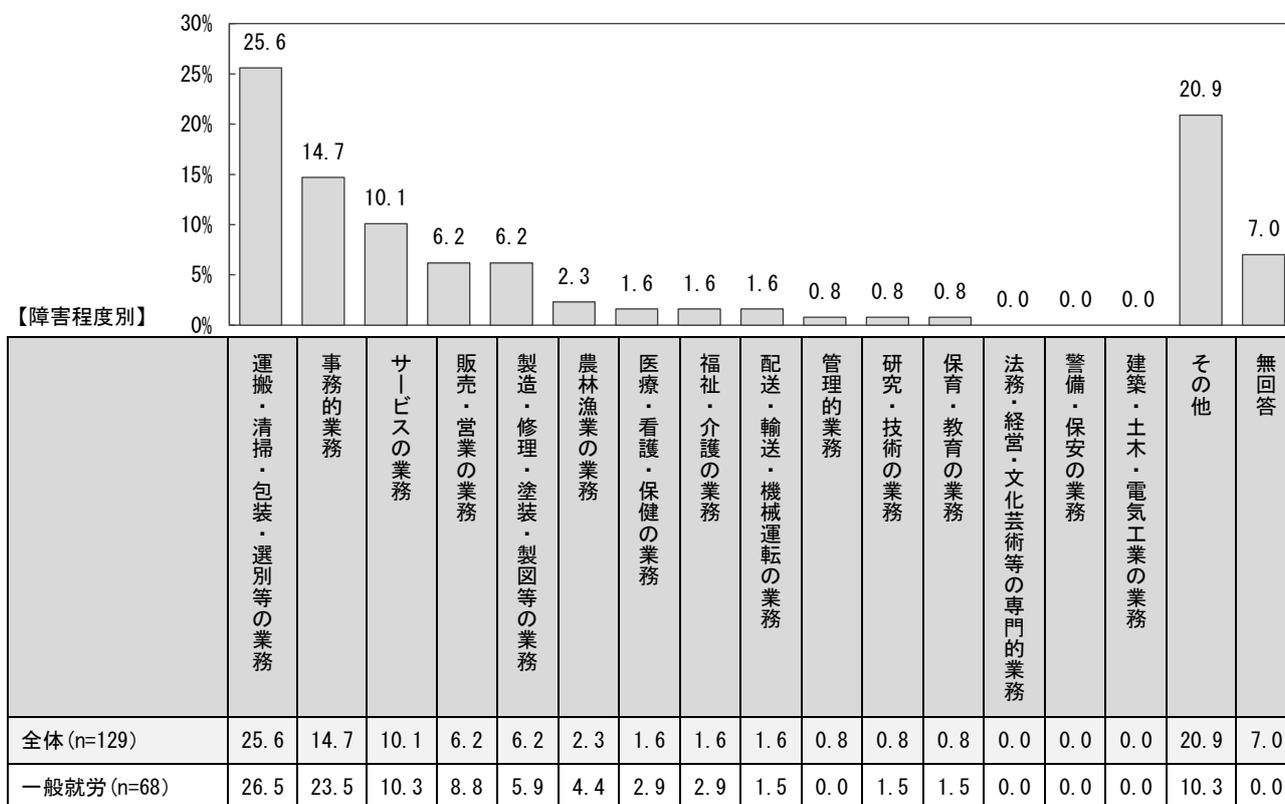
## 【身体障害者】

就労内容を身体障害者の就労者全体と一般就労別（「会社・団体等の正規職員」、「非正規職員」の合計）にみると、就労形態にかかわらず「事務的業務」がそれぞれ32.6%、44.7%と最も多くなっている。



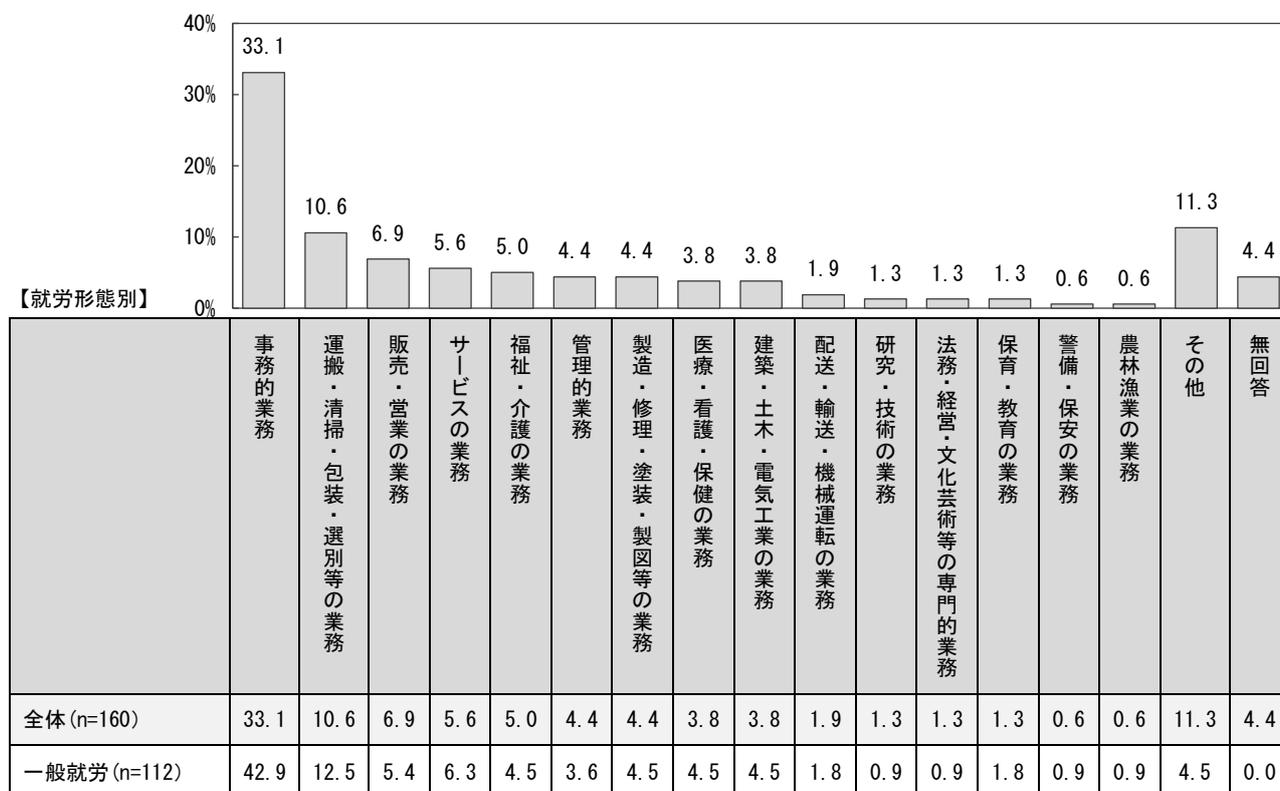
## 【知的障害者】

就労内容を知的障害者の就労者全体と一般就労別にみると、就労形態にかかわらず「運搬・清掃・包装・選別等の業務」がそれぞれ25.6%、26.5%と最も多くなっている。また、一般就労では「事務的業務」が23.5%と就労者全体と比べて多くなっている。



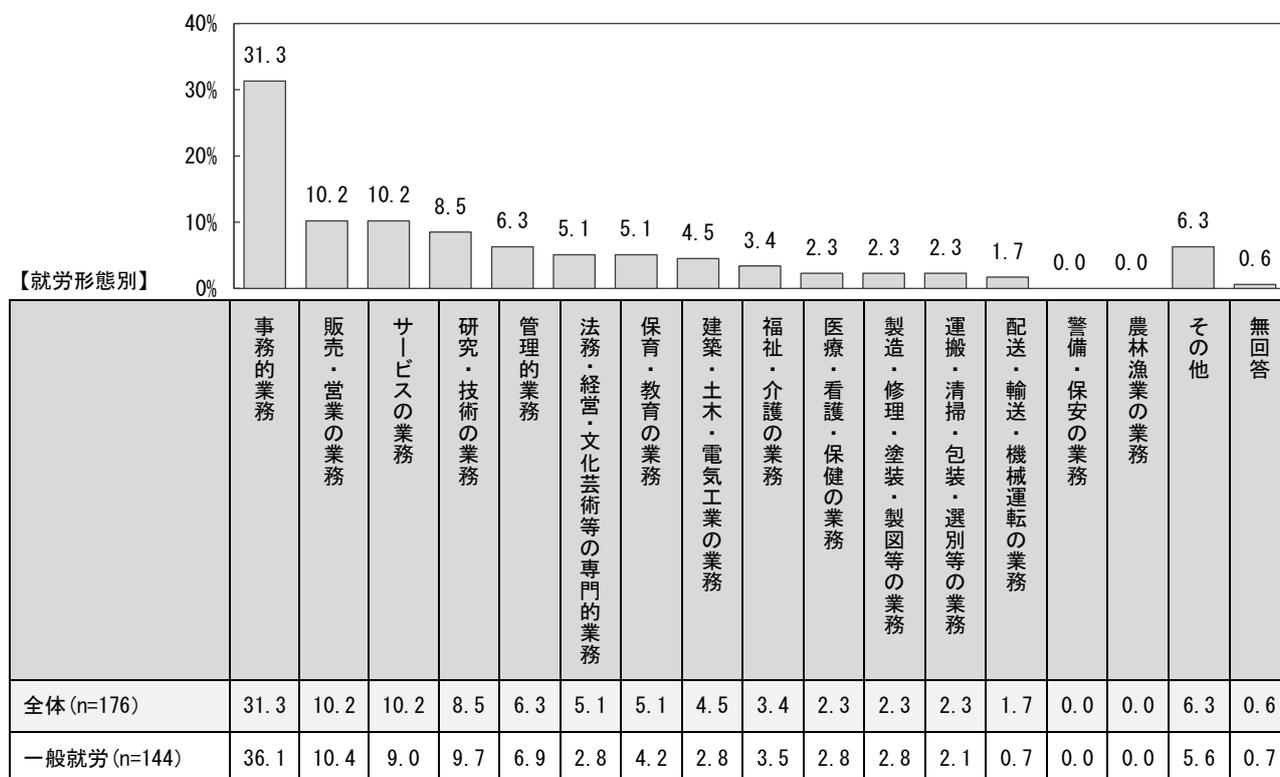
## 【精神障害者】

就労内容を精神障害者の就労者全体と一般就労別にみると、就労形態にかかわらず「事務的業務」がそれぞれ 33.1%、42.9%と最も多くなっている。



## 【難病患者】

就労内容を難病患者の就労者全体と一般就労別にみると、就労形態にかかわらず「事務的業務」がそれぞれ 31.3%、36.1%と最も多くなっている。



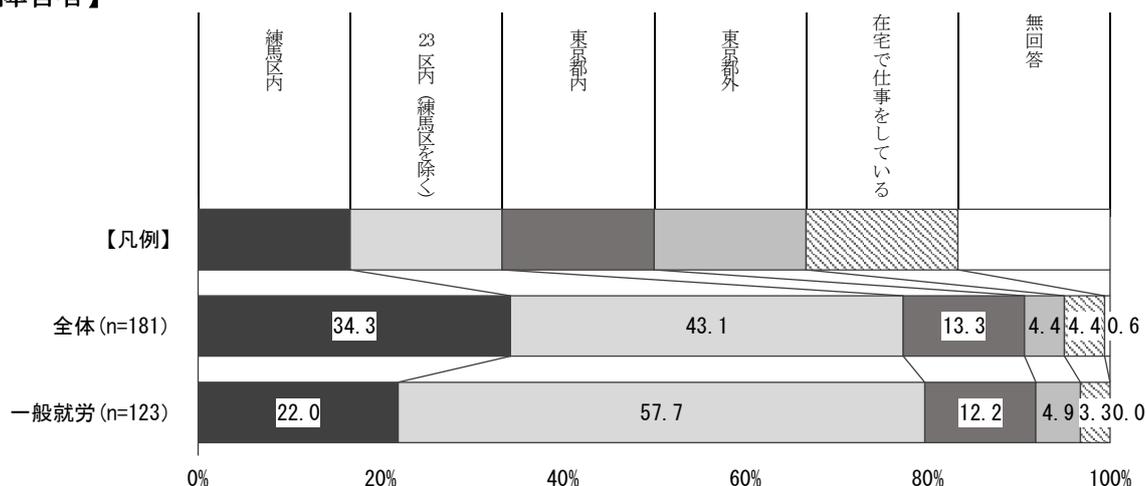
### (3) 職場の所在地（就労者全体と一般就労別）

職場の所在地は、身体障害者、精神障害者、難病患者では「23区内（練馬区を除く）」がそれぞれ43.1%、47.5%、55.7%と最も多く、「練馬区内」と回答した人も含めると、「練馬区を含む23区内」がそれぞれ7割を超えている。

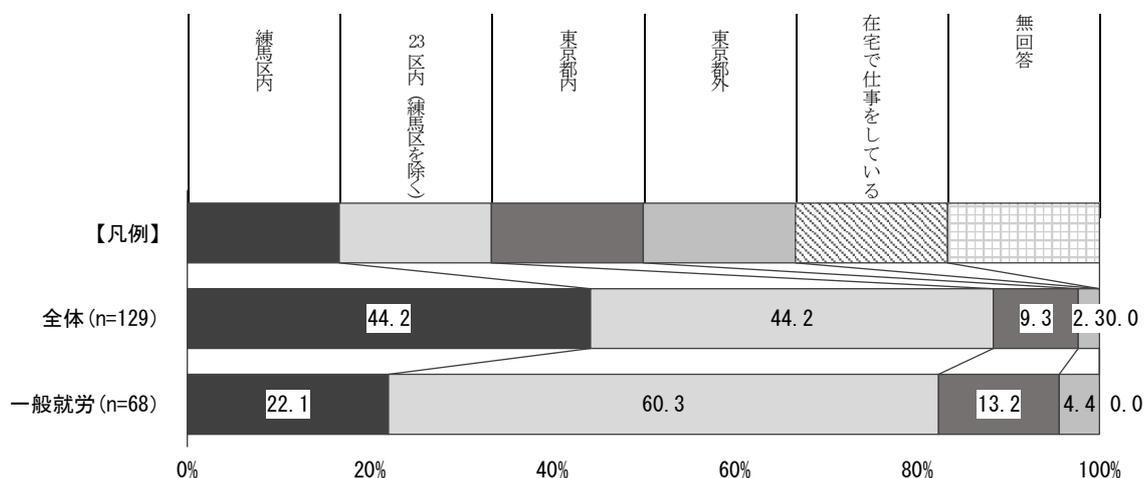
知的障害者では、「練馬区内」、「23区内（練馬区を除く）」がともに44.2%と最も多く、「練馬区を含む23区内」が約8割となっている。

一般就労（「会社・団体等の正規職員」、「非正規職員」の合計）では、身体障害者、知的障害者、精神障害者ともに「23区内（練馬区を除く）」が5割～6割台となっている。

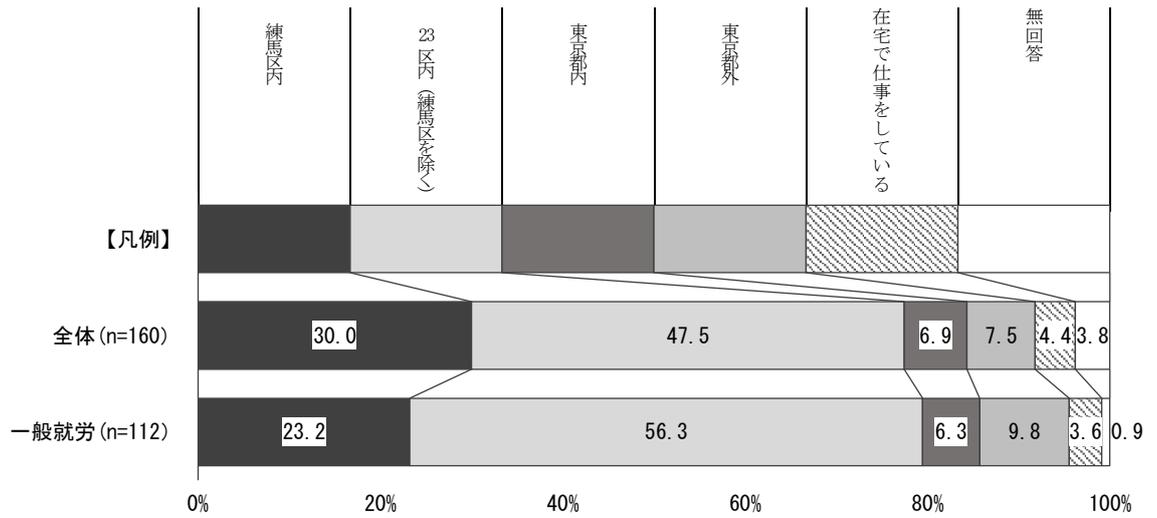
#### 【身体障害者】



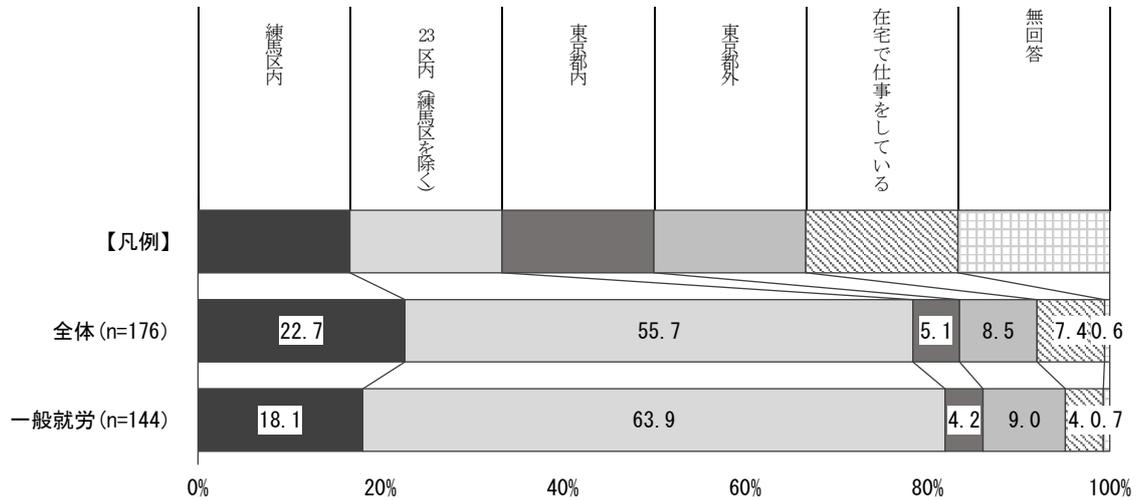
#### 【知的障害者】



**【精神障害者】**



**【難病患者】**



## 【前回調査との比較】

(単位：%)

区分		1位	2位	3位
身体障害者	今回 (n=181)	23区内(練馬区を除く) (43.1)	練馬区内 (34.3)	東京都内 (13.3)
	前回 (n=204)	23区内(練馬区を除く) (38.2)	練馬区内 (36.8)	東京都内 (10.3)
知的障害者	今回 (n=129)	練馬区内/23区内 (練馬区を除く) (同率 44.2)	東京都内 (9.3)	東京都外 (2.3)
	前回 (n=186)	練馬区内 (55.4)	23区内 (練馬区を除く) (24.2)	東京都内 (9.1)
精神障害者	今回 (n=160)	23区内 (練馬区を除く) (47.5)	練馬区内 (30.0)	東京都外 (7.5)
	前回 (n=201)	23区内 (練馬区を除く) (42.8)	練馬区内 (30.8)	東京都内 (10.4)
難病患者	今回 (n=176)	23区内 (練馬区を除く) (55.7)	練馬区内 (22.7)	東京都外 (8.5)
	前回 (n=166)	練馬区内 (32.5)	23区内 (練馬区を除く) (31.3)	東京都内 (24.1)

### (4) 1年間の就労収入

1年間の就労収入は、身体障害者、知的障害者、精神障害者、難病患者では「100万円～300万円未満」がそれぞれ35.9%、40.3%、40.0%、33.0%と最も多くなっている。

知的障害者では「2万円未満」が7.8%、「5万円～20万円未満」が30.2%となっており、約4割が20万円未満となっている。

(単位：%)

区 分	身体障害者 (n=181)	知的障害者 (n=129)	精神障害者 (n=160)	難病患者 (n=176)
2万円未満	2.2	7.8(3位)	1.9	0.6
2～5万円未満	1.1	5.4	3.1	0.6
5万円～20万円未満	7.2	30.2(2位)	11.3(3位)	2.3
20万円～50万円未満	5.0	5.4	6.3	2.3
50万円～100万円未満	11.6(3位)	4.7	10.0	5.1
100万円～300万円未満	35.9(1位)	40.3(1位)	40.0(1位)	33.0(1位)
300万円～500万円未満	15.5(2位)	2.3	16.9(2位)	21.6(2位)
500万円～700万円未満	8.8	-	2.5	14.8
700万円以上	7.7	-	2.5	15.9(3位)
収入はない	2.2	1.6	1.3	0.6
無回答	2.8	2.3	4.4	3.4

※ベース：働いていると回答した人

## (5) 仕事をする上での不安や不満（複数回答）

仕事をする上での不安や不満は、身体障害者では「収入が少ない」が35.4%と最も多くなっている。また、「特に不安や不満はない」が30.4%となっている。

知的障害者では「収入が少ない」が34.9%、「昇給や昇進が平等ではない」が23.3%となっている。また、「特に不安や不満はない」は44.2%となっている。

精神障害者では「収入が少ない」が53.8%と最も多く、次いで「人間関係が苦手」が33.1%となっている。

難病患者では「収入が少ない」が31.8%、「仕事が体力的にきつい」が22.2%となっている。また、「特に不安や不満はない」が34.7%となっている。

(単位：%)

区 分	身体障害者 (n=181)	知的障害者 (n=129)	精神障害者 (n=160)	難病患者 (n=176)
収入が少ない	35.4(1位)	34.9(2位)	53.8(1位)	31.8(2位)
仕事が難しい	3.9	1.6	10.0	2.8
仕事が体力的にきつい	17.1(3位)	4.7	16.3	22.2(3位)
自分にあった内容の仕事がない	4.4	3.9	8.1	4.5
1日の就労時間が長い	5.5	3.9	6.9	12.5
1週間の就労日数が多い	4.4	2.3	6.9	7.4
障害への理解が足りない	13.8	6.2	17.5	14.8
人間関係が苦手	10.5	7.0	33.1(2位)	7.4
職場での身分が不安定	7.7	20.2	14.4	8.0
トイレなど障害者用の設備が十分でない	2.2	0.8	5.0	4.0
昇給や昇進が平等ではない	7.2	23.3(3位)	11.9	8.5
通勤が大変	9.9	6.2	14.4	17.0
食事やトイレの介助が必要	0.6	-		1.1
その他	7.2	4.7	7.5	3.4
特に不安や不満はない	30.4(2位)	44.2(1位)	19.4(3位)	34.7(1位)
無回答	3.3	3.9	5.6	4.5

※ベース：働いていると回答した人

### 【前回調査との比較】

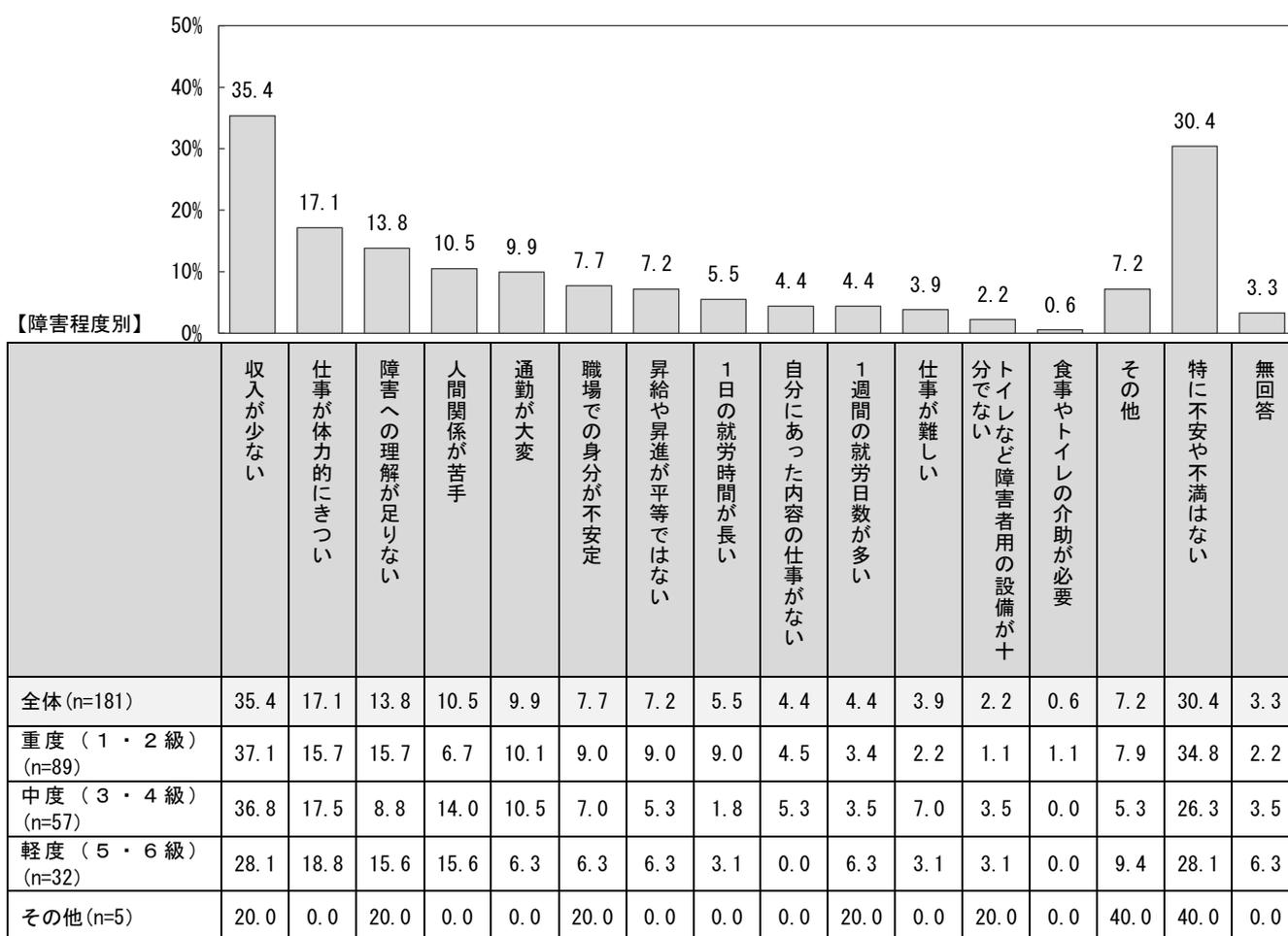
(単位：%)

区分		1位	2位	3位
身体障害者	今回 (n=181)	収入が少ない (35.4)	特に不安や不満はない (30.4)	仕事が体力的にきつい (17.1)
	前回 (n=204)	収入が少ない (42.2)	特に不安や不満はない (21.1)	仕事が体力的にきつい (16.7)
知的障害者	今回 (n=129)	特に不安や不満はない (44.2)	収入が少ない (34.9)	昇給や昇進が平等ではない (23.3)
	前回 (n=186)	収入が少ない (33.3)	特に不安や不満はない (29.6)	職場での身分が不安定 (23.1)
精神障害者	今回 (n=160)	収入が少ない (53.8)	人間関係が苦手 (33.1)	特に不安や不満はない (19.4)
	前回 (n=201)	収入が少ない (46.3)	人間関係が苦手 (35.3)	障害への理解が足りない/仕事が体力的にきつい (同率22.9)
難病患者	今回 (n=176)	特に不安や不満はない (34.7)	収入が少ない (31.8)	仕事が体力的にきつい (22.2)
	前回 (n=166)	収入が少ない (40.4)	仕事が体力的にきつい (29.5)	通勤が大変/特に不安や不満はない (同率19.9)

## 【身体障害者】

障害の程度別にみると、障害の程度にかかわらず「収入が少ない」が最も多い。また、「人間関係が苦手」は、障害の程度が軽いほど多く、軽度（5・6級）では15.6%となっている。

就労形態別にみると、非正規職員（契約、パート、派遣等）では「収入が少ない」が43.1%と最も多くなっている。



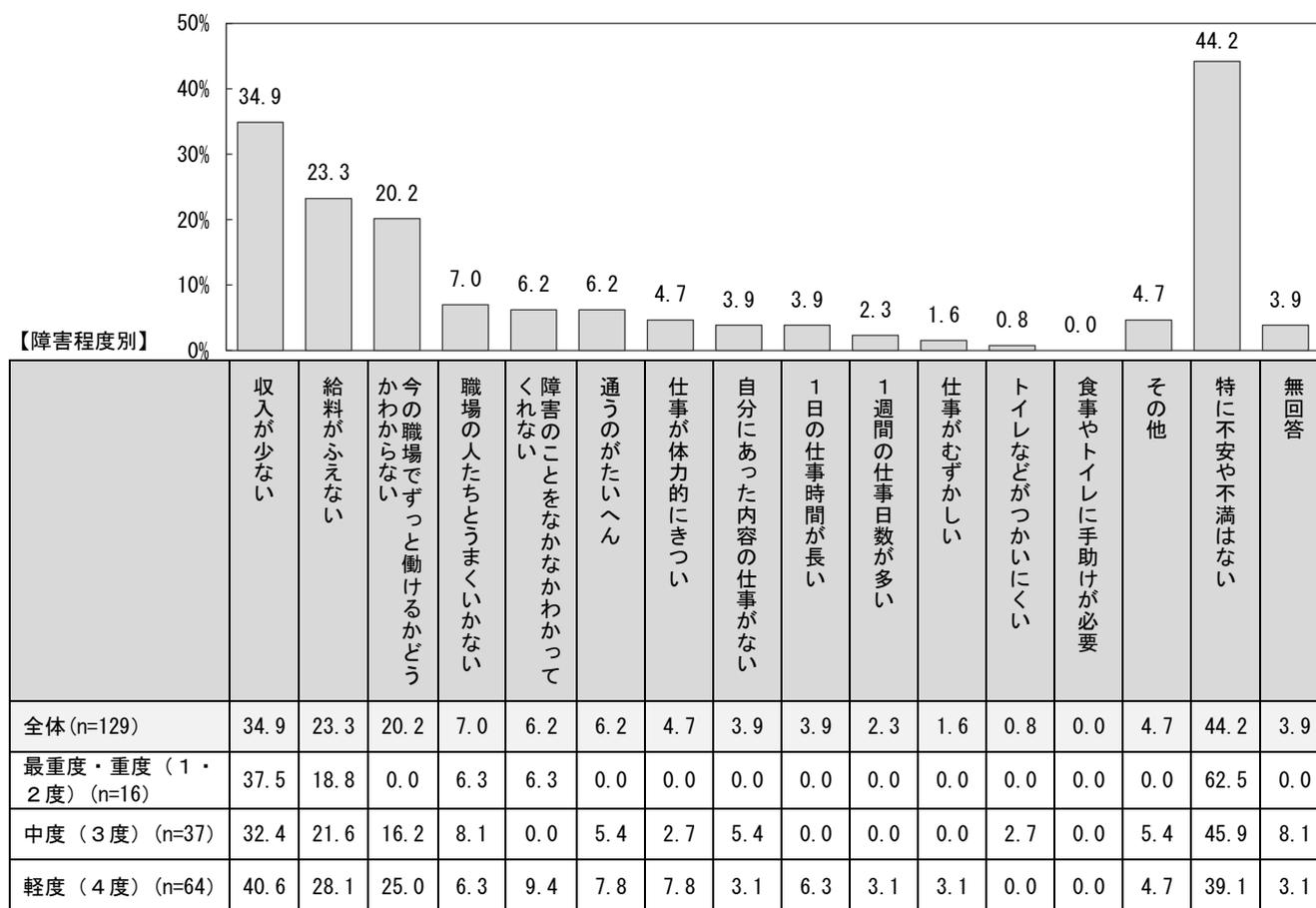
就労内容別	収入が少ない	仕事が体力的にきつい	障害への理解が足りない	人間関係が苦手	通勤が大変	職場での身分が不安定	昇給や昇進が平等ではない	1日の就労時間が長い	自分にあつた内容の仕事がない	1週間の就労日数が多い	仕事が多い	トイレなど障害者用の設備が十分でない	食事やトイレの介助が必要	その他	特に不安や不満はない	無回答
自営業 (n=38)	42.1	26.3	7.9	0.0	2.6	2.6	0.0	2.6	0.0	0.0	5.3	0.0	0.0	2.6	34.2	7.9
家業の手伝い (n=5)	0.0	40.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	40.0	20.0
会社・団体等の正規職員 (n=58)	24.1	17.2	19.0	13.8	10.3	8.6	10.3	10.3	5.2	6.9	5.2	0.0	0.0	8.6	27.6	3.4
非正規職員 (契約、パート、派遣等) (n=65)	43.1	10.8	15.4	13.8	12.3	12.3	10.8	4.6	4.6	3.1	3.1	3.1	0.0	7.7	30.8	0.0
内職 (n=0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
就労移行支援・就労継続支援事業所 (n=8)	62.5	12.5	12.5	12.5	25.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	12.5	0.0	12.5	0.0
その他 (n=5)	20.0	20.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	20.0	0.0	40.0	40.0	0.0

※ベース：働いていると回答した人

## 【知的障害者】

障害の程度別にみると、程度にかかわらず「収入が少ない」が多くなっている。また、最重度・重度（1・2度）では「特に不安や不満はない」が62.5%と最も多くなっている。

就労形態別にみると、就労移行支援・就労継続支援事業所で働いている人では「収入が少ない」が42.1%となっている。また、非正規職員（契約、パート、派遣など）では「今の職場でずっと働けるかどうかわからない」が35.1%となっている。



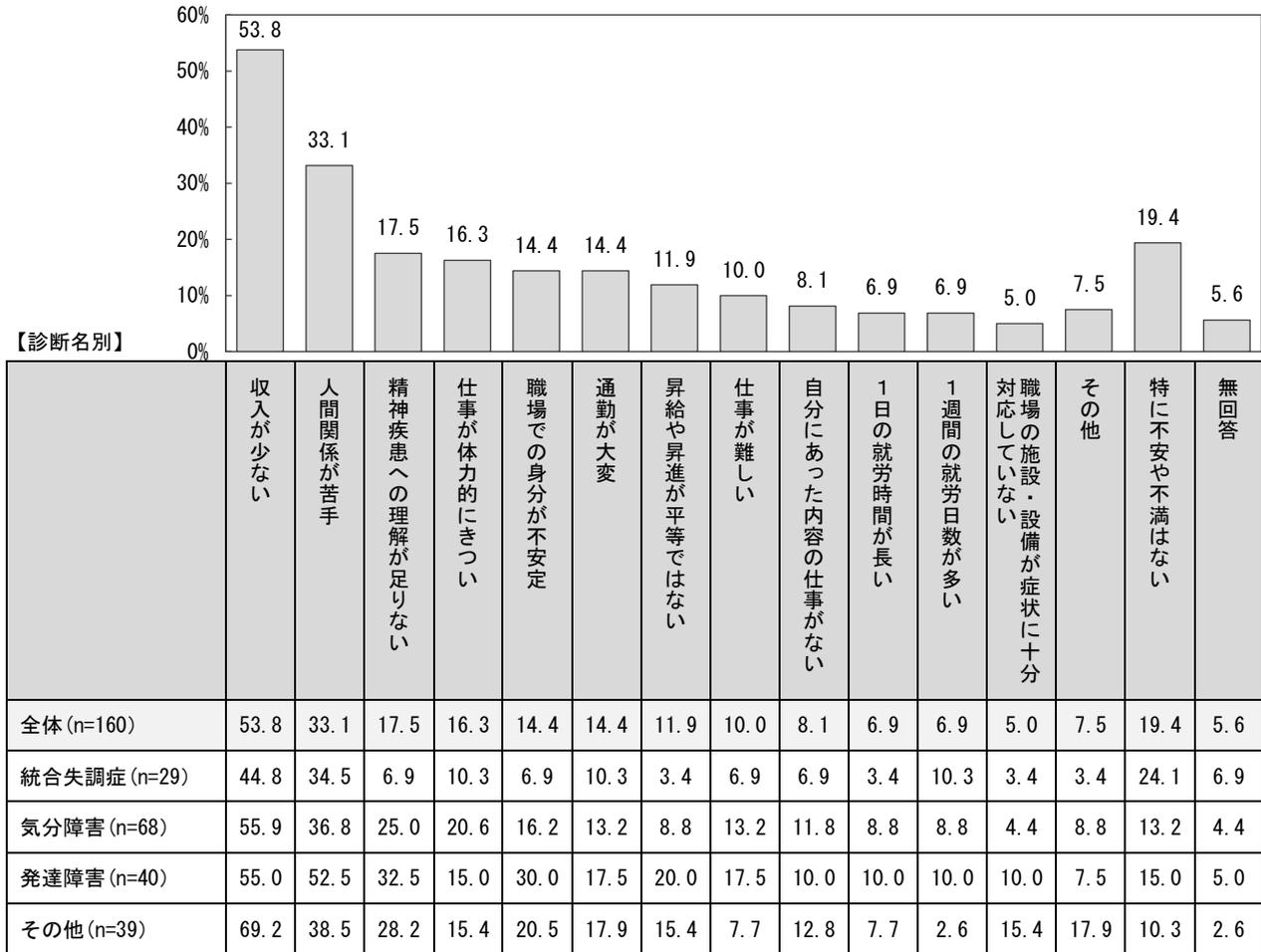
就労内容別	収入が少ない	給料がふえない	今の職場ですっと働けるかどうか	職場の人たちとうまくいかない	障害のことをなかなかわかってくれない	通うのがたいへん	仕事が体力的にきつい	自分にあつた内容の仕事がない	1日の仕事時間が長い	1週間の仕事日数が多い	仕事がむずかしい	トイレなどがつかいにくい	食事やトイレに手助けが必要	その他	特に不安や不満はない	無回答
自営業 (n=0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
家業の手伝い (n=0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
会社・団体などの正規職員 (n=31)	25.8	22.6	19.4	0.0	6.5	9.7	6.5	0.0	9.7	6.5	3.2	0.0	0.0	9.7	51.6	3.2
非正規職員 (契約、パート、派遣など) (n=37)	29.7	24.3	35.1	8.1	10.8	10.8	5.4	2.7	5.4	2.7	0.0	0.0	0.0	2.7	40.5	2.7
内職 (n=0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
就労移行支援・就労継続支援事業所 (n=57)	42.1	22.8	12.3	8.8	1.8	1.8	3.5	7.0	0.0	0.0	1.8	1.8	0.0	3.5	43.9	3.5
その他 (n=4)	50.0	25.0	0.0	25.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	25.0

※ベース：働いていると回答した人

## 【精神障害者】

診断名別にみると、統合失調症、発達障害と診断されている人では「人間関係が苦手」がそれぞれ 34.5%、52.5%となっている。

就労形態別にみると、会社・団体等の正規職員では「昇給や昇進が平等ではない」が 20.8%となっている。また、非正規職員（契約、パート、派遣等）では「職場での身分が不安定」が 15.6%となっている。



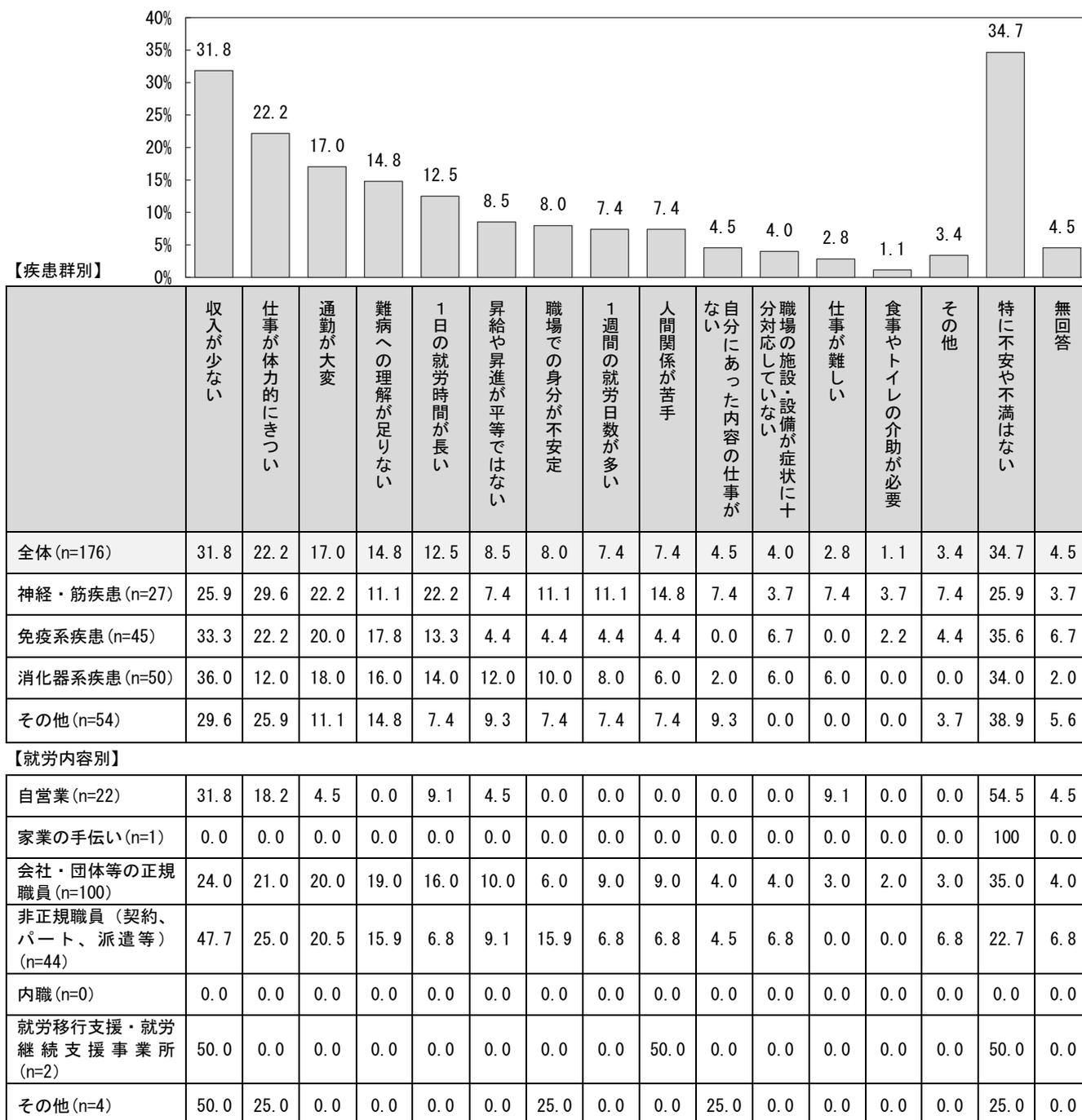
就労内容別	収入が少ない	人間関係が苦手	精神疾患への理解が足りない	仕事が体力的にきつい	職場での身分が不安定	通勤が大変	昇給や昇進が平等ではない	仕事が難しい	自分にあつた内容の仕事がない	1日の就労時間が長い	1週間の就労日数が多い	職場の施設・設備が症状に十分対応していない	その他	特に不安や不満はない	無回答
自営業 (n=7)	28.6	14.3	0.0	0.0	0.0	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3	42.9	0.0
家業の手伝い (n=3)	0.0	66.7	33.3	33.3	33.3	0.0	0.0	66.7	33.3	0.0	33.3	33.3	0.0	33.3	0.0
会社・団体等の正規職員 (n=48)	66.7	41.7	33.3	25.0	22.9	29.2	20.8	14.6	12.5	12.5	8.3	6.3	8.3	4.2	0.0
非正規職員（契約、パート、派遣等） (n=64)	53.1	28.1	15.6	18.8	15.6	10.9	12.5	7.8	4.7	7.8	9.4	4.7	7.8	23.4	1.6
内職 (n=1)	100	100	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
就労移行支援・就労継続支援事業所 (n=24)	66.7	37.5	4.2	4.2	4.2	4.2	4.2	8.3	12.5	0.0	0.0	0.0	4.2	20.8	8.3
その他 (n=4)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	75.0	25.0

※ベース：働いていると回答した人

## 【難病患者】

疾患群別にみると、免疫系疾患では「収入が少ない」が33.3%と最も多く、次いで「仕事が体力的にきつい」が22.2%となっている。

就労形態別にみると、非正規職員（契約、パート、派遣等）では「収入が少ない」が47.7%と最も多くなっている。



※ベース：働いていると回答した人

## (6) 働いていない理由（複数回答）

現在働いていない人の「働いていない理由」は、身体障害者では「高齢だから」が36.7%と最も多く、次いで「障害の程度や症状のため」が29.2%となっている。

知的障害者では「障害の程度や症状のため」が60.2%と最も多くなっている。

精神障害者では「障害の程度や症状のため」が44.3%と最も多く、次いで「体調がよくないから」が33.2%となっている。

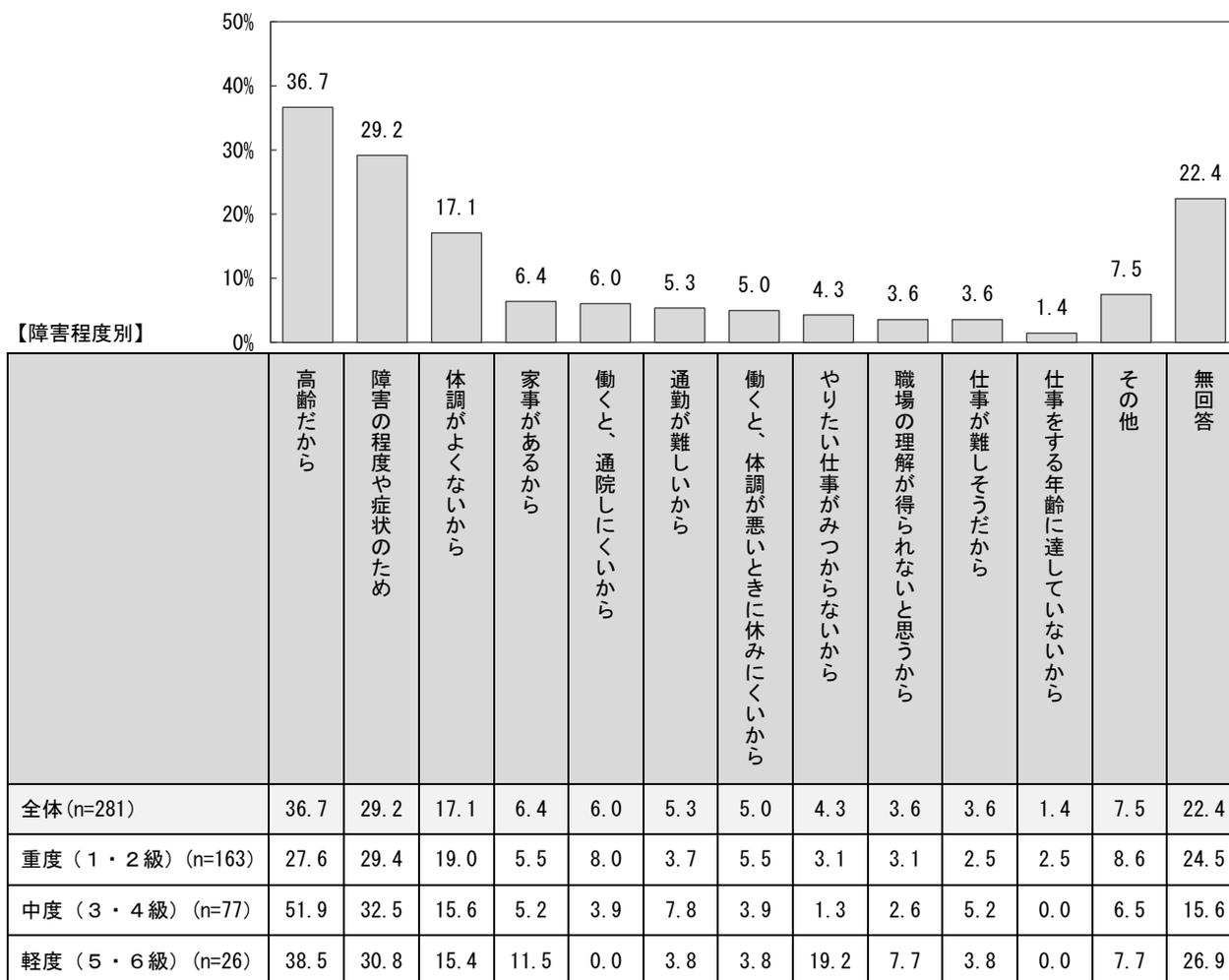
(単位：%)

区 分	身体障害者 (n=281)	知的障害者 (n=113)	精神障害者 (n=235)
体調がよくないから	17.1	5.3	33.2(2位)
働くと、体調が悪いときに休みにくいから	5.0	2.7	17.0
働くと、通院しにくいから	6.0	0.9	6.8
通勤が難しいから	5.3	4.4	10.2
職場の理解が得られないと思うから	3.6	6.2	10.2
やりたい仕事が見つからないから	4.3	8.0	10.2
仕事が難しそうだから	3.6	10.6(3位)	9.8
家事があるから	6.4	0.9	11.9
高齢だから	36.7(1位)	4.4	26.8(3位)
仕事をする年齢に達していないから	1.4	2.7	-
障害の程度や症状のため	29.2(2位)	60.2(1位)	44.3(1位)
その他	7.5	8.8	14.0
無回答	22.4(3位)	17.7(2位)	12.8

※ベース：働いていないと回答した人

## 【身体障害者】

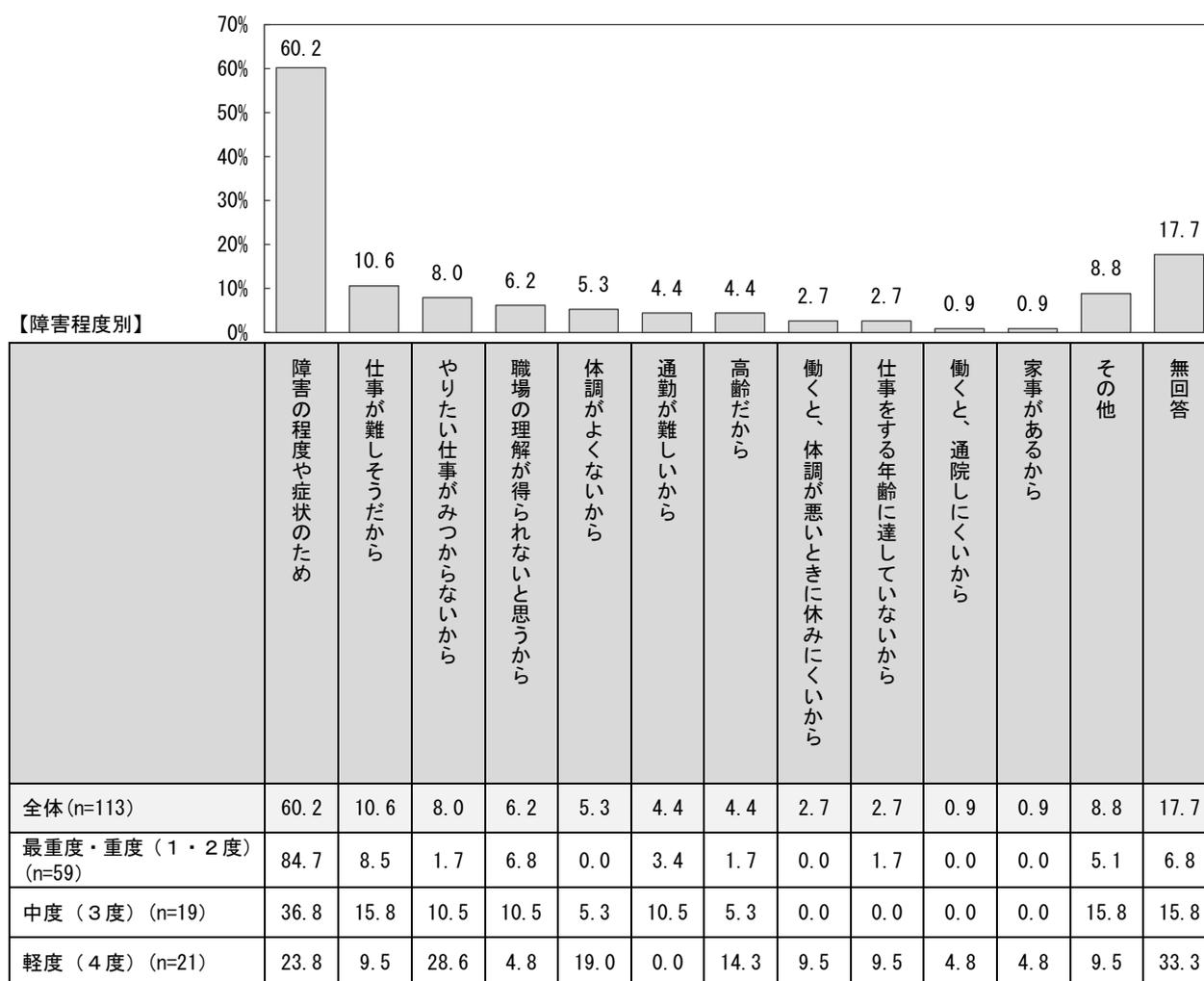
障害の程度別にみると、重度（1・2級）では「障害の程度や症状のため」が29.4%と最も多くなっている。中度（3・4級）、軽度（5・6級）では「高齢だから」がそれぞれ51.9%、38.5%と最も多くなっている。



※ベース：働いていないと回答した人

## 【知的障害者】

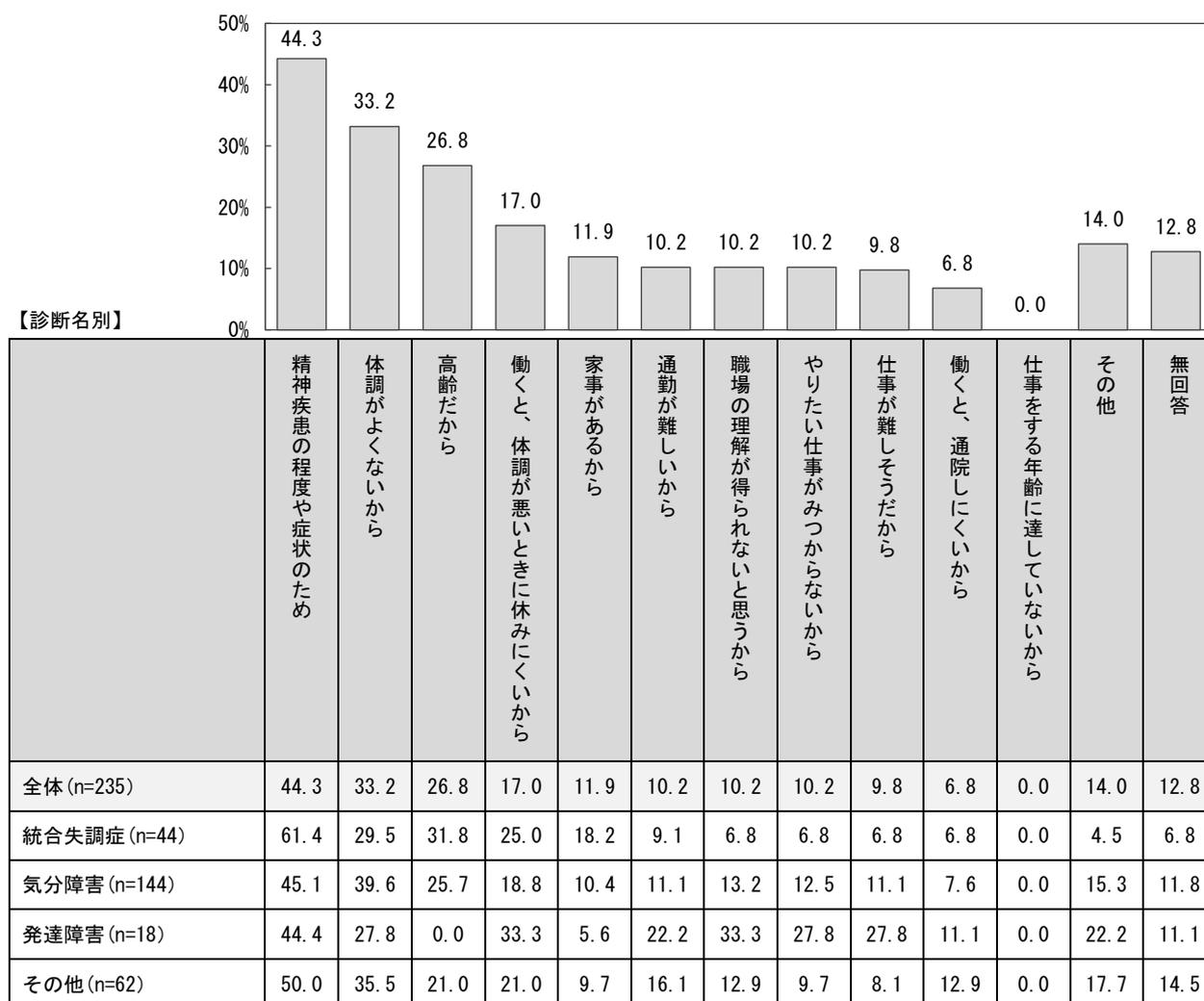
障害の程度別にみると、最重度・重度（1・2度）では「障害の程度や症状のため」が84.7%と中度（3度）、軽度（4度）と比べて多くなっている。



※ベース：働いていないと回答した人

## 【精神障害者】

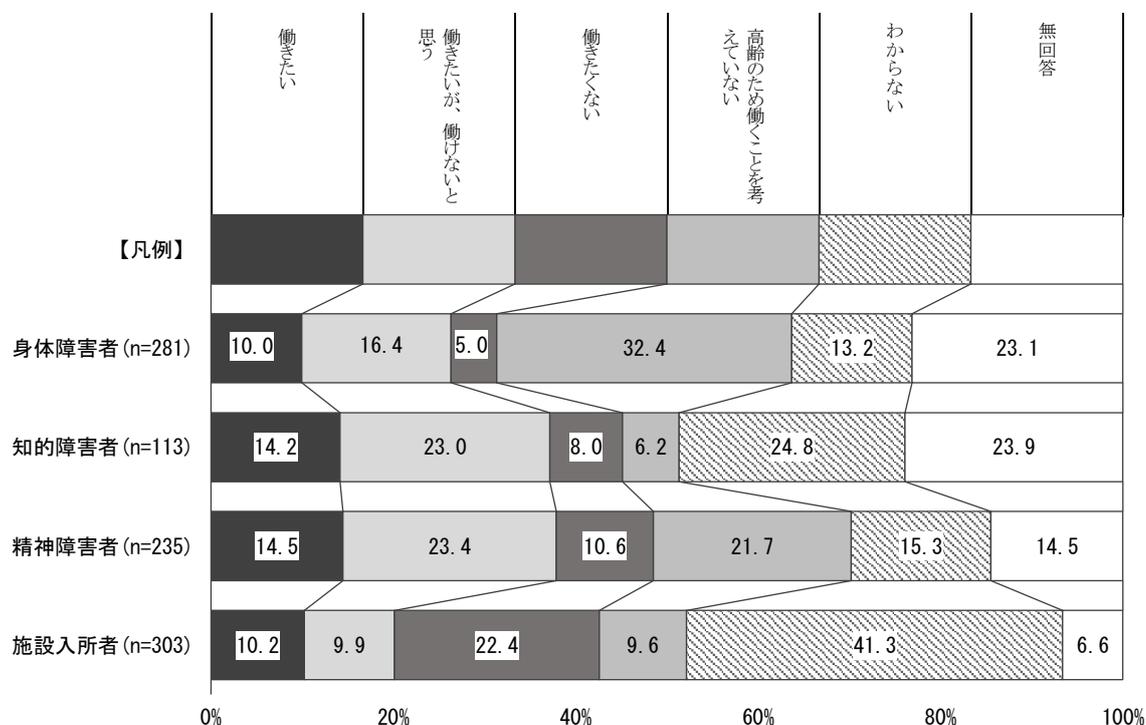
診断名別にみると、統合失調症、気分障害、発達障害と診断されている人では「精神疾患の程度や症状のため」がそれぞれ61.4%、45.1%、44.4%と最も多くなっている。



※ベース：働いていないと回答した人

## (7) 今後の就労意向

現在働いていない人の今後の就労について、身体障害者では「高齢のため働くことを考えていない」が32.4%と最も多くなっている。知的障害者では「働きたいが、働けないと思う」が23.0%となっている。精神障害者では「働きたいが、働けないと思う」が23.4%と最も多く、次いで「高齢のため働くことを考えていない」が21.7%となっている。施設入所者では「働きたくない」が22.4%となっている。



※ベース：働いていないと回答した人

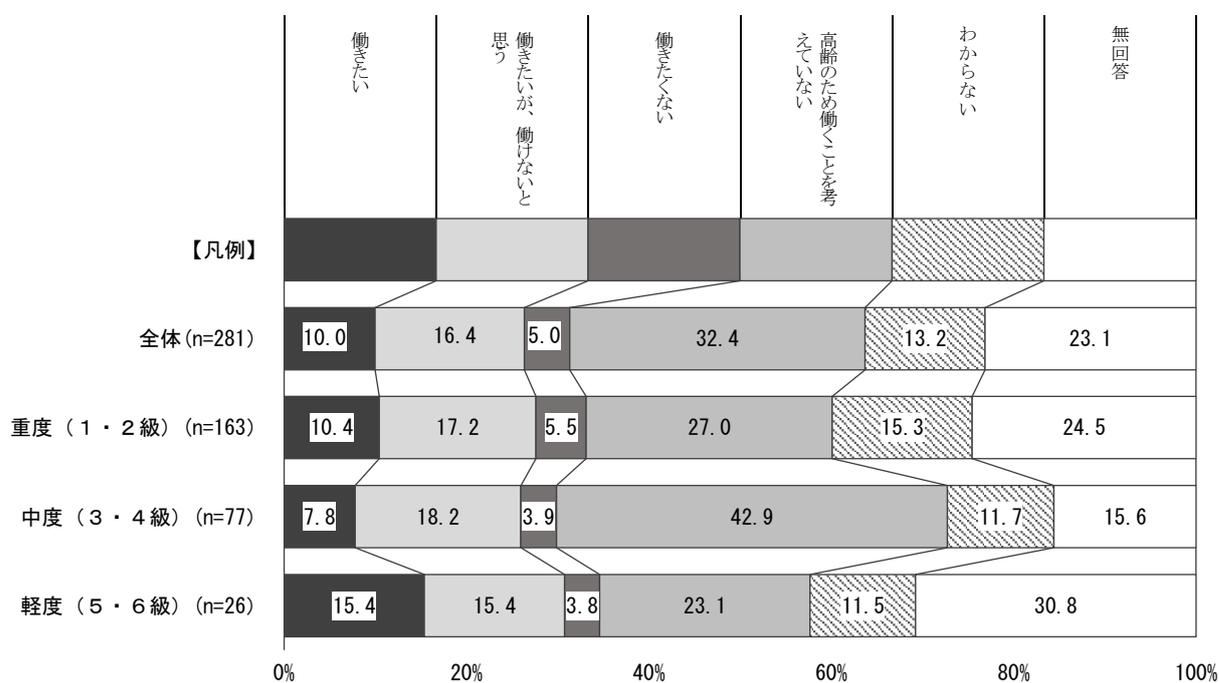
### 【前回調査との比較】

(単位：%)

区分		1位	2位	3位
身体障害者	今回 (n=281)	高齢のため働くことを考えていない (32.4)	働きたいが、働けないと思う (16.4)	わからない (13.2)
	前回 (n=353)	高齢のため働くことを考えていない (32.3)	働きたいが、働けないと思う (17.0)	わからない (13.9)
知的障害者	今回 (n=113)	わからない (24.8)	働きたいが、働けないと思う (23.0)	働きたい (14.2)
	前回 (n=121)	わからない (33.9)	働きたいが、働けないと思う (30.6)	働きたい (10.7)
精神障害者	今回 (n=235)	働きたいが、働けないと思う (23.4)	高齢のため働くことを考えていない (21.7)	わからない (15.3)
	前回 (n=220)	働きたい (26.8)	働きたいが、働けないと思う (25.9)	高齢のため働くことを考えていない (15.0)
施設入所者	今回 (n=303)	わからない (41.3)	働きたくない (22.4)	働きたい (10.2)
	前回 (n=105)	わからない (56.2)	働きたくない (15.2)	働きたくない/働きたいが、働けないと思う (同率 14.3)

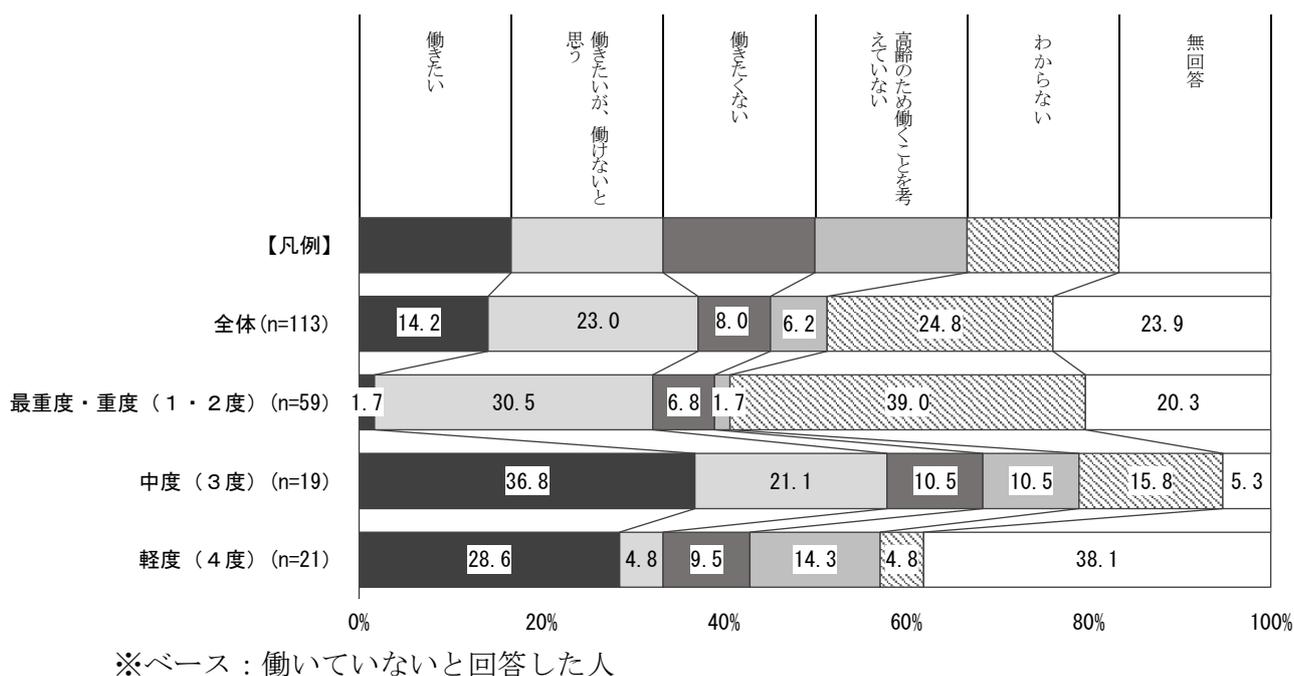
## 【身体障害者】

障害の程度別にみると、中度（3・4級）では「高齢のため働くことを考えていない」が42.9%と重度（1・2級）、軽度（5・6級）と比べて多くなっている。



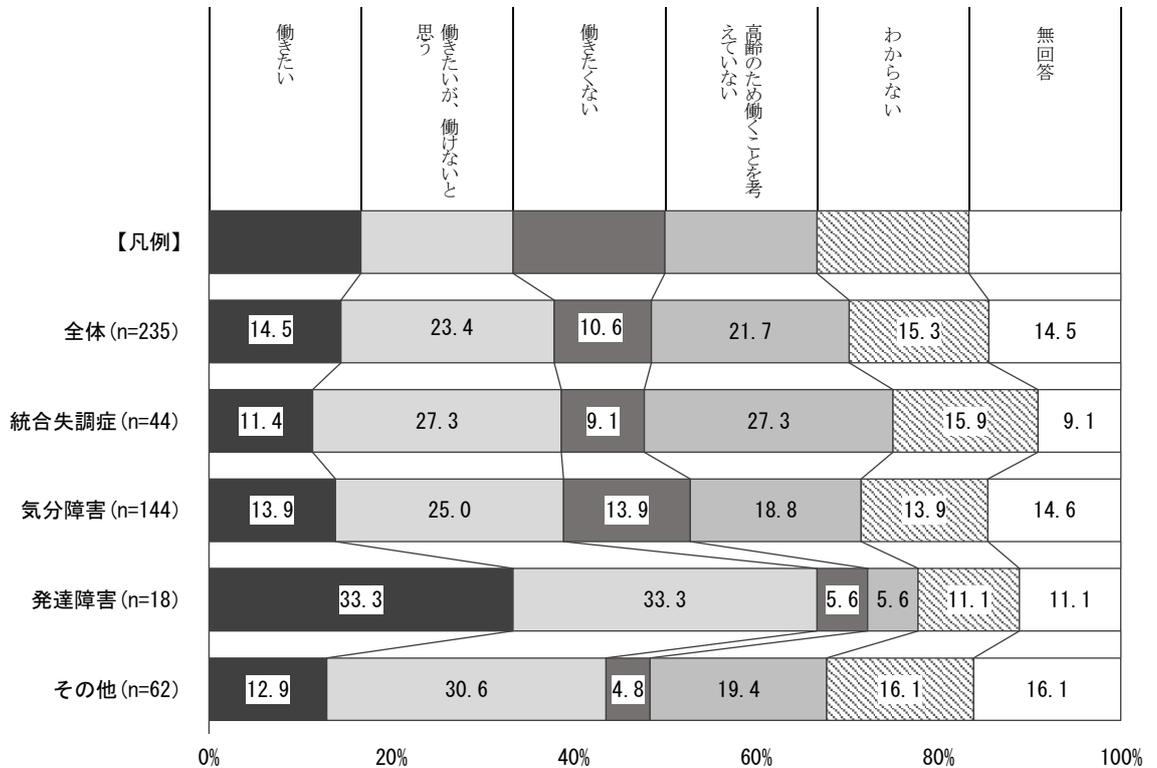
## 【知的障害者】

障害の程度別にみると、中度（3度）、軽度（4度）では「働きたい」がそれぞれ36.8%、28.6%と最も多くなっている。一方で、最重度・重度（1・2度）では「働きたいが、働けないと思う」が30.5%と最も多くなっている。



## 【精神障害者】

「働きたい」が11.4%、「働きたいが、働けないと思う」が27.3%で、合わせると約4割の人に就労意向があることがわかる。同様に、気分障害と診断されている人では約4割、発達障害と診断されている人では約7割に就労意向があることがわかる。



※ベース：働いていないと回答した人

### (8) 働きたいが働けない理由（自由回答）（施設入所者のみ）

主な意見は、次のとおりである。

- ・重度の障害があるため
- ・障害特性に合った作業が難しいため
- ・強度の行動障害により課題となる行為が多いため
- ・高齢のため
- ・意思疎通が十分に出来ないため

## (9) 働くために大切だと思う環境（複数回答）

障害のある人が働くために大切な環境としては、身体障害者、精神障害者、難病患者では「健康状態にあわせた働き方ができること」がそれぞれ 48.8%、58.6%、68.4%と最も多くなっている。知的障害者では「障害のある人にあった仕事を用意されること」が 67.2%と最も多く、次いで「事業主や職場の人たちが、障害者雇用について十分理解していること」が 65.2%となっている。

施設入所者では「障害のある人にあった仕事を用意されること」が 32.0%となっている。  
(単位：%)

区 分	身体障害者 (n=562)	知的障害者 (n=442)	精神障害者 (n=452)	難病患者 (n=437)	施設入所者 (n=303)
自分の家の近くに働く場があること	38.8	55.2 (3位)	42.0	38.7	14.5
自分の家の中で、通勤することなく働けること	24.9	14.3	25.2	32.7	9.6
健康状態にあわせた働き方ができること	48.8 (1位)	42.5	58.6 (1位)	68.4 (1位)	26.4
障害のある方にあった仕事を用意されること	43.8 (2位)	67.2 (1位)	46.5 (3位)	39.6 (3位)	32.0 (2位)
就労支援機関（レインボーワーク、就労移行支援事業所等）が充実していること	17.6	43.2	23.7	16.2	9.6
生活支援・余暇支援が充実していること	20.3	36.0	23.9	20.6	16.2
事業主や職場の人たちが、障害者雇用について十分理解していること	43.8 (2位)	65.2 (2位)	50.0 (2位)	47.6 (2位)	28.7 (3位)
職場の施設や設備が障害のある方にも利用できる ように配慮されていること	26.5	36.4	27.4	24.3	17.8
ジョブコーチの支援を受けながら働けること	14.2	36.7	21.2	11.0	14.2
同じような障害のある仲間と一緒に、あるいは交替 で働けること	14.6	41.4	19.9	10.1	14.2
在宅テレワークの環境を整えるなどICTを活用 できるようにすること	20.8	11.3	17.9	27.2	4.3
通勤の同行や業務中の食事・トイレの介助が受けら れるようにすること	11.2	27.1		9.2	15.5
その他	4.1	3.8	4.4	2.5	2.3
わからない	13.0	7.7	10.6	9.8	40.3 (1位)
無回答	9.6	4.3	8.4	9.2	5.3

【前回調査との比較】

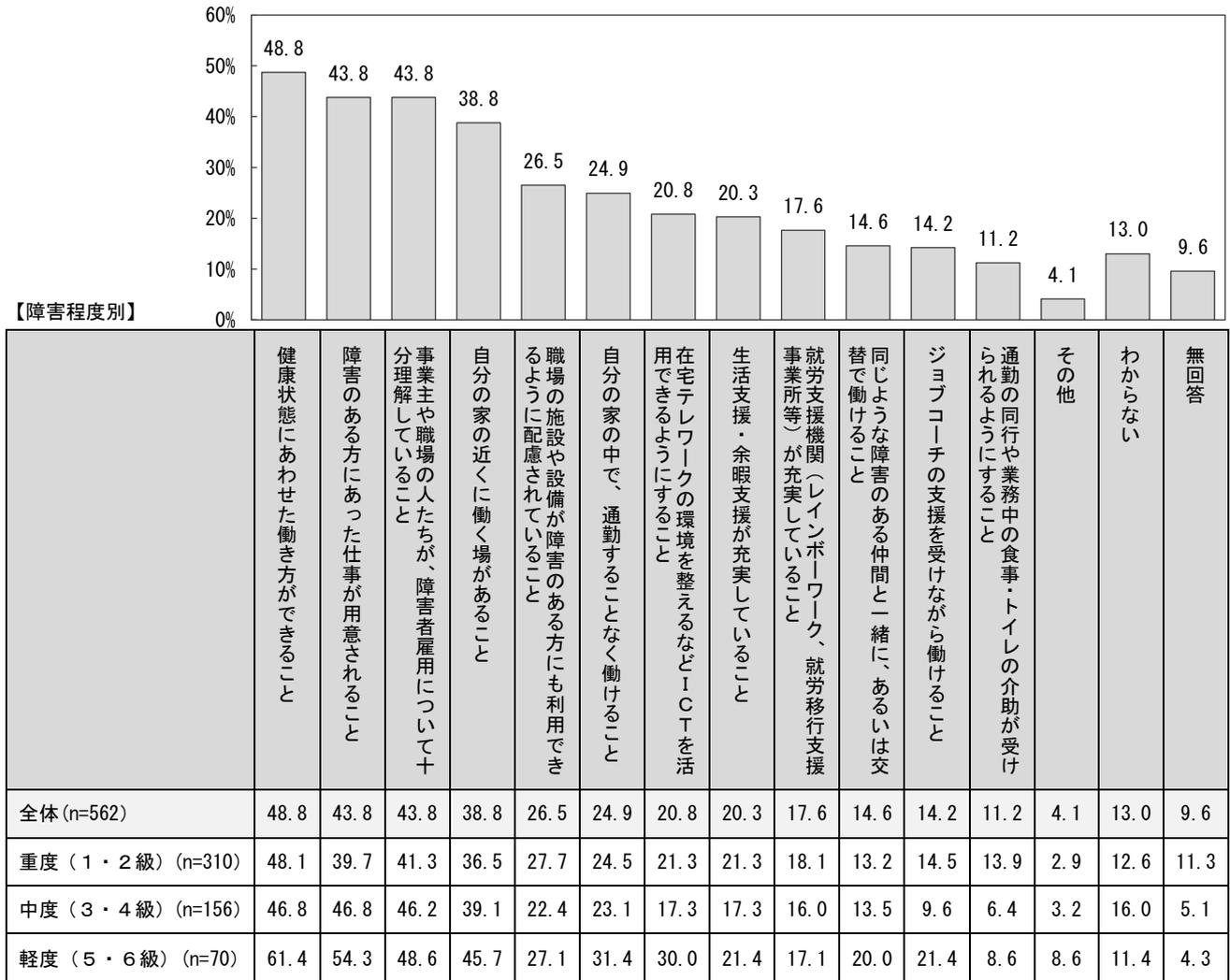
(単位：%)

区分		1位	2位	3位
身体障害者	今回 (n=562)	健康状態にあ わせた働き方 ができること (48.8)	障害のある方にあ った仕事を用意さ れること/事業主や 職場の人たちが、 障害者雇用につい て十分理解してい ること (同率 43.8)	
	前回 (n=659)	健康状態にあ わせた働き方 ができること (50.5)	障害のある方にあ った仕 事が用意されること (47.3)	事業主や職場の 人たちが、障害 者雇用について 十分理解してい ること (44.6)
知的障害者	今回 (n=442)	障害のある方 にあった仕事 が用意される こと (67.2)	事業主や職場の人た ちが、障害者雇用について 十分理解していること (65.2)	自分の家の近く に働く場がある こと (55.2)
	前回 (n=474)	障害のある方 にあった仕事 が用意される こと (62.4)	事業主や職場の人た ちが、障害者雇用について 十分理解していること (62.0)	自分の家の近く に働く場がある こと (52.1)
精神障害者	今回 (n=452)	健康状態にあ わせた働き方 ができること (58.6)	事業主や職場の人た ちが、障害者雇用について 十分理解していること (50.0)	障害のある方 にあった仕事 が用意されること (46.5)
	前回 (n=451)	健康状態にあ わせた働き方 ができること (64.7)	事業主や職場の人た ちが、障害者雇用について 十分理解していること (55.7)	自分の家の近く に働く場がある こと (48.8)
難病患者	今回 (n=437)	健康状態にあ わせた働き方 ができること (68.4)	事業主や職場の人た ちが、障害者雇用について 十分理解していること (47.6)	障害のある方 にあった仕事 が用意されること (39.6)
	前回 (n=475)	健康状態にあ わせた働き方 ができること (64.6)	事業主や職場の人た ちが、障害者雇用について 十分理解していること (50.5)	自分の家の近く に働く場がある こと (40.6)
施設入所者	今回 (n=303)	わからない (40.3)	障害のある方にあ った仕 事が用意されること (32.0)	事業主や職場の 人たちが、障害 者雇用について 十分理解してい ること (28.7)
	前回 (n=105)	健康状態にあ わせた働き方 ができること /障害のある 方にあつた仕 事が用意され ること (同率 40.0)		事業主や職場の 人たちが、障害 者雇用について 十分理解してい ること (32.4)

## 【身体障害者】

障害の程度別にみると、程度にかかわらず「健康状態にあわせた働き方ができること」が最も多くなっている。（中度（3・4級）では「障害のある人にあった仕事を用意されること」が同率（46.8%）で1位。）

障害の種類別にみると、視覚障害、聴覚障害では「事業主や職場の人たちが、障害者雇用について十分理解していること」がそれぞれ48.1%、63.2%と最も多くなっている。

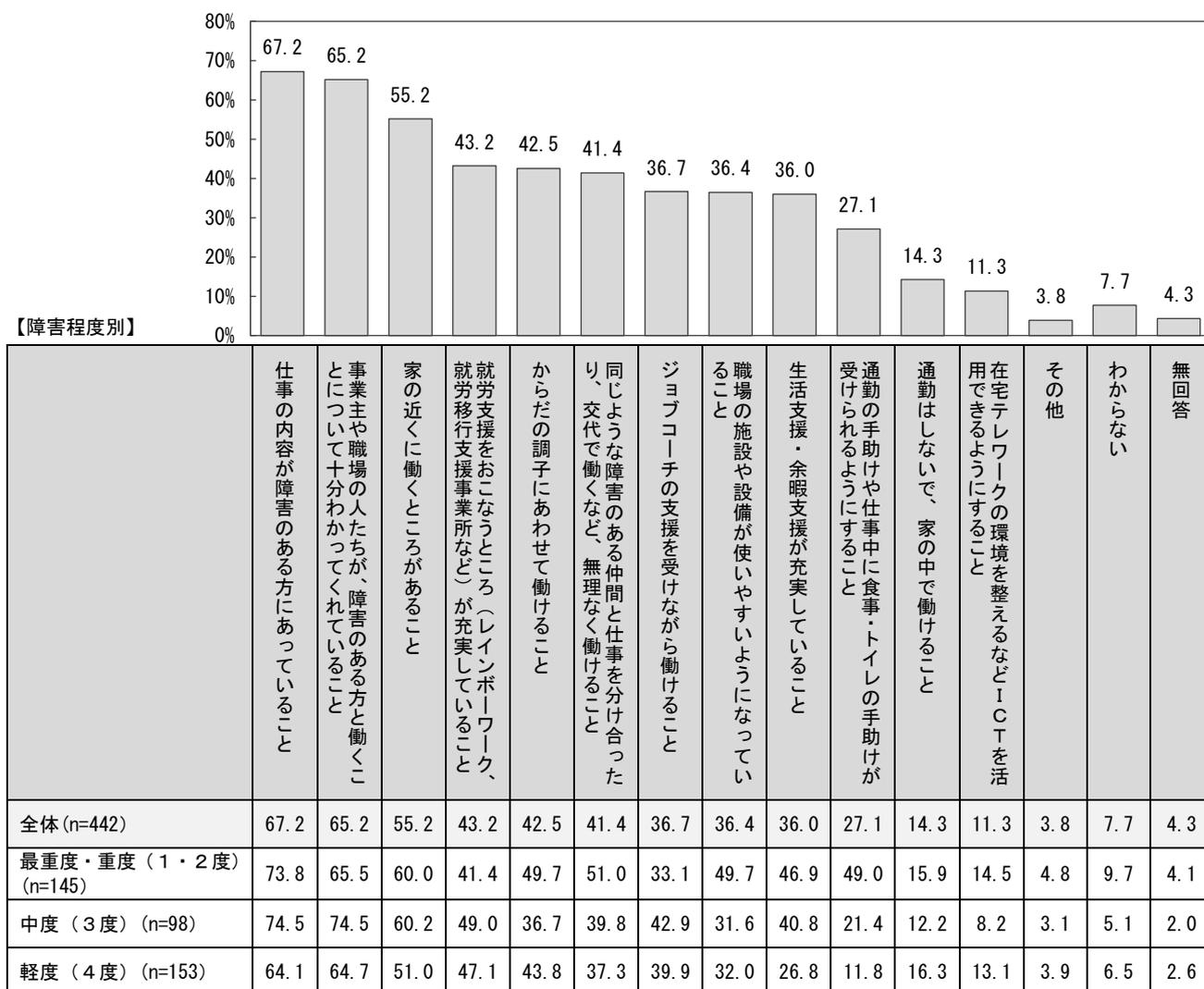


【障害の種類別】

【障害の種類別】	健康状態にあわせた働き方ができること	障害のある人にあった仕事を用意されること	事業主や職場の人たちが、障害者雇用について十分理解していること	自分の家の近くに働く場があること	職場の施設や設備が障害のある方にも利用できるように配慮されていること	自分の家の中で、通勤することなく働けること	在宅テレワークの環境を整えるなどICTを活用できるようにすること	生活支援・余暇支援が充実していること	就労支援機関（レインボーワーク、就労移行支援事業所等）が充実していること	代替で働けること	同じような障害のある仲間と一緒に、あるいは交替で働けること	ジョブコーチの支援を受けながら働けること	通勤の同行や業務中の食事・トイレの介助が受けられるようにすること	その他	わからない	無回答
視覚障害 (n=81)	44.4	34.6	48.1	39.5	29.6	34.6	21.0	17.3	23.5	19.8	16.0	7.4	1.2	14.8	11.1	
聴覚障害 (n=87)	42.5	58.6	63.2	31.0	27.6	18.4	27.6	23.0	23.0	18.4	20.7	9.2	8.0	8.0	8.0	
平衡機能障害 (n=2)	50.0	0.0	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害 (n=25)	40.0	36.0	32.0	40.0	4.0	16.0	12.0	24.0	12.0	8.0	4.0	0.0	4.0	24.0	4.0	
肢体不自由（上肢、下肢等） (n=140)	53.6	50.7	44.3	45.0	37.1	27.1	23.6	24.3	18.6	14.3	17.9	19.3	3.6	10.0	5.0	
肢体不自由（体幹） (n=40)	42.5	52.5	35.0	37.5	30.0	27.5	22.5	27.5	22.5	17.5	22.5	25.0	7.5	20.0	10.0	
内部障害 (n=156)	55.8	35.3	35.9	38.5	16.0	24.4	16.7	14.7	11.5	9.0	6.4	4.5	1.9	12.2	11.5	
その他 (n=7)	42.9	28.6	28.6	42.9	42.9	14.3	14.3	28.6	0.0	28.6	0.0	0.0	0.0	28.6	14.3	

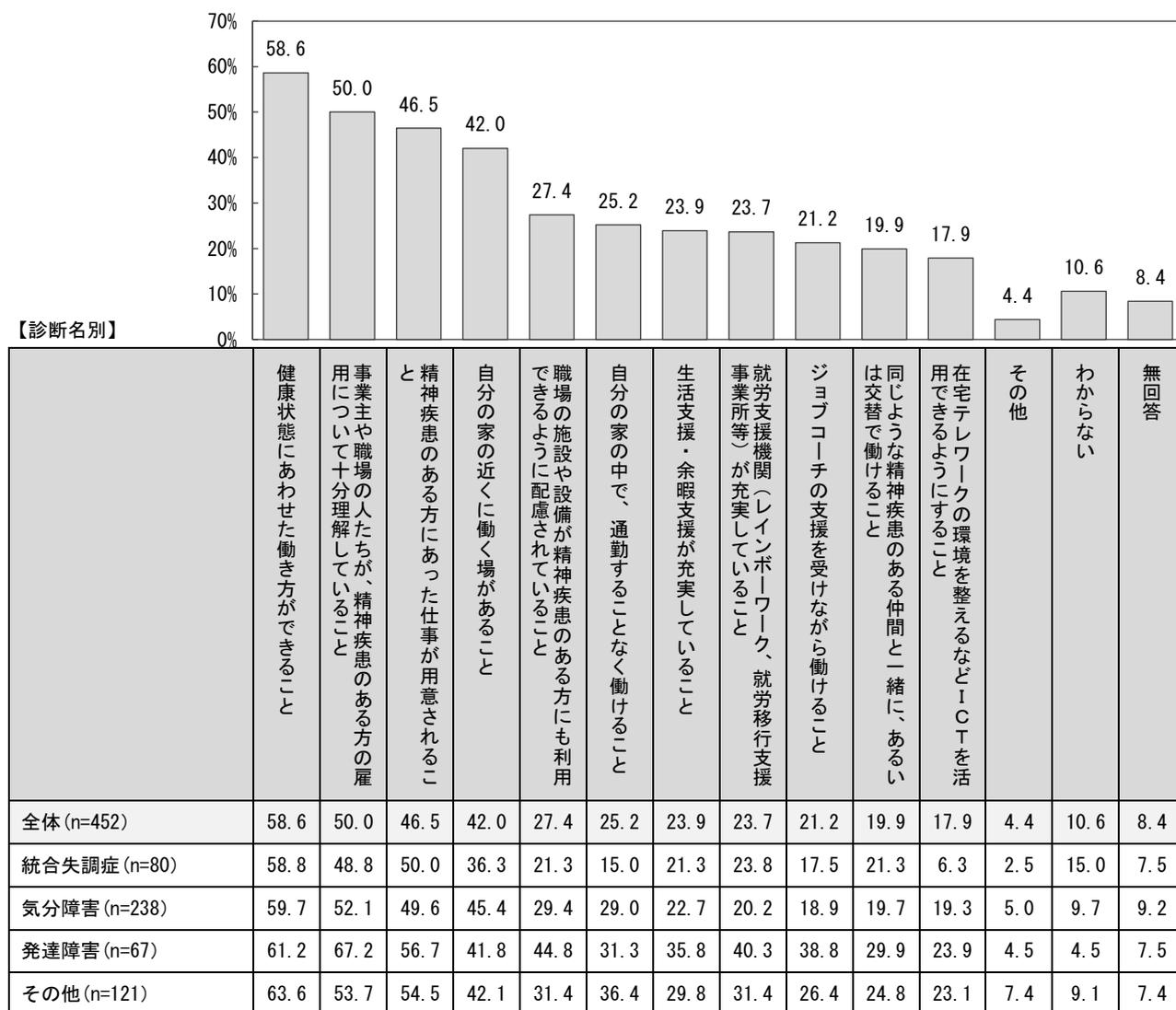
## 【知的障害者】

障害の程度別にみると、最重度・重度（1・2度）では「仕事の内容が障害のある人にあること」が73.8%と最も多く、軽度（4度）では「事業主や職場の人たちが、障害のある人と働くことについて十分わかってきていること」が64.7%と最も多くなっている。



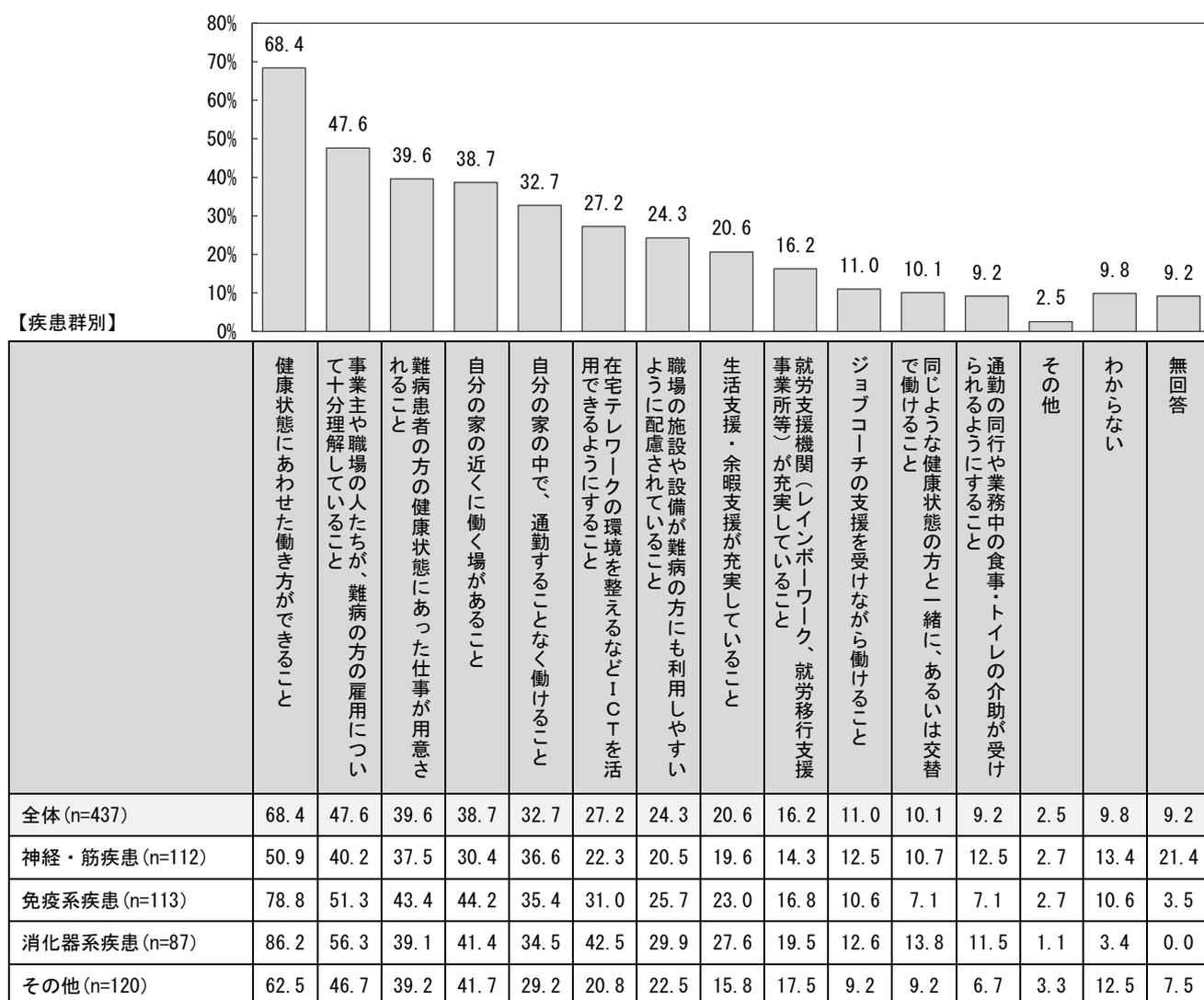
## 【精神障害者】

診断名別にみると、統合失調症、気分障害と診断されている人では「健康状態にあわせた働き方ができること」がそれぞれ 58.8%、59.7%と最も多く、発達障害と診断されている人では「事業主や職場の人たちが、精神疾患のある方の雇用について十分理解していること」が 67.2%と最も多くなっている。



## 【難病患者】

疾患群別にみると、いずれの疾患群においても「健康状態にあわせた働き方ができること」が最も多く、特に消化器系疾患では86.2%と多くなっている。



## (10) 希望する余暇の過ごし方（複数回答）

希望する余暇の過ごし方について身体障害者、精神障害者では「自宅で過ごしたい」がそれぞれ 58.7%、64.2%と最も多く、次いで「買い物や散歩などに出かけたい」がそれぞれ 45.9%、50.2%となっている。

知的障害者では「買い物や散歩などに出かけたい」が 55.9%と最も多く、次いで「自宅で過ごしたい」が 53.6%となっている。

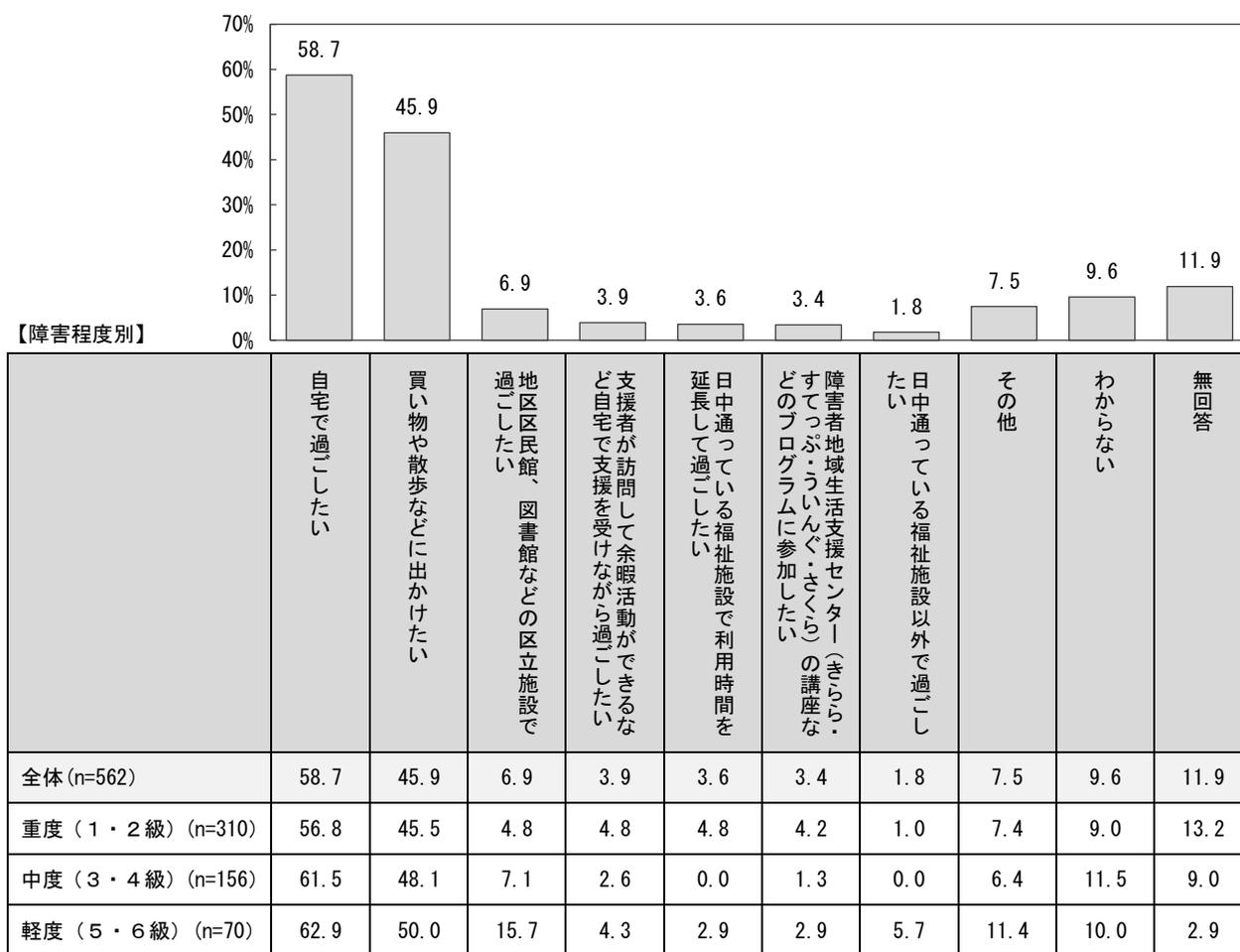
(単位：%)

区 分	身体障害者 (n=562)	知的障害者 (n=442)	精神障害者 (n=452)
障害者地域生活支援センター（きらら・すてっぷ・ういんぐ・さくら）の講座などのプログラムに参加したい	3.4	14.9(3位)	3.3
地区区民館、図書館などの区立施設で過ごしたい	6.9	8.1	8.0
買い物や散歩などに出かけたい	45.9(2位)	55.9(1位)	50.2(2位)
支援者が訪問して余暇活動ができるなど自宅で支援を受けながら過ごしたい	3.9	8.1	3.5
日中通っている福祉施設で利用時間を延長して過ごしたい	3.6	12.7	2.0
日中通っている福祉施設以外で過ごしたい	1.8	10.4	2.0
自宅で過ごしたい	58.7(1位)	53.6(2位)	64.2(1位)
その他	7.5	10.0	10.0(3位)
わからない	9.6(3位)	11.3	8.0
無回答	11.9	5.2	8.4

## 【身体障害者】

障害の程度別にみると、程度にかかわらず「自宅で過ごしたい」が最も多く、障害が軽くなるにつれて多くなっている。

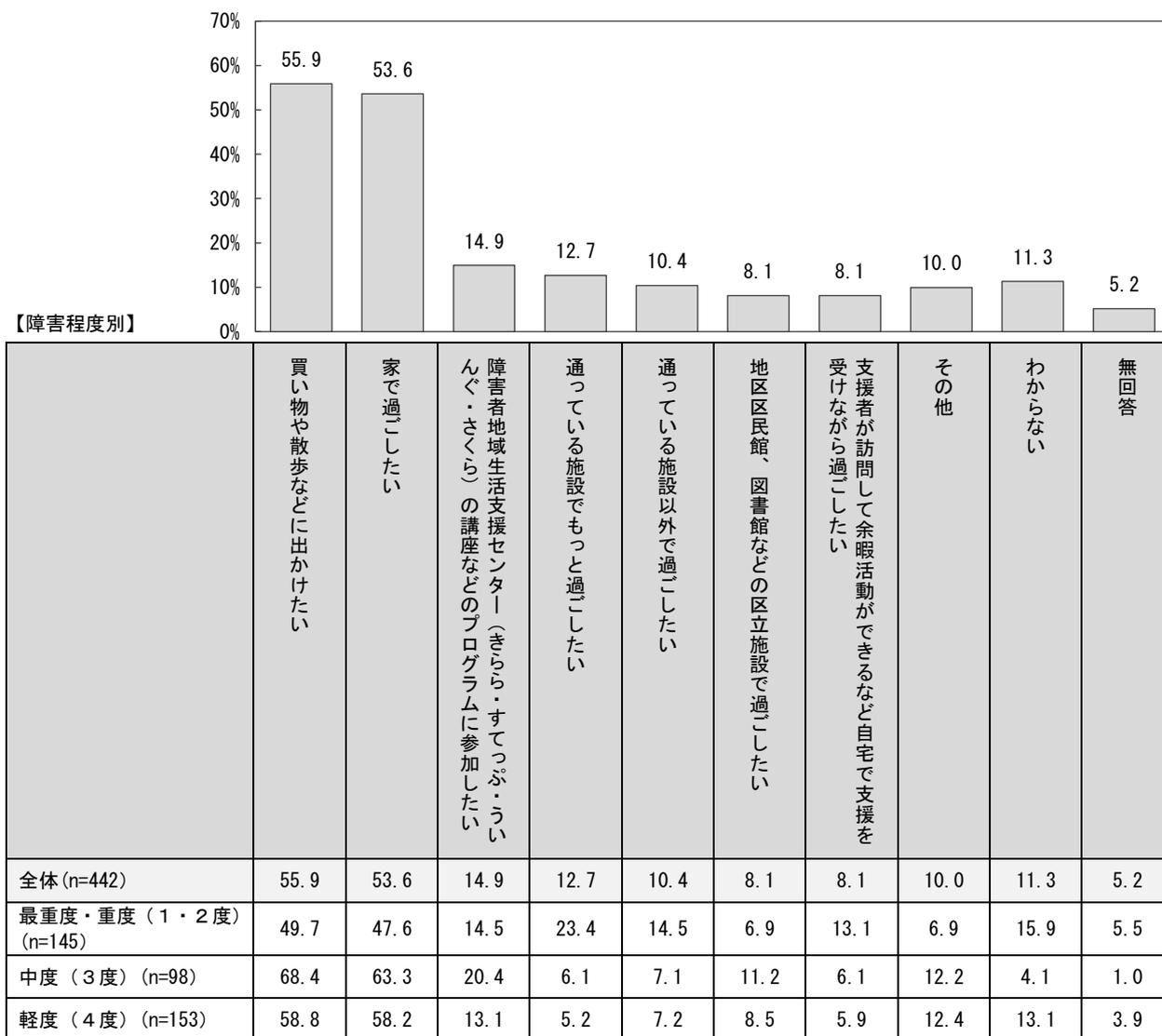
障害の種類別にみると、障害の種類にかかわらず「自宅で過ごしたい」が最も多くなっているが、聴覚障害では「買い物や散歩などに出かけたい」が64.4%と他の障害の種類と比べて多くなっている。



障害の種類	自宅で過ごしたい	買い物や散歩などに出かけたい	地区区民館、図書館などの区立施設で過ごしたい	支援者が訪問して余暇活動ができるなど自宅で支援を受けながら過ごしたい	日中通っている福祉施設で利用時間を延長して過ごしたい	障害者地域生活支援センター(きらら・すてっぷ・ういんぐ・さくら)の講座などのプログラムに参加したい	日中通っている福祉施設以外で過ごしたい	その他	わからない	無回答
視覚障害 (n=81)	53.1	40.7	3.7	1.2	1.2	6.2	0.0	7.4	11.1	16.0
聴覚障害 (n=87)	66.7	64.4	13.8	2.3	1.1	4.6	0.0	9.2	5.7	8.0
平衡機能障害 (n=2)	50.0	50.0	50.0	0.0	50.0	50.0	50.0	50.0	0.0	0.0
音声機能・言語機能・そしやく機能の障害 (n=25)	56.0	44.0	0.0	4.0	0.0	8.0	0.0	4.0	8.0	12.0
肢体不自由 (上肢、下肢等) (n=140)	60.7	47.9	7.1	7.1	6.4	2.1	2.9	11.4	8.6	7.9
肢体不自由 (体幹) (n=40)	45.0	25.0	10.0	12.5	12.5	2.5	5.0	5.0	12.5	20.0
内部障害 (n=156)	62.8	45.5	3.8	0.6	0.0	0.6	0.0	4.5	9.6	10.3
その他 (n=7)	28.6	28.6	14.3	0.0	0.0	0.0	14.3	0.0	42.9	14.3

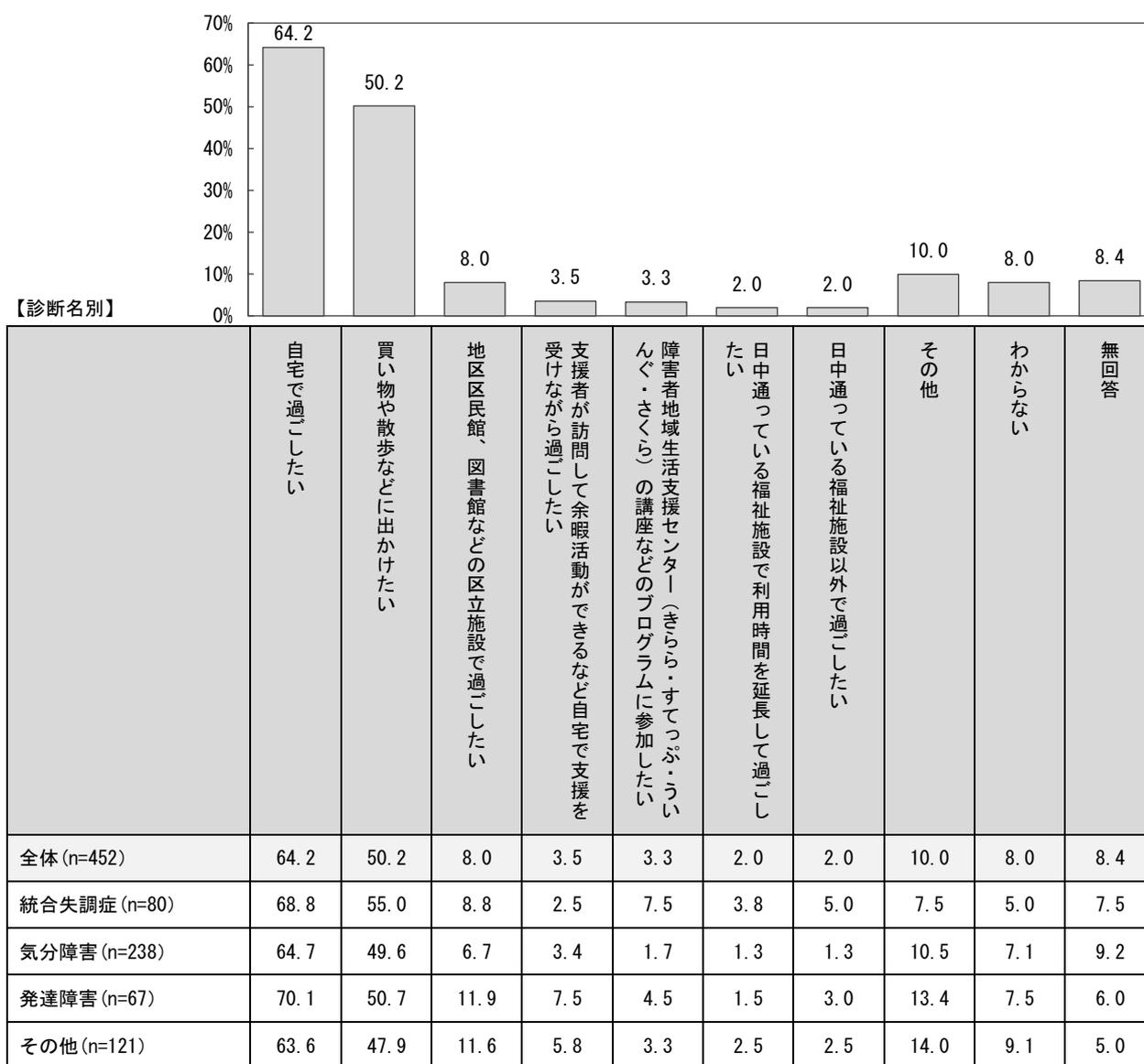
## 【知的障害者】

障害の程度別にみると、障害の程度にかかわらず「買い物や散歩などに出かけたい」が最も多くなっている。最重度・重度（1・2度）では「通っている施設でもっと過ごしたい」が23.4%と中度（3度）、軽度（4度）と比べて多くなっている。



## 【精神障害者】

診断名別にみると、診断にかかわらず「自宅で過ごしたい」が最も多くなっている。特に、発達障害と診断されている人では70.1%と多くなっている。



## 6 外出や社会参加について

### (1) 外出の際の移動手段（複数回答）

外出の際の移動手段について、いずれの障害種別で「徒歩」が身体障害者では62.6%、知的障害者では71.3%、精神障害者では75.4%、難病患者では71.6%、施設入所者では55.1%、児童発達支援事業利用者では87.6%と最も多くなっている。

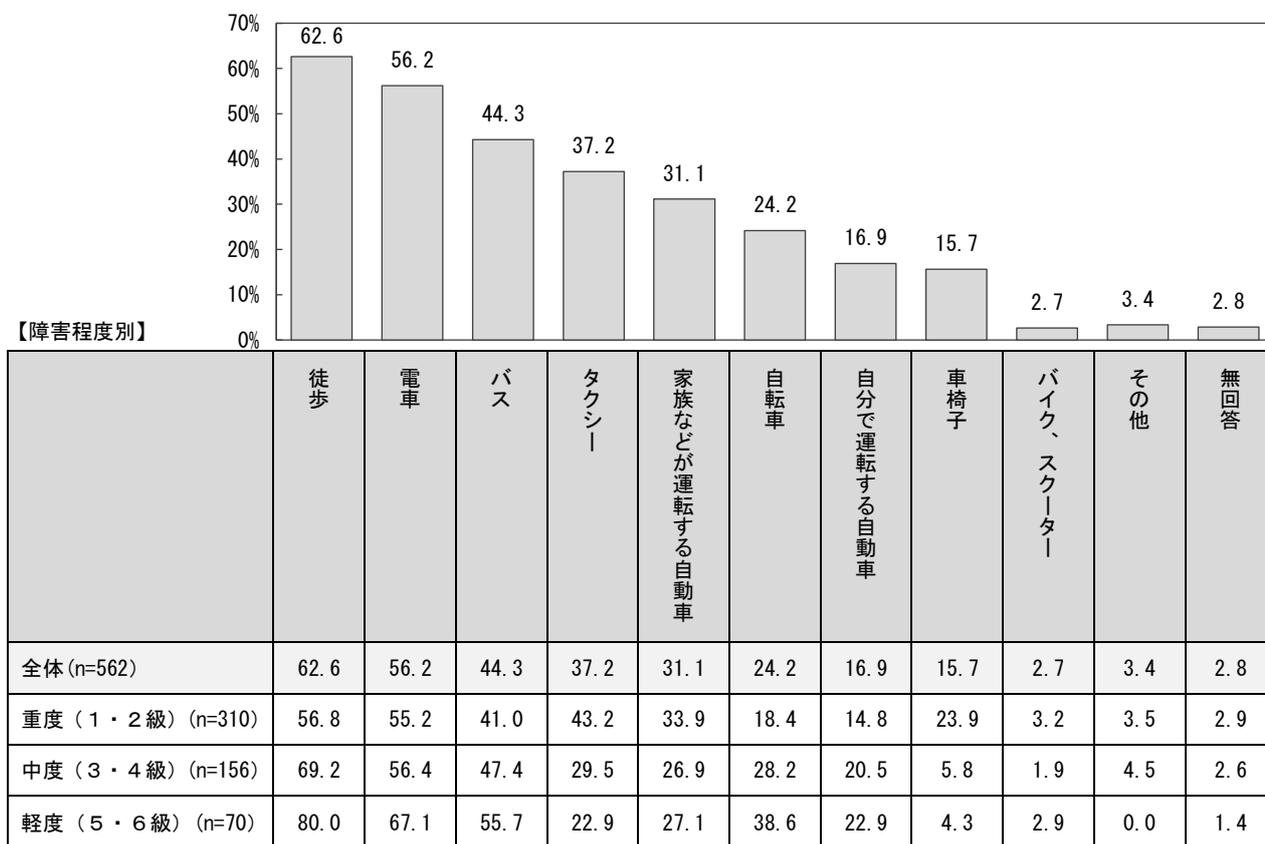
(単位：%)

区分	身体障害者 (n=562)	知的障害者 (n=442)	精神障害者 (n=452)	難病患者 (n=437)	施設入所者 (n=303)	児童発達 支援事業 利用者 (n=153)
徒歩	62.6 (1位)	71.3 (1位)	75.4 (1位)	71.6 (1位)	55.1 (1位)	87.6 (1位)
車椅子	15.7	13.8	3.3	8.5	26.4 (3位)	5.2
自転車	24.2	27.8	44.2	34.1	1.3	77.8 (2位)
バイク、スクーター	2.7	0.2	3.5	2.1	-	0.0
自分で運転する自動車	16.9	0.7	7.7	18.3	-	11.8
家族などが運転する自動車	31.1	52.3	16.2	23.8	51.8 (2位)	51.0
バス	44.3 (3位)	52.5 (3位)	47.6 (3位)	47.6 (3位)	11.2	44.4
電車	56.2 (2位)	63.1 (2位)	63.5 (2位)	63.8 (2位)	13.2	64.7 (3位)
タクシー	37.2	14.3	13.9	26.1	12.5	21.6
その他	3.4	3.6	1.8	2.5	16.2	3.9
無回答	2.8	4.5	7.1	3.2	2.3	1.3

## 【身体障害者】

障害の程度別にみると、障害の程度にかかわらず「徒歩」が最も多くなっているが、障害が重くなるにつれて減少している。

障害の種類別にみると、視覚障害、聴覚障害では「徒歩」がそれぞれ86.4%、77.0%と最も多くなっている。また、聴覚障害では「電車」が73.6%と他の障害の種類と比べて多くなっている。

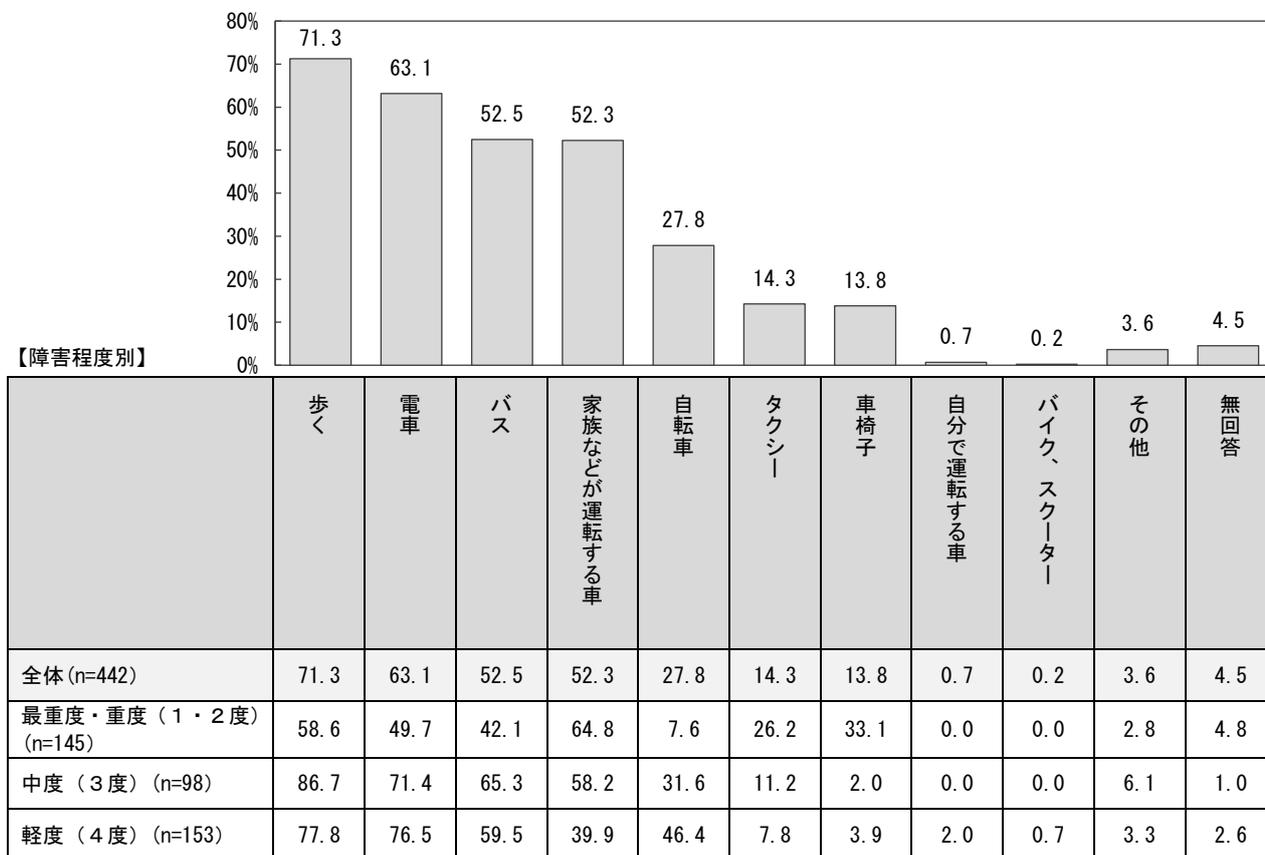


【障害の種類別】

障害の種類別	徒歩	電車	バス	タクシー	家族などが運転する自動車	自転車	自分で運転する自動車	車椅子	バイク、スクーター	その他	無回答
視覚障害 (n=81)	86.4	69.1	55.6	50.6	42.0	7.4	1.2	3.7	0.0	0.0	1.2
聴覚障害 (n=87)	77.0	73.6	56.3	13.8	29.9	51.7	23.0	0.0	2.3	2.3	3.4
平衡機能障害 (n=2)	100	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
音声機能・言語機能・そしやく機能の障害 (n=25)	64.0	56.0	48.0	24.0	20.0	36.0	24.0	12.0	0.0	4.0	8.0
肢体不自由 (上肢、下肢等) (n=140)	48.6	47.1	36.4	35.0	37.9	17.9	17.1	32.1	1.4	3.6	0.0
肢体不自由 (体幹) (n=40)	30.0	37.5	25.0	50.0	37.5	5.0	5.0	42.5	0.0	5.0	5.0
内部障害 (n=156)	67.3	56.4	46.2	46.2	20.5	26.9	26.3	7.1	7.1	3.8	2.6
その他 (n=7)	28.6	42.9	42.9	14.3	14.3	14.3	14.3	28.6	0.0	14.3	14.3

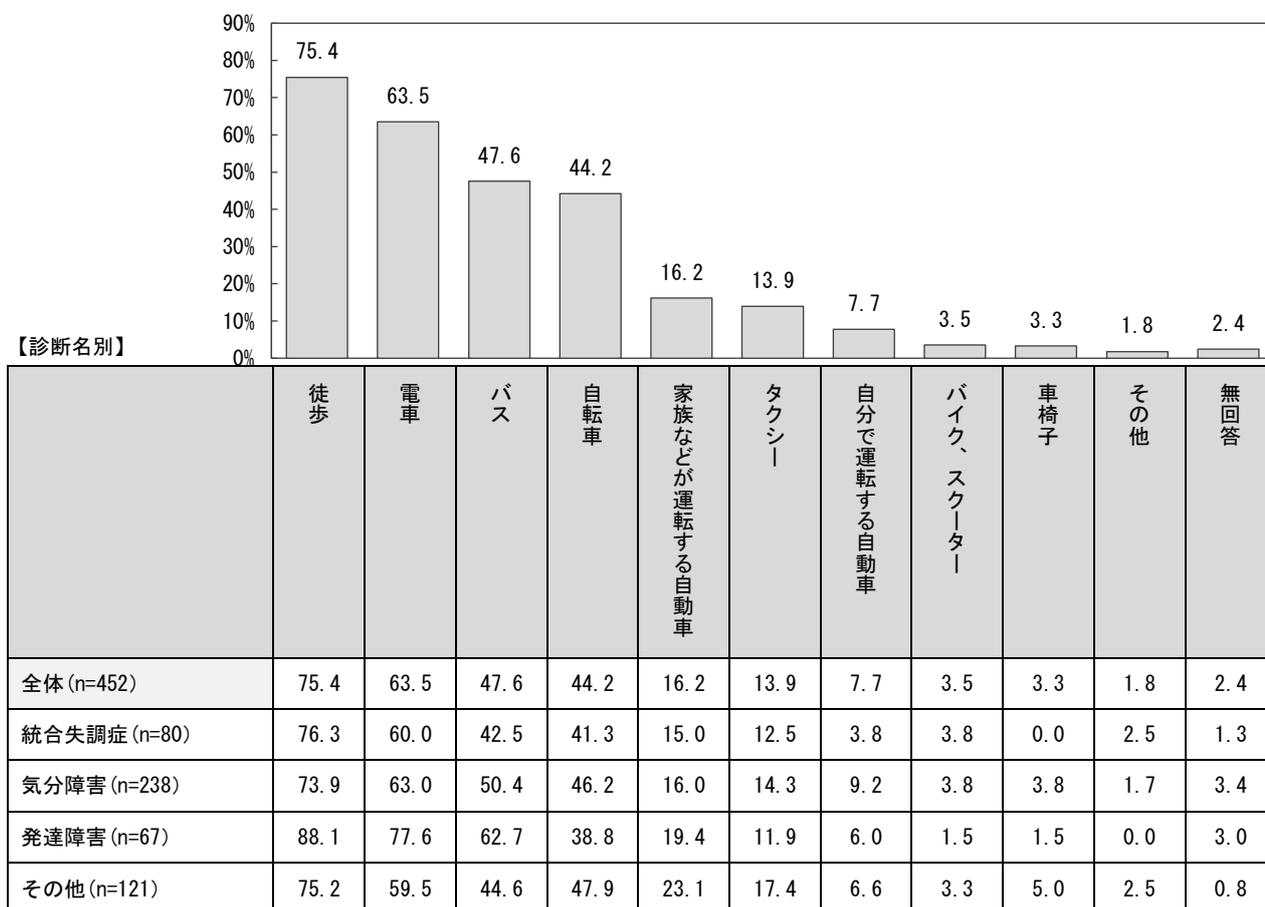
## 【知的障害者】

障害の程度別にみると、最重度・重度（1・2級）では「家族などが運転する車」が64.8%と最も多く、中度（3級）、軽度（4級）では「歩く」がそれぞれ86.7%、77.8%と最も多くなっている。



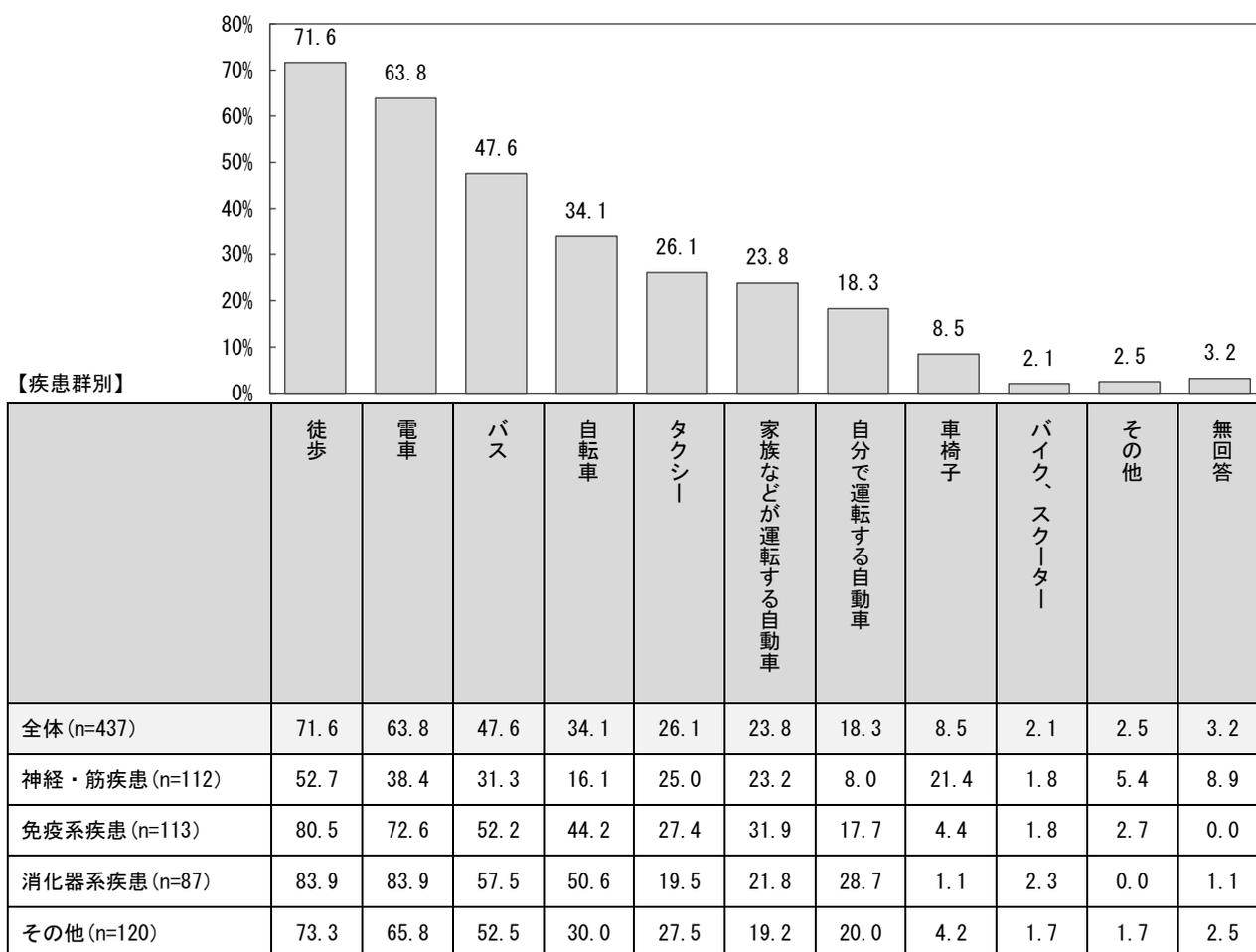
## 【精神障害者】

診断名別にみると、診断にかかわらず「徒歩」が最も多く、統合失調症と診断されている人では 76.3%、気分障害と診断されている人では 73.9%、発達障害と診断されている人では 88.1%となっている。



## 【難病患者】

疾患群別にみると、神経・筋疾患、免疫系疾患では「徒歩」がそれぞれ 52.7%、80.5%と最も多くなっている。消化器系疾患では「徒歩」と「電車」がともに 83.9%と最も多くなっている。



## (2) 外出の際に困っていること（複数回答）

外出の際に困っていることは、いずれの障害種別においても「特に困っていることはない」が最も多くなっているが、身体障害者、難病患者では「建物などに段差が多く、利用しにくい」がそれぞれ 19.6%、14.4%、知的障害者、施設入所者では「他人との会話が難しい」がそれぞれ 25.1%、24.1%、精神障害者では「他人の視線が気になる」が 18.1%、児童発達支援事業利用者では「電車やバスなどが利用しづらい」が 20.3%となっている。

(単位：%)

区 分	身体障害者 (n=562)	知的障害者 (n=442)	精神障害者 (n=452)	難病患者 (n=437)	施設入所者 (n=303)	児童発達 支援事業 利用者
付き添ってくれる人がいない	9.1	11.1	9.5	4.8	13.9 (3位)	19.6 (3位)
他人との会話が難しい	13.7 (3位)	25.1 (2位)	12.6 (3位)	2.7	24.1 (2位)	19.6 (3位)
他人の視線が気になる	6.0	13.8 (3位)	18.1 (2位)	3.7	7.6	
必要なときに、周りの人の手助け・配慮が足りない	8.0	6.1	9.3	4.8	4.3	10.5
歩道が狭く、放置自転車などの障害物が多いなど、歩道が歩きにくい	17.1	10.9		12.6	9.9	15.7
建物などに段差が多く、利用しにくい	19.6 (2位)	10.0		14.4 (2位)	13.5	8.5
車を駐車するところがない	9.1	8.6		7.1	4.0	12.4
気軽に利用できる移動手段が少ない	9.3	11.8		7.3	10.9	9.8
電車やバスなどが利用しづらい	11.7	13.6		13.3 (3位)	13.9 (3位)	20.3 (2位)
障害者用のトイレ(オストメイト対応、大人用ベッド含む)が少ない	11.2	13.3		8.7	11.6	7.8
その他	8.9	6.1	10.0	7.1	5.9	7.2
特に困っていることはない	36.1 (1位)	37.1 (1位)	55.8 (1位)	48.3 (1位)	31.4 (1位)	35.3 (1位)
無回答	8.5	7.2	7.1	9.2	9.9	3.3

【前回調査との比較】

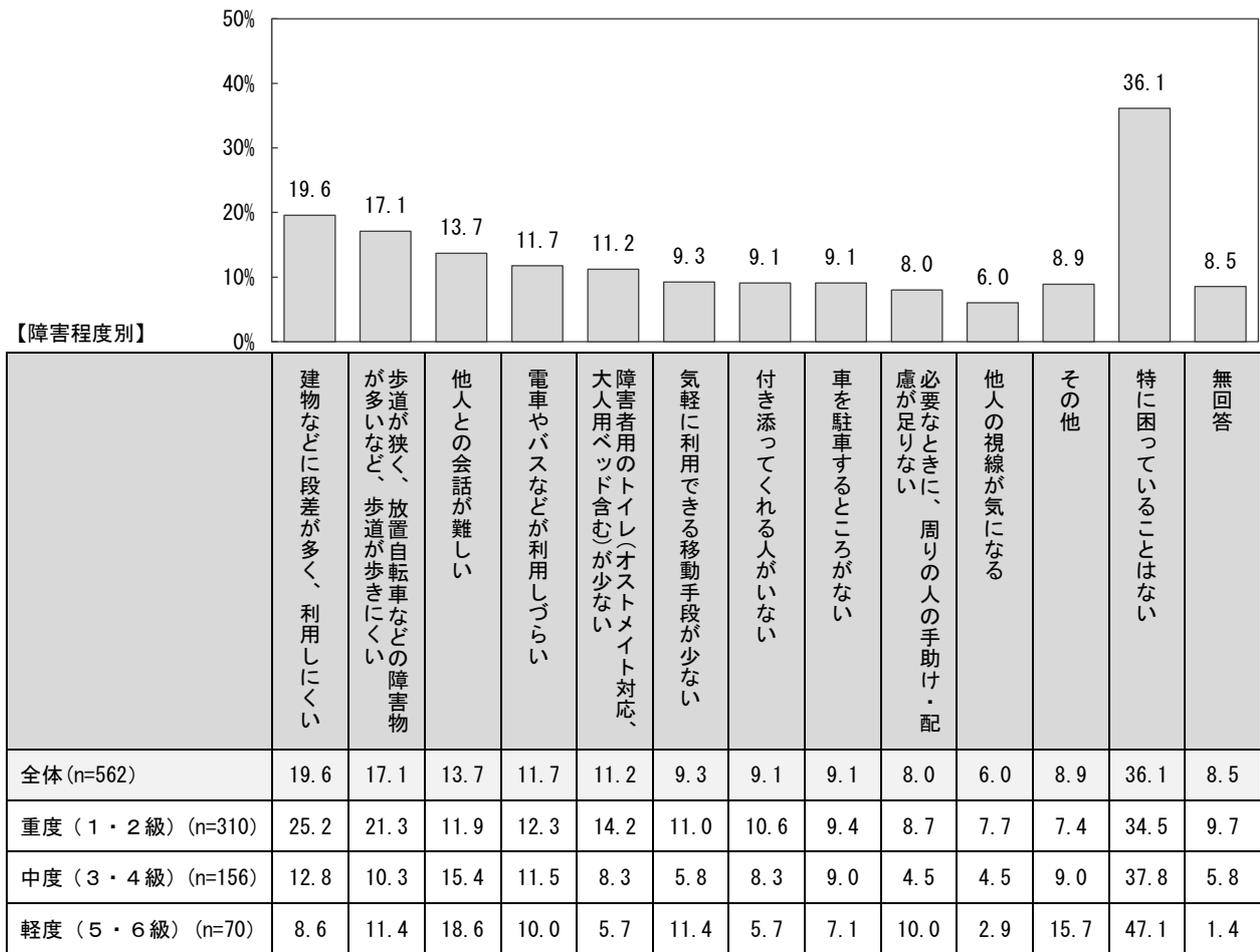
(単位：%)

区分		1位	2位	3位
身体障害者	今回 (n=562)	特に困っている ことはない (36.1)	建物などに段差 が多く、利用し にくい (19.6)	歩道が狭く、放置 自転車などの障害 物が多いなど、歩 道が歩きにくい (17.1)
	前回 (n=659)	特に困っている ことはない (30.7)	歩道が狭く、放 置自転車などの 障害物が多いな ど、歩道が歩き にくい (24.6)	建物などに段差が 多く、利用しにく い (23.5)
知的障害者	今回 (n=442)	特に困っている ことはない (37.1)	他人との会話が 難しい (25.1)	他人の視線が気 になる (13.8)
	前回 (n=474)	他人との会話が 難しい (31.4)	特に困っている ことはない (27.8)	障害者用のトイレ が少ない (20.0)
精神障害者	今回 (n=452)	特に困っている ことはない (55.8)	他人の視線が気 になる (18.1)	他人との会話が難 しい (12.6)
	前回 (n=451)	特に困っている ことはない (46.8)	他人の視線が気 になる (25.9)	他人との会話が難 しい (17.1)
難病患者	今回 (n=437)	特に困っている ことはない (48.3)	建物などに段差 が多く、利用し にくい (14.4)	電車やバスなどが 利用しづらい (13.3)
	前回 (n=475)	特に困っている ことはない (39.2)	障害者用のトイレ が少ない (19.8)	建物などに段差が 多く、利用しにく い (19.4)
施設入所者	今回 (n=303)	特に困っている ことはない (31.4)	他人との会話が 難しい (24.1)	電車やバスなどが 利用しづらい (13.9)
	前回 (n=105)	特に困っている ことはない (29.5)	他人との会話が 難しい (25.7)	気軽に利用できる 移動手段が少ない (22.9)
児童発達 支援事業 利用者	今回 (n=153)	特に困っている ことはない (35.3)	電車やバスなど が利用しづらい (20.3)	付き添ってくれる 人がいない/他人と の会話が難しい (同率 19.6)
	前回 (n=127)	特に困っている ことはない (33.1)	他人の視線が気 になる (32.3)	電車やバスなどが 利用しづらい (26.0)

## 【身体障害者】

障害の程度別にみると、重度（1・2級）では「建物などに段差が多く、利用しにくい」が25.2%、次いで「歩道が狭く、放置自転車などの障害物が多いなど、歩道が歩きにくい」が21.3%となっている。なお、「特に困っていることはない」と回答した人は、障害が軽い人ほど多く、軽度（5度・6度）では47.1%となっている。

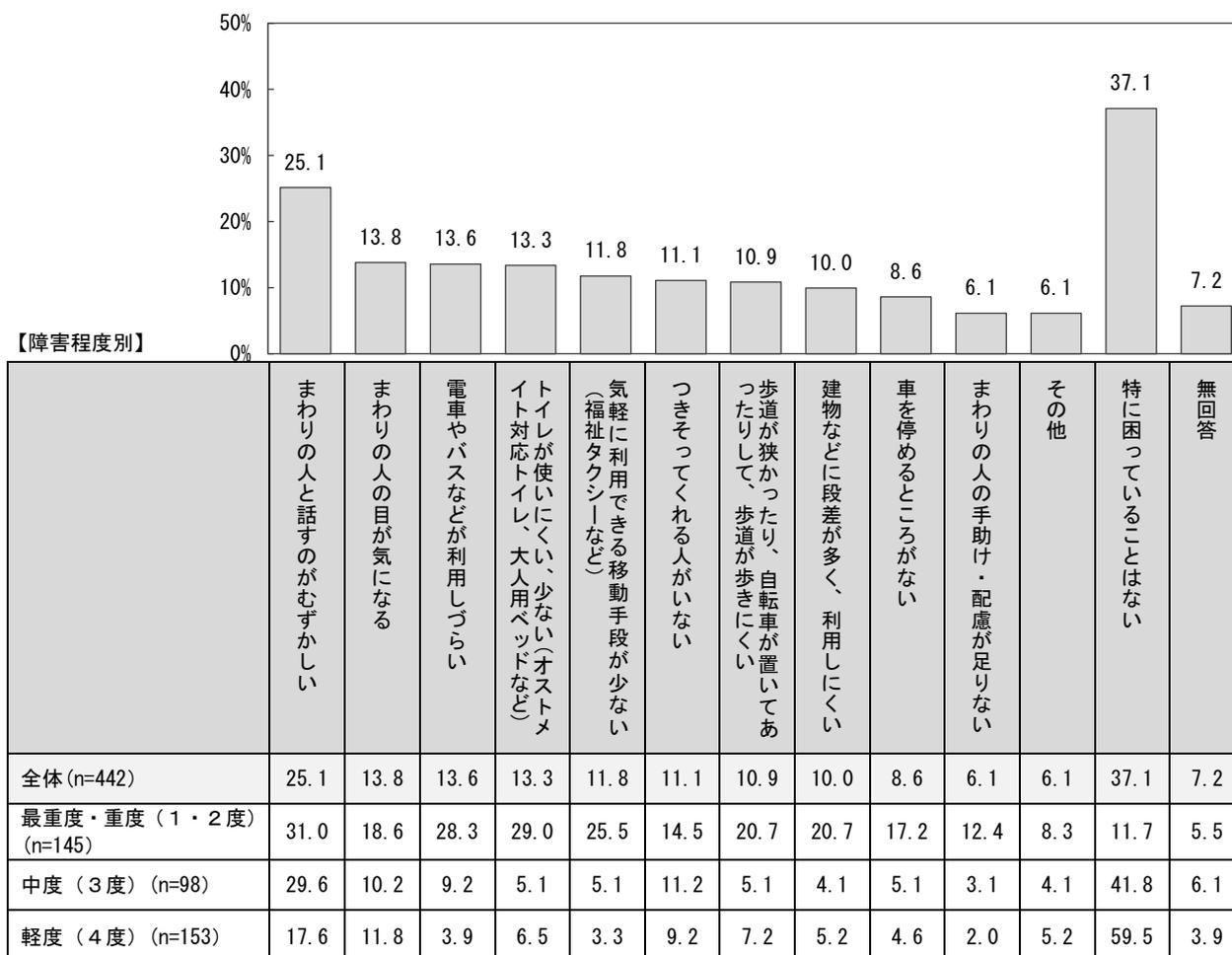
障害の種類別にみると、視覚障害では「歩道が狭く、放置自転車などの障害物が多いなど、歩道が歩きにくい」が33.3%となっている。また、聴覚障害では「他人との会話が難しい」が44.8%と最も多くなっている。



障害の種類	建物などに段差が多く、利用しにくい	歩道が狭く、放置自転車などの障害物が多いなど、歩道が歩きにくい	他人との会話が難しい	電車やバスなどが利用しづらい	障害者用のトイレ(オストメイト対応、大人用ベッド含む)が少ない	気軽に利用できる移動手段が少ない	付き添ってくれる人がいない	車を駐車するところがない	慮が足りない	必要なときに、周りの人の手助け・配慮が足りない	他人の視線が気になる	その他	特に困っていることはない	無回答
視覚障害 (n=81)	25.9	33.3	8.6	9.9	4.9	7.4	16.0	2.5	11.1	4.9	9.9	33.3	8.6	
聴覚障害 (n=87)	2.3	3.4	44.8	6.9	2.3	2.3	4.6	2.3	9.2	5.7	9.2	35.6	5.7	
平衡機能障害 (n=2)	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	
音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害 (n=25)	4.0	4.0	40.0	0.0	0.0	0.0	8.0	0.0	0.0	4.0	4.0	44.0	12.0	
肢体不自由（上肢、下肢等） (n=140)	35.0	31.4	7.1	19.3	23.6	18.6	9.3	23.6	10.7	7.9	12.1	25.0	2.9	
肢体不自由（体幹） (n=40)	25.0	10.0	15.0	27.5	20.0	12.5	25.0	7.5	15.0	10.0	2.5	20.0	17.5	
内部障害 (n=156)	10.3	6.4	1.9	7.1	7.1	5.8	4.5	5.8	1.3	3.2	7.1	53.8	9.6	
その他 (n=7)	28.6	28.6	14.3	14.3	14.3	0.0	14.3	0.0	14.3	14.3	14.3	42.9	14.3	

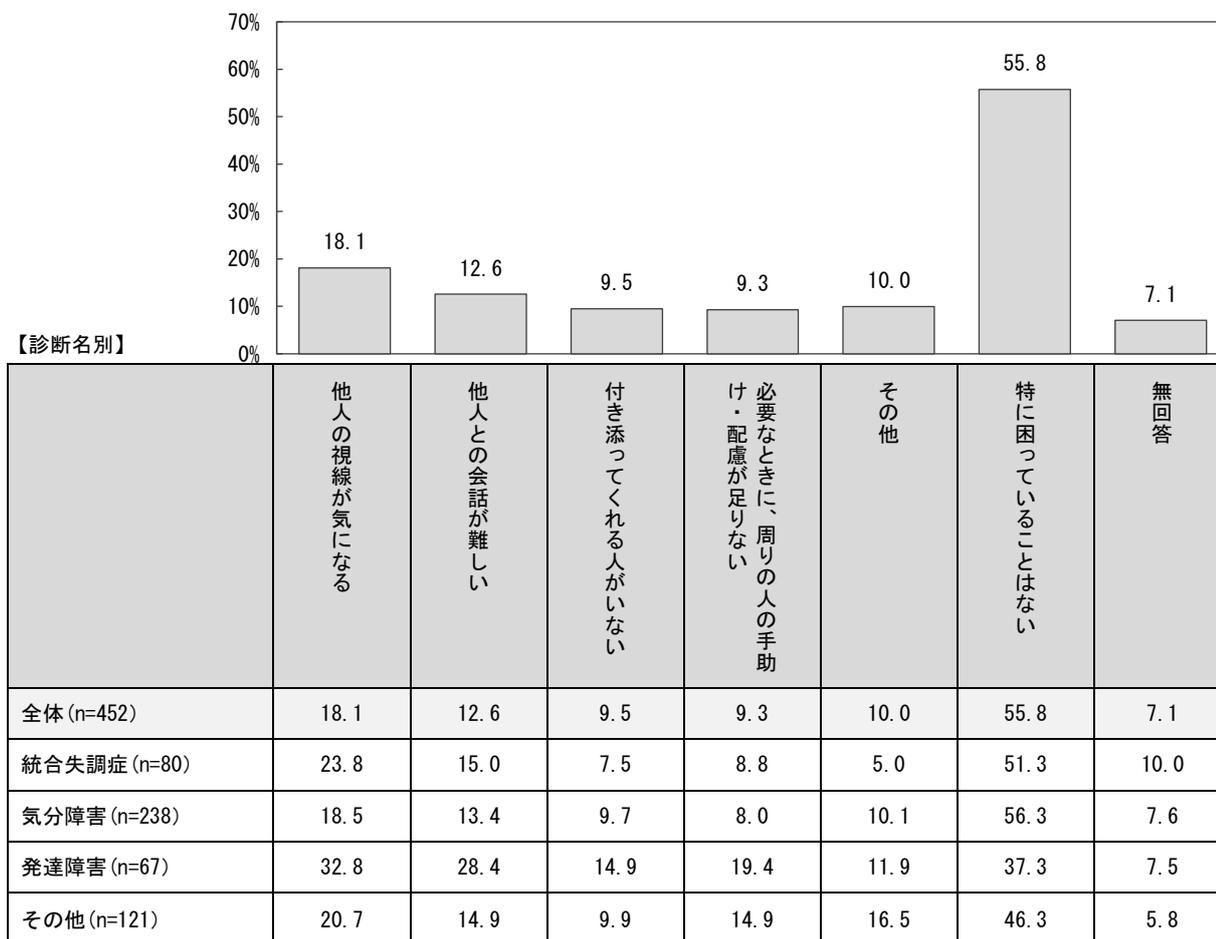
## 【知的障害者】

障害の程度別にみると、最重度・重度（1・2度）では「まわりの人と話すのがむずかしい」が31.0%と最も多く、次いで「トイレが使いにくい、少ない」が29.0%、「電車やバスなどが利用しづらい」が28.3%となっている。中度（3度）と軽度（4度）では「特に困っていることはない」がそれぞれ41.8%、59.5%と多くなっている。



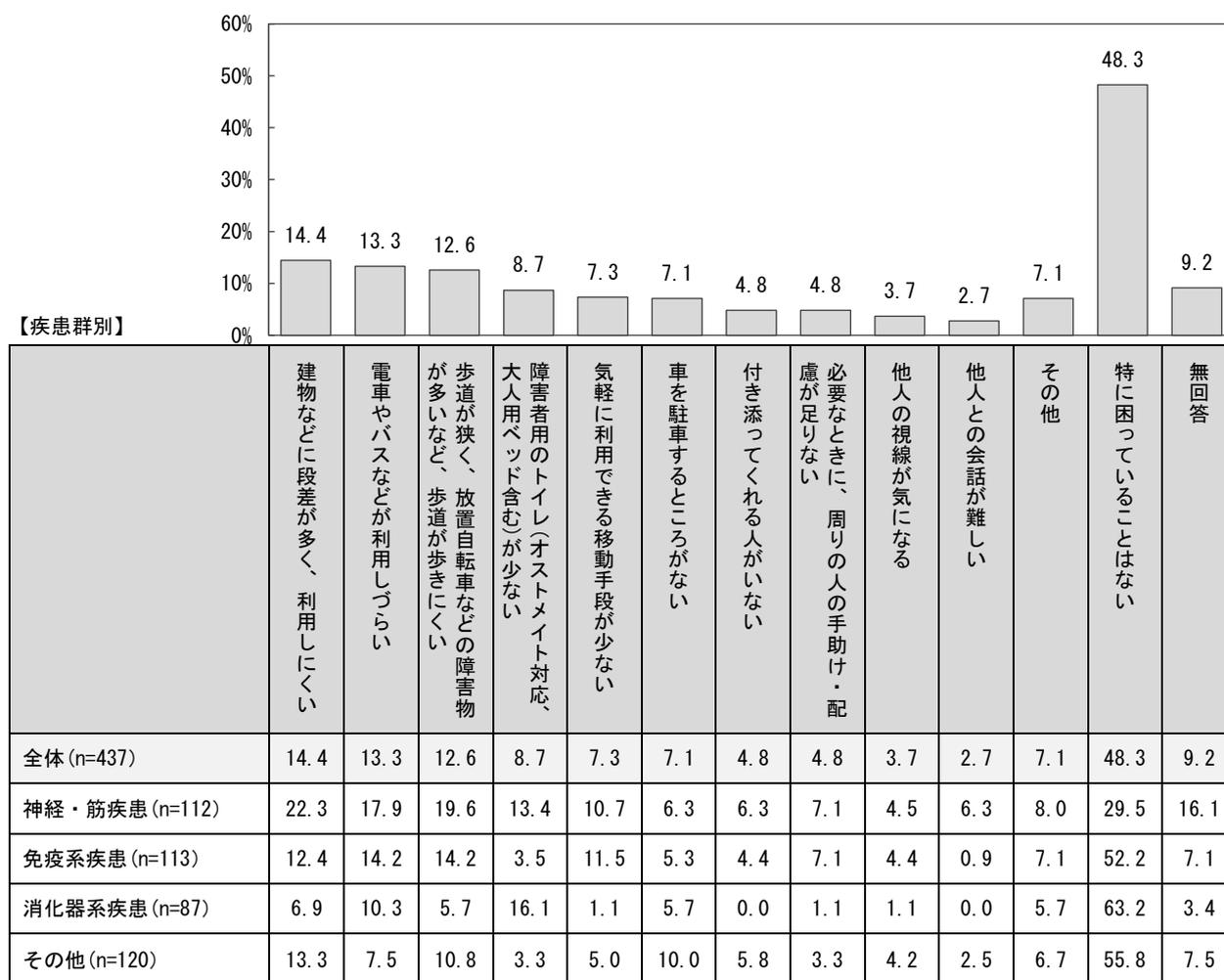
## 【精神障害者】

診断名別にみると、発達障害と診断されている人では「他人の視線が気になる」が 32.8%、「他人との会話が難しい」が 28.4%となっており、それぞれ統合失調症、気分障害と診断されている人に比べて多くなっている。



## 【難病患者】

疾患群別にみると、神経・筋疾患では「建物などに段差が多く、利用しにくい」が22.3%となっている。免疫系疾患、消化器系疾患では「特に困っていることはない」がそれぞれ52.2%、63.2%となっている。



### (3) 今後してみたい活動（複数回答）

今後してみたい活動は、身体障害者、知的障害者、難病患者、施設入所者では「旅行」が最も多くなっている。精神障害者では「個人的な趣味や学習の活動」が39.4%、児童発達支援事業利用者では「旅行」、「個人的な趣味や学習の活動」がともに73.2%と最も多くなっている。

(単位：%)

区 分	身体障害者 (n=562)	知的障害者 (n=442)	精神障害者 (n=452)	難病患者 (n=437)	施設入所者 (n=303)	児童発達 支援事業 利用者(n=153)
文化芸術活動	12.3	12.9	16.4	15.6	9.2	47.1
スポーツ・レクリエーション	16.4	35.5 (2位)	18.4	20.1 (3位)	21.5	71.9 (3位)
旅行	41.3 (1位)	51.4 (1位)	34.1 (2位)	47.1 (1位)	39.6 (1位)	73.2 (1位)
ボランティア活動	6.9	5.7	7.5	8.9	2.0	
障害者団体の活動	6.6	8.8	5.3	7.1	4.3	
趣味などのサークル活動	14.8	22.9	18.6	15.6	8.6	
個人的な趣味や学習の活動	31.1 (2位)	30.5 (3位)	39.4 (1位)	45.3 (2位)	17.5	73.2 (1位)
講座や講演会などへの参加	11.0	3.6	10.8	13.5	2.3	
地域の行事やお祭	9.6	23.3	6.0	8.7	23.4 (2位)	60.1
その他	4.4	3.8	5.8	3.2	8.3	6.5
特に活動したくない	22.4 (3位)	14.5	26.1 (3位)	18.5	23.4 (2位)	0.7
無回答	9.8	9.0	6.9	6.9	6.3	2.0

### (4) 活動に参加するために必要な支援（複数回答）

希望する活動に参加するために必要な支援は、身体障害者では「障害のある方に配慮した施設や設備があること」が30.8%と最も多くなっている。

知的障害者では「介助者・援助者がいること」が45.7%と最も多くなっている。

精神障害者では「活動する場所が近くにあること」が29.6%と最も多くなっている。

難病患者では「活動についての情報が提供されること」が28.6%と最も多くなっている。

施設入所者では「介助者・援助者がいること」が47.5%と最も多くなっている。

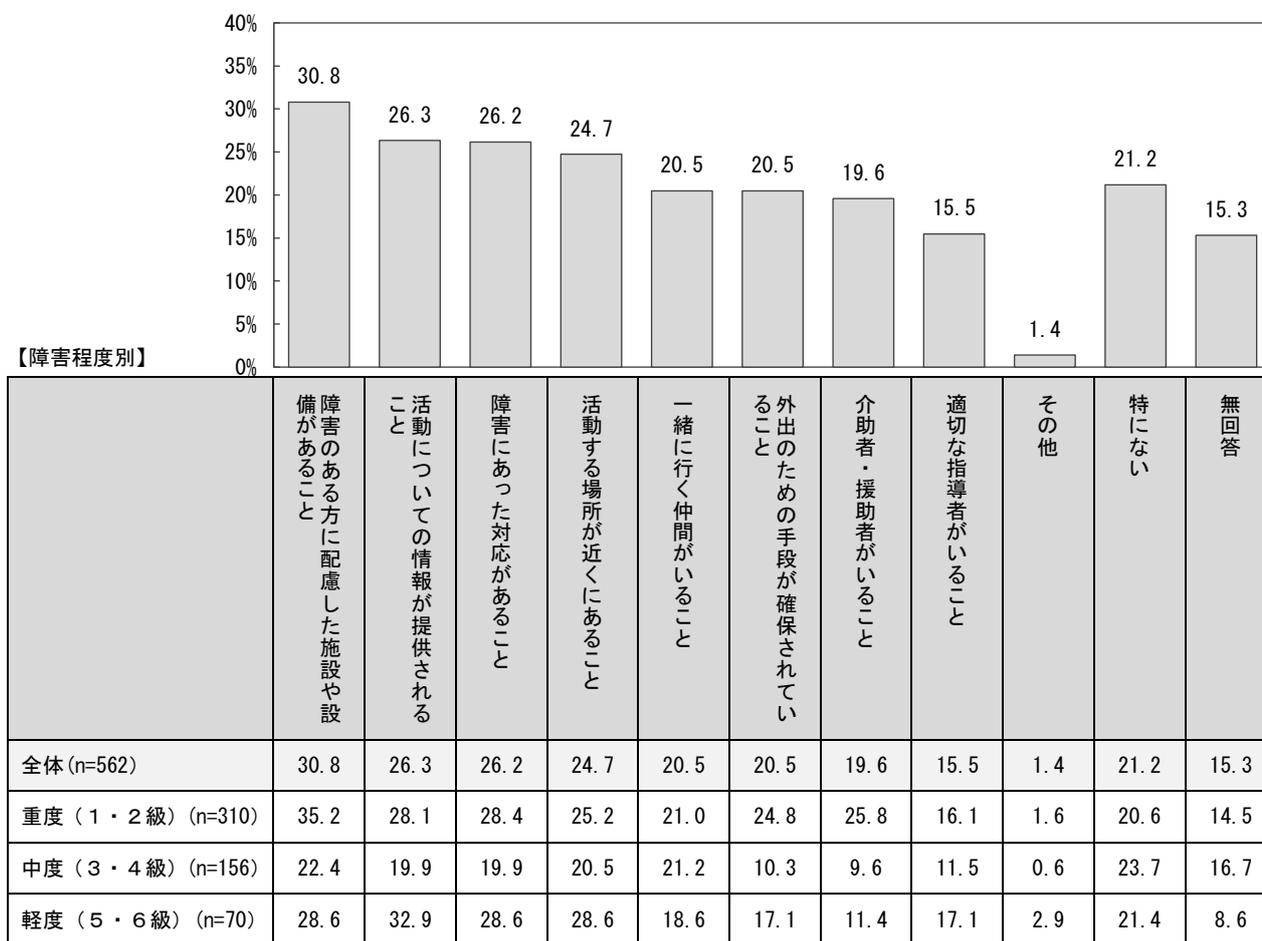
児童発達支援事業利用者では「活動する場所が近くにあること」が67.3%と最も多くなっている。

(単位：%)

区 分	身体障害者 (n=562)	知的障害者 (n=442)	精神障害者 (n=452)	難病患者 (n=437)	施設入所者 (n=303)	児童発達 支援事業 利用者(n=153)
活動についての情報が提供されること	26.3 (2位)	32.1	28.3 (3位)	28.6 (1位)	14.5	64.7 (2位)
一緒に行く仲間がいること	20.5	31.7	20.6	19.5	17.5	32.0
活動する場所が近くにあること	24.7	35.7	29.6 (1位)	28.4 (2位)	14.9	67.3 (1位)
外出のための手段が確保されていること	20.5	33.9	15.0	15.1	36.0 (2位)	30.7
障害にあった対応があること	26.2 (3位)	43.4 (2位)	21.7	17.2	33.7 (3位)	
適切な指導者がいること	15.5	37.6 (3位)	19.7	11.4	20.5	52.9 (3位)
障害のある方に配慮した施設や設備があること	30.8 (1位)	32.8	20.4	21.1	28.4	
介助者・援助者がいること	19.6	45.7 (1位)	12.8	8.5	47.5 (1位)	28.8
その他	1.4	2.3	5.1	1.1	3.6	3.9
特にない	21.2	12.7	28.8 (2位)	23.6 (3位)	16.2	5.9
無回答	15.3	9.3	12.2	15.1	9.9	2.0

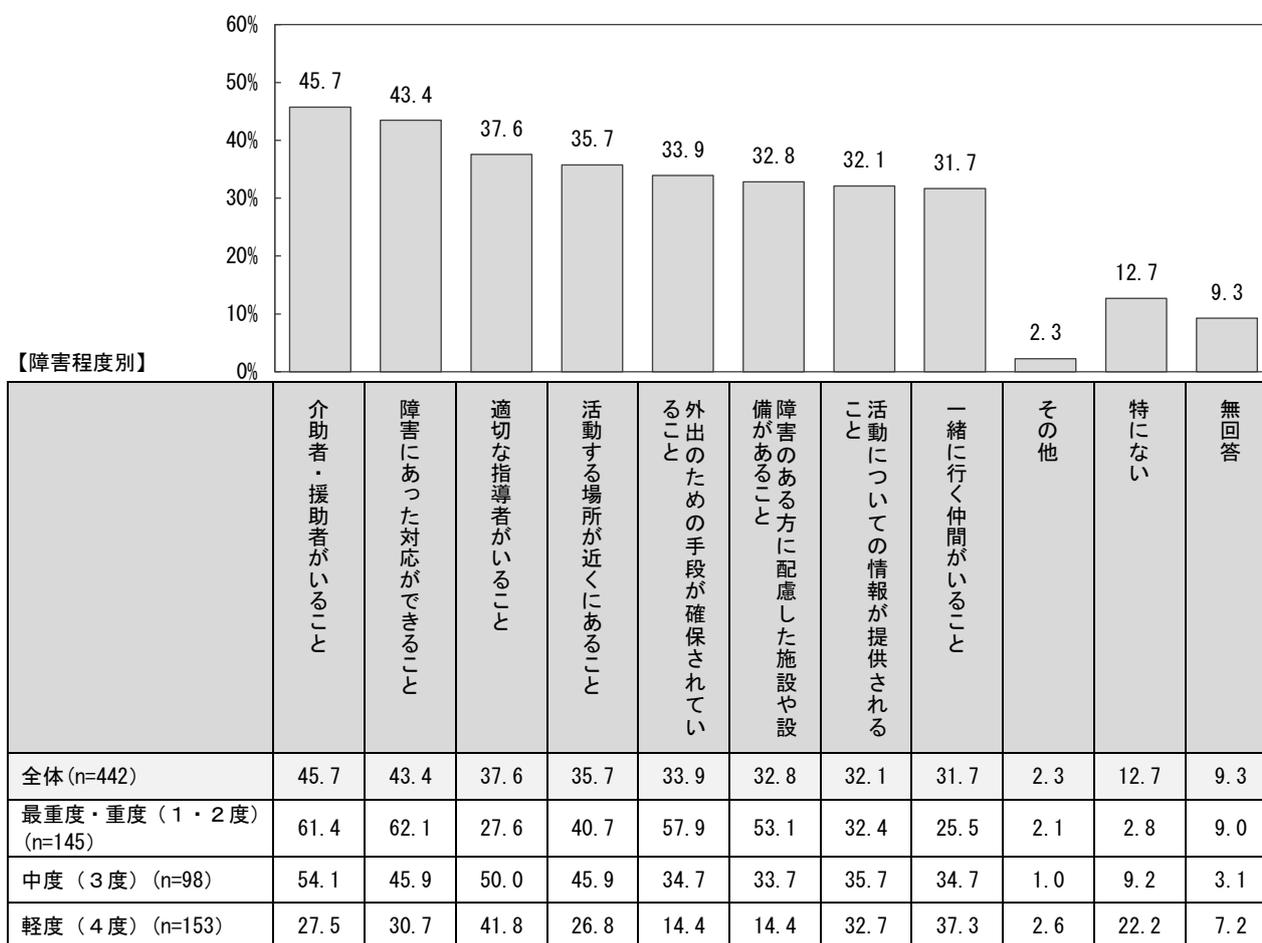
## 【身体障害者】

障害の程度別にみると、重度（1・2級）では「障害のある方に配慮した施設や設備があること」が35.2%と最も多く、軽度（5・6級）では「活動についての情報が提供されること」が32.9%と最も多くなっている。



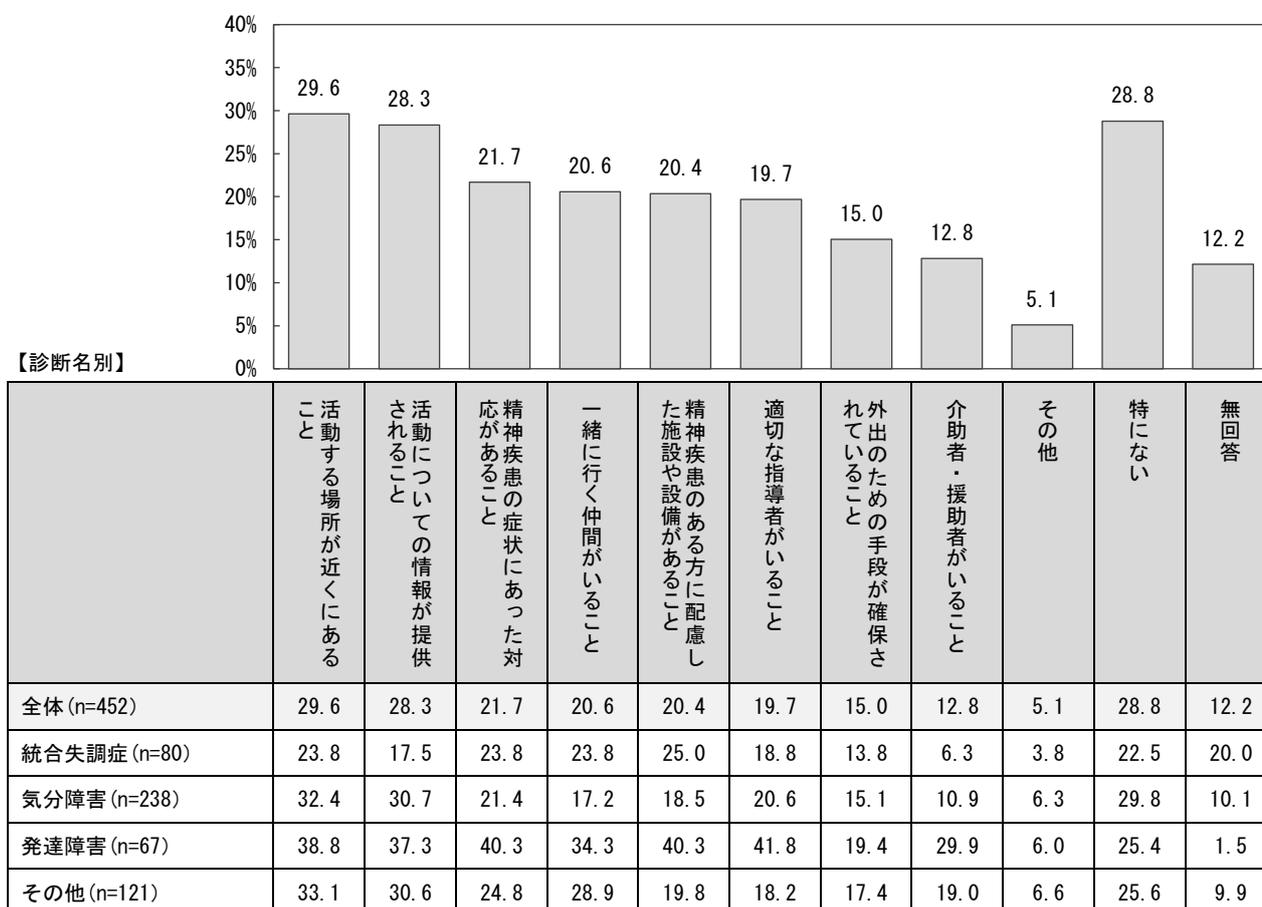
## 【知的障害者】

障害の程度別にみると、最重度・重度（1・2度）では「障害にあった対応ができること」が 62.1%、中度（3度）では「介助者・援助者がいること」が 54.1%と最も多く、軽度（4度）では「適切な指導者がいること」が 41.8%と最も多くなっている。



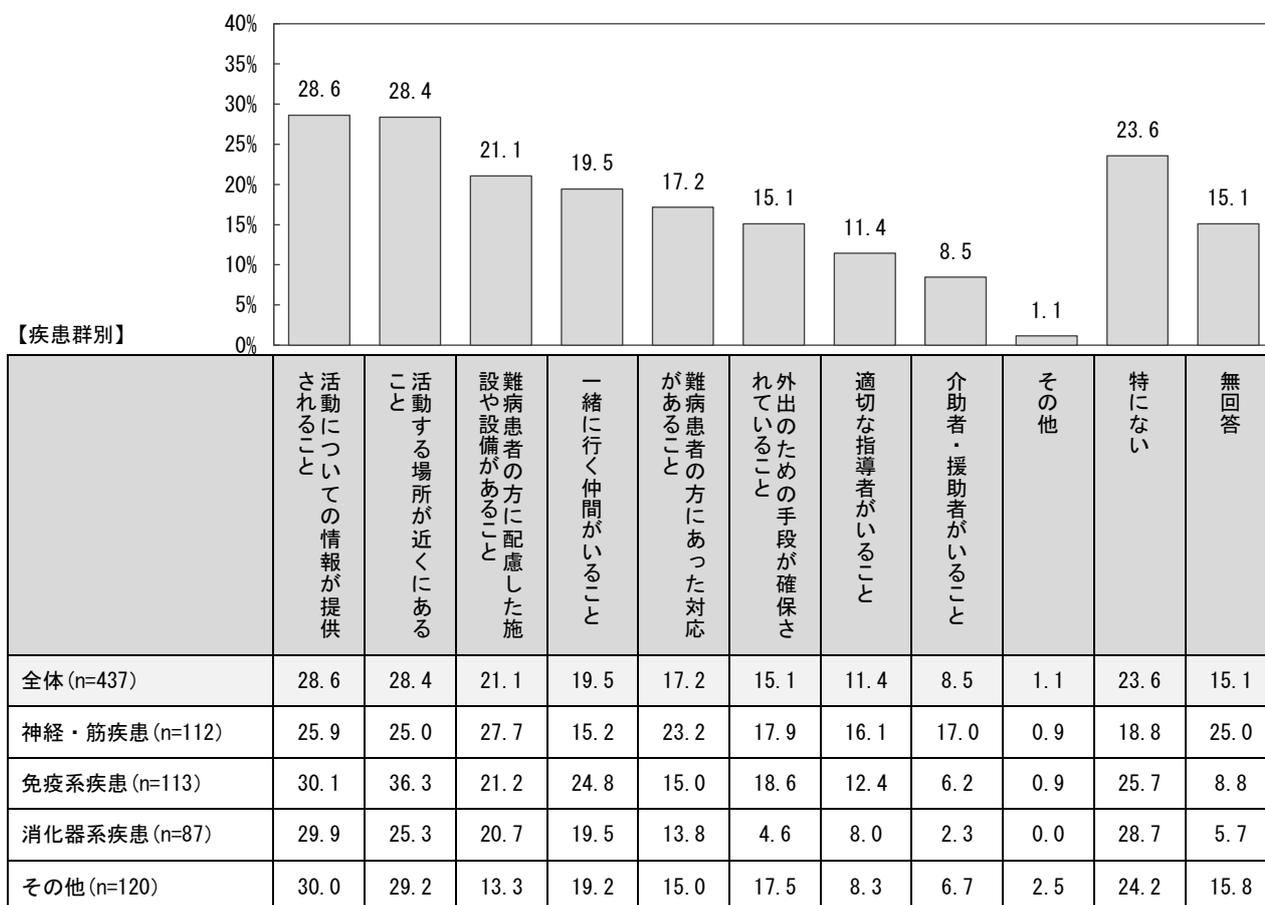
## 【精神障害者】

診断名別にみると、気分障害と診断されている人では「活動する場所が近くにあること」が32.4%と最も多く、発達障害と診断されている人では「適切な指導者がいること」が41.8%と最も多くなっている。



## 【難病患者】

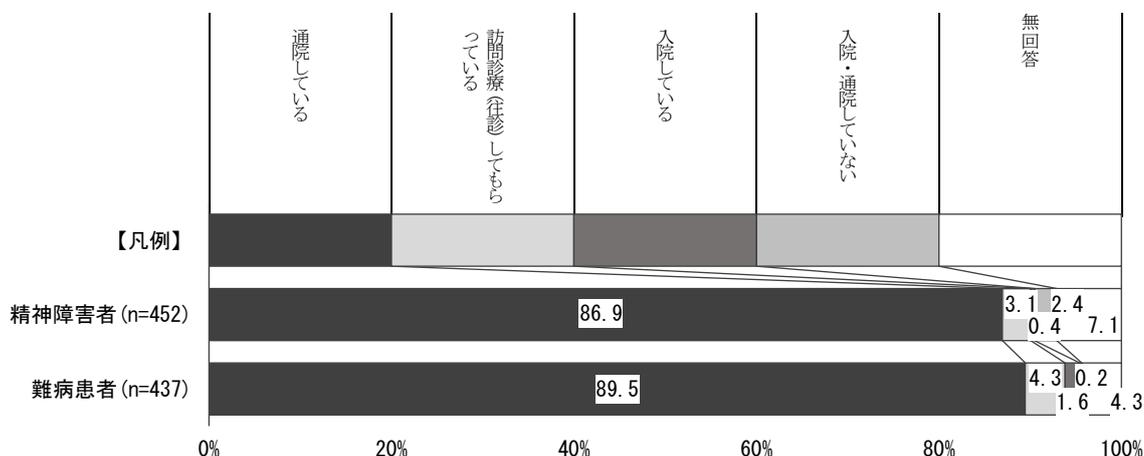
疾患群別にみると、神経・筋疾患では「難病患者の方に配慮した施設や設備があること」が27.7%、免疫系疾患では「活動する場所が近くにあること」が36.3%、消化器系疾患では「活動についての情報が提供されること」が29.9%と最も多くなっている。



## 7 健康状況や医療について

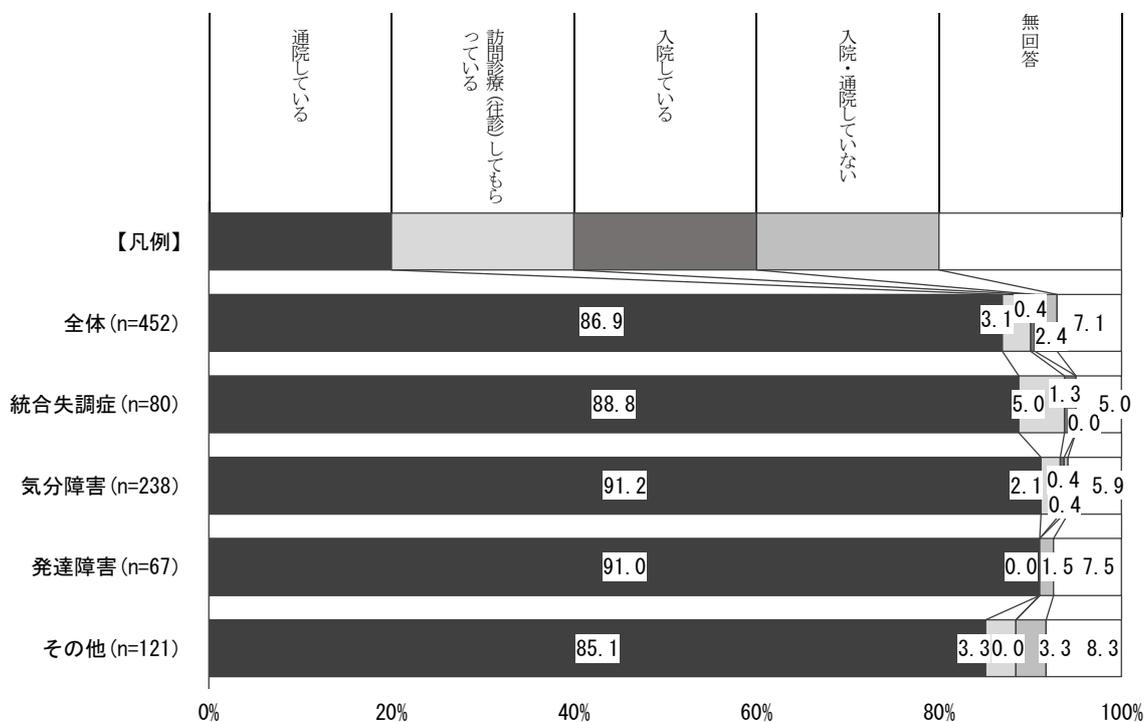
### (1) 医療の受診状況

医療の受診形態で「通院している」人は、精神障害者では 86.9%、難病患者では 89.5% となっている。なお、精神障害者は自立支援医療制度（精神通院）利用者、難病患者は難病医療費助成利用者を調査対象としている。



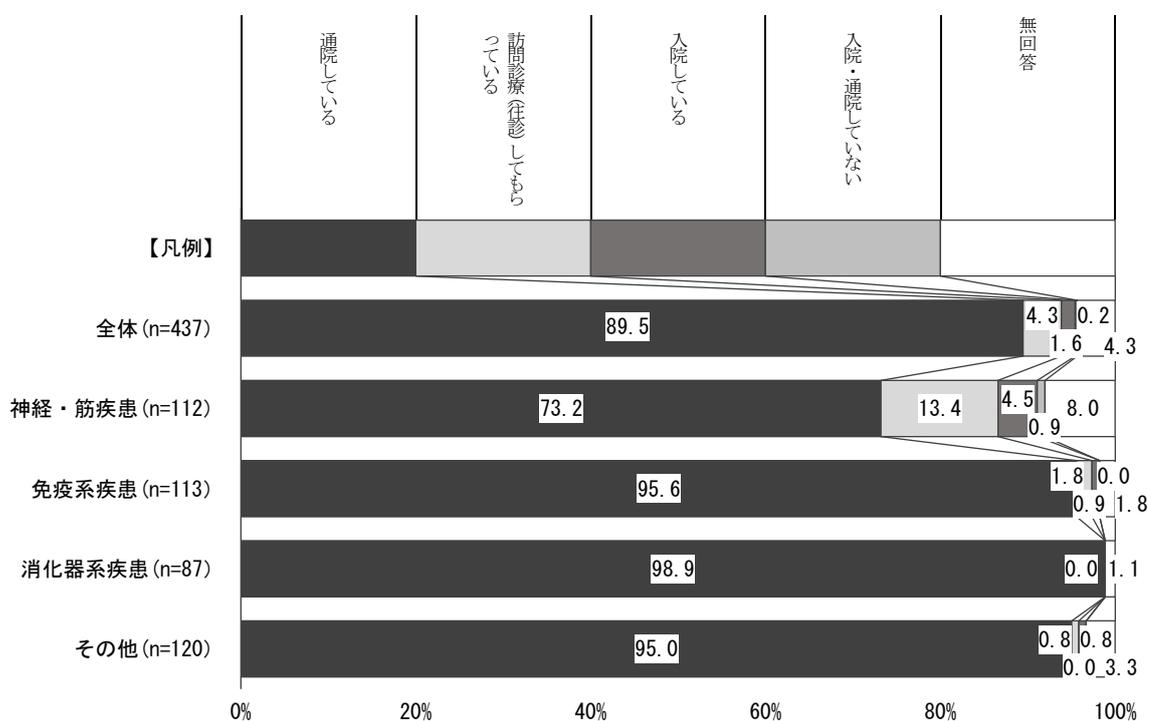
### 【精神障害者】

診断名別にみると、「通院している」人は統合失調症と診断されている人では 88.8%、気分障害と診断されている人では 91.2%、発達障害と診断されている人では 91.0% となっている。



## 【難病患者】

疾患群別にみると、「通院している」人は神経・筋疾患では73.2%、免疫系疾患では95.6%、消化器系疾患では98.9%となっている。



## 【前回調査との比較】

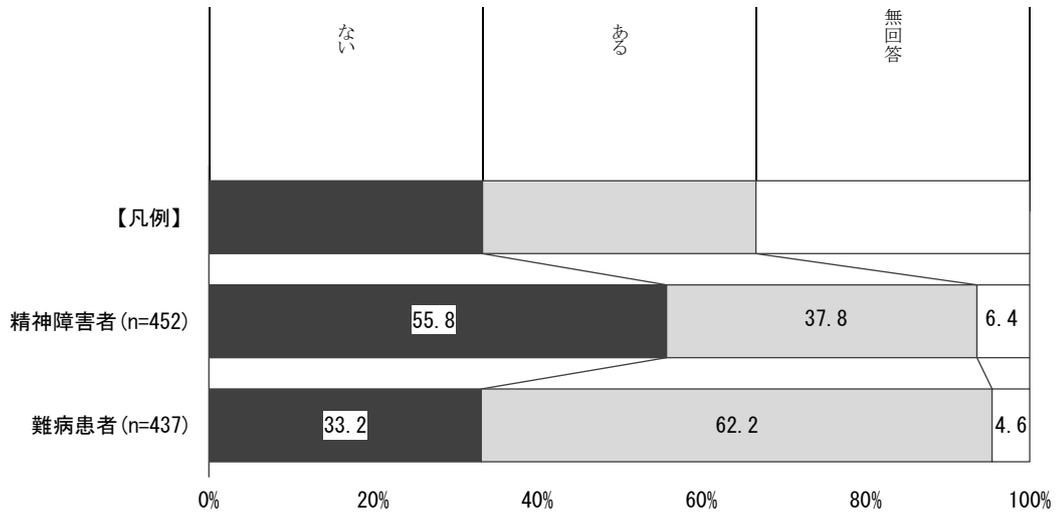
(単位：%)

区分		1位	2位	3位
精神障害者	今回 (n=452)	通院している (86.9)	訪問診療(往診)してもらっている (3.1)	入院・通院していない (2.4)
	前回 (n=451)	通院している (93.1)	入院・通院していない (2.7)	訪問診療(往診)してもらっている (1.1)
難病患者	今回 (n=437)	通院している (89.5)	訪問診療(往診)してもらっている (4.3)	入院している (1.6)
	前回 (n=475)	通院している (90.5)	訪問診療(往診)してもらっている (3.6)	入院している (1.9)

## (2) 入院歴の有無と入院期間

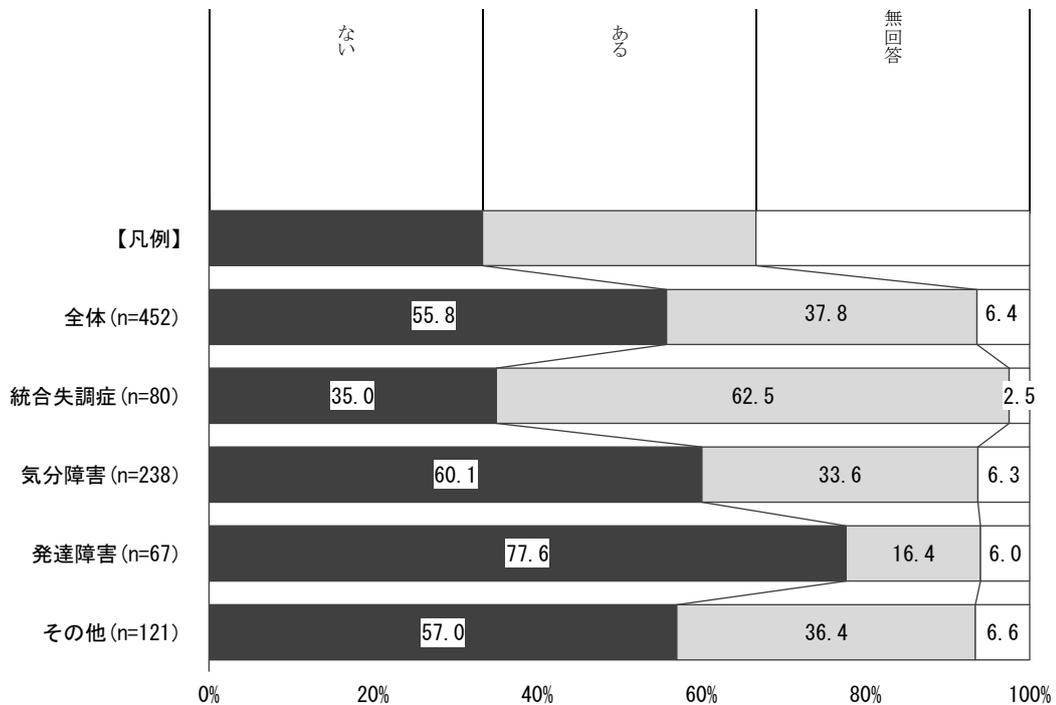
### ① 入院歴の有無

精神疾患、難病疾患で入院歴が「ある」人は、精神障害者では 37.8%、難病患者では 62.2%となっている。



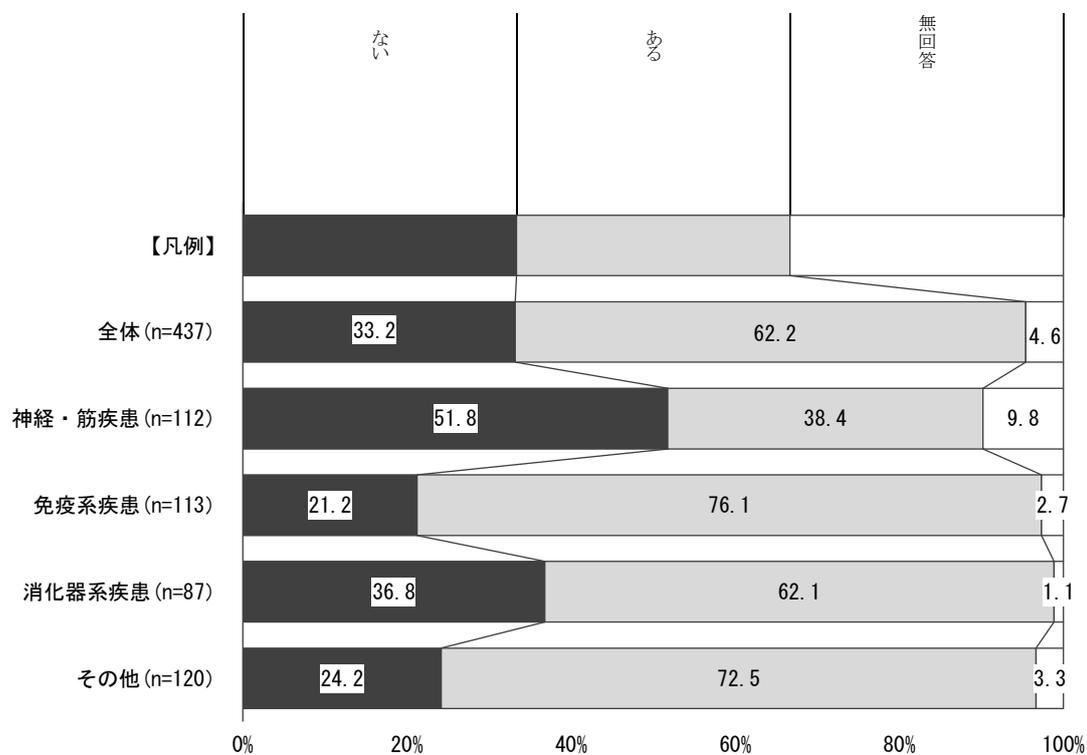
### 【精神障害者】

診断名別にみると、統合失調症と診断されている人では「ある」が 62.5%と多くなっている。



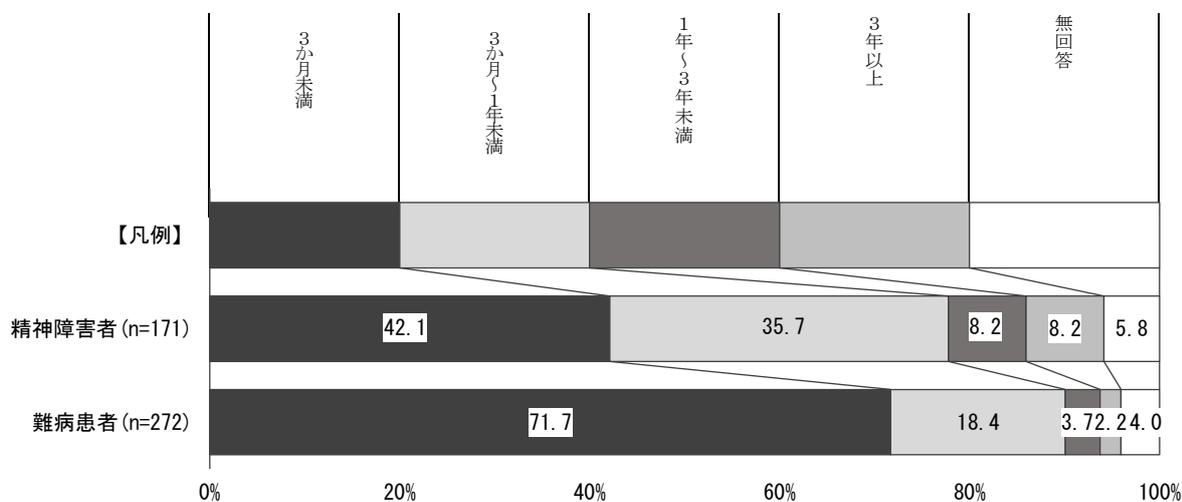
## 【難病患者】

疾患群別にみると、免疫系疾患では「ある」が76.1%と多くなっている。



## ② 入院期間

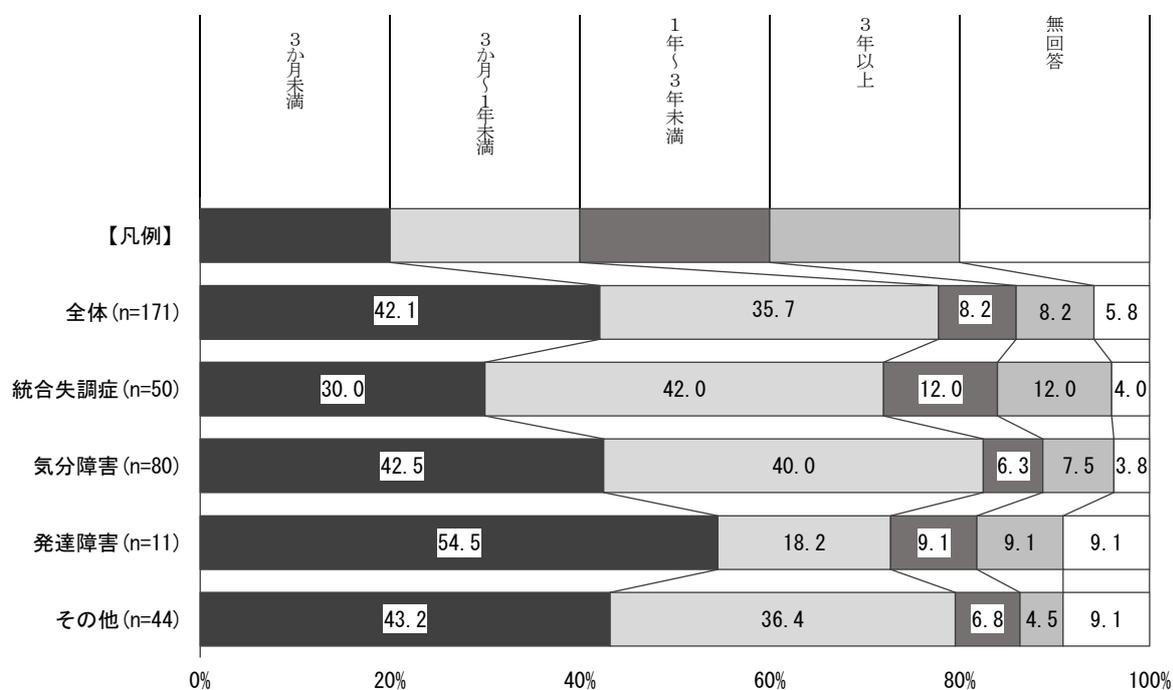
入院歴が“ある”と回答した人の入院期間は、精神障害者、難病患者では「3か月未満」がそれぞれ42.1%、71.7%と最も多くなっている。



※ベース：入院歴が“ある”と回答した人

### 【精神障害者】

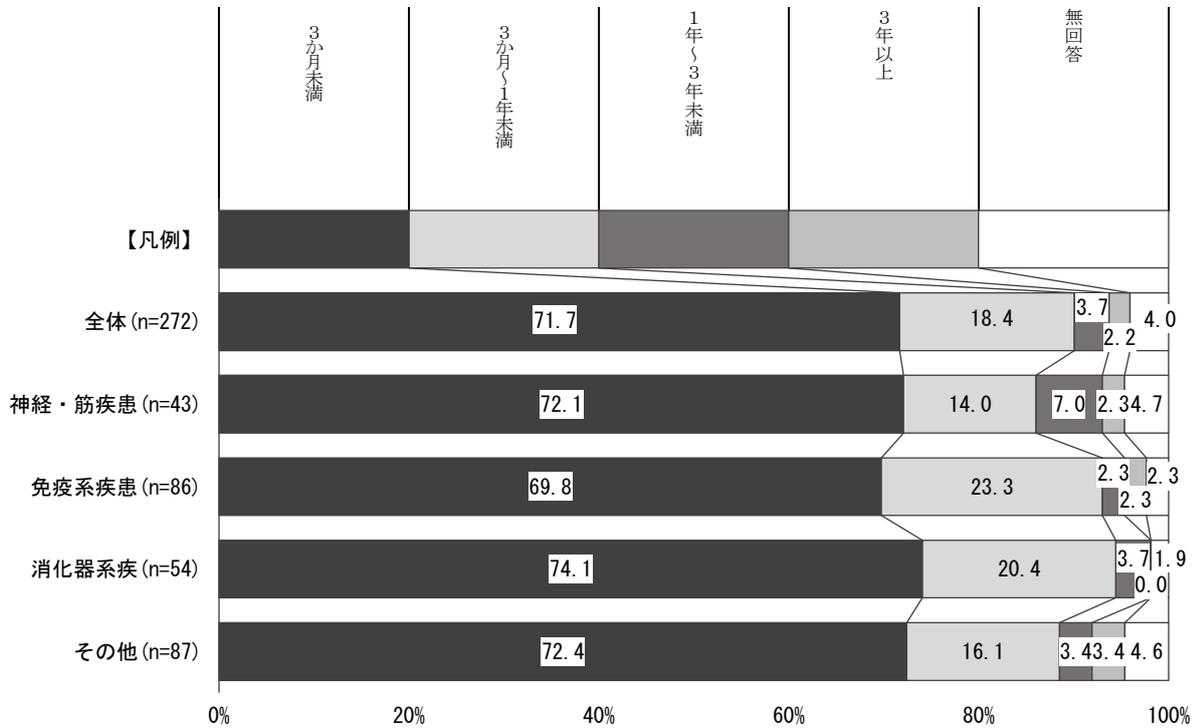
診断名別にみると、統合失調症と診断されている人では「3か月～1年未満」が42.0%と最も多く、気分障害と診断されている人では「3か月未満」が42.5%と最も多くなっている。



※ベース：入院歴が“ある”と回答した人

## 【難病患者】

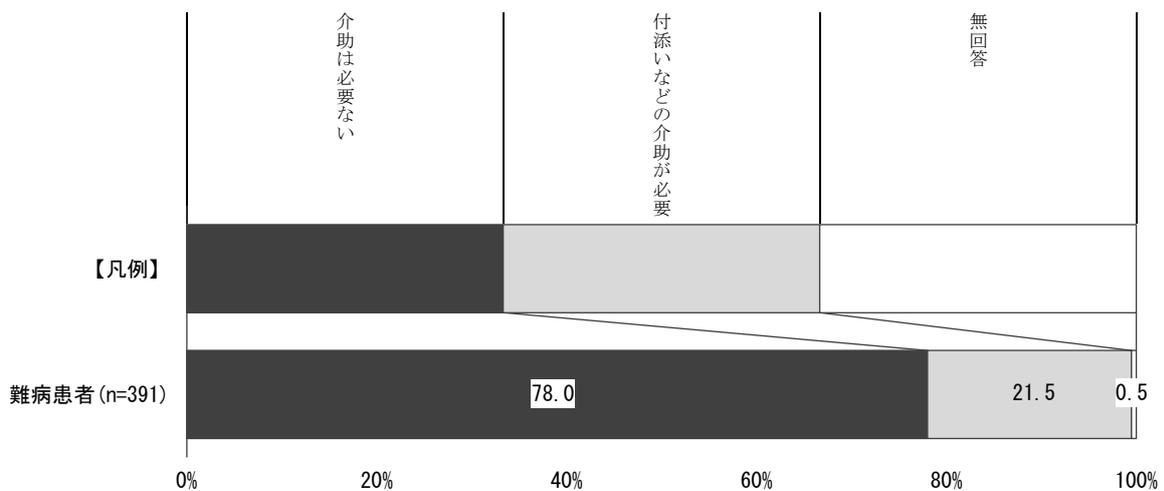
疾患群別にみると、いずれの疾患群においても「3か月未満」が最も多く、神経・筋疾患では72.1%、免疫系疾患では69.8%、消化器系疾患では74.1%となっている。



※ベース：入院歴が“ある”と回答した人

### (3) 通院する際の介助の必要性（難病患者のみ）

難病患者の医療の受診形態で“通院している”と回答した人の通院する際の介助の必要性は、「介助は必要ない」が78.0%、「付添いなどの介助が必要」が21.5%となっている。



※ベース：通院していると回答した人

#### (4) 健康管理や医療について困ったことや不便に感じたこと（複数回答）

健康管理や医療で困ったことや不便に感じたことは、いずれの障害種別においても「特に困っていることはない」が最も多くなっている。

次いで、身体障害者、精神障害者、難病患者では「医療費の負担が大きい」がそれぞれ 12.8%、15.9%、25.4%となっており、児童発達支援事業利用者では「休日・夜間の相談や治療をしてくれる病院・診療所が少ない」が 17.0%となっている。

(単位：%)

区 分	身体障害者 (n=562)	知的障害者 (n=442)	精神障害者 (n=452)	難病患者 (n=437)	児童発達 支援事業 利用者 (n=153)
特に困っていることはない	49.5 (1位)	43.2 (1位)	50.0 (1位)	44.4 (1位)	57.5 (1位)
近所に診てくれる医師がいない	8.2	11.3	8.2	14.6 (3位)	3.3
専門的な治療を行う医療機関がない	5.9	11.1	4.4	6.6	9.2 (3位)
通院や健康診査のときに付き添いがいない	4.6	3.6	4.0	2.5	
往診を頼める医者がいない	4.6	6.3	2.9	3.7	5.9
定期的に健康診査を受けられない	2.8	1.6	1.5	1.4	1.3
医療機関とのコミュニケーションがとれない	4.8	8.4	5.8	4.1	2.6
障害のために症状が正確に伝わらず、必要な治療を受けられない	4.3	10.0	9.5	4.3	3.3
受診手続きなど、障害のある方への配慮が不十分	6.4	7.5	4.9	5.3	7.8
医療機関の建物が障害のある方に配慮した構造になっていない	5.5	2.5	3.1	1.8	3.3
医療費の負担が大きい	12.8 (2位)	5.7	15.9 (2位)	25.4 (2位)	
休日・夜間の相談や治療をしてくれる病院・診療所が少ない	10.5	10.4	10.2 (3位)	8.2	17.0 (2位)
その他	5.3	11.5 (3位)	10.2 (3位)	6.2	7.2
無回答	12.6 (3位)	11.8 (2位)	10.2 (3位)	10.8	9.2 (3位)

【前回調査との比較】

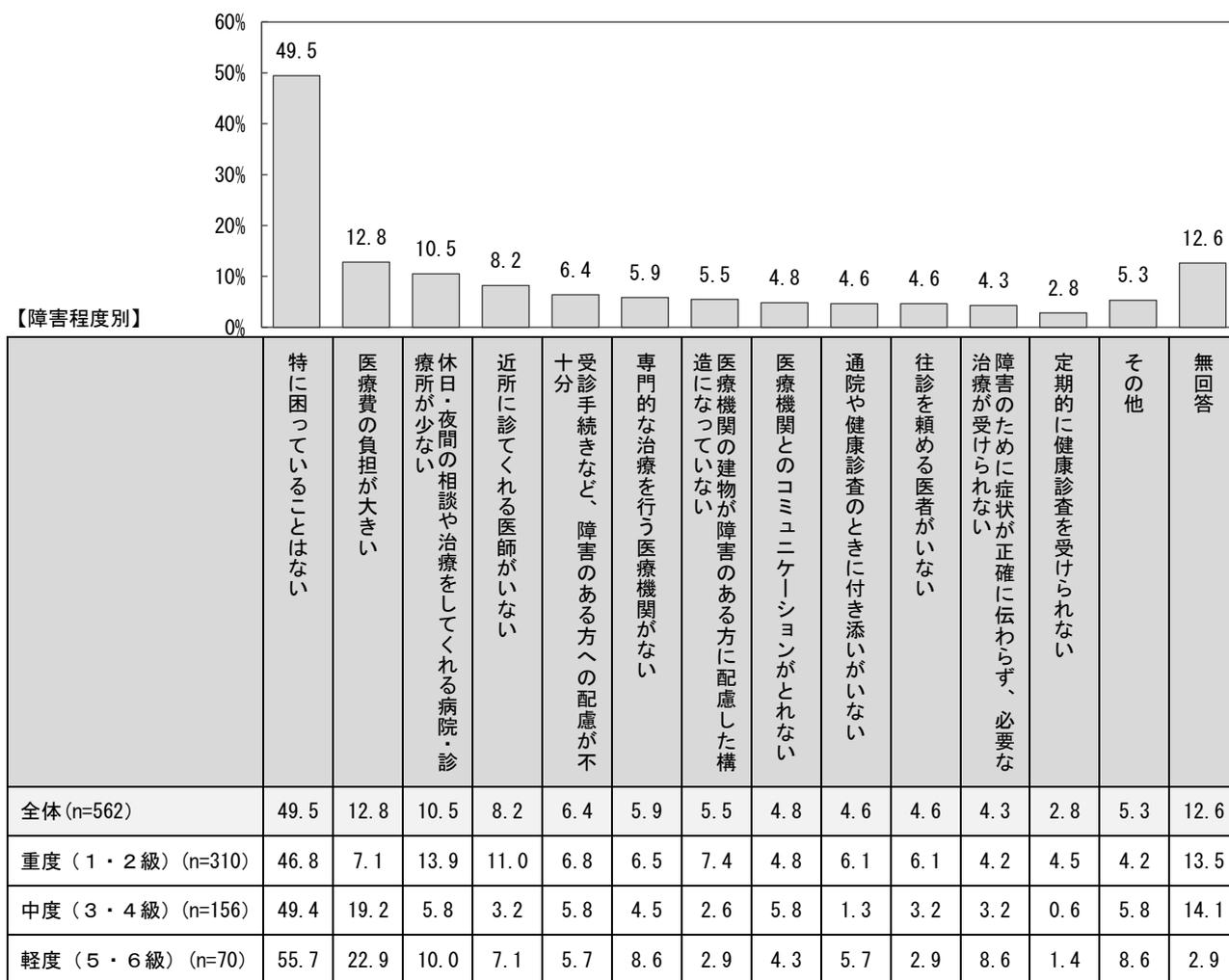
(単位：%)

区分		1位	2位	3位
身体障害者	今回 (n=562)	特に困っていること はない (49.5)	医療費の負担が大 きい (12.8)	休日・夜間の相 談や治療をして くれる病院・診 療所が少ない (10.5)
	前回 (n=659)	特に困っていること はない (42.6)	医療費の負担が大 きい (14.6)	休日・夜間の相 談や治療をして くれる病院・診 療所が少ない (9.4)
知的障害者	今回 (n=442)	特に困っていること はない (43.2)	その他 (11.5)	近所に診てくれ る医師が少ない (11.3)
	前回 (n=474)	特に困っていること はない (40.1)	障害のために症状 が正確に伝わら ず、必要な治療が 受けられない (13.3)	専門的な治療を 行う医療機関が ない (13.1)
精神障害者	今回 (n=452)	特に困っていること はない (50.0)	医療費の負担が大 きい (15.9)	休日・夜間の相 談や治療をして くれる病院・診 療所が少ない/そ の他 (同率 10.2)
	前回 (n=451)	特に困っていること はない (41.0)	医療費の負担が大 きい (20.0)	休日・夜間の相 談や治療をして くれる病院・診 療所が少ない (16.2)
難病患者	今回 (n=437)	特に困っていること はない (44.4)	医療費の負担が大 きい (25.4)	近所に診てくれ る医師が少ない (14.6)
	前回 (n=430)	特に困っていること はない (40.0)	医療費の負担が大 きい (31.2)	近所に診てくれ る医師が少ない (14.9)
児童発達 支援事業 利用者	今回 (n=153)	特に困っていること はない (57.5)	休日・夜間の相談 や治療をしてくれ る病院・診療所が 少ない (17.0)	専門的な治療を 行う医療機関が ない (9.2)
	前回 (n=127)	特に困っていること はない (69.3)	休日・夜間の相談 や治療をしてくれ る病院・診療所が 少ない (11.8)	専門的な治療を 行う医療機関が ない (9.4)

## 【身体障害者】

障害の程度別にみると、中度（3・4級）と軽度（5・6級）では「医療費の負担が大きい」がそれぞれ19.2%、22.9%で約2割となっている。また障害が軽くなるにつれて「特に困っていることはない」が多くなっている。

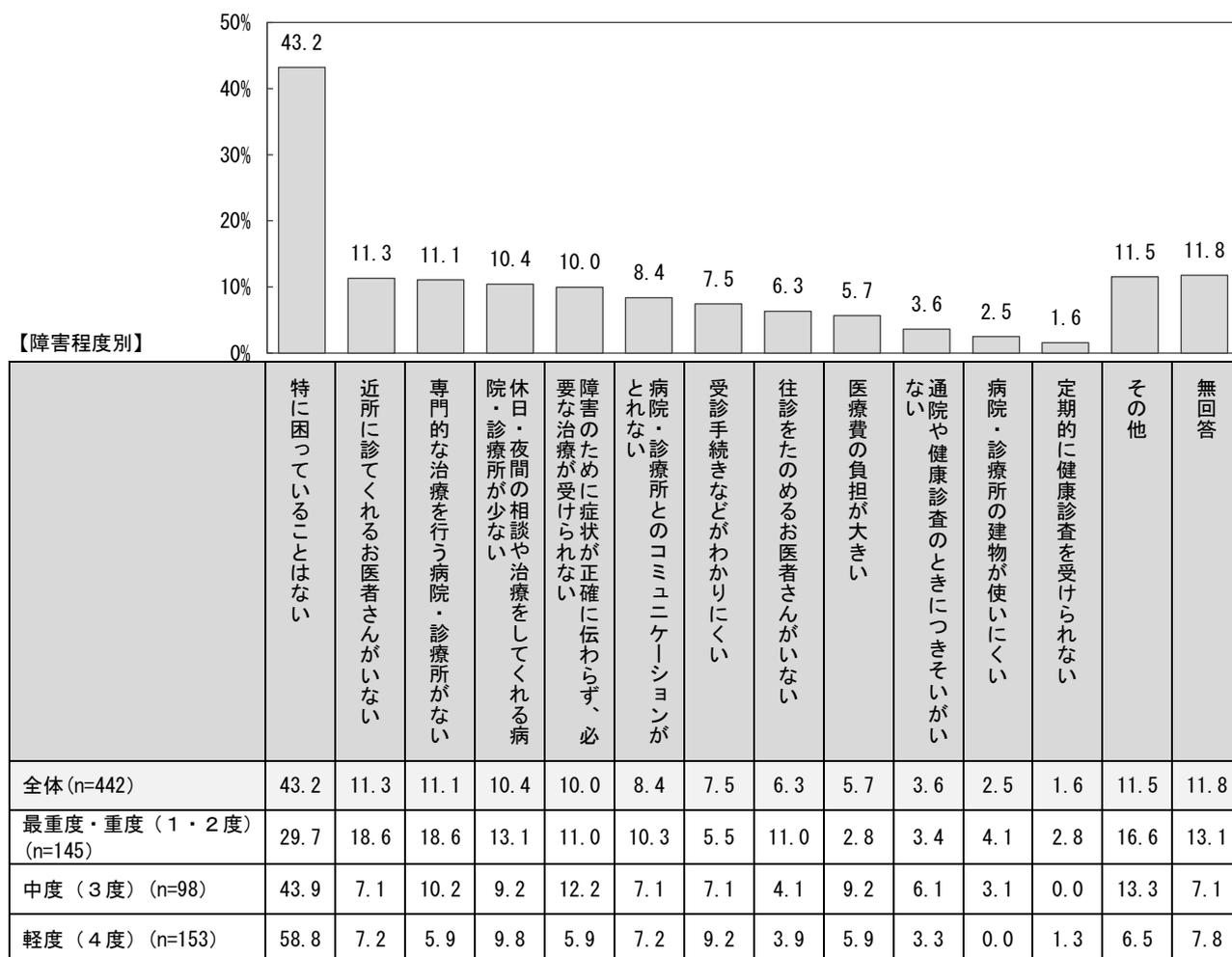
障害の種類別にみると、視覚障害では「休日・夜間の相談や治療をしてくれる病院・診療所が少ない」が16.0%、聴覚障害では「医療機関とのコミュニケーションがとれない」が14.9%となっている。



障害の種類別	特に関心していることはない	医療費の負担が大きい	休日・夜間の相談や治療をしてくれる病院・診療所が少ない	近所に診てくれる医師がいない	受診手続きなど、障害のある方への配慮が不十分	専門的な治療を行う医療機関がない	医療機関の建物が障害のある方に配慮した構造になっていない	医療機関とのコミュニケーションがとれない	通院や健康診査のときに付き添いがいない	往診を頼める医者がいない	障害のために症状が正確に伝わらず、必要な治療が受けられない	定期的に健康診査を受けられない	その他	無回答
視覚障害 (n=81)	51.9	12.3	16.0	8.6	11.1	8.6	7.4	2.5	11.1	4.9	4.9	2.5	0.0	12.3
聴覚障害 (n=87)	49.4	13.8	5.7	6.9	8.0	3.4	2.3	14.9	4.6	3.4	8.0	0.0	6.9	11.5
平衡機能障害 (n=2)	0.0	50.0	0.0	0.0	100	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害 (n=25)	52.0	12.0	4.0	0.0	4.0	0.0	0.0	12.0	0.0	0.0	8.0	4.0	4.0	20.0
肢体不自由（上肢、下肢等）(n=140)	38.6	14.3	12.1	13.6	8.6	9.3	10.0	3.6	5.0	7.1	7.1	4.3	8.6	10.7
肢体不自由（体幹）(n=40)	42.5	12.5	7.5	2.5	2.5	10.0	7.5	5.0	10.0	5.0	2.5	7.5	5.0	10.0
内部障害 (n=156)	59.6	10.9	10.3	6.4	1.9	3.2	1.9	1.3	0.6	2.6	0.0	1.3	3.8	12.8
その他 (n=7)	42.9	14.3	28.6	14.3	14.3	14.3	28.6	0.0	0.0	14.3	0.0	14.3	14.3	14.3

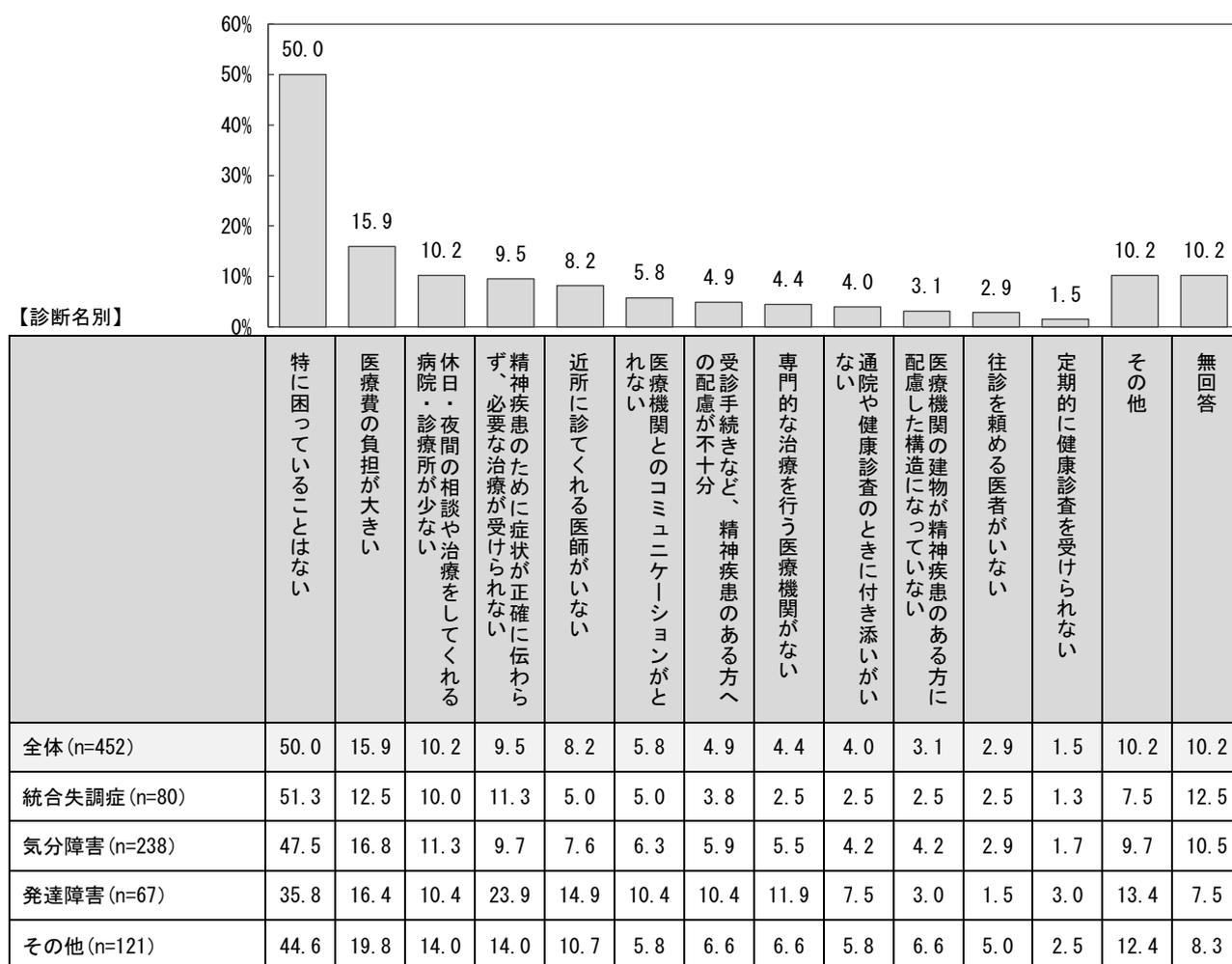
## 【知的障害者】

障害の程度別にみると、最重度・重度（1・2度）では「近所に診てくれるお医者さんがいない」、「専門的な治療を行う病院・診療所がない」がともに18.6%となっており、次いで「休日・夜間の相談や治療をしてくれる病院・診療所が少ない」が13.1%となっている。



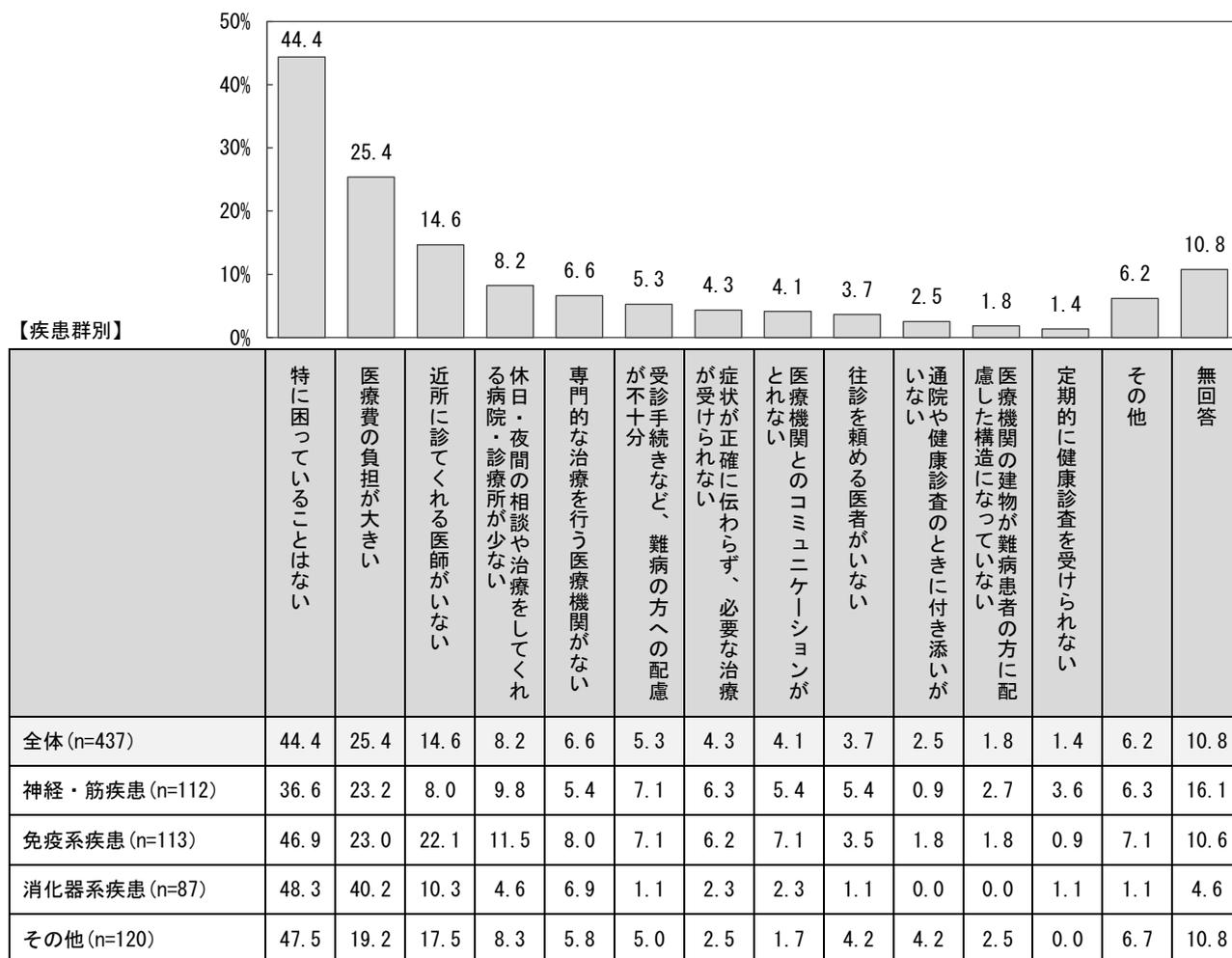
## 【精神障害者】

診断名別にみると、いずれの診断を受けている人でも「特に困っていることはない」が最も多くなっている一方で、気分障害と診断されている人では「医療費の負担が大きい」が16.8%と次いで多くなっている。



## 【難病患者】

疾患群別にみると、いずれの疾患群においても「特に困っていることはない」が最も多くなっている一方で、消化器系疾患では「医療費の負担が大きい」が40.2%と他の疾患群と比べて多くなっている。



## 8 相談や情報の入手について

### (1) 悩みごとや心配ごとがあるときの家族や親せき以外の相談先（複数回答）

悩みごとや心配ごとがあるときの家族や親せき以外の相談先は、身体障害者では「友人・知人」が24.2%と最も多く、次いで「病院・診療所」が20.6%となっている。

知的障害者では「学校、職場」が24.9%と最も多く、次いで「総合福祉事務所」が20.4%となっている。

精神障害者、難病患者では「病院・診療所」がそれぞれ31.6%、27.9%と最も多く、次いで「友人・知人」がそれぞれ25.4%、27.7%となっている。

施設入所者では「福祉施設」が40.9%と最も多くなっている。

児童発達支援事業利用者では「こども発達支援センター」が64.1%と最も多くなっている。

(単位：%)

区 分	身体障害者 (n=562)	知的障害者 (n=442)	精神障害者 (n=452)	難病患者 (n=437)	施設入所者 (n=303)	児童発達 支援事業 利用者 (n=153)
総合福祉事務所	17.1	20.4 (2位)	12.8	8.2	10.2	8.5
保健相談所	1.8	2.5	12.4	6.9	1.0	31.4 (3位)
障害者地域生活支援センター（きらら・すてっぷ・ういんぐ・さくら）	2.7	5.9	4.9	1.1	2.3	-
権利擁護センター ほっとサポートねりま	0.2	0.2	0.2	0.2	0.3	-
民生委員・児童委員	0.5	-	0.2	0.7	0.3	-
障害者相談員	2.8	4.1	1.3	1.6	5.6	0.7
児童相談所	-	0.9	0.2	0.0	0.3	2.0
福祉施設	3.7	8.6	2.7	1.1	40.9 (1位)	2.6
相談支援事業所	2.7	13.3 (3位)	2.7	1.4	14.9 (3位)	4.6
こども発達支援センター	1.2	9.5	0.2	-	0.7	64.1 (1位)
学校教育支援センター	0.2	2.7	0.2	-	0.3	0.7
子ども家庭支援センター	0.2	2.0	0.2	0.2	0.3	5.2
病院・診療所	20.6 (2位)	17.6	31.6 (1位)	27.9 (1位)	4.0	21.6
学校・職場	6.9	24.9 (1位)	4.2	5.3	2.6	13.7
障害者団体	3.6	5.0	1.5	1.1	2.6	-
友人・知人	24.2 (1位)	19.7	25.4 (2位)	27.7 (2位)	5.3	49.0 (2位)
ホームヘルパー	7.5	3.8	2.2	3.2	1.0	2.0
インターネットの掲示板（民間サイト）など	3.9	0.9	4.6	6.6	0.7	11.8
その他	7.5	10.4	11.1	8.0	18.5 (2位)	12.4
相談できるところはない	14.2	13.3	18.1 (3位)	16.7	3.3	3.3
相談の必要はない	17.6 (3位)	9.5	10.2	16.9 (3位)	9.6	2.6
無回答	9.6	10.0	7.7	7.8	13.2	5.9

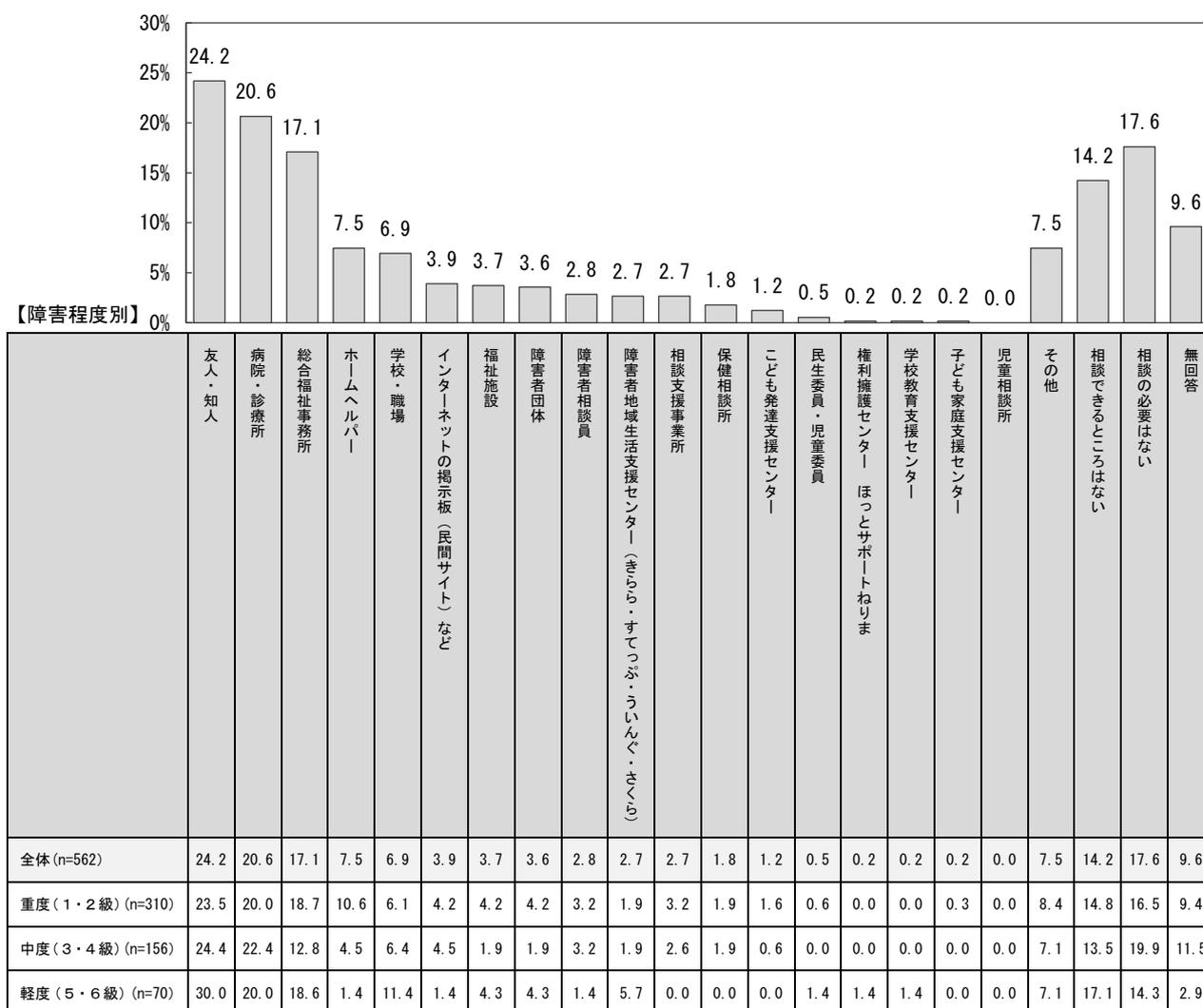
【前回調査との比較】

(単位：%)

区分		1位	2位	3位
身体障害者	今回 (n=562)	友人・知人 (24.2)	病院・診療所 (20.6)	相談の必要はない (17.6)
	前回 (n=659)	友人・知人 (27.3)	病院・診療所 (23.8)	総合福祉事務所 (20.3)
知的障害者	今回 (n=442)	学校・職場 (24.9)	総合福祉事務所 (20.4)	友人・知人 (19.7)
	前回 (n=474)	学校・職場 (29.1)	総合福祉事務所 (27.2)	病院・診療所 (17.9)
精神障害者	今回 (n=452)	病院・診療所 (31.6)	友人・知人 (25.4)	相談できるところはない (18.1)
	前回 (n=451)	病院・診療所 (42.8)	友人・知人 (23.5)	相談できるところはない (14.6)
難病患者	今回 (n=437)	病院・診療所 (27.9)	友人・知人 (27.7)	相談の必要はない (16.9)
	前回 (n=475)	病院・診療所 / 友人・知人 (同率 30.5)		相談の必要はない (15.6)
施設入所者	今回 (n=303)	福祉施設 (40.9)	その他 (18.5)	相談支援事業所 (14.9)
	前回 (n=105)	福祉施設 (58.1)	相談支援事業所 (18.1)	総合福祉事務所 (12.4)
児童発達支援事業利用者	今回 (n=153)	こども発達支援センター (64.1)	友人・知人 (49.0)	保健相談所 (31.4)
	前回 (n=127)	こども発達支援センター (77.2)	友人・知人 (48.0)	保健相談所 (40.9)

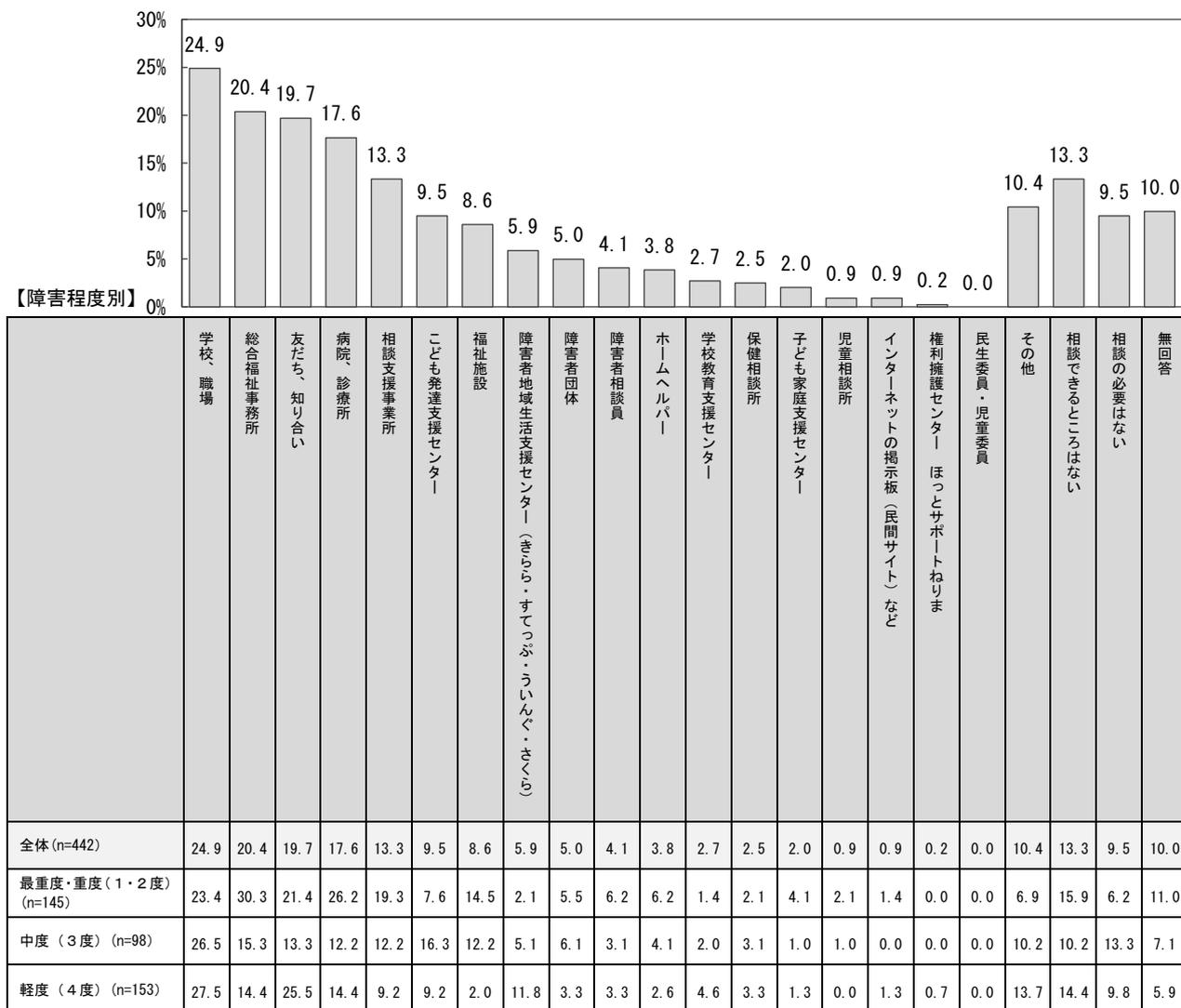
## 【身体障害者】

障害の程度別にみると、「友人・知人」と回答した人は重度（1・2級）では23.5%、中度（3・4級）では24.4%、軽度（5・6級）では30.0%と最も多くなっている。



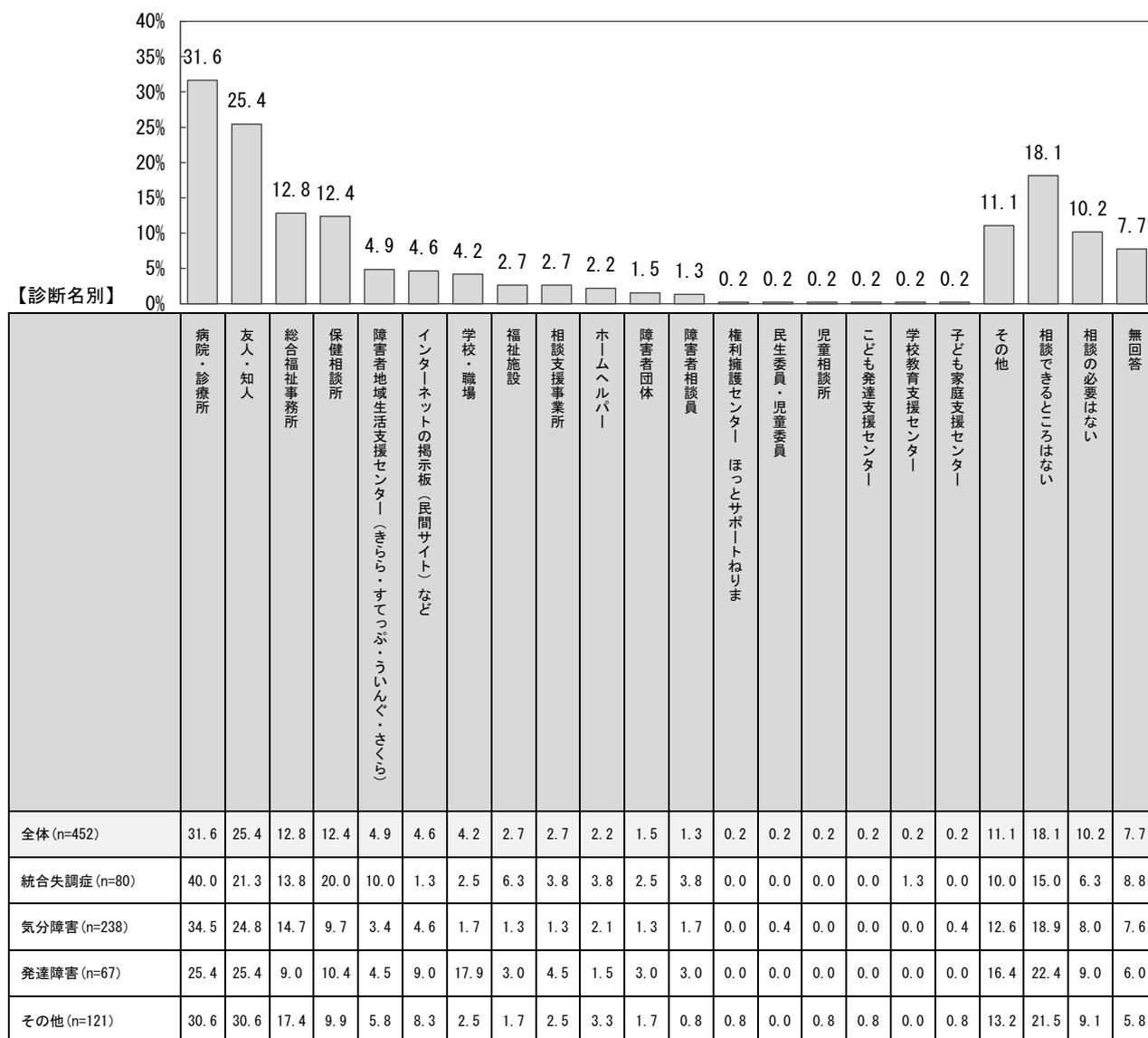
## 【知的障害者】

障害の程度別にみると、最重度・重度（1・2度）では「総合福祉事務所」に相談している人が30.3%と最も多く、次いで「病院・診療所」が26.2%となっている。中度（3度）と軽度（4度）では「学校、職場」がそれぞれ26.5%、27.5%と最も多くなっている。



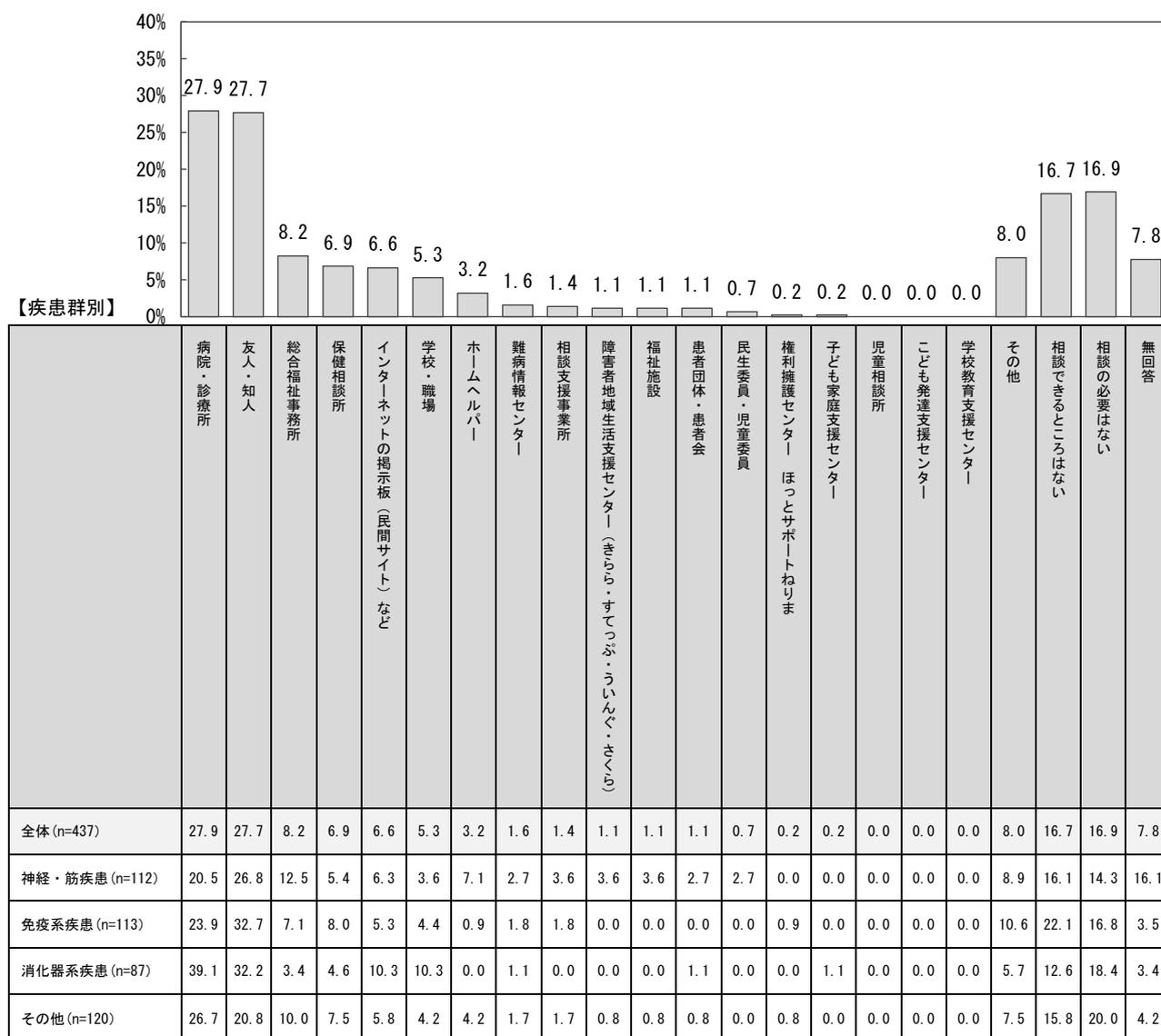
## 【精神障害者】

診断名別にみると、統合失調症と診断されている人では「保健相談所」が20.0%と、気分障害、発達障害と診断されている人に比べて多くなっている。また、発達障害と診断されている人では「学校・職場」が17.9%と、統合失調症、気分障害と診断されている人に比べて多くなっている。



## 【難病患者】

疾患群別にみると、神経・筋疾患、免疫系疾患では「友人・知人」がそれぞれ26.8%、32.7%と最も多く、消化器系疾患では「病院・診療所」が39.1%と最も多くなっている。なお、「相談できるところはない」と回答した人は、神経・筋疾患では16.1%、免疫系疾患では22.1%、消化器系疾患では12.6%となっている。



## (2) 福祉サービスなどの情報入手先（複数回答）

福祉サービスなどの情報の入手先は、身体障害者、知的障害者、精神障害者、難病患者では「ねりま区報」が最も多くなっている。施設入所者では「学校、職場、施設」、児童発達支援事業利用者では「区のホームページ」が最も多くなっている。

(単位：%)

区 分	身体障害者 (n=562)	知的障害者 (n=442)	精神障害者 (n=452)	難病患者 (n=437)	施設入所者 (n=303)	児童発達 支援事業 利用者 (n=153)
ねりま区報	44.5 (1位)	28.5 (1位)	29.0 (1位)	30.9 (1位)	4.6	19.6
区のホームページ	19.0 (3位)	11.3	11.5	21.1 (3位)	1.0	45.8 (1位)
インターネットのサイト（区のホームページ以外）	11.2	7.9	9.7	13.0	1.3	23.5 (3位)
区の障害者福祉のしおり	20.1 (2位)	16.7	5.5	4.1	2.6	2.0
総合福祉事務所・保健相談所	11.0	14.9	13.1	11.0	4.6	19.0
障害者地域生活支援センター（きらら・すてっぷ・ういんぐ・さくら）	3.2	7.2	4.2	1.6	1.3	0.7
学校、職場、施設	5.7	24.9 (2位)	4.0	1.6	25.7 (1位)	19.6
病院・診療所	10.1	6.3	25.0 (2位)	24.9 (2位)	3.0	10.5
相談支援事業所	2.8	8.6	3.8	1.1	11.9 (3位)	6.5
民生委員・児童委員	0.4	-	0.7	0.5	0.3	0.7
障害者団体	5.7	5.0	1.5	1.6	1.0	-
家族・親せき	11.7	20.8 (3位)	9.3	6.9	7.3	7.2
友人・知人	11.7	17.4	7.5	3.4	1.7	28.1 (2位)
その他	4.8	3.4	5.5	5.9	1.3	5.9
わからない	11.7	19.7	21.2 (3位)	19.7	47.5 (1位)	12.4
無回答	7.5	7.5	9.3	6.9	9.9	4.6

【前回調査との比較】

(単位：%)

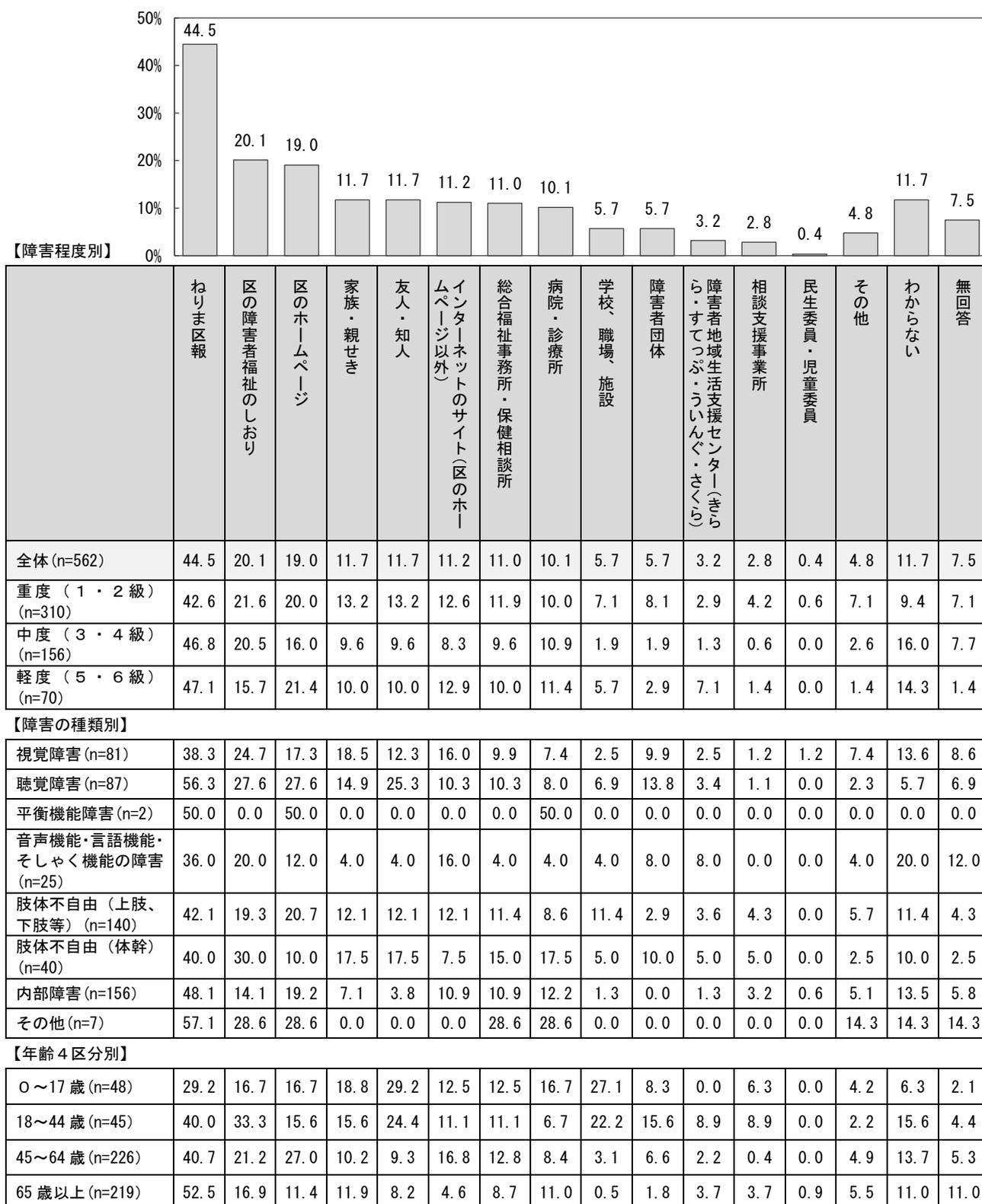
区分		1位	2位	3位
身体障害者	今回 (n=562)	ねりま区報 (44.5)	区の障害者福祉のしおり (20.1)	区のホームページ (19.0)
	前回 (n=659)	ねりま区報 (41.7)	区の障害者福祉のしおり (21.2)	総合福祉事務所・保健相談所 (15.9)
知的障害者	今回 (n=442)	ねりま区報 (28.5)	学校、職場、施設 (24.9)	家族、親せき (20.8)
	前回 (n=474)	ねりま区報 (35.2)	学校、職場、施設 (27.4)	総合福祉事務所・保健相談所/友人・知人 (同率 19.4)
精神障害者	今回 (n=452)	ねりま区報 (29.0)	病院・診療所 (25.0)	わからない (21.2)
	前回 (n=451)	病院・診療所 (31.5)	ねりま区報 (23.9)	わからない (19.3)
難病患者	今回 (n=437)	ねりま区報 (30.9)	病院・診療所 (24.9)	区のホームページ (30.9)
	前回 (n=475)	ねりま区報 (34.5)	病院・診療所 (27.2)	わからない (18.9)
施設入所者	今回 (n=303)	わからない (47.5)	学校、職場、施設 (25.7)	相談支援事業所 (11.9)
	前回 (n=105)	わからない (41.9)	学校、職場、施設 (36.2)	ねりま区報/家族・親せき (同率 8.6)
児童発達支援事業利用者	今回 (n=153)	区のホームページ (45.8)	友人・知人 (28.1)	インターネットのサイト (区のホームページ以外) (23.5)
	前回 (n=127)	こども発達支援センター (64.6)	ねりま区報/区のホームページ/インターネットのサイト (区のホームページ以外) (同率 26.0)	

## 【身体障害者】

障害の程度別にみると、程度にかかわらず「ねりま区報」が最も多くなっている。

障害の種類別にみると、聴覚障害では「区の障害福祉のしおり」、「区のホームページ」がともに27.6%となっている。

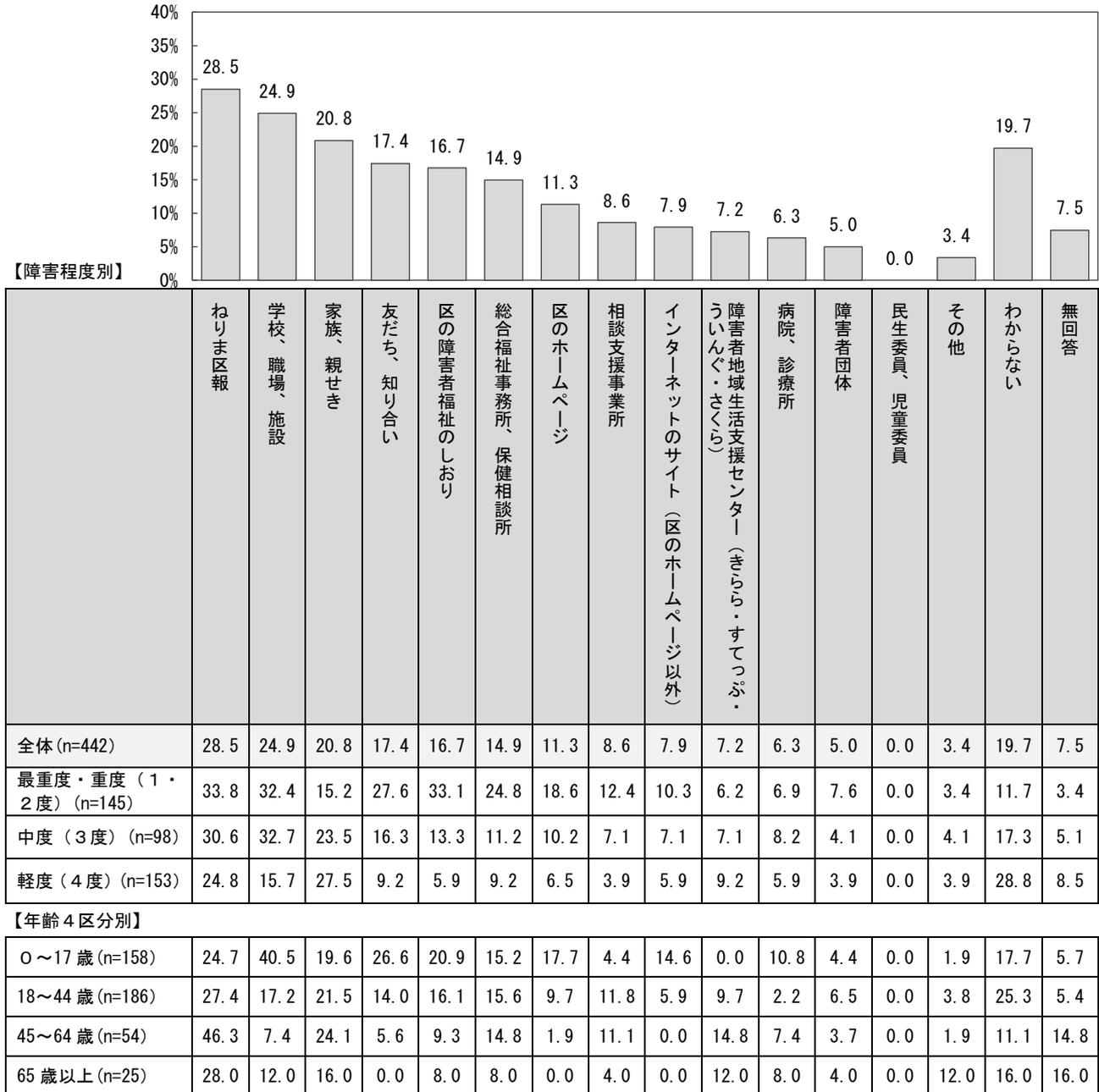
年齢4区分別にみると、年代が上がるにつれて「ねりま区報」が多くなっており、65歳以上では52.5%となっている。



## 【知的障害者】

障害の程度別にみると、程度にかかわらず「ねりま区報」が多くなっている。

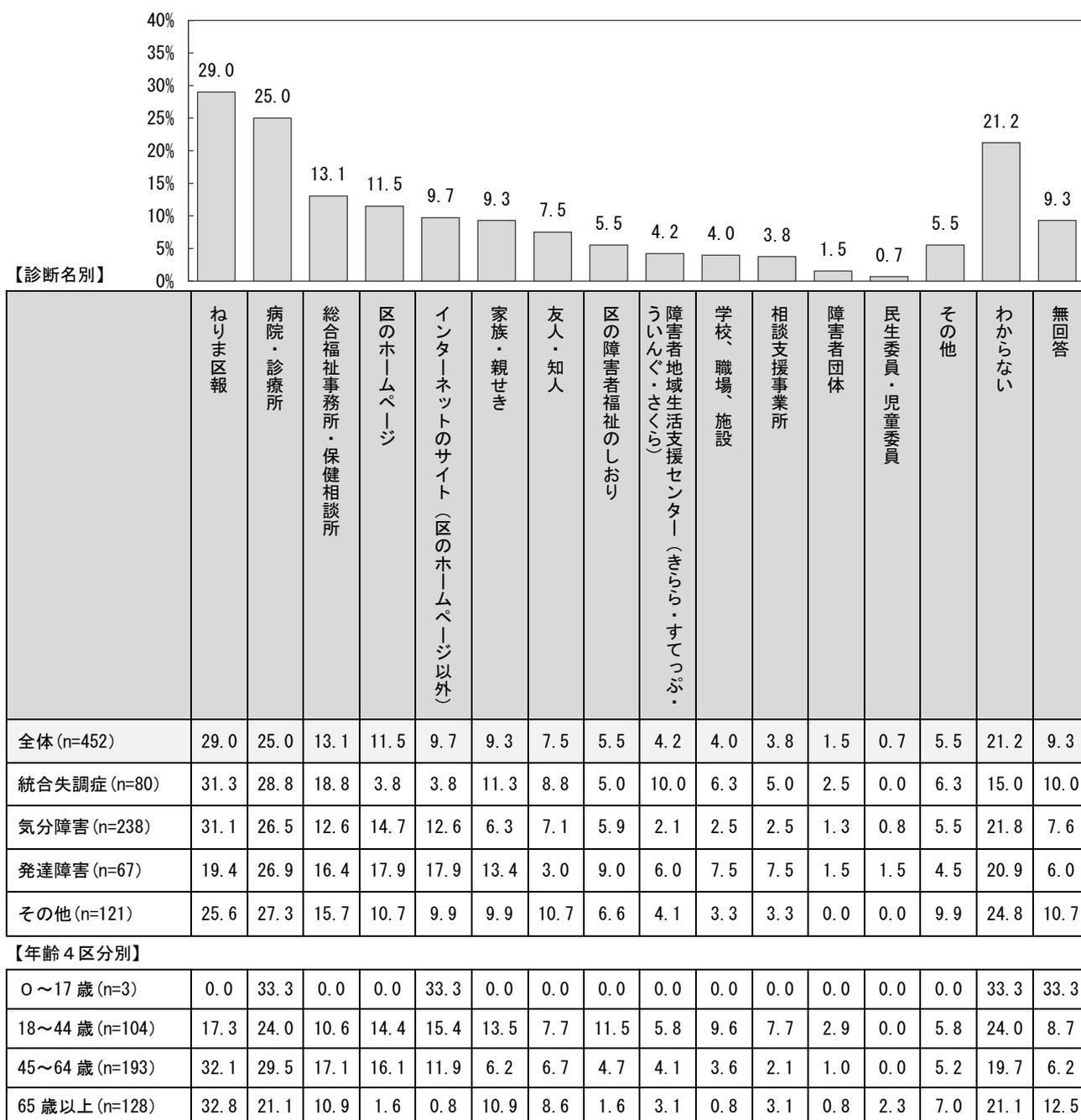
年齢4区分別にみると、0～17歳では「学校、職場、施設」が40.5%と最も多くなっている。



## 【精神障害者】

診断名別にみると、気分障害、発達障害と診断されている人では「区のホームページ」や「インターネットのサイト（区のホームページ以外）」から情報を入手している人が統合失調症と診断されている人と比べて多くなっている。

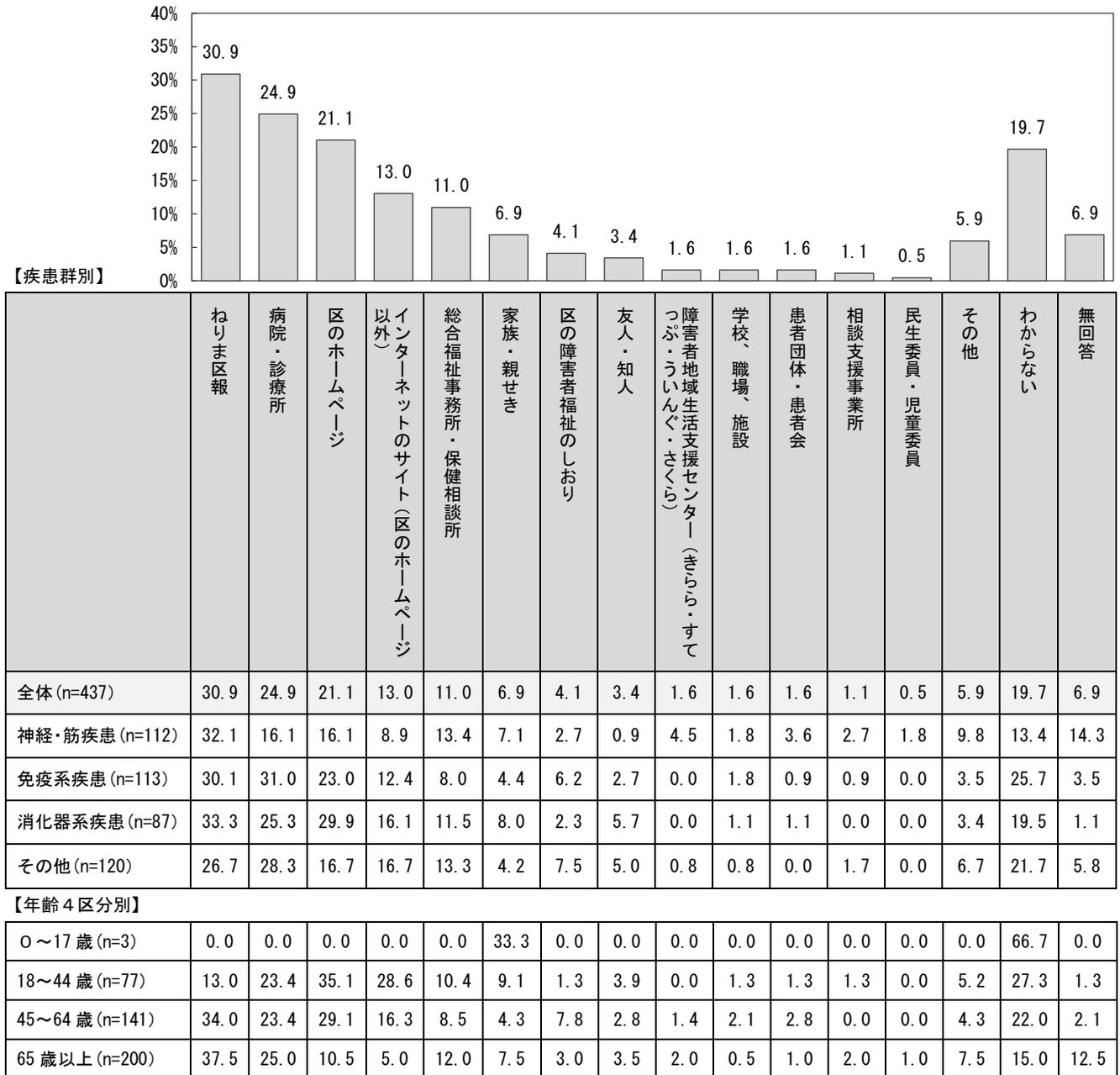
年齢4区別にみると、「ねりま区報」から情報を入手している人は、18～44歳では17.3%、45～64歳では32.1%、65歳以上では32.8%と年代が上がるにつれて多くなっている。



**【難病患者】**

疾患群別にみると、神経・筋疾患、免疫系疾患、消化器系疾患では「ねりま区報」がそれぞれ 32.1%、30.1%、33.3%と最も多くなっている。

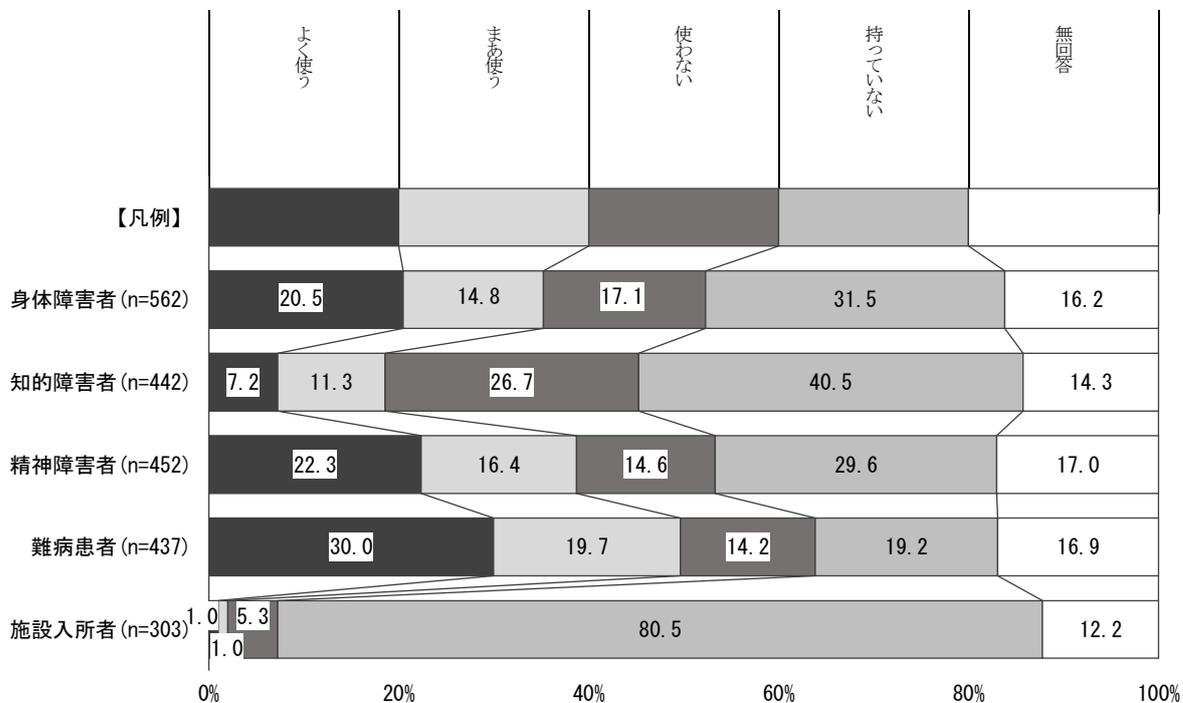
年齢4区分別にみると、18～44歳では「区のホームページ」が 35.1%と最も多く、45～64歳、65歳以上では「ねりま区報」がそれぞれ 34.0%、37.5%と最も多くなっている。



### (3) 情報通信機器（ICT 機器）の利用頻度

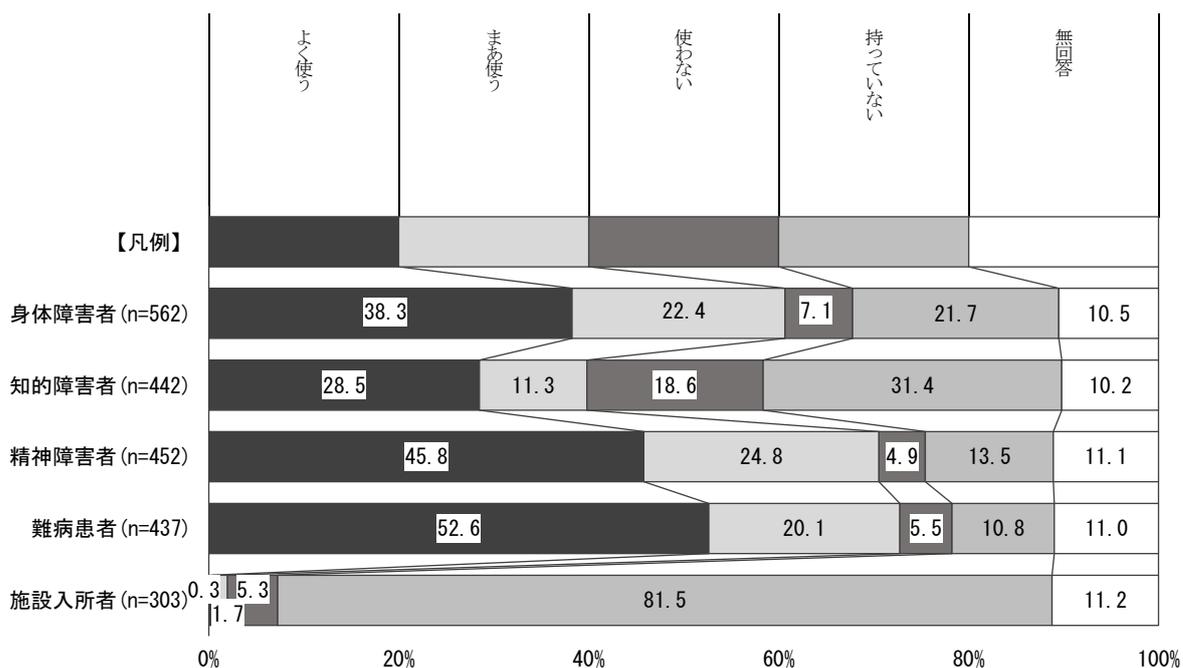
#### ①パソコン

パソコンの利用頻度について、“使用している”人（「よく使う」、「まあ使う」の合計）は身体障害者では 35.3%、知的障害者では 18.5%、精神障害者では 38.7%、難病患者では 49.7%、施設入所者では 2.0%となっている。



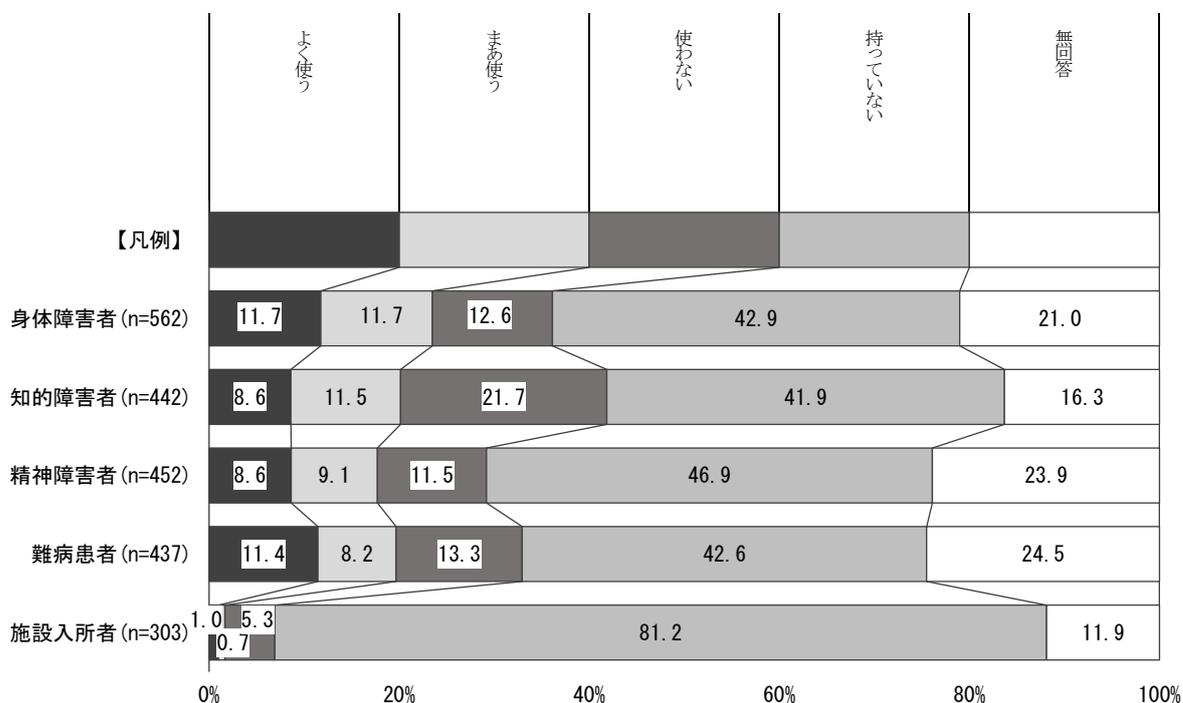
#### ②スマートフォン

スマートフォンの利用頻度について、“使用している”人は身体障害者では 60.7%、知的障害者では 39.8%、精神障害者では 70.6%、難病患者では 72.7%、施設入所者では 2.0%となっている。



### ③タブレット型端末

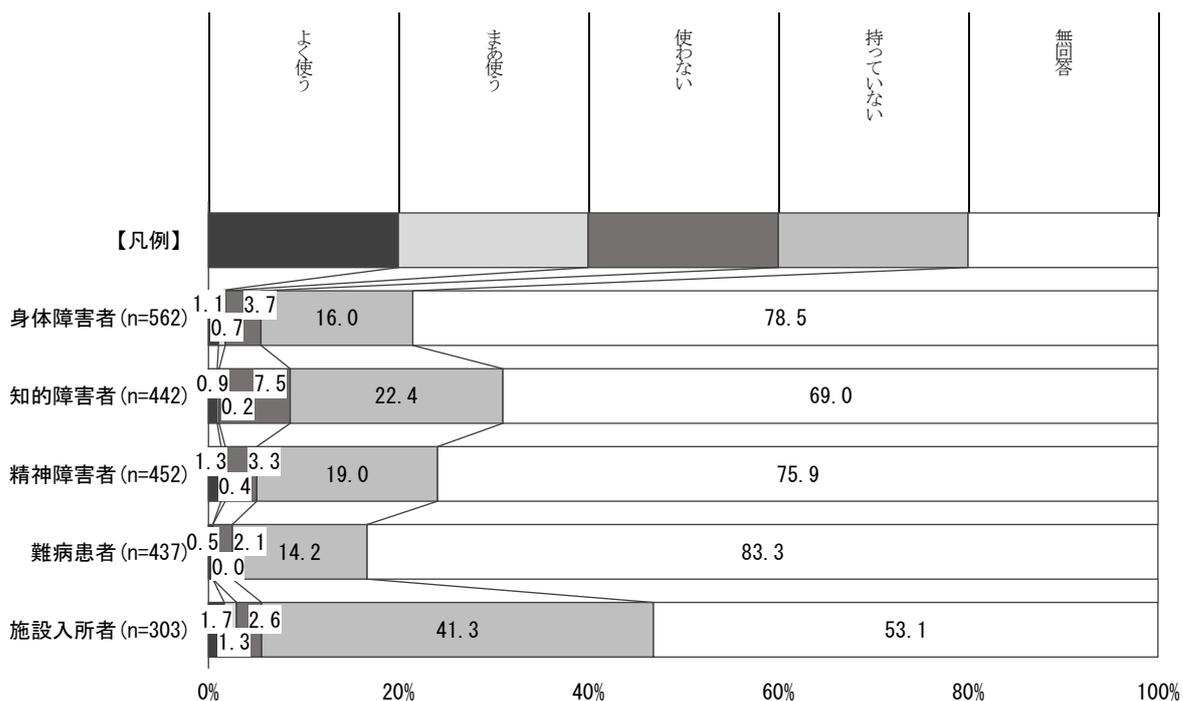
タブレット型端末の利用頻度について、“使用している”人は身体障害者では23.4%、知的障害者では20.1%、精神障害者では17.7%、難病患者では19.6%、施設入所者では1.7%となっている。



### ④その他

その他の利用頻度について、“使用している”人は身体障害者では1.8%、知的障害者では1.1%、精神障害者では1.7%、難病患者では0.5%、施設入所者では3.0%となっている。

また、使用している機器として「携帯電話」や「テレビ」などが挙げられている。



#### (4) コミュニケーション手段

コミュニケーションの際の手段・機器等の利用状況は、身体障害者、精神障害者、難病患者では「携帯/スマートフォンのメール・SNS」がそれぞれ 54.3%、59.5%、69.8%と最も多くなっている。

(単位：%)

区 分	身体障害者 (n=562)	知的障害者 (n=442)	精神障害者 (n=452)	難病患者 (n=437)	施設入所者 (n=303)	児童発達 支援事業 利用者 (n=153)
パソコンのメール	18.3 (3位)	1.8	16.4 (3位)	25.4 (3位)	1.0	
携帯/スマートフォンのメール・SNS	54.3 (1位)	25.1 (2位)	59.5 (1位)	69.8 (1位)	1.3	
電話(固定・携帯/スマートフォン)	42.7 (2位)	24.7 (3位)	52.7 (2位)	52.9 (2位)	2.6	
携帯用会話補助装置	3.9	0.2	1.3	-	-	-
手話・手話通訳	5.5	1.6	0.4	0.5	0.7	-
読話	2.7	1.4	0.4	0.7	2.0	-
筆談・要約筆記	7.3	1.1	1.3	0.2	1.3	-
補聴機器(補聴器・人工内耳など)	11.9	2.0	0.9	1.1	0.3	-
触手話	0.2	-	-	-	-	-
指文字・指点字	1.1	0.5	-	-	-	-
意志伝達装置	0.4	-	-	-	0.3	-
文字盤	0.4	0.5	0.2	0.5	-	-
コミュニケーションボード	3.0	2.0	-	-	2.3	-
その他	3.2	5.4	1.5	0.9	5.9 (3位)	1.3 (3位)
特に使用している機器はない	18.3 (3位)	47.1 (1位)	15.7	11.2	80.9 (1位)	92.8 (1位)
無回答	5.7	10.0	8.4	6.2	8.3 (2位)	5.9 (2位)

#### 【前回調査との比較】

(単位：%)

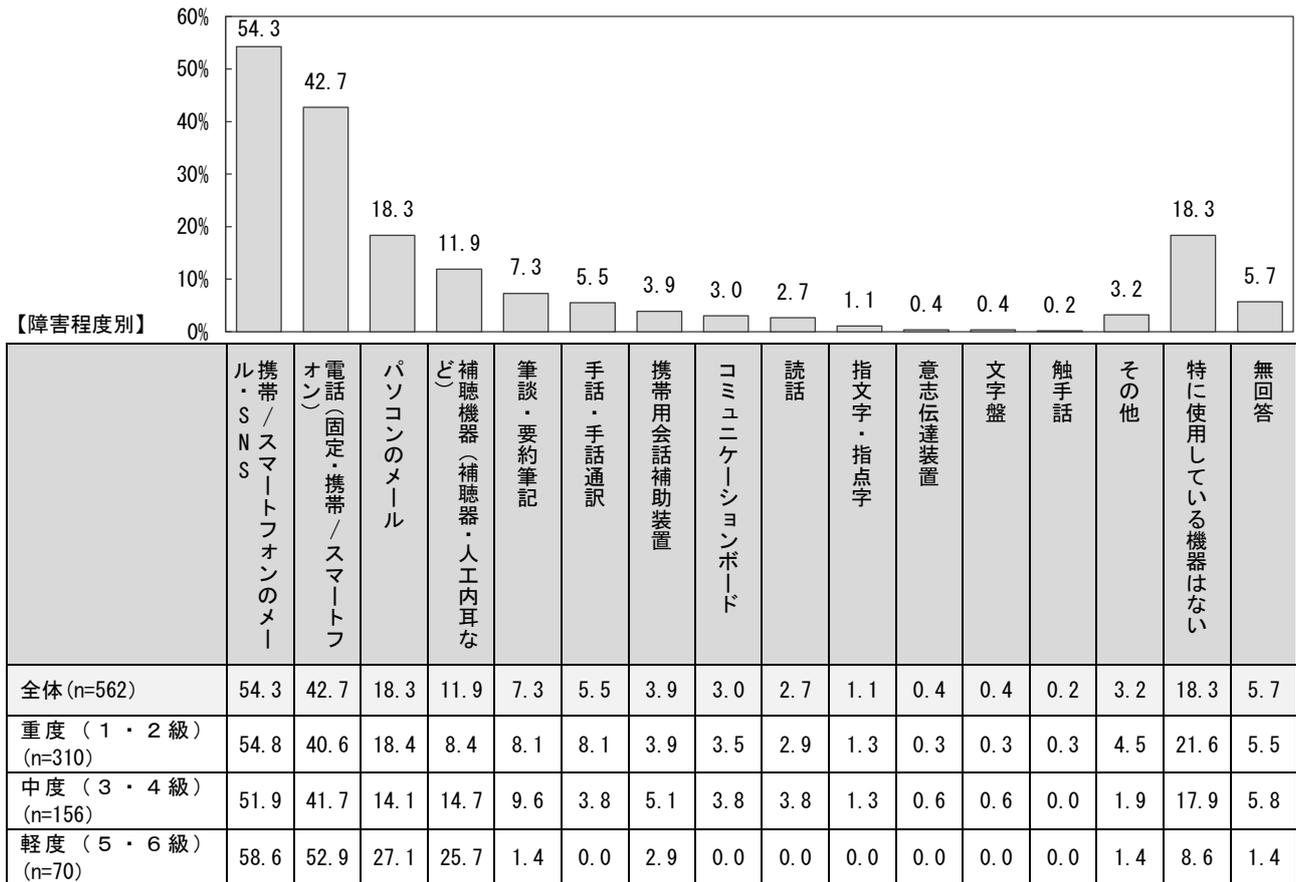
区 分		1位	2位	3位
身体障害者	今回 (n=562)	携帯/スマートフォンのメール・SNS (54.3)	電話(固定・携帯/スマートフォン) (42.7)	パソコンのメール (18.3)
	前回 (n=659)	携帯/スマートフォンのメール・SNS (45.2)	電話(固定・携帯/スマートフォン) (39.5)	特に使用している機器はない (21.5)
精神障害者	今回 (n=452)	携帯/スマートフォンのメール・SNS (59.5)	電話(固定・携帯/スマートフォン) (52.7)	パソコンのメール (16.4)
	前回 (n=451)	携帯/スマートフォンのメール・SNS (66.5)	電話(固定・携帯/スマートフォン) (43.7)	パソコンのメール (20.6)
児童発達 支援事業 利用者	今回 (n=153)	特に使用している機器はない (92.8)	その他 (1.3)	
	前回 (n=127)	特に使用している機器はない (89.8)	その他 (3.1)	手話・手話通訳 (2.4)

## 【身体障害者】

障害の程度別にみると、程度にかかわらず、「携帯／スマートフォンのメール・SNS」を使用している人は5割を超え、「電話（固定・携帯／スマートフォン）」を使用している人は約4割となっている。

障害の種類別にみると、視覚障害、聴覚障害では「携帯／スマートフォンのメール・SNS」を使用している人が5割を超えている。

年齢4区分別にみると、45～64歳では「携帯／スマートフォンのメール・SNS」が68.6%と最も多く、65歳以上では「電話（固定・携帯／スマートフォン）」が51.6%と最も多くなっている。



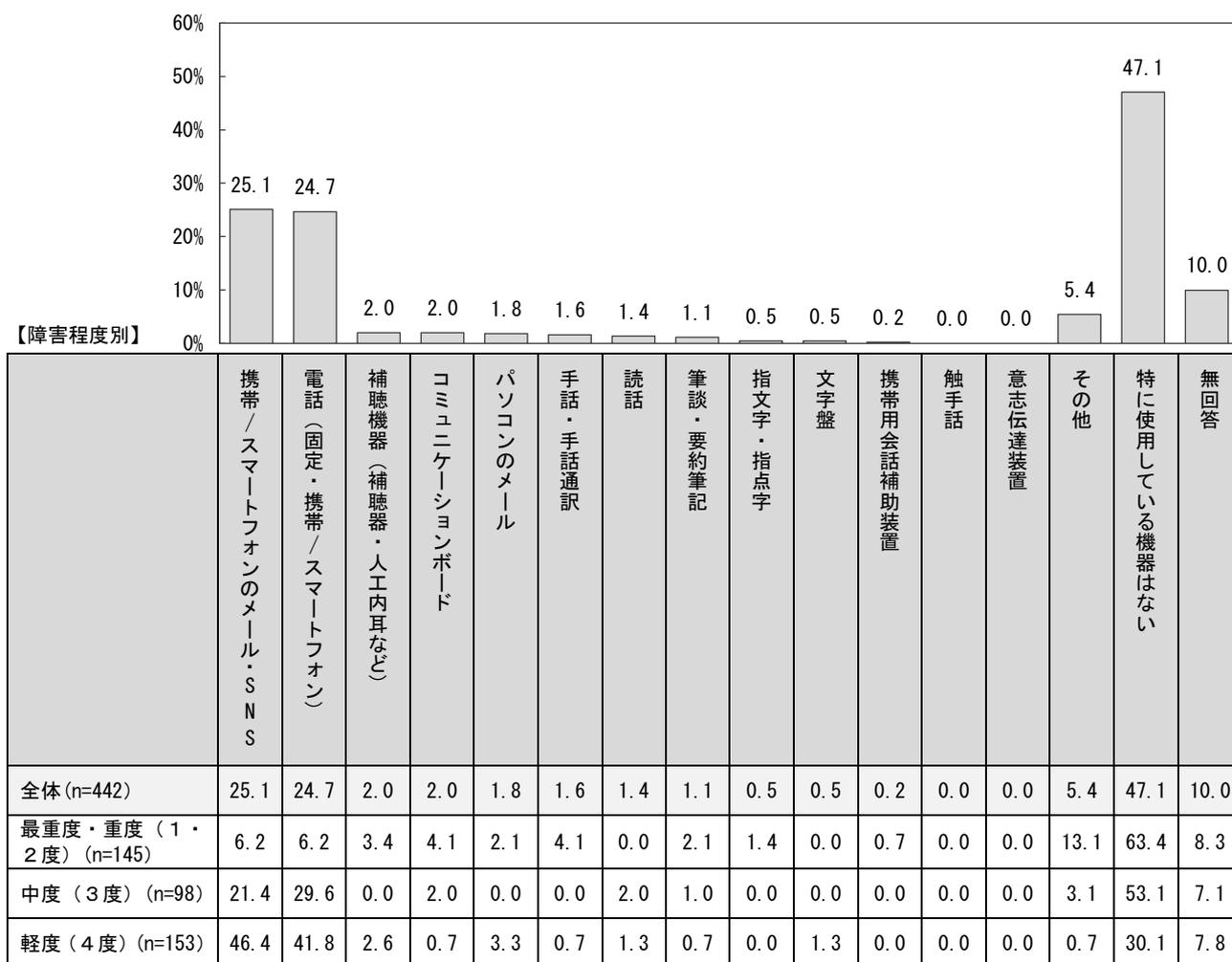
障害の種類別	携帯／スマートフォンのメール・SNS	電話（固定・携帯／スマートフォン）	パソコンのメール	補聴機器（補聴器・人工内耳など）	筆談・要約筆記	手話・手話通訳	携帯用会話補助装置	コミュニケーションボード	読話	指文字・指点字	意志伝達装置	文字盤	触手話	その他	特に使用している機器はない	無回答
視覚障害 (n=81)	55.6	59.3	22.2	7.4	1.2	1.2	0.0	0.0	1.2	0.0	0.0	0.0	0.0	4.9	12.3	3.7
聴覚障害 (n=87)	67.8	18.4	18.4	62.1	39.1	33.3	17.2	16.1	16.1	6.9	0.0	1.1	0.0	3.4	1.1	3.4
平衡機能障害 (n=2)	50.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0
音声機能・言語機能・そしやく機能の障害 (n=25)	40.0	32.0	16.0	4.0	20.0	0.0	4.0	4.0	0.0	0.0	4.0	4.0	0.0	0.0	24.0	8.0
肢体不自由（上肢、下肢等） (n=140)	47.9	42.9	20.7	1.4	0.0	0.0	0.7	0.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.3	29.3	5.7
肢体不自由（体幹） (n=40)	35.0	27.5	10.0	0.0	2.5	0.0	5.0	2.5	0.0	0.0	2.5	0.0	2.5	5.0	40.0	7.5
内部障害 (n=156)	62.8	56.4	18.6	2.6	0.0	0.6	1.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.3	13.5	3.8
その他 (n=7)	28.6	28.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	28.6	28.6

年齢4区分別	携帯／スマートフォンのメール・SNS	電話（固定・携帯／スマートフォン）	パソコンのメール	補聴機器（補聴器・人工内耳など）	筆談・要約筆記	手話・手話通訳	携帯用会話補助装置	コミュニケーションボード	読話	指文字・指点字	意志伝達装置	文字盤	触手話	その他	特に使用している機器はない	無回答
0～17歳 (n=48)	39.6	27.1	6.3	18.8	4.2	2.1	2.1	6.3	0.0	2.1	2.1	0.0	2.1	8.3	31.3	6.3
18～44歳 (n=45)	51.1	13.3	11.1	13.3	15.6	13.3	6.7	4.4	6.7	4.4	0.0	0.0	0.0	4.4	26.7	8.9
45～64歳 (n=226)	68.6	42.9	31.9	14.6	9.3	8.4	4.9	4.0	5.3	0.4	0.0	0.4	0.0	3.5	14.2	3.1
65歳以上 (n=219)	43.8	51.6	8.7	7.8	3.7	0.9	3.2	1.4	0.0	0.9	0.5	0.5	0.0	1.4	17.8	7.3

## 【知的障害者】

障害の程度別にみると、障害が重くなるにつれて「携帯/スマートフォンのメール・SNS」、「電話（固定・携帯/スマートフォン）」の割合が減少している。

年齢4区分別にみると、18～44歳では「携帯/スマートフォンのメール・SNS」が33.9%と最も多く、45～64歳、65歳以上では「電話（固定・携帯/スマートフォン）」がそれぞれ27.8%、28.0%と最も多くなっている。

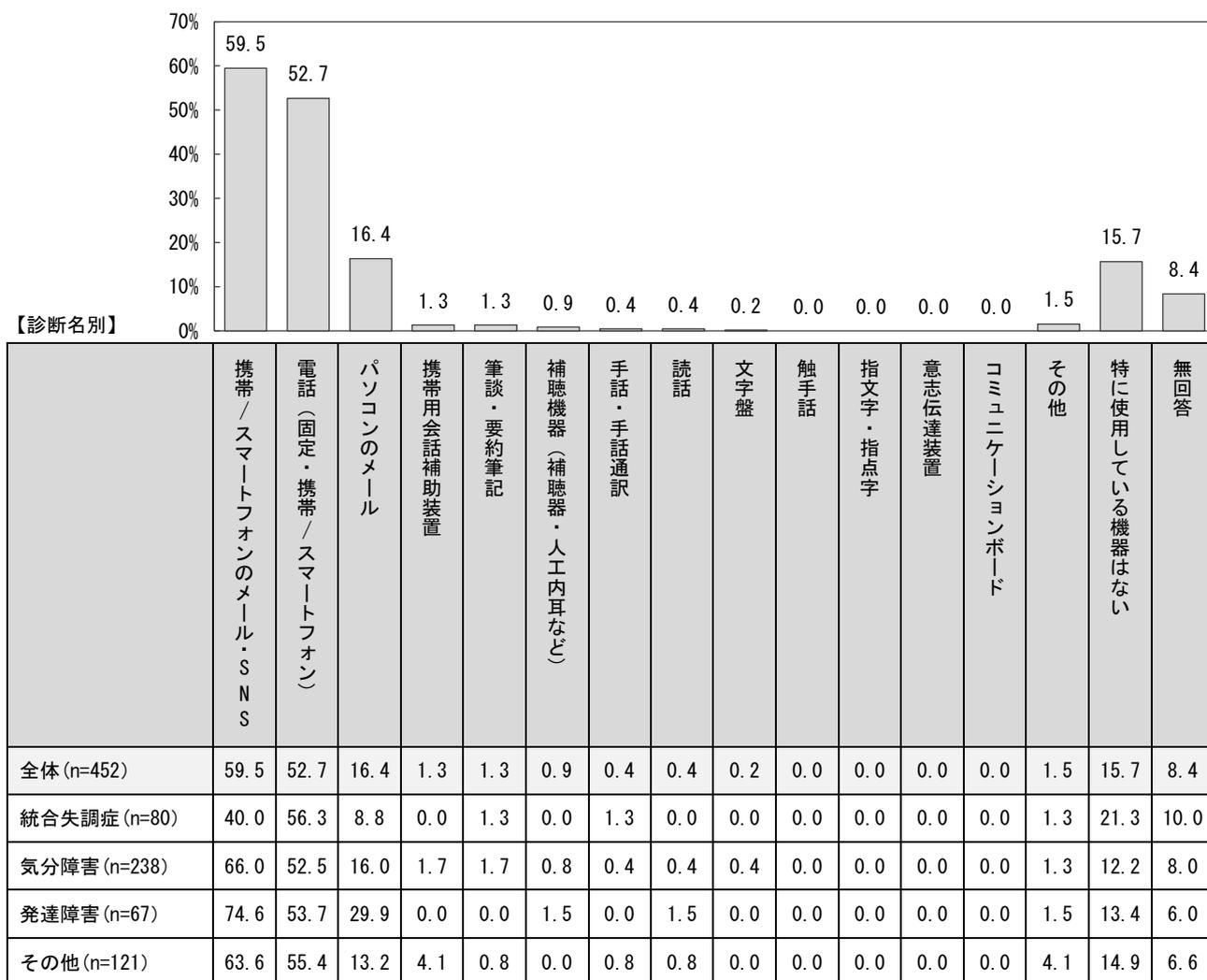


年齢4区分別	携帯/スマートフォンのメール・SNS	電話（固定・携帯/スマートフォン）	補聴機器（補聴器・人工内耳など）	コミュニケーションボード	パソコンのメール	手話・手話通訳	読話	筆談・要約筆記	指文字・指点字	文字盤	携帯用会話補助装置	触手話	意志伝達装置	その他	特々使用している機器はない	無回答
0～17歳(n=158)	22.2	18.4	0.6	3.8	1.9	3.2	0.6	0.0	0.6	0.6	0.6	0.0	0.0	5.7	54.4	7.6
18～44歳(n=186)	33.9	29.6	2.2	1.6	2.2	1.1	1.1	2.7	0.5	0.5	0.0	0.0	0.0	5.9	41.9	7.0
45～64歳(n=54)	14.8	27.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.9	46.3	22.2
65歳以上(n=25)	8.0	28.0	12.0	0.0	4.0	0.0	4.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.0	44.0	16.0

## 【精神障害者】

診断名別にみると、発達障害と診断されている人では「携帯/スマートフォンのメール・SNS」が74.6%と最も多くなっている。

年齢4区分別にみると、18～44歳では「携帯/スマートフォンのメール・SNS」が73.1%と最も多くなっている一方で、65歳以上では35.2%と年代が上がるにつれて減少している。

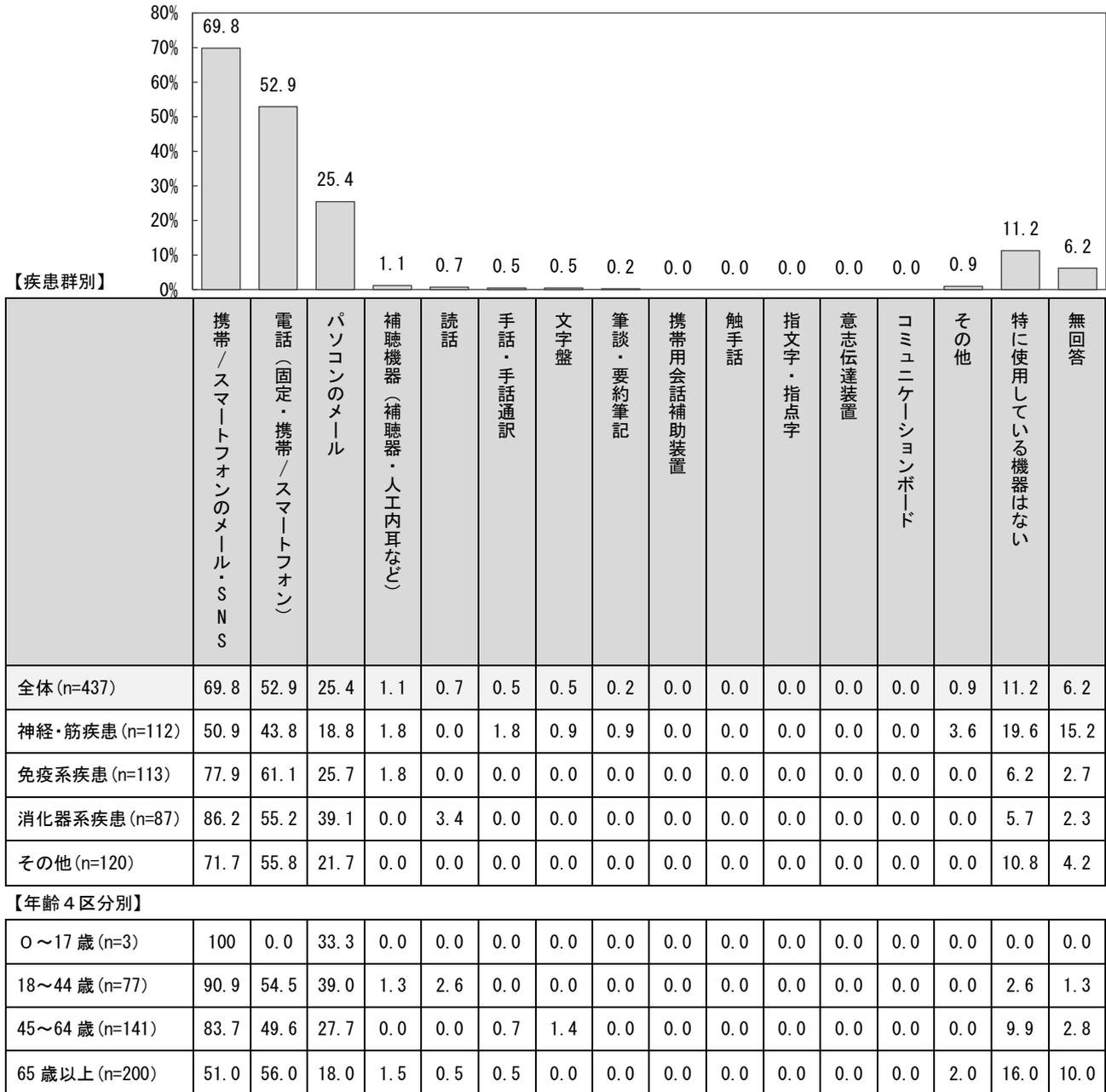


年齢4区分別	携帯/スマートフォンのメール・SNS	電話(固定・携帯/スマートフォン)	パソコンのメール	携帯用会話補助装置	筆談・要約筆記	補聴機器(補聴器・人工内耳など)	手話・手話通訳	読話	文字盤	触手話	指文字・指点字	意志伝達装置	コミュニケーションボード	その他	特に使用している機器はない	無回答
0～17歳(n=3)	100	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
18～44歳(n=104)	73.1	50.0	26.9	1.9	0.0	1.0	0.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	13.5	6.7
45～64歳(n=193)	69.4	56.5	16.6	1.0	1.6	0.0	0.5	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.6	8.8	7.3
65歳以上(n=128)	35.2	51.6	7.0	1.6	2.3	2.3	0.8	0.0	0.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.8	28.1	9.4

## 【難病患者】

疾患群ごとにみると、免疫系疾患、消化器系疾患では「携帯/スマートフォンのメール・SNS」がそれぞれ 77.9%、86.2%と約 8 割となっているが、神経・筋疾患では 50.9%と他の疾患群と比べて少なくなっている。

年齢 4 区分別にみると、18～44 歳では「携帯/スマートフォンのメール・SNS」が 90.9%と最も多くなっている一方で、65 歳以上では 51.0%と年代が上がるにつれて減少している。



## (5) コミュニケーションや情報取得のために充実すべきこと（複数回答）

コミュニケーションや情報取得のために充実すべきことは、身体障害者、難病患者では「パソコン/携帯メール・SNSによる情報提供を増やす」がそれぞれ28.8%、36.8%と最も多くなっている。

知的障害者では「コミュニケーションを支援する人を増やす」が32.8%と最も多くなっている。

(単位：%)

区分	身体障害者 (n=562)	知的障害者 (n=442)	精神障害者 (n=452)	難病患者 (n=437)	施設入所者 (n=303)	児童発達 支援事業利用者 (n=153)
点字による情報提供を増やす	4.8	1.8	2.9	3.4	1.3	4.6
音声による情報提供を増やす	14.1	7.0	8.2	11.2	3.0	7.2
パソコン/携帯メール・SNSによる情報提供を増やす	28.8 (1位)	15.4 (3位)	28.8 (2位)	36.8 (1位)	2.3	20.3
手話通訳・要約筆記を充実する	8.7	2.3	3.1	2.7	1.3	3.9
公共施設の案内・誘導をわかりやすくする	21.9 (3位)	14.9	21.7	26.5 (3位)	5.9	20.3 (3位)
電光掲示板や自動販売機など字幕による情報提供を増やす	11.6	5.9	5.5	7.1	1.3	3.3
コミュニケーション支援機器の種類・使い方についての情報提供や相談の機会を増やす	15.3	10.4	12.6	7.8	3.3	9.2
コミュニケーションを支援する人を増やす	15.5	32.8 (1位)	22.6 (3位)	13.5	26.1 (2位)	33.3 (2位)
その他	4.1	4.1	3.3	2.5	3.6	3.3
特にない	27.4 (2位)	32.4 (2位)	30.1 (1位)	27.2 (2位)	54.1 (1位)	37.3 (1位)
無回答	13.9	15.4 (3位)	16.2	13.7	12.2 (2位)	12.4

### 【前回調査との比較】

(単位：%)

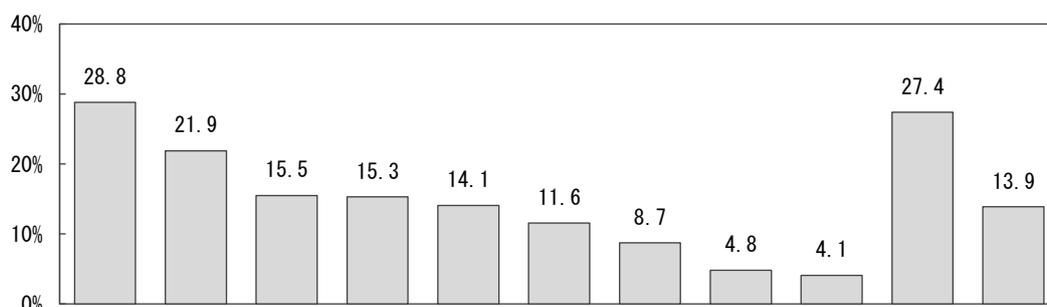
区分		1位	2位	3位
身体障害者	今回 (n=562)	パソコン/携帯メール・SNSによる情報提供を増やす (28.8)	特にない (27.4)	公共施設の案内・誘導をわかりやすくする (21.9)
	前回 (n=659)	パソコン/携帯メール・SNSによる情報提供を増やす (28.8)	特にない (25.5)	公共施設の案内・誘導をわかりやすくする (24.1)
精神障害者	今回 (n=452)	特にない (30.1)	パソコン/携帯メール・SNSによる情報提供を増やす (28.8)	コミュニケーションを支援する人を増やす (22.6)
	前回 (n=451)	パソコン/携帯メール・SNSによる情報提供を増やす (36.6)	公共施設の案内・誘導をわかりやすくする (30.4)	特にない (25.1)
児童発達支援事業利用者	今回 (n=153)	特にない (37.3)	コミュニケーションを支援する人を増やす (33.3)	パソコン/携帯メール・SNSによる情報提供を増やす (20.3)
	前回 (n=127)	特にない (46.5)	公共施設の案内・誘導をわかりやすくする (26.0)	パソコン/携帯メール・SNSによる情報提供を増やす (21.3)

## 【身体障害者】

障害の程度別にみると、程度による大きな差はみられない。

障害の種類別にみると、視覚障害では「パソコン／携帯メール・SNSによる情報提供を増やす」が38.3%と最も多くなっている。聴覚障害では「電光掲示板や自動販売機など字幕による情報提供を増やす」が44.8%と最も多くなっている。肢体不自由（上肢、下肢等）、肢体不自由（体幹）では「特になし」が最も多くなっている。

年齢4区分別にみると、18～44歳、45～64歳では「パソコン／携帯メール・SNSによる情報提供を増やす」がそれぞれ37.8%、39.4%となっている。



【障害程度別】	パソコン／携帯メール・SNSによる情報提供を増やす	公共施設の案内・誘導をわかりやすくする	コミュニケーションを支援する人を増やす	コミュニケーション支援機器の種類・使い方についての情報提供や相談の機会を増やす	音声による情報提供を増やす	電光掲示板や自動販売機など字幕による情報提供を増やす	手話通訳・要約筆記を充実する	点字による情報提供を増やす	その他	特になし	無回答
全体 (n=562)	28.8	21.9	15.5	15.3	14.1	11.6	8.7	4.8	4.1	27.4	13.9
重度 (1・2級) (n=310)	30.0	20.3	17.4	15.2	15.2	10.0	11.6	5.5	3.9	27.1	13.2
中度 (3・4級) (n=156)	25.0	21.2	14.1	17.3	10.3	12.8	5.1	2.6	4.5	28.2	15.4
軽度 (5・6級) (n=70)	40.0	27.1	11.4	14.3	15.7	18.6	4.3	4.3	5.7	28.6	4.3

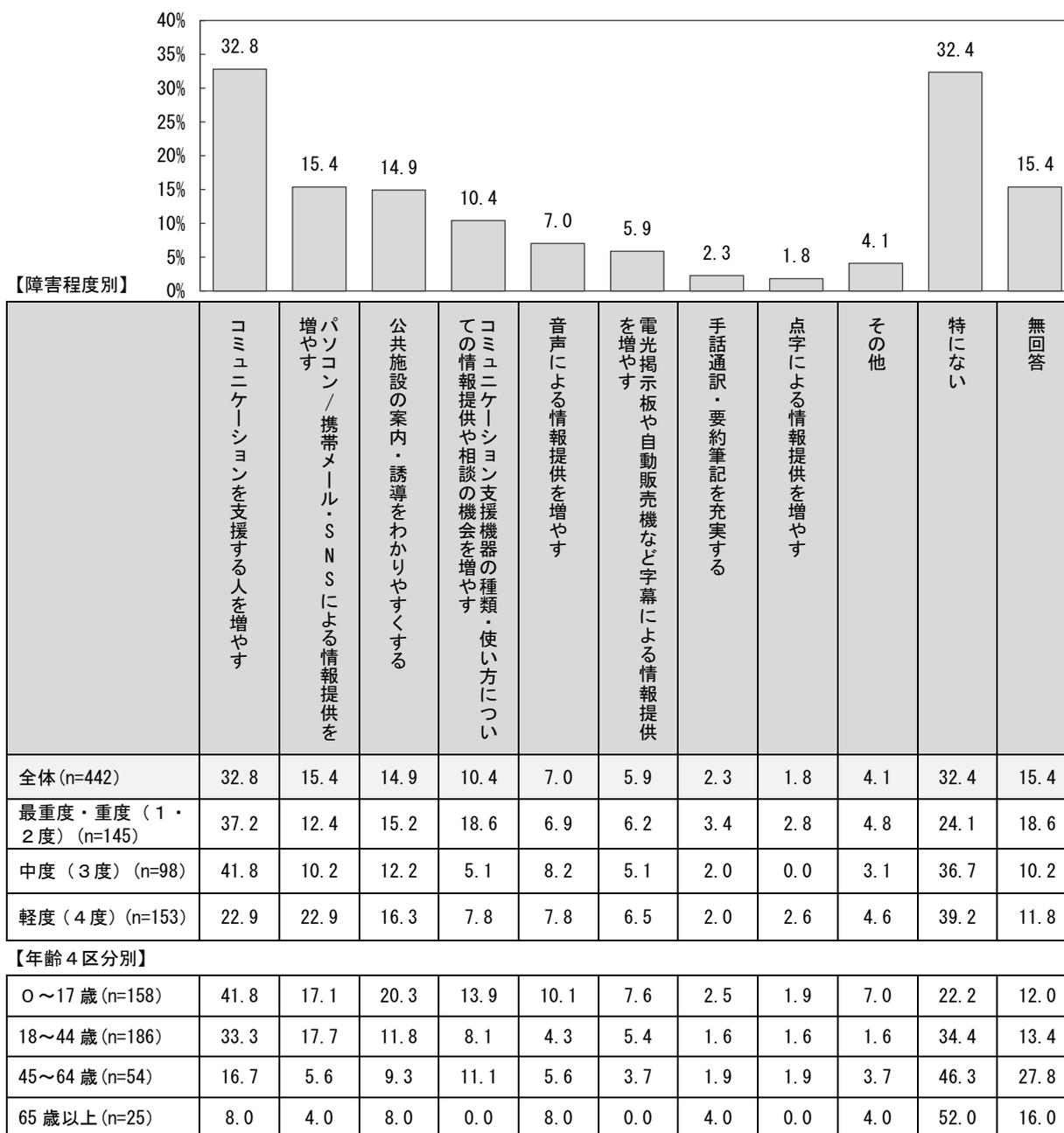
【障害の種類別】	パソコン／携帯メール・SNSによる情報提供を増やす	公共施設の案内・誘導をわかりやすくする	コミュニケーションを支援する人を増やす	コミュニケーション支援機器の種類・使い方についての情報提供や相談の機会を増やす	音声による情報提供を増やす	電光掲示板や自動販売機など字幕による情報提供を増やす	手話通訳・要約筆記を充実する	点字による情報提供を増やす	その他	特になし	無回答
視覚障害 (n=81)	38.3	22.2	14.8	9.9	37.0	8.6	1.2	11.1	4.9	22.2	8.6
聴覚障害 (n=87)	34.5	25.3	24.1	28.7	6.9	44.8	43.7	2.3	8.0	10.3	9.2
平衡機能障害 (n=2)	0.0	50.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0
音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害 (n=25)	28.0	16.0	16.0	16.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	36.0	16.0
肢体不自由（上肢、下肢等） (n=140)	25.0	23.6	15.0	12.9	12.1	4.3	0.0	1.4	2.9	32.1	14.3
肢体不自由（体幹） (n=40)	15.0	20.0	20.0	12.5	12.5	5.0	5.0	10.0	0.0	42.5	17.5
内部障害 (n=156)	31.4	18.6	9.6	14.7	9.0	5.8	3.2	3.8	2.6	31.4	14.7
その他 (n=7)	14.3	14.3	14.3	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3	28.6	14.3

【年齢4区分別】	パソコン／携帯メール・SNSによる情報提供を増やす	公共施設の案内・誘導をわかりやすくする	コミュニケーションを支援する人を増やす	コミュニケーション支援機器の種類・使い方についての情報提供や相談の機会を増やす	音声による情報提供を増やす	電光掲示板や自動販売機など字幕による情報提供を増やす	手話通訳・要約筆記を充実する	点字による情報提供を増やす	その他	特になし	無回答
0～17歳 (n=48)	27.1	35.4	22.9	20.8	18.8	16.7	8.3	6.3	4.2	18.8	8.3
18～44歳 (n=45)	37.8	28.9	24.4	17.8	17.8	8.9	13.3	11.1	6.7	22.2	13.3
45～64歳 (n=226)	39.4	20.8	18.1	15.9	15.5	14.6	11.9	5.8	5.3	26.1	8.8
65歳以上 (n=219)	16.4	18.3	9.1	13.2	11.0	6.8	4.1	1.8	2.3	33.8	19.6

## 【知的障害者】

障害の程度別にみると、最重度・重度（1・2度）では「コミュニケーション支援機器の種類・使い方についての情報提供や相談の機会を増やす」が18.6%と中度（3度）、軽度（4度）と比べて多くなっている。

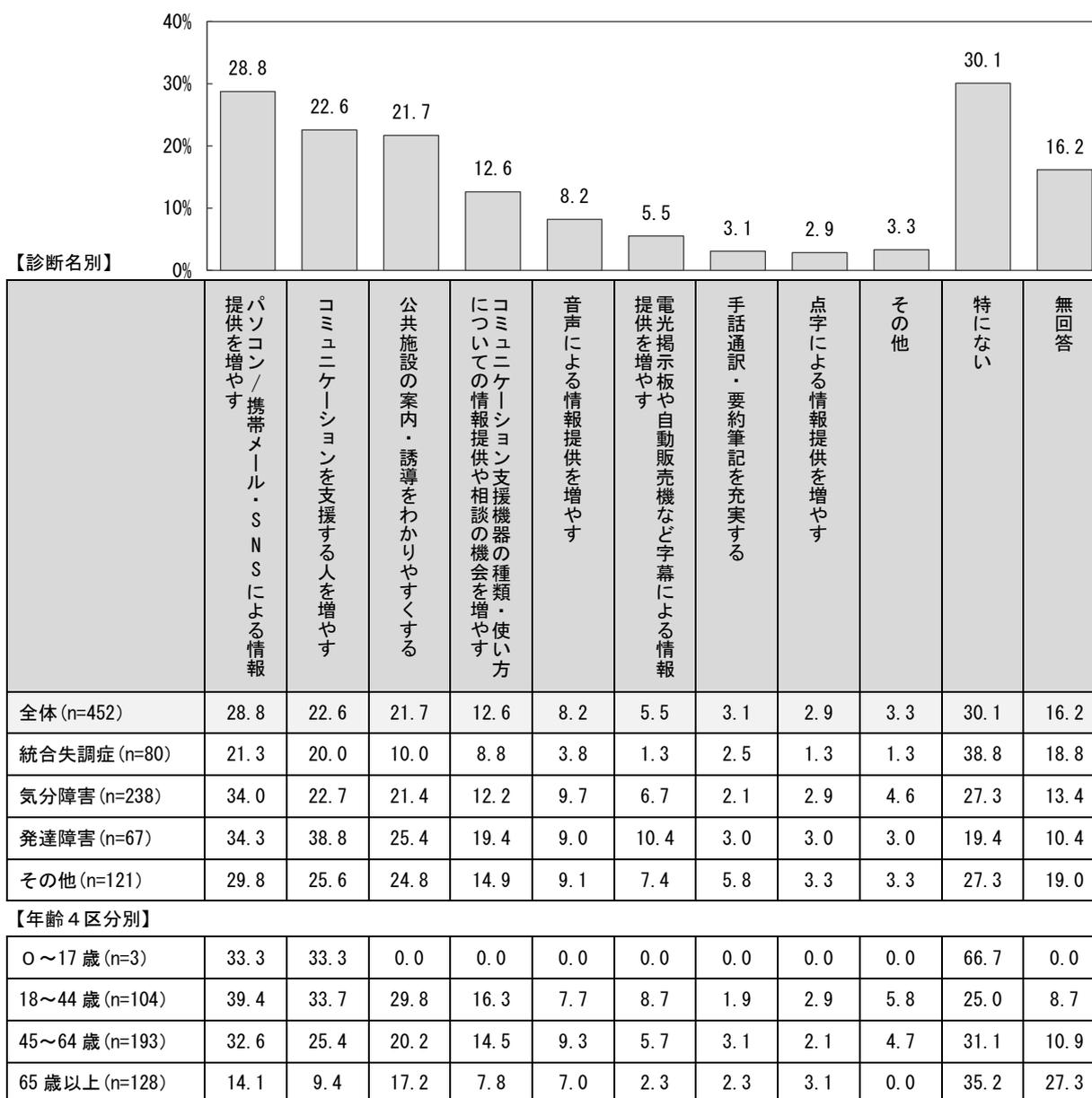
年齢4区別にみると、0～17歳、18～44歳では「コミュニケーションを支援する人を増やす」がそれぞれ41.8%、33.3%と最も多くなっている。



## 【精神障害者】

診断名別にみると、「パソコン／携帯メール・SNSによる情報提供を増やす」と回答した人は、統合失調症と診断されている人では21.3%、気分障害と診断されている人では34.0%、発達障害と診断されている人では34.3%となっている。

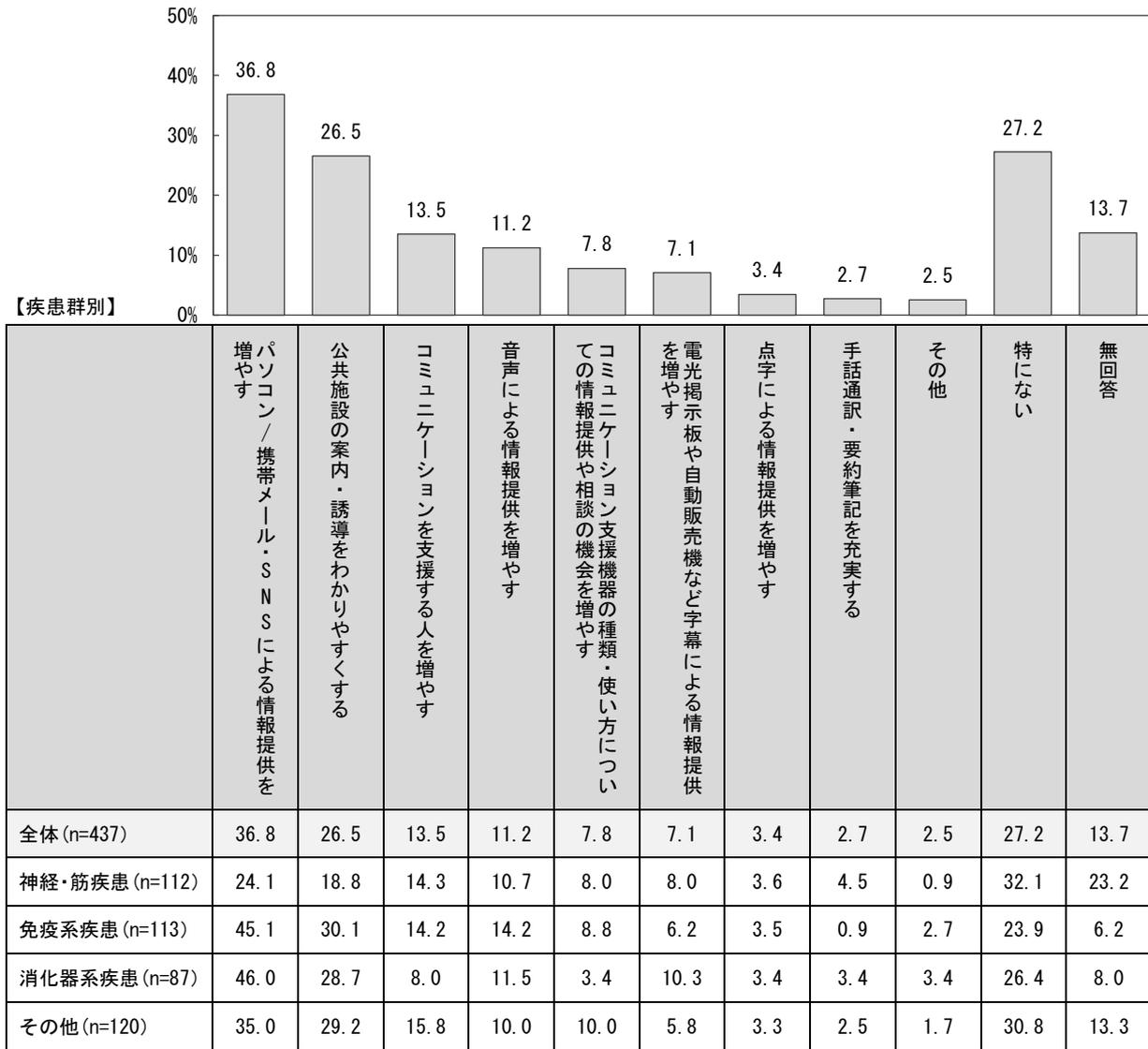
年齢4区分別にみると、18～44歳、45～64歳では「パソコン／携帯メール・SNSによる情報提供を増やす」がそれぞれ39.4%、32.6%と最も多くなっている。



## 【難病患者】

疾患群別にみると、免疫系疾患、消化器系疾患では「パソコン/携帯メール・SNSによる情報提供を増やす」がそれぞれ45.1%、46.0%と約5割となっているが、神経・筋疾患では24.1%と他の疾患群と比べて少なくなっている。

年齢4区分別にみると、18～44歳、45～64歳では「パソコン/携帯メール・SNSによる情報提供を増やす」がそれぞれ50.6%、49.6%となっている。



年齢区別	パソコン／携帯メール・SNSによる情報提供を増やす	公共施設の案内・誘導をわかりやすくする	コミュニケーションを支援する人を増やす	音声による情報提供を増やす	コミュニケーション支援機器の種類・使い方についての情報提供や相談の機会を増やす	電光掲示板や自動販売機など字幕による情報提供を増やす	点字による情報提供を増やす	手話通訳・要約筆記を充実する	その他	特にない	無回答
0～17歳(n=3)	66.7	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
18～44歳(n=77)	50.6	28.6	19.5	15.6	9.1	11.7	6.5	6.5	3.9	24.7	0.0
45～64歳(n=141)	49.6	31.9	12.1	12.8	8.5	8.5	5.7	2.8	1.4	23.4	9.2
65歳以上(n=200)	22.5	23.5	11.0	9.5	6.5	5.0	1.0	1.5	2.0	31.5	21.5

## 9 障害福祉サービスについて

### (1) 最近1年間に利用したサービス（複数回答）

最近1年間に利用した福祉サービスは、身体障害者では「福祉タクシー券の交付、自動車燃料費の助成等」が27.2%となっている。

知的障害者、児童発達支援事業利用者では「児童発達支援・放課後等デイサービスなど」がそれぞれ28.1%、78.4%となっている。

精神障害者では「訪問看護などの医療系サービス」が12.8%となっている。

難病患者では「日常生活用具の給付・レンタル」が11.4%となっている。

(単位：%)

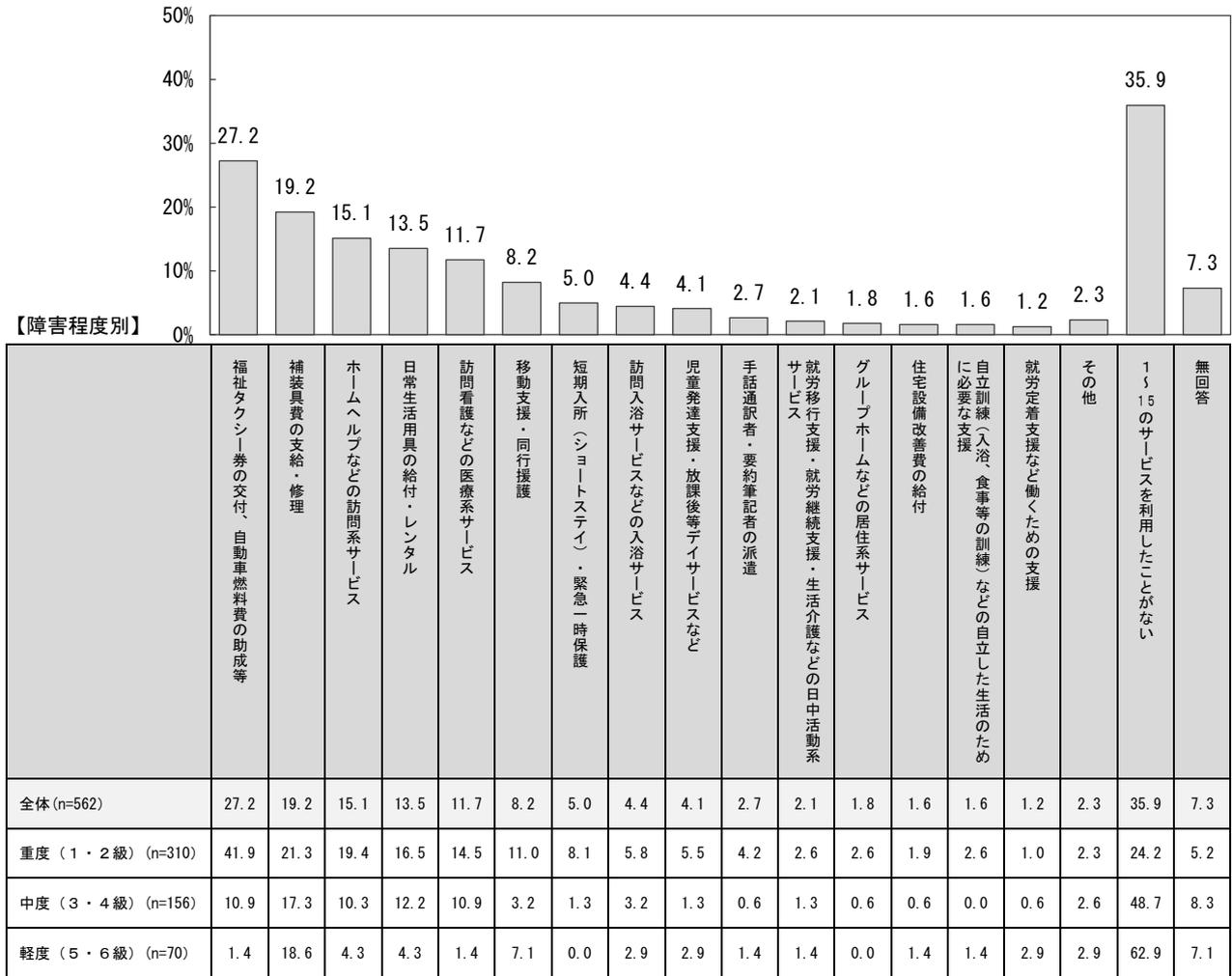
区 分	身体障害者 (n=562)	知的障害者 (n=442)	精神障害者 (n=452)	難病患者 (n=437)	児童発達 支援事業 利用者 (n=153)
ホームヘルプなどの訪問系サービス	15.1	7.7	6.9	6.6	3.9
訪問看護などの医療系サービス	11.7	8.8	12.8 (2位)	9.8 (3位)	11.1 (3位)
短期入所（ショートステイ）・緊急一時保護	5.0	9.0	3.1	3.9	1.3
補装具費の支給・修理	19.2 (3位)	11.5		4.6	6.5
日常生活用具の給付・レンタル	13.5	7.2		11.4 (2位)	2.0
住宅設備改善費の給付	1.6	0.9		3.0	0.0
福祉タクシー券の交付、自動車燃料費の助成等	27.2 (2位)	15.6		6.4	4.6
移動支援・同行援護	8.2	18.8 (3位)		2.1	0.7
訪問入浴サービスなどの入浴サービス	4.4	2.9		2.5	0.7
障害者地域生活支援センター(きらら・すてっぷ・ういんぐ・さくら)			4.2		
自立訓練(入浴、食事等の訓練)などの自立した生活のために必要な支援	1.6	0.7	1.5		
就労移行支援・就労継続支援・生活介護などの日中活動系サービス	2.1	17.2	8.6		
就労定着支援など働くための支援	1.2	5.2	5.1		
グループホームなどの居住系サービス	1.8	4.8	2.4	0.7	
児童発達支援・放課後等デイサービスなど	4.1	28.1 (1位)	0.0		78.4 (1位)
日中一時支援				0.2	
手話通訳者・要約筆記者の派遣	2.7	-		0.2	-
病院や診療所のデイケア			4.6		
介護保険のサービス				7.8	
ファミリーサポート					5.2
その他	2.3	2.7	4.4	1.1	2.6
上記のサービスを利用したことがない	35.9 (1位)	24.4 (2位)	53.5 (1位)	68.9 (1位)	16.3 (2位)
無回答	7.3	7.7	11.3 (3位)	6.4	3.3

## 【身体障害者】

障害の程度別にみると、程度が重いほどサービスの利用者が多くなっている。

障害の種類別にみると、視覚障害では「福祉タクシー券の交付、自動車燃料費の助成等」が33.3%と最も多く、次いで「補装具費の支給・修理」が19.8%となっている。

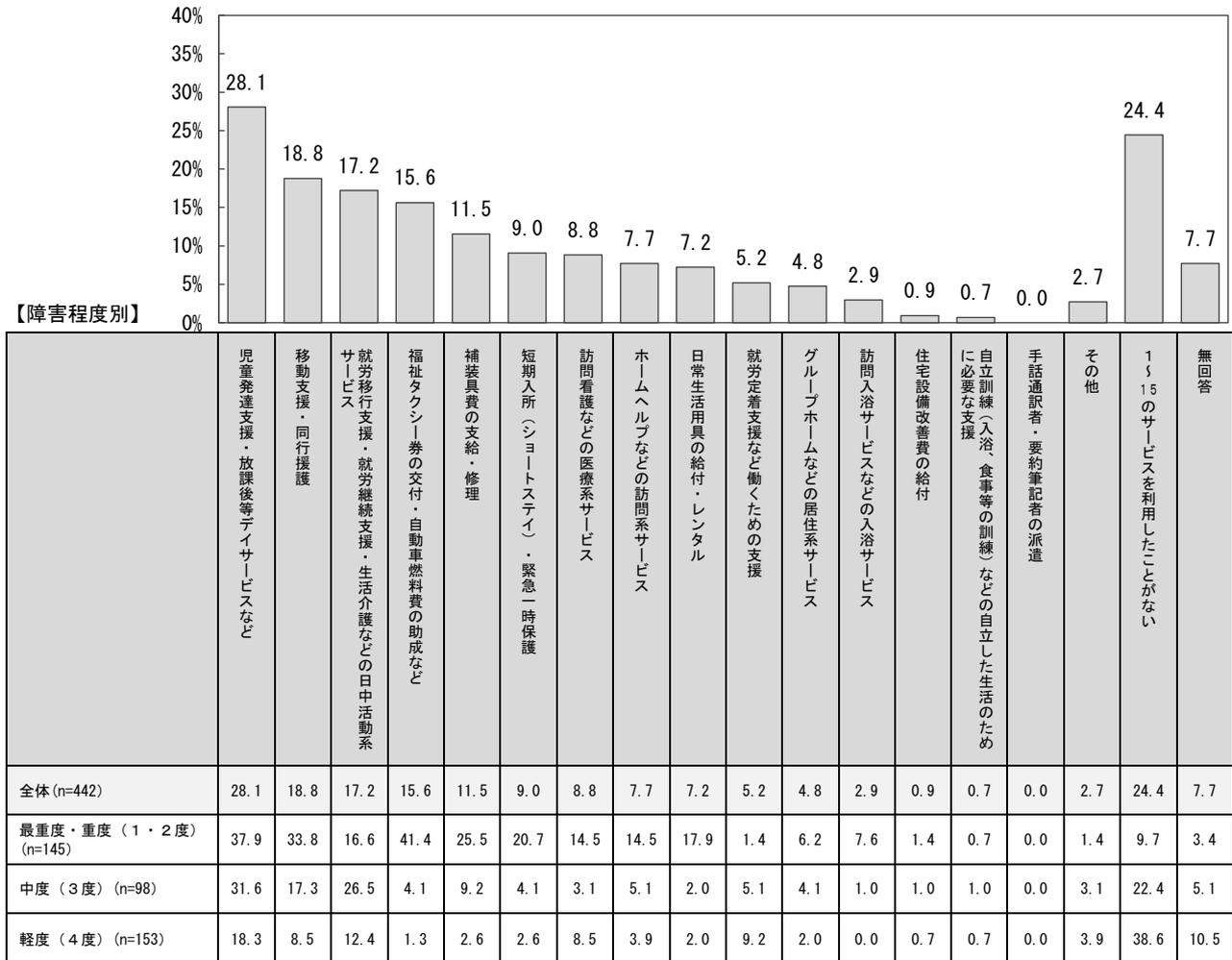
なお、聴覚障害では「補装具費の支給・修理」が26.4%と最も多く、次いで「手話通訳者・要約筆記者の派遣」が17.2%となっている。肢体不自由（体幹）では「福祉タクシー券の交付、自動車燃料費の助成等」が45.0%と最も多くなっている。



障害の種類別	福祉タクシー券の交付、自動車燃料費の助成等	補装具費の支給・修理	ホームヘルプなどの訪問系サービス	日常生活用具の給付・レンタル	訪問看護などの医療系サービス	移動支援・同行援護	短期入所（ショートステイ）・緊急一時保護	訪問入浴サービスなどの入浴サービス	児童発達支援・放課後等デイサービスなど	手話通訳者・要約筆記者の派遣	就労移行支援・就労継続支援・生活介護などの日中活動系サービス	グループホームなどの居住系サービス	住宅設備改善費の給付	自立訓練（入浴、食事等の訓練）などの自立した生活のために必要な支援	就労定着支援など働くための支援	その他	1～15のサービスを利用したことがない	無回答
視覚障害 (n=81)	33.3	19.8	12.3	14.8	2.5	14.8	3.7	1.2	3.7	0.0	2.5	1.2	0.0	1.2	1.2	3.7	35.8	6.2
聴覚障害 (n=87)	4.6	26.4	3.4	5.7	3.4	2.3	2.3	0.0	3.4	17.2	1.1	0.0	0.0	0.0	2.3	4.6	42.5	9.2
平衡機能障害 (n=2)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0
音声機能・言語機能・そしやく機能の障害 (n=25)	8.0	16.0	12.0	20.0	16.0	0.0	8.0	4.0	0.0	0.0	4.0	4.0	0.0	4.0	4.0	0.0	44.0	8.0
肢体不自由（上肢、下肢） (n=140)	24.3	24.3	24.3	13.6	19.3	12.1	11.4	9.3	5.7	0.0	2.9	1.4	4.3	2.9	1.4	0.7	40.0	5.0
肢体不自由（体幹） (n=40)	45.0	25.0	32.5	32.5	37.5	17.5	7.5	15.0	15.0	0.0	5.0	7.5	2.5	5.0	0.0	5.0	25.0	5.0
内部障害 (n=156)	39.7	10.3	9.6	10.9	5.8	1.9	1.3	1.3	0.6	0.0	0.0	0.6	0.6	0.6	0.0	1.3	34.0	7.1
その他 (n=7)	14.3	28.6	14.3	14.3	28.6	0.0	0.0	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3	14.3	14.3

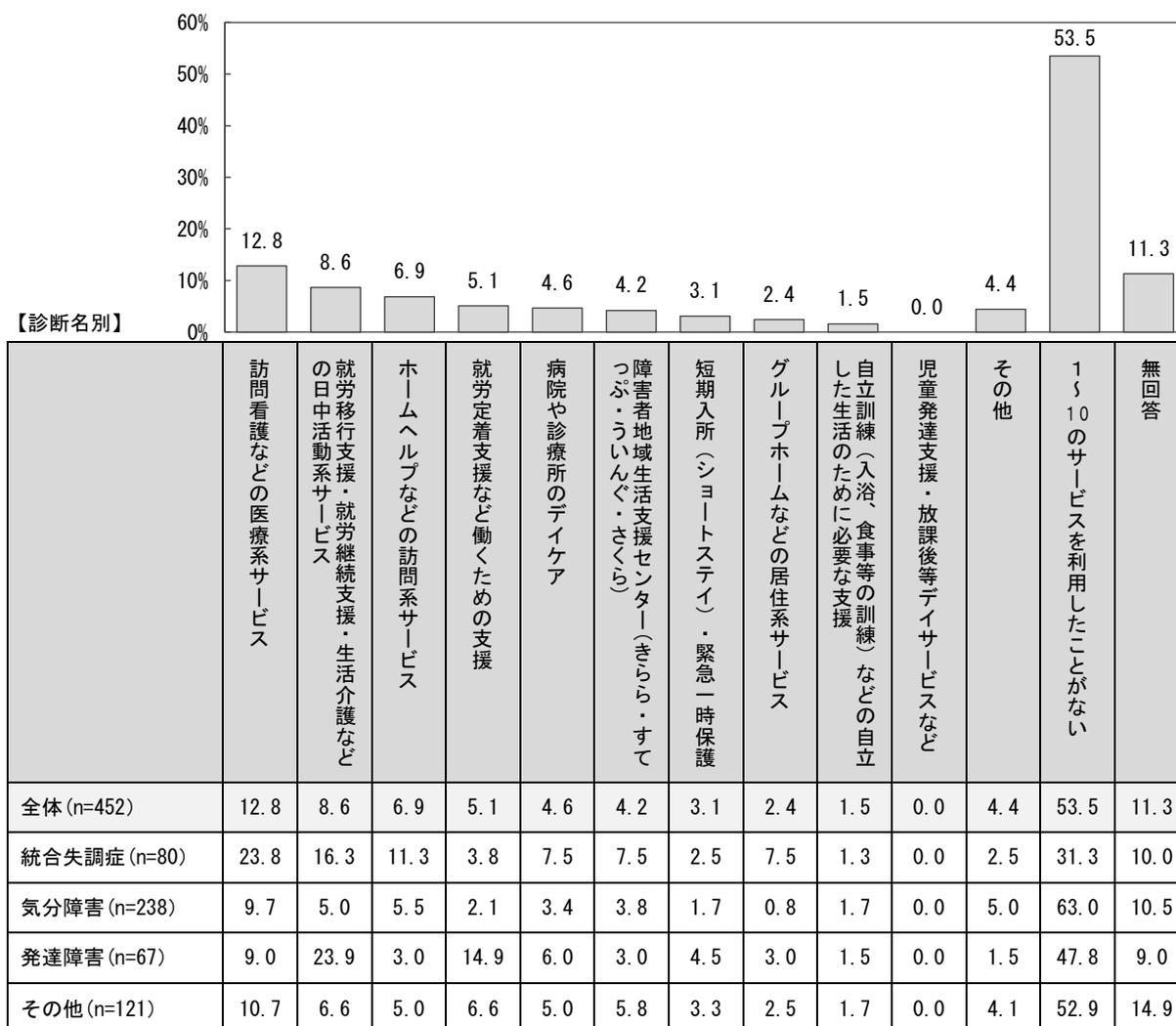
**【知的障害者】**

障害の程度別にみると、最重度・重度（1・2度）では「福祉タクシー券の交付・自動車燃料費の助成など」が41.4%と最も多く、次いで「児童発達支援・放課後等デイサービスなど」が37.9%、「移動支援・同行援護」が33.8%となっている。中度（3度）では「児童発達支援・放課後等デイサービスなど」が31.6%と最も多くなっている。



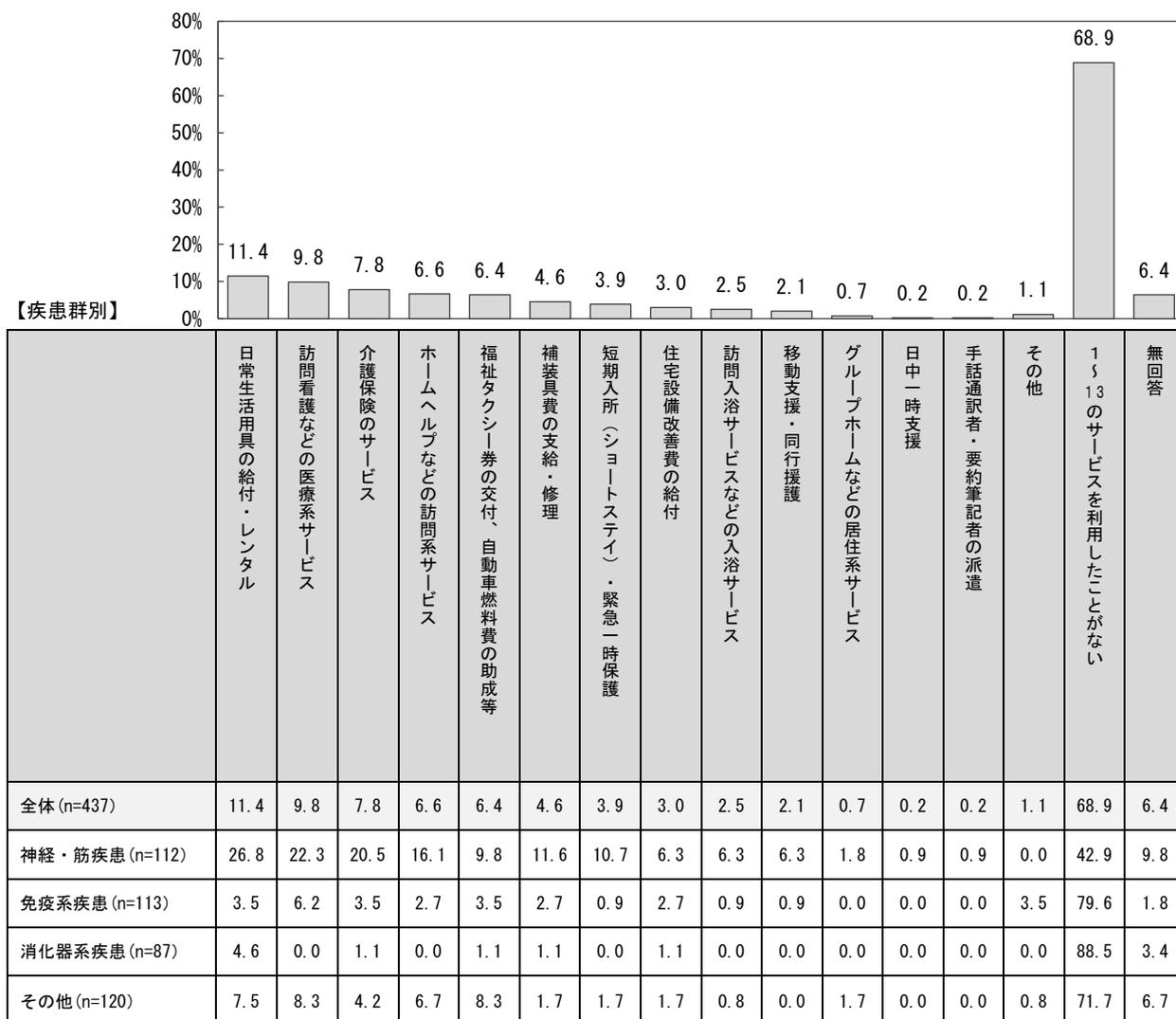
## 【精神障害者】

診断名別にみると、統合失調症、気分障害と診断されている人では「訪問看護などの医療系サービス」がそれぞれ 23.8%、9.7%、発達障害と診断されている人では「就労移行支援・就労継続支援・生活介護などの日中活動系サービス」が 23.9%と最も多くなっている。



## 【難病患者】

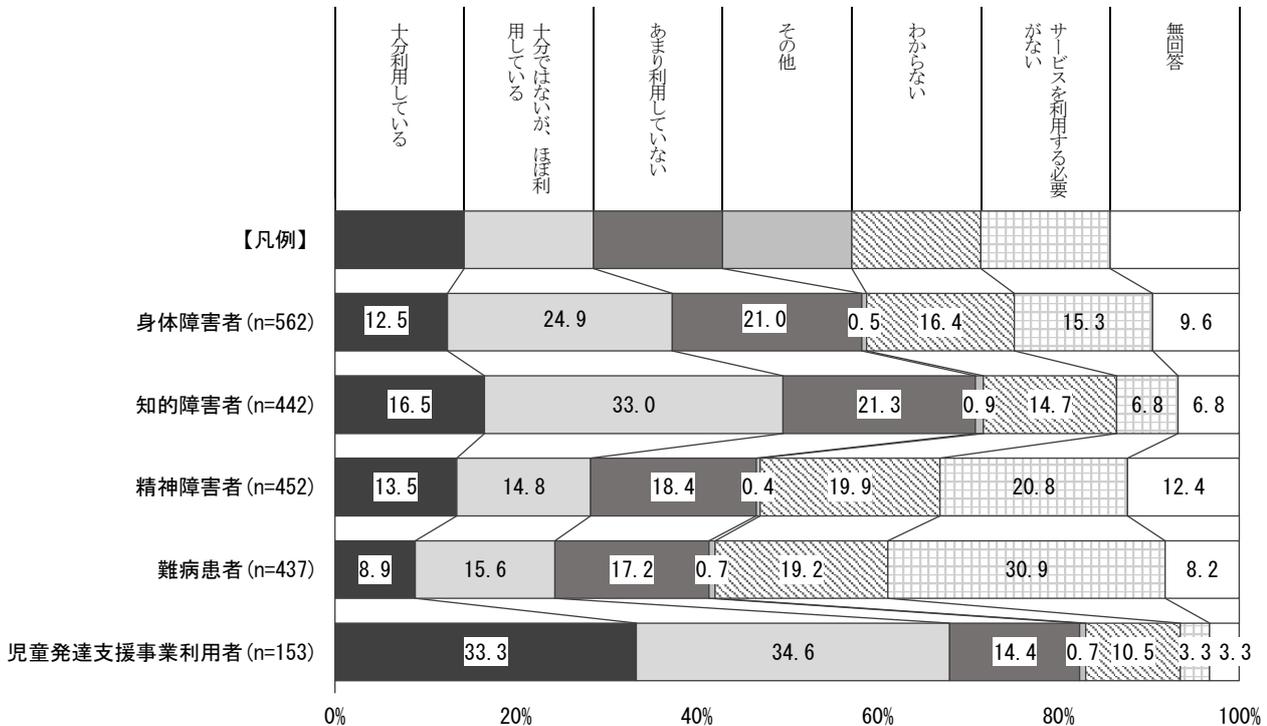
疾患群別にみると、免疫系疾患、消化器系疾患に比べて、神経・筋疾患でサービスの利用が多くなっている。



## (2) 必要だと思うサービスの利用状況

必要だと思うサービスの利用状況は、身体障害者、知的障害者、児童発達支援事業利用者では“利用している”人（「十分利用している」、「十分ではないが、ほぼ利用している」の合計）はそれぞれ 37.4%、49.5%、67.9%となっている。

一方で、精神障害者、難病患者では“利用している”人がそれぞれ 28.3%、24.5%となっている。



### 【前回調査との比較】

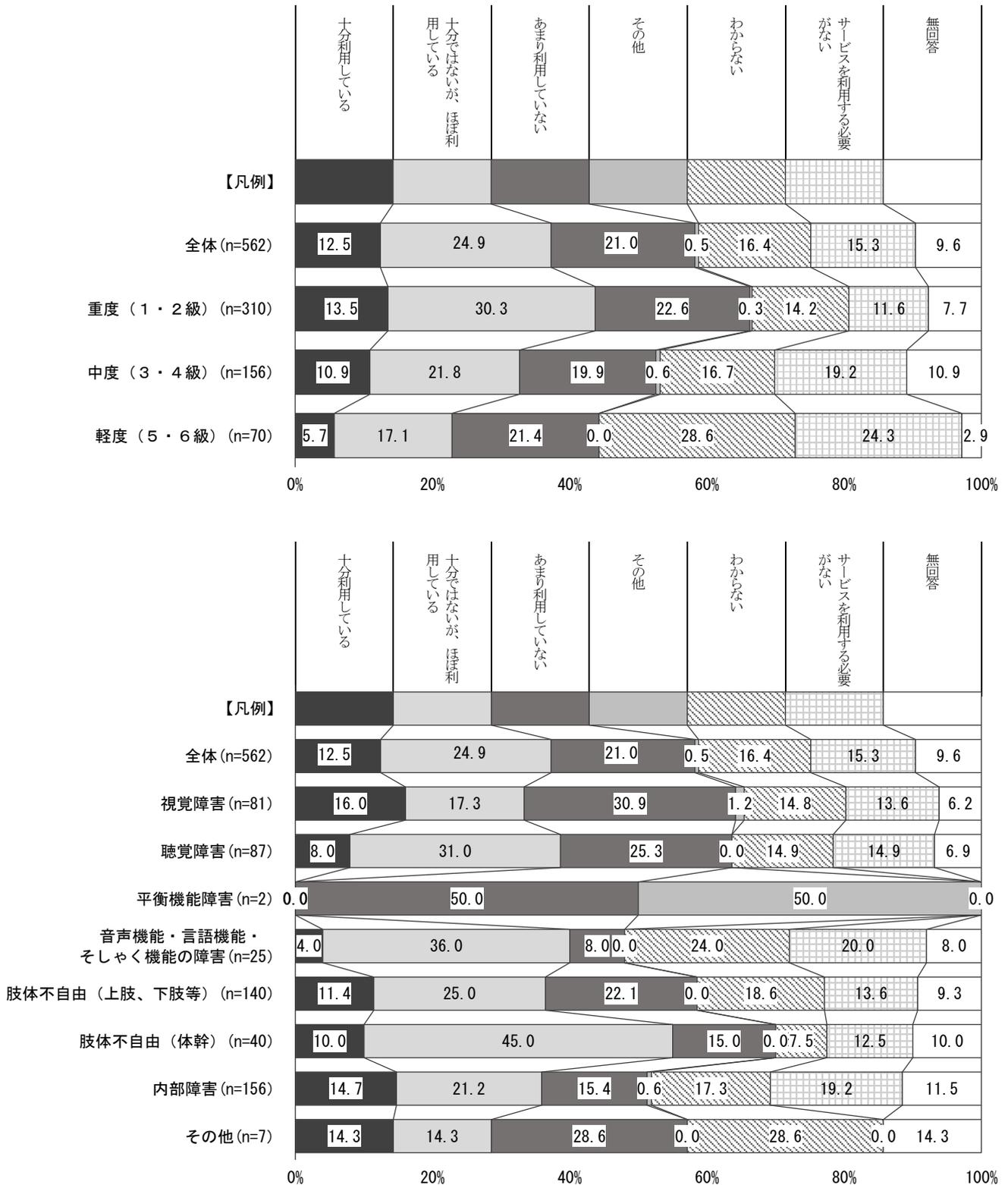
(単位：%)

区分		1位	2位	3位
身体障害者	今回 (n=562)	十分ではないが、ほぼ利用している (24.9)	あまり利用していない (21.0)	わからない (16.4)
	前回 (n=659)	十分ではないが、ほぼ利用している (26.7)	あまり利用していない (24.3)	十分利用している (14.3)
知的障害者	今回 (n=442)	十分ではないが、ほぼ利用している (33.0)	あまり利用していない (21.3)	十分利用している (16.5)
	前回 (n=474)	十分ではないが、ほぼ利用している (36.5)	あまり利用していない (24.9)	十分利用している (15.6)
精神障害者	今回 (n=452)	サービスを利用する必要がない (20.8)	わからない (19.9)	あまり利用していない (18.4)
	前回 (n=451)	わからない (24.4)	サービスを利用する必要がない (21.5)	あまり利用していない (20.6)
難病患者	今回 (n=437)	サービスを利用する必要がない (30.9)	わからない (19.2)	あまり利用していない (17.2)
	前回 (n=475)	サービスを利用する必要がない (33.5)	わからない (16.6)	十分ではないが、ほぼ利用している (15.2)
児童発達支援事業利用者	今回 (n=153)	十分ではないが、ほぼ利用している (34.6)	十分利用している (33.3)	あまり利用していない (14.4)
	前回 (n=127)	十分利用している (48.0)	十分ではないが、ほぼ利用している (31.5)	あまり利用していない (11.0)

## 【身体障害者】

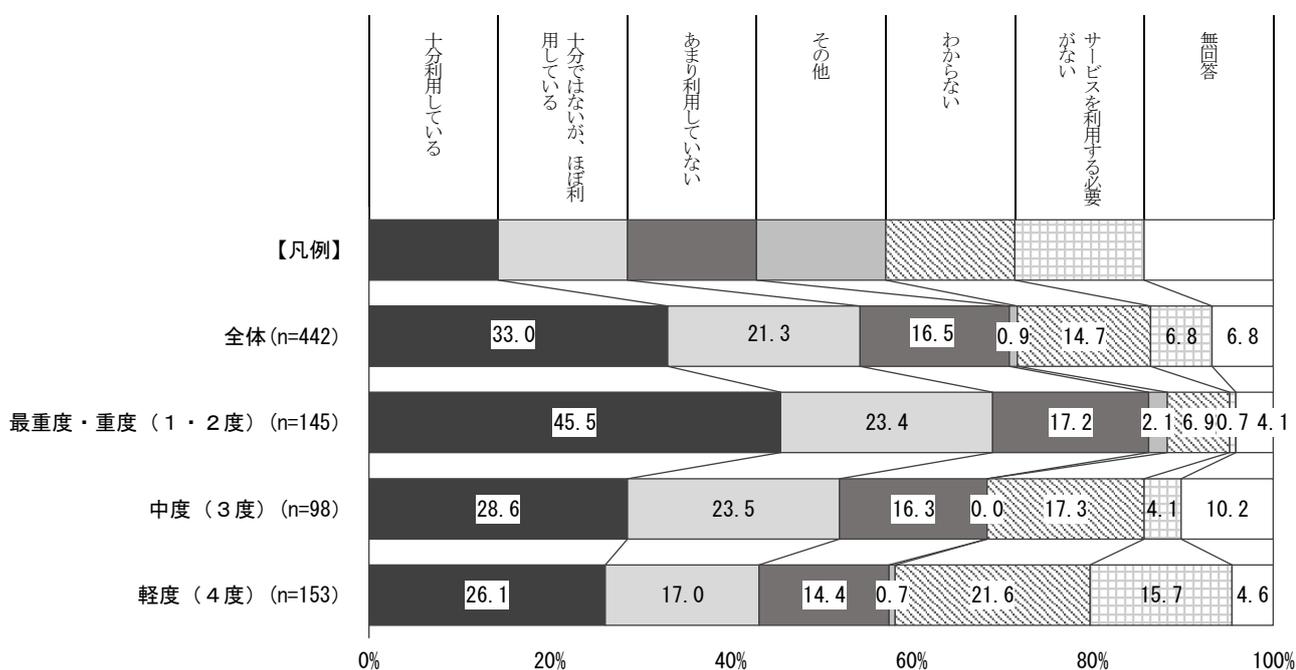
障害の程度別にみると、“利用している”人の割合は、程度が重いほど多く、重度（１・２級）では約４割、中度（３・４級）では約３割、軽度（５・６級）では約２割となっている。

障害の種類別にみると、視覚障害、聴覚障害、音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害、肢体不自由（上肢、下肢等）、肢体不自由（体幹）、内部障害ともに、“利用している”と回答した人が、「あまり利用していない」と回答した人より多くなっている。



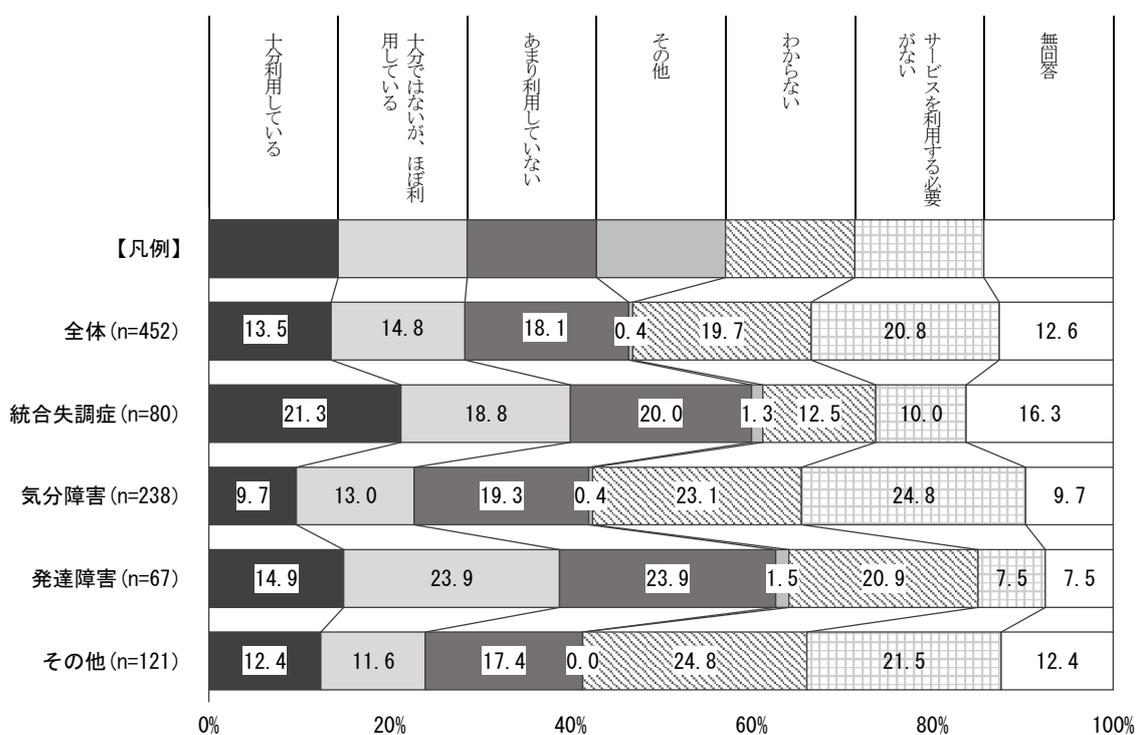
## 【知的障害者】

障害の程度別にみると、“利用している”人は程度が重いほど多く、軽度（4度）では43.1%だが、中度（3度）では52.1%、最重度・重度（1・2度）では68.9%となっている。



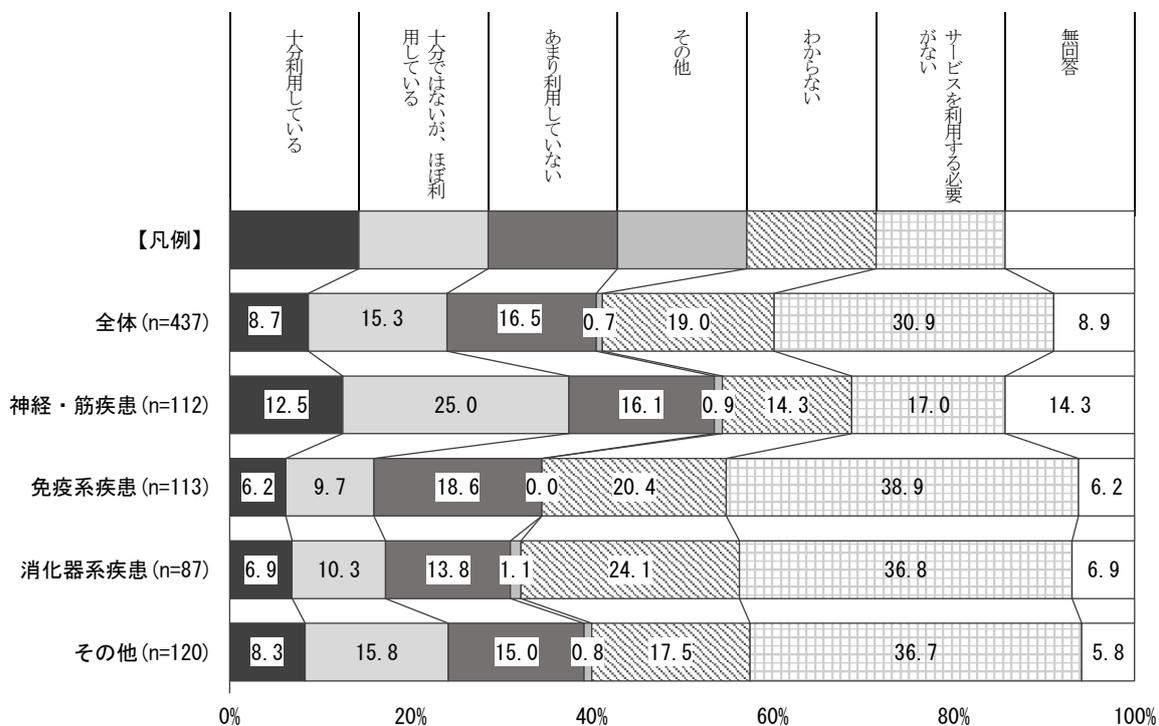
## 【精神障害者】

診断名別にみると、“利用している”人は、統合失調症と診断されている人では40.1%、気分障害と診断されている人では22.7%、発達障害と診断されている人では38.8%となっている。



## 【難病患者】

疾患群別にみると、“利用している”人は、神経・筋疾患では37.5%、免疫系疾患では15.9%、消化器系疾患では17.2%となっている。



### (3) 必要だと思うサービスをあまり利用できていない理由（複数回答）

必要だと思うサービスを“あまり利用していない”と回答した人の理由は、身体障害者、知的障害者、精神障害者、難病患者では「どのようなサービスがあるかわからないから」がそれぞれ 39.8%、43.6%、50.6%、53.3%と最も多くなっている。

(単位：%)

区 分	身体障害者 (n=118)	知的障害者 (n=94)	精神障害者 (n=83)	難病患者 (n=75)	児童発達支援 事業利用者 (n=22)
自己負担が大きいから	14.4	9.6	14.5	13.3	13.6
支給要件に該当しないから	14.4	7.4	15.7	13.3	4.5
必要とするサービスがないから	26.3 (2位)	18.1	18.1 (3位)	26.7 (3位)	9.1
どのようなサービスがあるかわからないから	39.8 (1位)	43.6 (1位)	50.6 (1位)	53.3 (1位)	40.9 (2位)
利用の仕方がわからないから	25.4 (3位)	21.3 (3位)	36.1 (2位)	29.3 (2位)	27.3 (3位)
個別のニーズに対応できないから	16.1	12.8	15.7	9.3	18.2
サービスに空きがなく利用できないから	2.5	26.6 (2位)	2.4	2.7	45.5 (1位)
医療的ケアが理由で受け入れ先がない	5.9	6.4	-	-	-
その他	7.6	17.0	15.7	5.3	13.6
わからない	5.9	5.3	4.8	6.7	-
無回答	0.8	1.1	1.2	-	-

※ベース：必要なサービスを“あまり利用していない”と回答した人

【前回調査との比較】

(単位：%)

区分		1位	2位	3位
身体障害者	今回 (n=118)	どのようなサービスがあるかわからないから (39.8)	必要とするサービスがないから (26.3)	利用の仕方がわからないから (25.4)
	前回 (n=160)	どのようなサービスがあるかわからないから (48.1)	利用の仕方がわからないから (30.0)	必要とするサービスがないから (20.0)
知的障害者	今回 (n=94)	どのようなサービスがあるかわからないから (43.6)	サービスに空きがなく利用できないから (26.6)	利用の仕方がわからないから (21.3)
	前回 (n=118)	サービスに空きがなく利用できないから (33.9)	どのようなサービスがあるかわからないから (29.7)	利用の仕方がわからないから (28.0)
精神障害者	今回 (n=83)	どのようなサービスがあるかわからないから (50.6)	利用の仕方がわからないから (36.1)	必要とするサービスがないから (18.1)
	前回 (n=93)	どのようなサービスがあるかわからないから/ 利用の仕方がわからないから (同率 33.3)	/	自己負担が大きいため/個別のニーズに対応できないから (同率 19.4)
難病患者	今回 (n=75)	どのようなサービスがあるかわからないから (53.3)	利用の仕方がわからないから (29.3)	必要とするサービスがないから (26.7)
	前回 (n=69)	どのようなサービスがあるかわからないから (53.6)	利用の仕方がわからないから (24.6)	支給要件に該当しないから (18.8)
児童発達支援事業利用者	今回 (n=22)	サービスに空きがなく利用できないから (45.5)	どのようなサービスがあるかわからないから (40.9)	利用の仕方がわからないから (27.3)
	前回 (n=14)	どのようなサービスがあるかわからないから (57.1)	支給要件に該当しないから (42.9)	自己負担が大きいため/利用の仕方がわからないから/サービスに空きがなく利用できないから (同率 28.6)

(4) 今後も引き続き、あるいは新たに利用したいと思う福祉サービス（複数回答）

今後も引き続き、あるいは新たに利用したいと思う福祉サービスは、身体障害者では「福祉タクシー券の交付、自動車燃料費の助成等」が41.6%と最も多く、次いで「補装具費の支給・修理」が27.9%となっている。

知的障害者では「移動支援・同行援護」が34.2%と最も多く、次いで「短期入所（ショートステイ）・緊急一時保護」が32.8%となっている。

精神障害者では「訪問看護などの医療系サービス」が13.3%となっている。

難病患者では「福祉タクシー券の交付、自動車燃料費の助成等」が30.4%となっている。

児童発達支援事業利用者では「児童発達支援・放課後等デイサービスなど」が75.2%と最も多くなっている。

なお、精神障害者、難病患者では「利用したいサービスはない」がそれぞれ35.4%、43.5%と最も多くなっている。

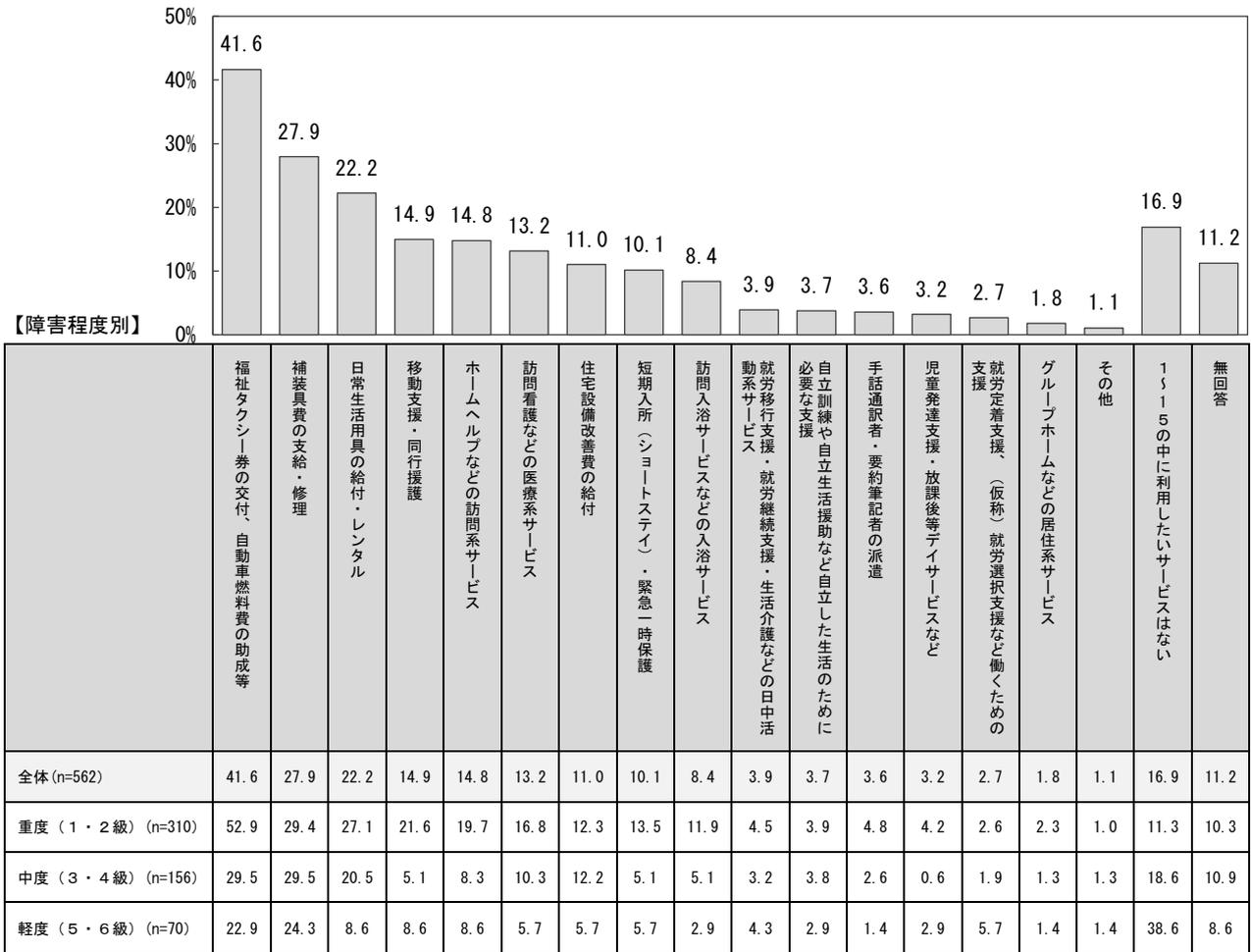
(単位：%)

区 分	身体障害者 (n=562)	知的障害者 (n=442)	精神障害者 (n=452)	難病患者 (n=437)	児童発達 支援事業 利用者 (n=153)
ホームヘルプなどの訪問系サービス	14.8	15.4	10.2	7.8	7.2
訪問看護などの医療系サービス	13.2	10.2	13.3 (3位)	11.4	9.2
短期入所（ショートステイ）・緊急一時保護	10.1	32.8 (2位)	5.8	8.0	8.5
補装具費の支給・修理	27.9 (2位)	12.2		8.7	7.2
日常生活用具の給付・レンタル	22.2 (3位)	8.8		14.6 (3位)	5.9
住宅設備改善費の給付	11.0	7.0		9.6	3.9
福祉タクシー券の交付、自動車燃料費の助成等	41.6 (1位)	25.6		30.4 (2位)	8.5
移動支援・同行援護	14.9	34.2 (1位)		5.7	8.5
訪問入浴サービスなどの入浴サービス	8.4	7.9		3.9	2.6
障害者地域生活支援センター(きらら・すてっぷ・ういんぐ・さくら)			8.4		
自立訓練や自立生活援助など自立した生活のために必要な支援	3.7	6.6	11.9		
就労移行支援・就労継続支援・生活介護などの日中活動系サービス	3.9	21.5	11.5		
就労定着支援、(仮称)就労選択支援など働くための支援	2.7	12.7	9.3		
グループホームなどの居住系サービス	1.8	23.3	6.0	0.5	
児童発達支援・放課後等デイサービスなど	3.2	26.9 (3位)	0.7		75.2 (1位)
日中一時支援				1.4	
手話通訳者・要約筆記者の派遣	3.6	0.2		0.2	-
病院や診療所のデイケア			7.7		
介護保険のサービス				6.2	
ファミリーサポート					14.4 (2位)
その他	1.1	1.8	3.1	2.1	3.3
上記の中に利用したいサービスはない	16.9	13.1	35.4 (1位)	43.5 (1位)	11.1 (3位)
無回答	11.2	7.2	16.6 (2位)	9.4	5.2

## 【身体障害者】

障害の程度別にみると、程度が重いほどサービスの利用意向が高くなる傾向にある。最も利用意向が高いサービスは「福祉タクシー券の交付、自動車燃料費の助成等」で、重度（1・2級）では52.9%となっている。

障害の種類別にみると、視覚障害では「福祉タクシー券の交付、自動車燃料費の助成等」の利用意向が48.1%と最も多く、次いで「補装具費の支給・修理」が25.9%となっている。聴覚障害では「補装具費の支給・修理」が48.3%と最も多くなっている。肢体不自由（上肢、下肢等）、肢体不自由（体幹）、内部障害ではいずれも「福祉タクシー券の交付、自動車燃料費の助成等」がそれぞれ42.9%、65.0%、48.7%と最も多くなっている。

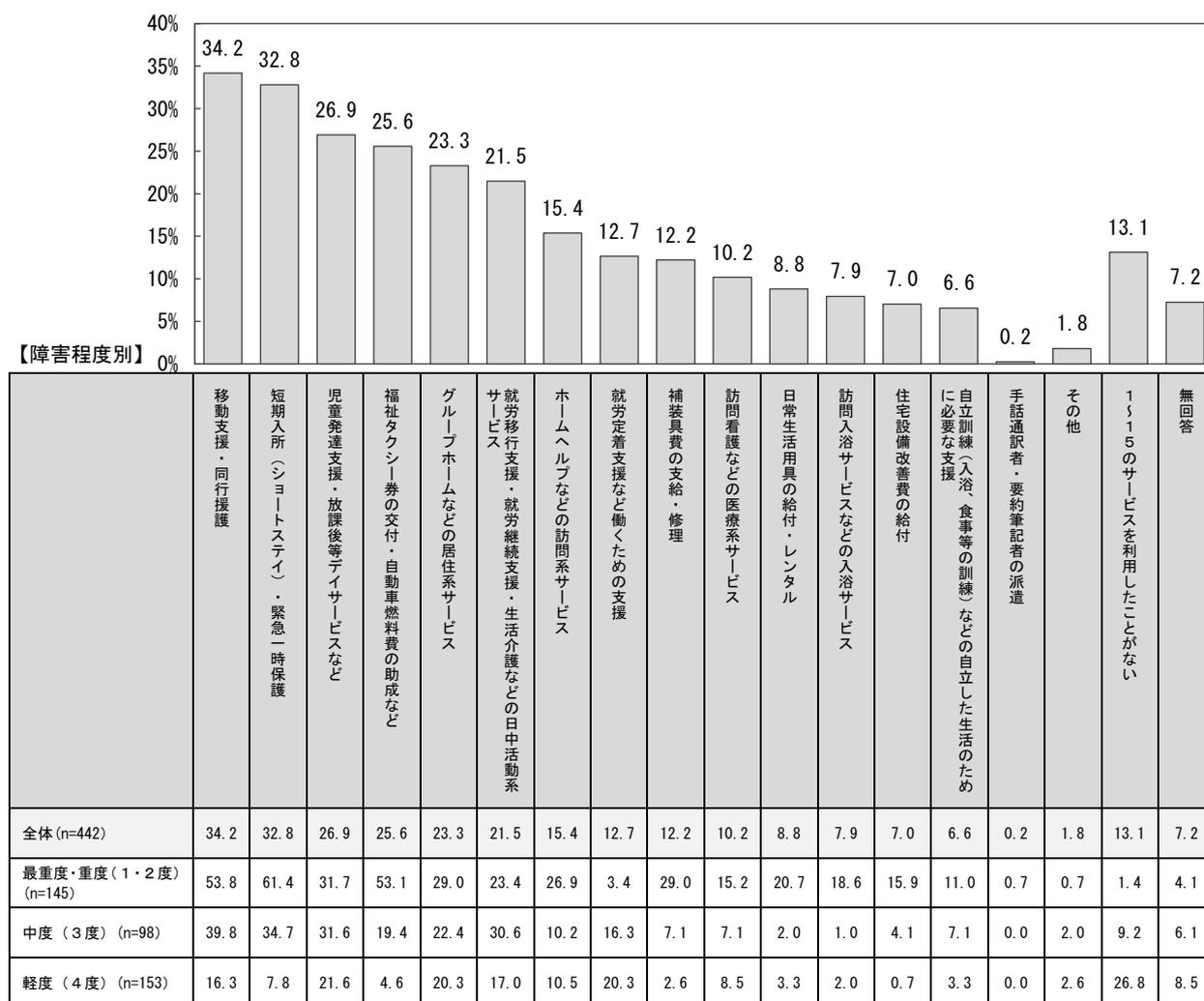


【障害の種類別】

障害の種類	福祉タクシー券の交付、自動車燃料費の助成等	補装具費の支給・修理	日常生活用具の給付・レンタル	移動支援・同行援護	ホームヘルプなどの訪問系サービス	訪問看護などの医療系サービス	住宅設備改善費の給付	短期入所（ショートステイ）・緊急一時保護	訪問入浴サービスなどの入浴サービス	就労移行支援・就労継続支援・生活介護などの日中活動系サービス	必要な支援	自立訓練や自立生活援助など自立した生活のために	手話通訳者・要約筆記者の派遣	児童発達支援・放課後等デイサービスなど	就労定着支援、（仮称）就労選択支援など働くための支援	グループホームなどの居住系サービス	その他	1～15の中に利用したいサービスはない	無回答
視覚障害 (n=81)	48.1	25.9	23.5	24.7	14.8	6.2	6.2	6.2	6.2	7.4	3.7	0.0	2.5	4.9	0.0	1.2	24.7	9.9	
聴覚障害 (n=87)	19.5	48.3	18.4	5.7	2.3	4.6	9.2	6.9	0.0	4.6	6.9	21.8	2.3	5.7	2.3	2.3	10.3	12.6	
平衡機能障害 (n=2)	50.0	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害 (n=25)	24.0	16.0	28.0	8.0	12.0	16.0	12.0	12.0	0.0	4.0	0.0	4.0	0.0	0.0	0.0	4.0	16.0	16.0	
肢体不自由（上肢、下肢等） (n=140)	42.9	34.3	30.0	23.6	24.3	20.7	18.6	18.6	18.6	2.9	5.7	0.0	4.3	2.1	2.9	1.4	16.4	7.1	
肢体不自由（体幹） (n=40)	65.0	37.5	30.0	25.0	35.0	32.5	12.5	22.5	17.5	10.0	2.5	0.0	10.0	2.5	5.0	0.0	12.5	7.5	
内部障害 (n=156)	48.7	13.5	16.0	7.1	10.3	9.0	6.4	5.1	3.8	1.3	1.9	0.0	1.9	1.3	0.6	0.0	17.9	12.2	
その他 (n=7)	42.9	42.9	28.6	0.0	14.3	28.6	28.6	0.0	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3	28.6	

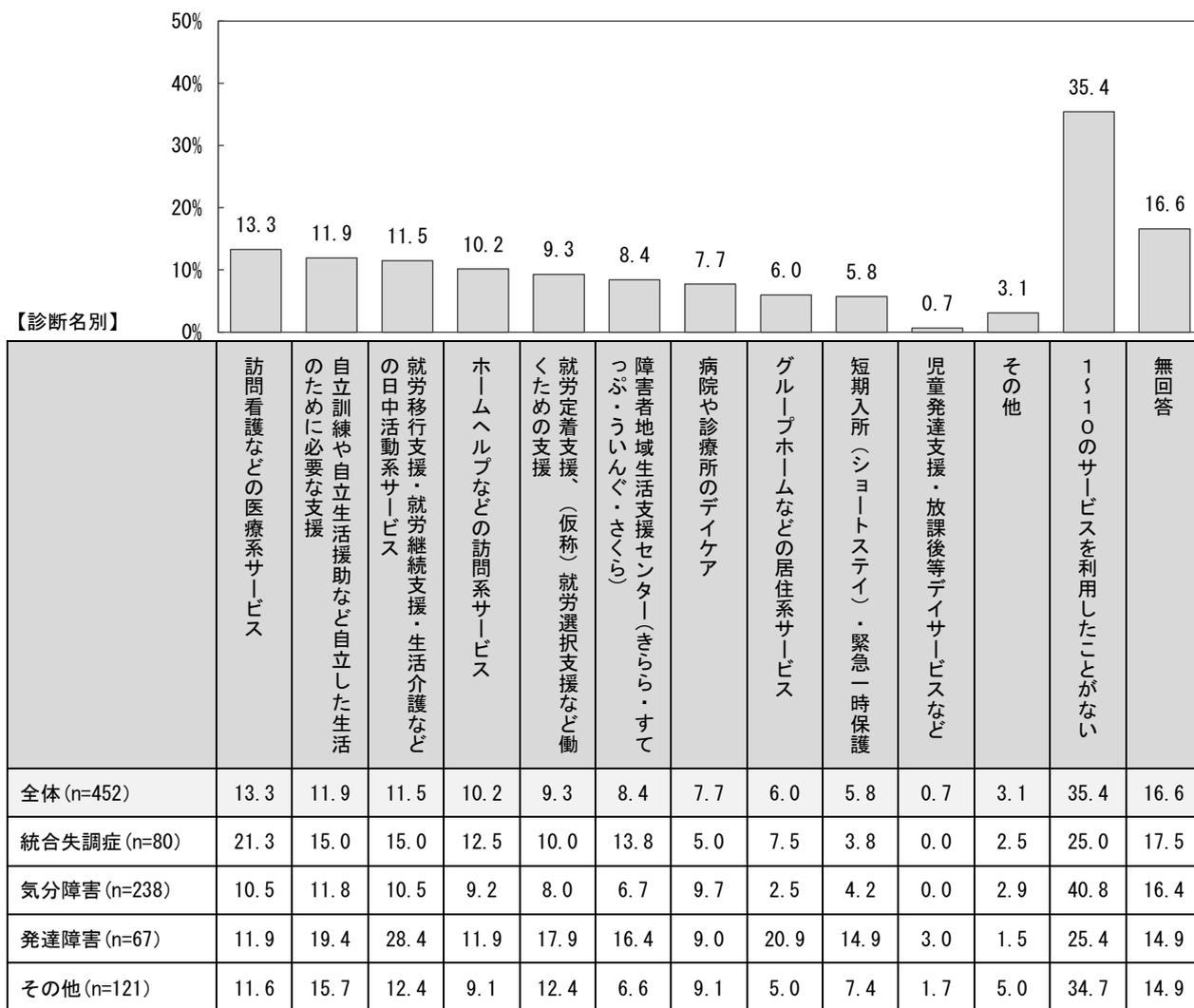
## 【知的障害者】

障害の程度別にみると、最重度・重度（1・2度）では「短期入所（ショートステイ）・緊急一時保護」が61.4%と最も多く、次いで「移動支援・同行援護」が53.8%となっている。中度（3度）では「移動支援・同行援護」が39.8%と最も多く、次いで「短期入所（ショートステイ）・緊急一時保護」が34.7%となっている。



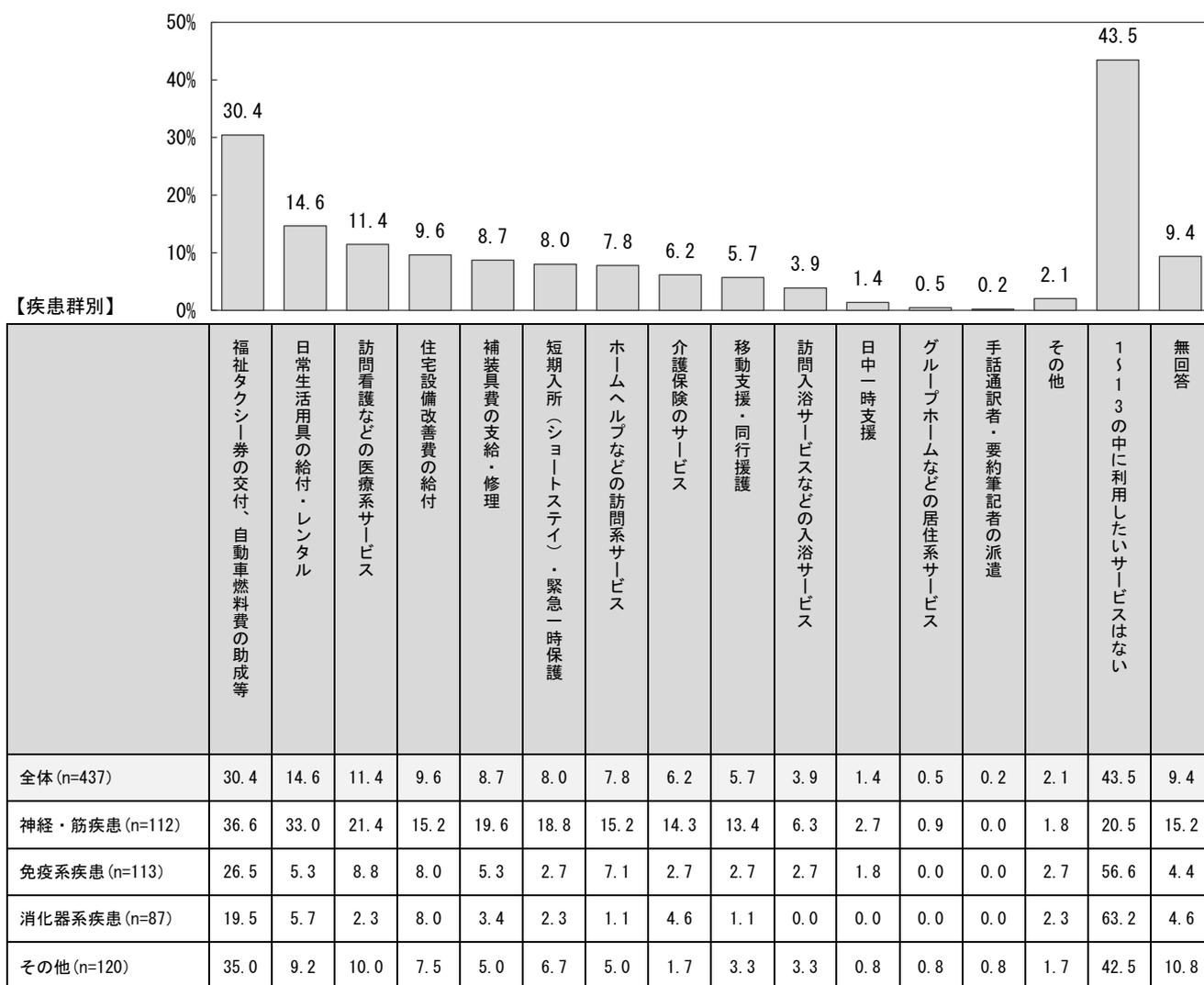
## 【精神障害者】

診断名別にみると、統合失調症と診断されている人では「訪問看護などの医療系サービス」が21.3%と最も多く、発達障害と診断されている人では「就労移行支援・就労継続支援・生活介護などの日中活動系サービス」が28.4%と最も多くなっている。



## 【難病患者】

疾患群別にみると、神経・筋疾患では「福祉タクシー券の交付、自動車燃料費の助成等」が36.6%と最も多く、次いで「日常生活用具の給付・レンタル」が33.0%となっている。免疫系疾患、消化器系疾患では「福祉タクシー券の交付、自動車燃料費の助成等」がそれぞれ26.5%、19.5%と最も多くなっている。



(5) 必要だと思う入浴サービス（複数回答）

① 必要だと思う入浴サービス

必要な入浴サービスは、身体障害者、知的障害者では「ヘルパーを利用して自宅の浴室での入浴」がそれぞれ 53.2%、65.7%と最も多くなっている。難病患者では「訪問入浴サービスによる入浴」が 58.8%と最も多くなっている。

(単位：%)

区 分	身体障害者 (n=47)	知的障害者 (n=35)	難病患者 (n=17)	児童発達支援 事業利用者 (n=4)
ヘルパーを利用して自宅の浴室での入浴	53.2(1位)	65.7(1位)	35.3(2位)	50.0(2位)
訪問入浴サービスによる入浴	44.7(2位)	42.9(2位)	58.8(1位)	50.0(2位)
福祉施設等での機械浴や介助浴	44.7(2位)	37.1(3位)	23.5(3位)	75.0(1位)
ヘルパー等の介助者との公衆浴場などでの入浴	4.3	5.7	-	-
その他	6.4	-	-	-
無回答	-	5.7	-	-

② 身近な福祉施設で機械浴などのバリアフリー設備がある入浴設備の利用意向

バリアフリー設備がある入浴サービスの利用意向は、身体障害者では「送迎があれば利用したい」が 57.4%と最も多くなっている。知的障害者では「ヘルパー等の介助があれば利用したい」、「送迎があれば利用したい」がともに 62.9%と最も多くなっている。難病患者では「送迎があれば利用したい」が 58.8%と最も多くなっている。

(単位：%)

区 分	身体障害者 (n=47)	知的障害者 (n=35)	難病患者 (n=17)	児童発達支援 事業利用者 (n=4)
ヘルパー等の介助があれば利用したい	44.7(2位)	62.9(1位)	41.2(2位)	75.0(1位)
送迎があれば利用したい	57.4(1位)	62.9(1位)	58.8(1位)	50.0(2位)
家族・知人の介助があれば利用したい	21.3(3位)	14.3	-	50.0(2位)
利用したくない	19.1	5.7	23.5(3位)	-
その他	4.3	2.9	-	-
無回答	6.4	20.0(2位)	17.6	-

## (6) グループホーム利用時に必要なこと（複数回答）

グループホーム利用時に必要なことは、知的障害者では「日中活動している場所や通院先に近いこと」が73.8%と最も多く、次いで「家族がいる場所に近いこと」が62.1%、「練馬区内にあること」が50.5%となっている。

(単位：%)

区 分	身体障害者 (n=10)	知的障害者 (n=103)	精神障害者 (n=27)	難病患者 (n=2)
練馬区内にあること	60.0 (2位)	50.5 (3位)	51.9 (1位)	100 (1位)
家族がいる場所に近いこと	60.0 (2位)	62.1 (2位)	48.1 (2位)	50.0 (3位)
日中活動している場所や通院先に近いこと	50.0	73.8 (1位)	48.1 (2位)	50.0 (3位)
主に夜間や休日、グループホームの職員が相談や介護を行うこと	80.0 (1位)	48.5	40.7	100 (1位)
主に夜間や休日、グループホームの職員以外のヘルパーが相談や介護を行うこと	50.0	14.6	25.9	50.0 (3位)
その他	-	4.9	7.4	-
わからない	-	2.9	14.8	-
無回答	-	4.9	-	-

## (7) 改善が必要だと思うサービスと必要なこと（自由回答）

主な回答内容は、次のとおりである。

### 【身体障害者】

(居宅介護等)

- ・掃除や整理だけでなくその他の家事も行ってほしい

(移動支援)

- ・ヘルパーの質の向上

(短期入所)

- ・医療度の高い人を診てもらえる施設の整備
- ・施設や職員を増やして利用できる人を増やす

(補装具、日常生活用具等)

- ・支給基準が実際の要望と合っていない。制度を見直してほしい
- ・申請手続きを簡略化してほしい
- ・内容のわかるパンフレット等を手の取りやすい場所に設置に欲しい

(放課後デイサービス)

- ・高校卒業後も利用できるようにしてほしい

(訪問入浴サービス)

- ・入浴回数を増やしてほしい

(福祉タクシー券)

- ・東京全部の区域使えるようにしてほしい
- ・支給額を増額してほしい
- ・発行基準を緩和してほしい

(その他)

- ・訪問看護などの医療サービスを必要な時にすぐ利用できる仕組み
- ・自動車燃料費の助成額を増やしてほしい
- ・自立訓練について訓練内容を充実してほしい
- ・手話通訳者・要約筆記者の派遣について、あらゆる場所で利用できるようにしてほしい
- ・保育園、幼稚園について、医療ケアの有無に限らず継続して通えるようにしてほしい

## 【知的障害者】

(居宅介護等)

- ・時間を増やしてほしい

(移動支援)

- ・ヘルパーの増加、質の向上
- ・男性ヘルパーを増やす
- ・必要な時に利用できるようにしてほしい
- ・放課後デイサービスへの送迎で利用できるようにしてほしい

(短期入所)

- ・利用できる施設が少ない、予約が取りづらい
- ・居住地の近くでの受け入れ施設の整備
- ・医療的ケアへの対応の充実
- ・送迎を行ってほしい

(放課後デイサービス)

- ・施設数が少ない
- ・夏休み等、サービス提供時間の拡大
- ・送迎の実施
- ・職員の質の向上
- ・午前と午後に別の施設を利用出来ると良い
- ・肢体不自由児が利用できる施設が少ない

(児童発達支援)

- ・地域によって施設が少ない
- ・時間が短い

(グループホーム)

- ・施設数を増やしてほしい

(福祉タクシー券)

- ・支給額を増額してほしい

(その他)

- ・訪問看護などの医療系サービスについて、事業所やOTなどを増加、増員してほしい
- ・就労移行支援、就労継続支援事業について、職員を増やしてほしい
- ・生活介護について、医療的ケアのある利用者の通所日数を増やしてほしい

## 【精神障害者】

(自立支援医療)

- ・手続きを簡略化してほしい

(相談支援事業所)

- ・もっと有効に活用できるよう体制を整えてほしい

(自立生活援助)

- ・カウンセラーの常駐する施設と必要に応じた増員
- ・日常生活の改善に向けたプログラムがあると良い

(就労移行支援)

- ・2年以上使えるようにしてほしい
- ・事業所数を増やしてほしい

(就労継続支援)

- ・工賃を一般就労並みにしてほしい
- ・一般就労への移行をスムーズに実現できるような援助をして欲しい
- ・支援員を増やしてほしい

(グループホーム)

- ・施設数、人員を増やしてほしい

## 【難病患者】

(居宅介護等)

- ・就業していても使えるようにしてほしい

(補装具、日常生活用具等)

- ・支給額を上げてほしい

(ショートステイ)

- ・医療的ケアの受け入れを増やしてほしい

(福祉タクシー券)

- ・支給額、範囲を拡充してほしい

(就労支援)

- ・支援体制を強化してほしい

(情報)

- ・情報にアクセスするためのきっかけを提供してほしい
- ・自分がどのサービスを利用できるかわかるようにしてほしい

(その他)

- ・自動車燃料費の助成額を増やしてほしい
- ・申請等について、郵送で手続きできるようにしてほしい

## 【児童発達支援事業利用者】

(児童発達支援・放課後デイサービス)

- ・対象となる施設が少なく、空きがない
- ・施設情報をもっと得やすくしてほしい
- ・送迎をもっと充実してほしい
- ・専門知識のある職員を増やしてほしい
- ・土日にも利用できるようにしてほしい

(ファミリーサポート)

- ・登録や予約を簡便にほしい
- ・インターネットで手続きできるようにしてほしい
- ・専門知識・技術を持つ支援者を配置してほしい

(障害児一時預かり)

- ・予約がもっと取れやすくしてほしい

(手当や助成全般)

- ・一覧等、一度で確認できると良い
- ・申請をワンストップでできるようにしてほしい

(福祉タクシー券)

- ・所得上限により利用できないのは改善してほしい

(病児・病後児保育サービス)

- ・医療的ケア児も利用できるようにしてほしい

(その他)

- ・ノンステップバスを増やしてほしい
- ・保育園の障害児枠の拡大
- ・移動支援の情報をもっと得やすくしてほしい

## (8) 今あるサービス以外に必要なサービス（自由回答）（難病患者のみ）

主な回答内容は、次のとおりである。

- ・金銭的な助成や税の減免、公共交通機関の割引サービス
- ・自宅への配送サービス
- ・分かりやすいサービス情報の提供
- ・家事・育児が軽減されるサービス
- ・部屋を借りる際の保証人あっせんなど契約時のサポート
- ・公営住宅入居の優遇

## (9) 介護保険サービスの利用状況（複数回答）

「介護保険サービスは利用していない」と回答した人が4割～7割となっている。次いで「訪問介護（ホームヘルプ）を利用している」となっており、身体障害者では11.2%、知的障害者では6.0%、精神障害者では6.8%、難病患者では8.1%となっている。

（単位：％）

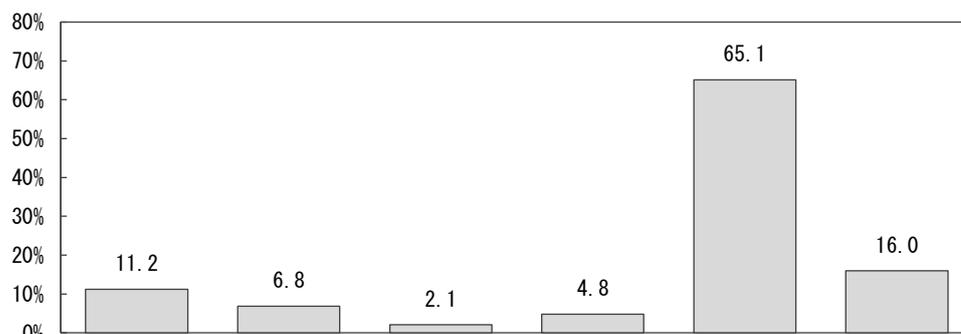
区 分	身体障害者 (n=482)	知的障害者 (n=116)	精神障害者 (n=380)	難病患者 (n=383)
訪問介護（ホームヘルプ）を利用している	11.2(3位)	6.0(3位)	6.8(3位)	8.1(3位)
通所介護（デイサービス）を利用している	6.8	5.2	5.0	7.0
短期入所（ショートステイ）を利用している	2.1	4.3	1.6	2.9
その他	4.8	6.0(3位)	1.3	3.9
介護保険サービスは利用していない	65.1(1位)	42.2(1位)	73.4(1位)	73.6(1位)
無回答	16.0(2位)	41.4(2位)	13.9(2位)	11.0(2位)

※ベース：40歳以上と回答した人

## 【身体障害者】

障害の程度別にみると、介護保険サービスを利用している人の割合は、おおむね程度が重いほど多くなっているが、「訪問介護（ホームヘルプ）を利用している」人は中度（3・4級）では13.2%と重度（1・2級）よりも多くなっている。

障害の種類別にみると、肢体不自由（体幹）では「訪問介護（ホームヘルプ）を利用している」人が30.0%、「通所介護（デイサービス）を利用している」人が20.0%と他の障害の種類と比べて多くなっている。



【障害程度別】

	訪問介護（ホームヘルプ）を利用している	通所介護（デイサービス）を利用している	短期入所（ショートステイ）を利用している	その他	介護保険サービスは利用していない	無回答
全体 (n=482)	11.2	6.8	2.1	4.8	65.1	16.0
重度（1・2級） (n=260)	11.9	8.5	2.7	6.2	63.8	14.6
中度（3・4級） (n=136)	13.2	5.9	1.5	2.2	68.4	14.0
軽度（5・6級） (n=61)	3.3	1.6	0.0	4.9	73.8	18.0

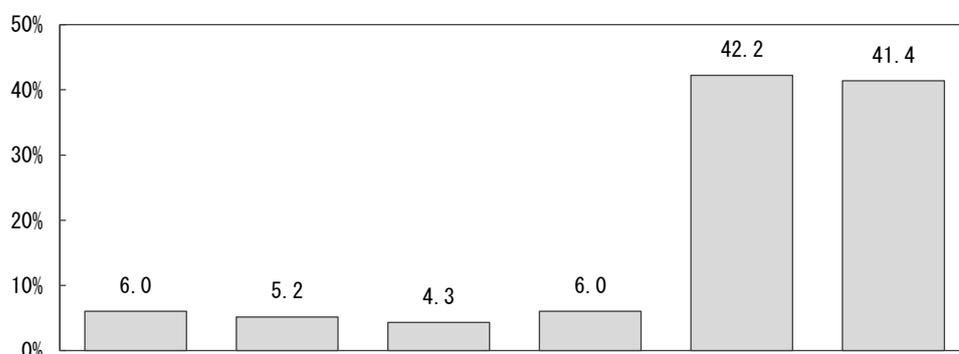
【障害の種類別】

障害の種類	訪問介護（ホームヘルプ）を利用している	通所介護（デイサービス）を利用している	短期入所（ショートステイ）を利用している	その他	介護保険サービスは利用していない	無回答
視覚障害 (n=70)	12.9	2.9	0.0	4.3	62.9	21.4
聴覚障害 (n=70)	0.0	1.4	0.0	1.4	80.0	17.1
平衡機能障害 (n=2)	0.0	0.0	0.0	0.0	100	0.0
音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害 (n=20)	20.0	15.0	5.0	0.0	55.0	15.0
肢体不自由（上肢、下肢等） (n=114)	13.2	15.8	5.3	9.6	57.9	12.3
肢体不自由（体幹） (n=30)	30.0	20.0	0.0	3.3	46.7	10.0
内部障害 (n=148)	8.1	1.4	2.0	3.4	75.0	12.8
その他 (n=6)	33.3	0.0	0.0	16.7	16.7	33.3

※ベース：40歳以上と回答した人

## 【知的障害者】

障害の程度別にみると、最重度・重度（1・2度）では「訪問介護（ホームヘルプ）を利用している」人が8.3%、「短期入所（ショートステイ）を利用している」人が4.2%となっている。



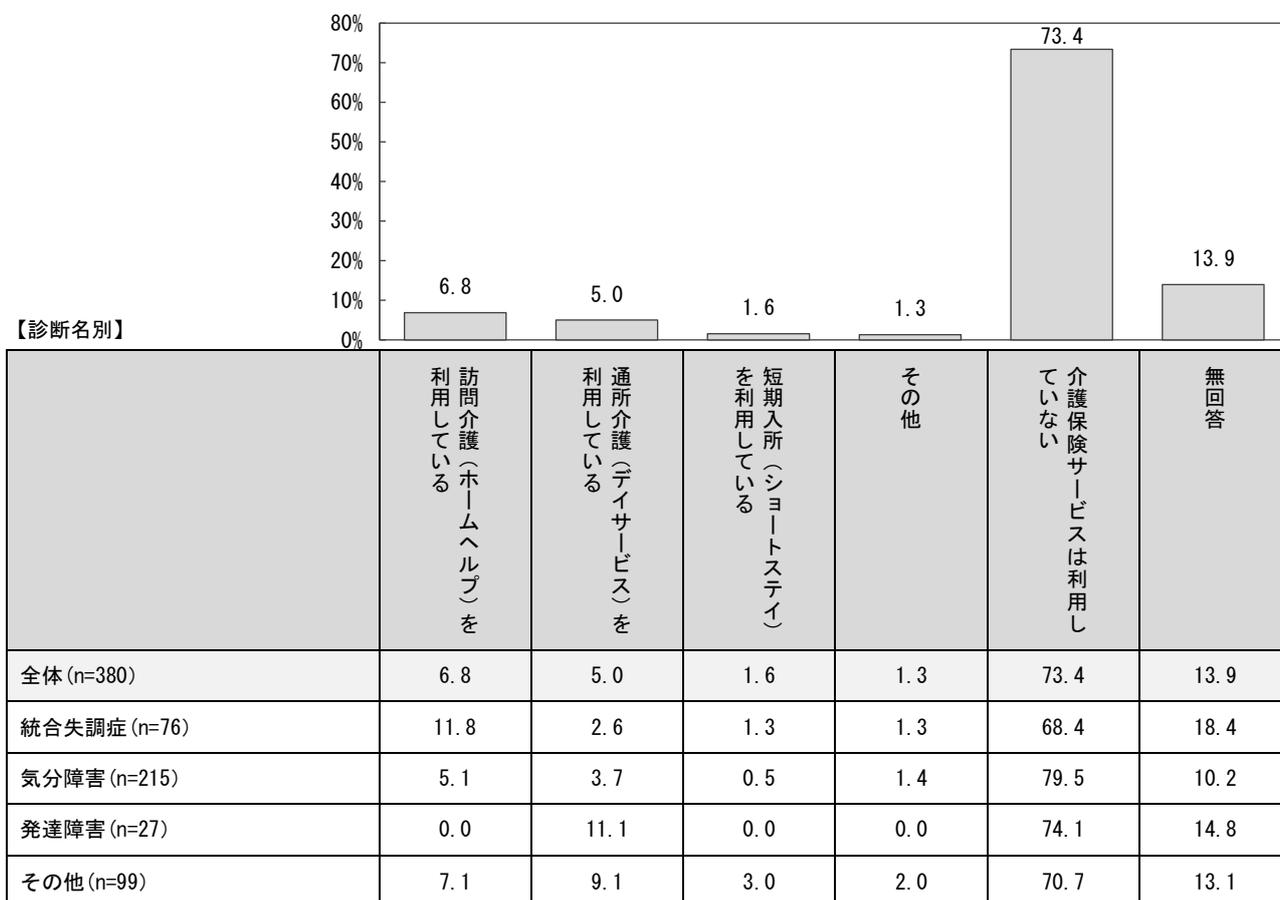
【障害程度別】

	訪問介護（ホームヘルプ）を利用している	通所介護（デイサービス）を利用している	短期入所（ショートステイ）を利用している	その他	介護保険サービスは利用していない	無回答
全体 (n=116)	6.0	5.2	4.3	6.0	42.2	41.4
最重度・重度（1・2度） (n=24)	8.3	0.0	4.2	8.3	37.5	45.8
中度（3度） (n=29)	6.9	10.3	6.9	3.4	41.4	37.9
軽度（4度） (n=45)	6.7	6.7	4.4	2.2	48.9	35.6

※ベース：40歳以上と回答した人

## 【精神障害者】

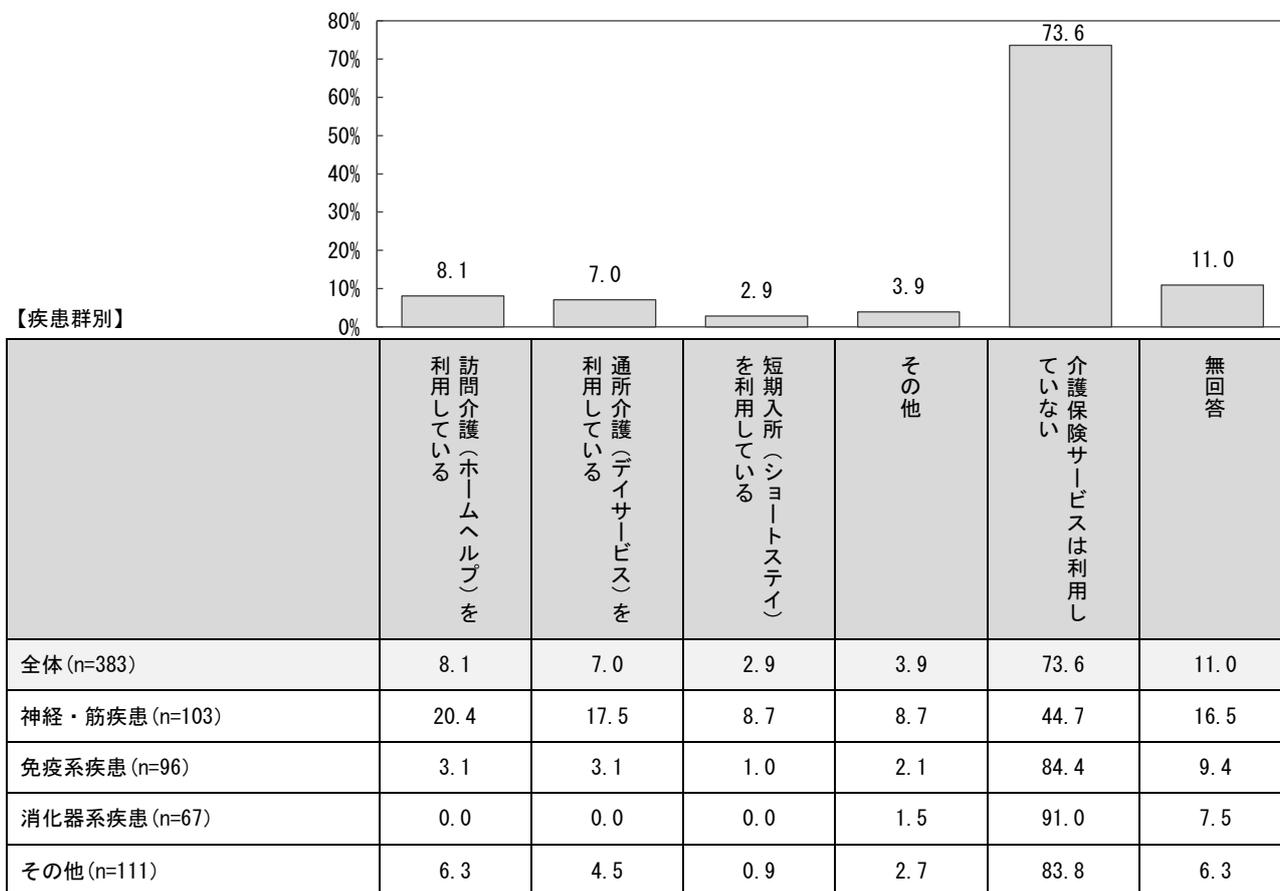
診断名別にみると、介護保険の「訪問介護（ホームヘルプ）を利用している」人は、統合失調症と診断されている人では 11.8%、気分障害と診断されている人では 5.1%となっている。なお、「介護保険サービスは利用していない」人の割合は、約 7～8 割となっている。



※ベース：40歳以上と回答した人

## 【難病患者】

疾患群別にみると、免疫系疾患、消化器系疾患に比べて、神経・筋疾患でのサービス利用が多く、「訪問介護（ホームヘルプ）を利用している」が20.4%、「通所介護（デイサービス）を利用している」が17.5%となっている。



※ベース：40歳以上と回答した人

## (10) 要介護認定の有無

### ① 介護保険の要介護認定の有無

介護保険の要介護認定を受けたことが「ある」と回答した人は、身体障害者では 87.6%、知的障害者では 55.0%、精神障害者では 77.6%、難病患者では 95.0%となっている。  
(単位：%)

区 分	身体障害者 (n=92)	知的障害者 (n=20)	精神障害者 (n=49)	難病患者 (n=60)
ない	7.6	25.0	8.2	-
ある	87.6	55.0	77.6	95.0
無回答	5.4	20.0	14.3	5.0

### ② 要介護度

身体障害者、知的障害者、難病患者の要介護度は、「要介護2」がそれぞれ 20.7%、23.1%、16.2%と最も多くなっている。精神障害者では「要介護3」が 20.5%と最も多くなっている。

(単位：%)

区 分	身体障害者 (n=87)	知的障害者 (n=13)	精神障害者 (n=44)	難病患者 (n=74)
要支援1	10.3	7.7	4.5	14.9(2位)
要支援2	11.5	7.7	15.9(3位)	13.5
要介護1	8.0	-	18.2(2位)	13.5
要介護2	20.7(1位)	23.1(1位)	11.4	16.2(1位)
要介護3	16.1(2位)	15.4(2位)	20.5(1位)	12.2
要介護4	9.2	15.4(2位)	6.8	10.8
要介護5	16.1(2位)	23.1(1位)	9.1	14.9(2位)
わからない	4.6	-	9.1	1.4
無回答	3.4	7.7	4.5	2.7

## (11) 障害福祉サービスとの併用で困っていること(複数回答)

障害福祉サービスとの併用で困っていることで「利用者自己負担が増えた」と回答した人は、身体障害者では 9.8%、知的障害者では 10.0%、精神障害者では 8.2%、難病患者では 6.7%となっている。また、「特に困っていることはない」は身体障害者では 35.9%、知的障害者では 35.0%、精神障害者では 42.9%、難病患者では 28.3%となっている。

(単位：%)

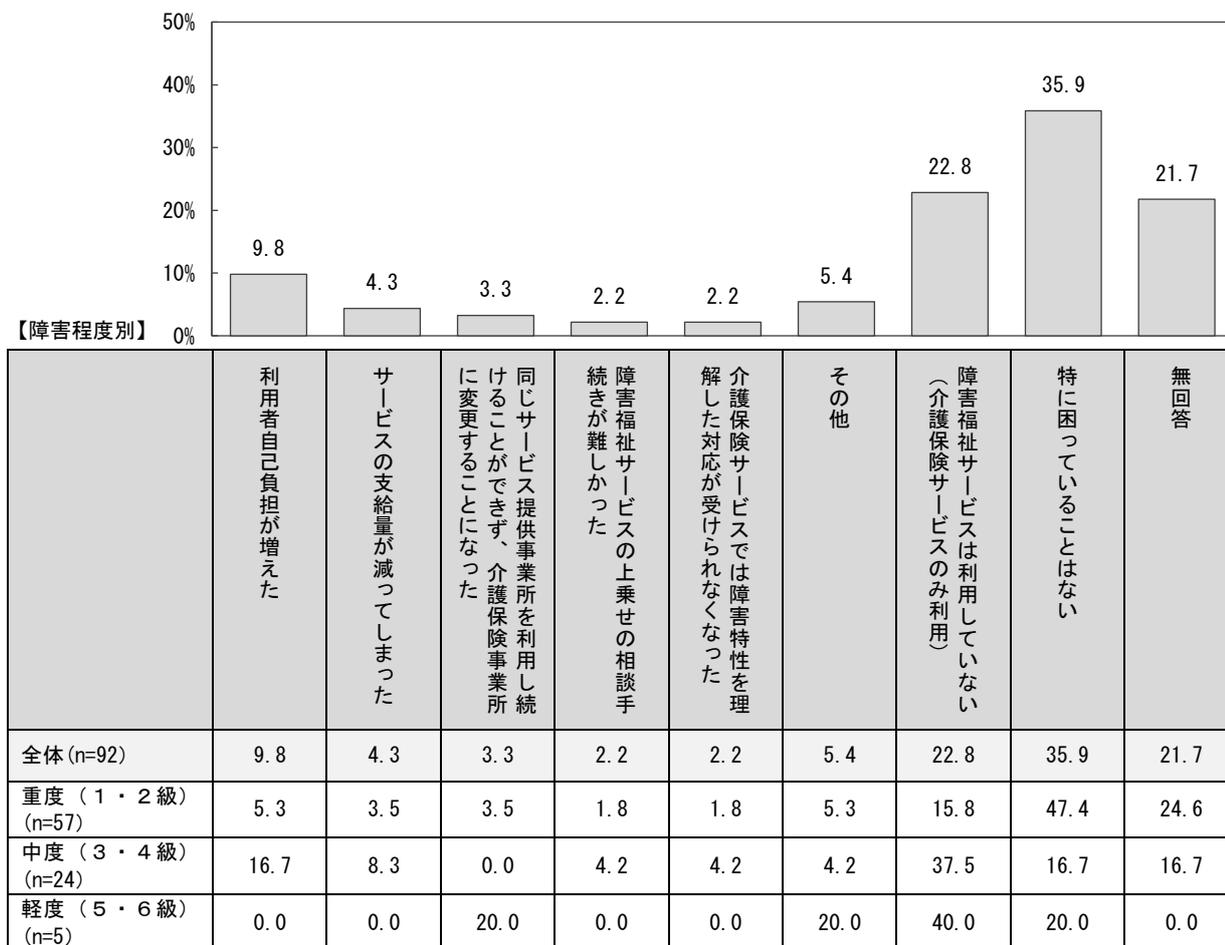
区 分	身体障害者 (n=92)	知的障害者 (n=20)	精神障害者 (n=49)	難病患者 (n=60)
サービスの支給量が減ってしまった	4.3	5.0	4.1	5.0
同じサービス提供事業所を利用し続けることができず、介護保険事業所に変更することになった	3.3	-	-	1.7
利用者自己負担が増えた	9.8	10.0	8.2	6.7
障害福祉サービスの上乗せの相談手続きが難しかった	2.2	5.0	2.0	-
介護保険サービスでは障害特性を理解した対応が受けられなくなった	2.2	10.0	6.1	3.3
その他	5.4	10.0	6.1	5.0
障害福祉サービスは利用していない(介護保険サービスのみの利用)	22.8(2位)	15.0(3位)	14.3(3位)	33.3(1位)
特に困っていることはない	35.9(1位)	35.0(1位)	42.9(1位)	28.3(3位)
無回答	21.7(3位)	20.0(2位)	30.6(2位)	30.0(2位)

※ベース：介護保険サービスを利用している人

## 【身体障害者】

障害の程度別にみると、「利用者自己負担が増えた」ことで困っている人が重度（1・2級）では5.3%、中度（3・4級）では16.7%となっている。

障害の種類別にみると、肢体不自由（上肢、下肢等）では「障害福祉サービスは利用していない（介護保険サービスのみ利用）」と「特に困っていることはない」を除いて「利用者自己負担が増えた」、「同じサービス提供事業所を利用し続けることができず、介護保険事業所に変更することになった」がともに8.8%と多くなっている。

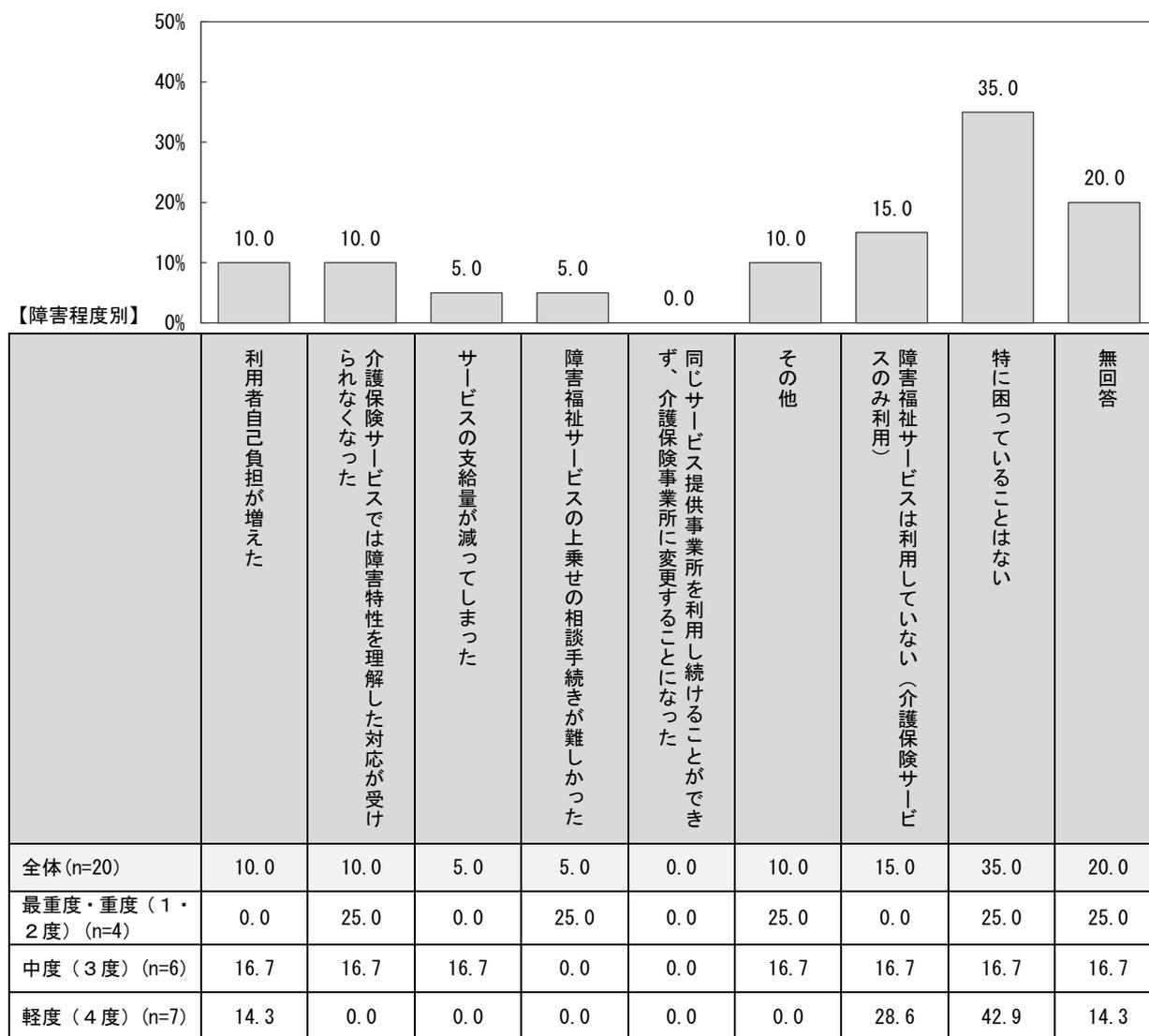


障害の種類	利用者自己負担が増えた	サービスの支給量が減ってしまった	同じサービス提供事業所を利用し続けることができず、介護保険事業所に変更することになった	障害福祉サービスの上乗せの相談手続きが難しかった	介護保険サービスでは障害特性を理解した対応が受けられなくなった	その他	障害福祉サービスは利用していない（介護保険サービスのみ利用）	特に困っていることはない	無回答
視覚障害 (n=11)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	27.3	27.3	45.5
聴覚障害 (n=2)	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	50.0	0.0
平衡機能障害 (n=0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害 (n=6)	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	16.7	16.7
肢体不自由（上肢、下肢等） (n=34)	8.8	5.9	8.8	0.0	2.9	5.9	23.5	38.2	8.8
肢体不自由（体幹） (n=14)	21.4	14.3	0.0	0.0	7.1	14.3	35.7	14.3	21.4
内部障害 (n=18)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.6	5.6	55.6	33.3
その他 (n=3)	0.0	0.0	0.0	66.7	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0

※ベース：介護保険サービスを利用している人

## 【知的障害者】

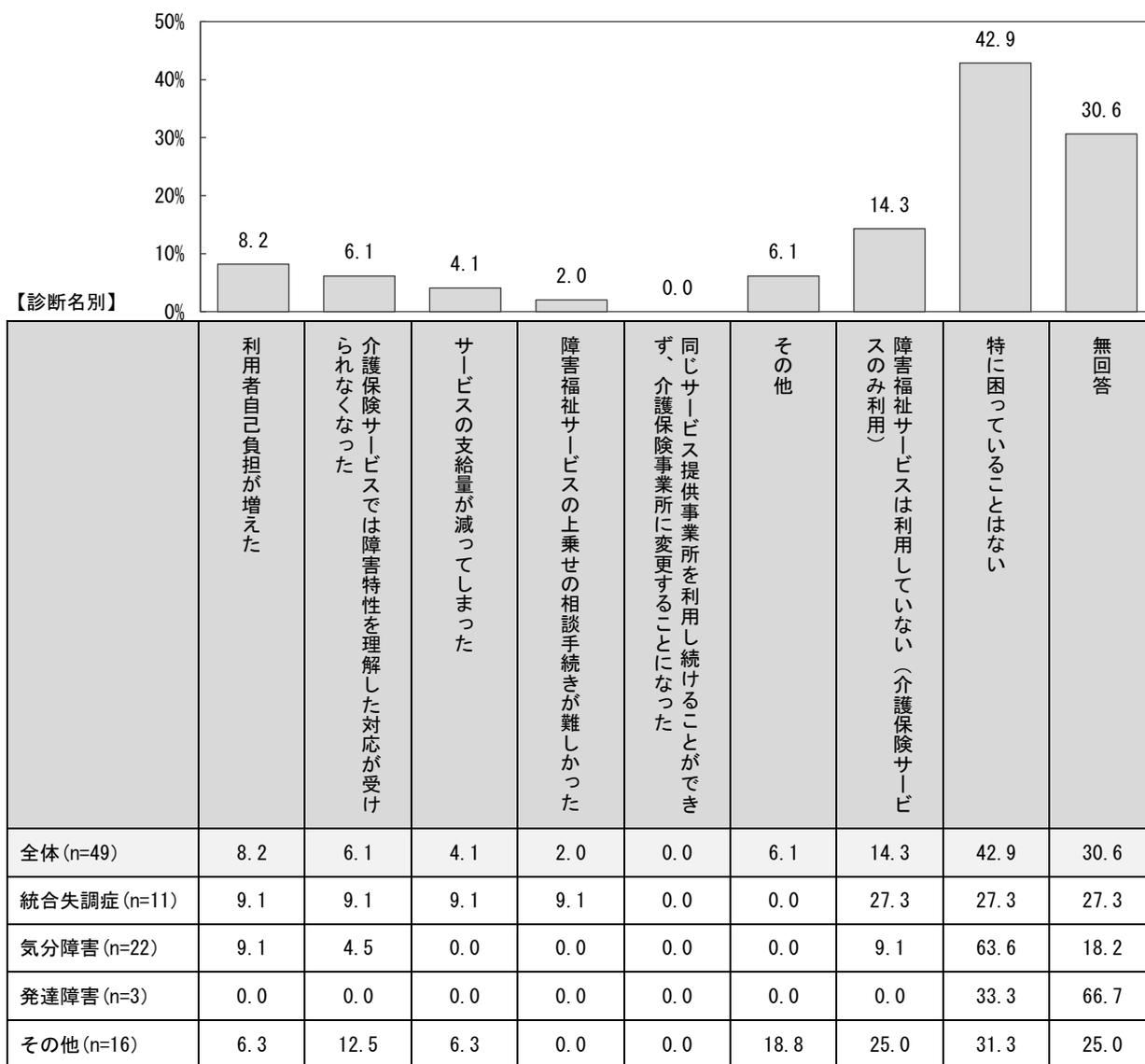
障害の程度別にみると、最重度・重度（1・2度）では4人中1人（25.0%）が「介護保険サービスでは障害特性を理解した対応が受けられなくなった」と回答している。



※ベース：介護保険サービスを利用している人

## 【精神障害者】

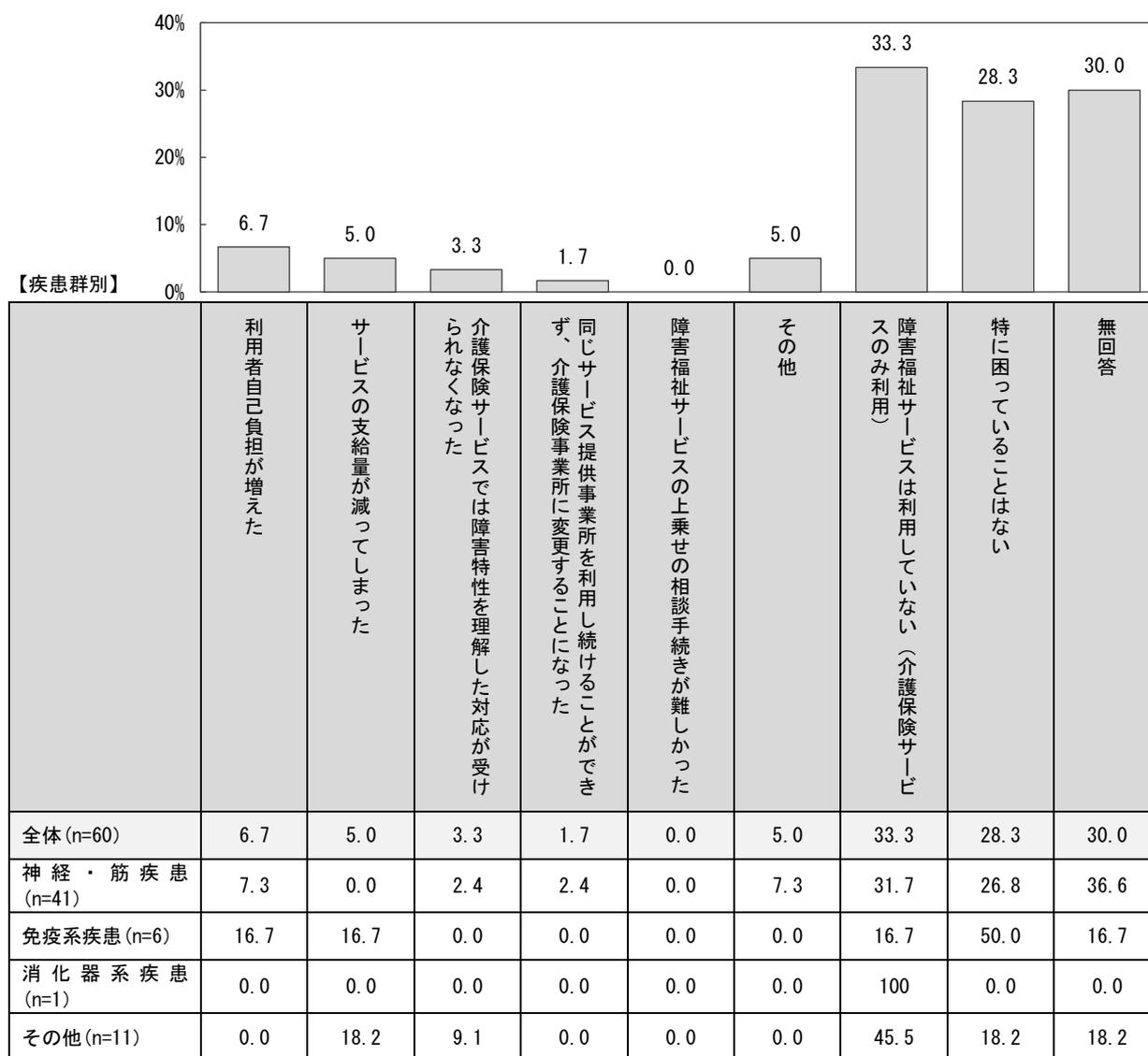
診断名別にみると、統合失調症、気分障害と診断されている人では「利用者自己負担が増えた」がともに9.1%となっている。なお、約2割～約6割の人が「特に困っていることはない」と回答している。



※ベース：介護保険サービスを利用している人

## 【難病患者】

疾患群別にみると、神経・筋疾患では「利用者自己負担が増えた」が7.3%となっている。なお、「特に困っていることはない」が26.8%となっている。



※ベース：介護保険サービスを利用している人

## 10 将来について

### (1) 今後希望する日中の過ごし方（複数回答）

今後希望する日中の過ごし方は、身体障害者、精神障害者では「自宅で過ごしたい」がそれぞれ49.8%、51.8%と最も多く、次いで「一般企業などで働きたい」がそれぞれ17.4%、24.6%となっている。

知的障害者では「一般企業などで働きたい」が28.5%と最も多く、次いで「学校に通いたい」が27.4%となっている。

施設入所者では「今いる施設で過ごしたい」が69.6%と最も多くなっている。

(単位：%)

区 分	身体障害者 (n=562)	知的障害者 (n=442)	精神障害者 (n=452)	施設入所者 (n=303)
学校に通いたい	8.0	27.4(2位)	4.2	0.7
一般企業などで働きたい	17.4(2位)	28.5(1位)	24.6(2位)	1.0
就労移行支援・就労継続支援事業所などで働きたい(福祉的就労)	3.6	19.2	8.2	0.7
就労のための訓練・支援を受け(就労移行支援)、企業就労を目指したい	2.5	14.5	8.2	1.0
自立した日常生活が送れるよう、自立訓練を受けて過ごしたい	6.9	18.6	10.4	2.3
医療機関で機能訓練、看護、介護、日常生活の支援を受けながら過ごしたい	5.7	5.4	6.2	2.6
福祉園などの通所施設で、身辺の介護を受けながらさまざまな活動を行いたい	6.2	24.9	3.1	6.9
自宅で過ごしたい	49.8(1位)	26.0(3位)	51.8(1位)	8.3(3位)
その他	8.5	4.1	14.2	2.0
今いる施設で過ごしたい				69.6(1位)
わからない	14.1(3位)	9.0	15.3(3位)	18.2(2位)
無回答	7.7	5.4	6.9	4.0

### 【前回調査との比較】

(単位：%)

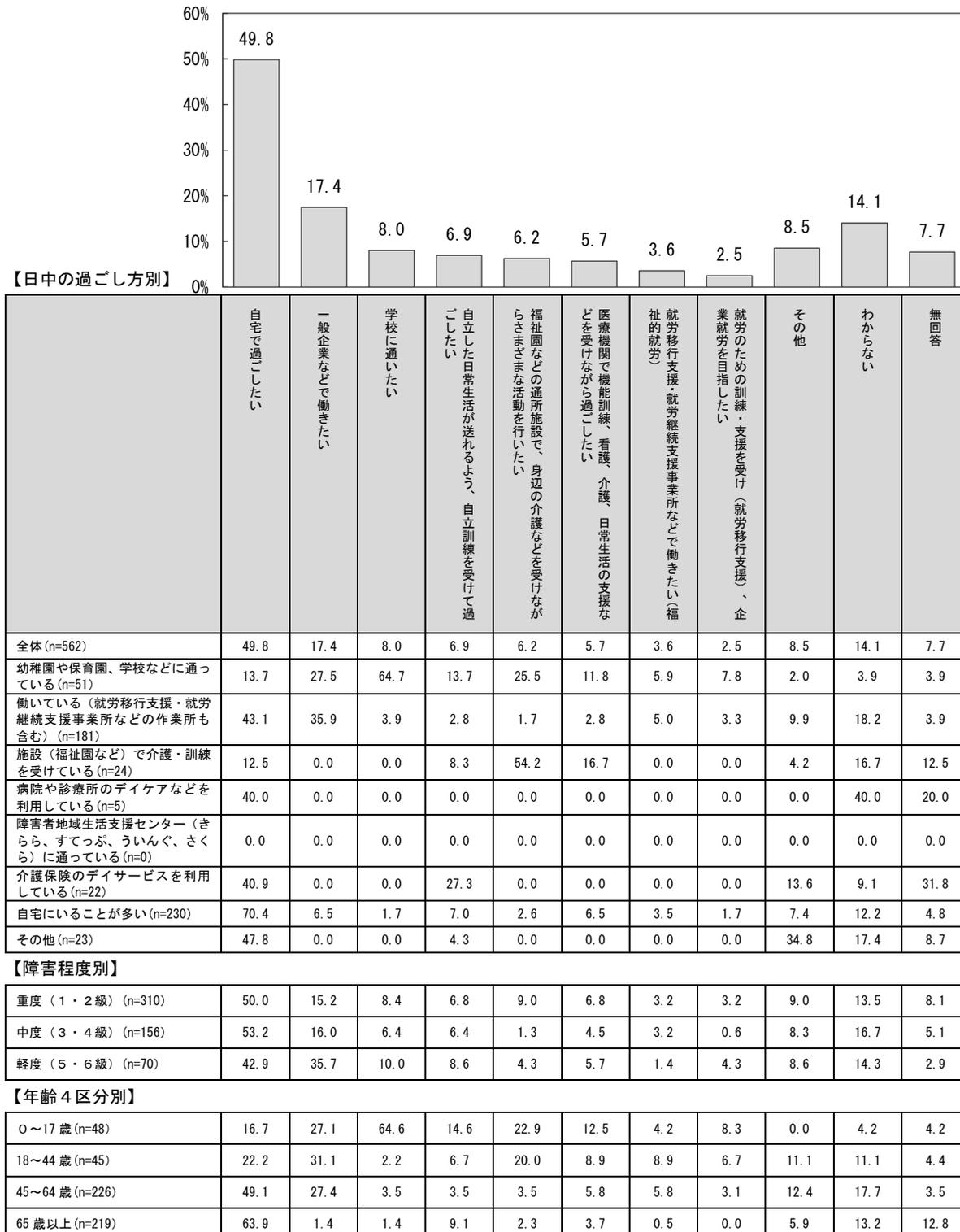
区分		1位	2位	3位
身体障害者	今回 (n=562)	自宅で過ごしたい (49.8)	一般企業などで働きたい (17.4)	わからない (14.1)
	前回 (n=659)	自宅で過ごしたい (41.3)	一般企業などで働きたい (17.3)	わからない (11.2)
知的障害者	今回 (n=442)	一般企業などで働きたい (28.5)	学校に通いたい (27.4)	自分の家で過ごしたい (26.0)
	前回 (n=474)	一般企業などで働きたい (27.2)	福祉園で活動を行いたい (26.8)	学校に通いたい (22.8)
精神障害者	今回 (n=452)	自宅で過ごしたい (51.8)	一般企業などで働きたい (24.6)	わからない (15.3)
	前回 (n=451)	自宅で過ごしたい (40.8)	一般企業などで働きたい (32.8)	就労訓練・支援を受けて企業就労を目指したい (12.0)
施設入所者	今回 (n=303)	今いる施設で過ごしたい (69.6)	わからない (18.2)	自分の家で過ごしたい (8.3)
	前回 (n=105)	今いる施設で過ごしたい (69.5)	わからない (17.1)	自宅で過ごしたい (10.5)

## 【身体障害者】

現在の日中の過ごし方別にみると、働いている（就労移行支援・就労継続支援事業所などの作業所も含む）人では「自宅で過ごしたい」が43.1%と最も多く、次いで「一般企業などで働きたい」が35.9%となっている。自宅にいることが多い人では「自宅で過ごしたい」が70.4%と最も多くなっている。

障害の程度別にみると、「一般企業などで働きたい」と回答した人の割合は、障害が軽いほど多く、軽度（5・6級）では35.7%となっている。

年齢4区分別にみると、65歳以上では「自宅で過ごしたい」が63.9%と最も多くなっている。

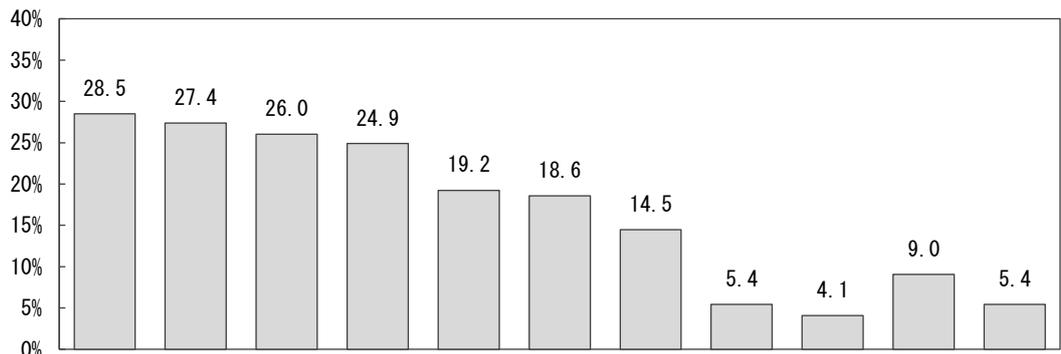


## 【知的障害者】

現在の日中の過ごし方別にみると、施設(福祉園など)で過ごしている人では「福祉園などの通所施設で、手助けを受けながらさまざまな活動を行いたい」が76.5%と最も多く、次いで「自分の家で過ごしたい」、「病院、診療所で機能訓練、看護、介護、日常生活の支援などを受けながら過ごしたい」がともに14.7%となっている。

障害の程度別にみると、最重度・重度(1・2度)では「福祉園などの通所施設で、手助けを受けながらさまざまな活動を行いたい」が58.6%、中度(3度)では「就労移行支援・就労継続支援事業所などで働きたい」が36.7%、軽度(4度)では「会社などで働きたい」が50.3%と最も多くなっている。

年齢4区分別にみると、0～17歳では「学校に通いたい」が66.5%、18～44歳では「会社などで働きたい」が36.0%と最も多くなっている。



【日中の過ごし方別】

	会社などで働きたい	学校に通いたい	自分の家で過ごしたい	福祉園などの通所施設で、手助けを受けながらさまざまな活動を行いたい	就労移行支援・就労継続支援事業所などで働きたい	自立した日常生活が送れるよう、自立訓練などを受けたたい	働くための訓練・支援を受け、会社で働くことをめざしたい	病院、診療所で機能訓練、看護、介護、日常生活の支援などを受けながら過ごしたい	その他	わからない	無回答
全体 (n=442)	28.5	27.4	26.0	24.9	19.2	18.6	14.5	5.4	4.1	9.0	5.4
幼稚園や保育園、学校 (n=171)	28.1	65.5	22.8	24.6	21.1	31.6	24.6	2.9	4.1	8.8	3.5
会社など(就労移行支援・就労継続支援など作業所も含む) (n=129)	50.4	2.3	27.9	3.9	27.1	8.5	10.1	1.6	3.1	9.3	2.3
施設(福祉園など) (n=68)	2.9	1.5	14.7	76.5	13.2	7.4	1.5	14.7	4.4	2.9	10.3
病院、診療所 (n=3)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	33.3	33.3
障害者地域生活支援センター(きらら・すてっぷ・ういんぐ・さくら) (n=0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
介護保険のデイサービスを利用している (n=2)	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0
自分の家 (n=40)	10.0	7.5	52.5	15.0	5.0	15.0	12.5	7.5	0.0	20.0	0.0
その他 (n=9)	0.0	0.0	44.4	44.4	11.1	44.4	0.0	11.1	11.1	11.1	0.0

【障害程度別】

障害程度	会社などで働きたい	学校に通いたい	自分の家で過ごしたい	福祉園などの通所施設で、手助けを受けながらさまざまな活動を行いたい	就労移行支援・就労継続支援事業所などで働きたい	自立した日常生活が送れるよう、自立訓練などを受けたたい	働くための訓練・支援を受け、会社で働くことをめざしたい	病院、診療所で機能訓練、看護、介護、日常生活の支援などを受けながら過ごしたい	その他	わからない	無回答
最重度・重度 (1・2度) (n=145)	4.8	28.3	24.8	58.6	16.6	20.0	6.2	9.0	5.5	6.9	4.1
中度 (3度) (n=98)	30.6	31.6	25.5	17.3	36.7	25.5	21.4	7.1	1.0	6.1	4.1
軽度 (4度) (n=153)	50.3	26.8	31.4	2.0	11.1	15.7	19.6	2.6	4.6	13.1	3.3

【年齢4区分別】

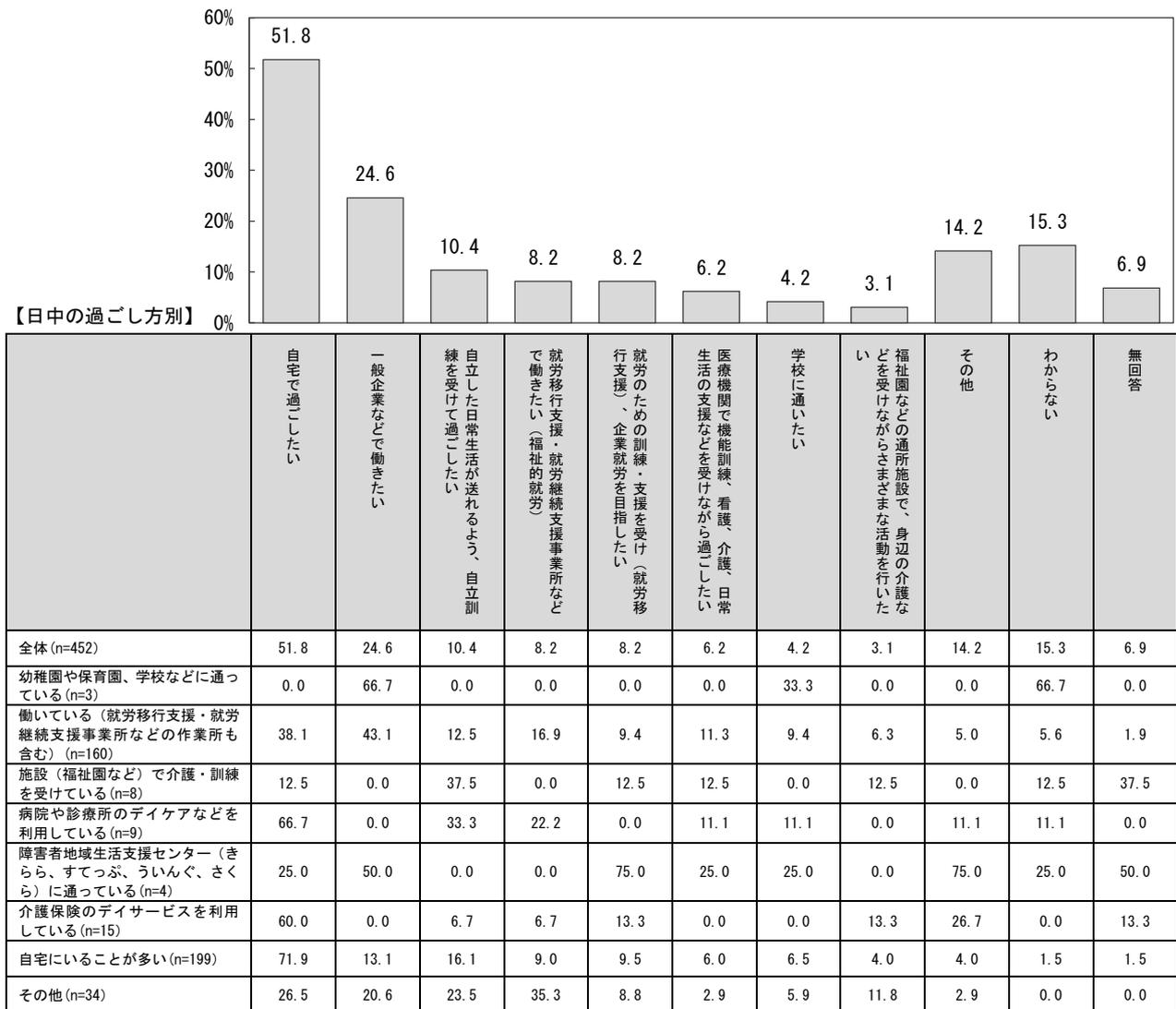
年齢区別	会社などで働きたい	学校に通いたい	自分の家で過ごしたい	福祉園などの通所施設で、手助けを受けながらさまざまな活動を行いたい	就労移行支援・就労継続支援事業所などで働きたい	自立した日常生活が送れるよう、自立訓練などを受けたたい	働くための訓練・支援を受け、会社で働くことをめざしたい	病院、診療所で機能訓練、看護、介護、日常生活の支援などを受けながら過ごしたい	その他	わからない	無回答
0～17歳 (n=158)	27.8	66.5	24.1	24.1	21.5	30.4	25.9	2.5	3.2	8.2	3.8
18～44歳 (n=186)	36.0	4.3	27.4	31.2	19.4	11.3	9.1	5.9	5.4	7.0	1.6
45～64歳 (n=54)	20.4	5.6	24.1	14.8	14.8	9.3	5.6	9.3	0.0	11.1	18.5
65歳以上 (n=25)	4.0	0.0	32.0	8.0	20.0	8.0	0.0	12.0	4.0	24.0	12.0

## 【精神障害者】

現在の日中の過ごし方別にみると、働いている（就労移行支援・就労継続支援事業所などの作業所も含む）人では「一般企業などで働きたい」が43.1%と最も多くなっている。

診断名別にみると、統合失調症、気分障害と診断されている人では「自宅で過ごしたい」がそれぞれ60.0%、55.5%と最も多くなっている。発達障害と診断されている人では「一般企業などで働きたい」が44.8%と最も多くなっている。

年齢4区分別にみると、18～44歳では「一般企業などで働きたい」が41.3%と最も多くなっている。



### 【診断名別】

統合失調症 (n=80)	60.0	18.8	15.0	12.5	12.5	6.3	5.0	5.0	3.8	13.8	6.3
気分障害 (n=238)	55.5	22.7	9.2	7.1	6.7	6.7	3.4	2.5	15.5	16.0	6.3
発達障害 (n=67)	35.8	44.8	19.4	16.4	17.9	11.9	11.9	7.5	9.0	14.9	6.0
その他 (n=121)	52.9	24.8	10.7	9.9	11.6	9.1	7.4	4.1	23.1	14.0	5.0

### 【年齢4区分別】

0～17歳 (n=3)	33.3	100	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	66.7	0.0
18～44歳 (n=104)	37.5	41.3	15.4	15.4	16.3	14.4	17.3	2.9	8.7	6.7	3.8
45～64歳 (n=193)	57.5	26.4	16.6	14.0	7.8	7.3	8.3	4.7	5.2	3.6	1.6
65歳以上 (n=128)	55.5	4.7	13.3	13.3	10.2	2.3	0.8	14.1	6.3	1.6	4.7

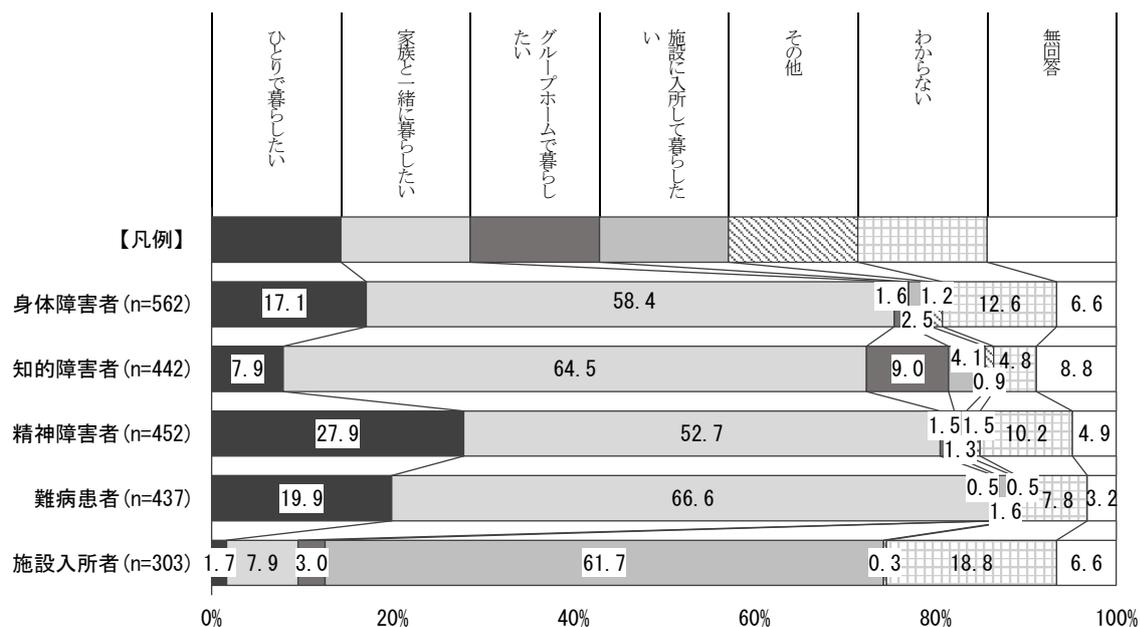
## (2) 希望する暮らし方

### ① 5年後

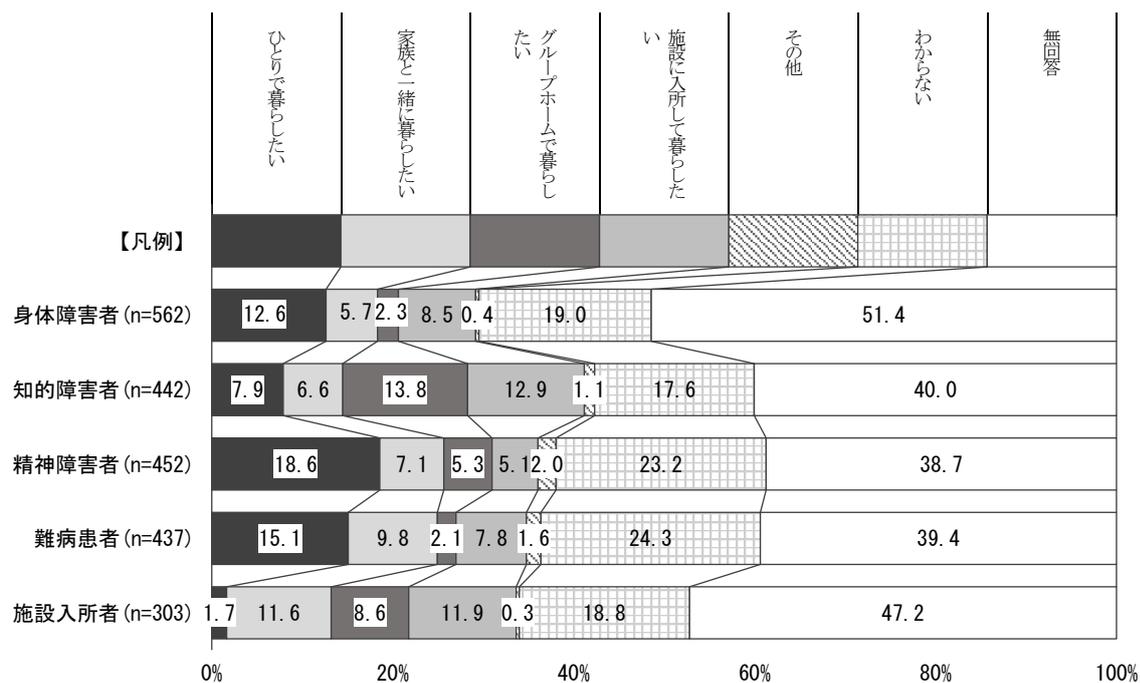
5年後の希望する暮らし方の第1希望は、身体障害者、知的障害者、精神障害者、難病患者では「家族と一緒に暮らしたい」が約5割から約7割と最も多くなっている。身体障害者、精神障害者、難病患者では「ひとりで暮らしたい」、知的障害者では「グループホームで暮らしたい」が次いで多くなっている。

施設入所者では「施設に入所して暮らしたい」が61.7%と最も多くなっている。

<第1希望>

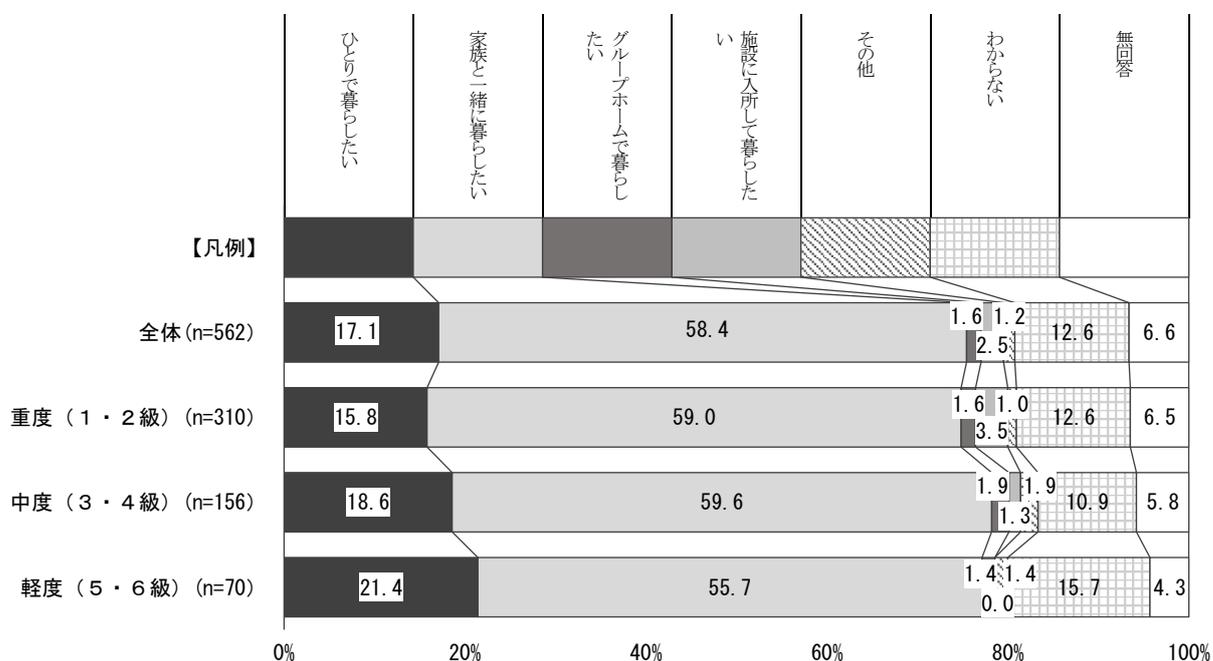


<第2希望>



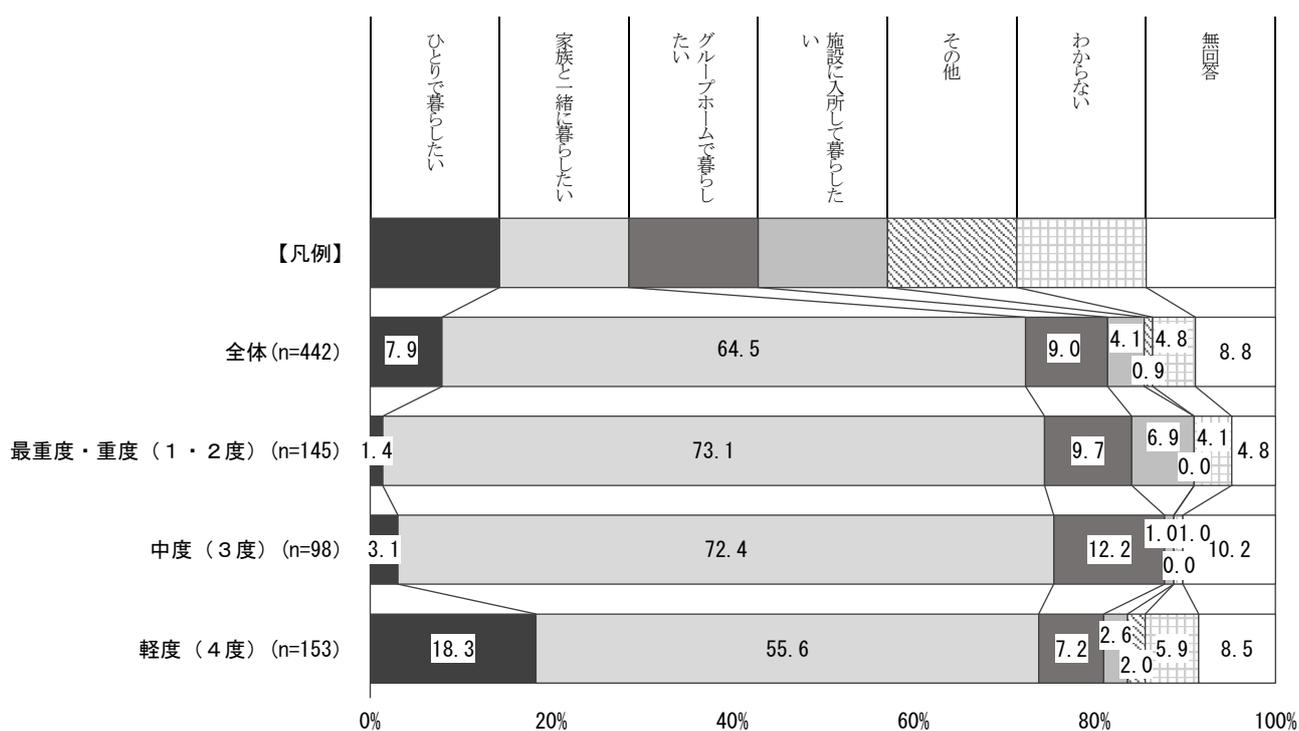
### 【身体障害者（第1希望）】

障害の程度別にみると、「ひとりで暮らしたい」と回答した人の割合は、程度が軽いほど多く、軽度（5・6級）では21.4%となっている。



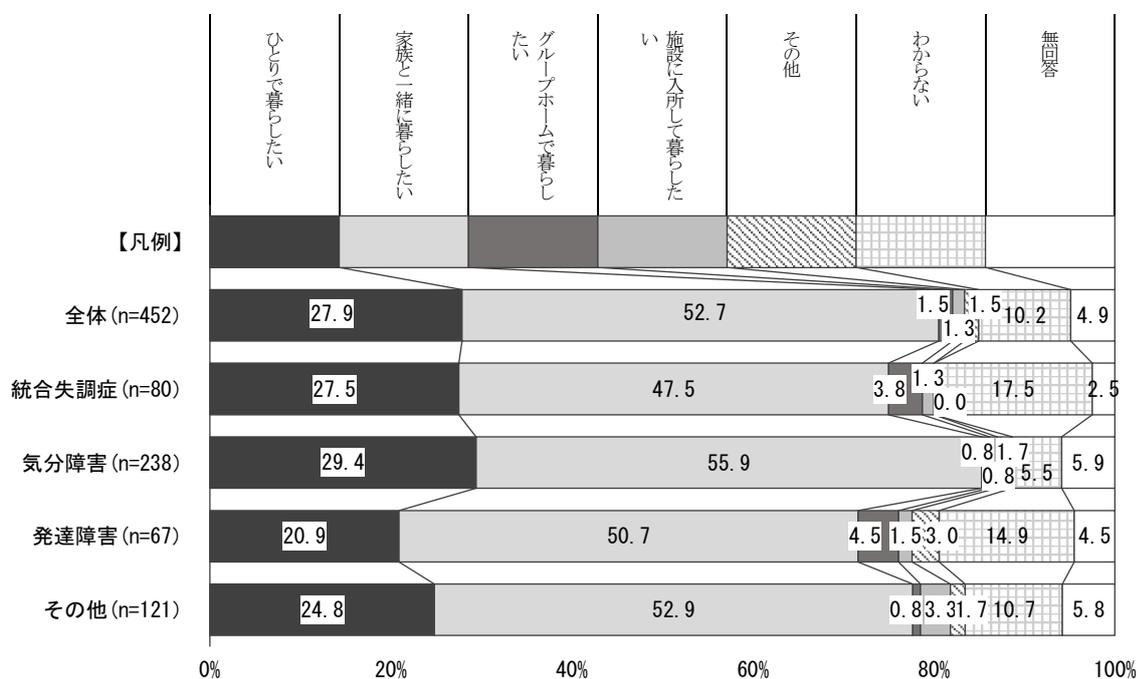
### 【知的障害者（第1希望）】

障害の程度別にみると、「家族と一緒に暮らしたい」と回答した人は、最重度・重度（1・2度）、中度（3度）、軽度（4度）ではそれぞれ73.1%、72.4%、55.6%となっている。



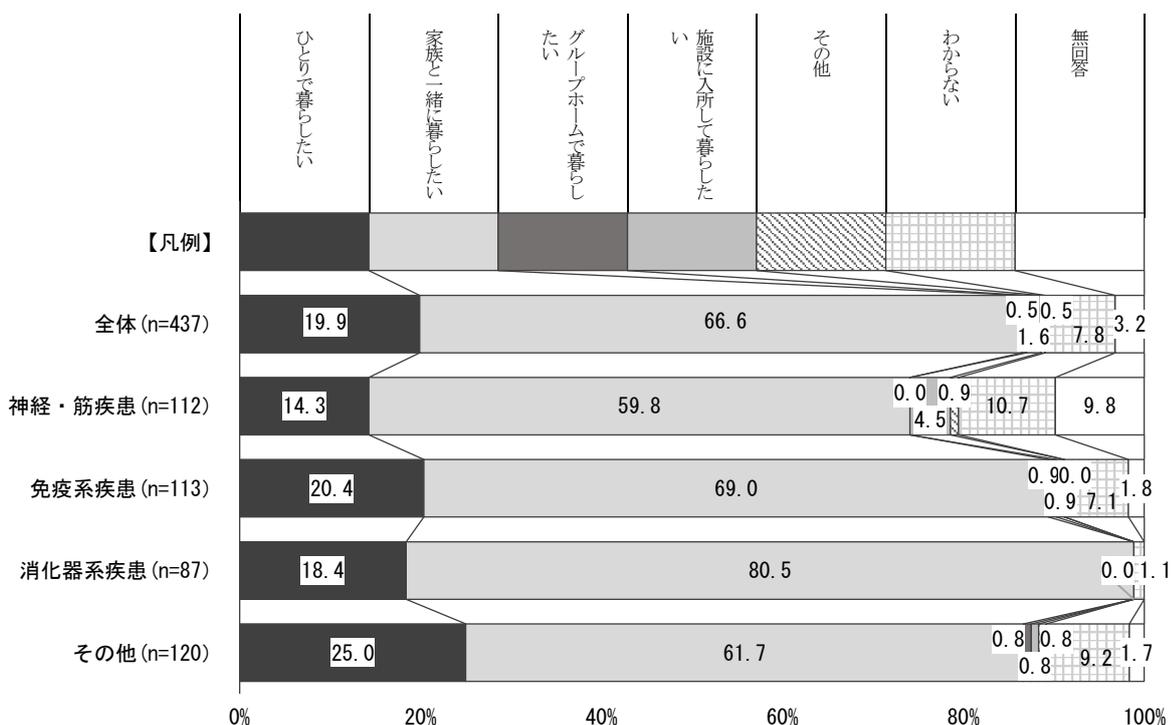
### 【精神障害者（第1希望）】

診断名別にみると、「家族と一緒に暮らしたい」と回答した人は、統合失調症と診断されている人では 47.5%、気分障害と診断されている人では 55.9%、発達障害と診断されている人では 50.7%となっている。



### 【難病患者（第1希望）】

疾患群別にみると、「家族と一緒に暮らしたい」と回答した人は神経・筋疾患では 59.8%、免疫系疾患では 69.0%、消化器系疾患では 80.5%となっている。

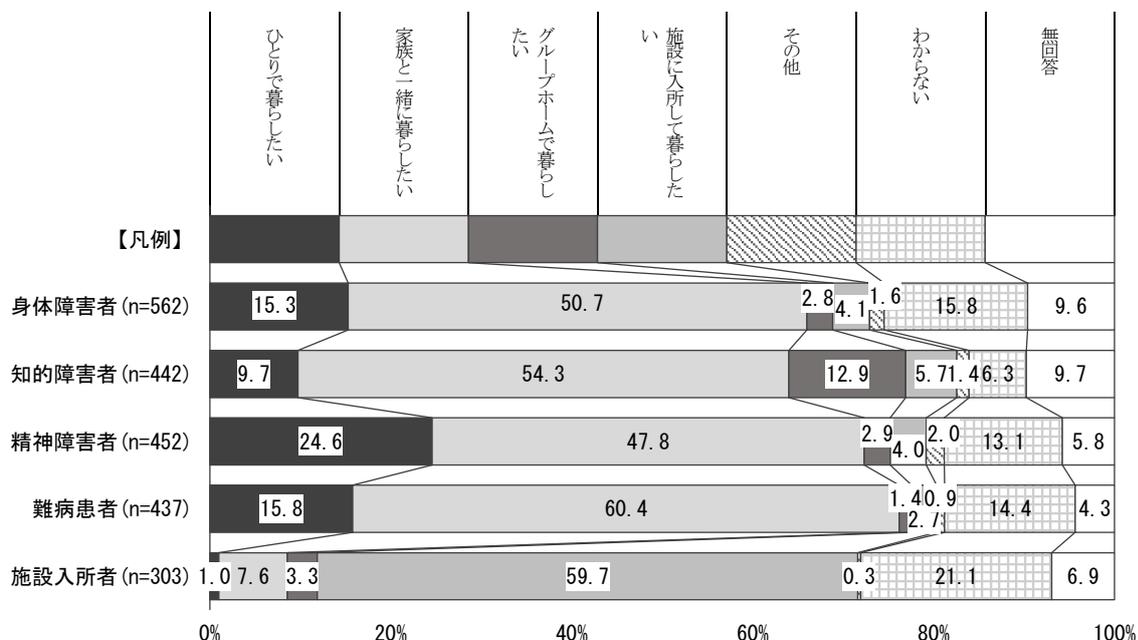


## ② 10年後

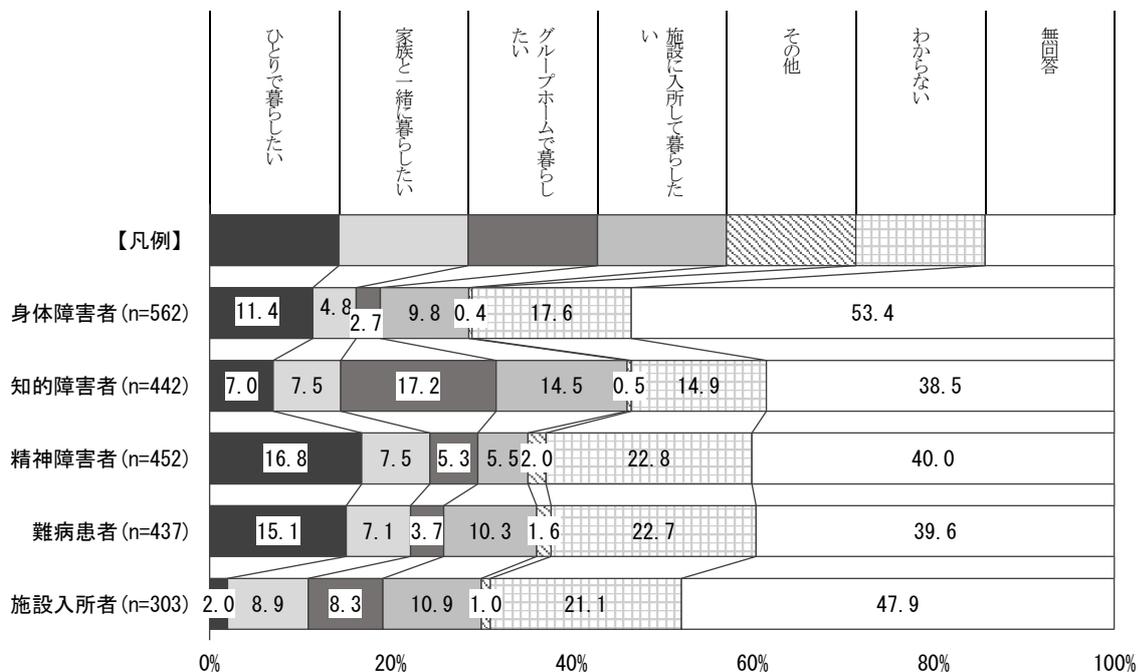
10年後の希望する暮らし方の第1希望は、「5年後」と同様の傾向で、身体障害者、知的障害者、精神障害者、難病患者では「家族と一緒に暮らしたい」が約5割から約6割と最も多くなっている。身体障害者、精神障害者、難病患者では「ひとりで暮らしたい」、知的障害者では「グループホームで暮らしたい」が次いで多くなっている。

施設入所者では「施設に入所して暮らしたい」が59.7%と最も多くなっている。

〈第1希望〉

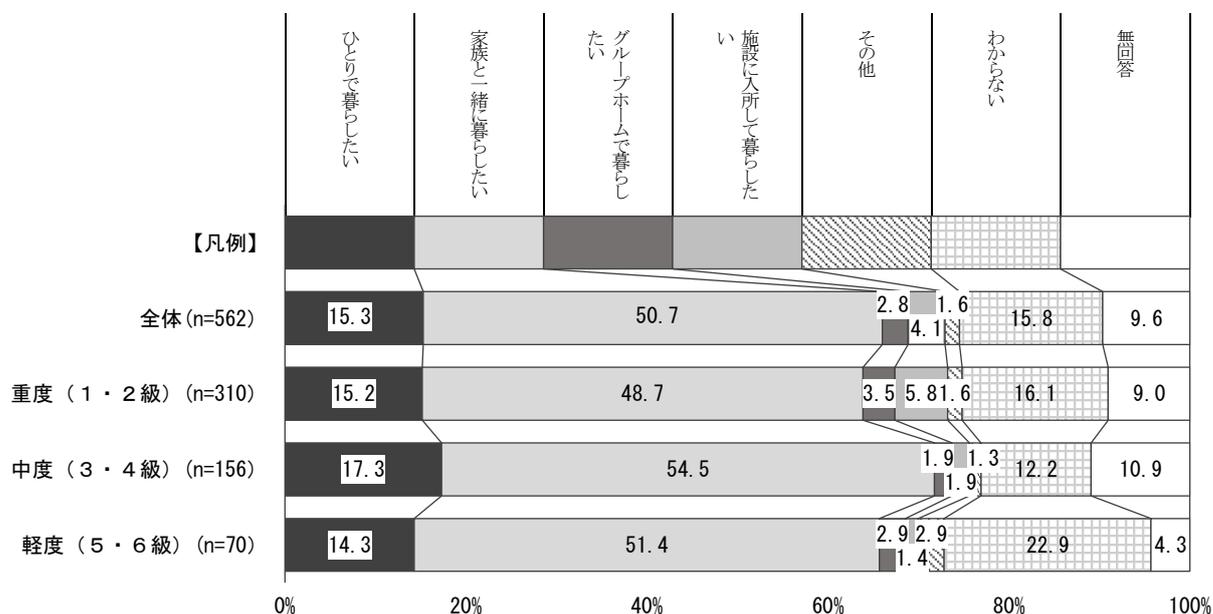


〈第2希望〉



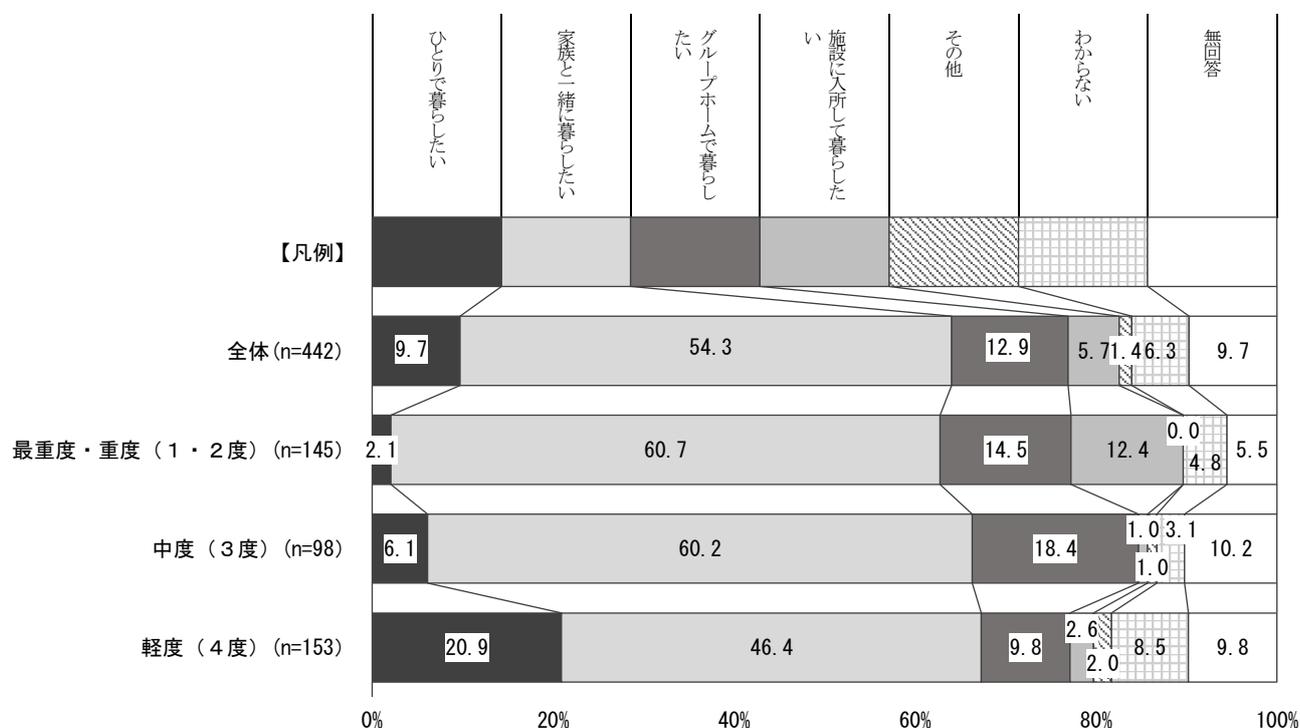
### 【身体障害者（第1希望）】

障害の程度別にみると、「ひとりで暮らしたい」と回答した人の割合は、中度（3・4級）では17.3%と他の障害の程度と比べて多くなっている。



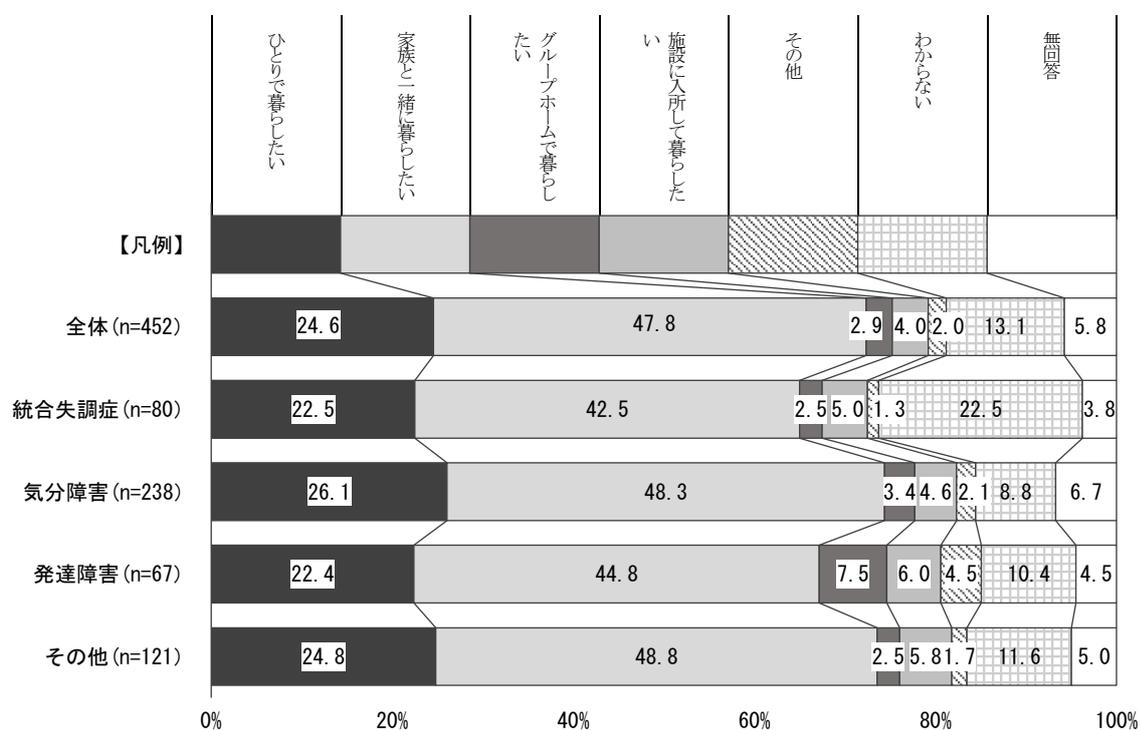
### 【知的障害者（第1希望）】

障害の程度別にみると、「家族と一緒に暮らしたい」と回答した人は、最重度・重度（1・2度）、中度（3度）、軽度（4度）ではそれぞれ60.7%、60.2%、46.4%となっている。



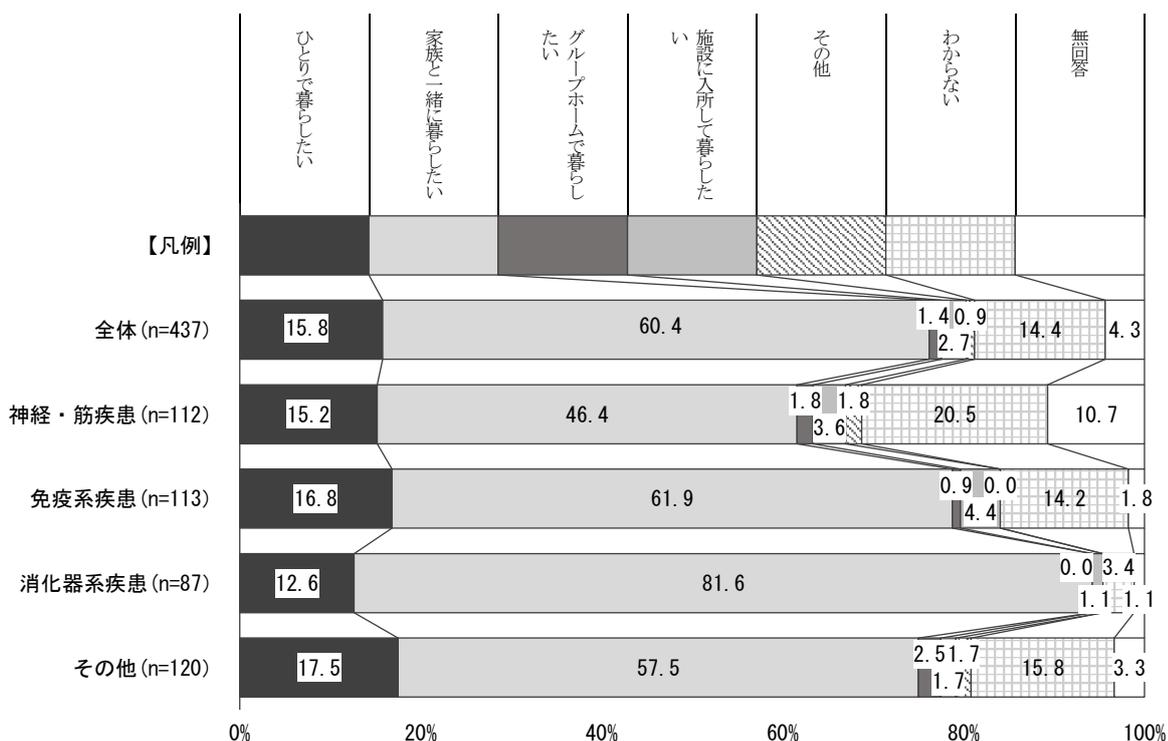
### 【精神障害者（第1希望）】

診断名別にみると、いずれも「ひとりで暮らしたい」と回答した人は2割台、「家族と一緒に暮らしたい」と回答した人は4割台となっている。



### 【難病患者（第1希望）】

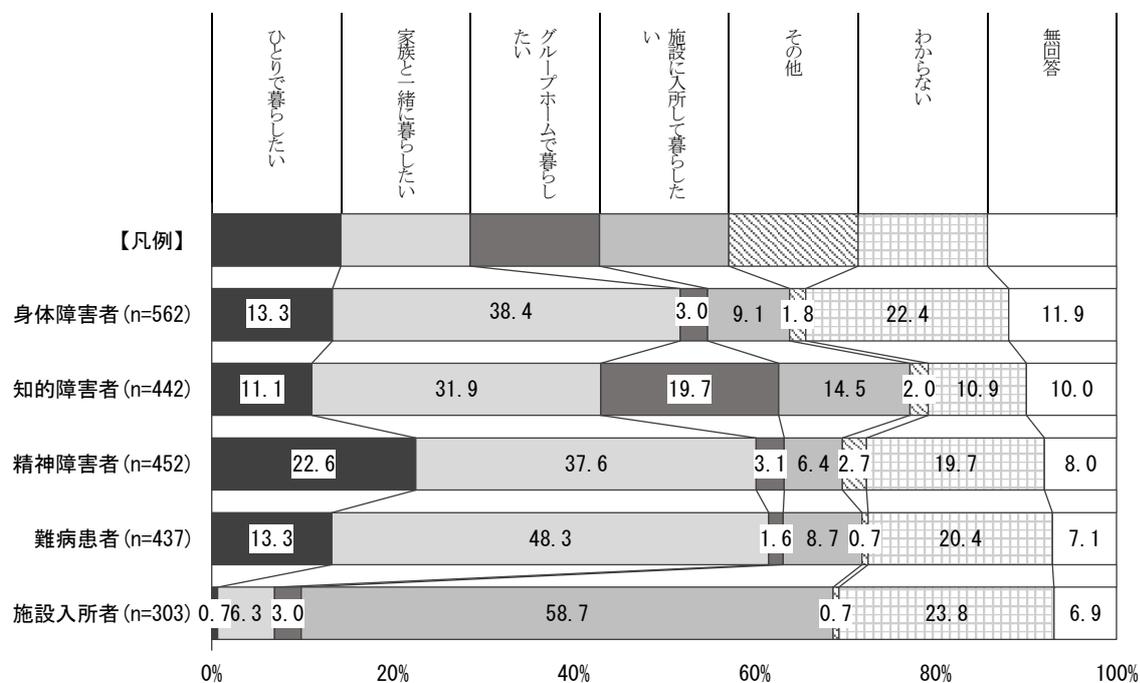
疾患群別にみると、「家族と一緒に暮らしたい」と回答した人は神経・筋疾患では46.4%、免疫系疾患では61.9%、消化器系疾患では81.6%となっている。



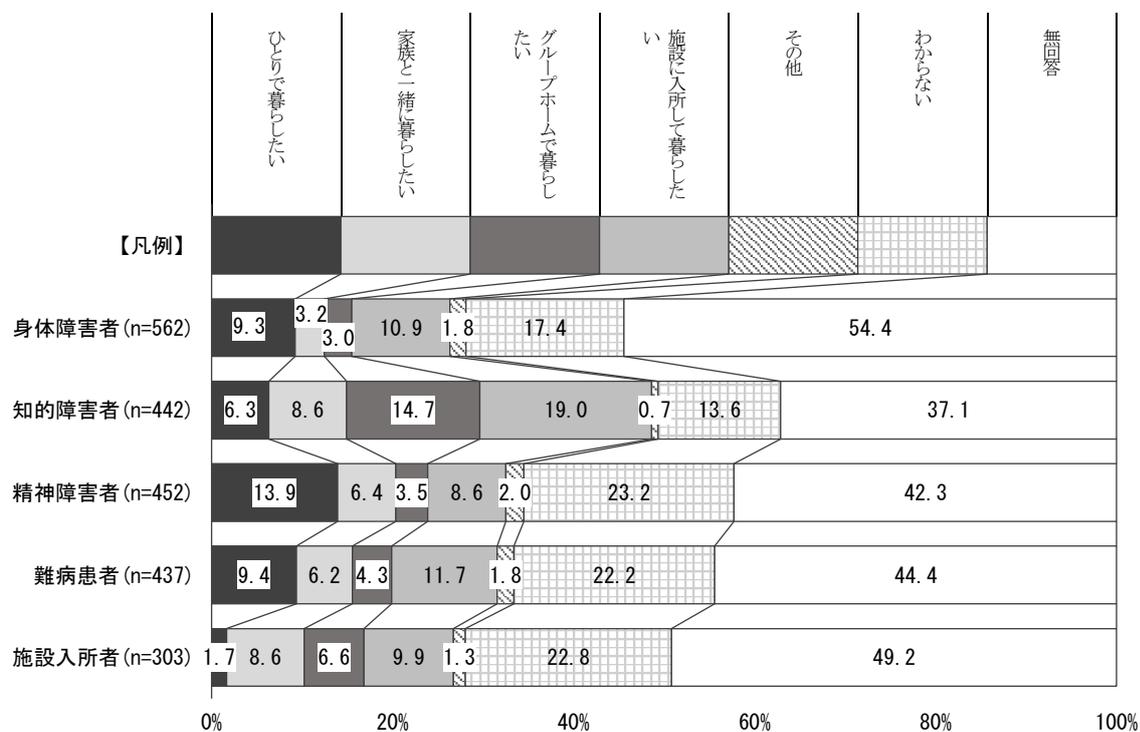
### ③ 20年後

20年後の希望する暮らし方の第1希望は、「5年後」、「10年後」と同様の傾向にあるが、身体障害者、知的障害者、精神障害者、難病患者では「10年後」より「家族と一緒に暮らしたい」が約1割～約2割減少し、「施設に入所して暮らしたい」、「わからない」が増加している。

〈第1希望〉

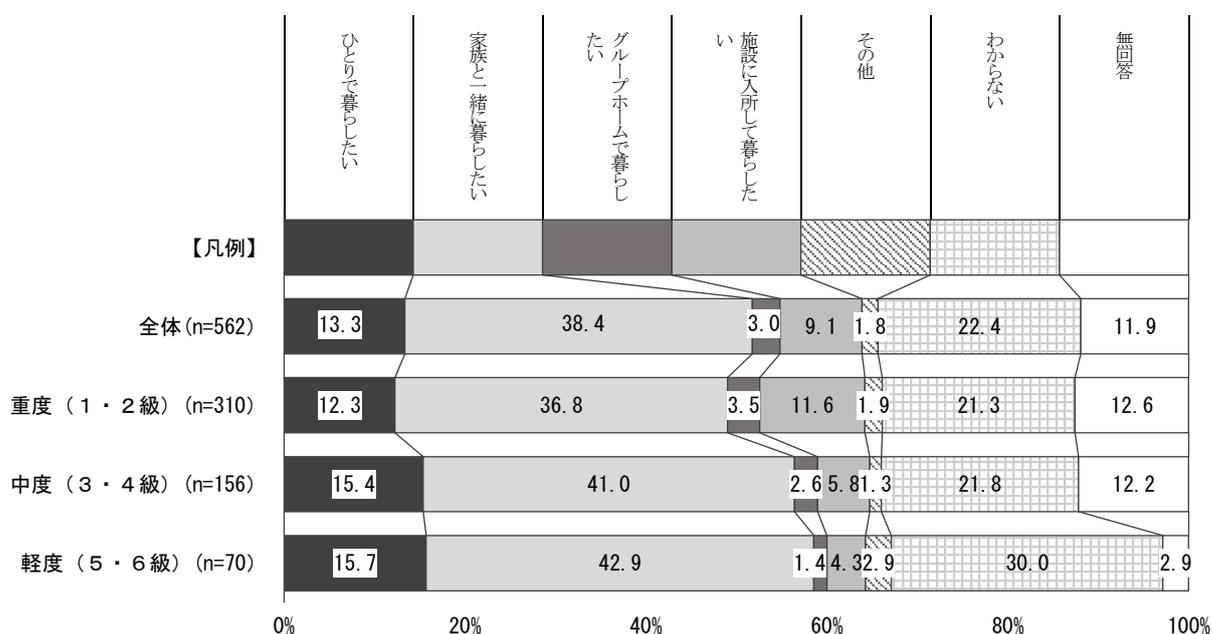


〈第2希望〉



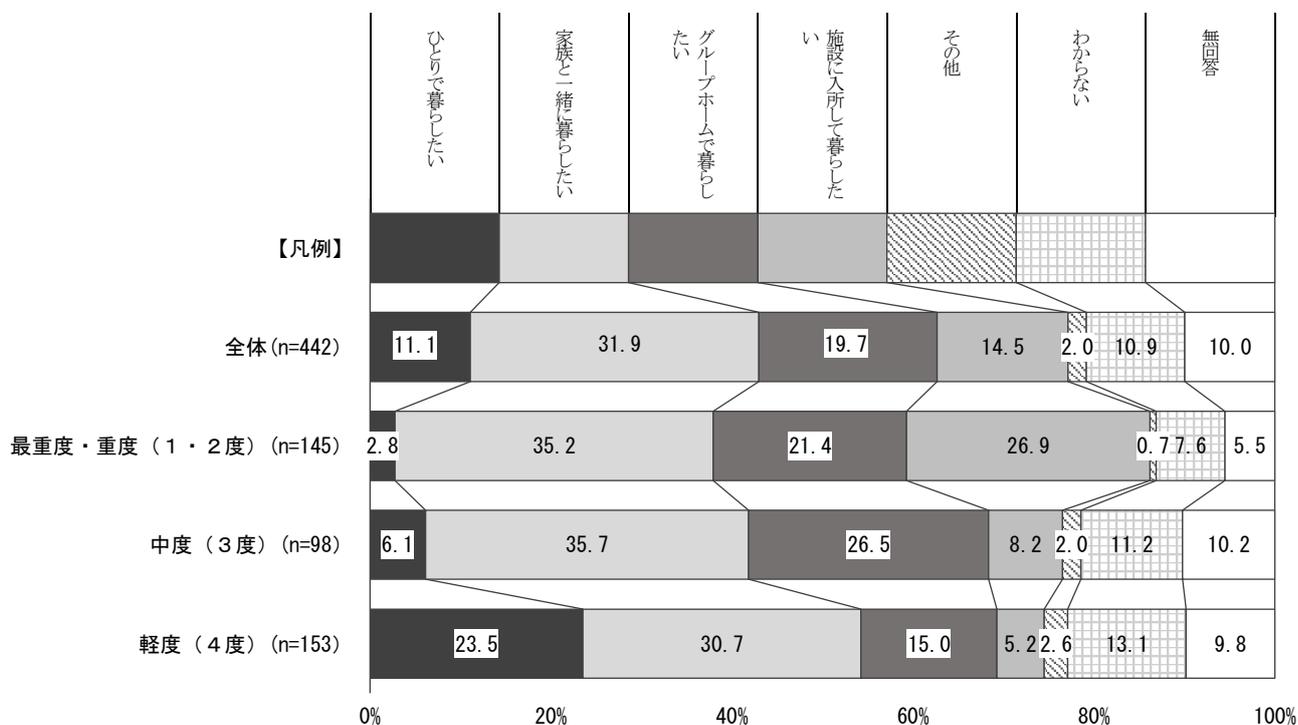
## 【身体障害者（第1希望）】

障害の程度別にみると、いずれも「家族と一緒に暮らしたい」と回答した人が約4割、「わからない」と回答した人が2割以上となっている。



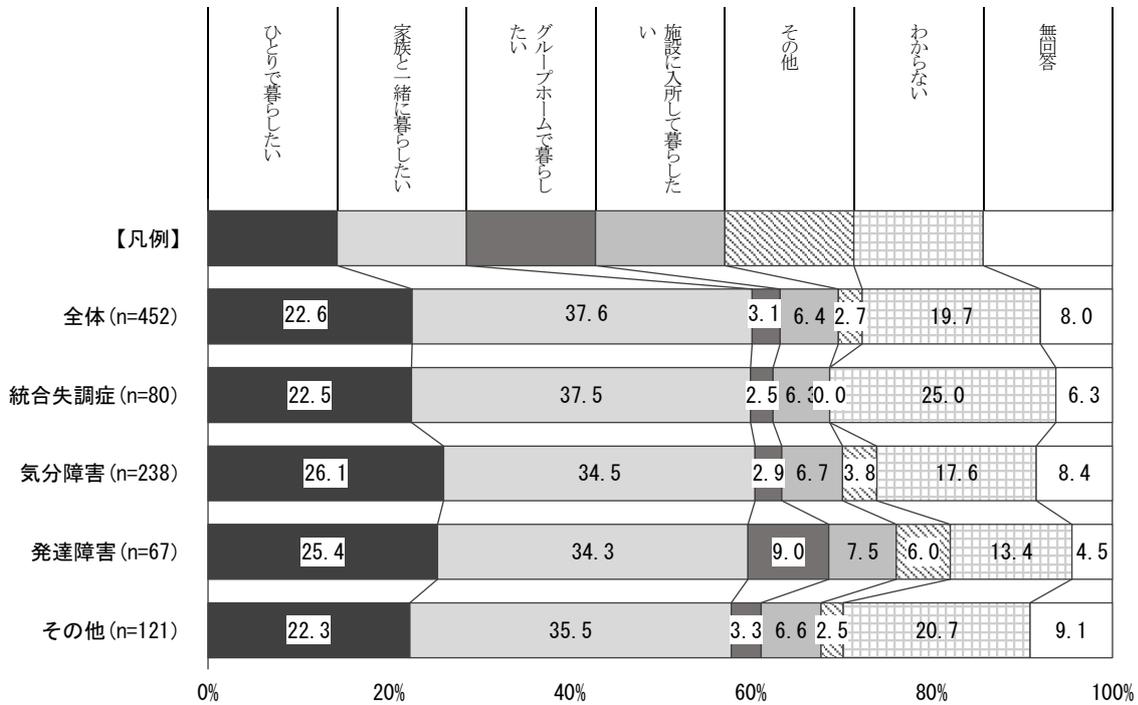
## 【知的障害者（第1希望）】

障害の程度別にみると、「家族と一緒に暮らしたい」と回答した人は、最重度・重度（1・2度）、中度（3度）、軽度（4度）ではそれぞれ35.2%、35.7%、30.7%となっている。



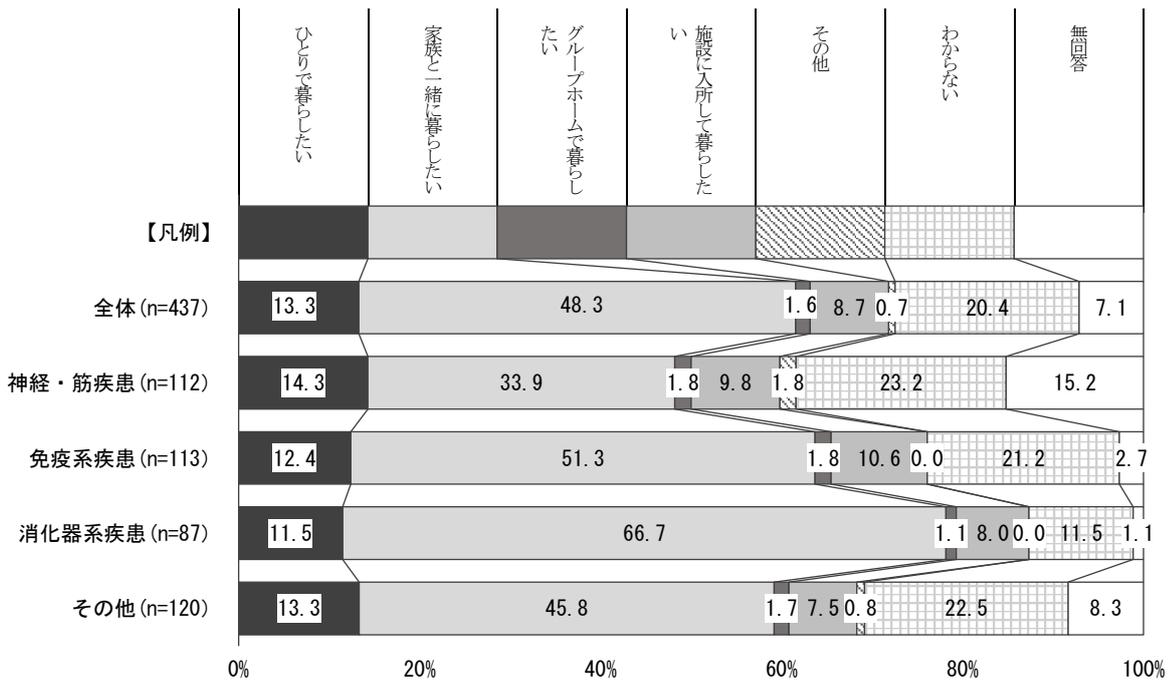
### 【精神障害者（第1希望）】

診断名別にみると、「家族と一緒に暮らしたい」と回答した人は、統合失調症と診断されている人では 37.5%、気分障害と診断されている人では 34.5%、発達障害と診断されている人では 34.3%となっている。



### 【難病患者（第1希望）】

疾患群別にみると、「家族と一緒に暮らしたい」と回答した人は、神経・筋疾患では 33.9%、免疫系疾患では 51.3%、消化器系疾患では 66.7%となっている。



### (3) ひとりで暮らすために必要なこと（複数回答）

ひとりで暮らすために必要なことは、いずれの障害種別においても「ひとりで暮らすための費用」が最も多く、次いで「ひとりで暮らすための手続きへの手助け」となっている。

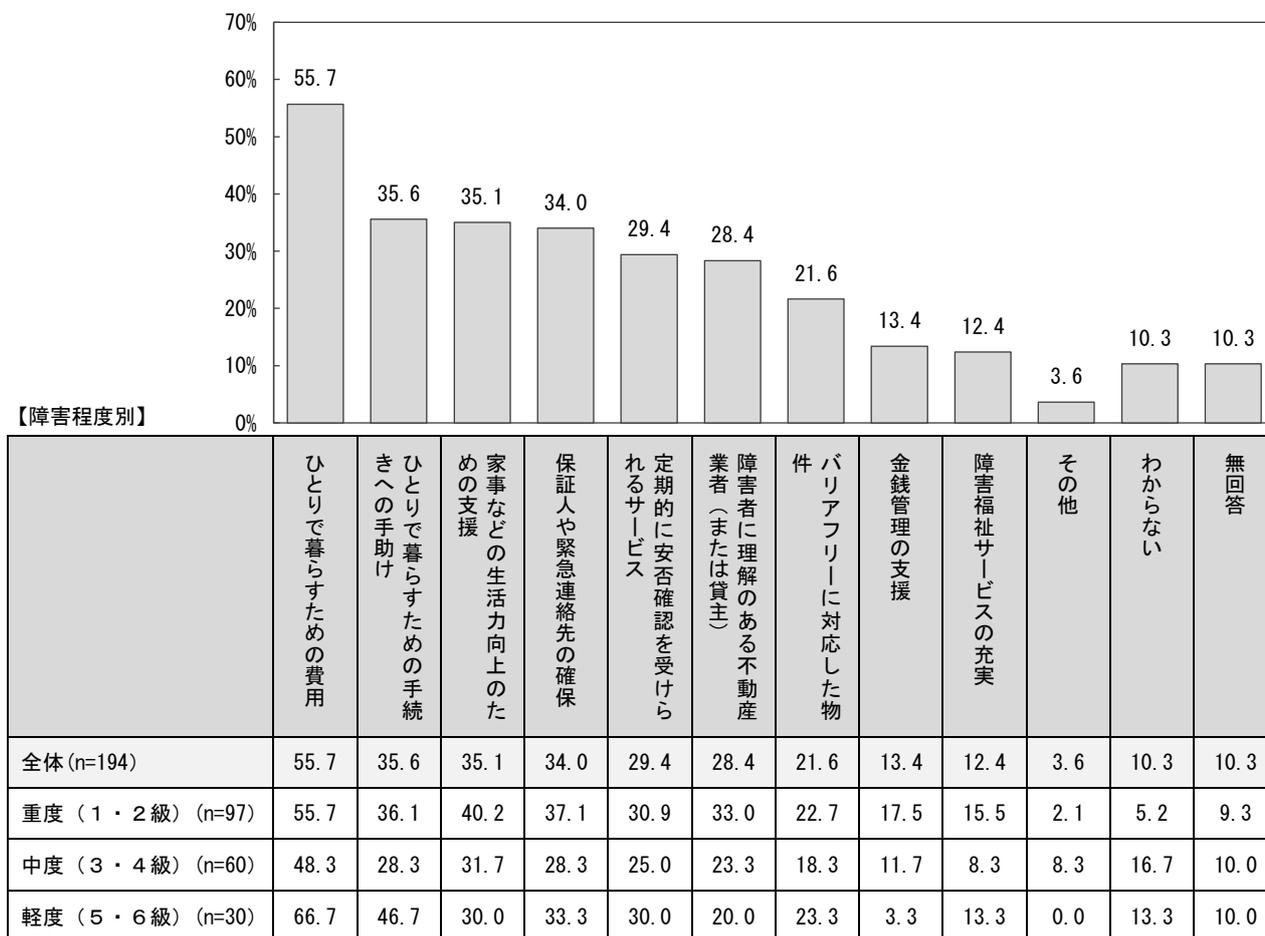
（単位：％）

区分	身体障害者 (n=194)	知的障害者 (n=97)	精神障害者 (n=229)	難病患者 (n=158)
ひとりで暮らすための手続きへの手助け	35.6(2位)	69.1(2位)	46.3(2位)	45.6(2位)
ひとりで暮らすための費用	55.7(1位)	73.2(1位)	69.9(1位)	65.8(1位)
バリアフリーに対応した物件	21.6	9.3		20.3
障害者に理解のある不動産業者（または貸主）	28.4	53.6(3位)	31.9	26.6
保証人や緊急連絡先の確保	34.0	48.5	38.9(3位)	36.7
定期的に安否確認を受けられるサービス	29.4	35.1	32.3	29.7
家事などの生活力向上のための支援	35.1(3位)	47.4	30.1	37.3(3位)
金銭管理の支援	13.4	49.5	19.2	10.8
障害福祉サービスの充実	12.4	12.4	5.2	3.8
その他	3.6	1.0	1.3	3.2
わからない	10.3	7.2	6.6	5.7
無回答	10.3	3.1	11.8	6.3

※ベース：5、10、20年後にひとりで暮らしたいと回答した人

## 【身体障害者】

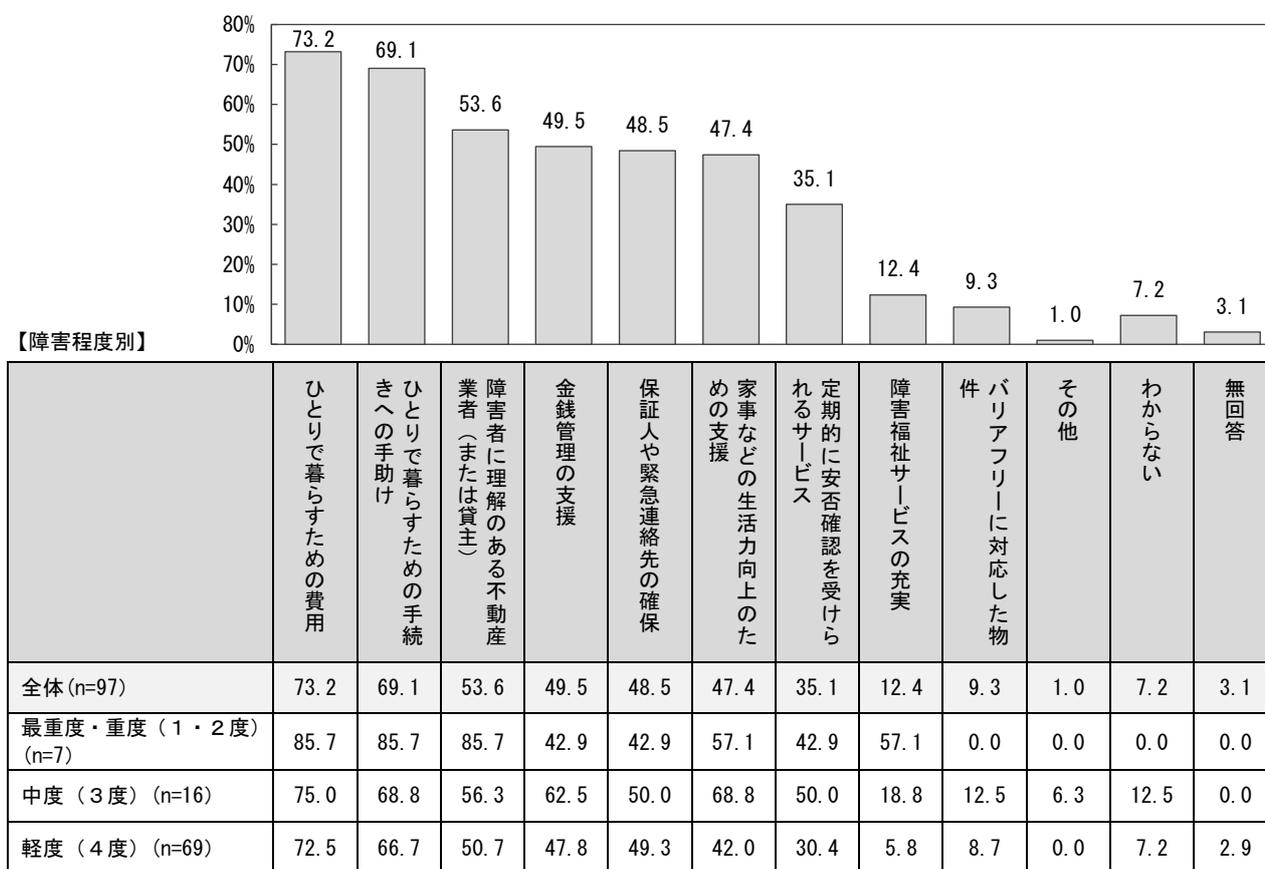
障害の程度別にみると、重度（1・2級）では「ひとりで暮らすための費用」が55.7%と最も多く、次いで「家事などの生活力向上のための支援」が40.2%となっている。



※ベース：5、10、20年後にひとりで暮らしたいと回答した人

## 【知的障害者】

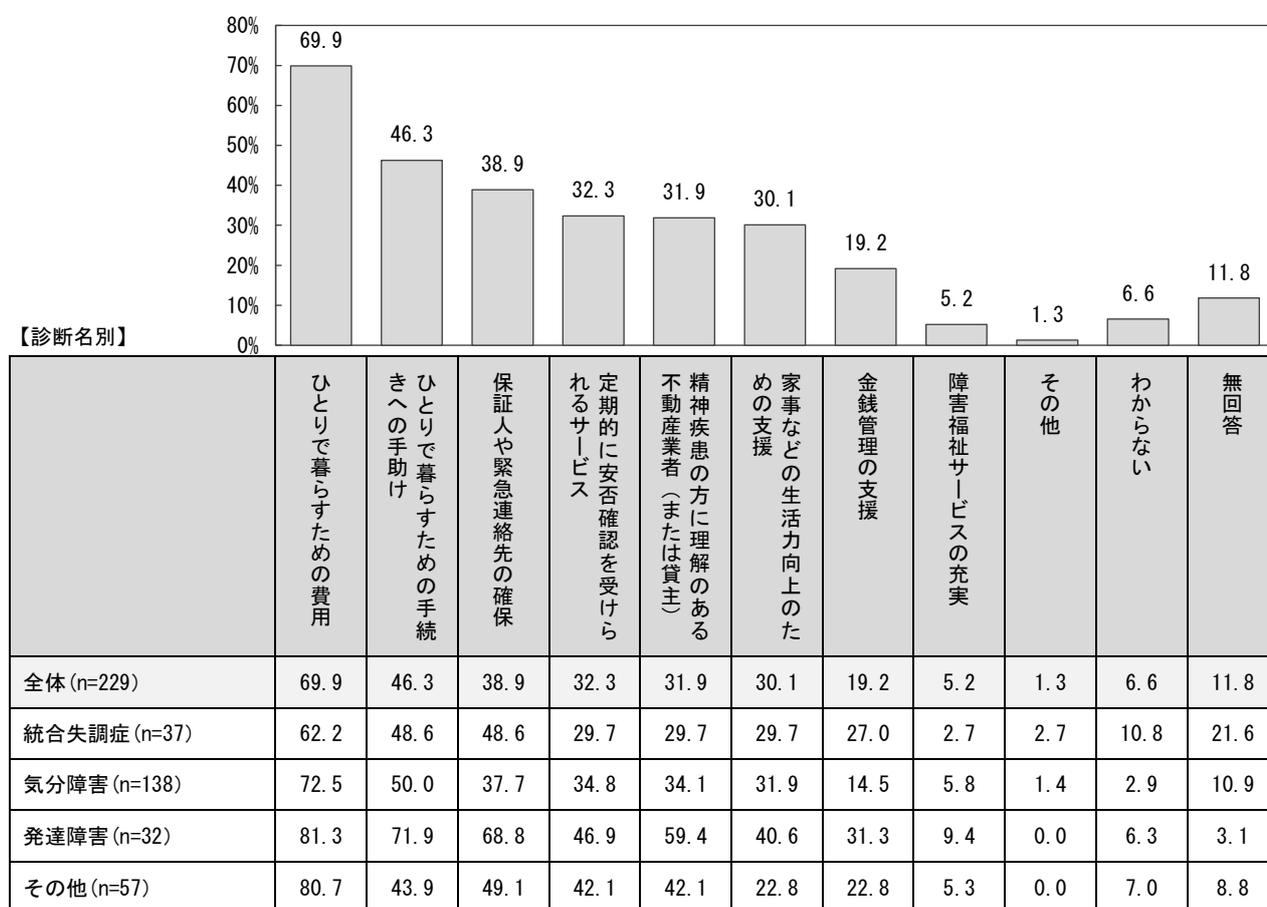
障害の程度別にみると、軽度（4度）では「ひとりで暮らすための費用」が72.5%と最も多く、次いで「ひとりで暮らすための手続きへの手助け」が66.7%となっている。



※ベース：5、10、20年後にひとりで暮らしたいと回答した人

## 【精神障害者】

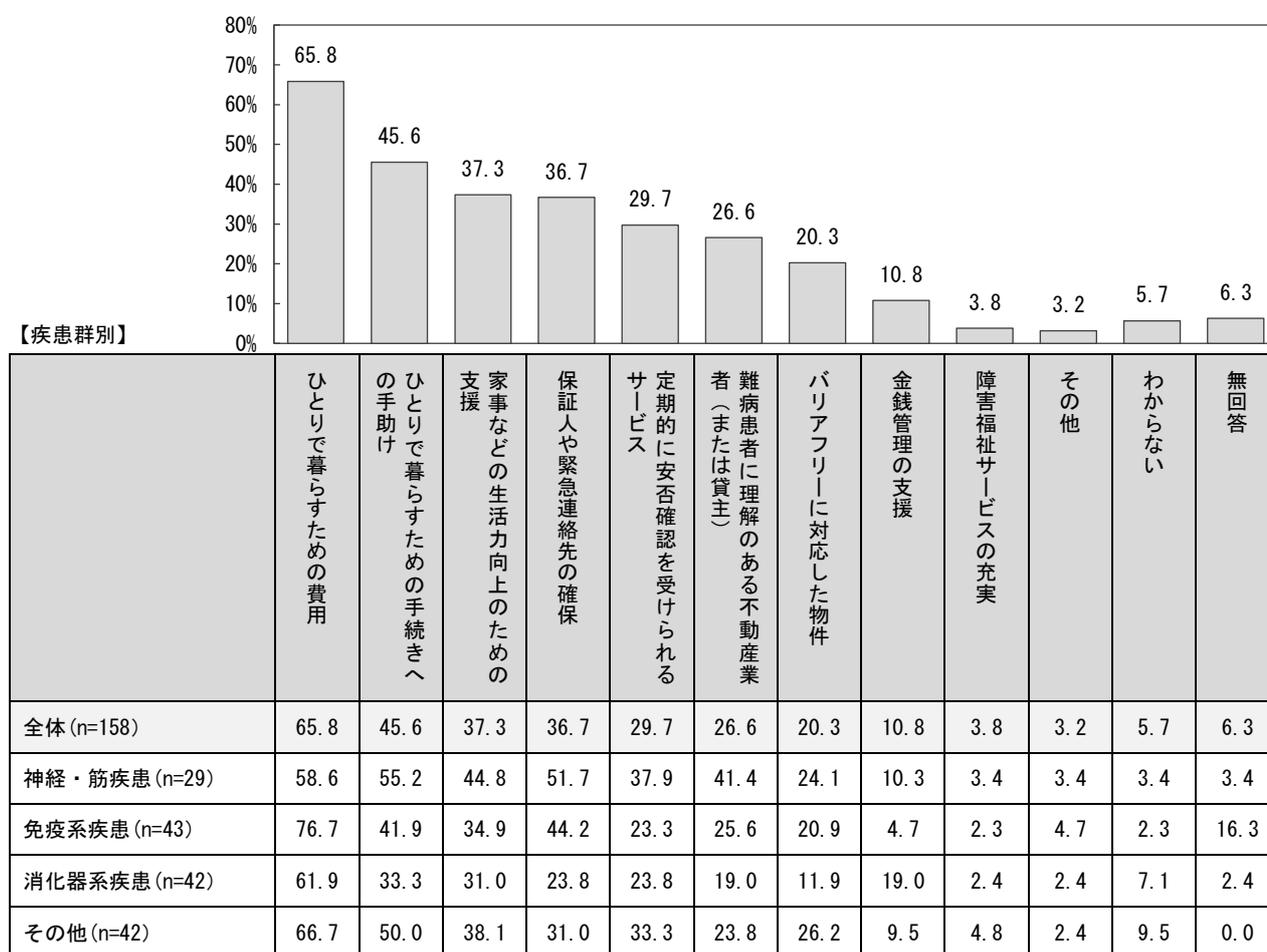
診断名別にみると、気分障害と診断された人では「ひとりで暮らすための費用」が72.5%と最も多く、次いで「ひとりで暮らすための手続きへの手助け」が50.0%となっている。



※ベース：5、10、20年後にひとりで暮らしたいと回答した人

## 【難病患者】

疾患群別にみると、神経・筋疾患ではひとりで暮らすために必要なことが全体的に多くなっており、いずれの疾患群においても「ひとりで暮らすための費用」が最も多くなっている。



※ベース：5、10、20年後にひとりで暮らしたいと回答した人

#### (4) 地域で暮らすために必要な手助け・環境（複数回答）（施設入所者のみ）

希望する暮らし方で「ひとりで暮らしたい」、「家族といっしょに暮らしたい」、「グループホームで暮らしたい」と回答した施設入所者の必要な手助けや環境は、“地域で暮らすまでに”では「施設や病院以外で暮らす体験ができること」が32.3%と最も多くなっている。“地域で暮らし続けるために”では「介助者がいること」が56.6%と最も多く、次いで「家族の理解があること」が41.4%となっている。

(単位：%)

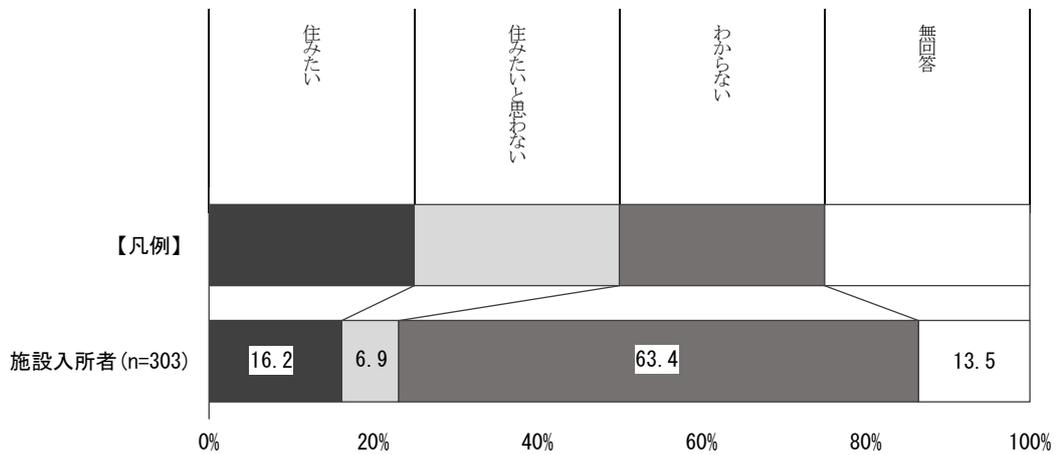
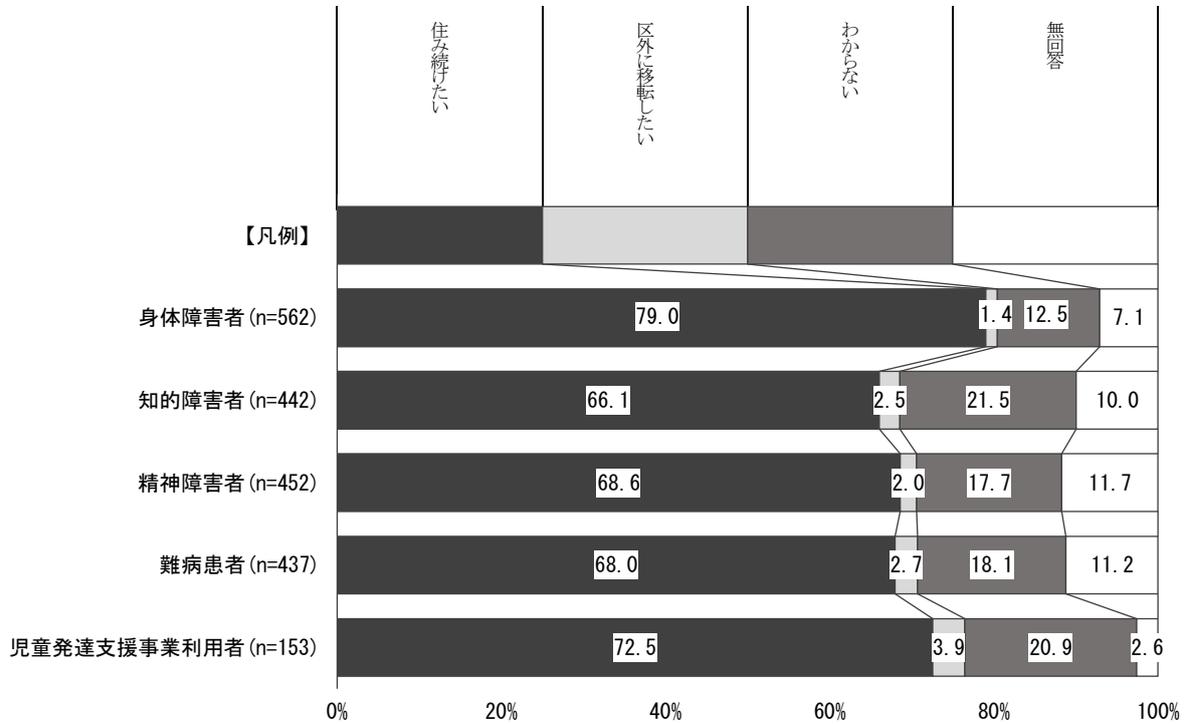
		区分	施設入所者 (n=99)
地域で暮らすまでに		日常生活ができるための訓練をすること	27.3
		施設や病院以外で暮らす体験ができること	32.3
		バリアフリーに対応した物件、グループホームなどの住宅を充実させること	23.2
		アパートなどの入居時に保証人になってくれる人がいること	6.1
		自分の家の改修	11.1
		ひとりで暮らすための手続きへの手助け	14.1
		ひとりで暮らすための費用	16.2
地域で暮らし続けるために		家族の理解があること	41.4(2位)
		介助者がいること	56.6(1位)
		働いて収入が得られる、収入額が増えること	13.1
		地域住民が障害・障害者に理解があること	35.4
		困ったときに相談できる人がいること	40.4(3位)
		ホームヘルパー、ショートステイなどの福祉サービスが受けられること	33.3
		休日・夜間の緊急時に受診できる医療機関が身近にあること	28.3
		障害者に理解のある不動産業者（または貸主）	12.1
		定期的に安否確認を受けられるサービス	20.2
		家事などの生活力向上のための支援	23.2
		金銭管理の支援	37.4
		その他	2.0
		特になし	10.1
		無回答	11.1

※ベース：「ひとりで暮らしたい」「家族と暮らしたい」「グループホームで暮らしたい」と回答した人

### (5) 練馬区での定住意向

練馬区での定住意向について、「住み続けたい」と回答した人は、身体障害者では79.0%、知的障害者では66.1%、精神障害者では68.6%、難病患者では68.0%、児童発達支援事業利用者では72.5%となっている。

施設入所者で、練馬区に「住みたい」と回答した人は16.2%となっている。



## (6) 練馬区での定住意向に対する理由（自由回答）

主な回答内容は、次のとおりである。

### ア. 今後も練馬区に住み続けたい理由

#### 【身体障害者】

- ・住みやすく気に入っているから
- ・身内、友人等がいるから
- ・病院や商店が近く便利だから
- ・緑が多いから
- ・福祉施策が充実しているから
- ・交通が便利だから

#### 【知的障害者】

- ・住みやすく気に入っているから
- ・身内、友人等がいるから
- ・福祉施策が充実しているから
- ・交通が便利だから
- ・今働いている作業所で今後も働きたいから

#### 【精神障害者】

- ・住みやすく気に入っているから
- ・身内、友人等がいるから
- ・病院や商店が近く便利だから
- ・緑が多いから
- ・福祉施策が充実しているから
- ・交通が便利だから

#### 【難病患者】

- ・住みやすく気に入っているから
- ・身内、友人等がいるため
- ・病院や商店が近く便利だから
- ・緑が多いから
- ・福祉施策が充実しているから
- ・交通が便利だから
- ・区役所の対応がとても親切だから
- ・治安がいいから

#### 【施設入所者】

- ・自宅が練馬区にあるから
- ・駅の近くに色々な施設があるから
- ・福祉が充実しているから
- ・友人、知人が多いから

#### 【児童発達支援事業利用者】

- ・住みやすく気に入っているから
- ・身内、友人等がいるから
- ・病院や商店が近く便利だから
- ・緑が多いから
- ・福祉施策が充実しているから
- ・交通が便利だから
- ・子育て支援が充実しているから
- ・治安がいいから

## イ. 練馬区外に移転したい理由

### 【身体障害者】

- ・練馬区は、物価が高いため
- ・のどかな田舎に移り住みたいから
- ・他の町もみて総合的に判断したいから

### 【知的障害者】

- ・働いている会社が区外なので通いやすい所に行きたいから
- ・他の区、市も住みやすそうだったから
- ・いろいろな県に行きたいから
- ・区内にグループホーム、入所施設が少ないから
- ・歩道が狭いので危険だから

### 【精神障害者】

- ・公共交通機関を利用するにもバス停、駅までが遠くて不便だから
- ・練馬区の家賃、地価、物価、全てが高いから
- ・田舎に住もうかと考えているから

### 【難病患者】

- ・物価が高いから
- ・他県や海外で暮らしたいから

### 【施設入所者】

- ・今の施設の環境が良いから
- ・田舎が好きだから
- ・区内の家族と同居の希望がないから

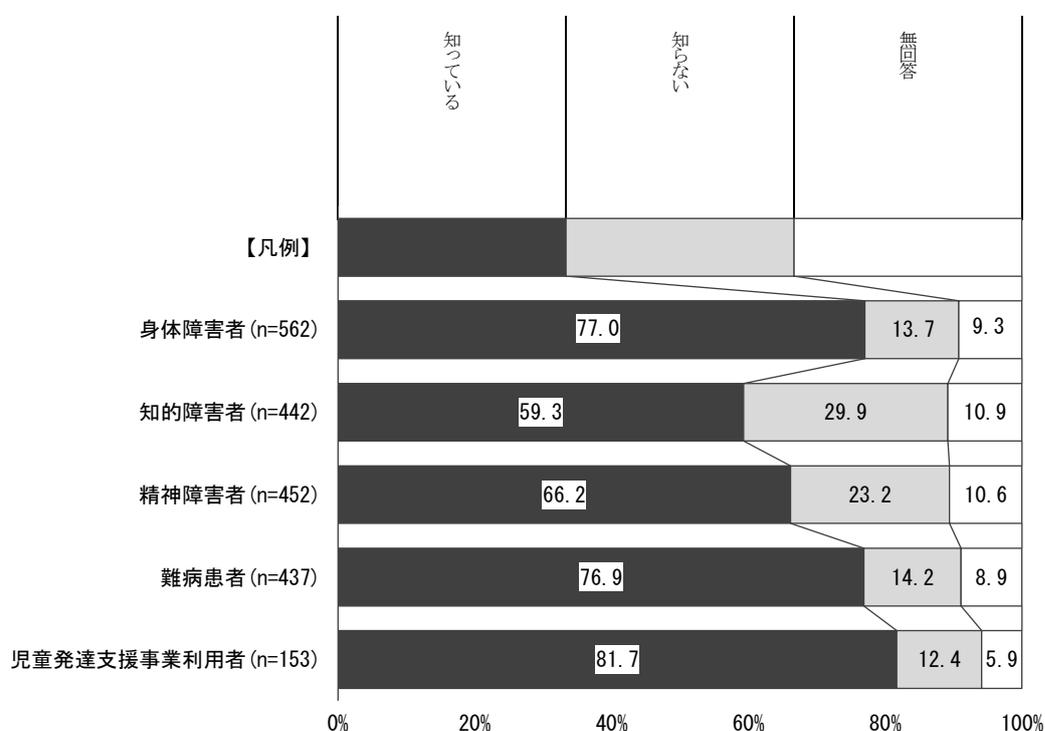
### 【児童発達支援事業利用者】

- ・歩道や道路が狭く、自転車が歩道をスピード出して走ることが多いから
- ・両親の実家近くに住みたいと思っているから
- ・子どもが楽しく遊べる場所が少ないから

# 1 1 災害対策について

## (1) 避難拠点の認知度

最寄りの避難拠点を「知っている」人の割合は、身体障害者では 77.0%、知的障害者では 59.3%、精神障害者では 66.2%、難病患者では 76.9%、児童発達支援事業利用者では 81.7% となっている。



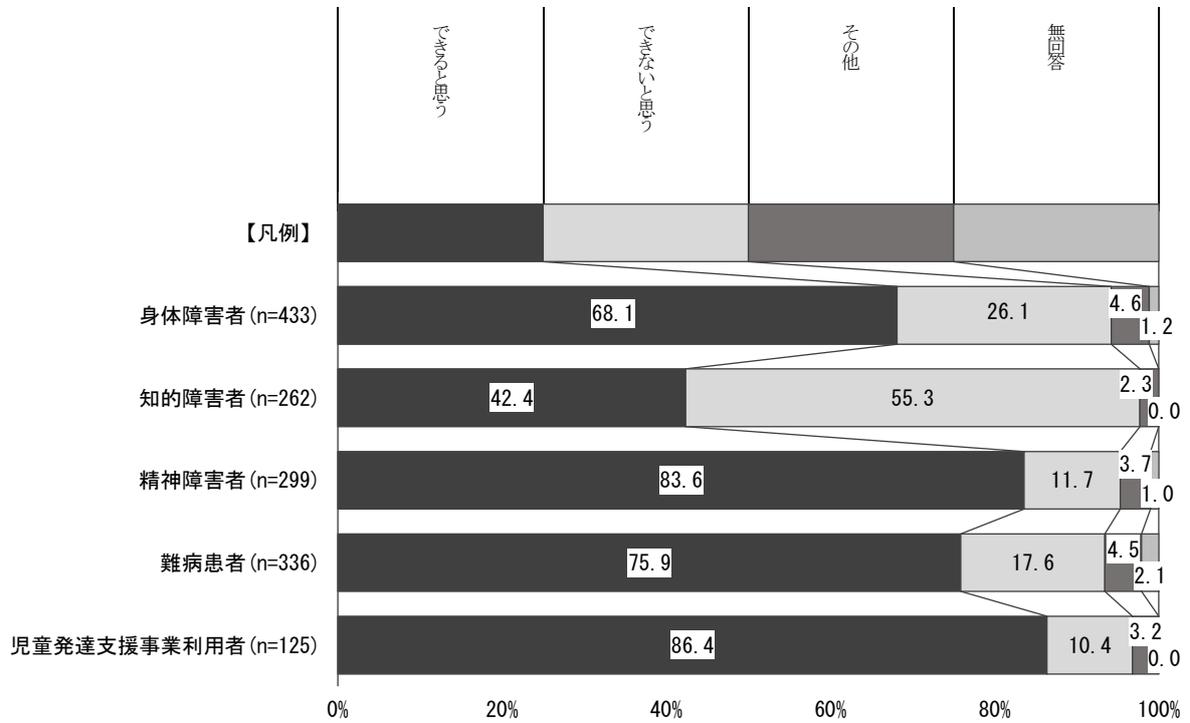
### 【前回調査との比較】

(単位：%)

区分		1位	2位
身体障害者	今回 (n=562)	知っている (77.0)	知らない (13.7)
	前回 (n=659)	知っている (79.4)	知らない (17.3)
知的障害者	今回 (n=442)	知っている (59.3)	知らない (29.9)
	前回 (n=474)	知っている (72.4)	知らない (24.3)
精神障害者	今回 (n=452)	知っている (66.2)	知らない (23.2)
	前回 (n=451)	知っている (72.1)	知らない (25.9)
難病患者	今回 (n=437)	知っている (76.9)	知らない (14.2)
	前回 (n=475)	知っている (80.2)	知らない (15.6)
児童発達支援事業利用者	今回 (n=153)	知っている (81.7)	知らない (12.4)
	前回 (n=127)	知っている (83.5)	知らない (15.7)

## (2) 避難拠点まで自力避難の可否

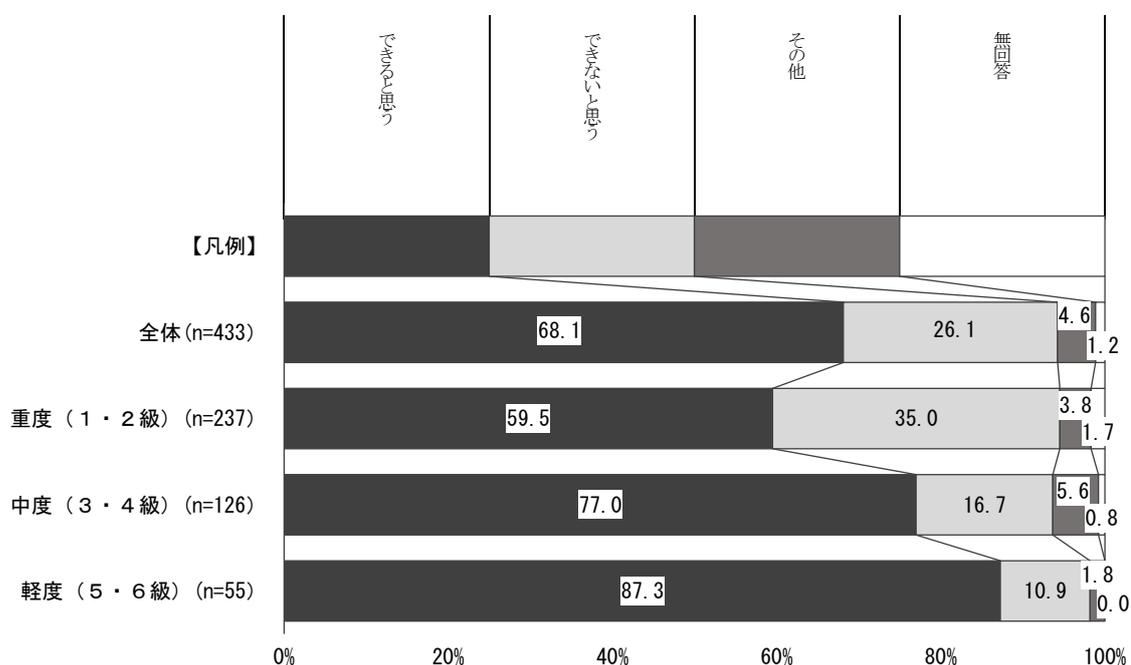
最寄りの避難拠点まで自力避難が「できると思う」と回答した人は、身体障害者では 68.1%、知的障害者では 42.4%、精神障害者では 83.6%、難病患者では 75.9%、児童発達支援事業利用者では 86.4%となっている。



※ベース：最寄りの避難拠点を知っていると回答した人

## 【身体障害者】

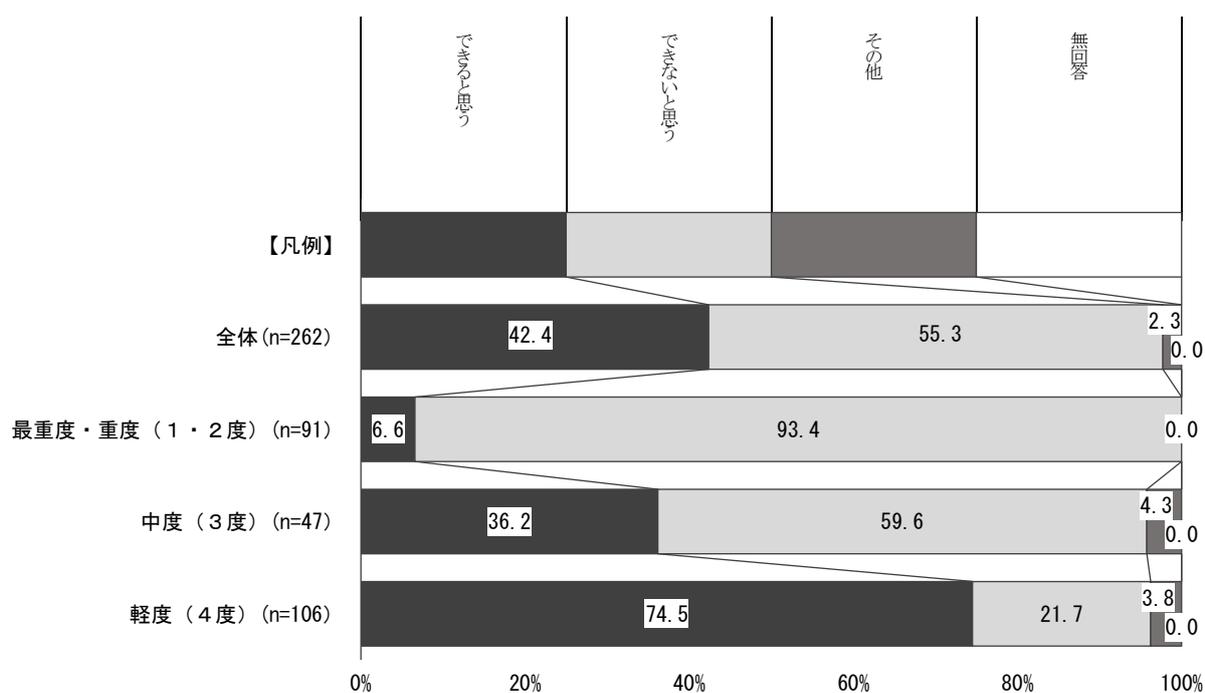
障害の程度別にみると、重度（1・2級）では自力で避難することが「できると思う」と回答した人が59.5%と、中度（3・4級）、軽度（5・6級）に比べて少なくなっている。



※ベース：最寄りの避難拠点を知っていると回答した人

## 【知的障害者】

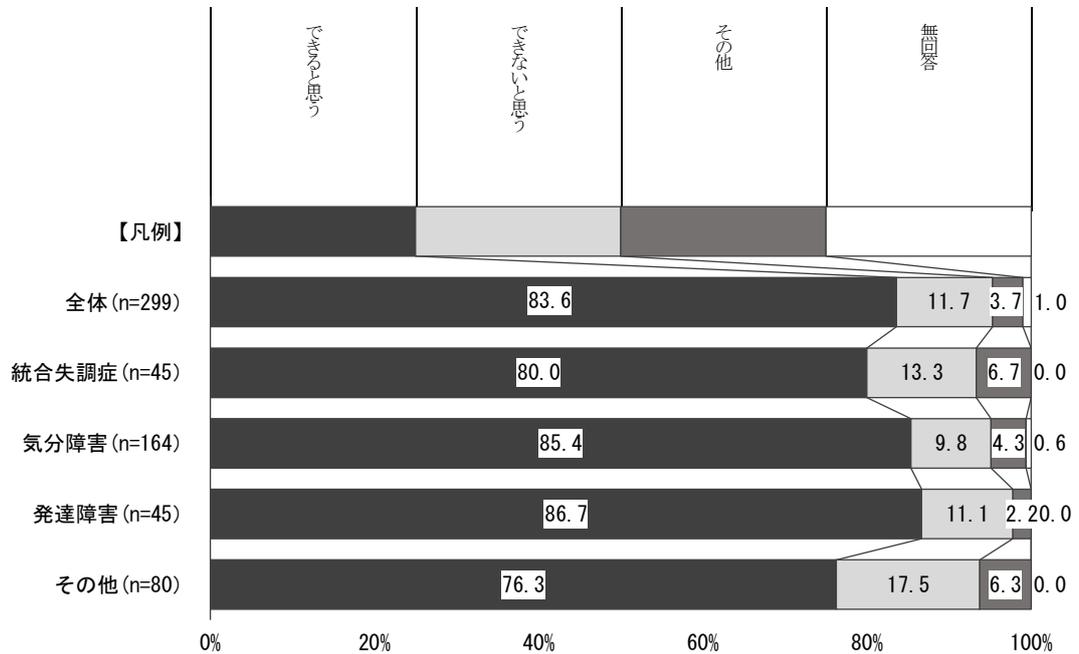
障害の程度別にみると、ひとりで避難することが「できると思う」と回答した人の割合は、程度が軽いほど多く、軽度（4度）では74.5%となっている。



※ベース：最寄りの避難拠点を知っていると回答した人

## 【精神障害者】

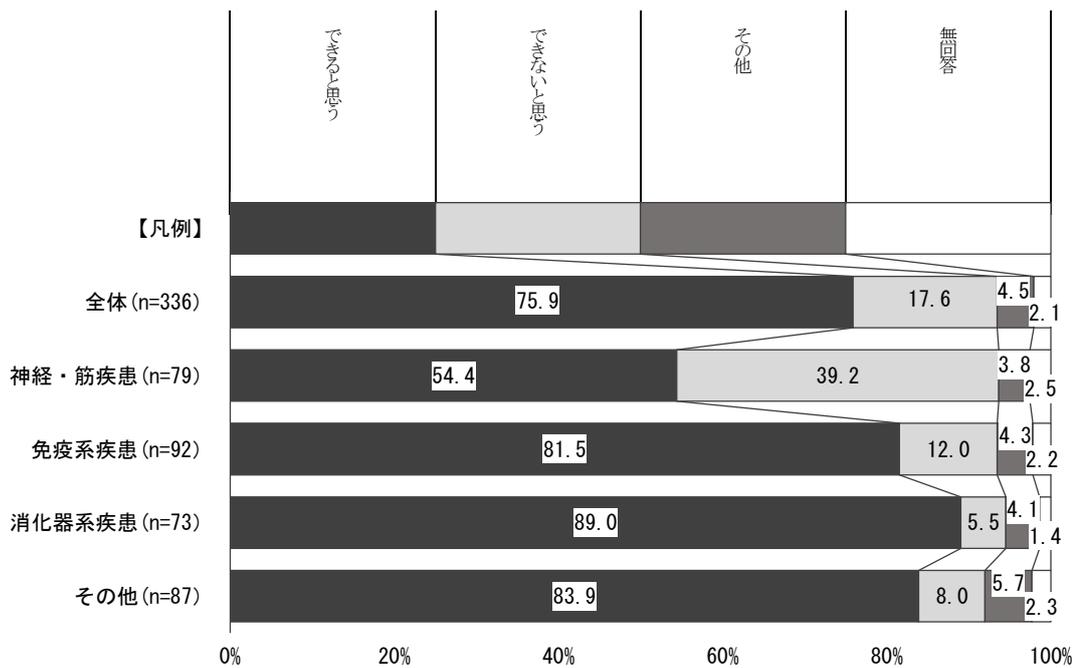
診断名別にみると、自力で避難することが「できると思う」と回答した人の割合は、統合失調症と診断されている人では 80.0%、気分障害と診断されている人では 85.4%、発達障害と診断されている人では 86.7%となっている。



※ベース：最寄りの避難拠点を知っている人と回答した人

## 【難病患者】

疾患群別にみると、神経・筋疾患では自力で避難することが「できないと思う」人が 39.2% と他の疾患群と比べて多くなっている。



※ベース：最寄りの避難拠点を知っている人と回答した人

### (3) 災害に備えて必要な対策（複数回答）

災害に備えて、または災害時に必要な対策は、いずれの障害種別においても「避難しやすい避難所を整備する」が身体障害者では 42.3%、知的障害者では 46.8%、精神障害者では 50.4%、難病患者では 48.7%、児童発達支援事業利用者では 62.1%と最も多くなっている。

(単位：%)

区 分	身体障害者 (n=562)	知的障害者 (n=442)	精神障害者 (n=452)	難病患者 (n=437)	児童発達 支援事業 利用者 (n=153)
避難しやすい避難所を整備する	42.3 (1 位)	46.8 (1 位)	50.4 (1 位)	48.7 (1 位)	62.1 (1 位)
障害のある方が防災訓練等に参加するように促す	14.8	25.3	13.3	6.2	19.0
日頃から避難方法のアドバイスや情報提供を行う	27.6	35.7	33.8 (2 位)	28.1	51.0 (2 位)
緊急通報システムを整備する	26.9	21.3	24.6	22.4	25.5
避難時の支援体制、地域で助け合える体制を整備する	31.5	41.4 (3 位)	27.7	27.5	42.5 (3 位)
避難時に障害者用設備（トイレ、ベッドなど）を配置する	37.2 (3 位)	34.8	29.2	34.1 (2 位)	30.7
避難時に人工透析や人工呼吸器、在宅酸素など生命安全・維持装置を確保する	23.1	14.0	14.8	19.0	18.3
避難時において障害者に配慮した情報提供を行う	38.6 (2 位)	44.3 (2 位)	30.8 (3 位)	32.7 (3 位)	32.0
避難時の介助人などを確保する	26.3	34.8	20.6	19.0	24.2
避難所での手話通訳者、ガイドヘルパーなどを確保する	17.4	12.9	12.6	8.2	14.4
避難所で補装具等の貸出しを行う	20.3	13.1	12.6	12.4	16.3
その他	6.4	5.9	10.4	5.9	7.2
特になし	8.5	4.8	12.8	4.3	5.9
無回答	8.2	11.1	10.4	10.5	6.5

【前回調査との比較】

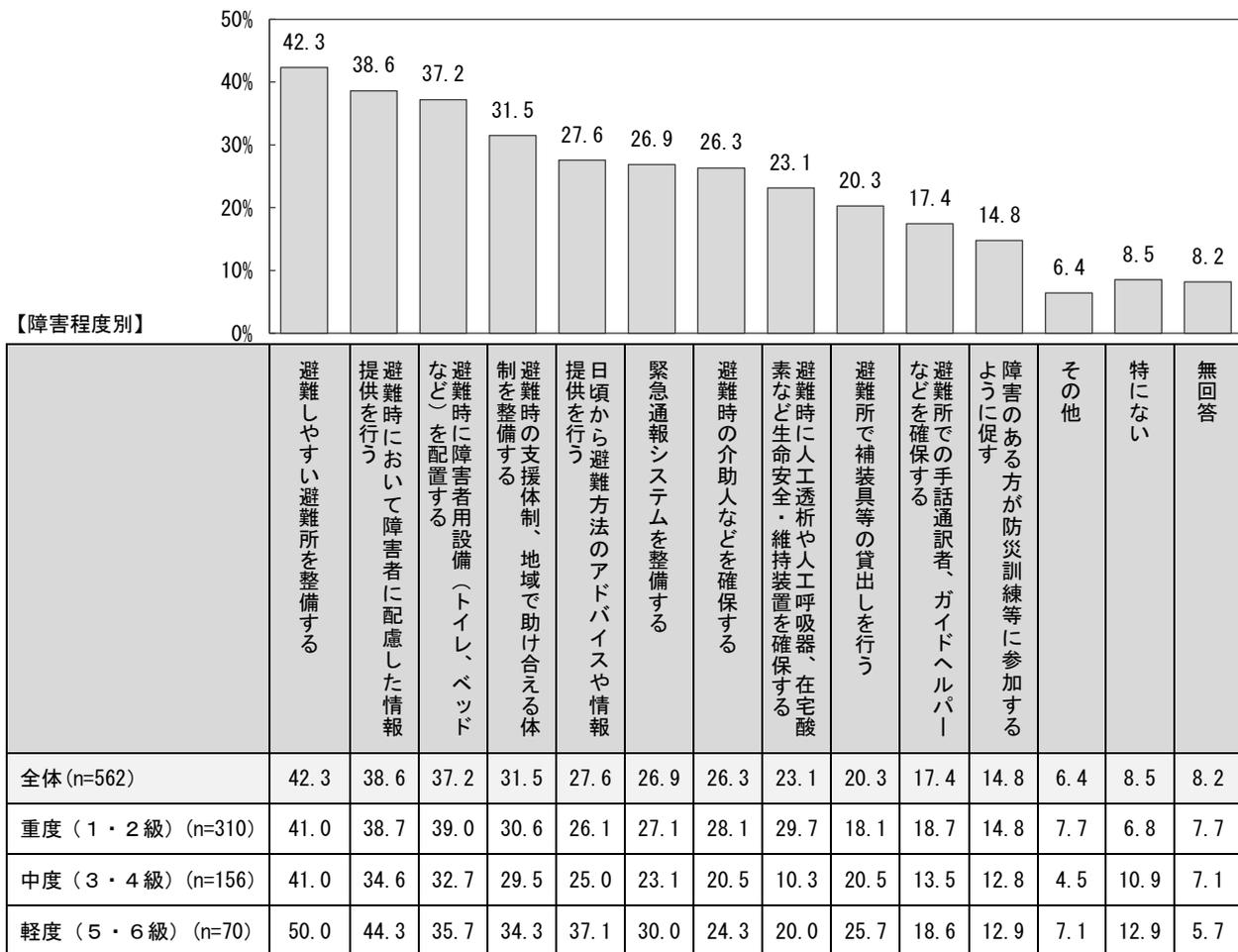
(単位：%)

区分		1位	2位	3位
身体障害者	今回 (n=562)	避難しやすい避難所を整備する (42.3)	避難時において障害者に配慮した情報提供を行う (38.6)	避難時に障害者用設備(トイレ、ベッドなど)を配置する (37.2)
	前回 (n=659)	避難しやすい避難所を整備する (45.1)	避難時において障害者に配慮した情報提供を行う (41.9)	避難時に障害者用設備(トイレ、ベッドなど)を配置する (36.9)
知的障害者	今回 (n=442)	避難しやすい避難所を整備する (46.8)	避難時において障害者に配慮した情報提供を行う (44.3)	避難時の支援体制、地域で助け合える体制を整備する (41.4)
	前回 (n=474)	避難しやすい避難所を整備する (51.9)	避難時の支援体制、地域で助け合える体制を整備する (47.0)	避難時において障害者に配慮した情報提供を行う (46.2)
精神障害者	今回 (n=452)	避難しやすい避難所を整備する (50.4)	日頃から避難方法のアドバイスや情報提供を行う (33.8)	避難時において障害者に配慮した情報提供を行う (30.8)
	前回 (n=451)	避難しやすい避難所を整備する (58.3)	日頃から避難方法のアドバイスや情報提供を行う (44.6)	避難時において障害者に配慮した情報提供を行う (40.4)
難病患者	今回 (n=437)	避難しやすい避難所を整備する (48.7)	避難時に障害者用設備(トイレ、ベッドなど)を配置する (34.1)	避難時において障害者に配慮した情報提供を行う (32.7)
	前回 (n=475)	避難しやすい避難所を整備する (50.5)	避難時に障害者用設備(トイレ、ベッドなど)を配置する (41.9)	日頃から避難方法のアドバイスや情報提供を行う (37.3)
児童発達支援事業利用者	今回 (n=153)	避難しやすい避難所を整備する (62.1)	日頃から避難方法のアドバイスや情報提供を行う (51.0)	避難時の支援体制、地域で助け合える体制を整備する (42.5)
	前回 (n=127)	避難しやすい避難所を整備する (59.8)	日頃から避難方法のアドバイスや情報提供を行う (44.9)	避難時において障害者に配慮した情報提供を行う (35.4)

## 【身体障害者】

障害の程度別にみると、どの障害の程度においても「避難しやすい避難所を整備する」が最も多く、重度（1・2級）、中度（3・4級）ではともに41.0%、軽度（5・6級）では50.0%となっている。

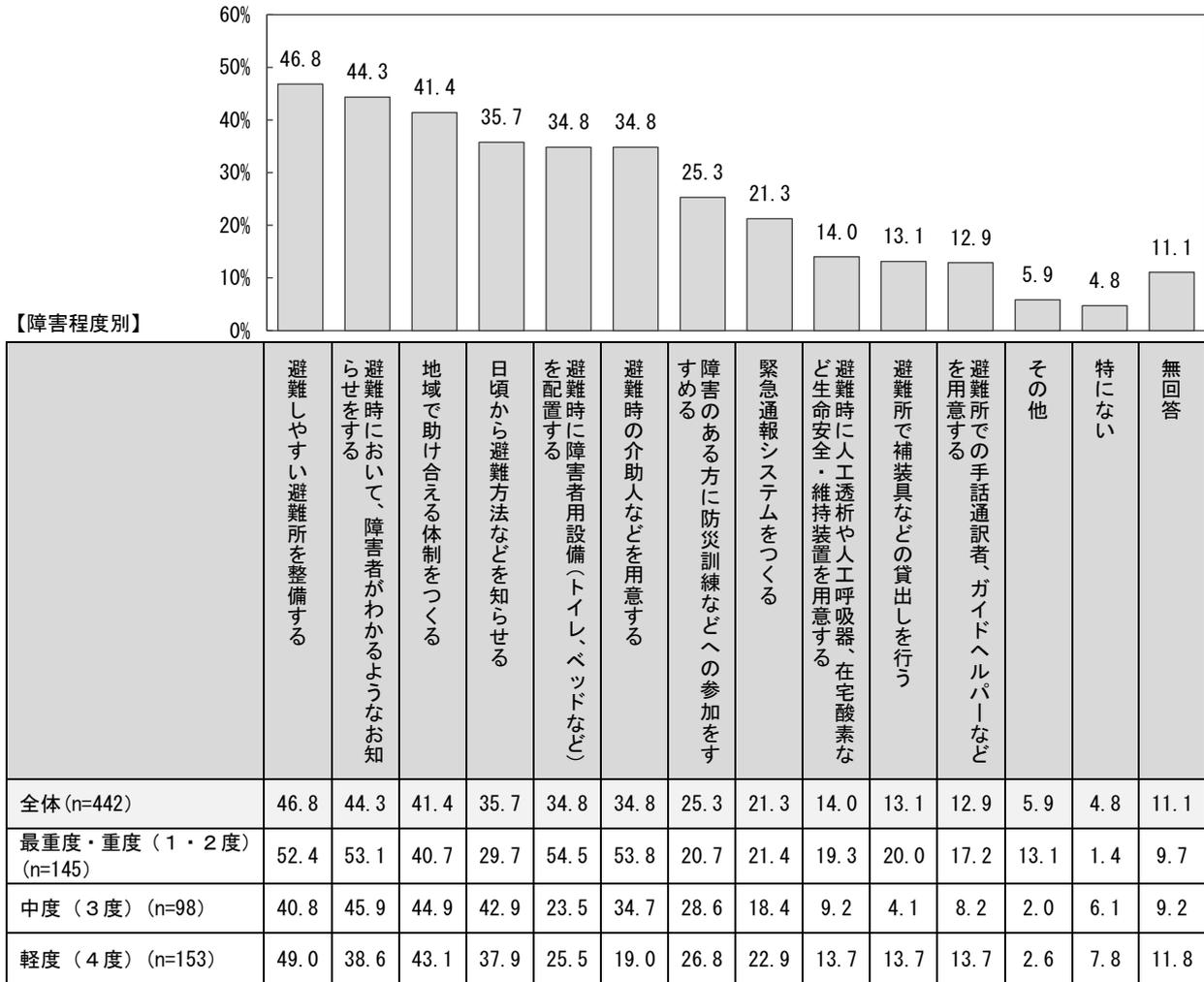
障害の種類別にみると、視覚障害では「避難時において障害者に配慮した情報提供を行う」が49.4%と最も多く、次いで「避難時に障害者用設備（トイレ、ベッドなど）を配置する」が33.3%、「避難しやすい避難所を整備する」が32.1%となっている。聴覚障害では「避難時において障害者に配慮した情報提供を行う」が60.9%と最も多く、次いで「避難所での手話通訳者、ガイドヘルパーなどを確保する」が47.1%となっている。肢体不自由（上肢・下肢等）では「避難時に障害者用設備（トイレ、ベッドなど）を配置する」が52.9%と最も多くなっている。



障害の種類別	避難しやすい避難所を整備する	避難時において障害者に配慮した情報提供を行う	避難時に障害者用設備（トイレ、ベッドなど）を配置する	避難時の支援体制、地域で助け合える体制を整備する	日頃から避難方法のアドバイスや情報提供を行う	緊急通報システムを整備する	避難時の介助人などを確保する	避難時に人工透析や人工呼吸器、在宅酸素など生命安全・維持装置を確保する	避難所で補装具等の貸出しを行う	避難所での手話通訳者、ガイドヘルパーなどを確保する	障害のある方が防災訓練等に参加するように促す	その他	特になし	無回答
視覚障害 (n=81)	32.1	49.4	33.3	30.9	23.5	19.8	28.4	6.2	13.6	19.8	13.6	7.4	14.8	9.9
聴覚障害 (n=87)	40.2	60.9	20.7	35.6	29.9	43.7	21.8	19.5	27.6	47.1	24.1	5.7	2.3	6.9
平衡機能障害 (n=2)	100	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害 (n=25)	52.0	28.0	32.0	32.0	8.0	12.0	20.0	12.0	8.0	8.0	20.0	4.0	16.0	4.0
肢体不自由（上肢、下肢等） (n=140)	48.6	37.9	52.9	35.7	35.0	31.4	33.6	19.3	22.9	12.1	14.3	7.9	7.9	7.1
肢体不自由（体幹） (n=40)	40.0	45.0	55.0	42.5	35.0	32.5	57.5	20.0	30.0	12.5	17.5	0.0	7.5	15.0
内部障害 (n=156)	42.3	23.1	28.2	22.4	25.6	19.2	13.5	41.0	15.4	7.1	6.4	7.1	9.0	4.5
その他 (n=7)	42.9	14.3	28.6	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	28.6	0.0	14.3	14.3	14.3	14.3

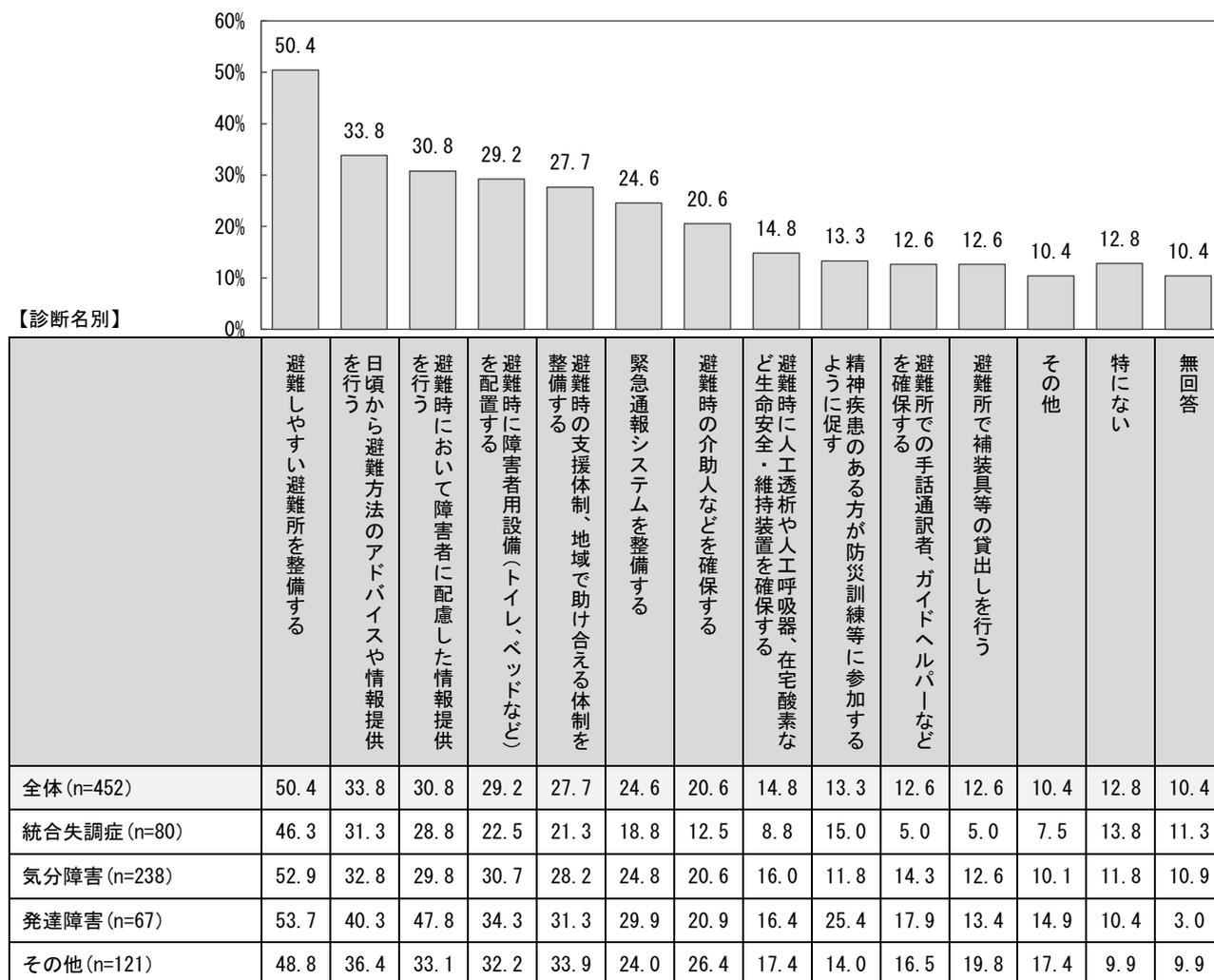
## 【知的障害者】

障害の程度別にみると、最重度・重度（1・2度）では「避難時に障害者用設備（トイレ、ベッドなど）を配置する」が54.5%、中度（3度）では「避難時において、障害者がわかるようなお知らせをする」が45.9%、軽度（4度）では「避難しやすい避難所を整備する」が49.0%と最も多くなっている。



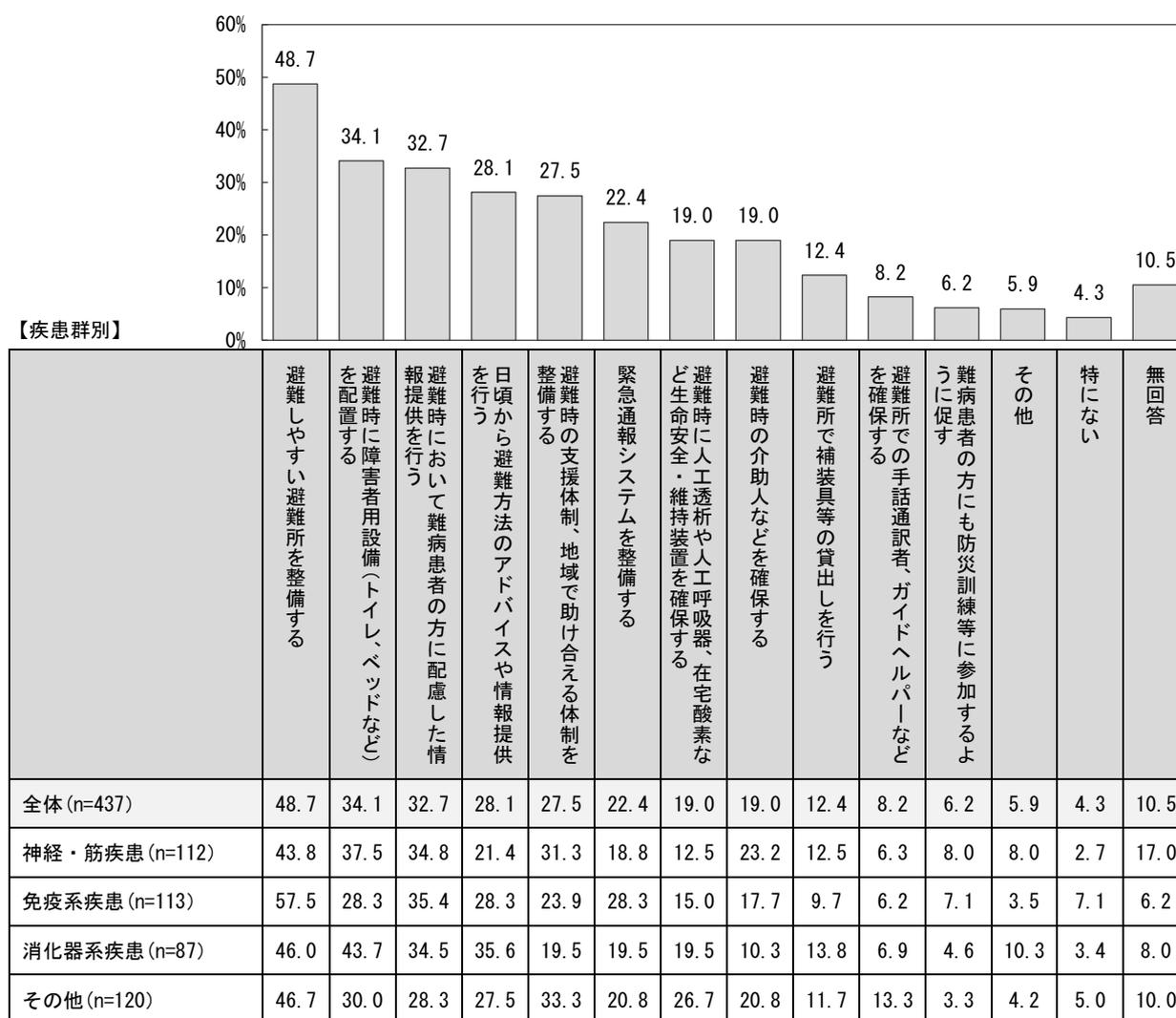
## 【精神障害者】

診断名別にみると、いずれの診断においても「避難しやすい避難所を整備する」が最も多く、統合失調症と診断されている人では 46.3%、気分障害と診断されている人では 52.9%、発達障害と診断されている人では 53.7%となっている。



## 【難病患者】

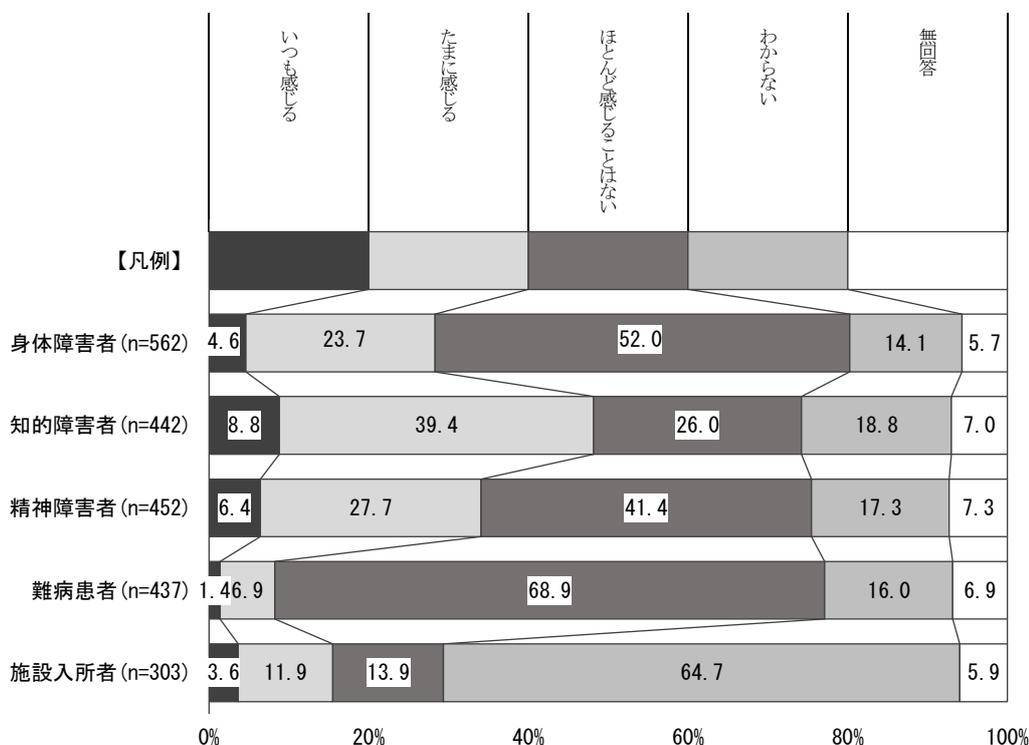
疾患群別にみると、いずれの疾患群においても「避難しやすい避難所を整備する」が最も多く、神経・筋疾患では43.8%、免疫系疾患では57.5%、消化器系疾患では46.0%となっている。



## 12 権利擁護について

### (1) 差別や人権侵害を受けていると感じるものの有無

“差別や人権侵害を受けていると感じる”人（「いつも感じる」、「たまに感じる」の合計）は身体障害者では28.3%、知的障害者では48.2%、精神障害者では34.1%、難病患者では8.3%、施設入所者では15.5%となっている。



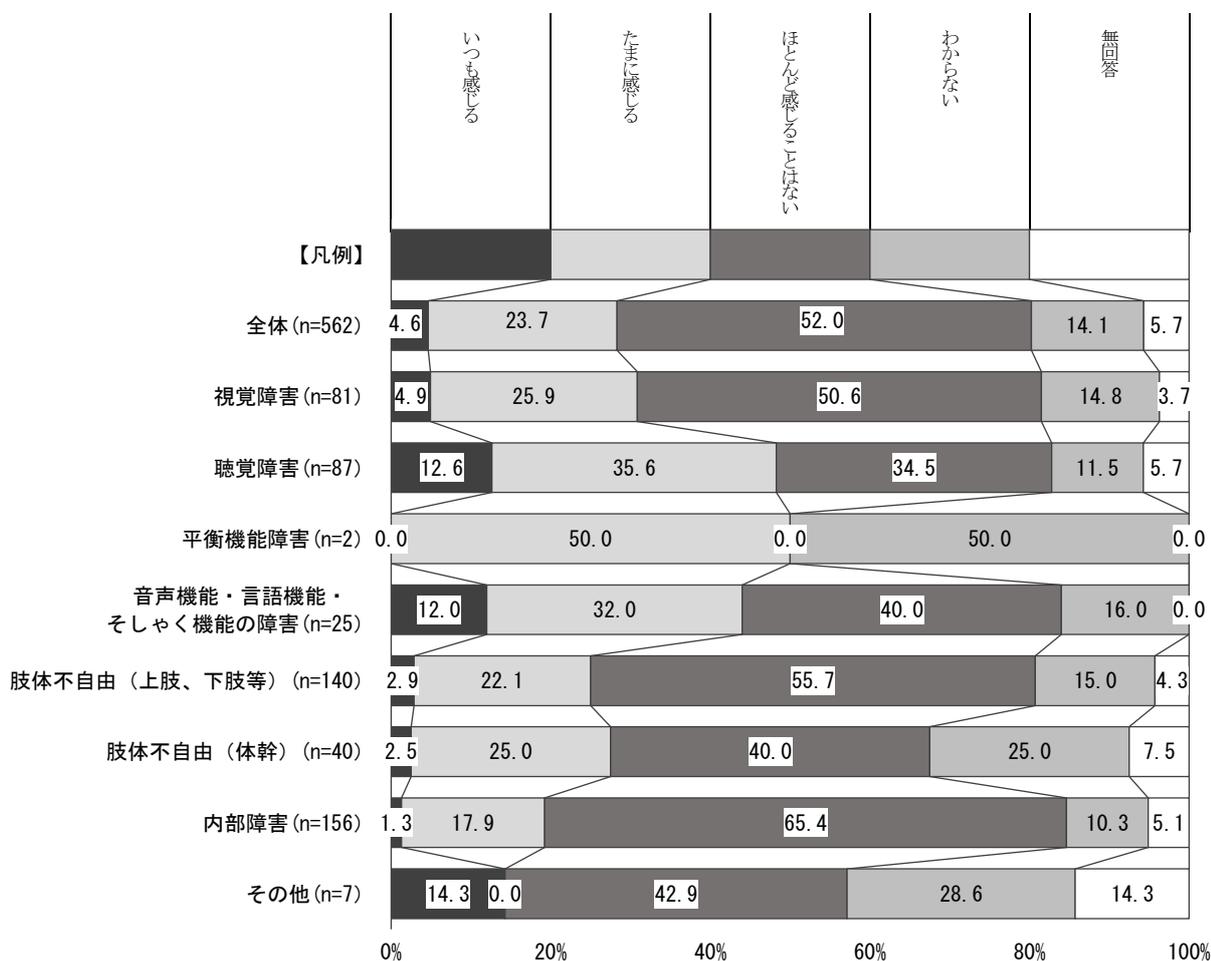
### 【前回調査との比較】

(単位：%)

区分		1位	2位	3位
身体障害者	今回 (n=562)	ほとんど感じることはない (52.0)	たまに感じる (23.7)	わからない (14.1)
	前回 (n=659)	ほとんど感じることはない (57.5)	たまに感じる (17.3)	わからない (13.4)
知的障害者	今回 (n=442)	たまに感じる (39.4)	ほとんど感じることはない (26.0)	わからない (18.8)
	前回 (n=474)	たまに感じる (35.7)	ほとんど感じることはない (30.2)	わからない (21.5)
精神障害者	今回 (n=452)	ほとんど感じることはない (41.4)	たまに感じる (27.7)	わからない (17.3)
	前回 (n=451)	ほとんど感じることはない (38.8)	たまに感じる (24.6)	わからない (22.4)
難病患者	今回 (n=437)	ほとんど感じることはない (68.9)	わからない (16.0)	たまに感じる (6.9)
	前回 (n=475)	ほとんど感じることはない (73.7)	わからない (13.3)	たまに感じる (10.5)
施設入所者	今回 (n=303)	わからない (64.7)	ほとんど感じることはない (13.9)	たまに感じる (11.9)
	前回 (n=105)	わからない (58.1)	ほとんど感じることはない (22.9)	たまに感じる (9.5)

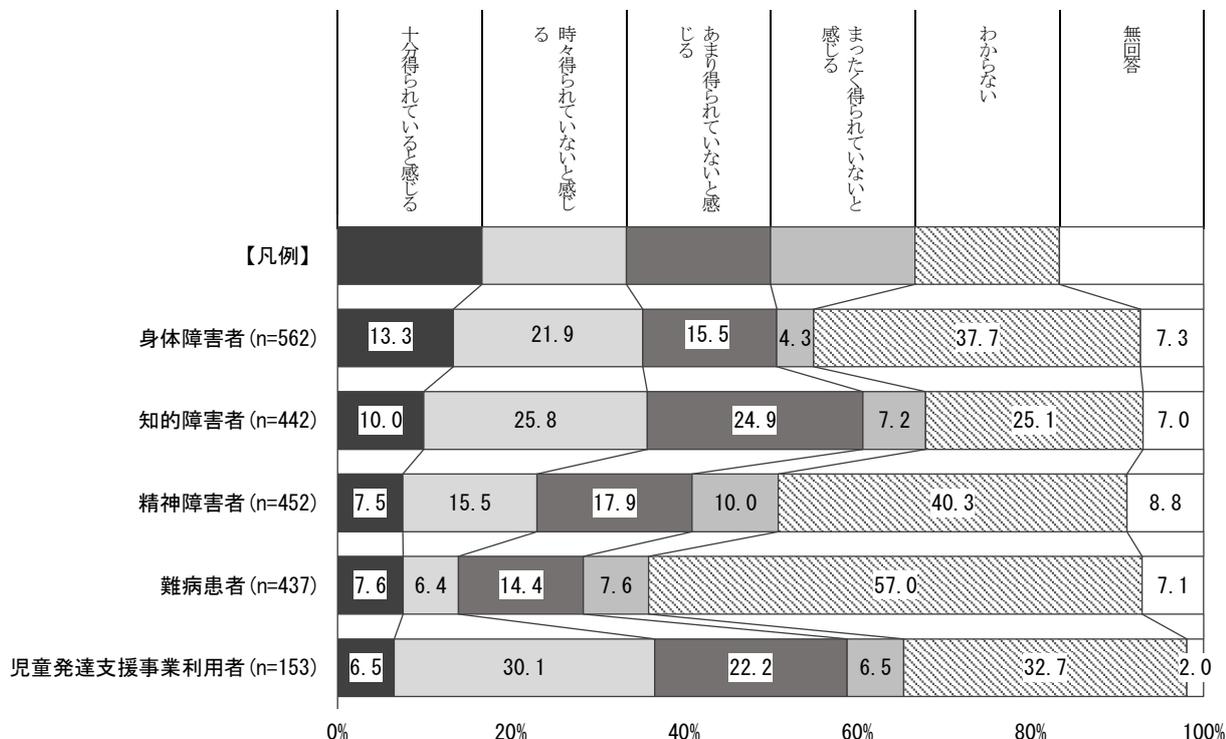
## 【身体障害者】

障害の種類別にみると、“差別や人権侵害を受けていると感じる”の割合は、視覚障害では30.8%、聴覚障害では48.2%、肢体不自由（上肢・下肢等）では25.0%となっている。



## (2) 地域での障害に対する理解

地域で暮らす上で、“得られていないと感じる”人（「時々得られていないと感じる」、「あまり得られていないと感じる」、「まったく得られていないと感じる」の合計）は身体障害者では41.7%、知的障害者では57.9%、精神障害者では43.4%、難病患者では28.4%、児童発達支援事業利用者では58.8%となっている。



### 【前回調査との比較】

(単位：%)

区分		1位	2位	3位
身体障害者	今回 (n=562)	わからない (37.7)	時々得られていないと感じる (21.9)	あまり得られていないと感じる (15.5)
	前回 (n=659)	わからない (38.1)	時々得られていないと感じる (18.4)	あまり得られていないと感じる (17.0)
知的障害者	今回 (n=442)	時々得られていないと感じる (25.8)	わからない (25.1)	あまり得られていないと感じる (24.9)
	前回 (n=474)	わからない (27.0)	時々得られていないと感じる (25.3)	あまり得られていないと感じる (24.5)
精神障害者	今回 (n=452)	わからない (40.3)	あまり得られていないと感じる (17.9)	時々得られていないと感じる (15.5)
	前回 (n=451)	わからない (40.6)	あまり得られていないと感じる (21.1)	時々得られていないと感じる/まったく得られていないと感じる (同率 13.3)
難病患者	今回 (n=437)	わからない (57.0)	あまり得られていないと感じる (14.4)	十分得られていると感じる/まったく得られていないと感じる (同率 7.6)
	前回 (n=475)	わからない (31.8)	あまり得られていないと感じる (24.2)	時々得られていないと感じる (18.5)

### (3) 障害および障害者への区民の理解を深めるために必要なこと（複数回答）

身体障害者、精神障害者、難病患者では「障害への理解を深めるための広報・啓発を充実する」がそれぞれ 35.6%、36.5%、41.6%と最も多くなっている。

知的障害者では「障害や発達に課題のある子どもへの支援の充実」が 45.2%と最も多くなっている。

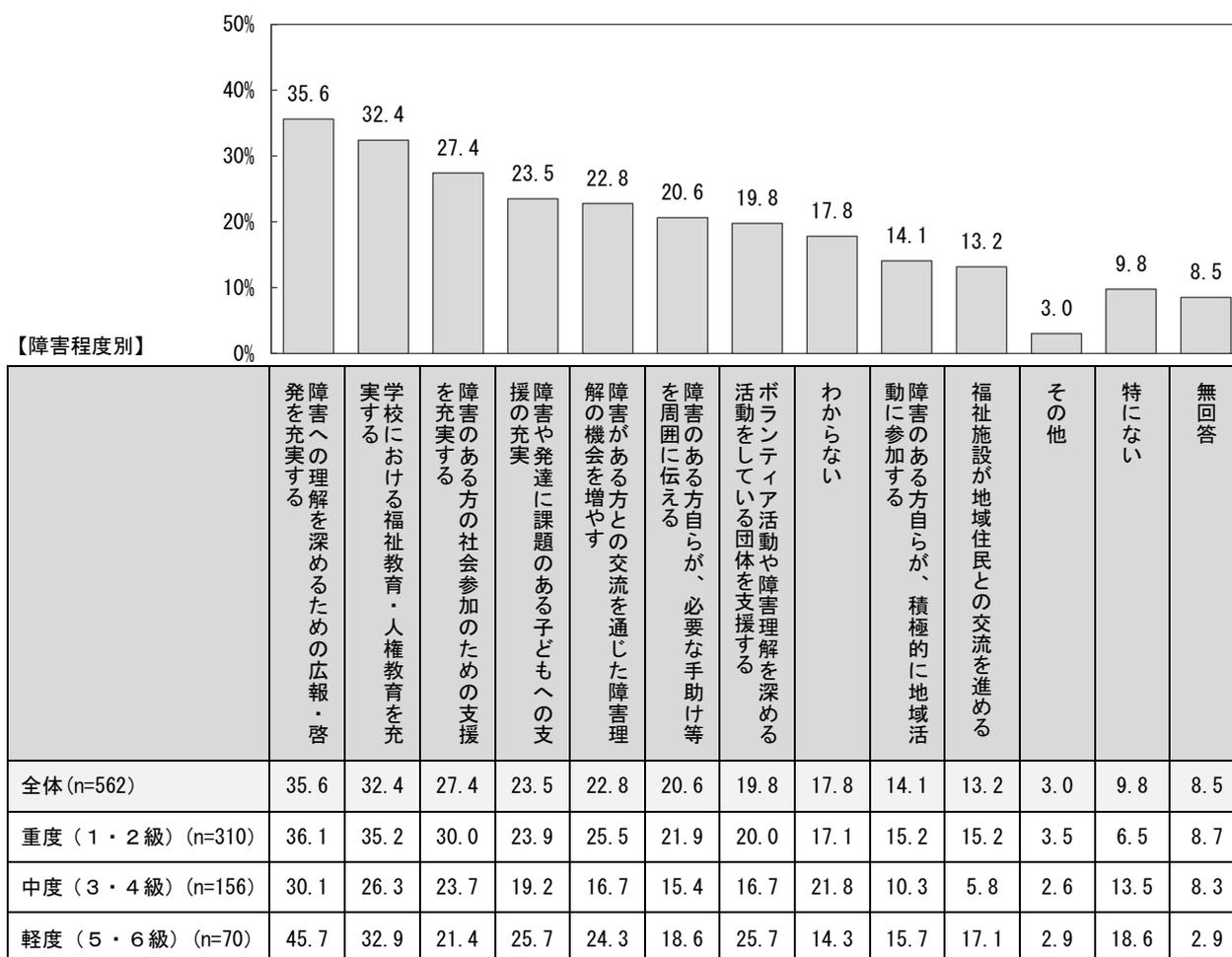
施設入所者では「福祉施設が地域住民との交流を進める」が 19.5%となっている。

(単位：%)

区 分	身体障害者 (n=562)	知的障害者 (n=442)	精神障害者 (n=452)	難病患者 (n=437)	施設入所者 (n=303)	児童発達支援 事業利用者 (n=153)
障害への理解を深めるための広報・啓発を充実する	35.6 (1位)	19.2	36.5 (1位)	41.6 (1位)	6.3	34.0
ボランティア活動や障害理解を深める活動をしている団体を支援する	19.8	22.9	21.9	14.2	7.6	22.9
障害がある方との交流を通じた障害理解の機会を増やす	22.8	35.7 (3位)	24.1	14.6	21.5	32.7
学校における福祉教育・人権教育を充実する	32.4 (2位)	44.8 (2位)	32.1 (2位)	28.1 (2位)	17.2 (3位)	54.9 (2位)
障害のある方の社会参加のための支援を充実する	27.4 (3位)	31.4	30.8 (3位)	19.5 (3位)	12.5	39.2 (3位)
福祉施設が地域住民との交流を進める	13.2	27.4	11.9	5.9	19.5 (2位)	17.0
障害のある方自らが、積極的に地域活動に参加する	14.1	11.5	15.0	8.9	6.9	16.3
障害のある方自らが、必要な手助け等を周囲に伝える	20.6	16.1	14.2	14.0	6.6	17.6
障害や発達に課題のある子どもへの支援の充実	23.5	45.2 (1位)	23.2	13.7	13.5	66.0 (1位)
その他	3.0	5.7	5.5	2.7	1.0	6.5
わからない	17.8	15.4	20.1	17.4	46.9 (1位)	13.7
特になし	9.8	5.7	10.8	8.9	6.9	0.7
無回答	8.5	6.6	9.5	8.5	8.3	2.0

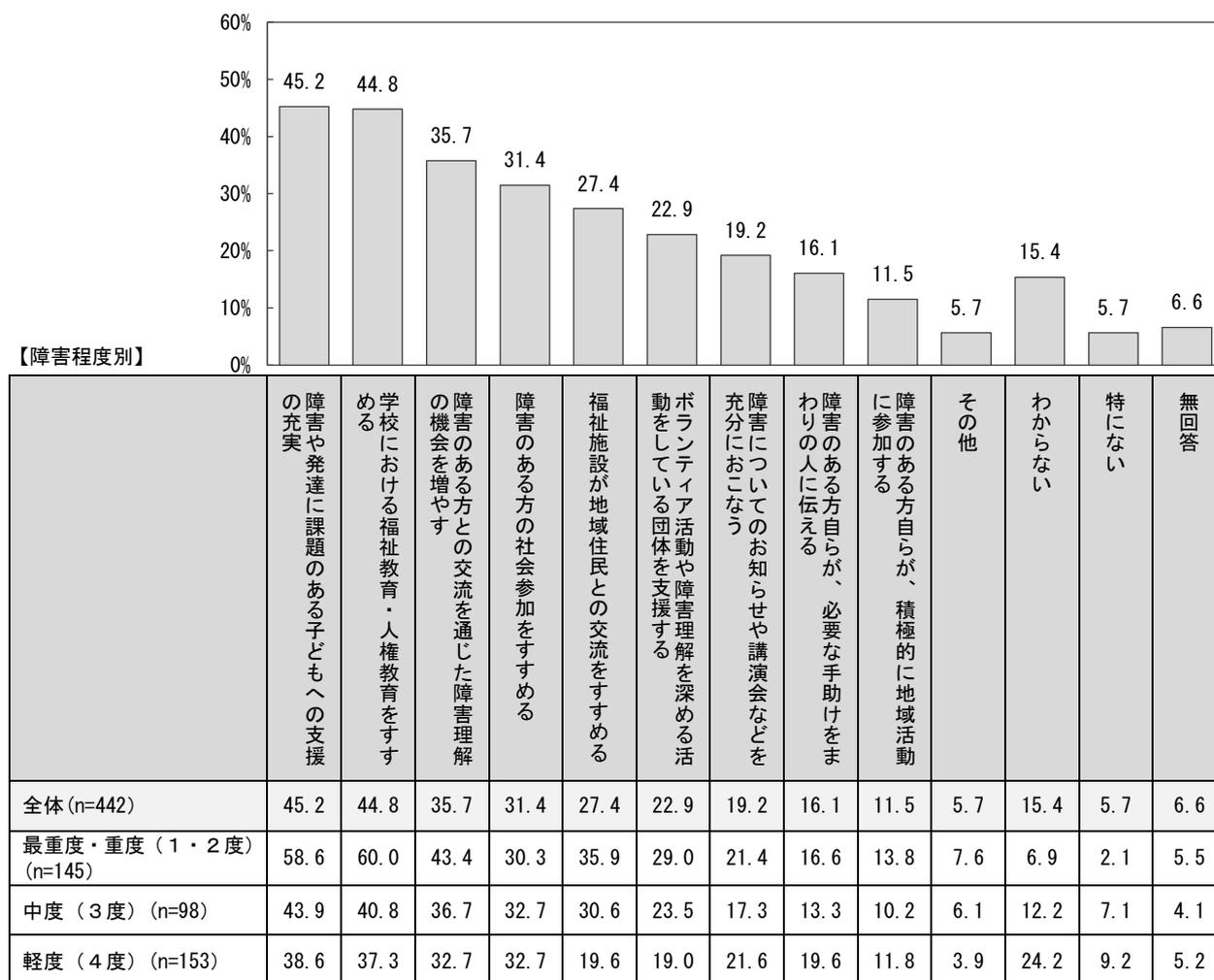
## 【身体障害者】

障害の程度別にみると、程度にかかわらず「障害への理解を深めるための広報・啓発を充実する」が最も多く、重度（1・2級）では36.1%、中度（3・4級）では30.1%、軽度（5・6級）では45.7%となっている。



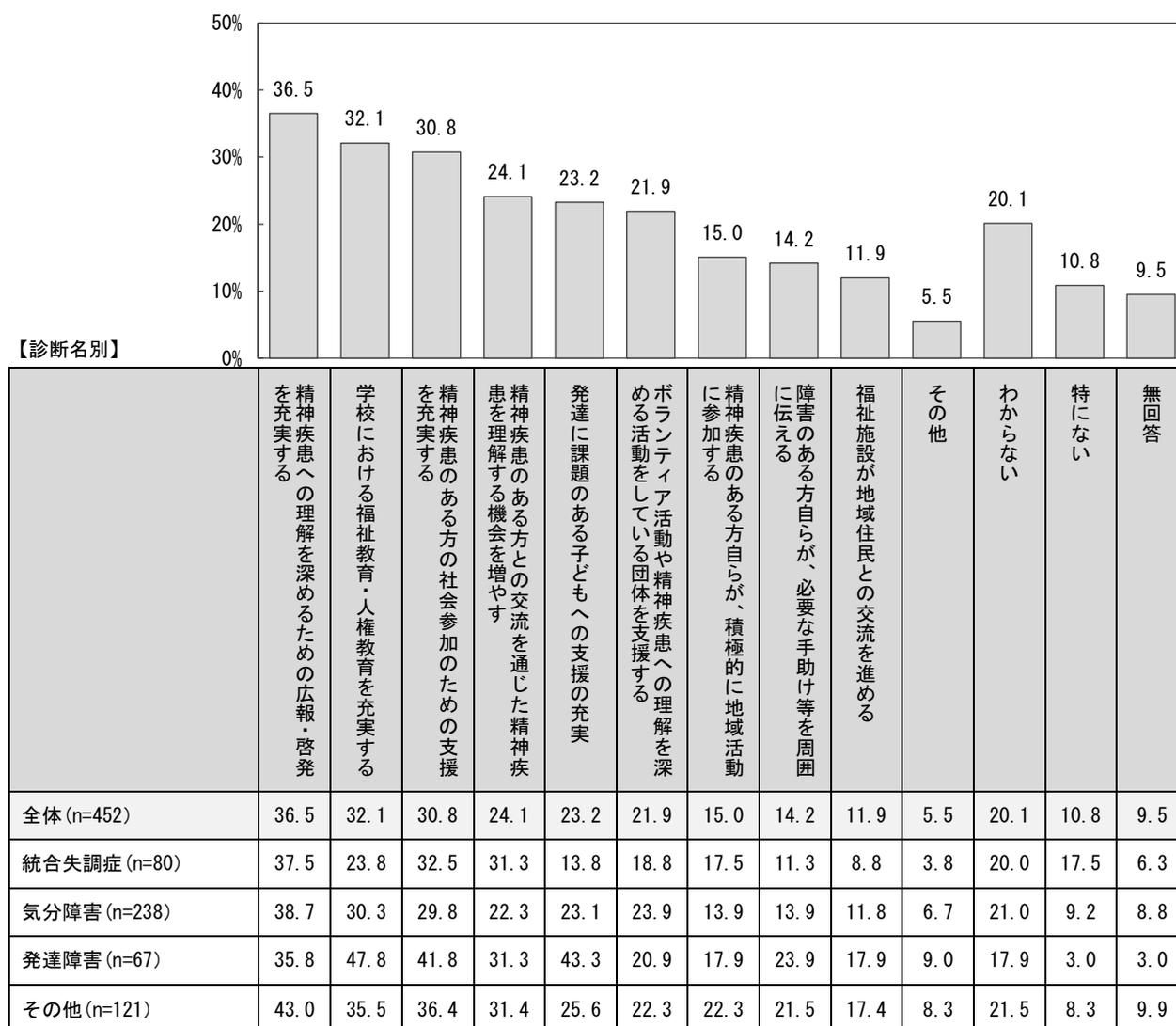
## 【知的障害者】

障害の程度別にみると、最重度・重度（1・2度）では「学校における福祉教育・人権教育をすすめる」が60.0%、中度（3度）、軽度（4度）では「障害や発達に課題のある子どもへの支援の充実」がそれぞれ43.9%、38.6%と最も多くなっている。



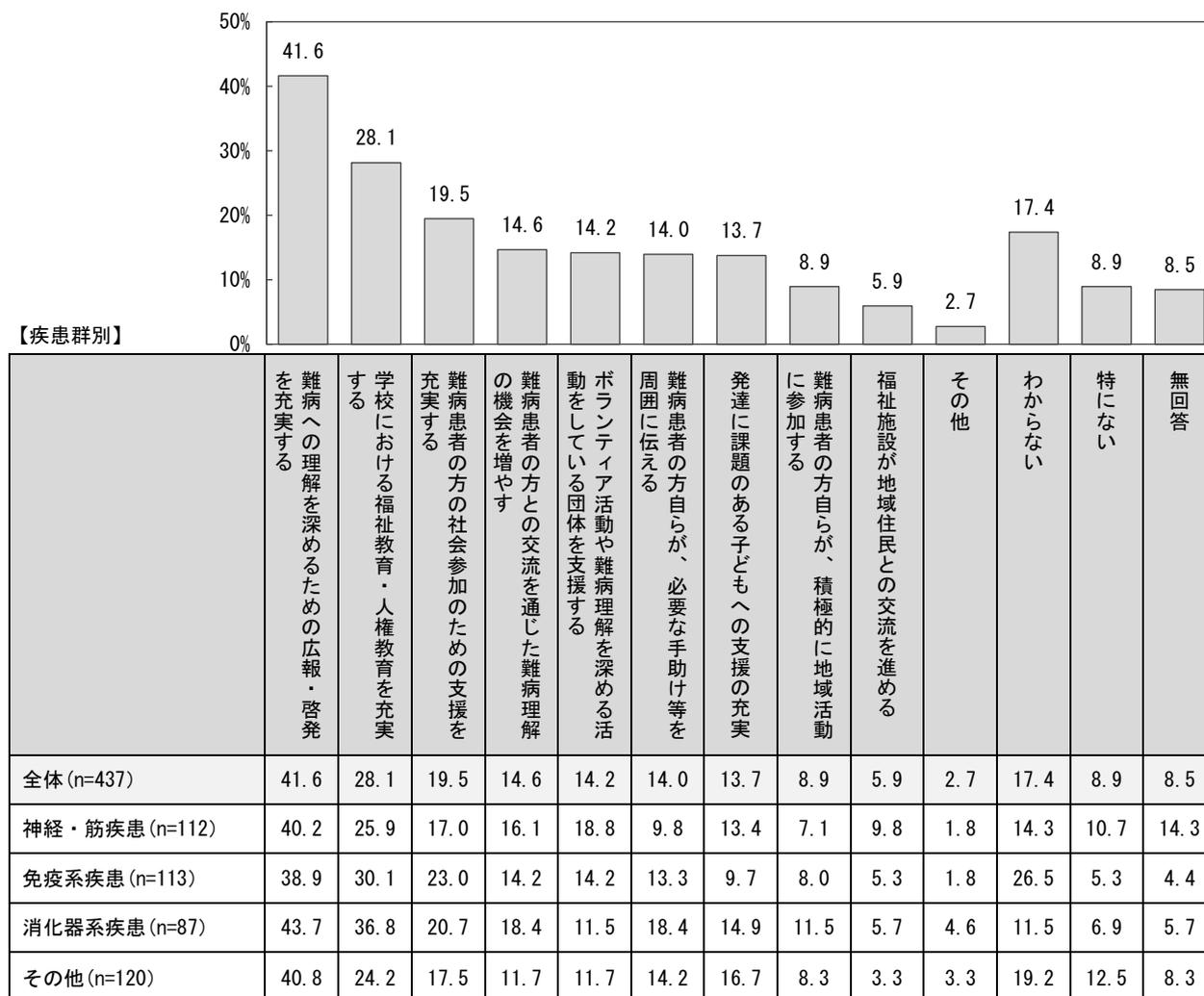
## 【精神障害者】

診断名別にみると、統合失調症、気分障害と診断された人では「精神疾患への理解を深めるための広報・啓発を充実する」がそれぞれ37.5%、38.7%、発達障害と診断された人では「学校における福祉教育・人権教育を充実する」が47.8%と最も多くなっている。



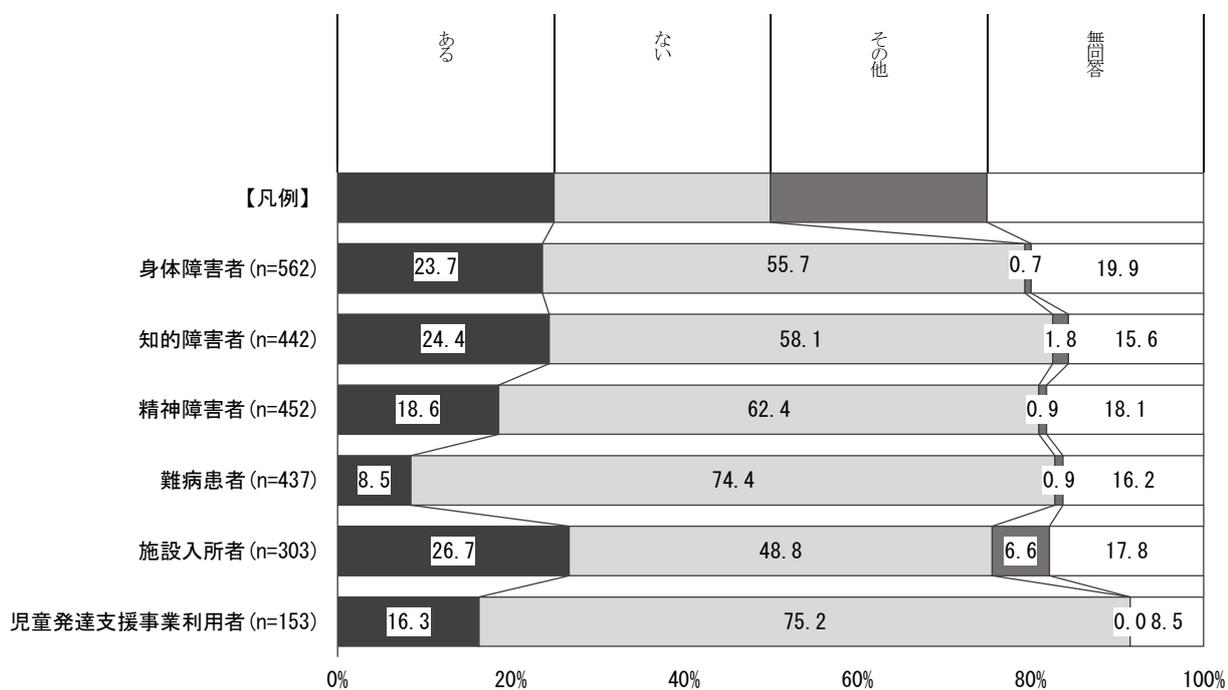
## 【難病患者】

疾患群別にみると、いずれの疾患群においても「難病への理解を深めるための広報・啓発を充実する」が最も多く、神経・筋疾患では40.2%、免疫系疾患では38.9%、消化器系疾患では43.7%となっている。



#### (4) 合理的配慮を求めたことの有無

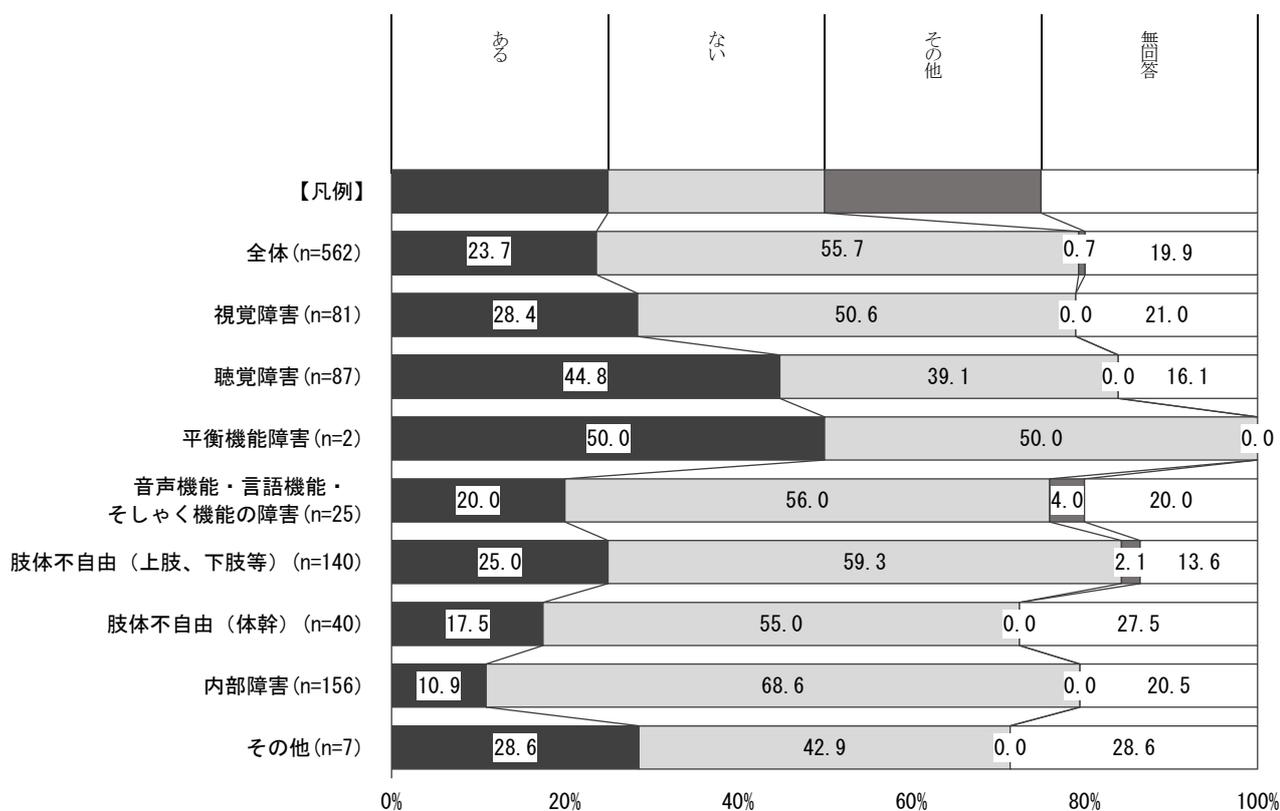
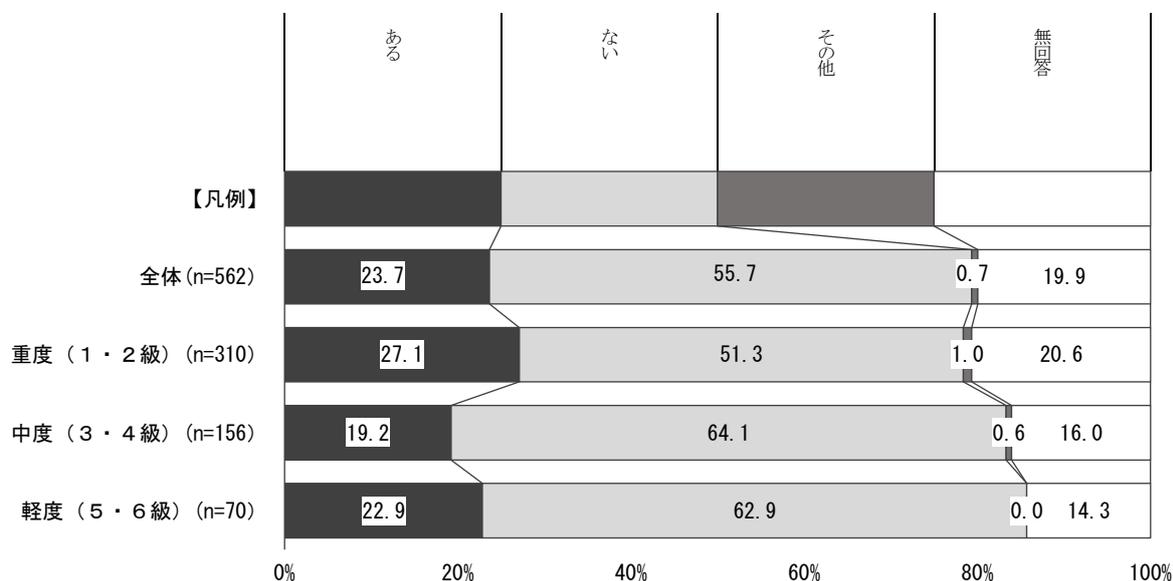
合理的配慮を求めたことが「ある」と回答した人は、身体障害者では 23.7%、知的障害者では 24.4%、精神障害者では 18.6%、難病患者では 8.5%、施設入所者では 26.7%、児童発達支援事業利用者では 16.3%となっている。



## 【身体障害者】

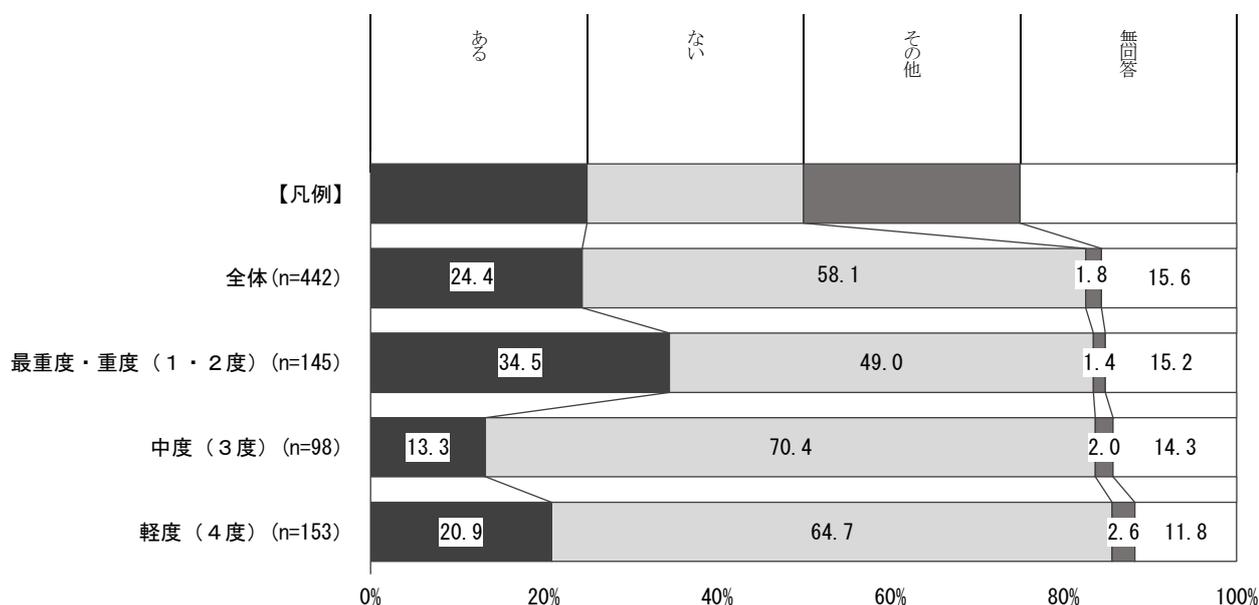
障害の程度別にみると、合理的配慮を求めたことが「ある」人は、重度（1・2級）では27.1%と、中度（3・4級）、軽度（5・6級）と比べて多くなっている。

障害の種類別にみると、合理的配慮を求めたことが「ある」人は、聴覚障害では44.8%となっている。



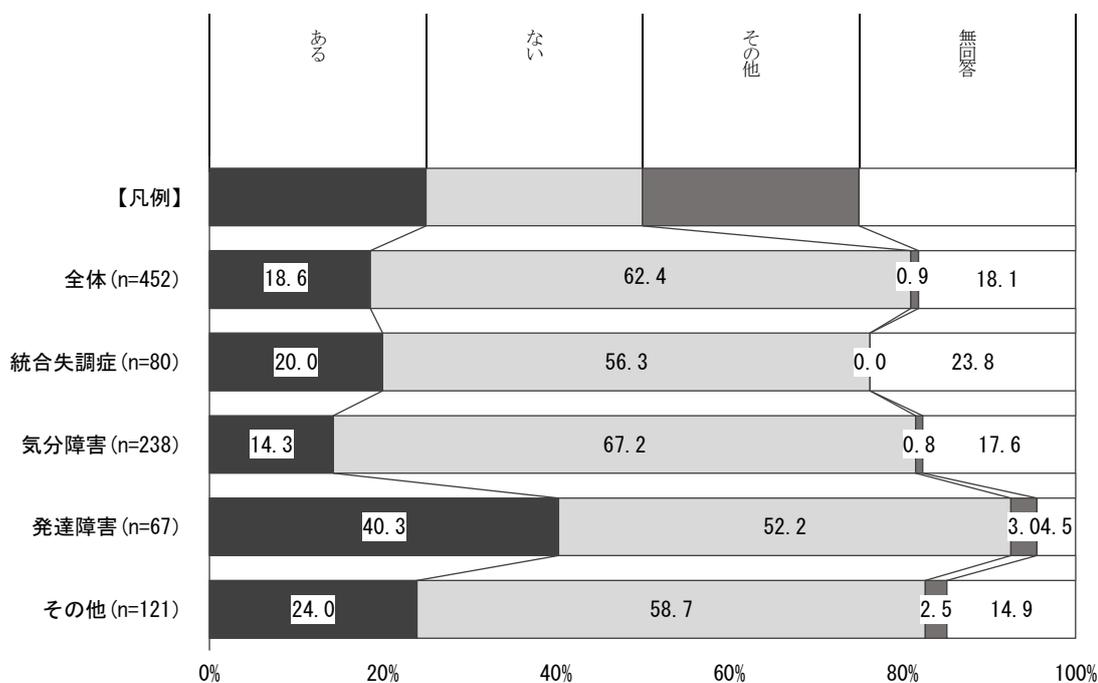
## 【知的障害者】

障害の程度別にみると、合理的配慮を求めたことが「ある」人は、最重度・重度（1・2度）では34.5%、中度（3度）では13.3%、軽度（4度）では20.9%となっている。



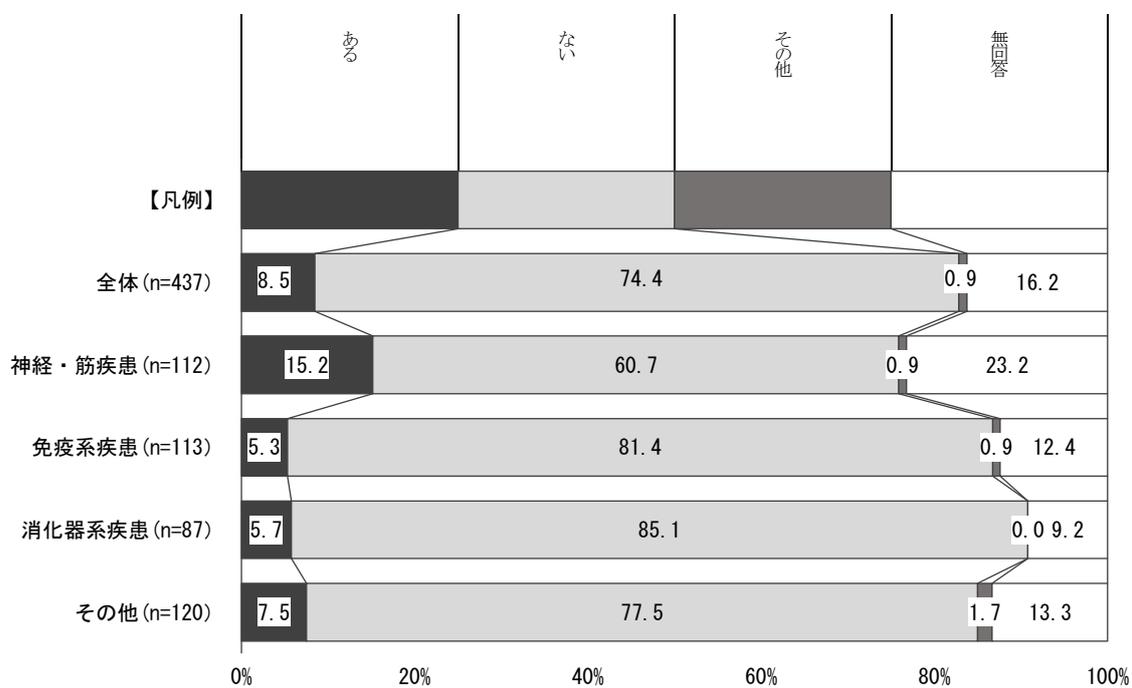
## 【精神障害者】

診断名別にみると、合理的配慮を求めたことが「ある」人は、統合失調症と診断されている人では20.0%、気分障害と診断されている人では14.3%、発達障害と診断されている人では40.3%となっている。



## 【難病患者】

疾患群別にみると、合理的配慮を求めたことが「ある」人は、神経・筋疾患では 15.2%、免疫系疾患では 5.3%、消化器系疾患では 5.7%となっており、免疫系疾患、消化器系疾患に比べて、神経・筋疾患で多くなっている。



## (5) 合理的配慮を求めたことがない理由

合理的配慮を求めたことがない理由について、身体障害者、知的障害者、精神障害者、難病患者、児童発達支援事業利用者では「合理的配慮を必要とする場面・機会にあったことがない」が4割台から7割台と最も多くなっている。施設入所者では「合理的配慮について知らなかった」が44.6%と最も多くなっている。

(単位：%)

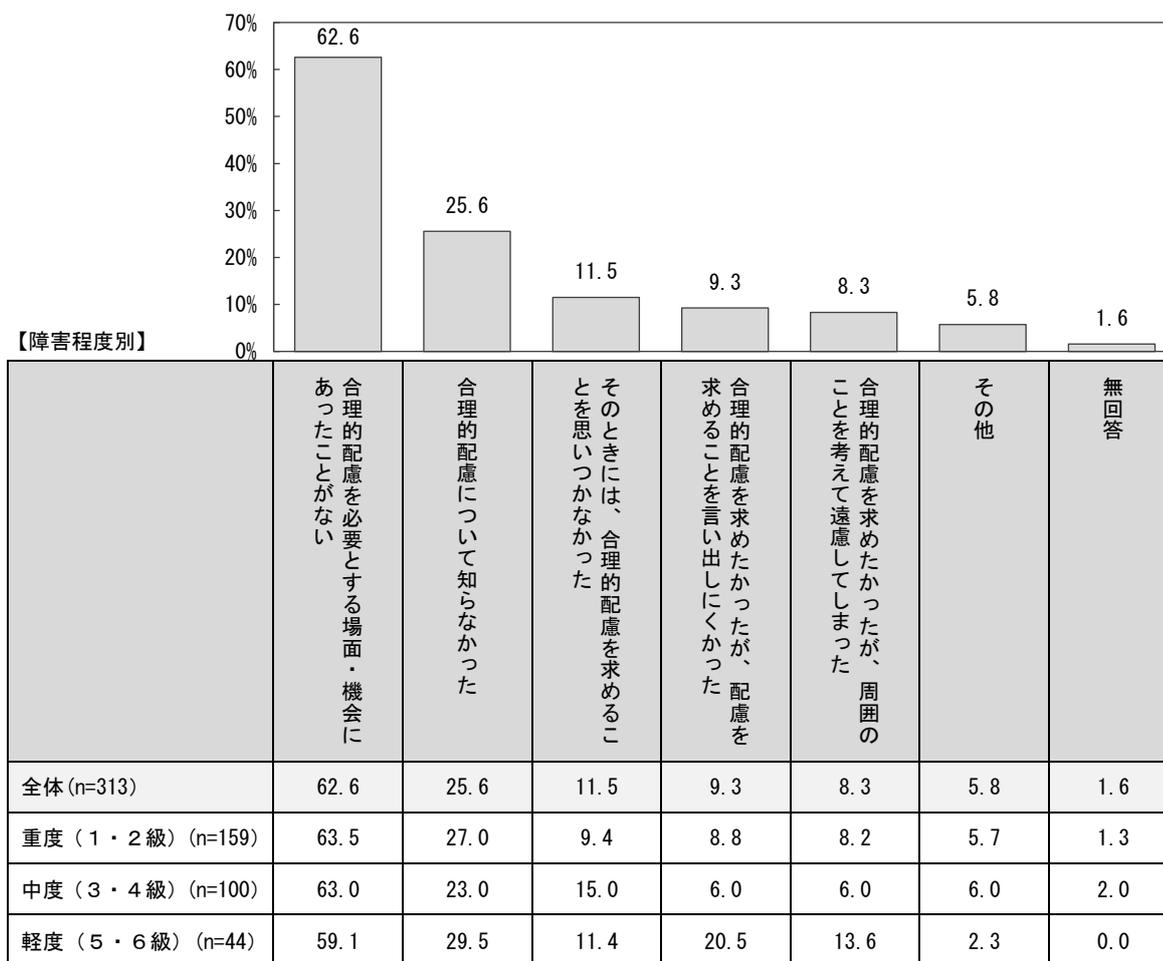
区 分	身体障害者 (n=313)	知的障害者 (n=257)	精神障害者 (n=282)	難病患者 (n=325)	施設入所者 (n=148)	児童発達 支援事業 利用者 (n=115)
合理的配慮を必要とする場面・機会にあったことがない	62.6 (1位)	45.9 (1位)	60.3 (1位)	72.3 (1位)	33.8 (2位)	69.6 (1位)
そのときには、合理的配慮を求めることを思いつかなかった	11.5 (3位)	14.0 (3位)	10.6 (3位)	5.8	12.2	7.8 (3位)
合理的配慮を求めたかったが、周囲のことを考えて遠慮してしまった	8.3	7.8	8.9	6.8 (3位)	1.4	7.0
合理的配慮を求めたかったが、配慮を求めることを言い出しにくかった	9.3	12.5	8.2	6.8 (3位)	2.0	4.3
合理的配慮について知らなかった	25.6 (2位)	26.8 (2位)	29.4 (2位)	18.5 (2位)	44.6 (1位)	20.0 (2位)
その他	5.8	12.8	7.4	2.8	18.2 (3位)	1.7
無回答	1.6	1.6	1.8	0.3	1.4	0.9

※ベース：合理的配慮を求めたことがないと回答した人

## 【身体障害者】

障害の程度別にみると、「合理的配慮を必要とする場面・機会にあったことがない」と回答した人は、程度が重いほど多くなり、重度（1・2級）では63.5%となっている。

障害の種類別にみると、「合理的配慮を必要とする場面・機会にあったことがない」と回答した人は、視覚障害では53.7%、聴覚障害では64.7%、肢体不自由（上肢、下肢等）では53.0%、内部障害では72.9%となっている。

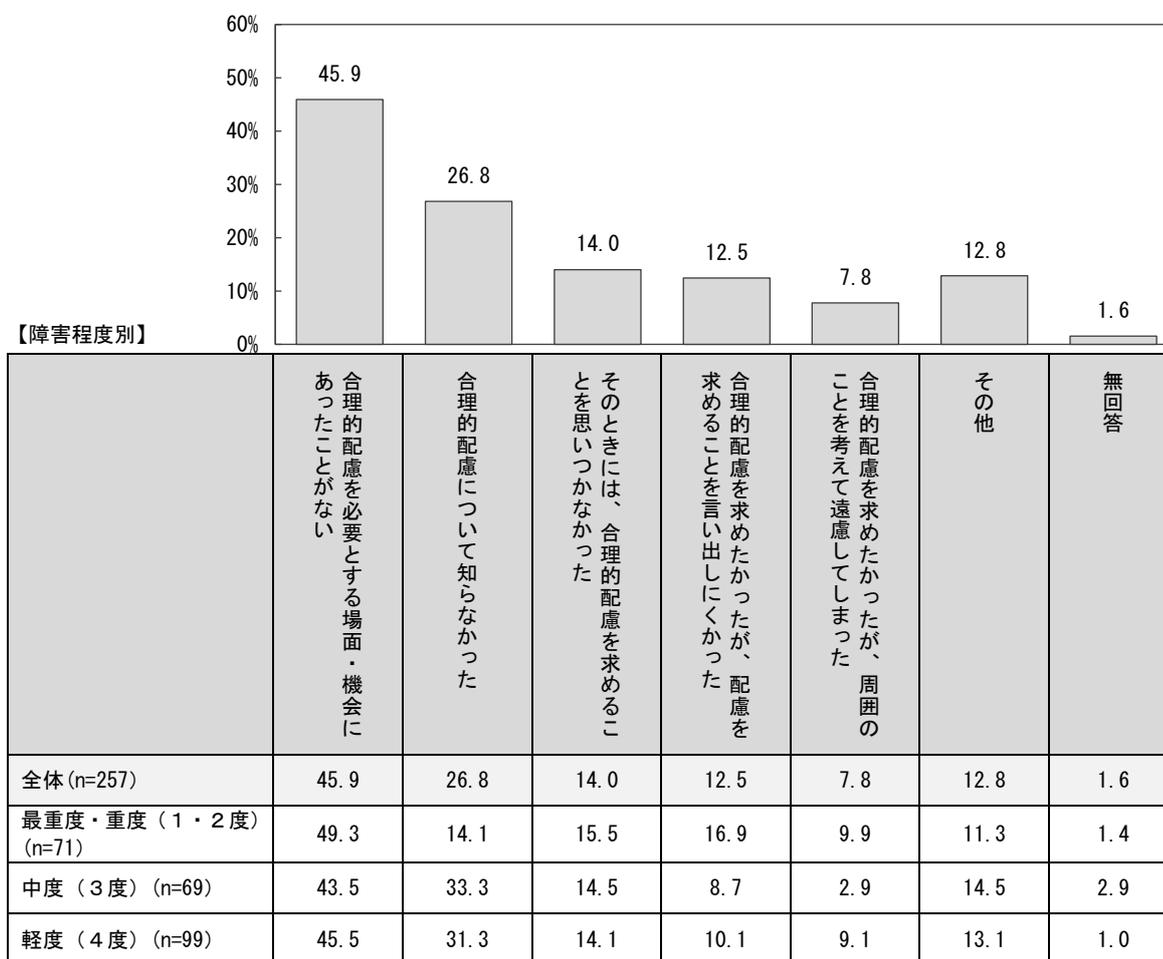


障害の種類別	合理的配慮を必要とする場面・機会にあつたことがない	合理的配慮について知らなかった	そのときには、合理的配慮を求めることを思いつかなかつた	合理的配慮を求めたかたが、配慮を求めることを言い出しにくかた	合理的配慮を求めたかたが、周囲のことを考えて遠慮してしまつた	その他	無回答
視覚障害 (n=41)	53.7	39.0	7.3	12.2	9.8	7.3	0.0
聴覚障害 (n=34)	64.7	23.5	11.8	14.7	11.8	5.9	0.0
平衡機能障害 (n=1)	0.0	0.0	0.0	0.0	100	0.0	0.0
音声機能・言語機能・そしやく機能の障害 (n=14)	64.3	21.4	14.3	0.0	0.0	7.1	0.0
肢体不自由 (上肢、下肢等) (n=83)	53.0	20.5	13.3	14.5	13.3	7.2	2.4
肢体不自由 (体幹) (n=22)	54.5	36.4	18.2	4.5	9.1	0.0	4.5
内部障害 (n=107)	72.9	26.2	9.3	5.6	2.8	3.7	1.9
その他 (n=3)	66.7	0.0	33.3	0.0	33.3	0.0	0.0

※ベース：合理的配慮を求めたことがないと回答した人

## 【知的障害者】

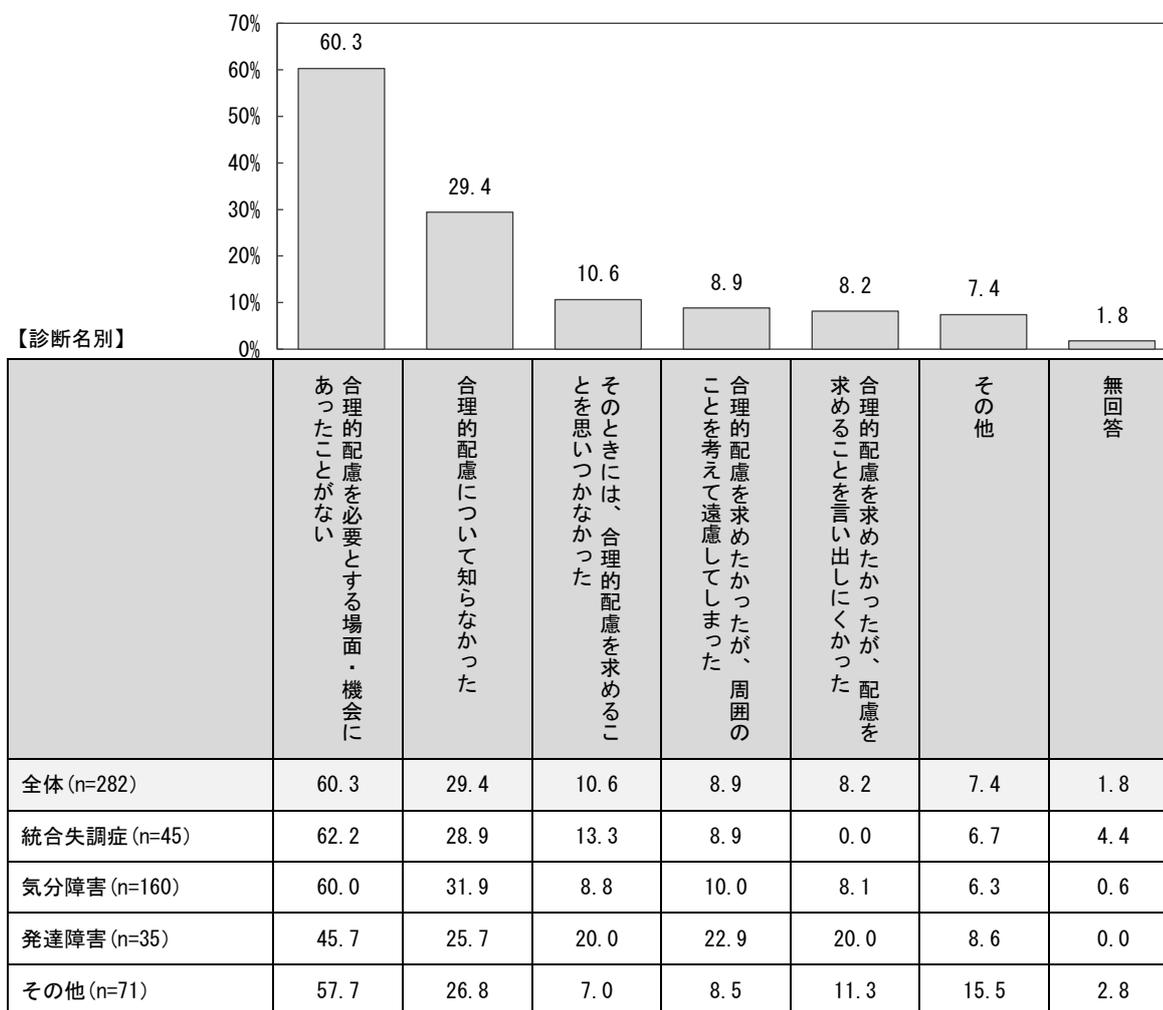
障害の程度別にみると、「合理的配慮を必要とする場面・機会にあったことがない」と回答した人は、最重度・重度（1・2度）では49.3%、中度（3度）では43.5%、軽度（4度）では45.5%と最も多くなっている。なお、最重度・重度（1・2度）では「合理的配慮を求めたかったが、配慮を求めることを言い出しにくかった」が16.9%と他の障害の程度と比べて多くなっている。



※ベース：合理的配慮を求めたことがないと回答した人

## 【精神障害者】

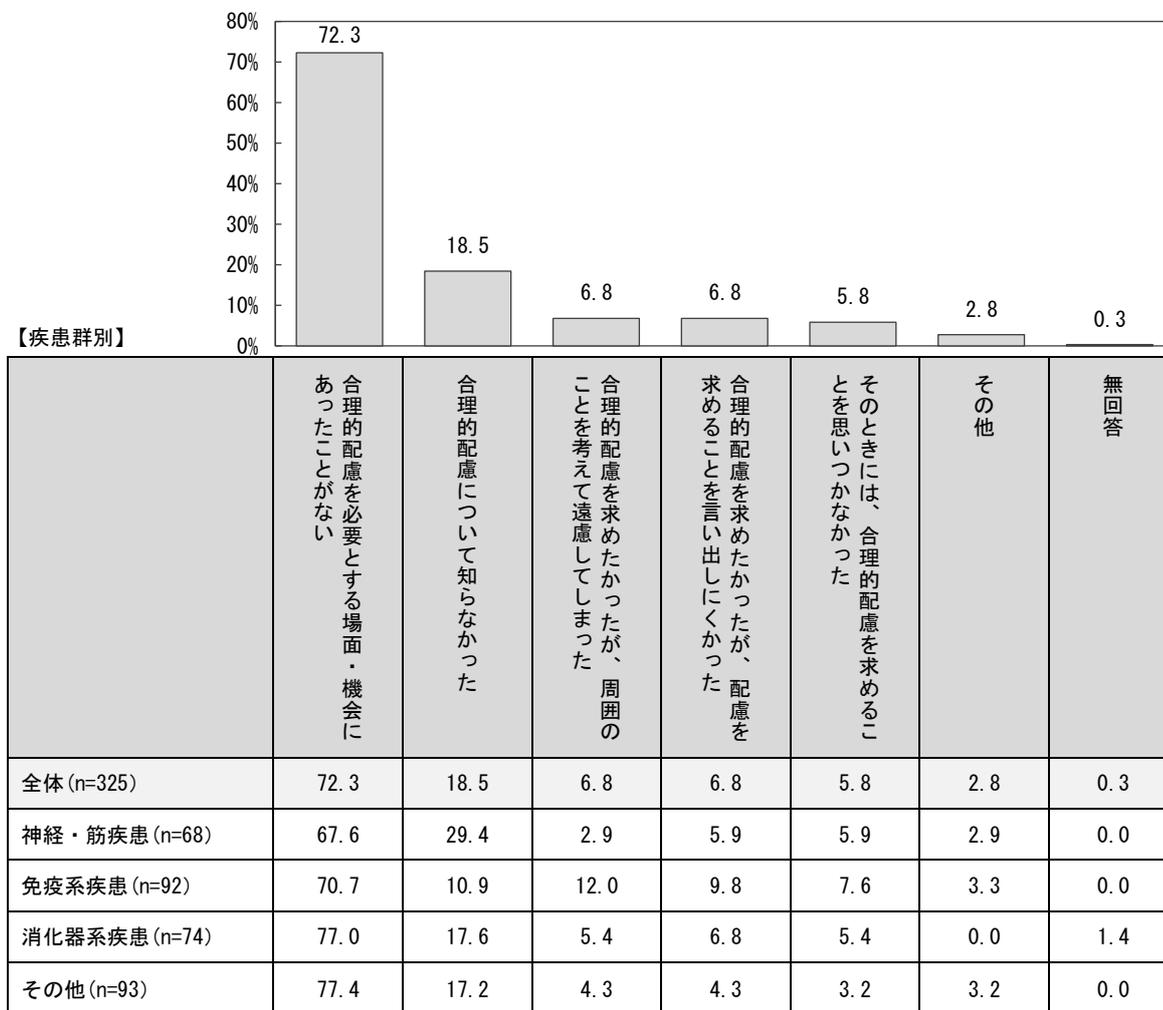
診断名別にみると、「合理的配慮を必要とする場面・機会にあったことがない」と回答している人は、統合失調症と診断されている人では 62.2%、気分障害と診断されている人では 60.0%、発達障害と診断されている人では 45.7%と最も多くなっている。



※ベース：合理的配慮を求めたことがないと回答した人

## 【難病患者】

疾患群別にみると、いずれの疾患群においても「合理的配慮を必要とする場面・機会にあつたことがない」と回答した人が最も多く、神経・筋疾患では67.6%、免疫系疾患では70.7%、消化器系疾患では77.0%となっている。

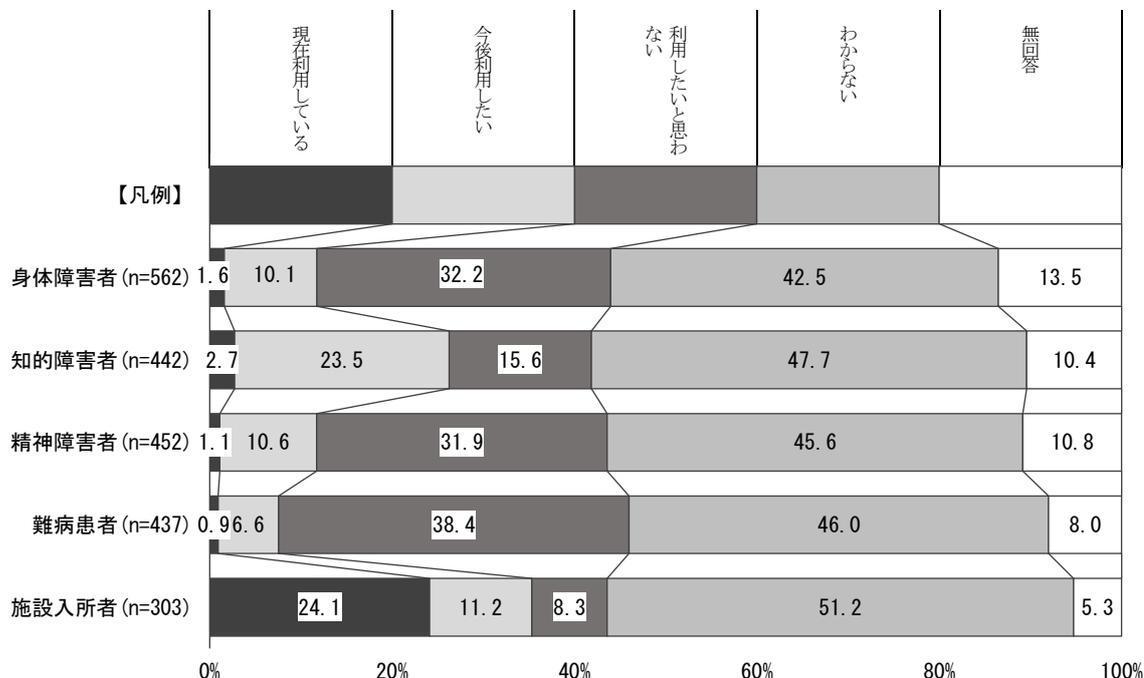


※ベース：合理的配慮を求めたことがないと回答した人

## (6) 成年後見制度

### ① 成年後見制度の利用意向

成年後見制度の利用意向では、“利用意向がある”人（「現在利用している」、「今後利用したい」の合計）は身体障害者では 11.7%、知的障害者では 26.2%、精神障害者では 11.7%、難病患者では 7.5%、施設入所者では 35.3%となっている。



### ② 成年後見制度を利用しない（したくない）理由（複数回答）

成年後見制度の利用意向で「利用したいと思わない」と回答した人の成年後見制度を利用しない（したくない）理由は、身体障害者、精神障害者、難病患者では「必要がない」が5割～6割となっている。また、「十分な支援が受けられるかわからない」は、身体障害者では 18.2%、知的障害者では 46.4%、精神障害者では 23.6%、難病患者では 18.5%となっている。

(単位：%)

区分	身体障害者 (n=181)	知的障害者 (n=69)	精神障害者 (n=144)	難病患者 (n=168)	施設入所者 (n=25)
手続きが難しい	7.2	18.8	13.2	10.7	20.0(3位)
費用負担が大きい	11.6	27.5	14.6	13.1	20.0(3位)
後見人が選任されるまでに時間がかかる	2.2	8.7	4.2	3.6	4.0
制度のしくみがよくわからない	17.1(3位)	23.2	25.7(2位)	18.5(2位)	36.0(2位)
十分な支援が受けられるかわからない	18.2(2位)	46.4(1位)	23.6(3位)	18.5(2位)	20.0(3位)
その他	12.2	29.0(3位)	11.1	9.5	12.0
必要がない	63.0(1位)	31.9(2位)	59.0(1位)	59.5(1位)	40.0(1位)
無回答	1.1	1.4	0.7	2.4	4.0

※ベース：成年後見制度の利用意向がないと回答した人

【前回調査との比較】

(単位：%)

区分		1位	2位	3位
身体障害者	今回 (n=181)	必要がない (63.0)	十分な支援が受けられるかわからない (18.2)	制度の仕組みがよくわからない (17.1)
	前回 (n=207)	必要がない (57.0)	十分な支援が受けられるかわからない (16.9)	費用負担が大きい (15.5)
知的障害者	今回 (n=69)	十分な支援が受けられるかわからない (46.4)	必要がない (31.9)	その他 (29.0)
	前回 (n=77)	費用負担が大きい (36.4)	十分な支援が受けられるかわからない/手続きが難しい (同率 32.5)	
精神障害者	今回 (n=144)	必要がない (59.0)	制度の仕組みがよくわからない (25.7)	十分な支援が受けられるかわからない (23.6)
	前回 (n=151)	必要がない (51.7)	十分な支援が受けられるかわからない (24.5)	制度の仕組みがよくわからない (19.9)
難病患者	今回 (n=168)	必要がない (59.5)	十分な支援が受けられるかわからない/制度の仕組みがよくわからない (同率 18.5)	
	前回 (n=139)	必要がない (62.6)	制度の仕組みがよくわからない (15.1)	十分な支援が受けられるかわからない (13.7)
施設入所者	今回 (n=25)	必要がない (40.0)	制度の仕組みがよくわからない (36.0)	手続きが難しい/費用負担が大きい/十分な支援が受けられるかわからない (同率 20.0)
	前回 (n=4)	必要がない (75.0)	その他 (25.0)	

## 13 障害者施策全般について

### (1) 障害者施策を充実するために必要なこと（複数回答）

障害者施策を充実するために必要なことは、身体障害者では「障害者や高齢者にやさしいまちづくりをすすめること」、知的障害者、難病患者、施設入所者では「当事者のみではなく、家族を支える支援を充実すること」、精神障害者では「障害のある方の働く場の確保や働き続けるための支援を充実すること」、児童発達支援事業利用者では「障害の早期発見・早期療育に努めること」が最も多くなっている。

(単位：%)

区 分	身体障害者 (n=562)	知的障害者 (n=442)	精神障害者 (n=452)	難病患者 (n=437)	施設入所者 (n=303)	児童発達 支援事業 利用者 (n=153)
障害の早期発見・早期療育に努めること	30.4	37.6	42.0 (2位)	37.8	11.9	71.2 (1位)
障害のある方とない方の交流を進め、相互理解を深めること	29.5	43.7	27.0	18.1	24.4	35.3
障害のある子どもそれぞれの状況や発達に応じた教育を進めること	29.4	55.4 (2位)	32.5	27.9	22.1	68.6 (2位)
障害のある方の働く場の確保や働き続けるための支援を充実すること	38.8 (2位)	54.8 (3位)	43.8 (1位)	38.0	16.8	56.2 (3位)
ホームヘルパーの派遣など在宅生活支援サービスを充実すること	26.5	30.5	24.8	26.5	12.9	23.5
区内で利用できる施設を整備すること	29.5	43.9	27.0	26.8	18.2	42.5
障害者や高齢者にやさしいまちづくりを進めること	42.3 (1位)	45.2	38.9	39.6 (2位)	29.4 (2位)	30.7
障害のある方の住まいとしてグループホームを整備すること	14.6	48.4	17.7	12.8	15.2	24.2
公営住宅や民間住宅など住まいを確保するための支援を充実すること	25.1	27.8	31.2	27.9	6.9	22.2
文化芸術、スポーツ、レクリエーション活動に参加できるよう支援すること	17.1	27.6	19.9	13.3	13.5	32.0
障害のある当事者による活動を支援すること	15.5	27.4	21.7	13.5	12.5	22.9
ボランティア活動を充実すること	12.1	15.8	15.9	8.7	5.6	7.8
障害者施策や福祉に関する情報提供を充実すること	30.2	36.0	32.5	25.9	12.2	32.0
相談体制を充実し、適切な支援をすること	30.1	46.2	34.7	30.9	23.8	41.8
サービスの利用手続きをしやすくするため、受付窓口を充実すること	35.8	30.3	35.2	39.6 (2位)	7.3	40.5
当事者のみでなく、家族を支える支援を充実すること	37.0 (3位)	62.0 (1位)	40.9 (3位)	41.9 (1位)	31.7 (1位)	51.0
その他	4.3	5.9	8.0	3.7	5.9	6.5
特になし	7.8	4.1	8.6	4.8	28.1 (3位)	2.6
無回答	9.1	8.8	10.0	6.6	10.2	2.6

【前回調査との比較】

(単位：%)

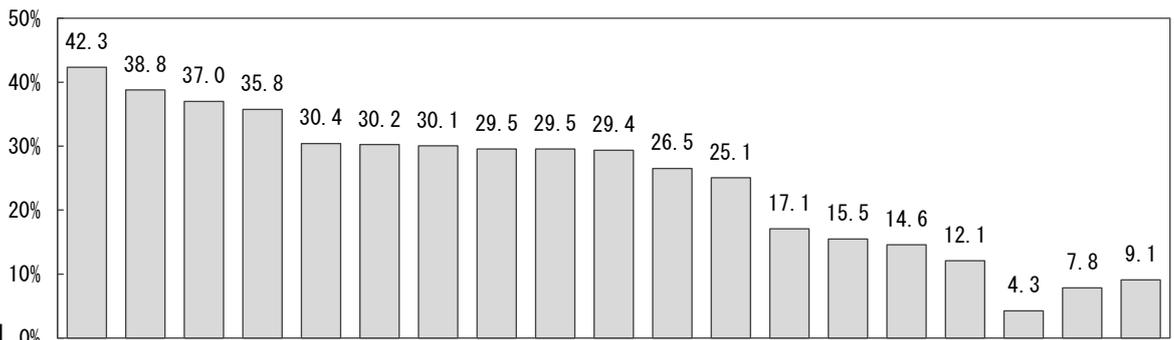
区分		1位	2位	3位
身体障害者	今回 (n=562)	障害者や高齢者にやさしいまちづくりを進めること (42.3)	障害のある方の働く場の確保や働き続けるための支援を充実すること (38.8)	当事者のみでなく、家族を支える支援を充実すること (37.0)
	前回 (n=659)	障害者や高齢者にやさしいまちづくりを進めること (48.3)	障害のある方の働く場の確保や働き続けるための支援を充実すること (43.1)	当事者のみでなく、家族を支える支援を充実すること (39.2)
知的障害者	今回 (n=442)	当事者のみでなく、家族を支える支援を充実すること (62.0)	障害のある子どもそれぞれの状況や発達にあった教育をおこなうこと (55.4)	障害のある方の働くところを用意し、仕事を続けられるように努めること (54.8)
	前回 (n=474)	当事者のみでなく、家族を支える支援を充実すること (61.2)	障害のある子どもそれぞれの状況や発達にあった教育をおこなうこと (56.8)	障害のある方の働くところを用意し、仕事を続けられるように努めること (53.6)
精神障害者	今回 (n=452)	障害のある方の働く場の確保や働き続けるための支援を充実すること (43.8)	早期発見・早期療育に努めること (42.0)	当事者のみでなく、家族を支える支援を充実すること (40.9)
	前回 (n=451)	早期発見・早期療育に努めること (50.6)	障害のある方の働くところを用意し、仕事を続けられるように努めること (49.2)	当事者のみでなく、家族を支える支援を充実すること (44.1)
難病患者	今回 (n=437)	当事者のみでなく、家族を支える支援を充実すること (41.9)	サービスの利用手続きをしやすくするため、受付窓口を充実すること/障害者や高齢者にやさしいまちづくりを進めること (同率 39.6)	障害のある方の働く場の確保や働き続けるための支援を充実すること (38.0)
	前回 (n=475)	障害のある方の働く場の確保や働き続けるための支援を充実すること (42.9)	障害者や高齢者にやさしいまちづくりを進めること (40.6)	当事者のみでなく、家族を支える支援を充実すること (40.4)
施設入所者	今回 (n=303)	当事者のみでなく、家族を支える支援を充実すること (31.7)	障害者や高齢者にやさしいまちづくりをすすめること (29.4)	特になし (28.1)
	前回 (n=105)	障害のある人となない人の交流を進め、相互理解を深めること (39.0)	障害者や高齢者にやさしいまちづくりを進めること (33.3)	当事者のみでなく、家族を支える支援を充実すること (32.4)
児童発達支援事業利用者	今回 (n=153)	障害の早期発見・早期療育に努めること (71.2)	障害のある子どもそれぞれの状況や発達に応じた教育を進めること (68.6)	障害のある方の働く場の確保や働き続けるための支援を充実すること (56.2)
	前回 (n=127)	障害の早期発見・早期療育に努めること/障害のある子どもそれぞれの状況や発達に応じた教育を進めること (同率 70.1)		障害のある人となない人の交流を進め、相互理解を深めること (52.0)

## 【身体障害者】

障害の程度別にみると、重度（1・2級）では「サービスの利用手続きをしやすくするため、受付窓口を充実すること」が40.3%と中度（3・4級）、軽度（5・6級）と比べて多くなっている。

障害の種類別にみると、肢体不自由（体幹）では「障害者や高齢者にやさしいまちづくりを進めること」が55.0%、視覚障害では「障害のある人の働く場の確保や働き続けるための支援を充実すること」が40.7%と最も多くなっている。

年齢4区分別にみると、18～44歳、45～64歳では「障害のある人の働く場の確保や働き続けるための支援を充実すること」がそれぞれ48.9%、46.0%と最も多くなっている。65歳以上では「障害者や高齢者にやさしいまちづくりを進めること」が38.8%と最も多くなっている。



【障害程度別】	障害者や高齢者にやさしいまちづくりを進めること	障害のある方の働く場の確保や働き続けるための支援を充実すること	障害のある方、家族を支える支援を充実すること	サービスの利用手続きをしやすくするため、受付窓口を充実すること	障害の早期発見・早期療育に努めること	障害者施策や福祉に関する情報提供を充実すること	相談体制を充実し、適切な支援をすること	障害のある方とない方の交流を進め、相互理解を深めること	区内で利用できる施設を整備すること	障害のある子どもそれぞれの状況や発達に応じた教育を進めること	ホームヘルパーの派遣など在宅生活支援サービスを充実すること	公営住宅や民間住宅など住まいを確保するための支援を充実すること	文化芸術、スポーツ、レクリエーション活動に参加できるように支援すること	障害のある当事者による活動を支援すること	障害のある方の住まいとしてグループホームを整備すること	ボランティア活動を充実すること	その他	特になし	無回答
全体 (n=562)	42.3	38.8	37.0	35.8	30.4	30.2	30.1	29.5	29.5	29.4	26.5	25.1	17.1	15.5	14.6	12.1	4.3	7.8	9.1
重度 (1・2級) (n=310)	44.5	38.4	37.7	40.3	29.4	32.9	32.3	32.9	32.3	27.4	29.4	27.4	18.1	15.8	18.4	12.6	3.5	7.4	8.7
中度 (3・4級) (n=156)	36.5	35.9	33.3	30.8	26.3	22.4	23.7	21.2	19.9	26.3	19.2	16.7	12.2	11.5	5.8	7.7	4.5	9.0	9.6
軽度 (5・6級) (n=70)	42.9	47.1	40.0	28.6	40.0	34.3	34.3	32.9	35.7	42.9	27.1	32.9	20.0	17.1	15.7	15.7	7.1	8.6	4.3

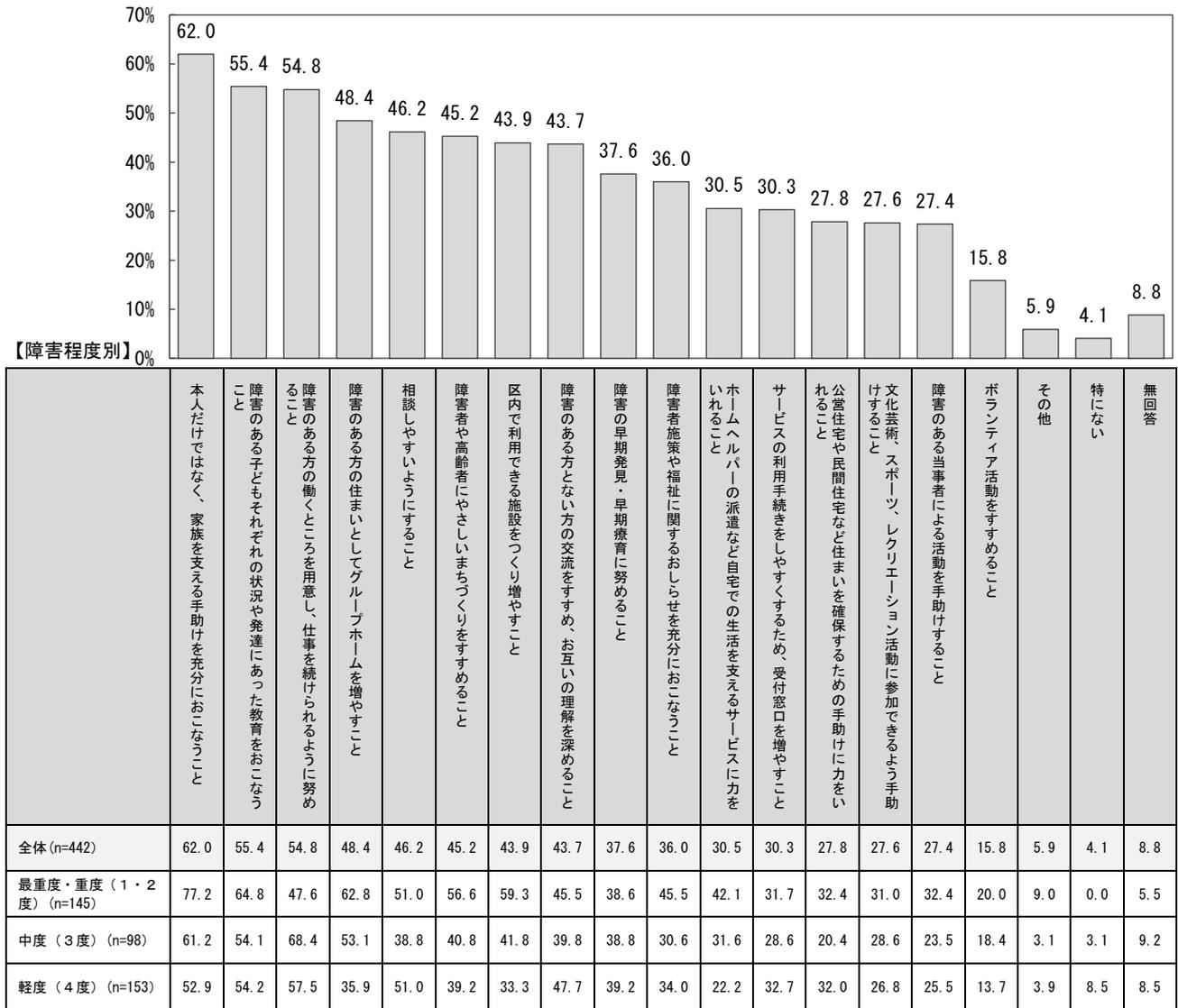
【障害の種類別】	33.3	40.7	37.0	33.3	37.0	27.2	24.7	25.9	27.2	24.7	23.5	25.9	22.2	17.3	14.8	13.6	4.9	9.9	9.9
視覚障害 (n=81)	33.3	40.7	37.0	33.3	37.0	27.2	24.7	25.9	27.2	24.7	23.5	25.9	22.2	17.3	14.8	13.6	4.9	9.9	9.9
聴覚障害 (n=87)	49.4	49.4	33.3	39.1	34.5	40.2	35.6	49.4	27.6	40.2	24.1	29.9	24.1	28.7	17.2	14.9	6.9	4.6	5.7
平衡機能障害 (n=2)	50.0	100	0.0	50.0	0.0	50.0	50.0	50.0	50.0	0.0	0.0	50.0	50.0	50.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0
音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害 (n=25)	44.0	32.0	28.0	24.0	12.0	24.0	12.0	16.0	12.0	4.0	12.0	4.0	8.0	12.0	0.0	4.0	4.0	12.0	20.0
肢体不自由 (上肢、下肢等) (n=140)	47.9	45.7	49.3	40.0	30.0	32.9	37.1	32.9	37.1	39.3	36.4	32.1	18.6	13.6	19.3	12.1	5.0	4.3	5.7
肢体不自由 (体幹) (n=40)	55.0	30.0	47.5	35.0	30.0	30.0	27.5	32.5	42.5	35.0	32.5	20.0	17.5	22.5	22.5	20.0	2.5	7.5	5.0
内部障害 (n=156)	34.0	28.8	27.6	34.6	28.2	25.0	25.0	17.3	23.1	19.2	20.5	19.2	7.7	6.4	7.7	7.1	1.9	10.9	9.6
その他 (n=7)	42.9	14.3	14.3	14.3	28.6	14.3	14.3	42.9	14.3	14.3	14.3	14.3	28.6	0.0	0.0	0.0	14.3	14.3	28.6

【年齢4区分別】	56.3	66.7	66.7	39.6	56.3	39.6	35.4	60.4	47.9	75.0	43.8	29.2	33.3	33.3	35.4	22.9	4.2	0.0	0.0
0～17歳 (n=48)	56.3	66.7	66.7	39.6	56.3	39.6	35.4	60.4	47.9	75.0	43.8	29.2	33.3	33.3	35.4	22.9	4.2	0.0	0.0
18～44歳 (n=45)	44.4	48.9	42.2	40.0	31.1	31.1	40.0	40.0	37.8	44.4	20.0	31.1	20.0	13.3	24.4	6.7	2.2	8.9	8.9
45～64歳 (n=226)	42.5	46.0	36.3	38.5	28.8	31.9	31.0	30.1	25.7	24.3	20.4	29.2	15.9	16.4	13.3	11.9	5.8	7.1	4.0
65歳以上 (n=219)	38.8	24.7	31.5	32.9	28.3	26.9	25.1	20.5	27.9	21.5	31.5	19.2	15.1	11.9	10.5	11.9	3.7	10.0	15.1

## 【知的障害者】

障害の程度別にみると、最重度・重度（1・2度）では「本人だけでなく、家族を支える手助けを充分におこなうこと」が77.2%と最も多く、次いで「障害のある子どもそれぞれの状況や発達にあった教育をおこなうこと」が64.8%となっている。

年齢4区別にみると、0～17歳では「本人だけではなく、家族を支える手助けを充分におこなうこと」が75.9%と最も多く、次いで「障害のある子どもそれぞれの状況や発達にあった教育をおこなうこと」が74.1%となっている。18～44歳では「本人だけでなく、家族を支える手助けを充分におこなうこと」が59.1%と最も多く、次いで「障害のある方の働くところを用意し、仕事を続けられるように努めること」が56.5%となっている。

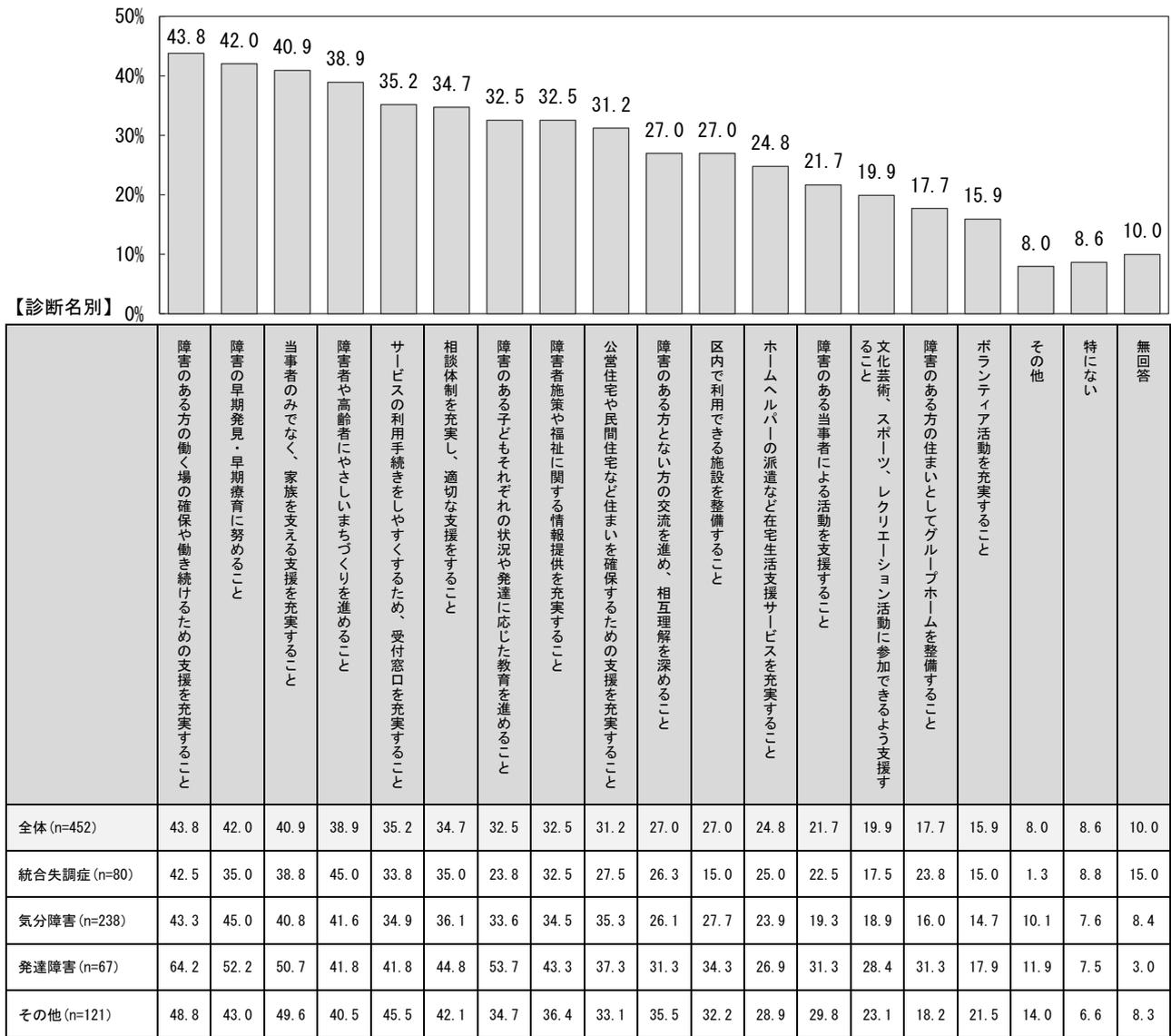


年齢4区別	本人だけではなく、家族を支える手助けを充分におこなうこと	障害のある子どもそれぞれの状況や発達にあった教育をおこなうこと	障害のある方の働くところを用意し、仕事を続けられるように努めること	障害のある方の住まいとしてグループホームを増やすこと	相談しやすいようにすること	障害者や高齢者にやさしいまちづくりをすすめること	区内で利用できる施設をつくり増やすこと	障害のある方とない方の交流をすすめる、お互いの理解を深めること	障害の早期発見・早期療育に努めること	障害者施策や福祉に関するおしらせを充分におこなうこと	ホームヘルパーの派遣など自宅での生活を支えるサービスに力をいれること	サービスの利用手続きをしやすいため、受付窓口を増やすこと	公営住宅や民間住宅など住まいを確保するための手助けに力をいれること	文化芸術、スポーツ、レクリエーション活動に参加できるよう手助けすること	障害のある当事者による活動を手助けすること	ボランティア活動をすすめること	その他	特になし	無回答
0～17歳 (n=158)	75.9	74.1	63.3	54.4	49.4	47.5	56.3	46.2	47.5	43.0	27.2	34.2	32.9	31.0	32.3	17.1	10.1	2.5	4.4
18～44歳 (n=186)	59.1	50.0	56.5	51.6	48.4	48.4	41.9	46.2	37.1	35.5	32.3	30.1	26.3	26.3	26.9	15.1	2.7	3.8	7.0
45～64歳 (n=54)	38.9	31.5	35.2	29.6	31.5	31.5	24.1	31.5	20.4	27.8	31.5	20.4	22.2	27.8	13.0	16.7	3.7	5.6	27.8
65歳以上 (n=25)	40.0	32.0	36.0	16.0	32.0	36.0	24.0	32.0	20.0	20.0	32.0	32.0	16.0	20.0	24.0	12.0	12.0	16.0	8.0

## 【精神障害者】

診断名別にみると、統合失調症と診断されている人では「障害者や高齢者にやさしいまちづくりを進めること」が45.0%、気分障害と診断されている人では「障害の早期発見・早期療育に努めること」が45.0%、発達障害と診断されている人では「障害のある人の働く場の確保や働き続けるための支援を充実すること」が64.2%と最も多くなっている。

年齢4区分別にみると、18～44歳、45～64歳では「障害のある方の働く場の確保や働き続けるための支援を充実すること」がそれぞれ63.5%、44.6%と最も多くなっている。65歳以上では「障害者や高齢者にやさしいまちづくりを進めること」が34.4%と最も多くなっている。

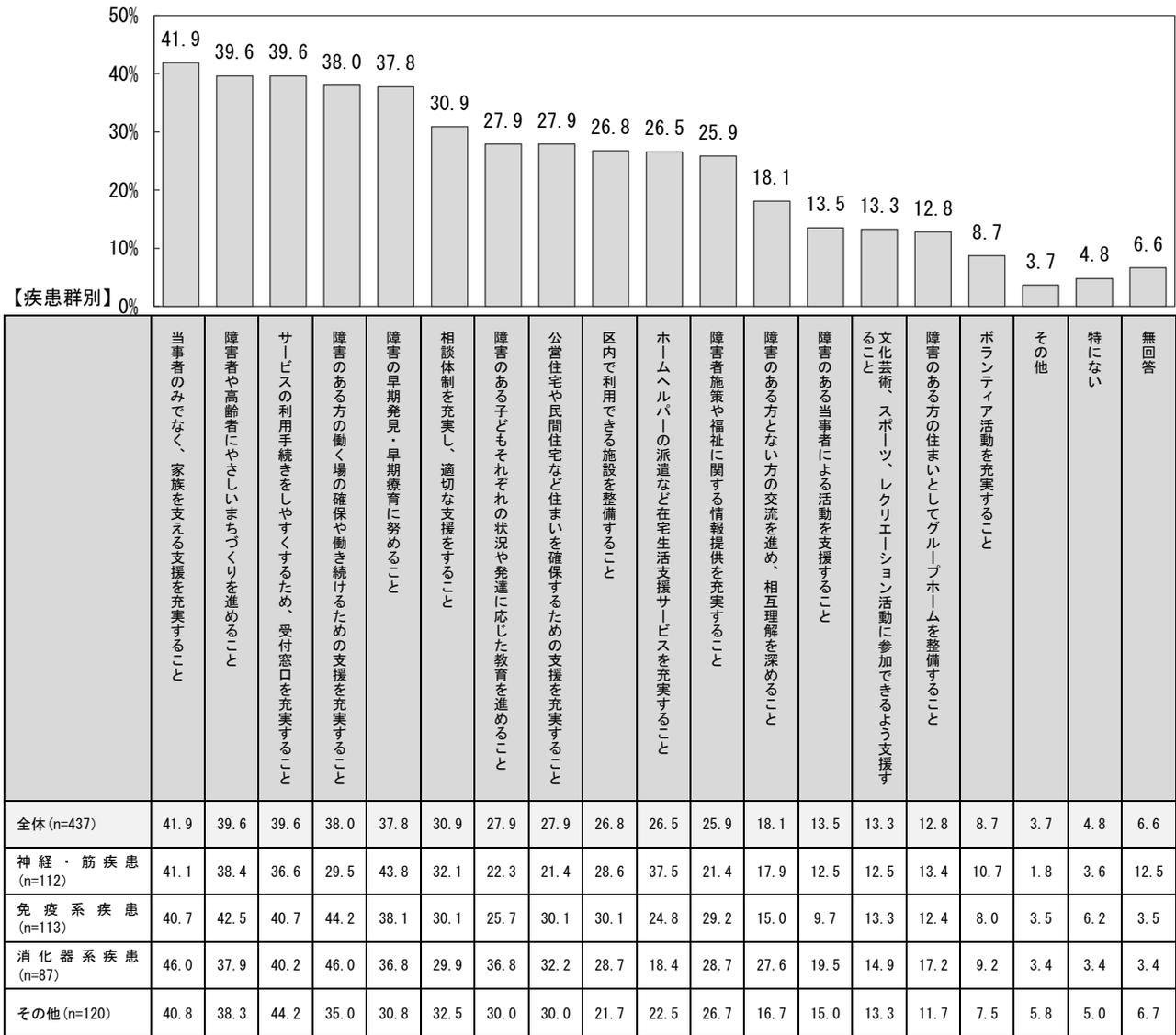


【年齢4区分別】	0～17歳(n=3)	18～44歳(n=104)	45～64歳(n=193)	65歳以上(n=128)
障害のある方の働く場の確保や働き続けるための支援を充実すること	33.3	63.5	44.6	25.8
障害の早期発見・早期療育に努めること	0.0	53.8	44.0	31.3
当事者のみでなく、家族を支える支援を充実すること	0.0	58.7	42.5	25.8
障害者や高齢者にやさしいまちづくりを進めること	0.0	43.3	40.4	34.4
サービスの利用手続きをしやすいため、受付窓口を充実すること	0.0	49.0	35.2	25.8
相談体制を充実し、適切な支援をすること	33.3	46.2	34.7	21.9
障害のある子どもそれぞれの状況や発達に応じた教育を進めること	33.3	52.9	31.1	18.0
障害者施策や福祉に関する情報提供を充実すること	0.0	50.0	33.2	18.0
公営住宅や民間住宅など住まいを確保するための支援を充実すること	0.0	34.6	34.7	24.2
障害のある方とない方の交流を進め、相互理解を深めること	0.0	36.5	25.9	19.5
区内で利用できる施設を整備すること	0.0	37.5	24.9	21.1
ホームヘルパーの派遣など在宅生活支援サービスを充実すること	0.0	27.9	24.9	21.9
障害のある当事者による活動を支援すること	0.0	32.7	21.2	14.8
文化芸術、スポーツ、レクリエーション活動に参加できるような支援すること	0.0	29.8	18.1	15.6
障害のある方の住まいとしてグループホームを整備すること	33.3	25.0	17.6	10.9
ボランティア活動を充実すること	0.0	20.2	16.1	11.7
その他	0.0	11.5	7.3	4.7
特になし	33.3	4.8	8.8	11.7
無回答	0.0	1.0	7.3	21.9

**【難病患者】**

疾患群別にみると、神経・筋疾患では「障害の早期発見・早期療育に努めること」が43.8%、免疫系疾患では「障害のある方の働く場の確保や働き続けるための支援を充実すること」が44.2%、消化器系疾患では「当事者のみでなく、家族を支える支援を充実すること」、「障害のある方の働く場の確保や働き続けるための支援を充実すること」がともに46.0%と最も多くなっている。

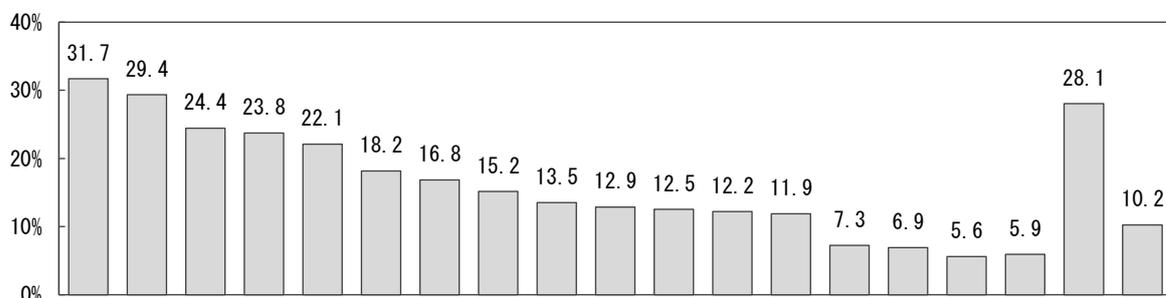
年齢4区分別にみると、45～64歳では「障害のある方の働く場の確保や働き続けるための支援を充実すること」が48.2%、65歳以上では「サービスの利用手続きをしやすいするため、受付窓口を充実すること」が44.5%と最も多くなっている。



【年齢4区分別】	0～17歳 (n=3)	18～44歳 (n=77)	45～64歳 (n=141)	65歳以上 (n=200)
当事者のみでなく、家族を支える支援を充実すること	33.3	51.9	44.7	36.0
障害者や高齢者にやさしいまちづくりを進めること	33.3	29.9	41.8	43.5
サービスの利用手続きをしやすいため、受付窓口を充実すること	33.3	40.3	34.8	44.5
障害のある方の働く場の確保や働き続けるための支援を充実すること	33.3	54.5	48.2	25.0
障害の早期発見・早期療育に努めること	0.0	51.9	30.5	38.5
相談体制を充実し、適切な支援をすること	33.3	29.9	32.6	29.5
障害のある子どもそれぞれの状況や発達に応じた教育を進めること	33.3	40.3	24.1	26.0
公営住宅や民間住宅など住まいを確保するための支援を充実すること	0.0	22.1	34.0	26.5
区内で利用できる施設を整備すること	0.0	31.2	26.2	26.0
ホームヘルパーの派遣など在宅生活支援サービスを充実すること	33.3	16.9	28.4	30.0
障害者施策や福祉に関する情報提供を充実すること	33.3	26.0	29.8	22.5
障害のある方とない方の交流を進め、相互理解を深めること	0.0	23.4	19.9	15.5
障害のある当事者による活動を支援すること	0.0	16.9	16.3	11.0
文化芸術・スポーツ・レクリエーション活動に参加できるよう支援すること	0.0	18.2	12.1	13.0
障害のある方の住まいとしてグループホームを整備すること	0.0	15.6	11.3	13.5
ボランティア活動を充実すること	0.0	11.7	9.9	7.5
その他	0.0	2.6	5.7	3.0
特になし	0.0	5.2	5.0	5.0
無回答	33.3	1.3	5.0	9.0

## 【施設入所者】

年齢区分別にみると、18～44歳では「本人だけではなく、家族を支える手助けを充分におこなうこと」が37.7%、45～64歳では「障害者や高齢者にやさしいまちづくりをすすめること」が27.2%と最も多くなっている。

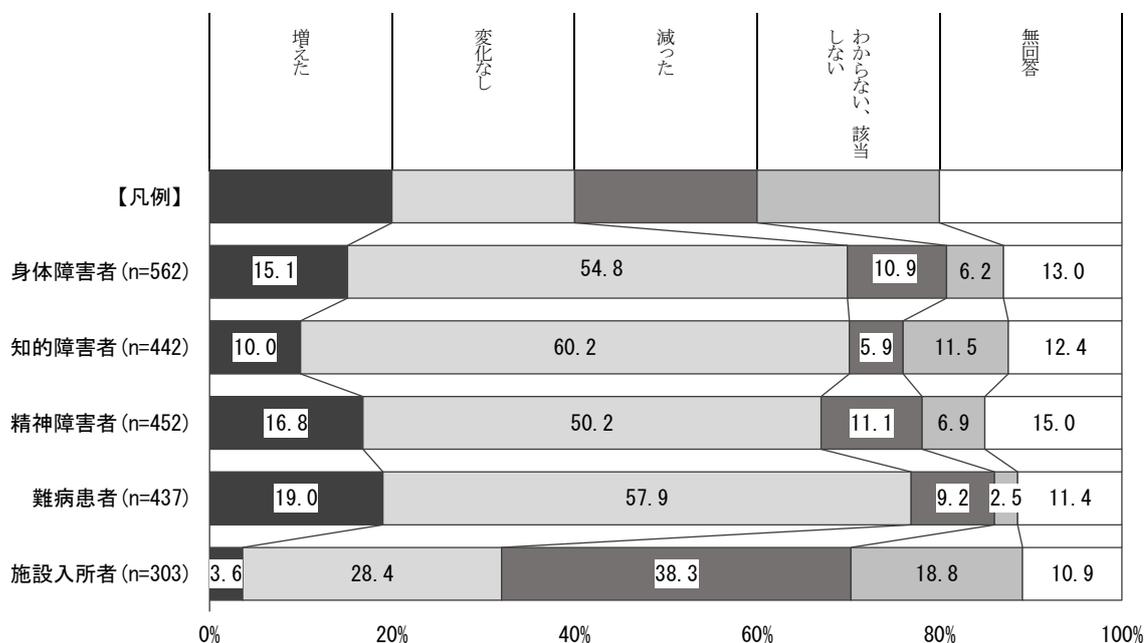


	本人だけではなく、家族を支える手助けを充分におこなうこと	障害者や高齢者にやさしいまちづくりをすすめること	障害のある方とない方の交流をすすめる、お互いの理解を深めること	相談しやすいようにすること	障害のある子どもそれぞれの状況や発達にあった教育をおこなうこと	区内で利用できる施設をつくり増やすこと	障害のある方の働くところを用意し、仕事を続けられるように努めること	障害のある方の住まいとしてグループホームを増やすこと	文化芸術、スポーツ、レクリエーション活動に参加できるように手助けすること	ホームヘルパーの派遣など自宅での生活を支えるサービスに力をいれること	障害のある当事者による活動を手助けすること	障害者施策や福祉に関するおしらせを充分におこなうこと	障害の早期発見・早期療育に努めること	サービスの利用手続きをしやすくするため、受付窓口を増やすこと	公営住宅や民間住宅など住まいを確保するための手助けに力をいれること	ボランティア活動をすすめること	その他	特になし	無回答
全体 (n=303)	31.7	29.4	24.4	23.8	22.1	18.2	16.8	15.2	13.5	12.9	12.5	12.2	11.9	7.3	6.9	5.6	5.9	28.1	10.2
0～17歳 (n=0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
18～44歳 (n=61)	37.7	34.4	27.9	36.1	36.1	24.6	31.1	21.3	21.3	19.7	19.7	24.6	19.7	13.1	9.8	9.8	8.2	24.6	8.2
45～64歳 (n=173)	26.6	27.2	23.7	20.2	21.4	16.2	13.3	13.9	13.9	10.4	11.6	10.4	10.4	5.2	6.9	4.6	5.2	30.1	8.7
65歳以上 (n=57)	42.1	33.3	26.3	22.8	10.5	15.8	15.8	12.3	5.3	10.5	8.8	5.3	10.5	8.8	5.3	5.3	5.3	28.1	12.3

## (2) 新型コロナウイルス感染症の影響

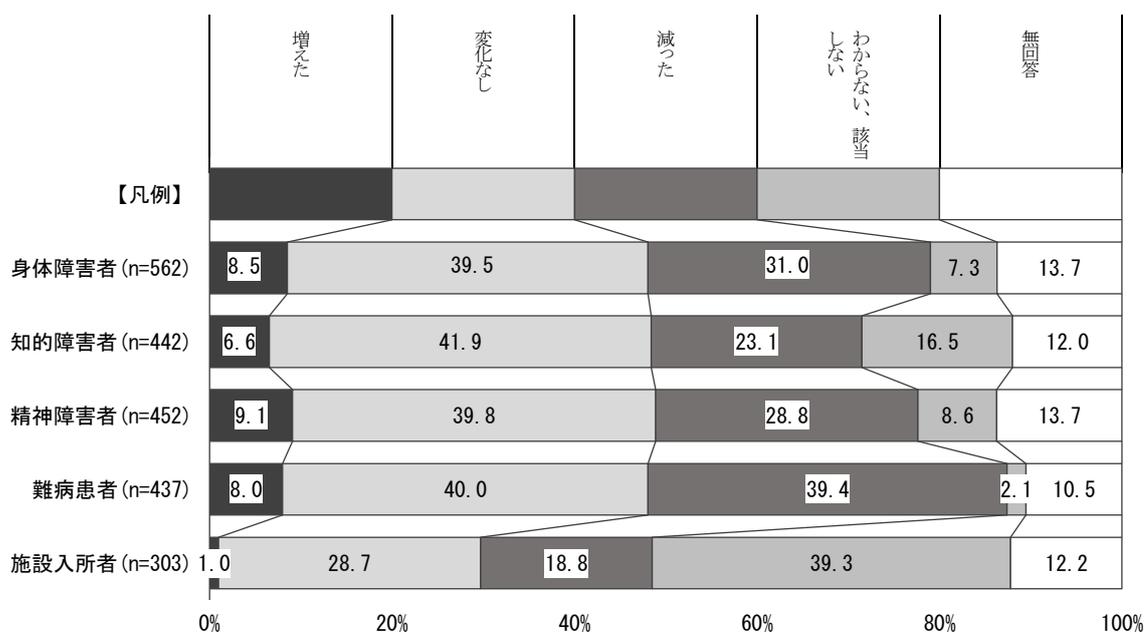
### ① 家族との会話や連絡の頻度（電話などを含む）

新型コロナウイルス感染症の影響で家族との会話や連絡の頻度が「減った」と回答した人は、身体障害者では10.9%、知的障害者では5.9%、精神障害者では11.1%、難病患者では9.2%、施設入所者では38.3%となっている。



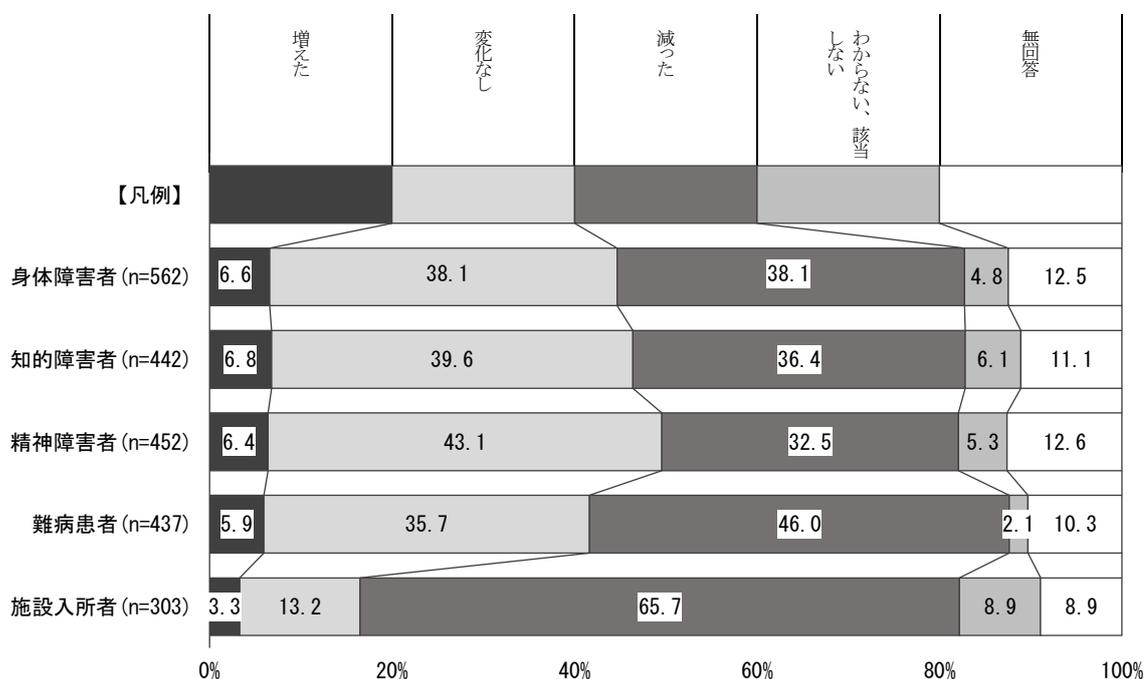
### ② 友人・知人との会話や連絡の頻度（電話などを含む）

新型コロナウイルス感染症の影響で友人・知人との会話や連絡の頻度が「減った」と回答した人は、身体障害者では31.0%、知的障害者では23.1%、精神障害者では28.8%、難病患者では39.4%、施設入所者では18.8%となっている。



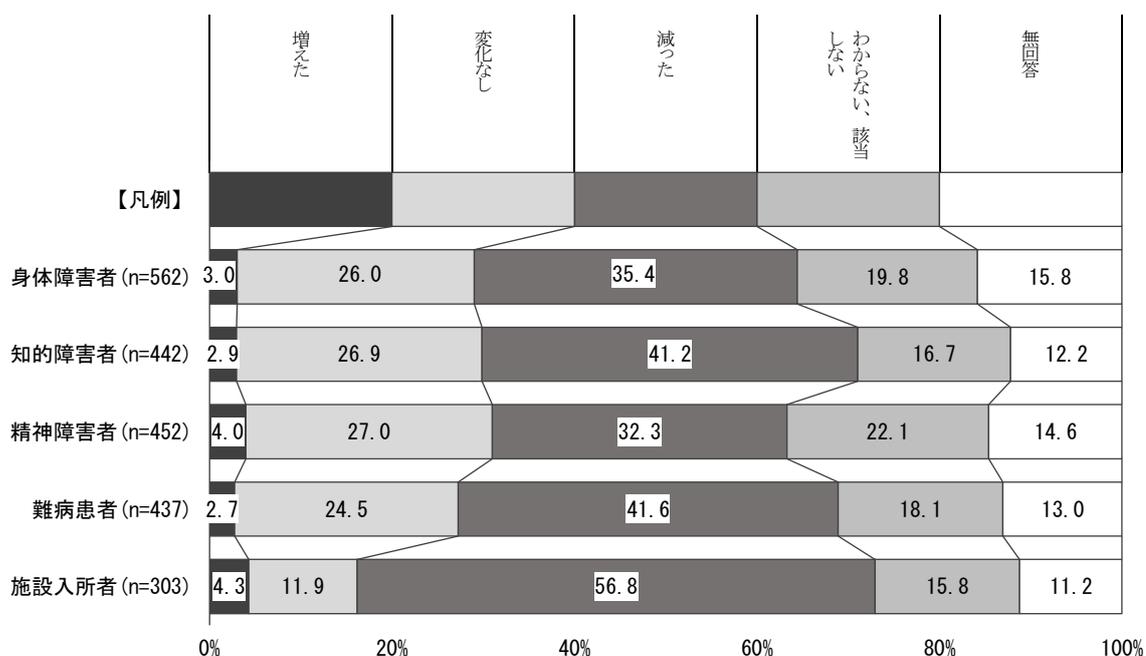
### ③ 生活に必要な外出の頻度（買い物・食事・医療機関の受診など）

新型コロナウイルス感染症の影響で生活に必要な外出の頻度が「減った」と回答した人は、身体障害者では38.1%、知的障害者では36.4%、精神障害者では32.5%、難病患者では46.0%、施設入所者では65.7%となっている。



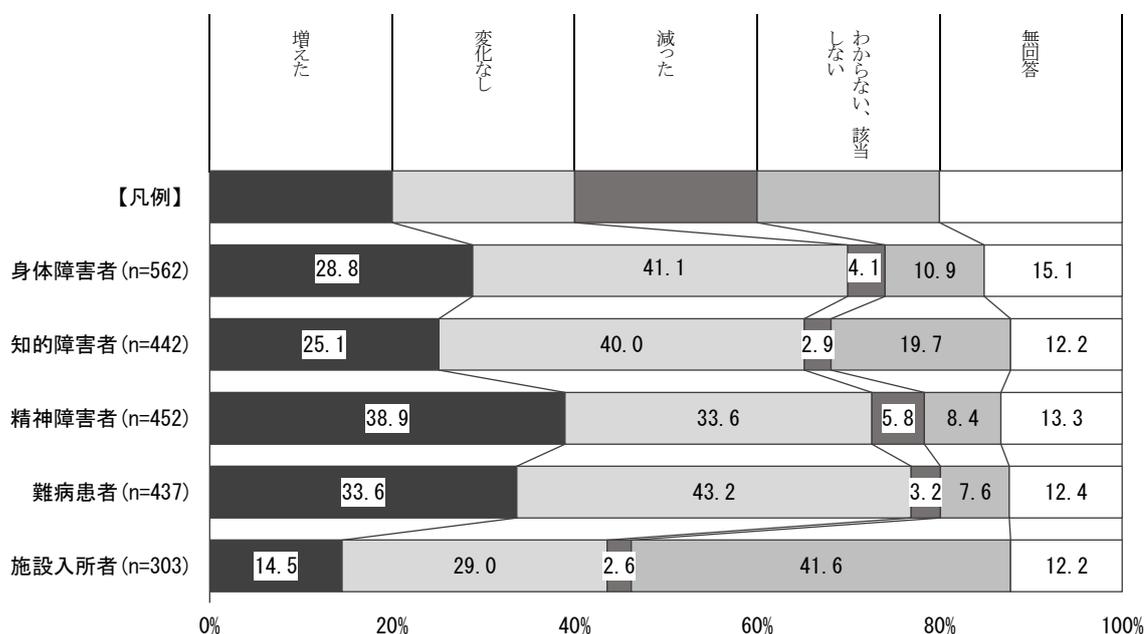
### ④ 社会参加の外出の頻度（余暇活動・ボランティア・スポーツなど）

新型コロナウイルス感染症の影響で社会参加の外出の頻度が「減った」と回答した人は、身体障害者では35.4%、知的障害者では41.2%、精神障害者では32.3%、難病患者では41.6%、施設入所者では56.8%となっている。



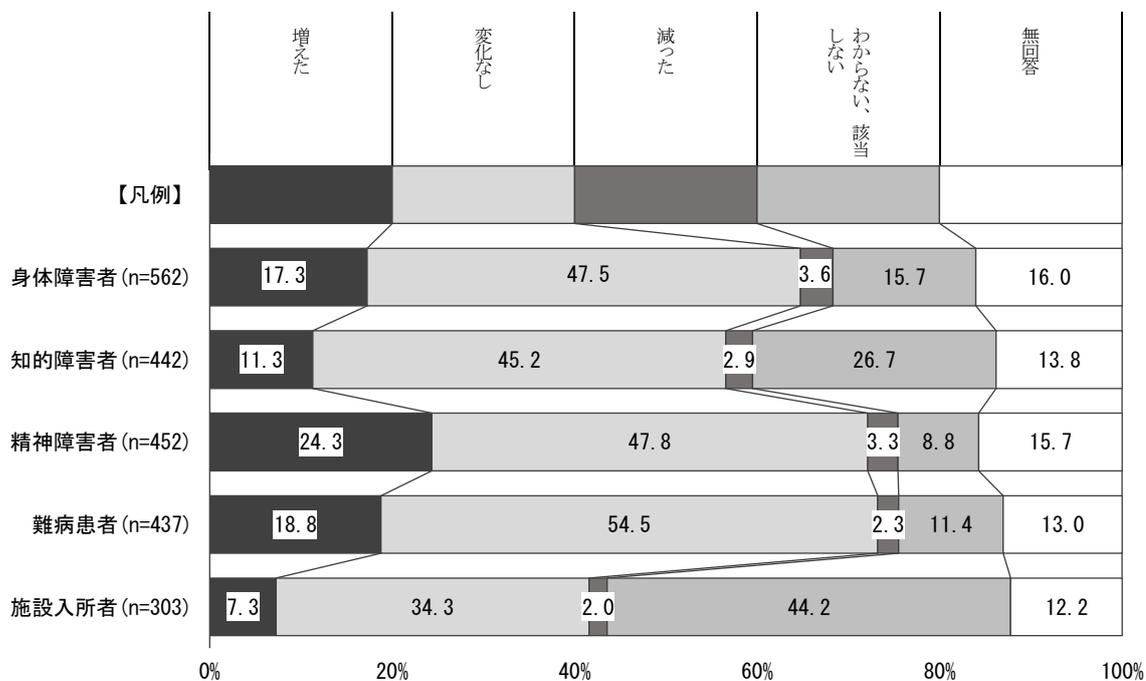
### ⑤ 不安やストレスを感じる頻度（神経過敏、気分の落ち込みなどを含む）

新型コロナウイルス感染症の影響で不安やストレスを感じる頻度が「増えた」と回答した人は、身体障害者では28.8%、知的障害者では25.1%、精神障害者では38.9%、難病患者では33.6%、施設入所者では14.5%となっている。



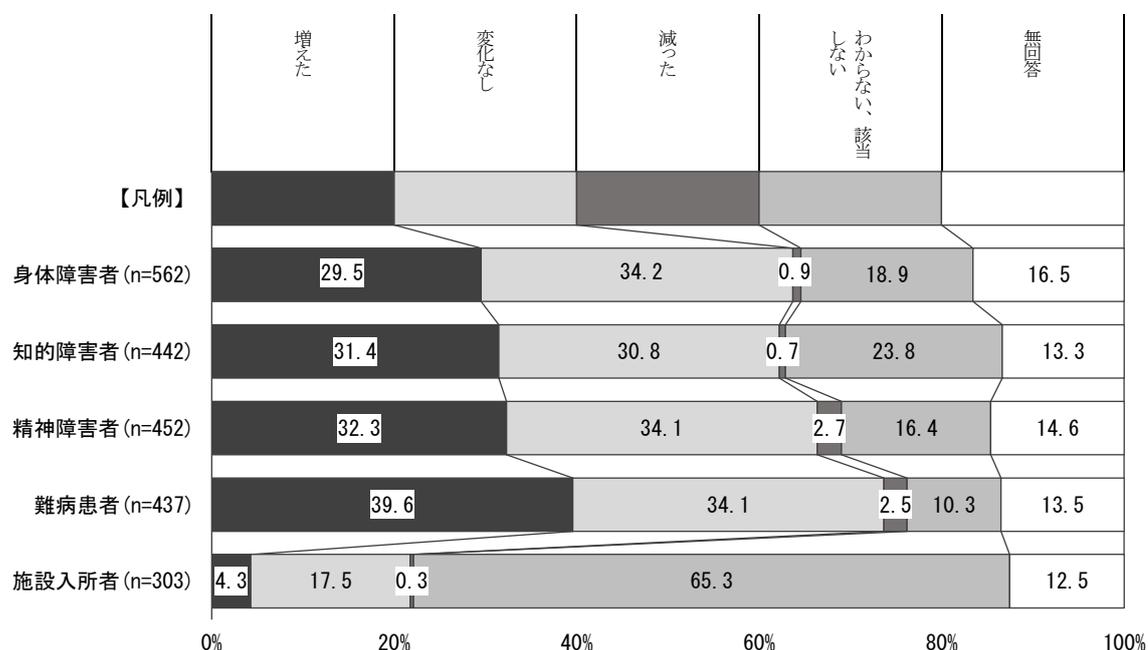
### ⑥ 孤立・孤独を感じる頻度

新型コロナウイルス感染症の影響で孤立・孤独を感じる頻度が「増えた」と回答した人は、身体障害者では17.3%、知的障害者では11.3%、精神障害者では24.3%、難病患者では18.8%、施設入所者では7.3%となっている。



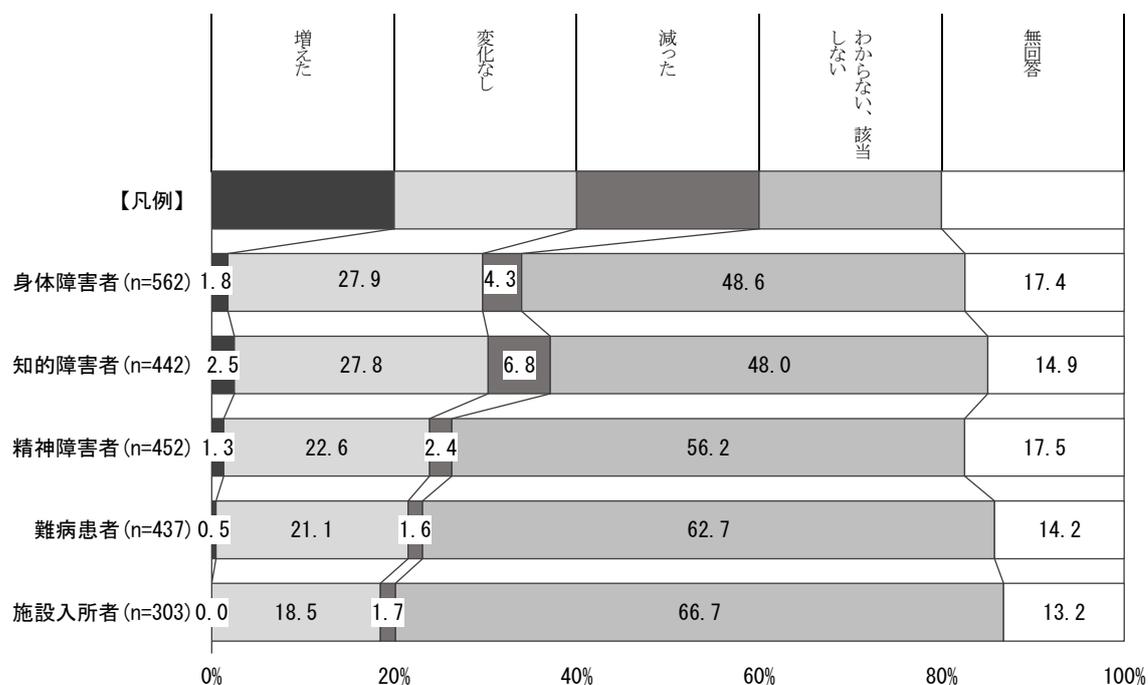
### ⑦ ICT（パソコン、スマートフォン、タブレット型端末）の使用頻度

新型コロナウイルス感染症の影響でICTの使用頻度が「増えた」と回答した人は、身体障害者では29.5%、知的障害者では31.4%、精神障害者では32.3%、難病患者では39.6%、施設入所者では4.3%となっている。



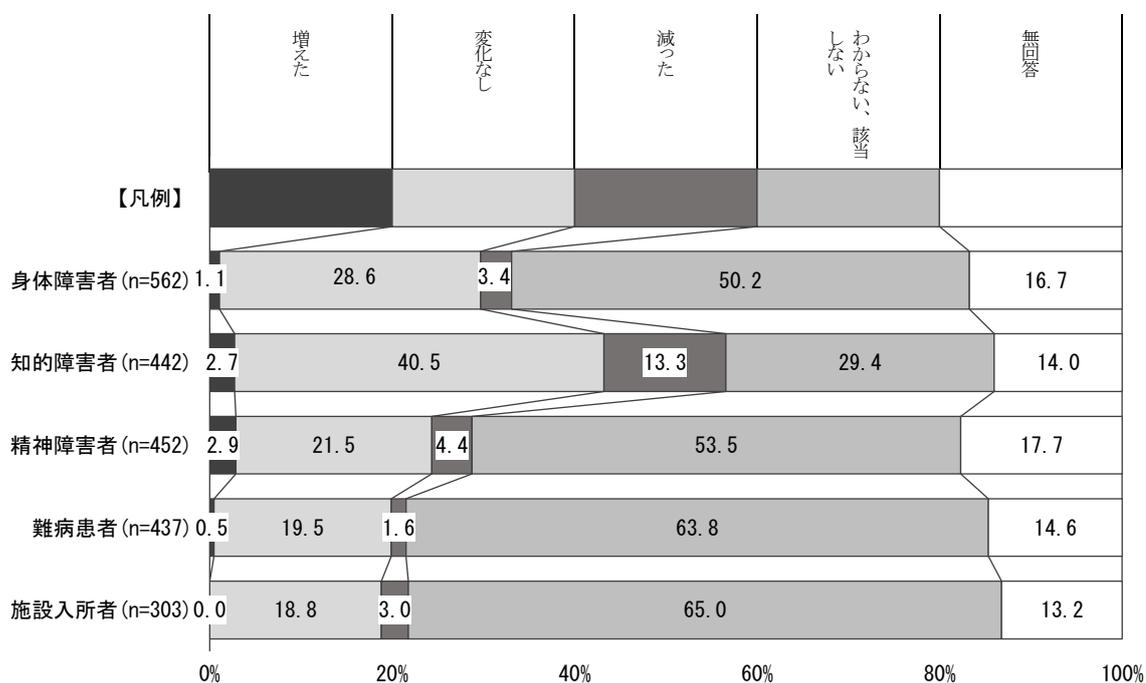
### ⑧ 障害福祉サービス（訪問サービス）の利用頻度

新型コロナウイルス感染症の影響で障害福祉サービス（訪問サービス）の利用頻度が「減った」と回答した人は、身体障害者では4.3%、知的障害者では6.8%、精神障害者では2.4%、難病患者では1.6%、施設入所者では1.7%となっている。



### ◎ 障害福祉サービス（通所系サービス）の利用頻度

新型コロナウイルス感染症の影響で障害福祉サービス（通所系サービス）の利用頻度が「減った」と回答した人は、身体障害者では3.4%、知的障害者では13.3%、精神障害者では4.4%、難病患者では1.6%、施設入所者では3.0%となっている。



### (3) 区の障害者施策等への意見・要望（自由回答）

主な回答内容は、次のとおりである。

#### 【身体障害者】

（相談・情報提供）

- ・幅広い情報の提供、定期的な情報提供
- ・一人暮らしの方への相談支援の充実
- ・相談窓口での手話通訳者派遣の充実

（各種申請・手続き）

- ・申請窓口の一元化
- ・サービスの申請から提供までの迅速化

（各種サービス）

- ・住宅支援の充実
- ・障害の種類や程度にあわせたサービスの充実
- ・福祉機器レンタルの充実
- ・緊急時の支援体制の充実
- ・短期入所施設の充実
- ・学校卒業後の福祉サービスの充実

（社会参加・地域とのつながり）

- ・余暇活動場所、事業の充実
- ・バリアフリー化の促進

（その他）

- ・経済的支援の充実
- ・障害理解の啓発
- ・災害時の支援体制の充実
- ・スマホやタブレットの利用促進や購入助成の充実

#### 【知的障害者】

（相談・情報提供）

- ・幅広い情報の提供、定期的な情報提供

（各種サービス）

- ・重度障害者への支援体制の充実
- ・放課後等デイサービスの充実・施設の増設
- ・入浴サービスの充実
- ・重度訪問介護の充実
- ・移動支援の充実
- ・強度行動障害がある方への支援の充実

（各種施設）

- ・グループホームの増設
- ・短期入所施設の増設
- ・重度障害がある方や医療的ケアのある方が利用できる施設の増設

（保育・教育）

- ・送迎支援の充実
- ・インクルーシブ教育の充実
- ・人材教育の促進
- ・特別支援学級の充実

(雇用・就労)

- ・障害者の働く場の拡大
- ・仕事を続けられる支援の充実
- ・ジョブコーチの充実

(社会参加・地域とのつながり)

- ・余暇活動場所、事業の充実
- ・バリアフリー化の促進

(その他)

- ・経済的支援の充実
- ・理解の啓発
- ・災害時の支援体制の充実
- ・選挙の投票に参加しやすくする支援の充実

## 【精神障害者】

(相談・情報提供)

- ・幅広い情報の提供、定期的な情報提供
- ・気軽に相談できる窓口の充実

(各種申請・手続き)

- ・オンライン申請の充実
- ・申請窓口の一元化
- ・サービスの申請から提供までの迅速化

(各種サービス)

- ・居宅介護の充実

(各種施設)

- ・入所施設の充実
- ・短期入所施設の充実

(雇用・就労)

- ・一般就労支援の充実
- ・就労に関して相談できる窓口の充実

(社会参加・地域とのつながり)

- ・日中の居場所の充実
- ・地域のイベントの情報発信

(その他)

- ・経済的支援の充実
- ・障害理解の啓発

## 【難病患者】

(相談・情報提供)

- ・気軽に相談できる窓口の充実
- ・幅広い情報の提供、定期的な情報提供

(各種申請・手続き)

- ・オンライン申請の充実
- ・申請窓口の一元化
- ・申請の簡略化

(各種サービス)

- ・居宅介護の充実

(各種施設)

- ・短期入所施設の増設

(雇用・就労)

- ・就労に関して相談できる窓口の充実
- ・区内で働ける場の確保
- ・症状が進行した場合の就労支援の充実

(社会参加・地域とのつながり)

- ・バリアフリー化の促進
- ・地域のイベントの情報発信
- ・地域との交流事業の充実

(その他)

- ・商業施設のトイレ等の設備の充実
- ・助成制度、経済的支援の充実
- ・公共交通機関等の割引の充実
- ・難病患者理解の啓発
- ・選挙の投票に参加しやすくする支援の充実
- ・災害時の支援体制の充実

## 【施設入所者】

(各種サービス)

- ・相談支援の充実
- ・移動支援の充実

(各種施設)

- ・重度障害者の方のグループホームの増設

## 14 介助・援助者の意向

### (1) 介助・援助する方の性別

介助・援助する方の性別は、身体障害者では「男性」が11.6%、「女性」が36.7%となっている。

知的障害者では「男性」が13.6%、「女性」が71.0%となっている。

精神障害者では「男性」が13.7%、「女性」が18.4%となっている。

難病患者では「男性」が14.0%、「女性」が18.8%となっている。

児童発達支援事業利用者では「男性」が5.9%、「女性」が77.1%となっている。

(単位：%)

区分	n	男性	女性	その他	無回答
身体障害者	562	11.6	36.7	-	51.8
知的障害者	442	13.6	71.0	-	15.4
精神障害者	452	13.7	18.4	0.4	67.5
難病患者	437	14.0	18.8	-	67.3
児童発達支援事業利用者	153	5.9	77.1	-	17.0

### (2) 介助・援助する方の年齢

介助・援助する方の年齢は、身体障害者では「50歳代」が11.9%と最も多くなっている。

知的障害者では「50歳代」が26.2%と最も多くなっている。

精神障害者では「60歳代」が8.4%と最も多くなっている。

難病患者では「70歳代」が8.5%と最も多くなっている。

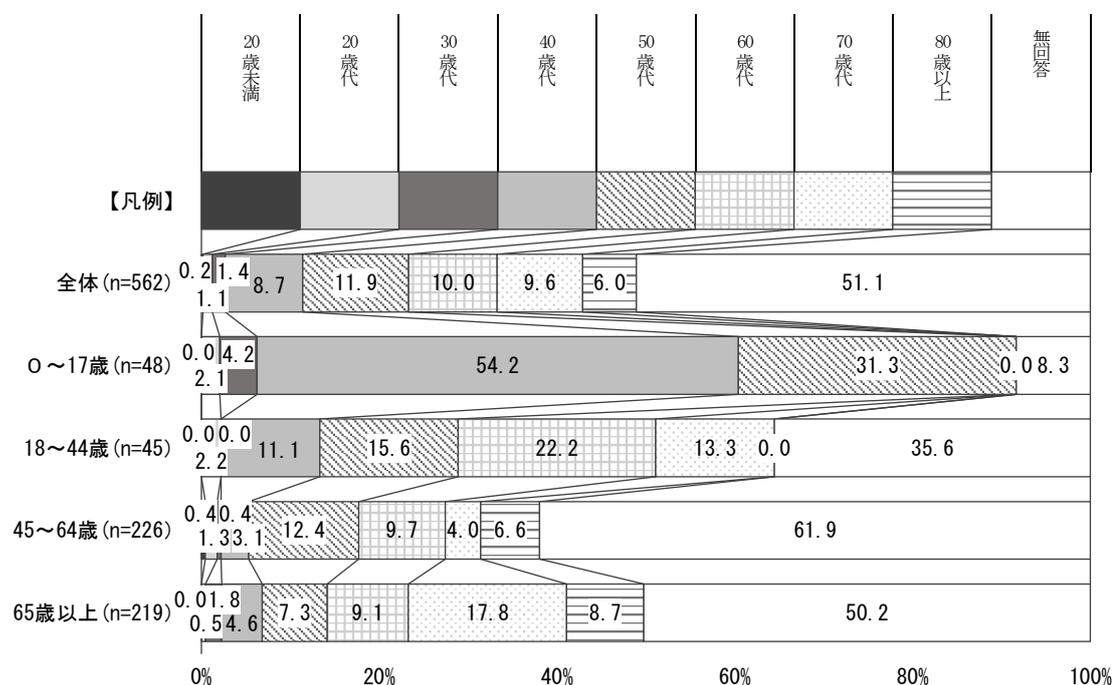
児童発達支援事業利用者では「40歳代」が41.8%と最も多くなっている。

(単位：%)

区分	n	20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上	無回答
身体障害者	562	0.2	1.1	1.4	8.7	11.9	10.0	9.6	6.0	51.1
知的障害者	442	0.7	0.7	4.8	24.7	26.2	18.6	7.5	2.5	14.5
精神障害者	452	-	0.7	1.1	2.7	8.2	8.4	8.0	5.3	65.7
難病患者	437	0.2	0.5	1.1	3.7	6.6	8.2	8.5	5.7	65.4
児童発達支援事業利用者	153	0.7	2.0	36.6	41.8	1.3	-	0.7	-	17.0

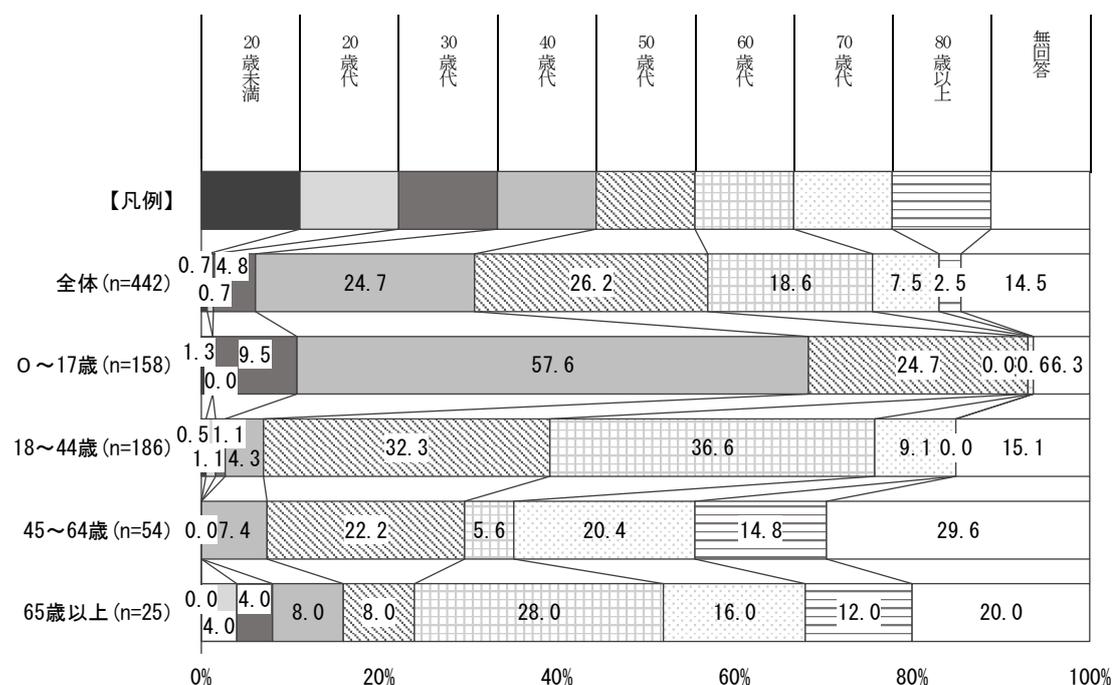
## 【身体障害者】

介助・援助者の年齢を、本人の年齢4区分別にみると、0～17歳では「40歳代」が54.2%と最も多くなっている。また、65歳以上では「70歳代」が17.8%と最も多くなっている。



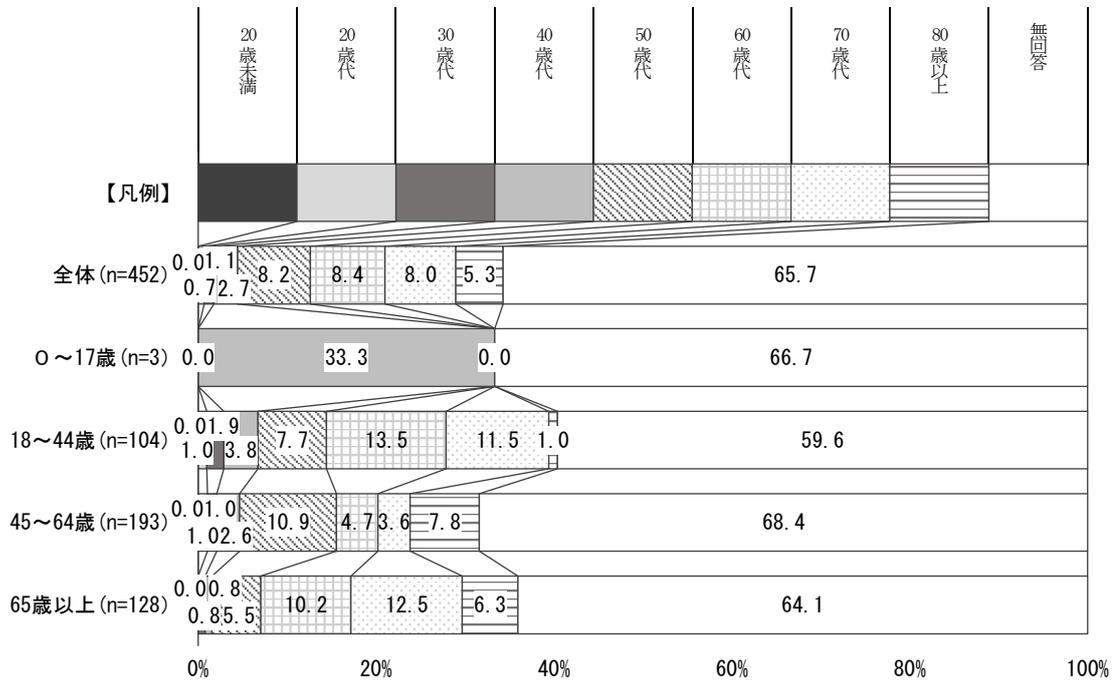
## 【知的障害者】

介助・援助者の年齢を、本人の年齢4区分別にみると、0～17歳では「40歳代」が57.6%と最も多くなっている。18～44歳では「60歳代」が36.6%と最も多くなっている。



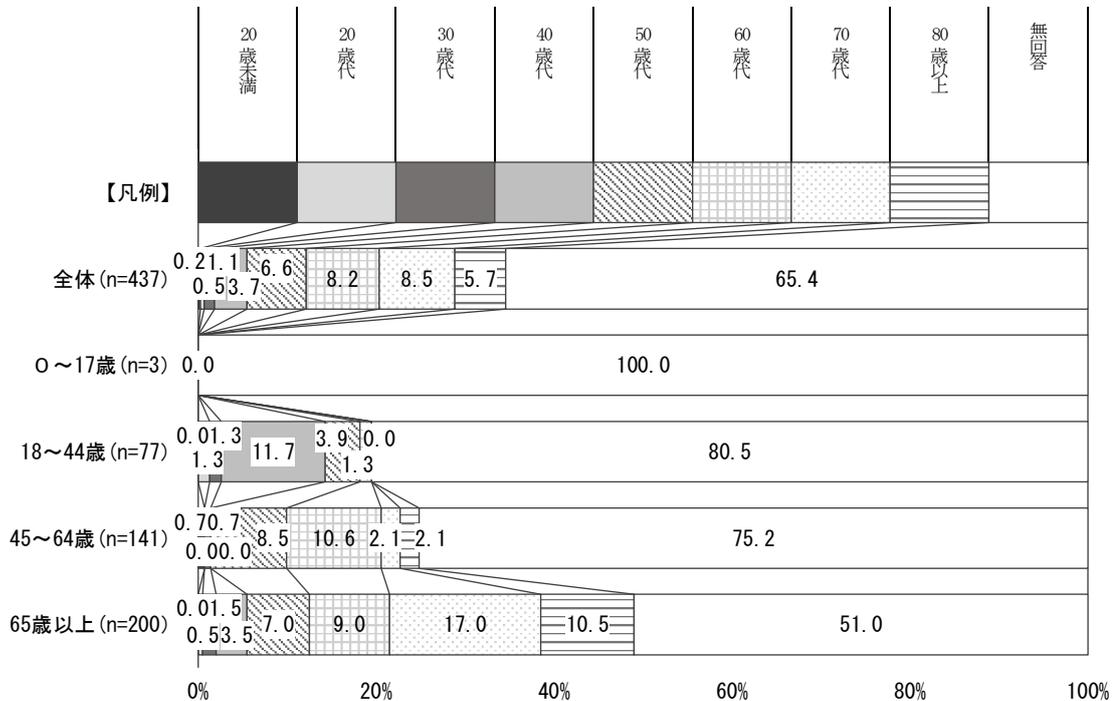
## 【精神障害者】

介助・援助者の年齢を、本人の年齢4区分別にみると、18～44歳では「60歳代」が13.5%と最も多く、45～64歳では「50歳代」が10.9%と最も多くなっている。



## 【難病患者】

介助・援助者の年齢を、本人の年齢4区分別にみると、18～44歳では「40歳代」が11.7%、45～64歳では「60歳代」が10.6%、65歳以上では「70歳代」が17.0%と最も多くなっている。



### (3) 介助・援助する方の続柄

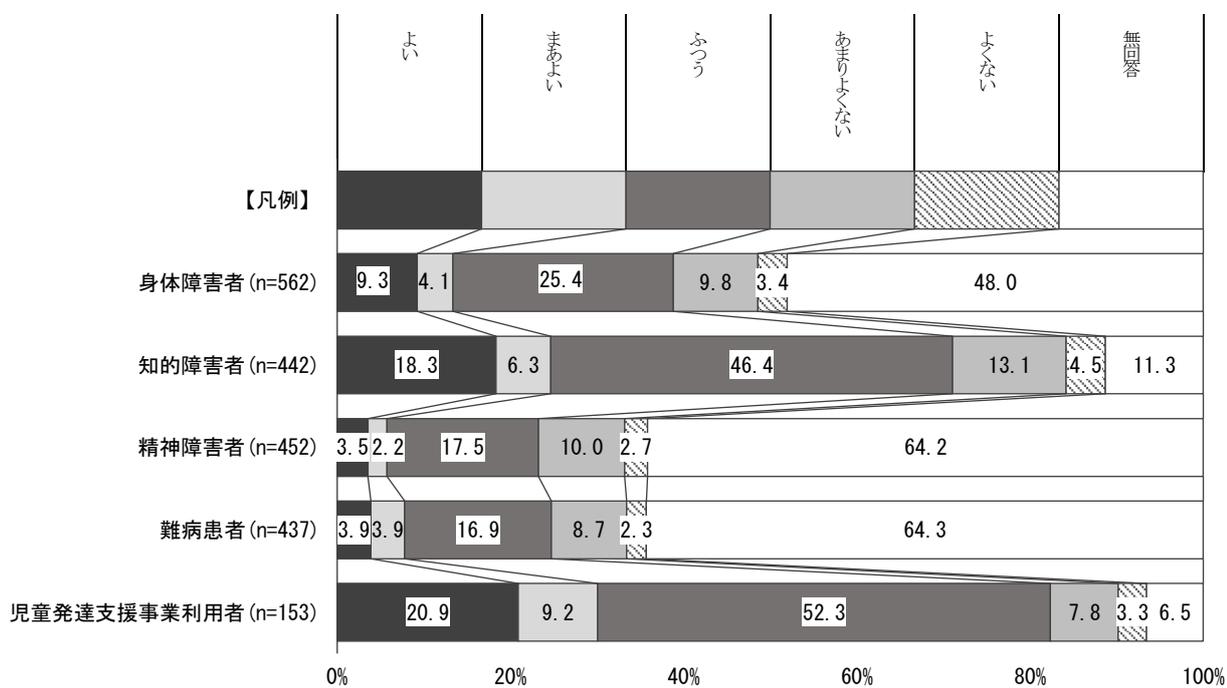
介助・援助する方の続柄について、難病患者を除いたいずれの障害種別において「母」が最も多く、身体障害者では15.7%、知的障害者では67.4%、精神障害者では8.8%、児童発達支援事業利用者では61.4%となっている。また、難病患者では「夫」が12.4%と最も多くなっている。

(単位：%)

区分	身体障害者 (n=562)	知的障害者 (n=442)	精神障害者 (n=452)	難病患者 (n=437)	児童発達 支援事業 利用者 (n=153)
夫	5.2	-	6.2(3位)	12.4(2位)	3.9
妻	14.4(3位)	0.5	4.9	9.6(3位)	13.7(3位)
息子	4.3	1.8	1.8	3.0	0.7
娘	3.6	0.2	2.4	5.3	0.7
子の夫	0.2	-	0.0	-	-
子の妻	0.4	0.2	0.2	0.2	-
父	0.9	7.5(3位)	3.5	-	0.7
母	15.7(2位)	67.4(1位)	8.8(2位)	2.5	61.4(1位)
兄弟	1.8	4.5	2.9	0.9	-
孫	-	-	0.0	-	0.7
その他	2.3	2.5	1.8	0.9	0.7
無回答	51.4(1位)	15.4(2位)	67.5(1位)	65.2(1位)	17.6(2位)

#### (4) 介助・援助する方の健康状態

介助・援助者の健康状態が“良くない”人（「あまりよくない」、「よくない」の合計）は身体障害者では13.2%、知的障害者では17.6%、精神障害者では12.7%、難病患者では11.0%、児童発達支援事業利用者では11.1%となっている。



## (5) 介助・援助する方の就労・就学状況

### ① 就労・就学状況

介助・援助する方の就労・就学状況は、いずれの障害種別においても「無職」が最も多く、身体障害者では 22.2%、知的障害者では 32.1%、精神障害者では 15.3%、難病患者では 16.2%、児童発達支援事業利用者では 45.8%となっている。

(単位：%)

区分	身体障害者 (n=562)	知的障害者 (n=442)	精神障害者 (n=452)	難病患者 (n=437)	児童発達 支援事業 利用者 (n=153)
正規社員	7.8	18.6(3位)	5.3	8.0(3位)	19.0(3位)
非正規社員	2.5	4.3	2.2	1.4	2.6
パート・アルバイト	10.9(3位)	22.9(2位)	6.6(3位)	5.3	19.6(2位)
学生	0.2	1.6	0.2	0.2	0.0
無職	22.2(2位)	32.1(1位)	15.3(2位)	16.2(2位)	45.8(1位)
その他	4.3	5.4	4.0	2.7	7.2
無回答	52.1(1位)	15.2	66.4(1位)	66.1(1位)	5.9

### ② 今後の就労意向

介助・援助する方の今後の就労意向は、いずれの障害種別においても「現在と同様の形で働きたい」が最も多く、身体障害者では 28.4%、知的障害者では 34.0%、精神障害者では 27.2%、難病患者では 34.0%、児童発達支援事業利用者では 29.2%となっている。

(単位：%)

区分	身体障害者 (n=268)	知的障害者 (n=368)	精神障害者 (n=151)	難病患者 (n=151)	児童発達 支援事業 利用者 (n=144)
現在と同様の形で働きたい	28.4(1位)	34.0(1位)	27.2(1位)	34.0(1位)	29.2(1位)
正規社員として働きたい	7.1	7.3	6.0	4.1	13.2
非正規社員として働きたい	1.9	1.6	2.0	2.0	2.1
パート・アルバイトとして働きたい	11.2	18.8(2位)	13.9(2位)	7.5	28.5(2位)
わからない	16.8(3位)	17.1(3位)	13.2	17.7(3位)	14.6(3位)
働きたくない	17.9(2位)	11.7	27.2(1位)	23.1(2位)	4.9
無回答	16.8(3位)	9.5	10.6	11.6	7.6

※ベース：就労・就学状況で学生以外を回答した人

## (6) 介助・援助するにあたって困っていること（複数回答）

介助・援助するにあたって困っていることは、身体障害者では「長期的な外出ができない」、「精神的な負担が大きい」がともに13.0%となっている。知的障害者では「長期的な外出ができない」、「精神的な負担が大きい」がともに27.1%と最も多くなっている。精神障害者、児童発達支援事業利用者では「精神的な負担が大きい」がそれぞれ12.6%、34.0%と最も多くなっている。難病患者では「長期的な外出ができない」、「年齢的に負担が大きい」がともに8.0%と最も多くなっている。

(単位：%)

区 分	身体障害者 (n=562)	知的障害者 (n=442)	精神障害者 (n=452)	難病患者 (n=437)	児童発達 支援事業 利用者 (n=153)
介助・援助の方法がわからない	3.9	2.9	3.1	1.4	12.4
福祉サービス等の情報が不足している	7.7	16.7	4.6	3.2	12.4
福祉サービス等が十分に利用できない	8.4	16.1	3.5	1.6	12.4
余暇など自分の時間が持てない	11.2	20.8 (3位)	5.8	4.8	26.1 (2位)
ちょっとした外出ができない	6.9	12.2	3.1	3.4	19.0
仕事に出られない	4.4	9.7	1.8	1.6	22.2 (3位)
長期的な外出ができない	13.0 (2位)	27.1 (1位)	8.2	8.0 (2位)	15.7
睡眠不足である	10.9	17.4	4.9	4.6	19.0
身体的な負担が大きい	11.2	17.0	5.8	5.0	16.3
年齢的に負担が大きい	11.9	20.8 (3位)	10.2 (3位)	8.0 (2位)	9.8
孤独感がある	4.1	7.9	4.4	1.6	20.9
精神的な負担が大きい	13.0 (2位)	27.1 (1位)	12.6 (2位)	7.3	34.0 (1位)
経済的な負担が大きい	10.7	13.6	8.2	5.9	14.4
他にも介助の必要な家族・親族がいる	5.5	11.1	4.9	3.7	5.9
他の家族の援助が足りない	3.7	5.9	1.5	1.8	5.9
隣近所の人との関係づくりが難しい	2.5	11.8	2.4%	1.6	10.5
何かの際に相談や介助を頼める人がいない	6.2	15.6	5.5%	3.2	14.4
その他	2.1	3.4	1.1%	1.6	1.3
特になし	13.9 (1位)	14.3	8.2%	9.6	22.2 (3位)
無回答	54.3	24.2	68.1% (1位)	67.5 (1位)	5.9

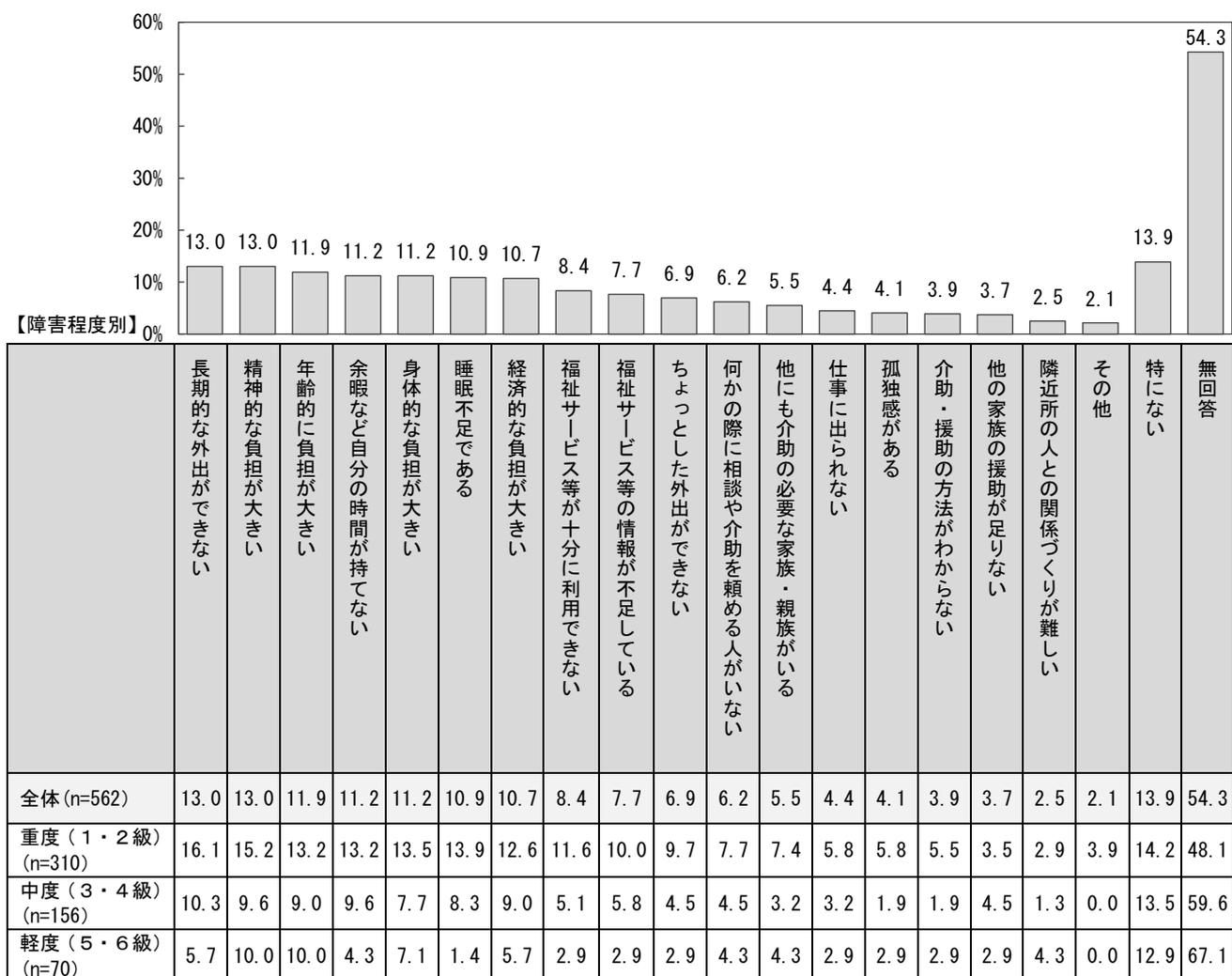
【前回調査との比較】

(単位：%)

区分		1位	2位	3位
身体障害者	今回 (n=562)	特にない (13.9)	長期的な外出 ができない/精 神的な負担が 大きい (同率 13.0)	
	前回 (n=341)	長期的な外 出ができない (23.2)	年齢的に負担 が大きい (22.9)	精神的な負 担が大きい (19.9)
知的障害者	今回 (n=442)	長期的な外 出ができない/精神的 な負担が大 きい (同率 27.1)		余暇など自 分の時間が 持てない/年 齢的に負担 が大きい (同率 20.8)
	前回 (n=422)	長期的な外 出ができない (33.6)	精神的な負担 が大きい (32.5)	年齢的に負 担が大きい (24.4)
精神障害者	今回 (n=452)	精神的な負 担が大きい (12.6)	年齢的に負担 が大きい (10.2)	長期的な外 出ができない (8.2)
	前回 (n=207)	精神的な負 担が大きい (20.3)	経済的な負担 が大きい (17.9)	特にない (16.4)
児童発達 支援事業 利用者	今回 (n=153)	精神的な負 担が大きい (34.0)	余暇など自 分の時間が持 てない (26.1)	仕事に 出られない/ 特にな い (同率 22.2)
	前回 (n=127)	精神的な負 担が大きい (34.6)	特にない (30.7)	余暇など自 分の時間が 持てない (29.9)

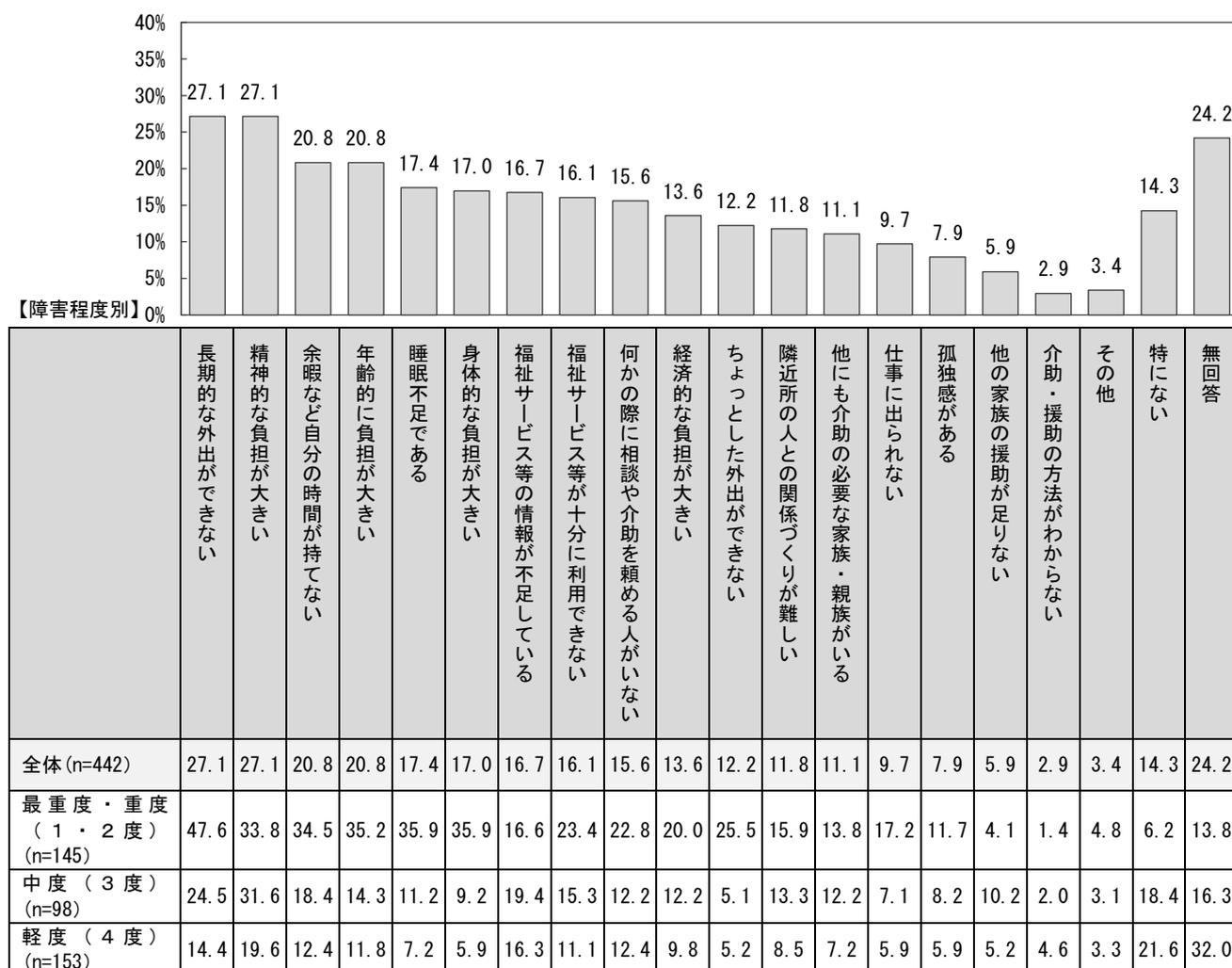
## 【身体障害者】

障害の程度別にみると、重度（1・2級）では「長期的な外出ができない」が16.1%と最も多く、次いで「精神的な負担が大きい」が15.2%となっている。



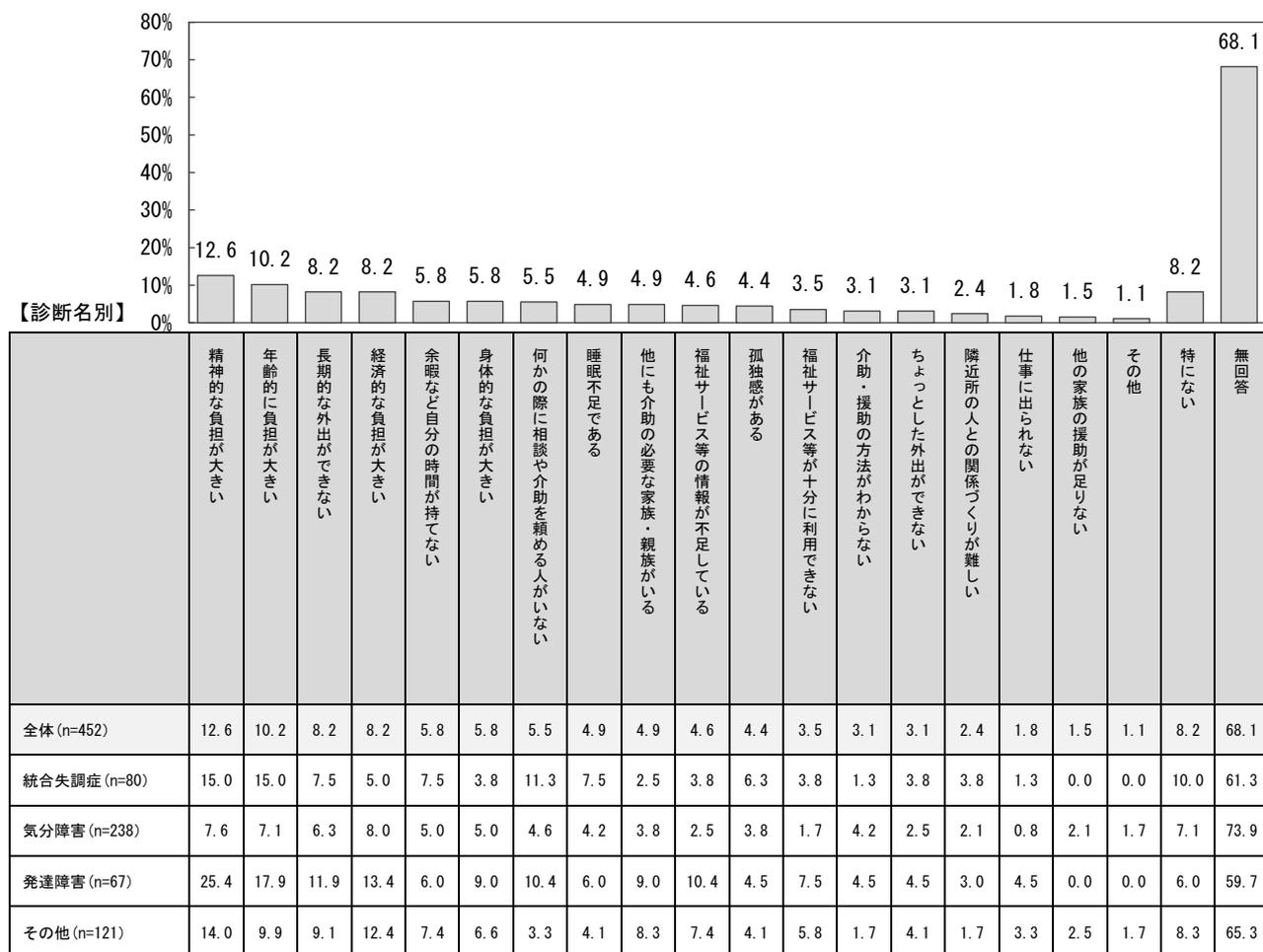
## 【知的障害者】

障害の程度別にみると、「長期的な外出ができない」と回答した人は、軽度（4度）では14.4%、中度（3度）では24.5%だが、最重度・重度（1・2度）では47.6%と他の障害の程度と比べて多くなっている。



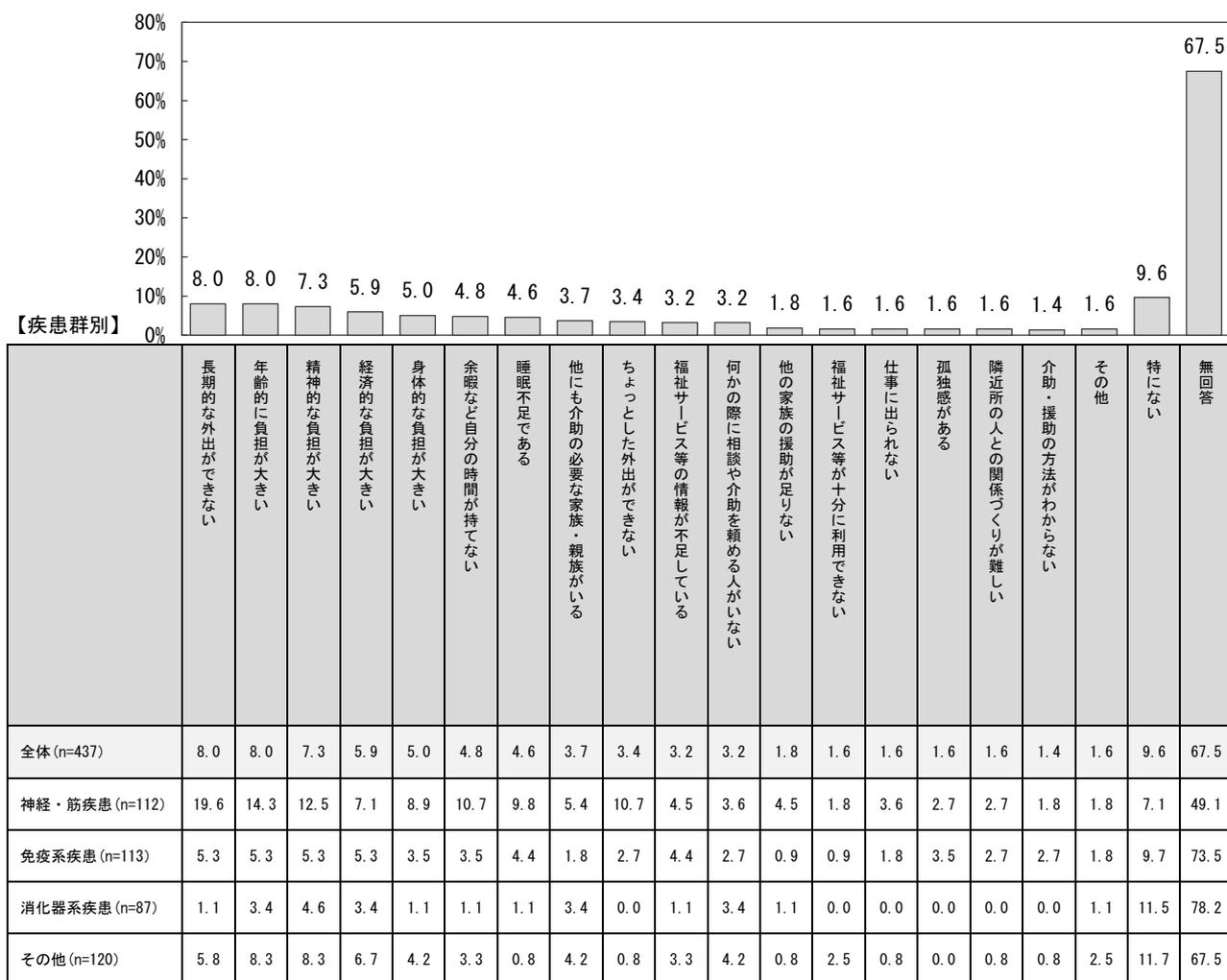
## 【精神障害者】

診断名別にみると、「精神的な負担が大きい」と回答した人の割合は、統合失調症と診断されている人では15.0%、気分障害と診断されている人では7.6%であることに比べ、発達障害と診断されている人では25.4%と多くなっている。



## 【難病患者】

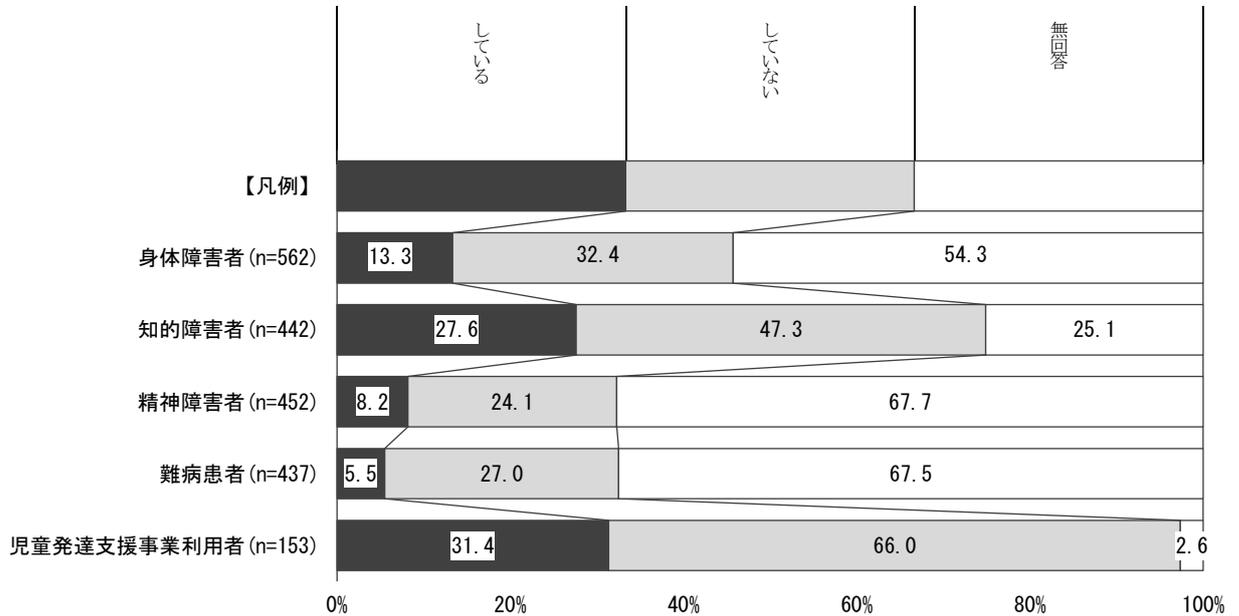
疾患群別にみると、神経・筋疾患では「長期的な外出ができない」が19.6%と他の疾患群と比べて多くなっている。



## (7) 当該障害者以外の育児・介護等の状況

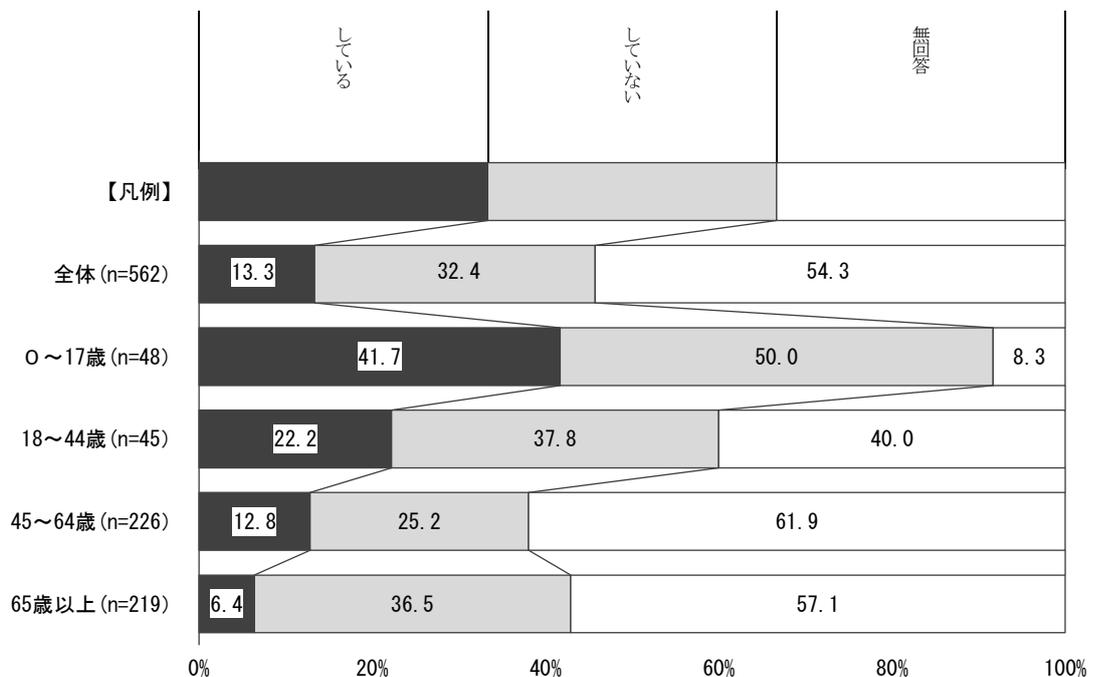
### ① 当該障害者以外に育児・介護等が必要な人の有無

当該障害者以外に育児・介護等を「している」と回答したのは身体障害者では 13.3%、知的障害者では 27.6%、精神障害者では 8.2%、難病患者では 5.5%、児童発達支援事業利用者では 31.4%となっている。



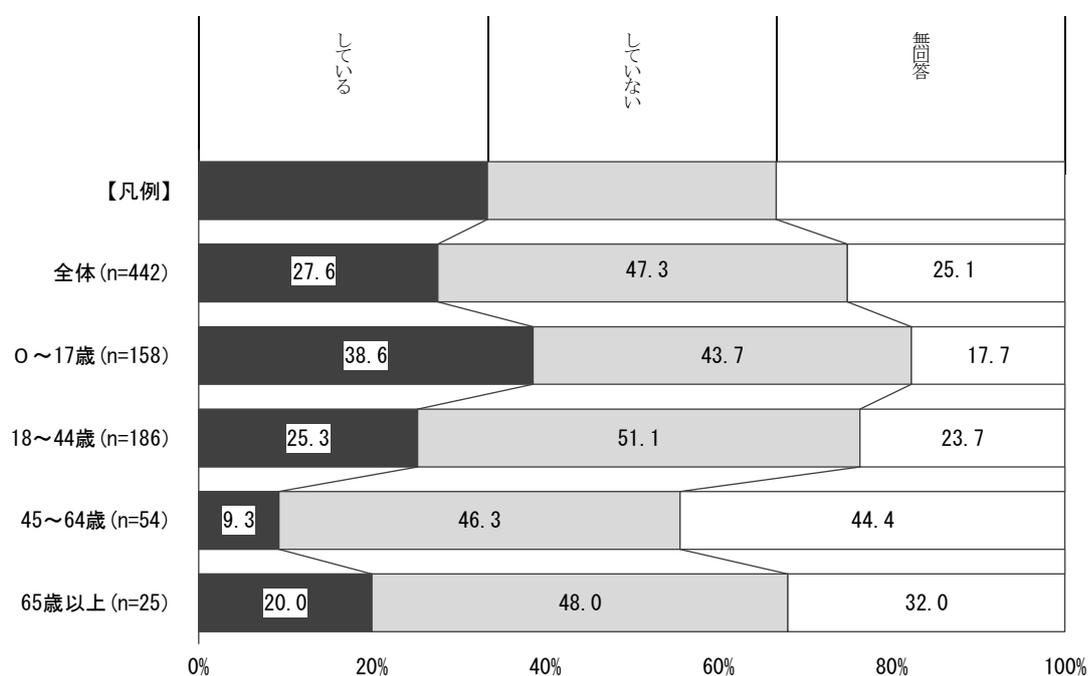
### 【身体障害者】

年齢4区分別にみると、0～17歳では当該障害者以外に育児・介護等を「している」が 41.7%となっており、年代が上がるにつれて減少している。



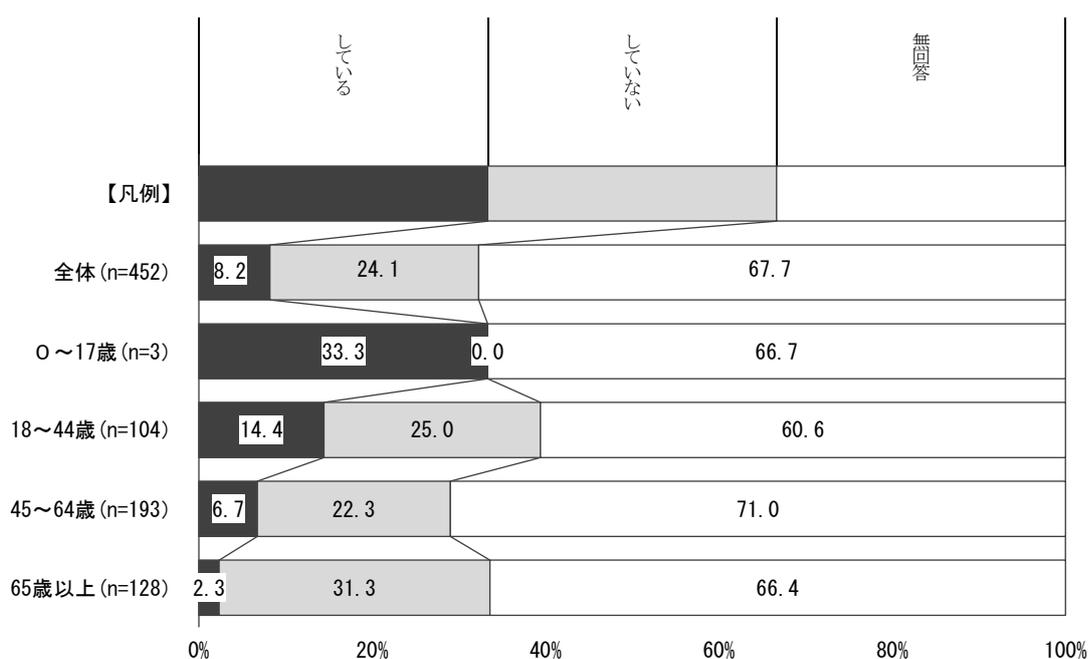
## 【知的障害者】

年齢4区分別にみると、当該障害者以外に育児・介護等を「している」と回答した人は、0～17歳では38.6%、18～44歳では25.3%となっている。



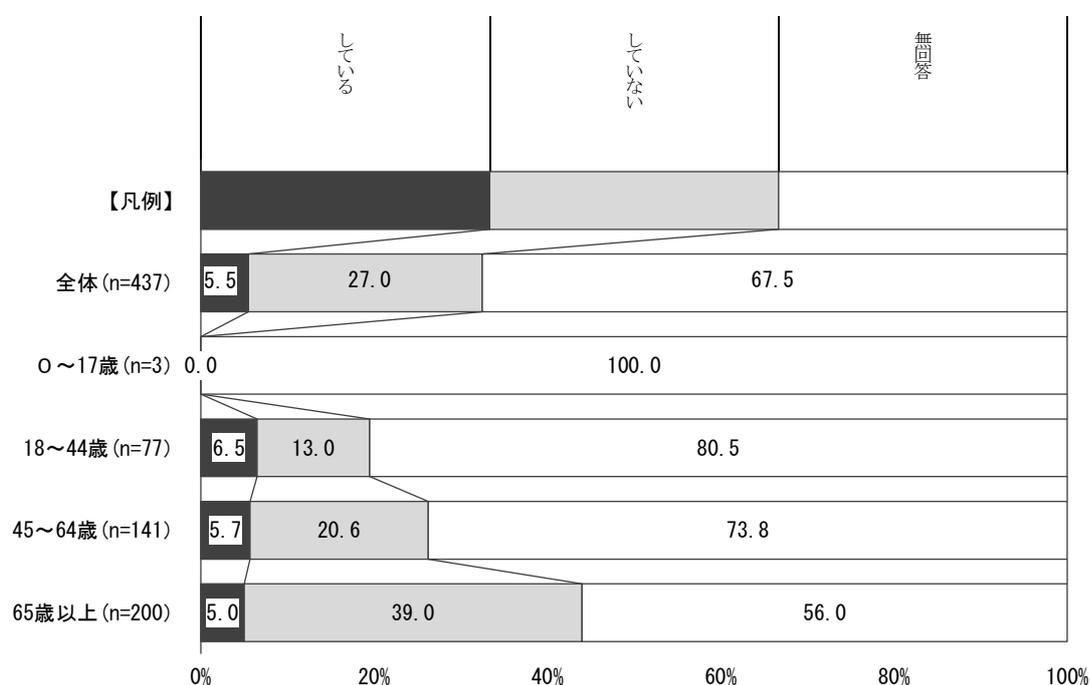
## 【精神障害者】

年齢4区分別にみると、当該障害者以外に育児・介護等を「している」と回答した人は、18～44歳では14.4%、45～64歳では6.7%、65歳以上では2.3%と年代が上がるにつれて減少している。



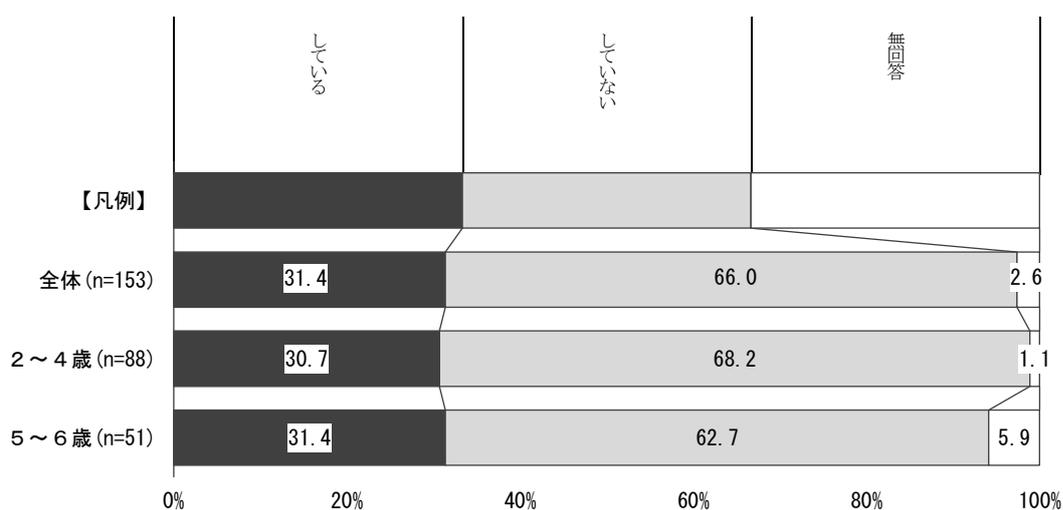
## 【難病患者】

年齢4区分別にみると、当該障害者以外に育児・介護等を「している」と回答した人は、18～44歳では6.5%、45～64歳では5.7%、65歳以上では5.0%となっている。



## 【児童発達支援事業利用者】

年齢2区分別にみると、当該障害者以外に育児・介護等を「している」と回答した人は、2～4歳では30.7%、5～6歳では31.4%となっている。



## ② 育児・介護等が必要な人と当該障害者との関係（複数回答）

育児・介護等が必要な人と当該障害者との関係は、知的障害者、児童発達支援事業利用者では「兄弟・姉妹」が最も多くなっている。

(単位：%)

区 分	身体障害者 (n=75)	知的障害者 (n=122)	精神障害者 (n=37)	難病患者 (n=24)	児童発達 支援事業 利用者 (n=48)
兄弟・姉妹	18.7(2位)	39.3(1位)	21.6(3位)	8.3	79.2(1位)
父・母	33.3(1位)	18.9(3位)	27.0(1位)	37.5(1位)	8.3(2位)
祖父・祖母	10.7	17.2	16.2	8.3	6.3
子	17.3	20.5(2位)	24.3(2位)	33.3(2位)	
その他	18.7(2位)	4.9	16.2	16.7(3位)	2.1
無回答	8.0	6.6	5.4	-	8.3(2位)

※ベース：介助・援助者で他にも介護や子育て等をしていると回答した人

## ③ 介助・援助を必要とする理由（複数回答）

当該障害者以外で介助・援助を必要とする理由は、身体障害者では「高齢のため」が49.3%、知的障害者では「育児中のため」36.9%、精神障害者では「高齢のため」48.6%、難病患者では「高齢のため」58.3%、児童発達支援事業利用者では「育児中のため」79.2%と最も多くなっている。

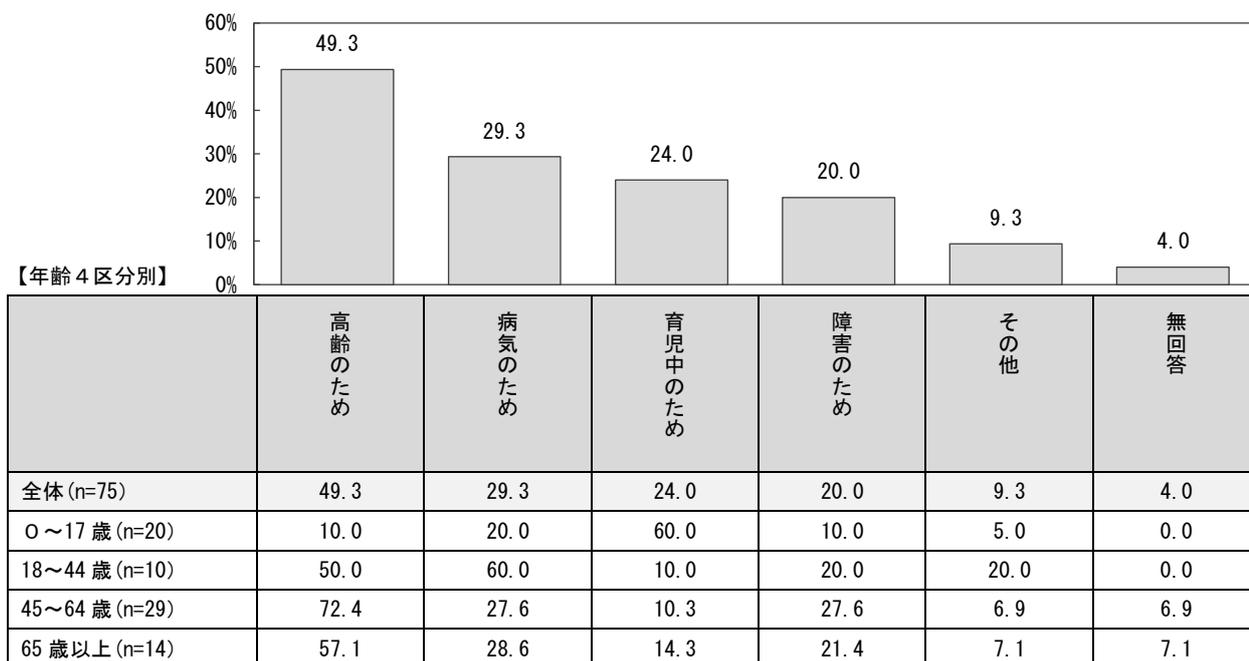
(単位：%)

区 分	身体障害者 (n=75)	知的障害者 (n=122)	精神障害者 (n=37)	難病患者 (n=24)	児童発達 支援事業 利用者 (n=48)
病気のため	29.3(2位)	14.8	27.0(3位)	12.5	4.2(3位)
障害のため	20.0	21.3(3位)	29.7(2位)	20.8(3位)	14.6(2位)
高齢のため	49.3(1位)	32.8(2位)	48.6(1位)	58.3(1位)	4.2(3位)
育児中のため	24.0(3位)	36.9(1位)	18.9	29.2(2位)	79.2(1位)
その他	9.3	5.7	13.5	12.5	2.1
無回答	4.0	4.9	2.7	-	4.2(3位)

※ベース：介助・援助者で他にも介護や子育て等をしていると回答した人

## 【身体障害者】

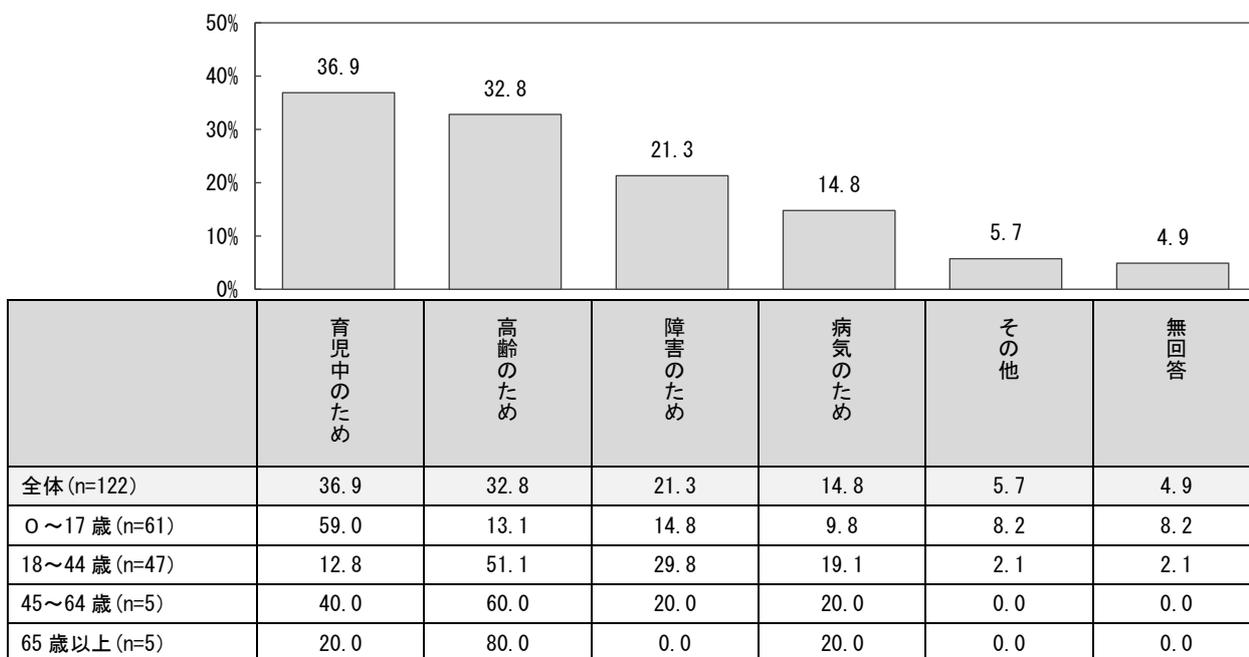
年齢4区分別にみると、0～17歳では「育児中のため」が60.0%と最も多くなっている。



※ベース：介助・援助者で他にも介護や子育て等をしていると回答した人

## 【知的障害者】

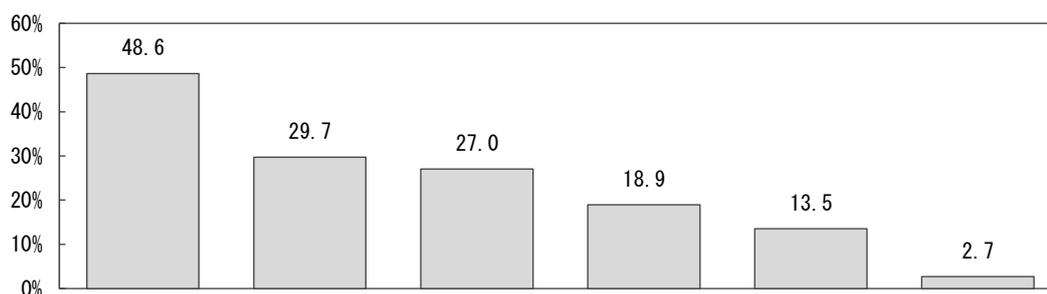
年齢4区分別にみると、0～17歳では「育児中のため」が59.0%と最も多くなっている。  
18～44歳では「高齢のため」が51.1%と最も多くなっている。



※ベース：介助・援助者で他にも介護や子育て等をしていると回答した人

## 【精神障害者】

年齢4区分別にみると、45～64歳では「高齢のため」が53.8%と最も多くなっている。

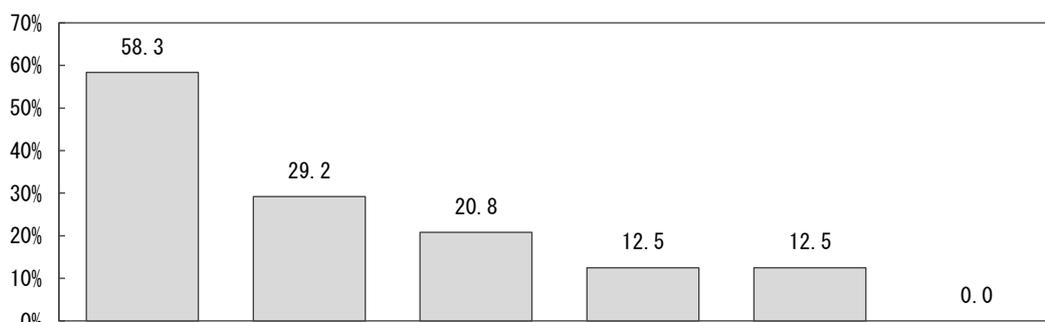


	高齢のため	障害のため	病気のため	育児中のため	その他	無回答
全体 (n=37)	48.6	29.7	27.0	18.9	13.5	2.7
0～17歳 (n=1)	0.0	0.0	100	100	0.0	0.0
18～44歳 (n=15)	40.0	40.0	26.7	13.3	13.3	6.7
45～64歳 (n=13)	53.8	30.8	23.1	30.8	7.7	0.0
65歳以上 (n=3)	66.7	0.0	33.3	0.0	33.3	0.0

※ベース：介助・援助者で他にも介護や子育て等をしていると回答した人

## 【難病患者】

年齢4区分別にみると、65歳以上では「高齢のため」が50.0%と最も多くなっている。

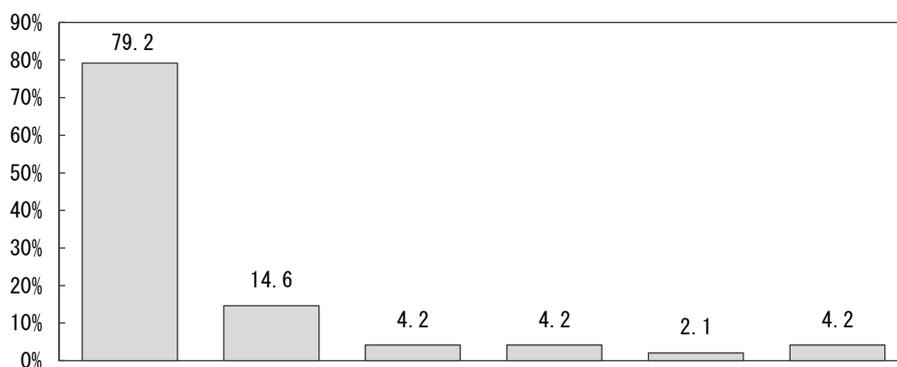


	高齢のため	育児中のため	障害のため	病気のため	その他	無回答
全体 (n=24)	58.3	29.2	20.8	12.5	12.5	0.0
0～17歳 (n=0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
18～44歳 (n=5)	40.0	60.0	0.0	0.0	0.0	0.0
45～64歳 (n=8)	75.0	25.0	25.0	25.0	0.0	0.0
65歳以上 (n=10)	50.0	20.0	30.0	10.0	30.0	0.0

※ベース：介助・援助者で他にも介護や子育て等をしていると回答した人

## 【児童発達支援事業利用者】

年齢2区分別にみると、どの年齢でも「育児中のため」が最も多くなっている。



	育児中のため	障害のため	病気のため	高齢のため	その他	無回答
全体 (n=48)	79.2	14.6	4.2	4.2	2.1	4.2
2～4歳 (n=27)	77.8	14.8	7.4	3.7	3.7	3.7
5～6歳 (n=16)	81.3	12.5	0.0	6.3	0.0	6.3

※ベース：介助・援助者で他にも介護や子育て等をしていると回答した人

## (8) 家族等支援として区に充実してほしい施策（複数回答）

区に充実してほしい家族等支援施策は、身体障害者、難病患者、児童発達支援事業利用者では「区からの情報提供を増やす」、知的障害者では「家族等の休養目的のショートステイを充実させる」、精神障害者では「家族等に対する相談体制を充実させる」が最も多くなっている。

(単位：%)

区 分	身体障害者 (n=562)	知的障害者 (n=442)	精神障害者 (n=452)	難病患者 (n=437)	児童発達支援 事業利用者 (n=153)
区からの情報提供を増やす	17.4(1位)	29.9(3位)	11.7(3位)	12.4(2位)	41.2(1位)
家族等の休養目的のショートステイを充実させる	12.6(2位)	37.6(1位)	6.0	7.3	36.6(2位)
家族等に対する相談体制を充実させる	11.0	31.9(2位)	11.9(2位)	6.4	34.0(3位)
障害特性の理解や、適切な対応をするための知識・方法を学ぶ家族向けプログラムを実施する	8.4	19.0	8.8	8.5(3位)	32.0
家族同士の交流や情報交換の場・機会をつくる	4.4	15.4	5.5	2.3	32.0
その他	2.8	5.9	3.8	2.3	9.2
特にない	12.6(2位)	10.4	7.1	8.2	13.1
無回答	55.7	25.8	69.0(1位)	68.9(1位)	5.9

【前回調査との比較】

(単位：%)

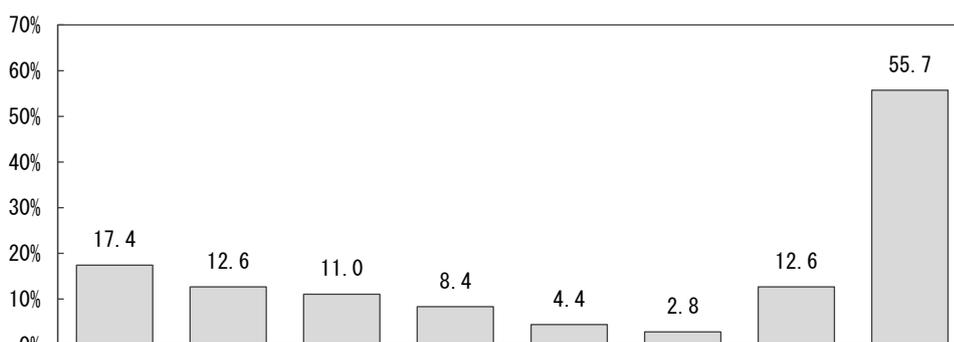
区分		1位	2位	3位
身体障害者	今回 (n=562)	区からの情報提供を増やす (17.4)	家族等の休養目的のショートステイを充実させる/特はない (同率 12.6)	
	前回 (n=341)	区からの情報提供を増やす (29.3)	家族等の休養目的のショートステイを充実させる (25.8)	家族等に対する相談体制を充実させる (22.9)
知的障害者	今回 (n=442)	家族等の休養目的のショートステイや一時保護を充実させる (37.6)	家族等に対する相談体制を充実させる (31.9)	区からの情報提供を増やす (29.9)
	前回 (n=442)	家族等の休養目的のショートステイを充実させる (48.1)	家族等に対する相談体制を充実させる (35.5)	区からの情報提供を増やす (33.6)
精神障害者	今回 (n=452)	家族等に対する相談体制を充実させる (11.9)	区からの情報提供を増やす (11.7)	障害特性の理解や、適切な対応をするための知識・方法を学ぶ家族向けプログラムを実施する (8.8)
	前回 (n=207)	家族等に対する相談体制を充実させる (24.6)	区からの情報提供を増やす (23.2)	障害特性の理解や、適切な対応をするための知識・方法を学ぶ家族向けプログラムを実施する (20.3)
難病患者	今回 (n=437)	区からの情報提供を増やす (12.4)	障害特性の理解や、適切な対応をするための知識・方法を学ぶ家族向けプログラムを実施する (8.5)	特はない (8.2)
	前回 (n=172)	区からの情報提供を増やす (27.9)	家族等に対する相談体制を充実させる (25.0)	家族等の休養目的のショートステイを充実させる (22.1)
児童発達支援事業利用者	今回 (n=153)	区からの情報提供を増やす (41.2)	家族等の休養目的のショートステイを充実させる (36.6)	家族等に対する相談体制を充実させる (34.0)
	前回 (n=127)	区からの情報提供を増やす (58.3)	家族等の休養目的のショートステイを充実させる (40.9)	障害特性の理解や、適切な対応をするための知識・方法を学ぶ家族向けプログラムを実施する (40.2)

## 【身体障害者】

障害の程度別にみると、いずれの障害の程度においても「区からの情報提供を増やす」は最も多く、重度（1・2級）では20.3%、中度（3・4級）では14.1%、軽度（5・6級）では11.4%となっている。

障害の種類別にみると、肢体不自由（体幹）では「区からの情報提供を増やす」、「家族等の休養目的のショートステイを充実させる」がともに25.0%となっている。

年齢4区分別にみると、18～44歳、45～64歳、65歳以上では「区からの情報提供を増やす」がそれぞれ22.2%、15.0%、17.4%と最も多くなっている。



【障害程度別】

	区からの情報提供を増やす	家族等の休養目的のショートステイを充実させる	家族等に対する相談体制を充実させる	障害特性の理解や、適切な対応をするための知識・方法を学ぶ家族向けプログラムを実施する	家族同士の交流や情報交換の場・機会をつくる	その他	特にない	無回答
全体 (n=562)	17.4	12.6	11.0	8.4	4.4	2.8	12.6	55.7
重度 (1・2級) (n=310)	20.3	16.8	14.2	9.0	4.8	2.9	11.6	51.9
中度 (3・4級) (n=156)	14.1	9.0	7.7	7.7	4.5	1.9	14.1	59.6
軽度 (5・6級) (n=70)	11.4	4.3	7.1	7.1	2.9	2.9	14.3	62.9

【障害の種類別】

障害の種類	区からの情報提供を増やす	家族等の休養目的のショートステイを充実させる	家族等に対する相談体制を充実させる	障害特性の理解や、適切な対応をするための知識・方法を学ぶ家族向けプログラムを実施する	家族同士の交流や情報交換の場・機会をつくる	その他	特にない	無回答
視覚障害 (n=81)	16.0	11.1	9.9	12.3	6.2	6.2	14.8	53.1
聴覚障害 (n=87)	12.6	5.7	6.9	8.0	4.6	0.0	10.3	66.7
平衡機能障害 (n=2)	50.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	50.0
音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害 (n=25)	12.0	16.0	4.0	8.0	4.0	4.0	12.0	60.0
肢体不自由 (上肢、下肢等) (n=140)	23.6	21.4	20.0	10.0	5.0	2.1	13.6	43.6
肢体不自由 (体幹) (n=40)	25.0	25.0	17.5	15.0	7.5	5.0	20.0	35.0
内部障害 (n=156)	11.5	6.4	5.8	2.6	1.9	1.9	11.5	67.9
その他 (n=7)	57.1	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	28.6

【年齢4区分別】

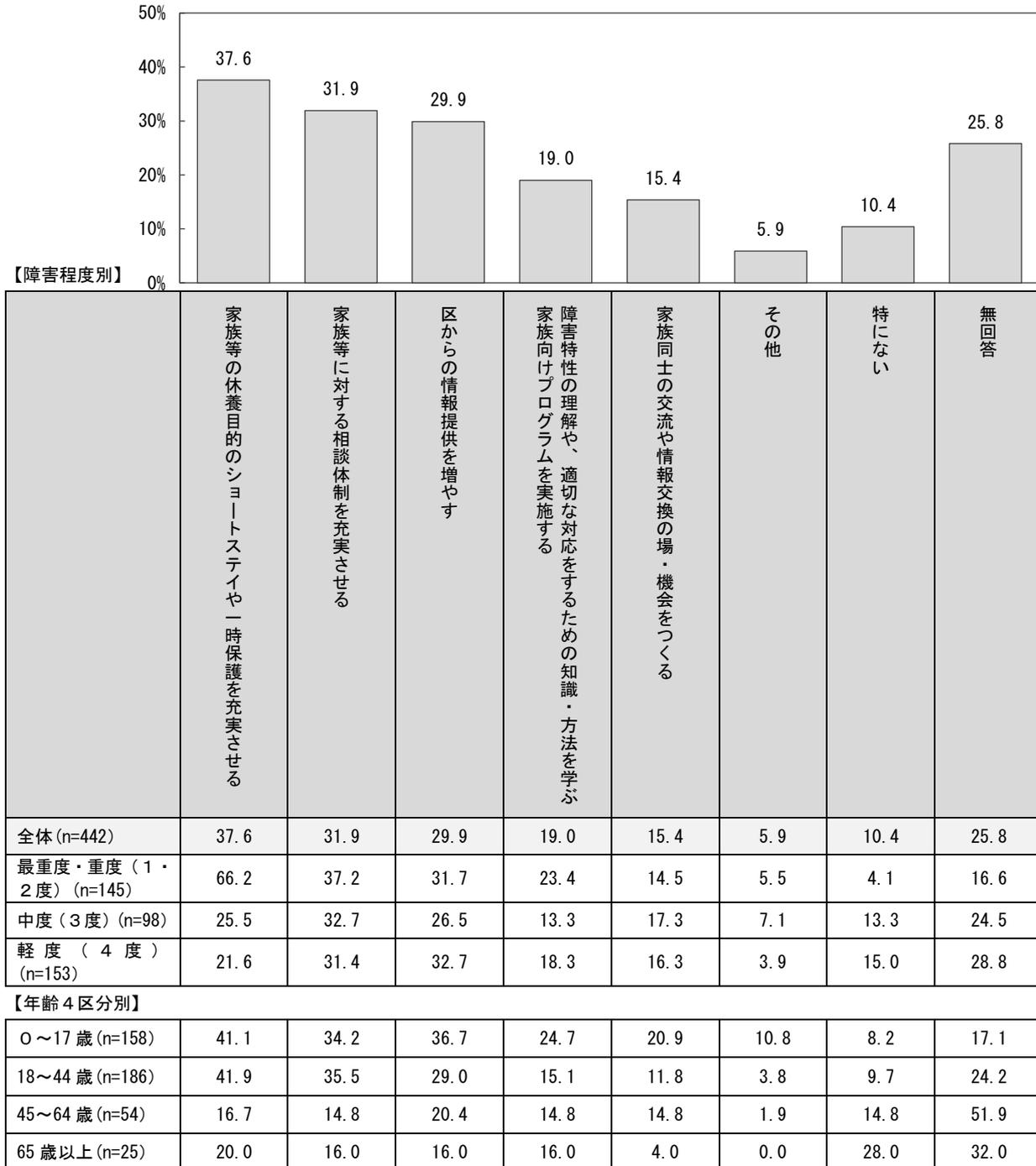
年齢区別	区からの情報提供を増やす	家族等の休養目的のショートステイを充実させる	家族等に対する相談体制を充実させる	障害特性の理解や、適切な対応をするための知識・方法を学ぶ家族向けプログラムを実施する	家族同士の交流や情報交換の場・機会をつくる	その他	特にない	無回答
0～17歳 (n=48)	33.3	37.5	31.3	22.9	8.3	8.3	8.3	10.4
18～44歳 (n=45)	22.2	17.8	17.8	13.3	6.7	6.7	11.1	46.7
45～64歳 (n=226)	15.0	8.8	9.3	7.5	5.3	2.2	10.6	64.6
65歳以上 (n=219)	17.4	11.4	7.3	5.9	2.7	1.8	15.5	56.2

※ベース：介助・援助者

## 【知的障害者】

障害の程度別にみると、最重度・重度（1・2度）では「家族等の休養目的のショートステイや一時保護を充実させる」が66.2%と最も多くなっている。

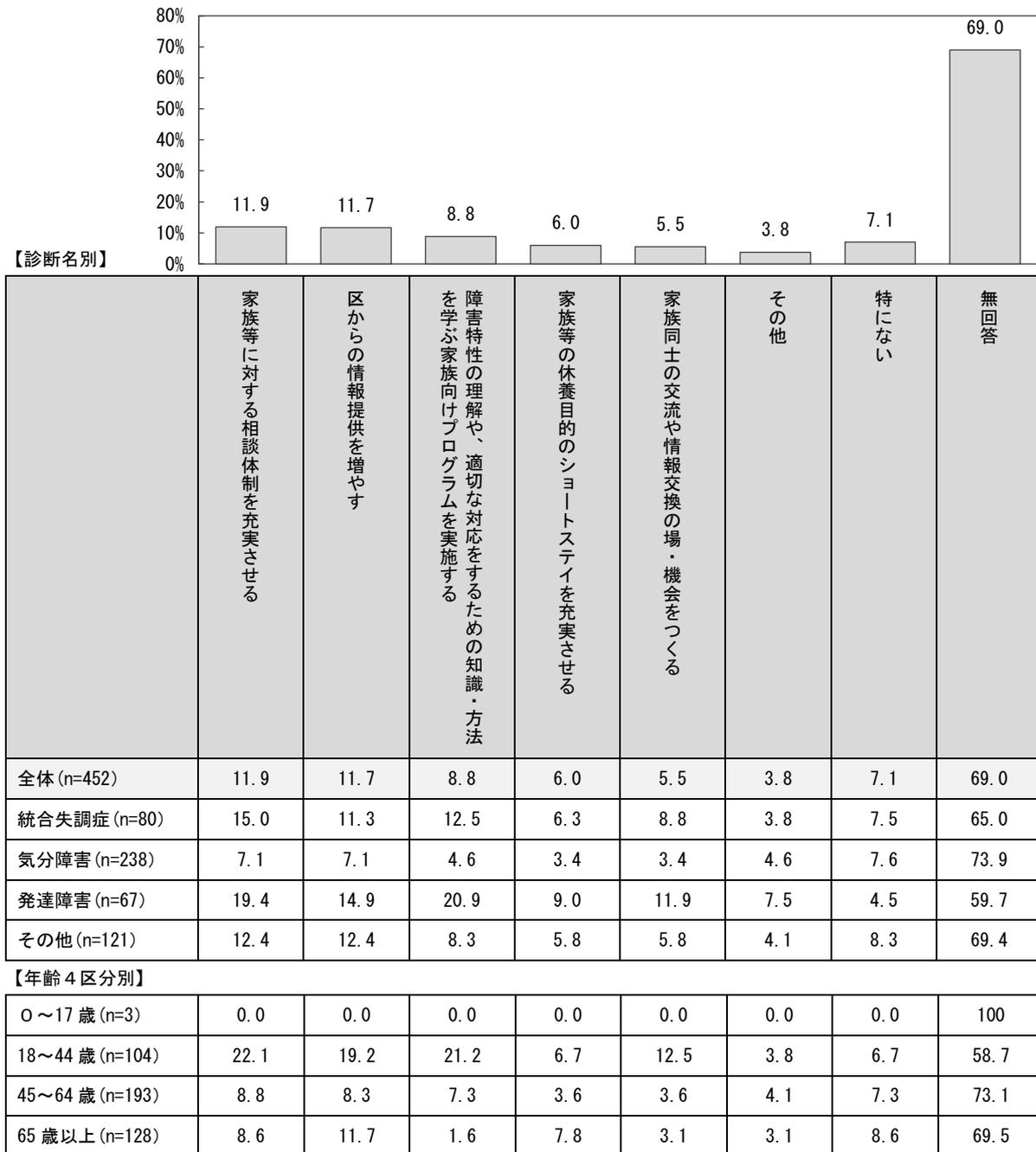
年齢4区分別にみると、0～17歳では「障害特性の理解や、適切な対応をするための知識・方法を学ぶ家族向けプログラムを実施する」が24.7%と他の障害の程度と比べて多くなっている。



## 【精神障害者】

診断名別にみると、「障害特性の理解や、適切な対応をするための知識・方法を学ぶ家族向けプログラムを実施する」と回答した人は、統合失調症と診断されている人では 12.5%、気分障害と診断されている人では 4.6%となっている一方で、発達障害と診断されている人では 20.9%と多くなっている。

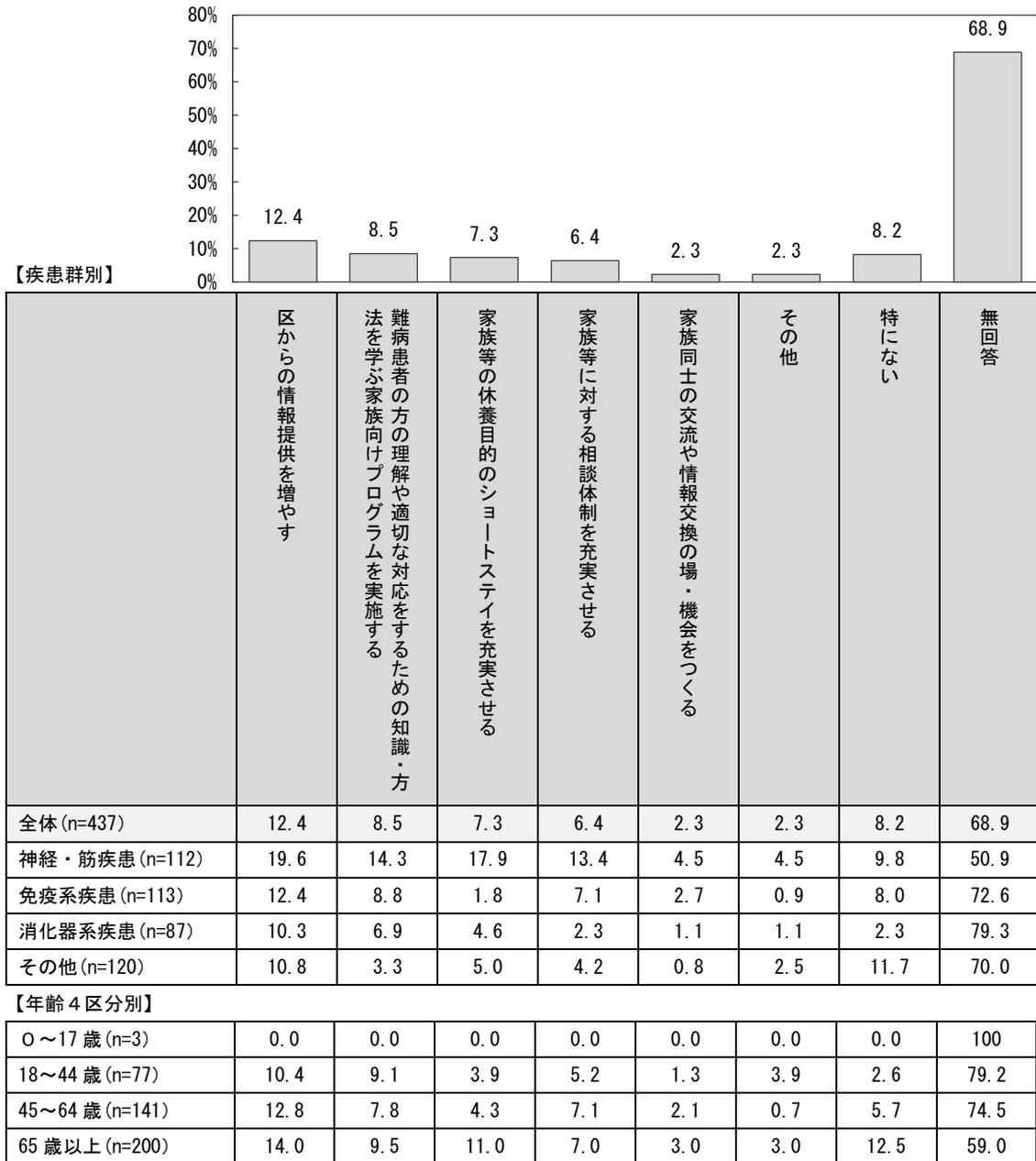
年齢 4 区分別にみると、18～44 歳では「区からの情報提供を増やす」が 22.1%と最も多く、次いで「障害特性の理解や、適切な対応をするための知識・方法を学ぶ家族向けプログラムを実施する」が 21.2%となっている。



## 【難病患者】

疾患群別にみると、神経・筋疾患では「区からの情報提供を増やす」と回答した人が19.6%と最も多く、次いで「家族等の休養目的のショートステイを充実させる」が17.9%となっている。

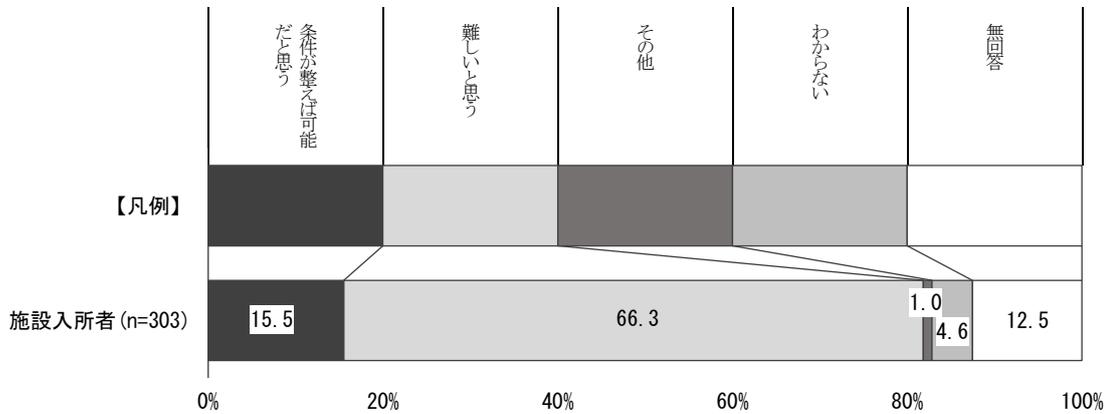
年齢4区別にみると、18～44歳、45～64歳、65歳以上では「区からの情報提供を増やす」が最も多くなっている。



(9) 地域で暮らすことの可能性と地域で暮らすための支援や環境（施設入所者のみ）

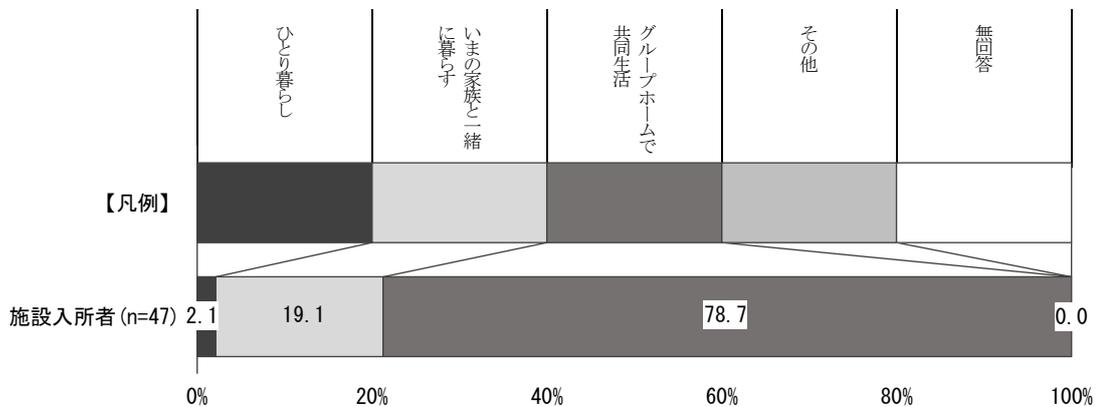
① 地域で暮らすことの可能性

施設入所者が地域で暮らすことについて、「条件を整えば可能だと思う」が15.5%、「難しいと思う」が66.3%となっている。



※ベース：介助・援助者

「条件を整えば地域での暮らしが可能」と回答した施設入所者が望ましいと思う地域での暮らし方は、「グループホームで共同生活」が78.7%と最も多くなっている。

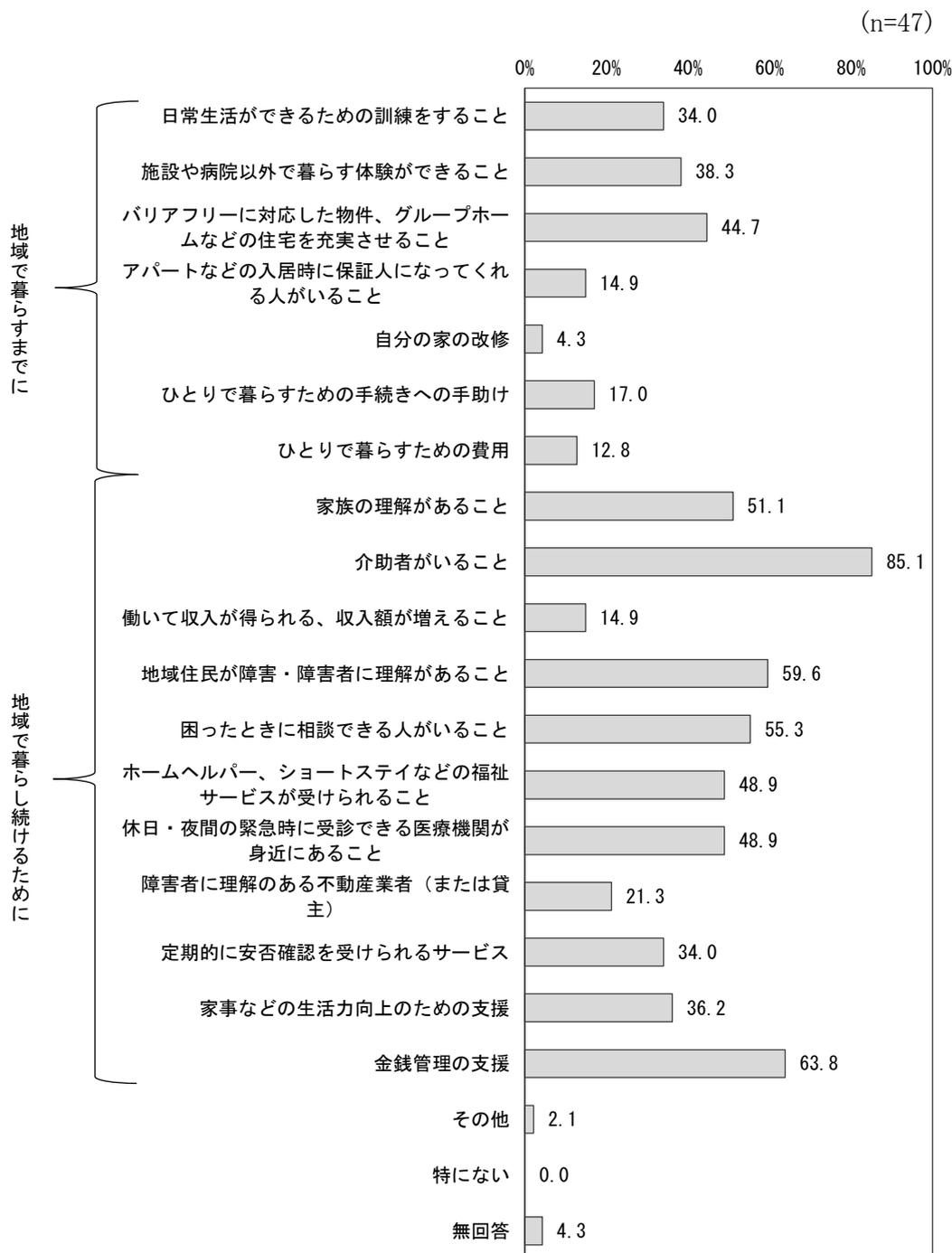


※ベース：介助・援助者で「条件を整えば地域での暮らしが可能」と回答した人

## ② 地域で暮らすために必要な支援や環境

施設入所者が地域で暮らすために必要な支援や環境について、“地域で暮らすまでに”では「バリアフリーに対応した物件、グループホームなどの住宅を充実させること」が44.7%と最も多くなっている。

“地域で暮らし続けるために”では「介助者がいること」が85.1%と最も多く、次いで「金銭管理の支援」が63.8%となっている。



※ベース：介助・援助者で「条件が整えば地域での暮らしが可能」と回答した人

## 【施設入所者の「施設からの退所が難しい理由」】（自由回答）

主な回答内容は、次のとおりである。

- ・強度の行動障害、知的障害があるため
- ・常時介護が必要なため
- ・一人で生活するスキルを身につけるのが難しいため
- ・何十年も同じ施設で生活を送っており、慣れない場所に移るのはかなり不安やストレスとなるため
- ・医療的ケアが必要なため
- ・高齢のため
- ・本人が今のままの生活を希望しているため

## (10) 介助・援助者の障害者施策等に対する意見・要望（自由回答）

主な回答内容は、次のとおりである。

### 【身体障害者】

（相談・情報提供）

- ・幅広い情報の提供、定期的な情報提供
- ・分かりやすい冊子等での情報提供

（各種申請・手続き）

- ・サービスの申請から提供までの簡略化、迅速化

（各種サービス）

- ・訪問看護サービス、居宅介護サービスの充実
- ・住宅支援の充実
- ・医療的ケアがある方へのサービスの充実
- ・生活介護の支援日数、支援時間の拡充
- ・訪問入浴の回数の拡充
- ・緊急時の支援体制の充実
- ・短期入所施設の充実
- ・学校卒業後の福祉サービスの充実

（各種施設）

- ・グループホームの増設

（保育・教育）

- ・学校にエレベーターを設置してほしい
- ・学校のバリアフリー化の促進

（雇用・就労）

- ・障害者が働きやすい環境を整えてほしい

（社会参加・地域とのつながり）

- ・バリアフリー化の促進

（その他）

- ・経済的支援の充実
- ・障害理解の啓発
- ・災害時の支援体制の充実
- ・各所に大人用ベッドを増やしてほしい
- ・区内に病院を増やしてほしい

### 【知的障害者】

（相談・情報提供）

- ・幅広い情報の提供、定期的な情報提供
- ・夜間休日の相談窓口の整備

（各種サービス）

- ・重度障害者への支援体制の充実
- ・放課後等デイサービスの充実・施設の増設
- ・放課後等デイサービスへの送迎の実施
- ・移動支援の充実

（各種施設）

- ・重度障害者のグループホームの増設
- ・区内の短期入所施設の増設
- ・生活介護の支援日数、支援時間の拡充
- ・重度障害がある方や医療的ケアのある方の施設利用の充実

(保育・教育)

- ・ 保育園の障害児枠の増設
- ・ 保育士や教員等への人材教育の促進

(雇用・就労)

- ・ 働く場の拡大
- ・ 仕事を続けられるような支援の充実
- ・ ジョブコーチの充実

(社会参加・地域とのつながり)

- ・ 学校卒業後の余暇活動場所、事業の充実
- ・ バリアフリー化の促進

(その他)

- ・ 経済的支援の充実
- ・ 住宅支援の拡充(防音設備の増設等)
- ・ 保護者が仕事を続けられるための支援の充実
- ・ 一人暮らしのできるための支援の充実
- ・ 障害理解の啓発
- ・ 災害時の支援体制の充実
- ・ デジタル機器の操作等の支援

## 【精神障害者】

(相談・情報提供)

- ・ 幅広い情報の提供、定期的な情報提供
- ・ 気軽に相談できる窓口の充実

(各種申請・手続き)

- ・ 申請窓口の一元化
- ・ サービスの申請から提供までの迅速化

(各種施設)

- ・ 入所施設の充実
- ・ 短期入所施設の充実

(保育・教育)

- ・ 学校での児童・生徒への障害理解の促進

(雇用・就労)

- ・ 就労に関して相談できる窓口の充実
- ・ 働ける場の拡充
- ・ 就労継続支援事業の充実

(その他)

- ・ 経済的支援の充実
- ・ 障害理解の啓発
- ・ 一人暮らしをしている方の支援の充実

## 【難病患者】

(相談・情報提供)

- ・ 幅広い情報の提供、定期的な情報提供
- ・ 分かりやすい冊子等での情報提供

(各種申請・手続き)

- ・ オンライン申請の充実
- ・ 申請、更新手続きの簡略化

(各種施設)

- ・ 医療的ケアのある方の短期入所施設の増設

(社会参加・地域とのつながり)

- ・バリアフリー化の促進
- ・難病患者を理解するための講演会等を実施してほしい

(その他)

- ・助成制度、経済的支援の充実
- ・タクシー券を配布してほしい
- ・障害者手帳を持っていない難病患者への支援拡充

### 【施設入所者】

(各種サービス)

- ・緊急時に対応してくれるサービスの充実
- ・重度障害者の方へのサービスの拡充

(各種施設)

- ・短期入所施設の増設
- ・入所施設の増設

(その他)

- ・地域移行促進のための受け皿を作してほしい

### 【児童発達支援事業利用者】

(相談・情報提供)

- ・幅広い情報の提供、定期的な情報提供
- ・気軽に相談できる窓口の充実

(各種申請・手続き)

- ・申請の簡略化

(各種サービス)

- ・放課後等デイサービスの増設・充実、対象利用年齢の拡充
- ・短期入所サービスの充実
- ・一時預かりサービスの充実

(各種施設)

- ・児童発達支援施設の増設

(保育・教育)

- ・保育士や教員等への研修の充実
- ・適切な保育を受けられる支援体制の充実
- ・特別支援学級の充実
- ・スクールカウンセラーの充実
- ・障害児を受け入れてくれる幼稚園の拡充

(雇用・就労)

- ・事業者への障害理解の啓発

(社会参加・地域とのつながり)

- ・バリアフリー化の促進

(その他)

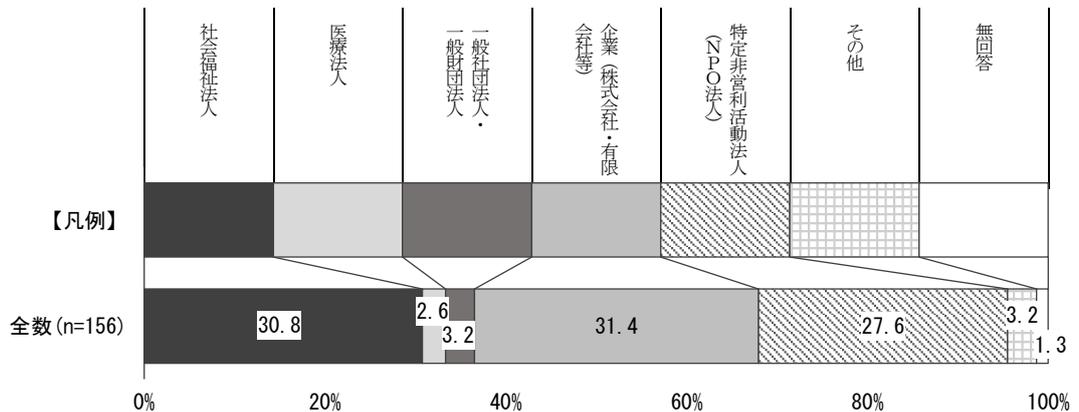
- ・医療費助成の拡充
- ・保護者の収入に関係なく支援を受けられるようにしてほしい
- ・自家用車の運転代行サービスがあったらよい
- ・通勤・通学時間の、みどりバスの本数を増やしてほしい
- ・障害児も通える塾や習い事の充実

## IV 調査結果の詳細（事業所調査）

### 1 事業所の基本情報

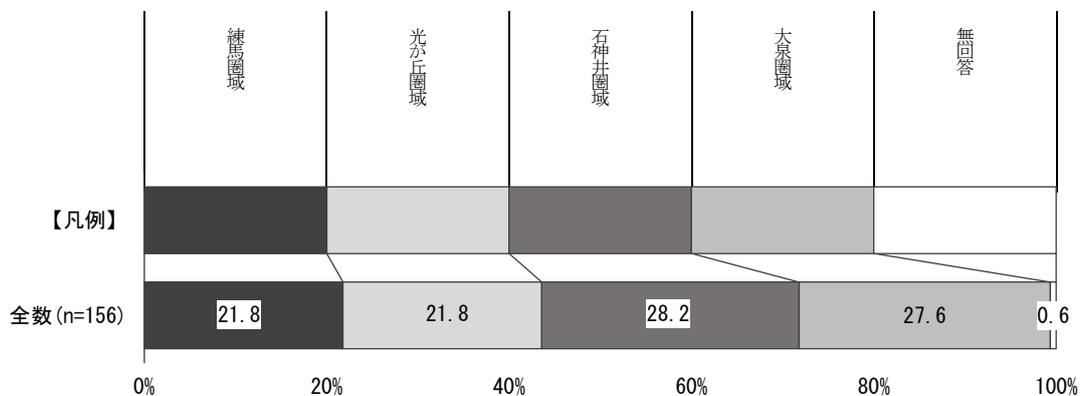
#### (1) 運営主体

事業所の運営主体は、「企業（株式会社・有限会社等）」が31.4%、「社会福祉法人」が30.8%、「特定非営利活動法人（NPO法人）」が27.6%となっている。



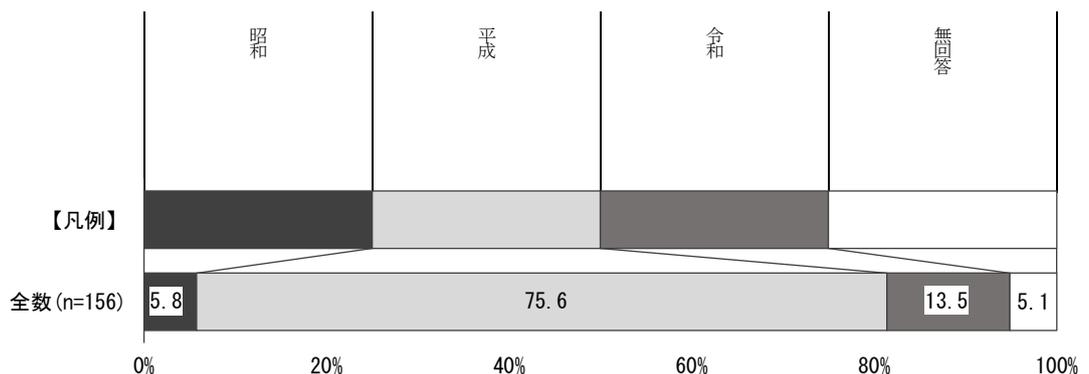
#### (2) 事業所の所在地

事業所の所在地は、「練馬圏域」が21.8%、「光が丘圏域」が21.8%、「石神井圏域」が28.2%、「大泉圏域」が27.6%となっている。



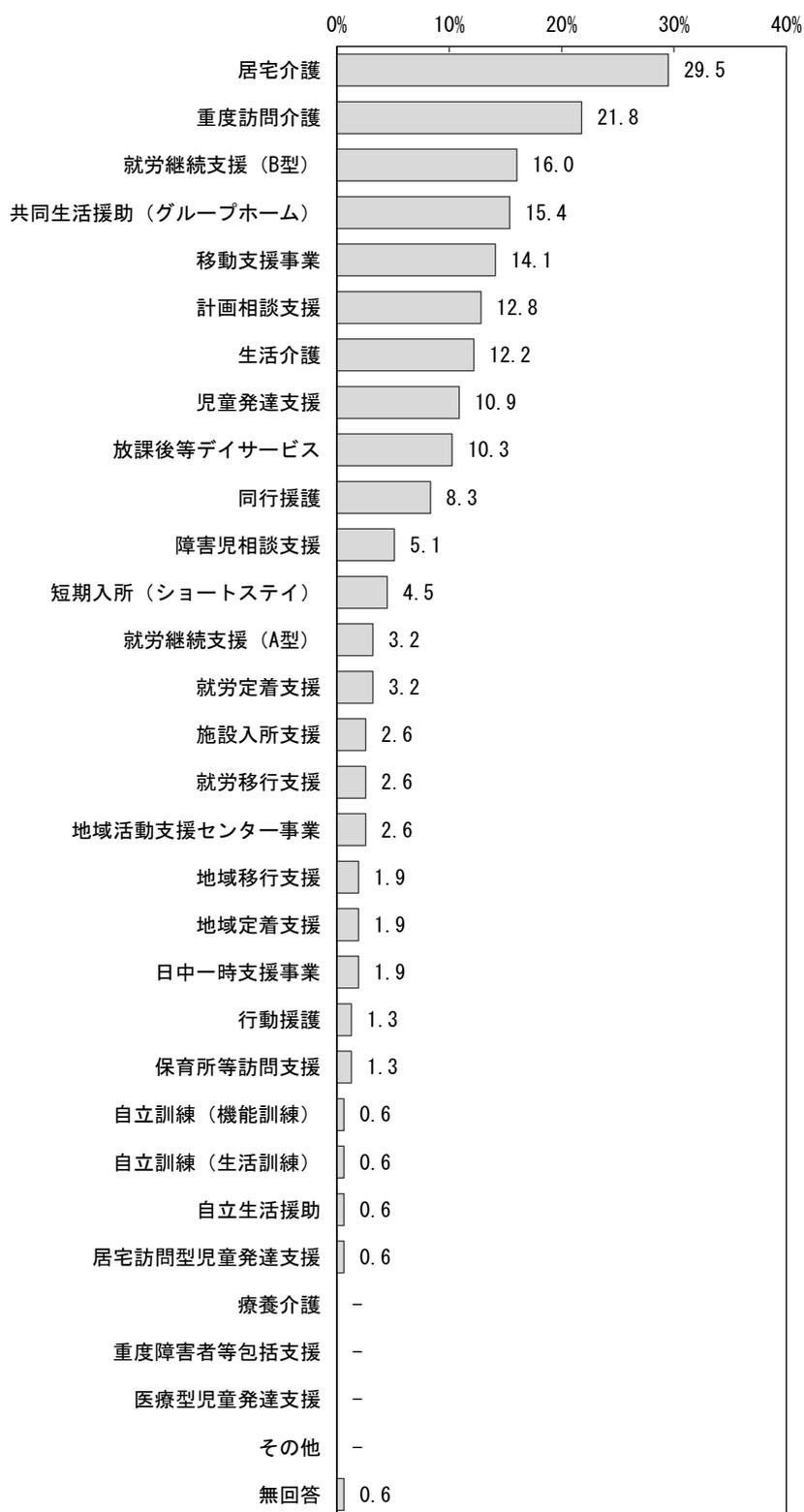
#### (3) 事業所の開始年度

事業所の開始年度は、「昭和」が5.8%、「平成」が75.6%、「令和」が13.5%となっている。

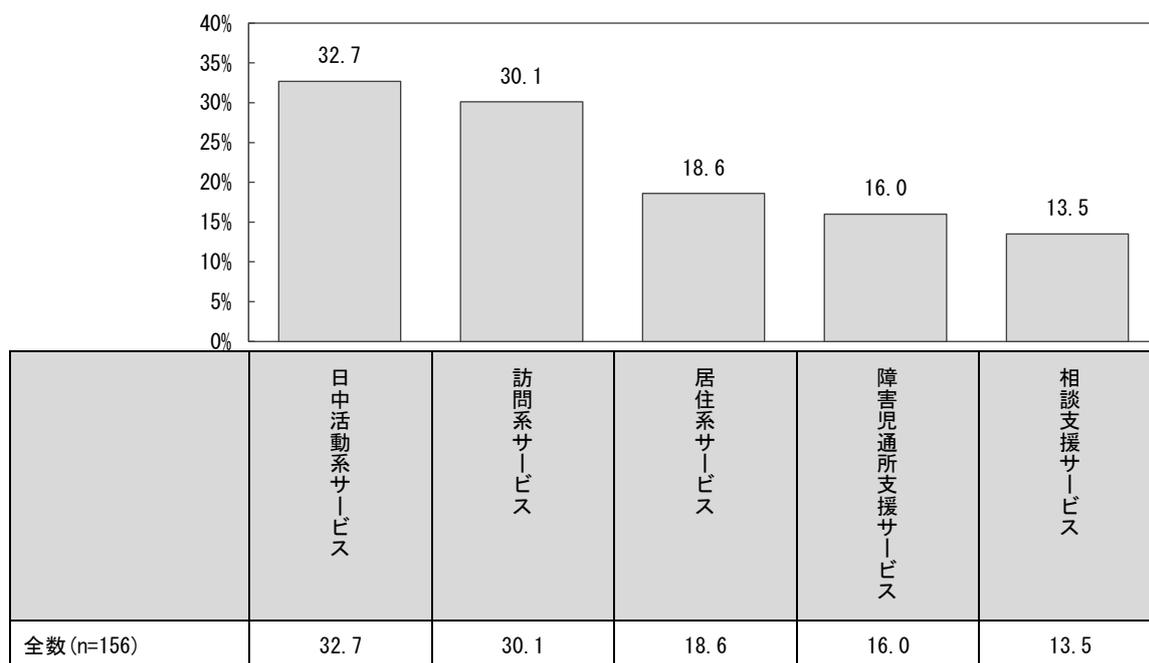


#### (4) 提供しているサービス（複数回答）

提供しているサービスは、「居宅介護」が29.5%と最も多く、次いで「重度訪問介護」が21.8%、「就労継続支援（B型）」が16.0%となっている。



提供しているサービスを、サービス分類別にみると、「日中活動系サービス」が 32.7%、「訪問系サービス」が 30.1%、「居住系サービス」が 18.6%、「障害児通所支援サービス」が 16.0%、「相談支援サービス」が 13.5%となっている。



### ※事業所の分類

この報告書において、各設問のクロス集計を行う際に、サービス分類別により傾向を比較する場合には下記のとおり 5つのカテゴリーに分類している。

- 「訪問系サービス」・・・居宅介護、重度訪問介護、同行援護、行動援護、自立生活援助、移動支援事業
- 「日中活動系サービス」・・・生活介護、自立訓練（機能訓練）、自立訓練（生活訓練）、就労移行支援、就労継続支援（A型）、就労継続支援（B型）  
就労定着支援、地域活動支援センター事業、日中一時支援事業
- 「居住系サービス」・・・共同生活援助（グループホーム）短期入所（ショートステイ）、施設入所支援
- 「相談支援サービス」・・・計画相談支援、地域移行支援、地域定着支援、障害児相談支援
- 「障害児通所支援サービス」・・・児童発達支援、放課後等デイサービス、保育所等訪問支援、居宅訪問型児童発達支援

### (5) 事業所の定員（定員のあるサービスのみ）

事業所の定員について、「就労継続支援（B型）」の平均値は28.9人（中央値20.0人）、  
「共同生活援助（グループホーム）」の平均値は18.0人（中央値13.5人）、「放課後等  
デイサービス」の平均値は10.4人（中央値10.0人）となっている。

（単位：人）

サービス名	回答 事業者数	平均値	中央値	最小値	最大値
居宅介護	3	74.0	40.0	2.0	180.0
重度訪問介護	1	4.0	4.0	4.0	4.0
生活介護	17	41.1	40.0	4.0	120.0
短期入所（ショートステイ）	4	1.8	1.5	1.0	3.0
施設入所支援	3	60.0	60.0	40.0	80.0
自立訓練（機能訓練）	1	10.0	10.0	10.0	10.0
就労移行支援	4	14.5	15.0	8.0	20.0
就労継続支援（A型）	5	16.4	17.0	10.0	20.0
就労継続支援（B型）	22	28.9	20.0	10.0	63.0
共同生活援助（グループホーム）	22	18.0	13.5	4.0	79.0
計画相談支援	1	5.0	5.0	5.0	5.0
児童発達支援	16	28.3	10.0	5.0	282.0
放課後等デイサービス	17	10.4	10.0	5.0	36.0
地域活動支援センター事業	2	20.0	20.0	20.0	20.0
移動支援事業	1	2.0	2.0	2.0	2.0
日中一時支援事業	1	5.0	5.0	5.0	5.0

※回答のあったサービス・事業者のみ掲載

## (6) 事業所の利用者数

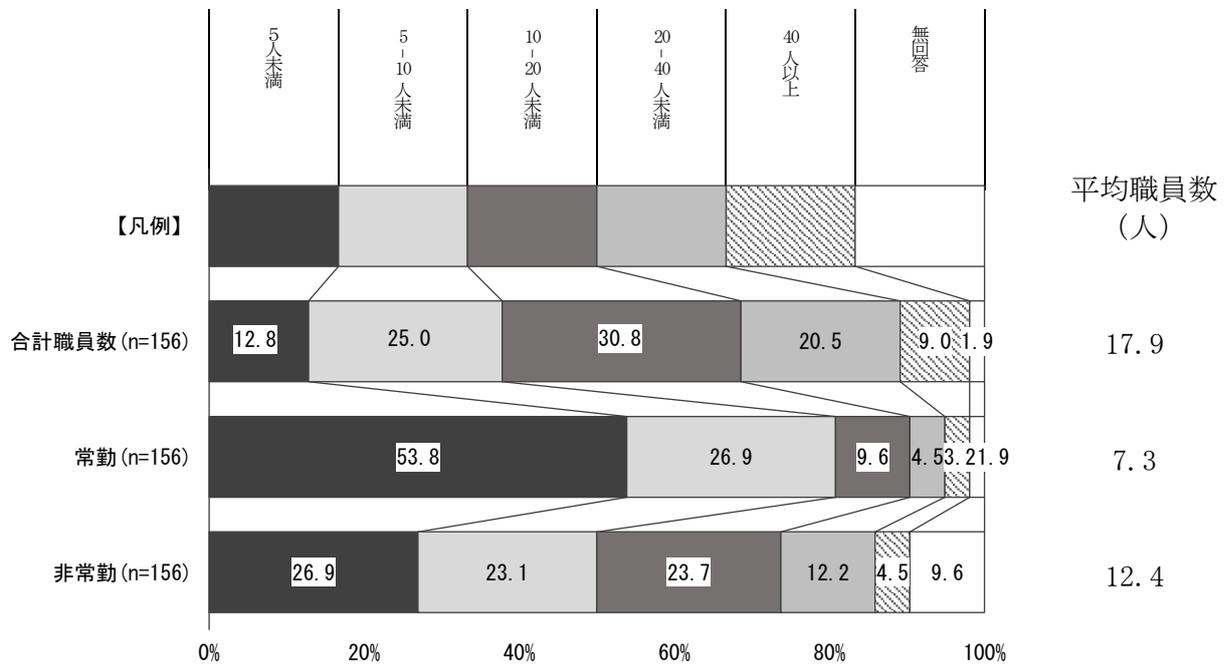
事業所平均の利用者数と区民数は以下のとおりとなっている。

サービス名	回答数	1 事業所平均利用者数（単位：人）					
		身体障害	知的障害	精神障害	発達障害	難病	その他
居宅介護	44	5.0	2.0	3.1	0.1	0.3	0.1
重度訪問介護	25	1.9	0.4	-	-	0.2	-
同行援護	10	26.4	0.1	-	-	-	0.1
行動援護	1	-	3.0	-	-	-	-
生活介護	18	5.7	29.5	0.1	-	-	-
短期入所（ショートステイ）	4	4.0	7.0	0.3	-	-	-
施設入所支援	4	10.0	46.5	-	-	-	-
自立訓練（機能訓練）	1	-	-	-	-	-	3.0
自立訓練（生活訓練）	1	-	-	-	-	-	3.0
就労移行支援	4	0.5	19.3	2.5	1.0	-	-
就労継続支援（A型）	5	1.6	8.6	7.6	-	-	-
就労継続支援（B型）	25	1.1	14.0	6.1	3.8	-	0.04
就労定着支援	5	0.2	5.0	0.4	-	-	-
共同生活援助（グループホーム）	25	0.2	3.8	9.0	0.8	-	-
地域移行支援	2	-	-	0.5	-	-	-
計画相談支援	15	11.0	52.1	20.9	1.6	0.8	0.3
児童発達支援	17	5.5	3.4	-	12.2	0.2	2.2
放課後等デイサービス	15	2.5	12.4	0.1	10.3	0.3	3.2
障害児相談支援	5	0.2	20.4	-	2.8	-	-
地域活動支援センター事業	1	60.0	56.0	334.0	50.0	-	6.0
移動支援事業	17	2.5	3.6	0.4	0.3	0.1	0.8
日中一時支援事業	1	8.0	12.0	1.0	-	-	-

サービス名	回答数	1事業所平均利用者数（区民）（単位：人）					
		身体障害	知的障害	精神障害	発達障害	難病	その他
居宅介護	44	4.3	1.8	2.8	0.05	0.2	0.02
重度訪問介護	25	1.0	0.2	-	-	-	-
同行援護	10	19.8	-	-	-	-	-
行動援護	1	-	3.0	-	-	-	-
生活介護	18	4.4	22.5	0.1	-	-	-
短期入所（ショートステイ）	4	3.0	5.5	-	-	-	-
施設入所支援	4	5.3	20.3	-	-	-	-
自立訓練（機能訓練）	1	-	-	-	-	-	3.0
自立訓練（生活訓練）	1	-	-	-	-	-	3.0
就労移行支援	4	0.5	4.0	2.3	0.5	-	-
就労継続支援（A型）	5	0.6	7.8	4.4	-	-	-
就労継続支援（B型）	25	0.6	9.2	3.8	2.6	-	0.04
就労定着支援	5	-	4.6	-	-	-	-
共同生活援助（グループホーム）	25	0.2	3.7	4.8	0.5	-	-
地域移行支援	2	-	-	0.5	-	-	-
計画相談支援	15	10.6	47.8	16.1	1.5	0.7	0.3
児童発達支援	17	2.3	2.9	-	9.1	0.2	2.1
放課後等デイサービス	15	2.2	11.5	0.1	7.3	0.3	3.2
障害児相談支援	5	0.2	9.4	-	2.8	-	-
地域活動支援センター事業	1	60.0	56.0	324.0	50.0	-	-
移動支援事業	17	1.5	3.5	0.1	0.2	0.1	0.6
日中一時支援事業	1	7.0	11.0	1.0	-	-	-

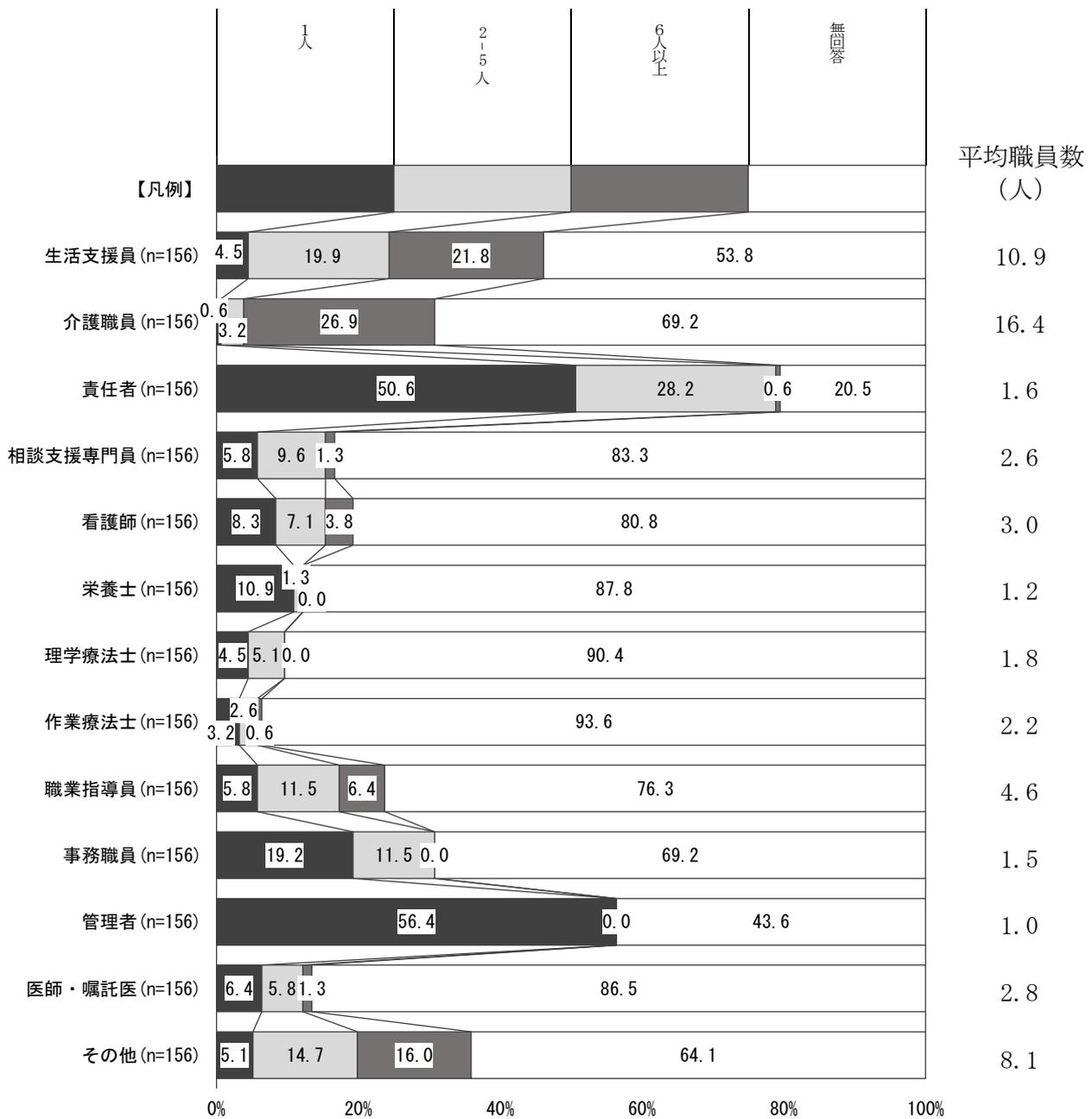
## (7) 事業所の職員数

職員数は、常勤では「5人未満」が53.8%、「5人～10人未満」が26.9%で、平均職員数は7.3人となっている。非常勤では「5人未満」が26.9%、「5人～10人未満」が23.1%で、平均職員数は12.4人となっている。



## (8) 職種別の職員数

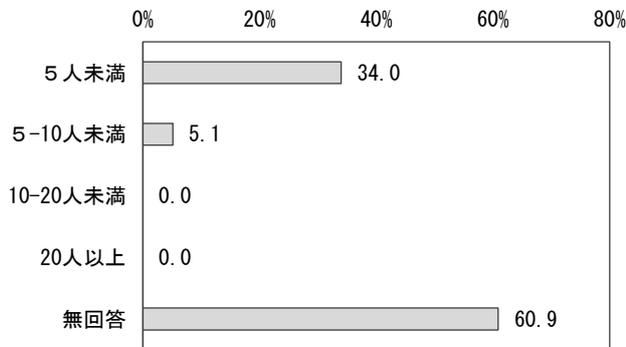
職種別の職員数は、「6人以上」が生活支援員では21.8%、介護職員では26.9%と最も多くなっている。



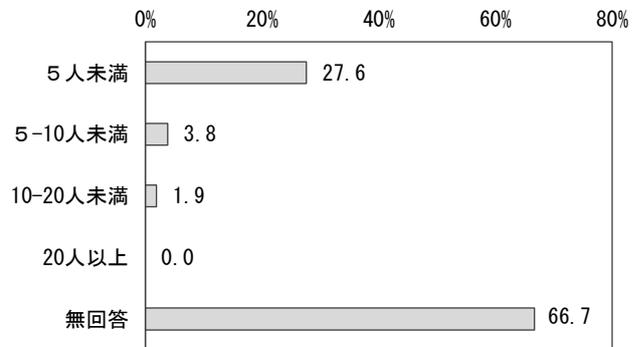
## (9) 経験年数別の職員数

経験年数別の職員数は、どの経験年数においても「5人未満」が最も多くなっている。「5年以上10年未満」では「5～10人未満」が21.2%となっている。「10年以上」では「10～20人未満」が14.1%となっている。

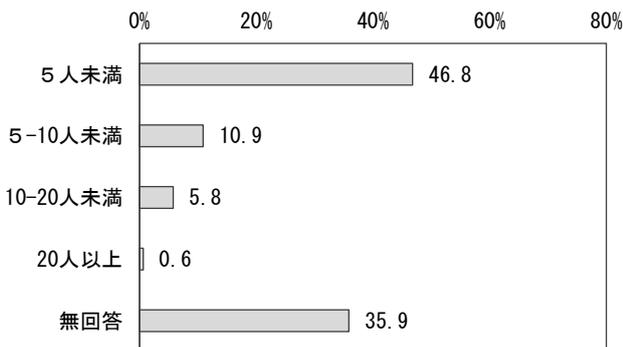
【6か月未満】 (n=156)



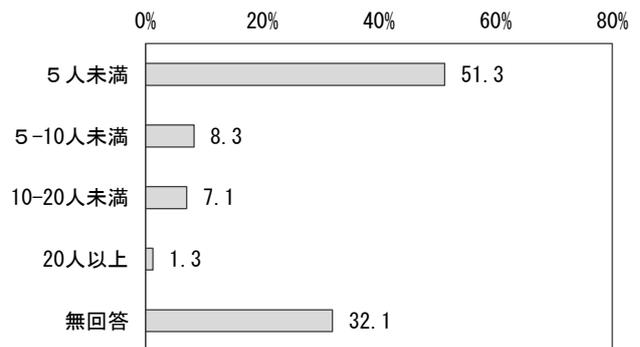
【6か月以上1年未満】 (n=156)



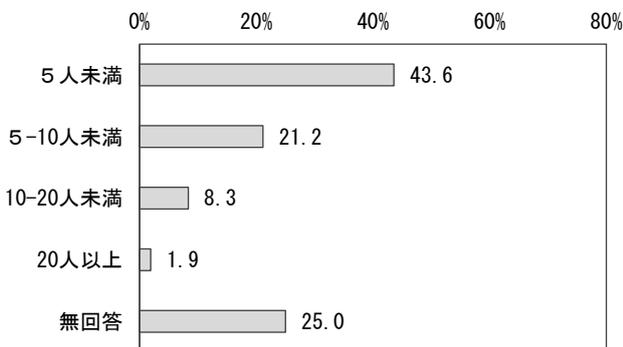
【1年以上3年未満】 (n=156)



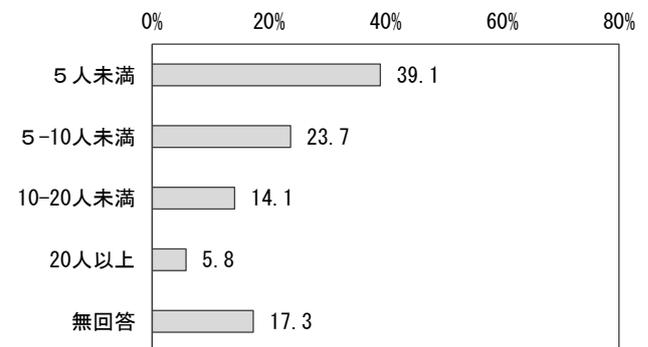
【3年以上5年未満】 (n=156)



【5年以上10年未満】 (n=156)



【10年以上】 (n=156)

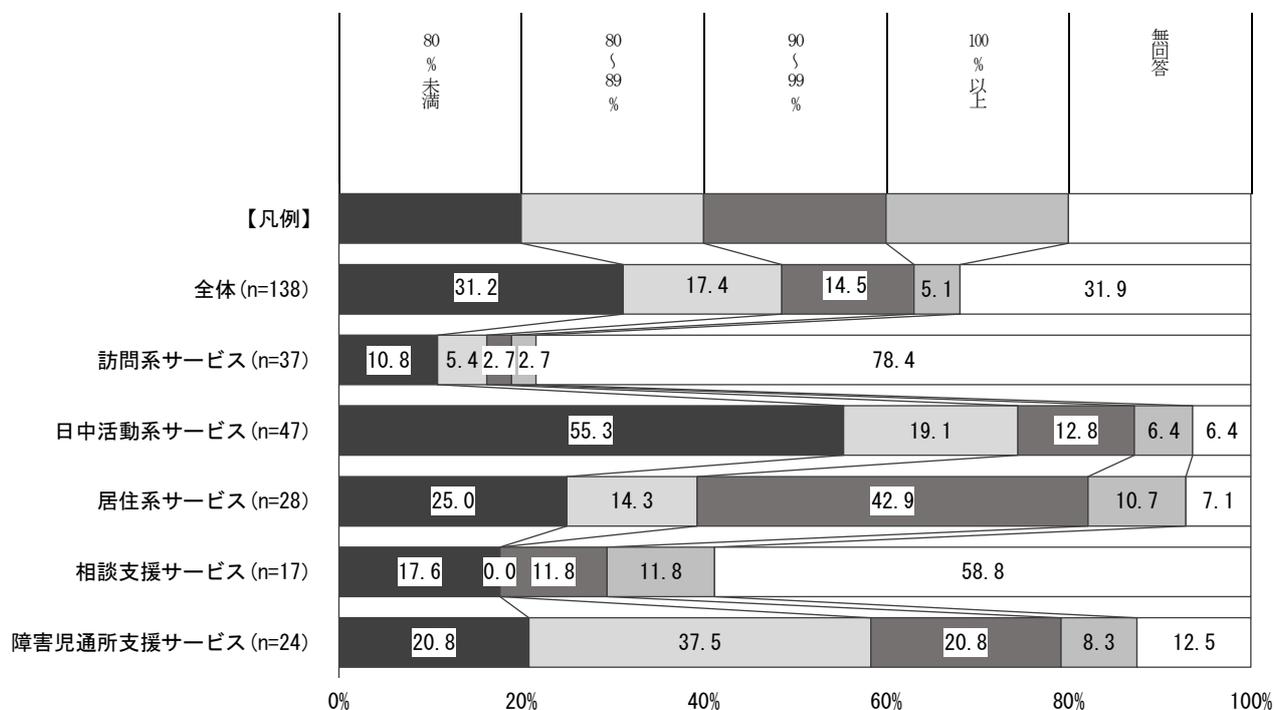


## 2 運営状況について

### (1) 事業所の平均的な利用率（利用定員が定められている事業所）

平均的な利用率は、「80%未満」が31.2%、「80～89%」が17.4%、「90～99%」が14.5%、「100%以上」が5.1%となっている。

サービス分類別にみると、日中活動系サービスでは「80%未満」が55.3%となっている。

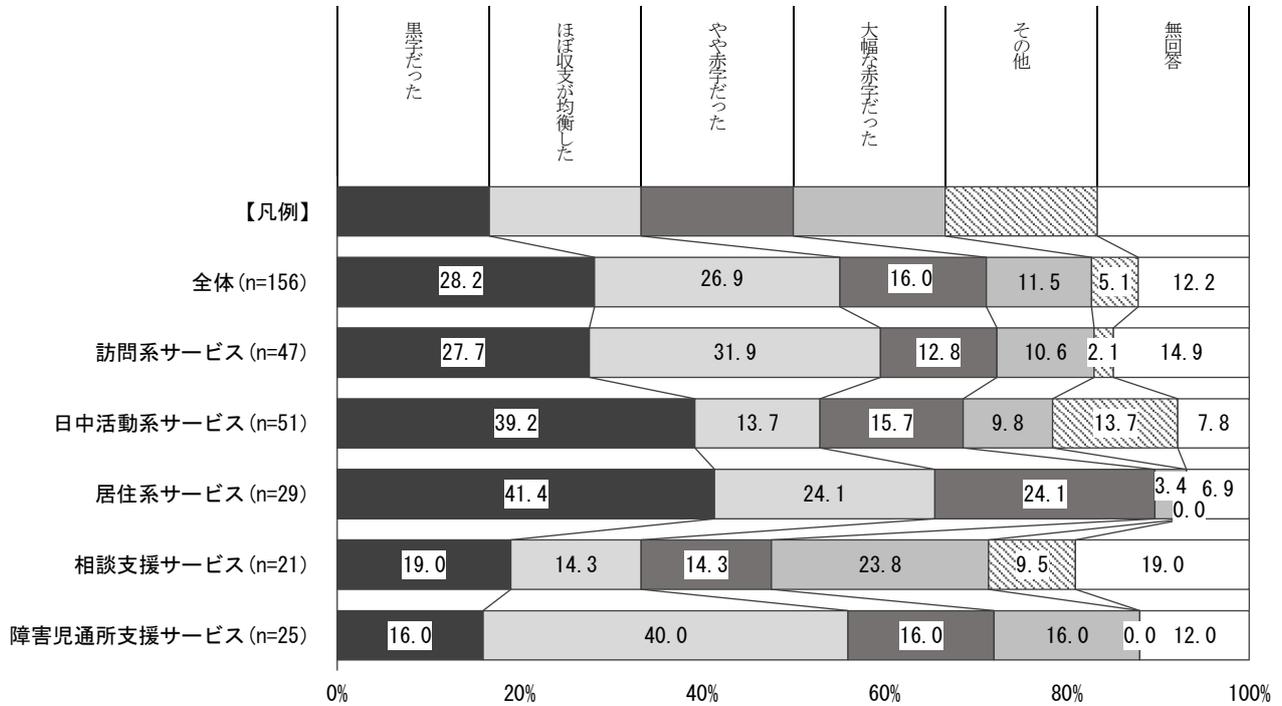


※ベース：利用定員が“定められている”事業所

## (2) 事業の収支状況

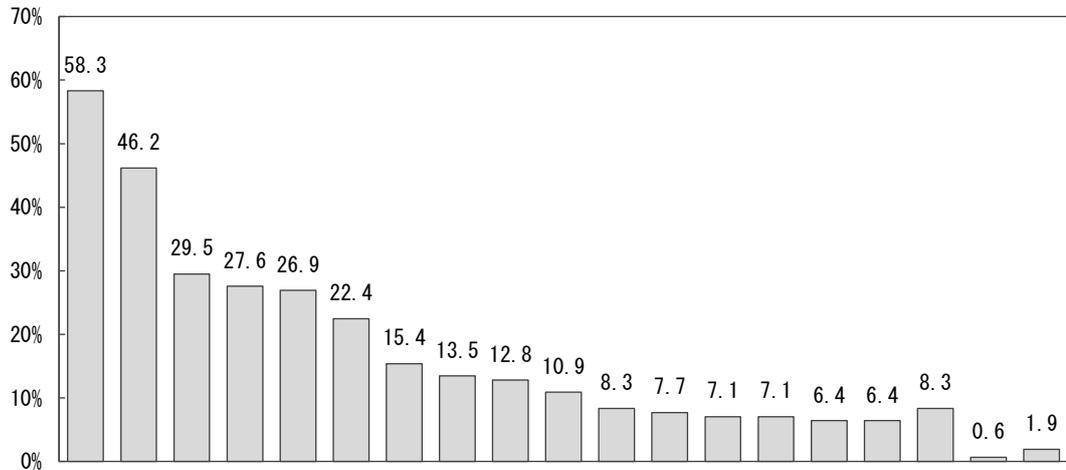
令和4年度の事業の収支状況は、「黒字だった」が28.2%、「ほぼ収支が均衡した」が26.9%、「やや赤字だった」が16.0%、「大幅な赤字だった」が11.5%となっている。

サービス分類別にみると、「黒字だった」と回答した事業所は、日中活動系サービスでは39.2%、居住系サービスでは41.4%となっている。



### (3) 事業を運営する上での課題（複数回答）

事業を運営する上での課題は、「スタッフの確保」が58.3%と最も多く、次いで「スタッフの人材育成」が46.2%となっている。



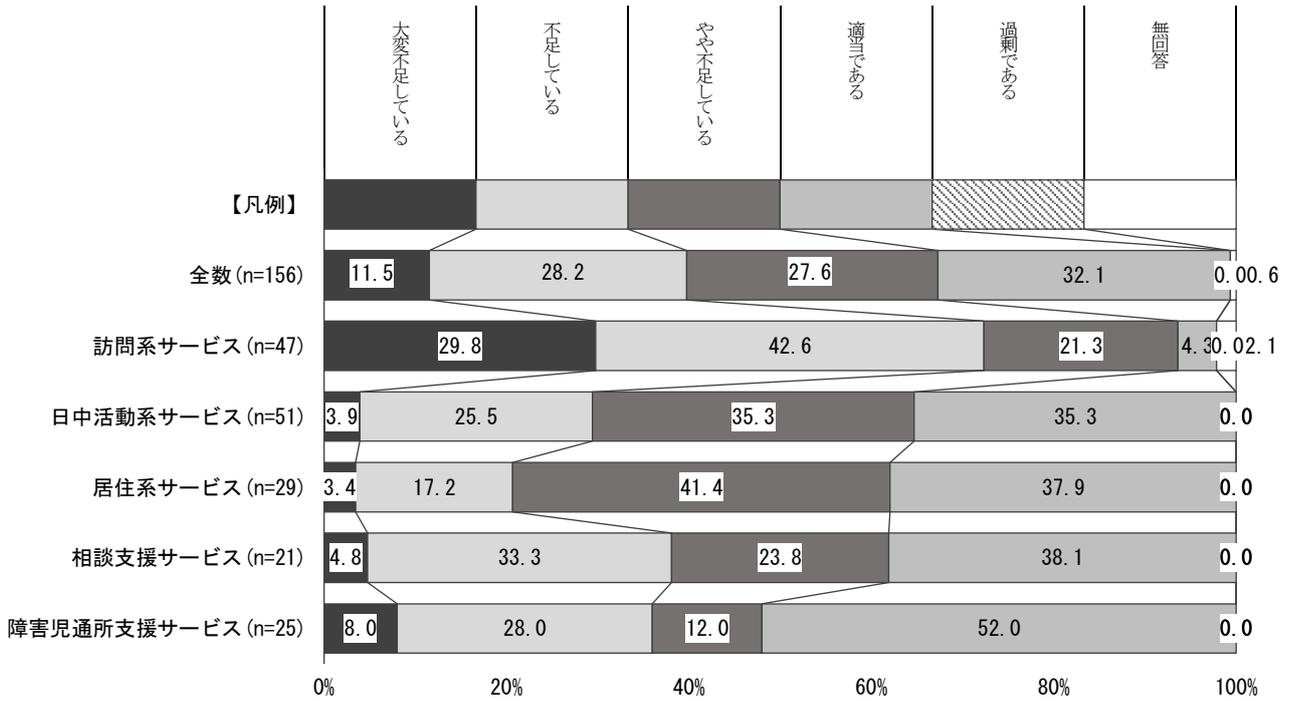
	スタッフの確保	スタッフの人材育成	新規利用者の獲得が困難	責任者など中堅人材の確保・育成	設備・スタッフなどが不足し、量的に利用者のニーズに応えられない	自立支援給付費等のサービスの報酬が低い	他のサービス事業所との連携	利用者一人あたりの利用量が少ない	利用者や家族がサービスをよく理解していない	スタッフが短期間で離職してしまう	医療機関との連携	医療的ケアへの対応	訪問や送迎が非効率（エリアが広い等）	他のサービス事業所との競合が激しい	利用者の心身状態の把握が難しい	利用者からの苦情や事故への対応	その他	特に課題はない	無回答
全体 (n=156)	58.3	46.2	29.5	27.6	26.9	22.4	15.4	13.5	12.8	10.9	8.3	7.7	7.1	7.1	6.4	6.4	8.3	0.6	1.9
訪問系サービス (n=49)	78.7	36.2	21.3	21.3	53.2	17.0	8.5	12.8	12.8	17.0	4.3	2.1	10.6	6.4	6.4	6.4	6.4	0.0	2.1
日中活動系サービス (n=51)	54.9	58.8	39.2	37.3	19.6	23.5	13.7	21.6	15.7	9.8	11.8	15.7	3.9	7.8	5.9	3.9	0.0	0.0	3.9
居住系サービス (n=29)	55.2	55.2	44.8	41.4	17.2	10.3	20.7	3.4	27.6	17.2	20.7	13.8	3.4	3.4	10.3	17.2	10.3	0.0	0.0
相談支援サービス (n=21)	61.9	33.3	4.8	19.0	28.6	38.1	23.8	4.8	14.3	9.5	9.5	14.3	19.0	0.0	9.5	9.5	19.0	4.8	0.0
障害児通所支援サービス (n=25)	44.0	48.0	20.0	24.0	28.0	36.0	32.0	12.0	4.0	8.0	4.0	12.0	12.0	12.0	0.0	0.0	12.0	0.0	0.0

### 3 人材確保・人材育成について

#### (1) 職員の過不足

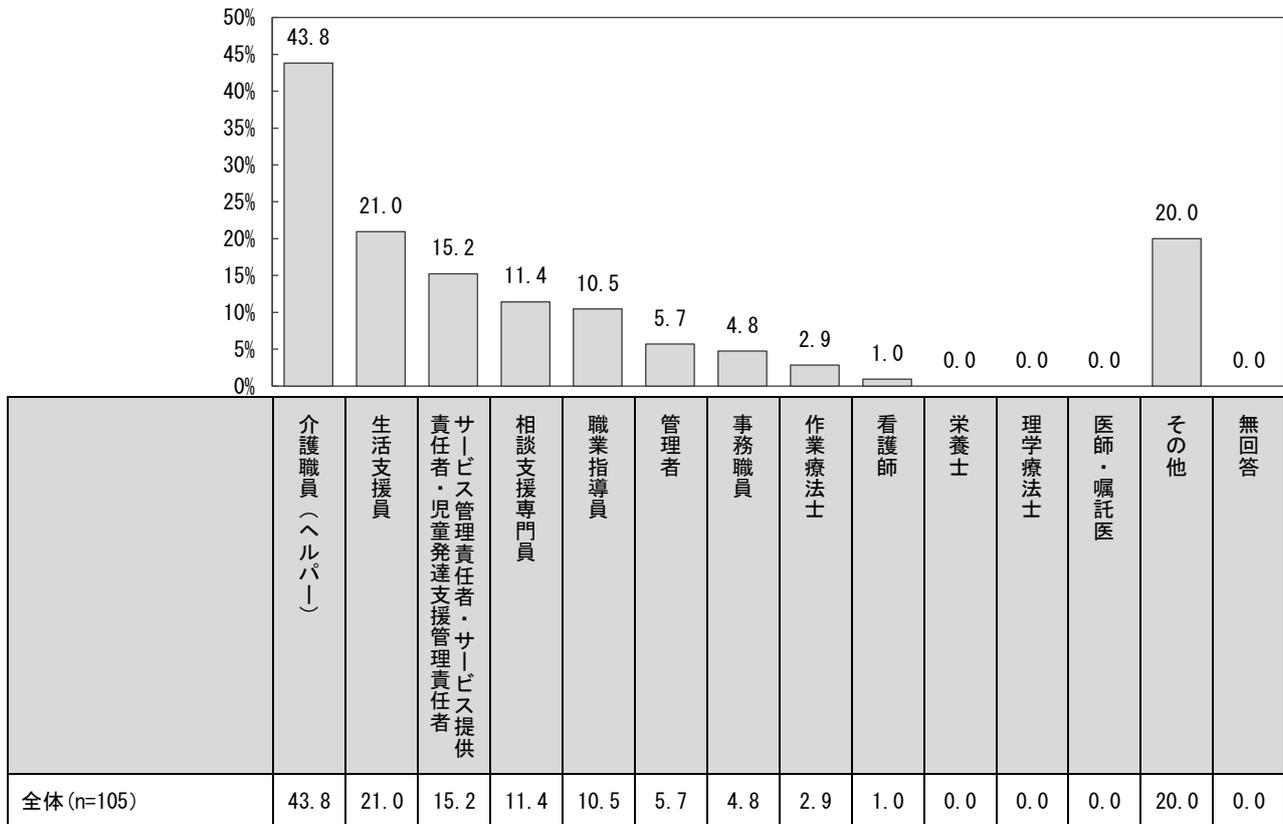
職員の過不足について、“不足している”（「大変不足している」、「不足している」、「やや不足している」の合計）と回答した事業所が6割を超えている。「適当である」と回答した事業所は32.1%となっている。

サービス分類別にみると、訪問系サービスでは約9割、居住系サービスでは約6割が“不足している”と回答している。



## (2) 不足している職員の職種（複数回答）

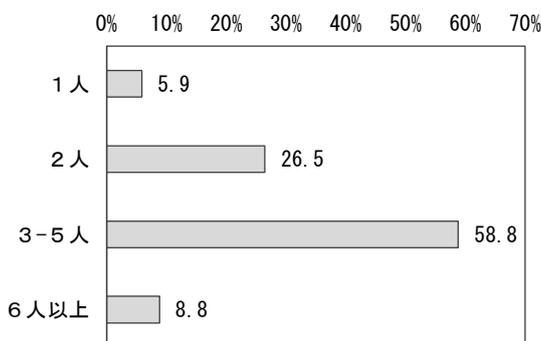
不足している職員の職種は、「介護職員（ヘルパー）」が43.8%と最も多く、次いで「生活支援員」が21.0%となっている。



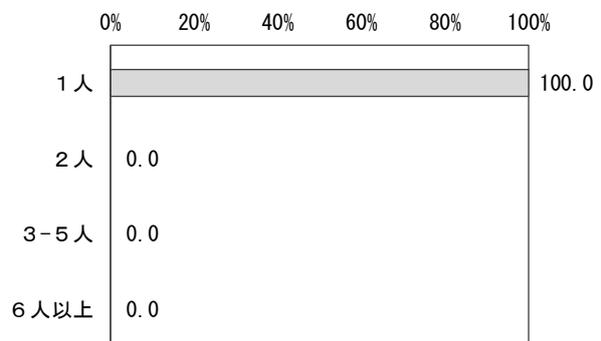
※ベース：職員が“不足している”事業所

### <職種ごとの不足数>

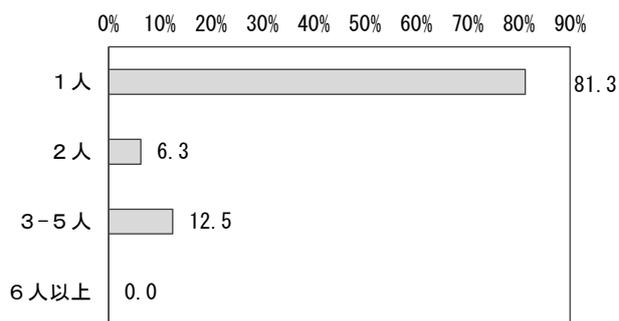
#### 【介護職員（ヘルパー）】(n=34)



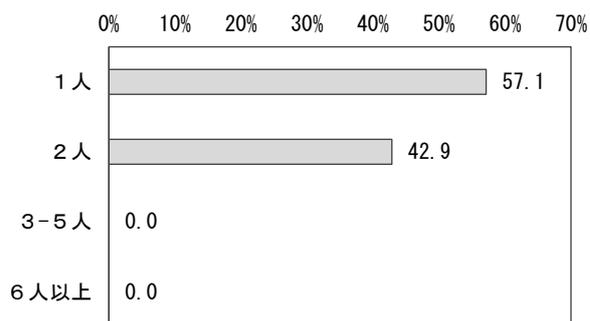
#### 【生活支援員】(n=47)



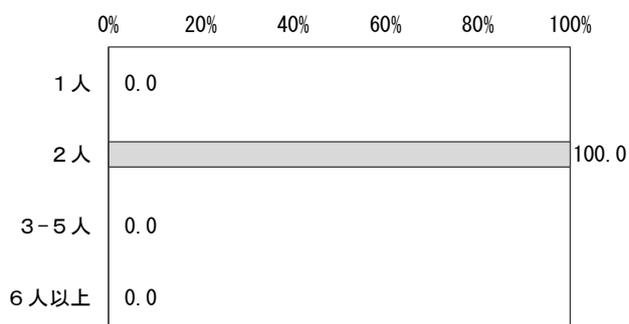
【サービス管理責任者・サービス提供責任者・  
児童発達支援管理責任者】 (n=16)



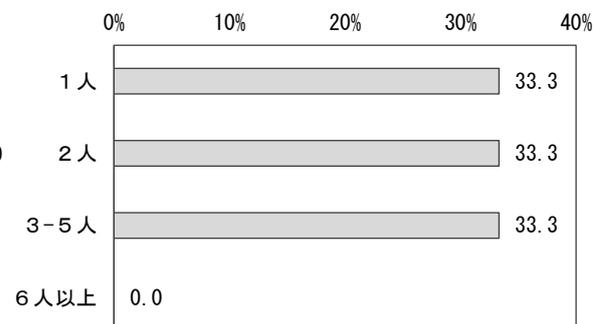
【相談支援専門員】 (n=7)



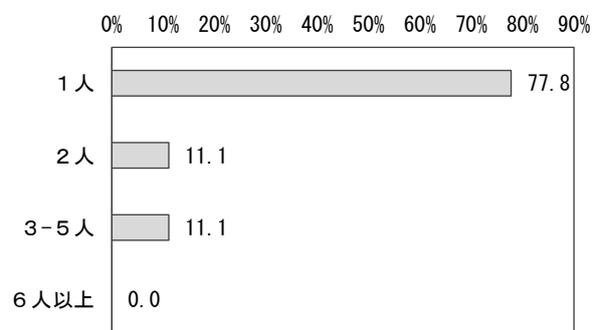
【看護師】 (n=1)



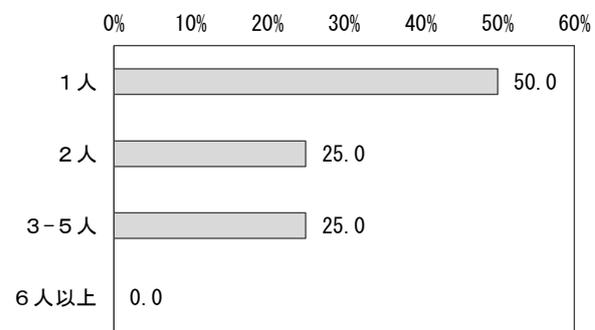
【作業療法士】 (n=3)



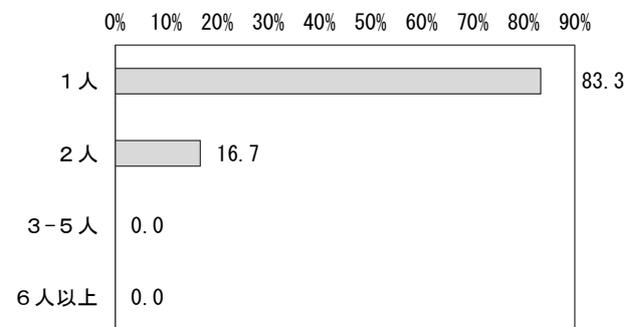
【職業指導員】 (n=9)



【事務職員】 (n=4)



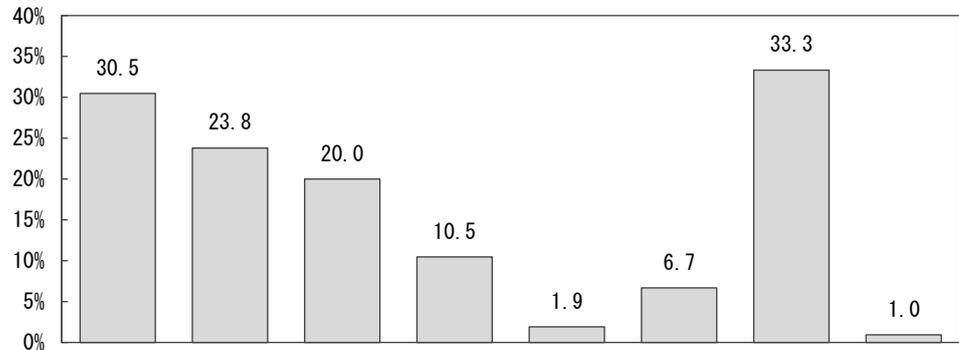
【管理者】 (n=6)



### (3) 職員の不足による運営の支障（複数回答）

職員の不足による運営の支障としては、「利用者の受け入れを減らしている」が30.5%と最も多く、次いで「サービスの量・質の低下を招き、利用者のニーズに応えきれなくなっている」が23.8%となっている。

サービス分類別にみると、訪問系サービスでは半数以上が「利用者の受け入れを減らしている」と回答している。



	利用者の受け入れを減らしている	サービスの量・質の低下を招き、利用者のニーズに応えきれなくなっている	事業の縮小を余儀なくされている	事業の継続が困難になっている	配置欠如減算により収入が減っている	その他	職員は不足しているが、特に事業所の運営に支障はない	無回答
全体 (n=105)	30.5	23.8	10.5	6.7	1.0	20.0	33.3	1.9
訪問系サービス (n=44)	56.8	29.5	15.9	13.6	0.0	13.6	11.4	4.5
日中活動系サービス (n=33)	6.1	27.3	6.1	0.0	0.0	30.3	51.5	3.0
居住系サービス (n=18)	11.1	27.8	16.7	0.0	0.0	22.2	38.9	0.0
相談支援サービス (n=13)	23.1	30.8	7.7	0.0	0.0	30.8	38.5	0.0
障害児通所支援サービス (n=12)	25.0	33.3	0.0	8.3	8.3	25.0	33.3	0.0

※ベース：職員が“不足している”と回答した事業所

#### (4) 過去1年間の採用者数（新規採用・未経験者・経験者）・退職者数

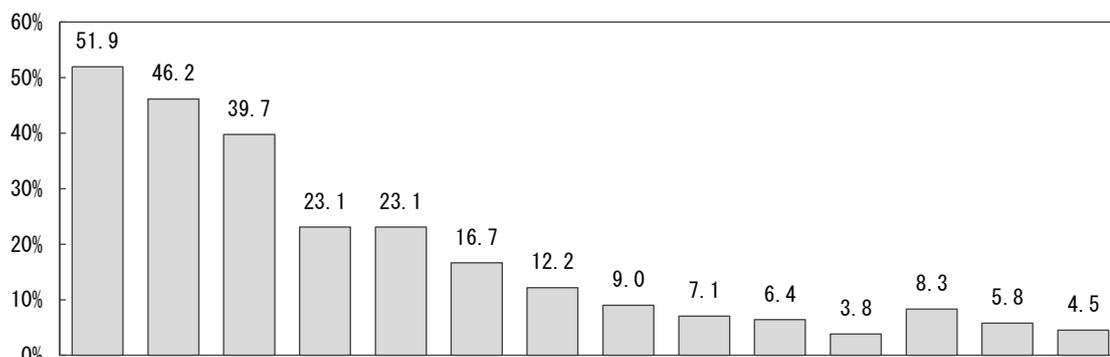
運営法人における過去1年間の採用者数（新規採用・未経験者・経験者）、退職者数は以下のとおりとなっている。

職種	雇用形態	回答事業所数	採用者数	退職者数	退職者の勤務年数		
					1年未満	1年以上3年未満	3年以上
障害児者支援施設職員	無期	66	45	21	13	2	6
	有期	53	23	12	5	5	2
障害児者居宅介護従事者（ホームヘルパー）	無期	60	52	46	11	8	27
	有期	55	84	47	13	13	21
生活支援員	無期	67	43	45	11	11	23
	有期	59	49	32	21	5	7
相談支援専門員	無期	58	8	4	1	1	2
	有期	49	1	-	-	-	-
ガイドヘルパー	無期	43	3	3	3	-	-
	有期	42	17	4	3	-	1
OT・ST・PT等	無期	46	3	2	-	1	1
	有期	42	4	2	1	-	1
看護職員	無期	51	6	5	1	1	3
	有期	44	3	1	1	-	-
サービス提供責任者 サービス管理責任者	無期	58	4	3	1	1	1
	有期	55	2	1	-	1	-

## (5) 人材確保のための取組（複数回答）

人材確保のための取組は、「ハローワークを通じて募集した」が51.9%と最も多く、次いで「インターネットの求人サイトを利用した」が46.2%、「知人経由・人づてで探した」が39.7%となっている。

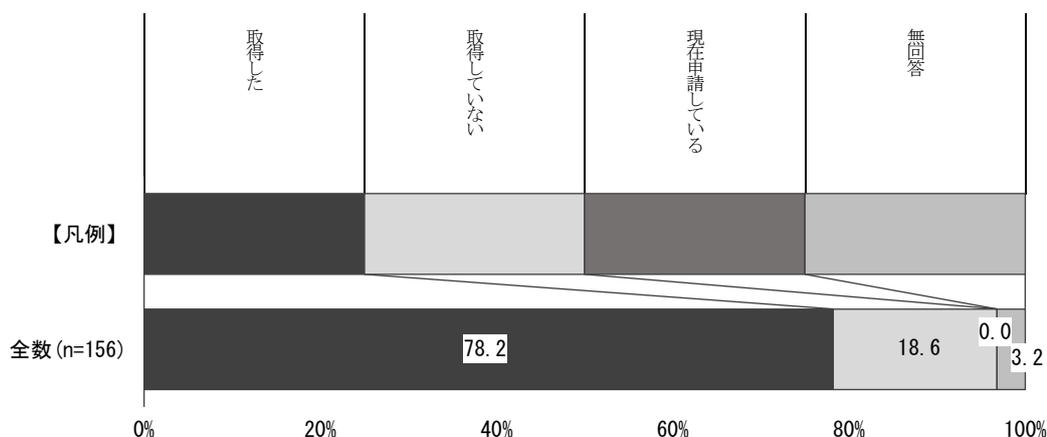
サービス分類別にみると、日中活動系サービスでは約7割が「ハローワークを通じて募集した」と回答している。



	ハローワークを通じて募集した	インターネットの求人サイトを利用した	知人経由・人づてで探した	求人誌などに人材広告を掲載した	給与・報酬を改善した	人材募集のチラシを配布した	練馬福祉人材育成・研修センターの人材確保事業を利用した	福祉専門学校等で求人を行った	福利厚生（育児、介護休暇など）を改善した	ボランティアを受け入れた	勤務条件（夜勤回数、勤務時間帯など）を改善した	その他	特にしていない	無回答
全体 (n=156)	51.9	46.2	39.7	23.1	23.1	16.7	12.2	9.0	7.1	6.4	3.8	8.3	5.8	4.5
訪問系サービス (n=47)	38.3	59.6	40.4	31.9	27.7	25.5	25.5	6.4	8.5	0.0	6.4	6.4	2.1	6.4
日中活動系サービス (n=51)	66.7	45.1	27.5	23.5	31.4	17.6	9.8	9.8	9.8	7.8	2.0	5.9	7.8	3.9
居住系サービス (n=29)	51.7	48.3	48.3	20.7	24.1	24.1	6.9	17.2	13.8	0.0	6.9	6.9	0.0	6.9
相談支援サービス (n=21)	38.1	33.3	38.1	14.3	9.5	14.3	9.5	9.5	4.8	0.0	0.0	9.5	19.0	4.8
障害児通所支援サービス (n=25)	64.0	36.0	60.0	20.0	16.0	16.0	4.0	12.0	4.0	24.0	4.0	12.0	0.0	0.0

## (6) 処遇改善加算の取得

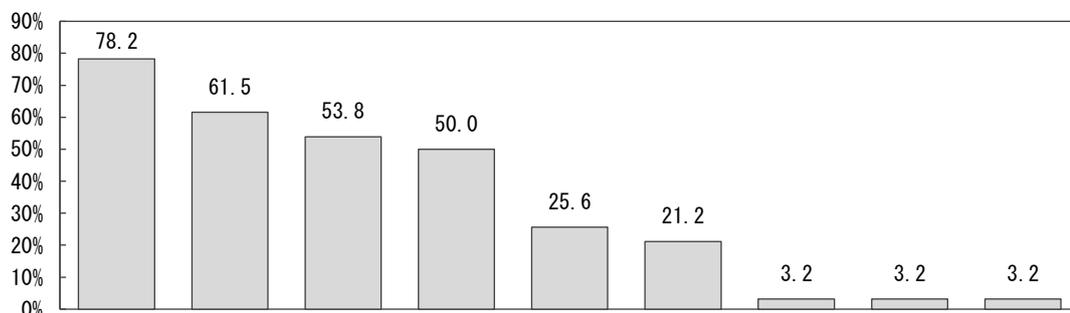
処遇改善加算は、「取得した」が78.2%となっている。



## (7) 人材育成のための取組（複数回答）

人材育成のための取組は、「事業所での研修実施」が78.2%と最も多く、次いで「外部研修への参加支援（費用面など）」が61.5%、「研修計画の策定」が53.8%となっている。

サービス分類別にみると、訪問系サービス、日中活動系サービス、居住系サービス、障害児通所支援サービスでは「事業所での研修実施」がそれぞれ74.5%、88.2%、72.4%、92.0%と最も多くなっている。相談支援サービスでは「外部研修への参加支援（費用面など）」が66.7%と最も多くなっている。

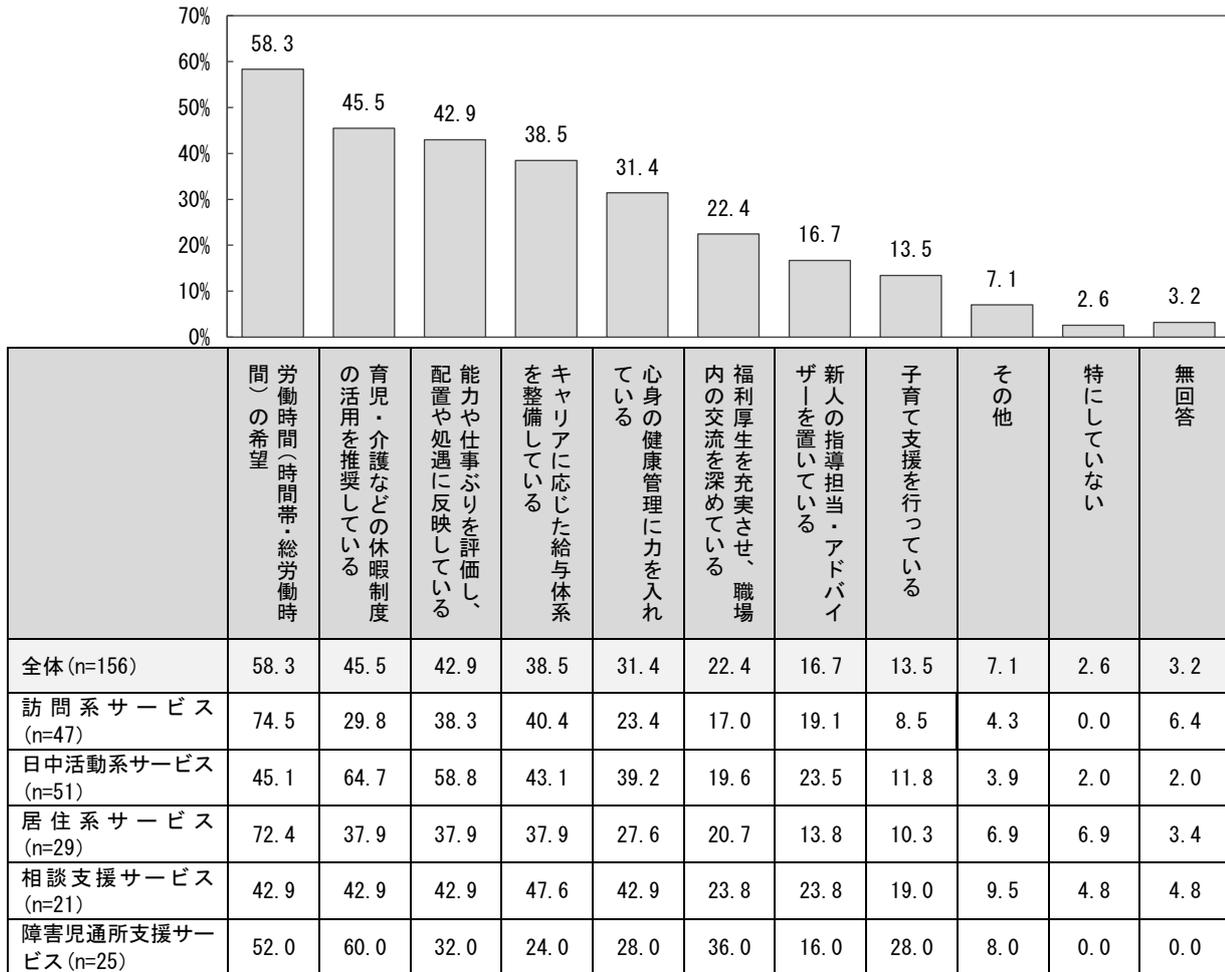


	事業所での研修実施	外部研修への参加支援（費用面など）	研修計画の策定	資格取得のための支援（費用面など）	スキルアップに対し報酬制度を設置	中堅・ベテラン職員に育成を経験させる	その他	特に取り組んでいない	無回答
全体 (n=156)	78.2	61.5	53.8	50.0	25.6	21.2	3.2	3.2	3.2
訪問系サービス (n=47)	74.5	31.9	51.1	61.7	34.0	10.6	0.0	2.1	6.4
日中活動系サービス (n=51)	88.2	78.4	58.8	35.3	31.4	27.5	3.9	3.9	2.0
居住系サービス (n=29)	72.4	69.0	41.4	44.8	20.7	27.6	10.3	6.9	3.4
相談支援サービス (n=21)	57.1	66.7	57.1	52.4	14.3	23.8	0.0	0.0	4.8
障害児通所支援サービス (n=25)	92.0	72.0	52.0	64.0	16.0	32.0	4.0	0.0	0.0

## (8) 早期離職防止や定着促進のための取組

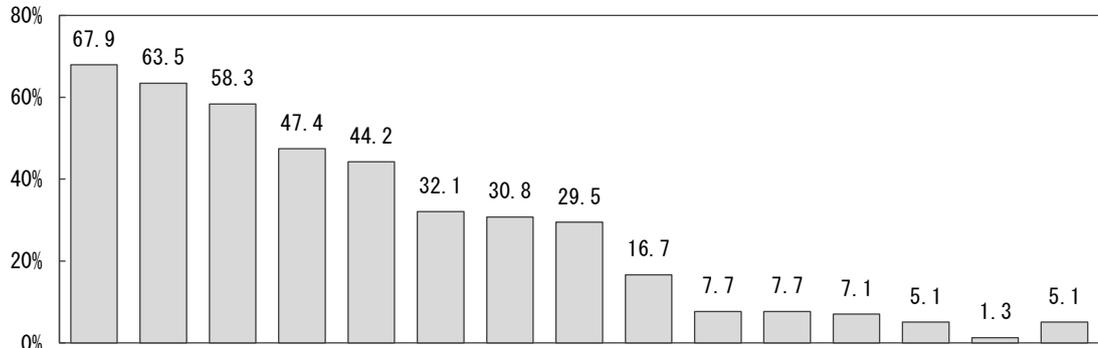
早期離職防止や定着促進のための取組については、「労働時間（時間帯・総労働時間）の希望」が58.3%と最も多く、次いで「育児・介護などの休暇制度の活用を推奨している」が45.5%となっている。

サービス分類別にみると、訪問系サービス、居住系サービスでは「労働時間（時間帯・総労働時間）の希望」がそれぞれ74.5%、72.4%と最も多くなっている。日中活動系サービスでは「育児・介護などの休暇制度の活用を推奨している」が64.7%と最も多くなっている。



### (9) 過去1年間に参加した研修内容（複数回答）

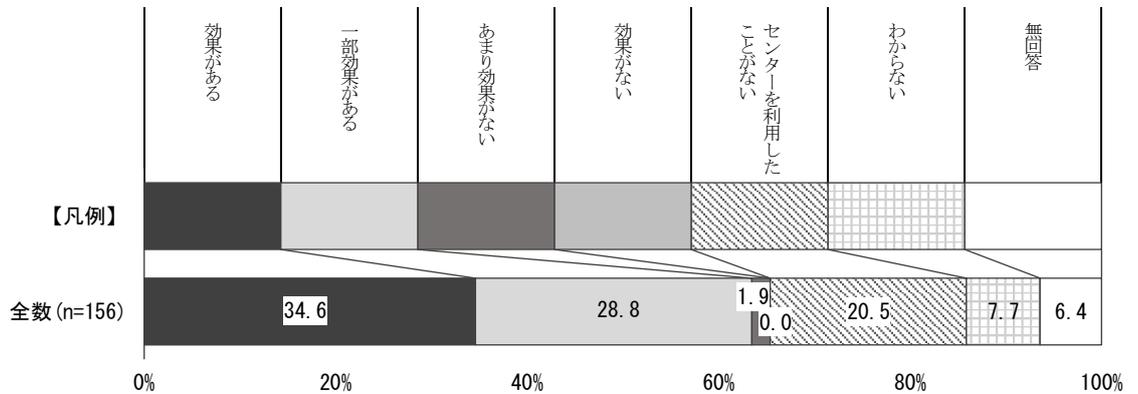
過去1年間に参加した研修内容は、「区が実施する集団指導」が67.9%と最も多く、次いで「障害者の権利擁護に関する研修」が63.5%、「都が実施する集団指導」が58.3%となっている。



	区が実施する集団指導	障害者の権利擁護に関する研修	都が実施する集団指導	障害の特性に関する研修	障害福祉サービス制度全般に関する研修	サービス管理責任者指導者養成・児童発達支援管理責任者研修	利用者支援等に係る実務研修	職場のメンタルヘルスに関する研修	苦情対応に関する研修	成年後見制度に関する研修	自立支援給付の請求に関する説明会・研修	相談支援従事者指導者養成研修	その他	参加した研修はない	無回答
全体 (n=156)	67.9	63.5	58.3	47.4	44.2	32.1	30.8	29.5	16.7	7.7	7.7	7.1	5.1	1.3	5.1
訪問系サービス (n=47)	59.6	48.9	42.6	25.5	23.4	4.3	4.3	31.9	21.3	2.1	6.4	0.0	6.4	4.3	6.4
日中活動系サービス (n=51)	70.6	74.5	60.8	60.8	47.1	49.0	49.0	29.4	21.6	15.7	7.8	11.8	5.9	0.0	3.9
居住系サービス (n=29)	55.2	72.4	79.3	51.7	65.5	41.4	37.9	44.8	10.3	6.9	6.9	10.3	3.4	0.0	10.3
相談支援サービス (n=21)	76.2	61.9	38.1	47.6	52.4	23.8	33.3	19.0	14.3	14.3	14.3	28.6	0.0	0.0	4.8
障害児通所支援サービス (n=25)	80.0	56.0	72.0	52.0	48.0	56.0	40.0	20.0	12.0	0.0	4.0	12.0	4.0	0.0	0.0

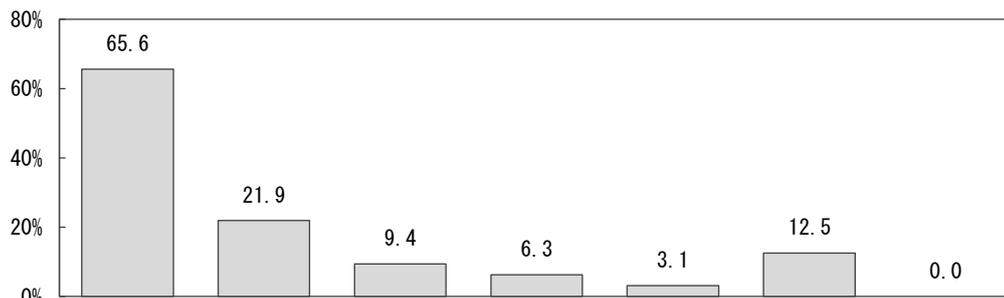
### (10) 練馬福祉人材育成・研修センターの利用

練馬福祉人材育成・研修センターについて、「効果がある」が34.6%、「一部効果がある」が28.8%、「センターを利用したことがない」が20.5%となっている。



### (11) 練馬福祉人材育成・研修センターを利用したことがない理由

練馬福祉人材育成・研修センターを利用したことがない利用について、「利用したいが時間的余裕がない」が65.6%と最も多く、次いで「利用したいが代替職員が確保できない」が21.9%となっている。



	利用したいが時間的余裕がない	利用したいが代替職員が確保できない	利用したい研修内容がない	センターがあることを知らなかった	利用方法がわからない	その他	無回答
全体 (n=32)	65.6	21.9	9.4	6.3	3.1	12.5	0.0
訪問系サービス (n=8)	75.0	37.5	0.0	0.0	12.5	12.5	0.0
日中活動系サービス (n=3)	66.7	33.3	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0
居住系サービス (n=11)	63.6	0.0	0.0	9.1	0.0	27.3	0.0
相談支援サービス (n=5)	60.0	0.0	20.0	0.0	0.0	20.0	0.0
障害児通所支援サービス (n=9)	44.4	33.3	22.2	11.1	0.0	11.1	0.0

※ベース：練馬福祉人材育成・研修センターを利用したことがないと回答した事業所

(12) 人材確保・人材育成について、練馬区に取り組んでほしいこと（自由回答）

主な回答内容は、次のとおりである。

- ・ 様々な職種を混ぜて集団就職説明会や面接会の開催
- ・ 人材の紹介、マッチング
- ・ 職層に応じた研修
- ・ 各事業所の人材不足や募集の状況をホームページに掲載
- ・ 人材バンク的なものをつくって必要なところへの紹介していく取組
- ・ 人材募集について、区報で広報する
- ・ 新しい職員が他施設の職員と合流し、お互いの情報を交換したり相談しあったりする場の提供

## 4 サービスの提供状況について

### (1) サービスの提供状況

サービスの提供状況（提供可能量と実際の提供量）について、1事業所あたりの1か月平均の回答平均値は以下のとおりとなっている。

サービス名	回答数	1か月平均の サービス 提供可能量 (1事業所あたり)	1か月平均の 実際の サービス提供量 (1事業所あたり)	単位
		回答平均値	回答平均値	
居宅介護	31	138.6	127.2	時間
重度訪問介護	23	441.7	398.9	時間
同行援護	8	1052.8	852.1	時間
行動援護	1	24.8	8.9	時間
生活介護	16	375.4	337.1	日
短期入所（ショートステイ）	6	831.7	936.2	日
施設入所支援	3	1224.3	1184.7	人
自立訓練（機能訓練）	2	820.0	733.8	日
自立訓練（生活訓練）	1	200.0	46.1	日
就労移行支援	3	342.0	131.3	日
就労継続支援（A型）	6	280.0	193.6	日
就労継続支援（B型）	22	193.5	174.5	日
共同生活援助（グループホーム）	20	143.9	132.6	人
地域移行支援	2	1.0	0.5	人
地域定着支援	2	1.0	-	人
計画相談支援	14	28.4	26.2	人
児童発達支援	17	110.6	94.5	日
放課後等デイサービス	13	104.2	76.8	日
保育所等訪問支援	1	40.0	40.0	日
障害児相談支援	4	27.0	13.0	人
地域活動支援センター事業	3	23.3	24.7	日
移動支援事業	12	172.9	149.9	時間
日中一時支援事業	1	8.0	8.0	日

※回答のあったサービスのみ掲載

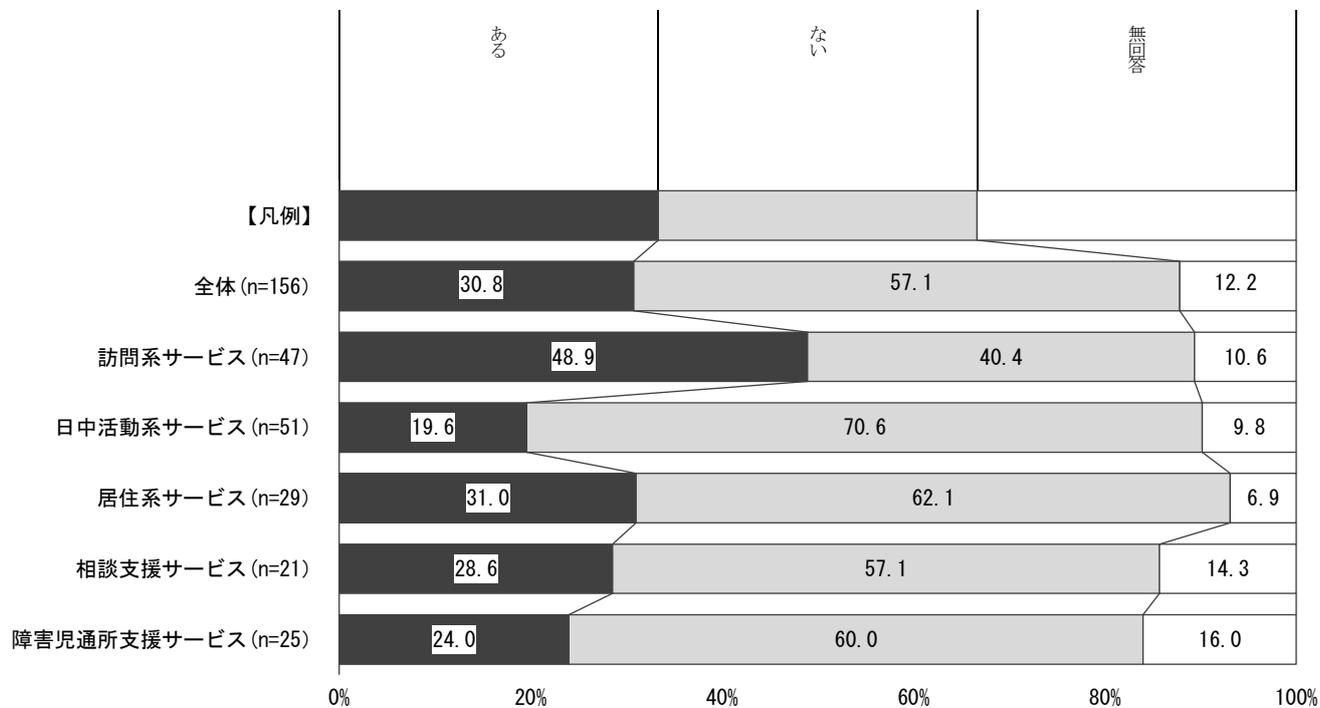
※単位が「時間」または「日」の場合は、「延べ時間」または「延べ日数」

※単位が「人」の場合は、実人数

## (2) サービスを提供しようとしてできなかったこと

これまでにサービスを提供しようとしてできなかったことについて、「ある」と回答した事業所は30.8%、「ない」と回答した事業所は57.1%となっている。

サービス分類別にみると、訪問系サービスでは「ある」が48.9%と他のサービスと比べて多くなっている。



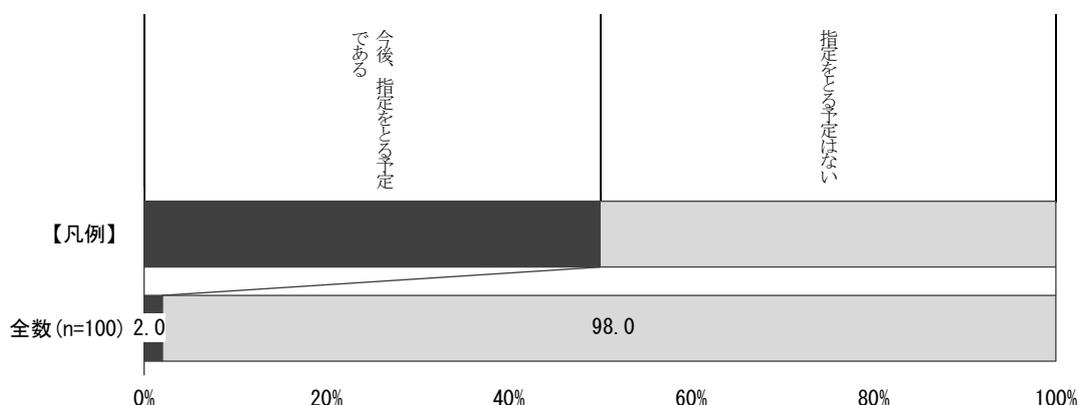
## (3) サービスを提供しようとしてできなかった理由（自由回答）

主な回答内容は、次のとおりである。

- ・新型コロナウイルス感染症により、閉所したり、職員が出勤できなかったりしたため
- ・人員不足のため
- ・ヘルパーと利用者の時間が合わなかったため
- ・満室、満床のため
- ・職員のスキル不足のため

#### (4) 特定相談支援事業所の指定を取る予定の有無

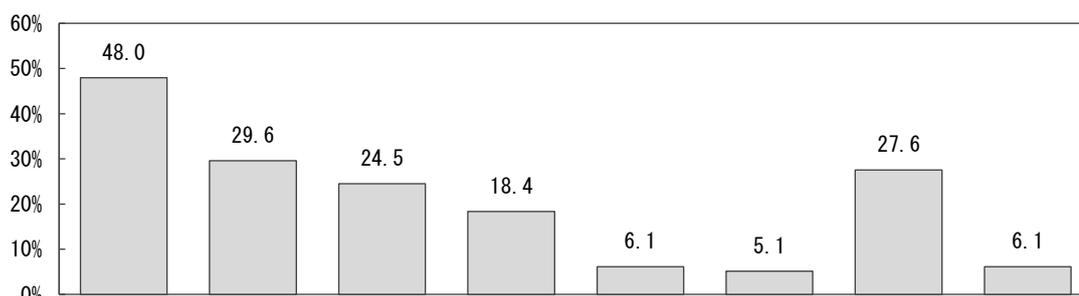
特定相談支援事業所の指定について、「今後、指定をとる予定である」と回答した事業所は2.0%、「指定をとる予定はない」と回答した事業所は98.0%となっている。



※ベース：指定特定相談支援事業所以外の事業所

#### (5) 特定相談支援事業所の指定を取る予定がない理由（複数回答）

特定相談支援事業所の指定を取る予定がない理由は、「職員体制が整わない」が48.0%と最も多くなっている。

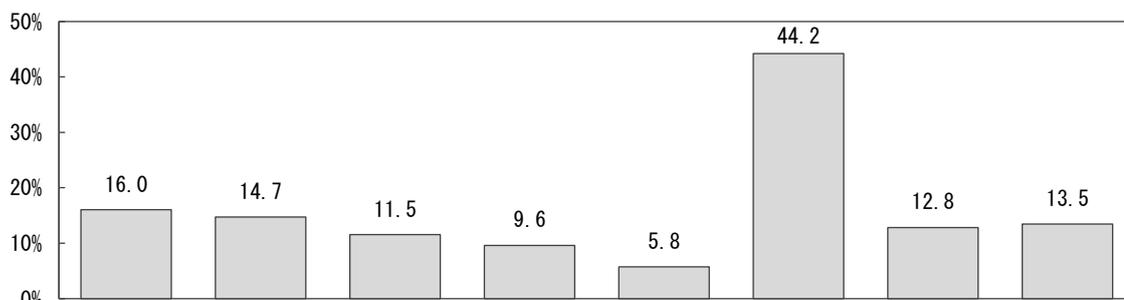


	職員体制が整わない	相談支援専門員がいない	収益性の確保ができない	事業所の場所の確保ができない	資金の調達ができない	指定の取り方がわからない	その他	無回答
全体(n=98)	48.0	29.6	24.5	18.4	6.1	5.1	27.6	6.1
訪問系サービス(n=28)	60.7	35.7	10.7	7.1	0.0	10.7	7.1	7.1
日中活動系サービス(n=34)	50.0	23.5	35.3	26.5	14.7	0.0	35.3	2.9
居住系サービス(n=22)	50.0	22.7	22.7	18.2	4.5	9.1	36.4	9.1
相談支援サービス(n=0)	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
障害児通所支援サービス(n=17)	23.5	41.2	29.4	17.6	0.0	0.0	29.4	5.9

※ベース：今後、特定相談支援事業所の指定をとる予定はないと回答した事業所

(6) 福祉サービス・介護保険サービス以外に行っている、または今後実施したいサービス（複数回答）

福祉サービス・介護保険サービス以外に行っている、または今後実施したいサービスについては、「居場所の提供」が16.0%と最も多く、次いで「講座等の区民への障害理解啓発活動」が14.7%、「社会教育の機会の提供」が11.5%となっている。なお、「行っていない」が44.2%となっている。



	居場所の提供	講座等の区民への障害理解啓発活動	社会教育の機会の提供	農福連携	LINE、メール等による相談	行っていない	その他	無回答
全体 (n=156)	16.0	14.7	11.5	9.6	5.8	44.2	12.8	13.5
訪問系サービス (n=47)	10.6	6.4	6.4	4.3	6.4	53.2	10.6	19.1
日中活動系サービス (n=51)	23.5	19.6	17.6	21.6	7.8	23.5	15.7	9.8
居住系サービス (n=29)	20.7	10.3	17.2	6.9	3.4	41.4	10.3	13.8
相談支援サービス (n=21)	9.5	28.6	4.8	4.8	4.8	42.9	9.5	14.3
障害児通所支援サービス (n=25)	20.0	28.0	12.0	4.0	8.0	48.0	28.0	4.0

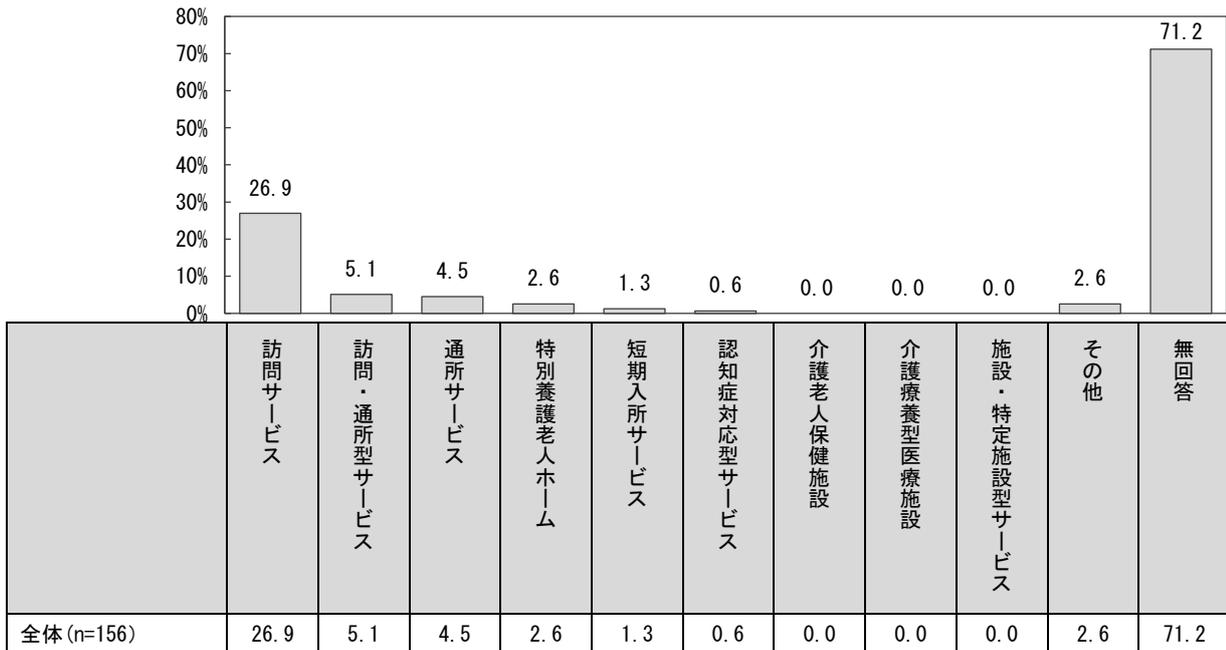
### (7) サービス、地域連携、社会貢献活動の具体的内容（自由回答）

主な回答内容は、次のとおりである。

- ・ 視覚障害者のためのメイク教室、スマホ講座
- ・ 地域農産物の販売、地域農家との連携
- ・ 医療型短期ショート、生活介護、日中一時預かり、就労支援 B 型
- ・ お祭り
- ・ 区立の小・中学校に、車いす体験、障害者との交流授業
- ・ 近隣児童を対象に人形劇や親子コンサート
- ・ 職場体験、ボランティアの受け入れ
- ・ 障害者の成人期の余暇活動（陸上、スキー等）
- ・ 視覚障害者に対する音訳資料、点字資料の作成
- ・ 支援時間外に近隣団体に場所を貸している。
- ・ 地域清掃活動・地域の防災訓練への参加
- ・ フードバンク
- ・ 街かどケアカフェ
- ・ 地域図書館や区内施設での自主製品の物販および自主製品の販売
- ・ 居場所を兼ねたリサイクルショップ
- ・ メール、SNS を利用した作業作品販売、家族支援、定着支援
- ・ 利用終了後もご本人、家族からの相談を受け付けている
- ・ 小中学生向けに障害の理解を深めるような講座や劇
- ・ 幼稚園や保育園等の保育士・教師への研修、講義
- ・ 介護タクシー

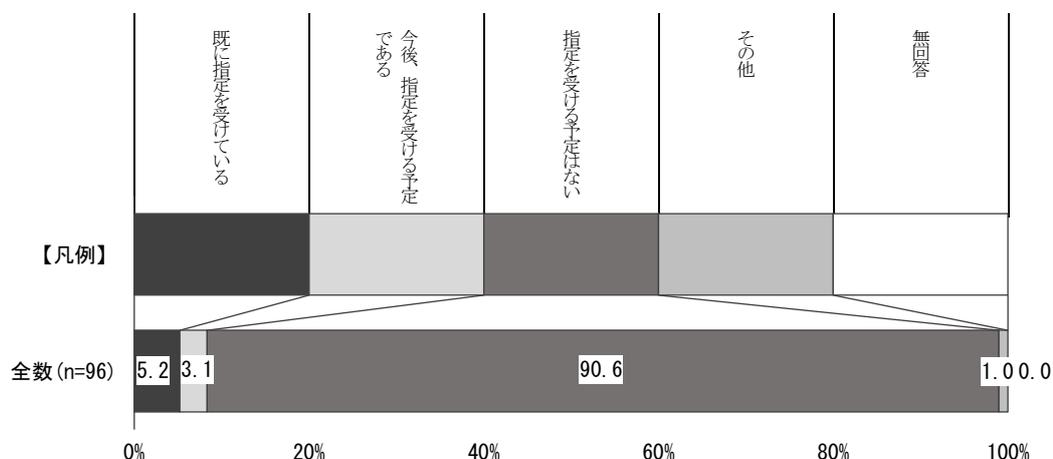
### (8) 提供している介護保険サービスの種類（複数回答）

提供している介護保険サービスの種類は、「訪問サービス」が 26.9%と最も多く、次いで「訪問・通所型サービス」が 5.1%、「通所サービス」が 4.5%となっている。



### (9) 共生型サービスの指定を取る予定の有無

共生型サービスの指定について、「既に指定を受けている」が5.2%、「指定を受ける予定はない」が90.6%となっている。

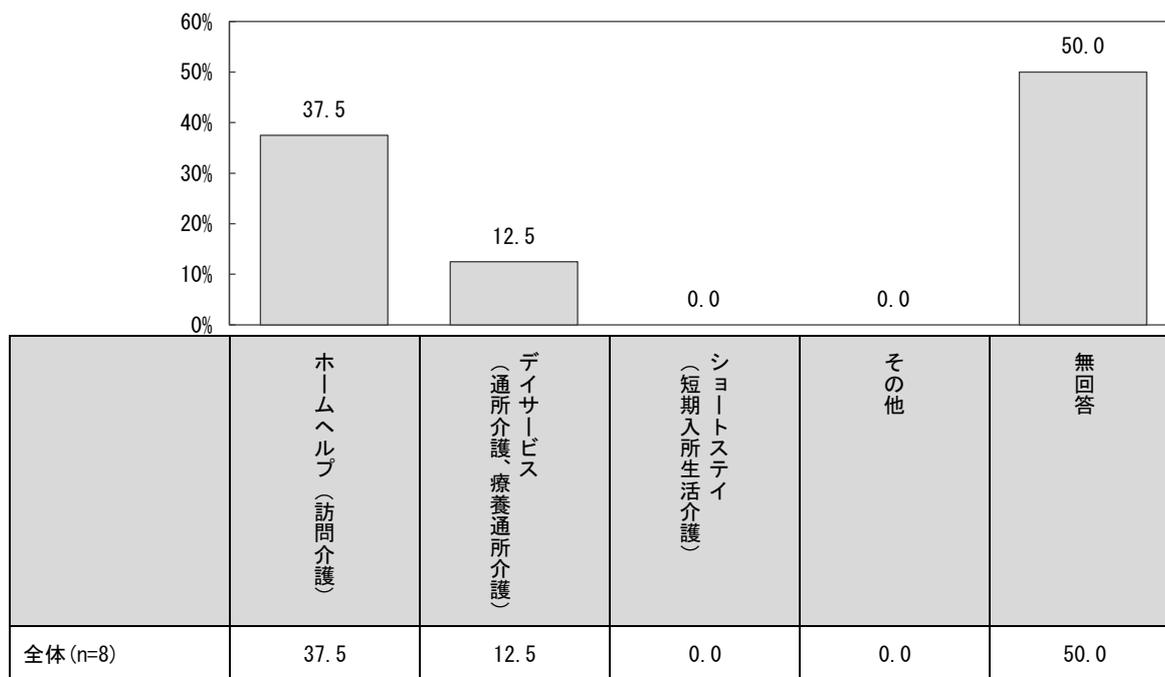


※ベース：居宅介護、重度訪問介護、生活介護、自立訓練、児童発達支援、放課後等デイサービス、短期入所を提供している事業所

### (10) 指定を取る予定のある（既に指定を受けている）共生型サービスの種類

#### (複数回答)

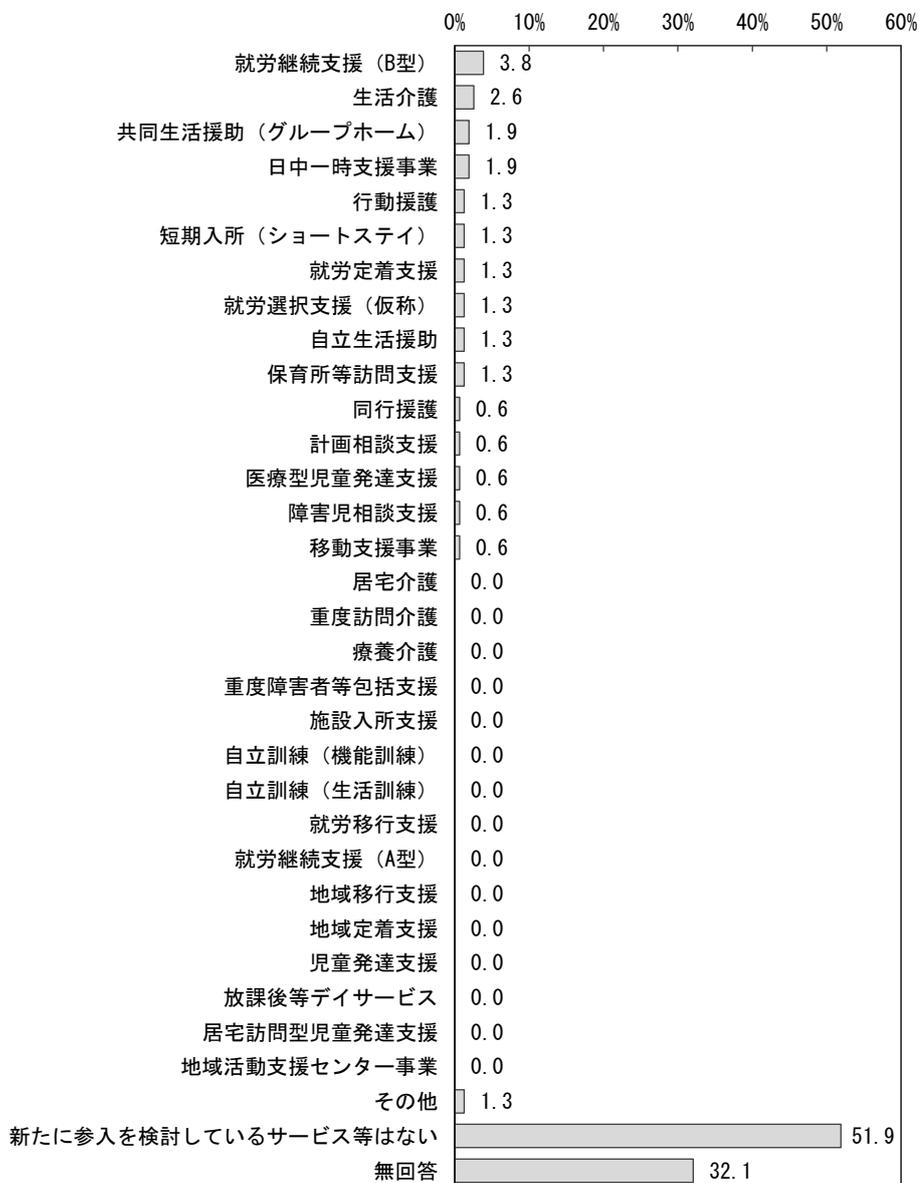
指定を取る予定のある（既に指定を受けている）共生型サービスの種類については、「ホームヘルプ（訪問介護）」が37.5%と最も多くなっている。



※ベース：居宅介護、重度訪問介護、生活介護、自立訓練、児童発達支援、放課後等デイサービス、短期入所を提供している事業所

### (11) 新たに参入を検討しているサービス（複数回答）

今後、新たに参入を検討しているサービスは、「就労継続支援（B型）」が3.8%、「生活介護」が2.6%となっている。なお、「新たに参入を検討しているサービス等はない」と回答した事業所が51.9%となっている。

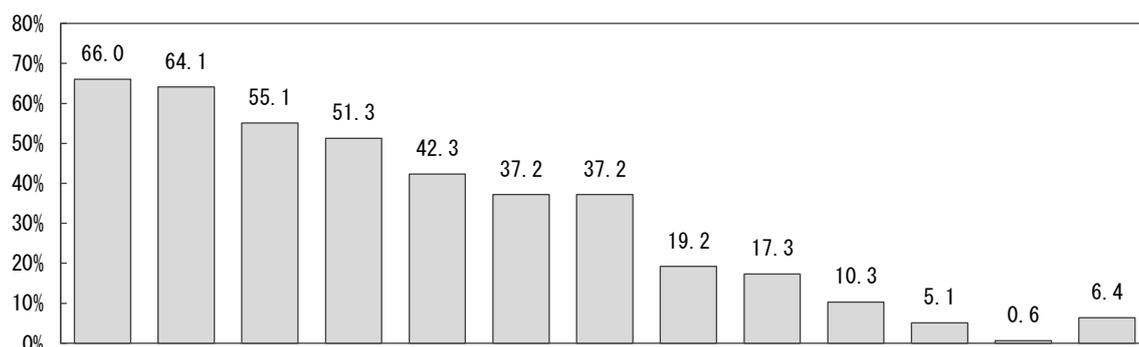


## 5 サービス向上のための取組について

### (1) サービス向上のための取組（複数回答）

サービス向上のために行っている取組は、「事故防止のためにヒヤリ・ハット事例の収集・共有を図っている」が66.0%と最も多く、次いで「各種研修会、学習会・セミナーの実施や参加」が64.1%、「管理者が直接サービス提供の状況を確認し指導している」が55.1%となっている。

サービス分類別にみると、訪問系サービスでは「事故防止のためにヒヤリ・ハット事例の収集・共有を図っている」が66.0%と最も多くなっている。日中活動系サービスでは「積極的に外部評価を受けている（ISO、第三者評価等）」が84.3%となっている。

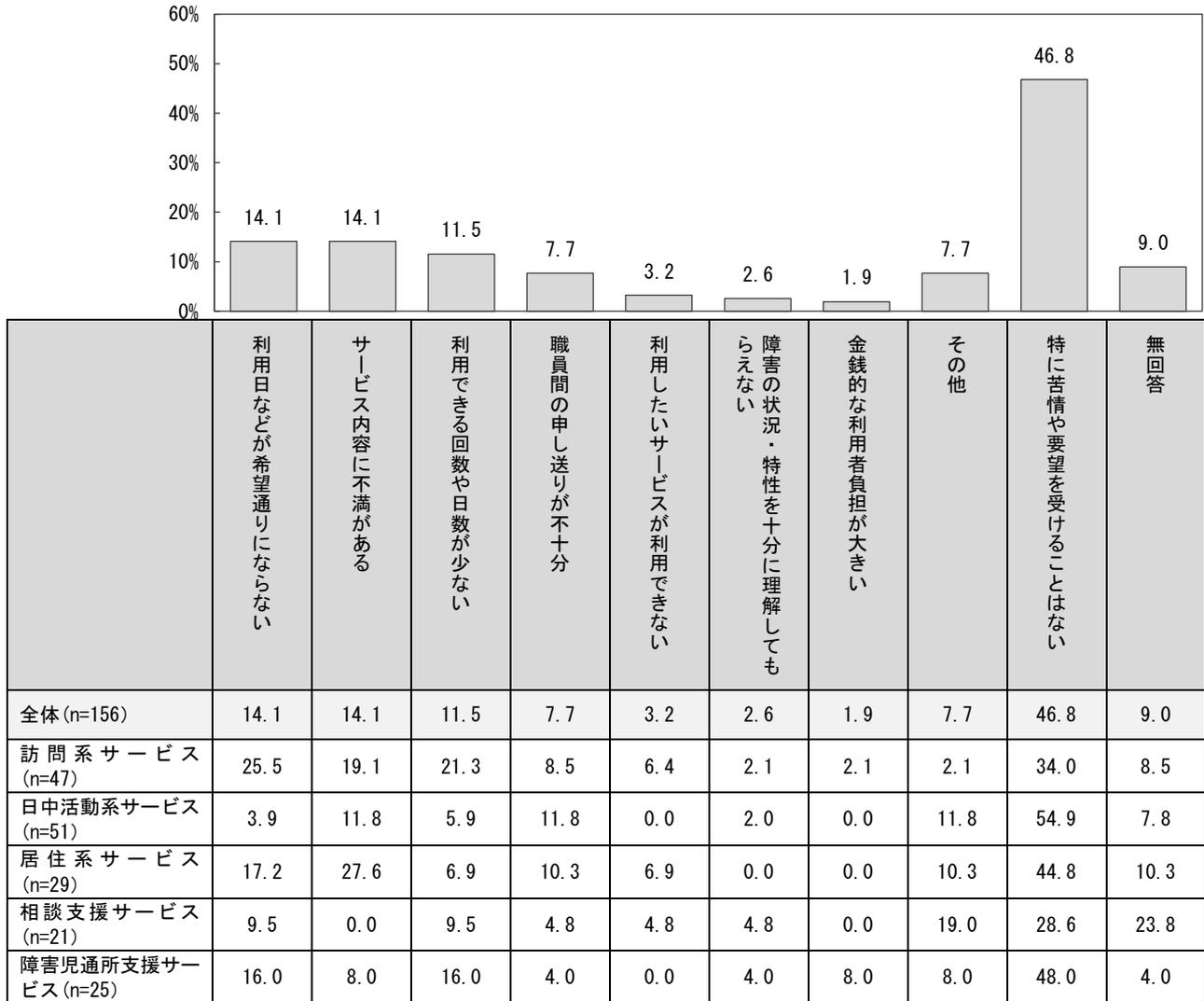


	事故防止のためにヒヤリ・ハット事例の収集・共有を図っている	各種研修会、学習会・セミナーの実施や参加	管理者が直接サービス提供の状況を確認し指導している	サービス提供のガイドライン、マニュアルを作成している	積極的に外部評価を受けている（ISO、第三者評価等）	利用者や家族に対し満足度調査を行っている	現場のスタッフが自発的に問題事例（生活問題等）に関するケース検討会などを行っている	意見箱を設置している	独自の自己評価を実施している	現場スタッフに任せている	その他	特に取り組んでいることはない	無回答
全体(n=156)	66.0	64.1	55.1	51.3	42.3	37.2	37.2	19.2	17.3	10.3	5.1	0.6	6.4
訪問系サービス(n=47)	66.0	46.8	42.6	59.6	10.6	40.4	14.9	10.6	21.3	10.6	4.3	0.0	6.4
日中活動系サービス(n=51)	70.6	74.5	66.7	45.1	84.3	35.3	62.7	29.4	13.7	13.7	7.8	0.0	2.0
居住系サービス(n=29)	51.7	72.4	48.3	51.7	72.4	17.2	31.0	24.1	13.8	10.3	10.3	0.0	10.3
相談支援サービス(n=21)	38.1	52.4	42.9	23.8	23.8	33.3	42.9	19.0	14.3	9.5	4.8	4.8	14.3
障害児通所支援サービス(n=25)	88.0	76.0	68.0	68.0	12.0	72.0	44.0	16.0	32.0	8.0	8.0	0.0	4.0

## (2) 利用者やご家族からの苦情や要望（複数回答）

利用者やご家族からの苦情や要望は、「特に苦情や要望を受けることはない」が46.8%と最も多く、次いで「利用日などが希望通りにならない」、「サービス内容に不満がある」がともに14.1%となっている。

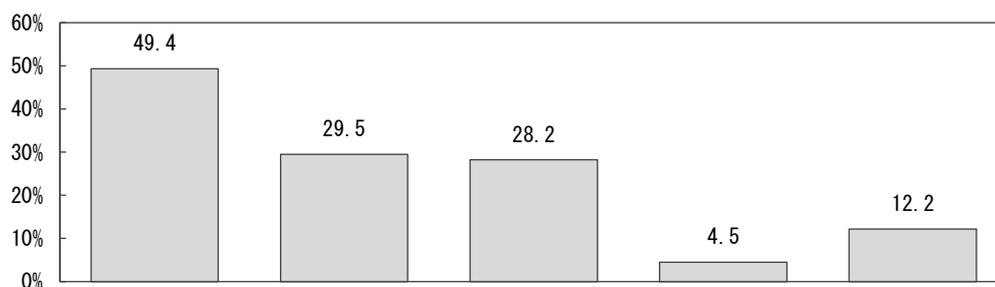
サービス分類別にみると、訪問系サービスでは「利用日などが希望通りにならない」が25.5%、居住系サービスでは「サービス内容に不満がある」が27.6%となっている。



### (3) 利用者の高齢化・重度化（複数回答）

利用者の高齢化・重度化について、「利用者の高齢化が進んでいる」が49.4%と最も多く、次いで「利用者の高齢化や障害の重度化を感じることはない」が29.5%となっている。

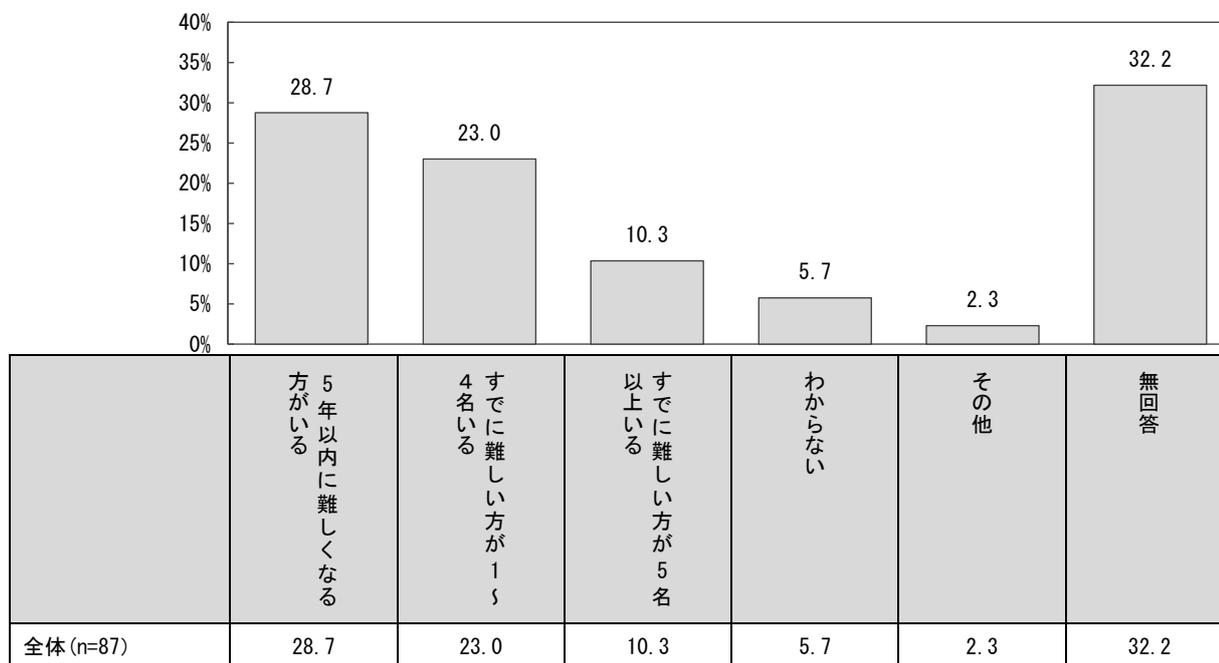
サービス分類別にみると、訪問系サービス、障害児通所支援サービスでは「利用者の高齢化や障害の重度化を感じることはない」がそれぞれ46.8%、64.0%と最も多くなっている。日中活動系サービス、居住系サービス、相談支援サービスでは「利用者の高齢化が進んでいる」がそれぞれ70.6%、62.1%、57.1%と最も多くなっている。



	利用者の高齢化が進んでいる	利用者の高齢化や障害の重度化を感じることはない	利用者の高齢化や障害の重度化が進んでいる	その他	無回答
全体 (n=156)	49.4	29.5	28.2	4.5	12.2
訪問系サービス (n=47)	36.2	46.8	4.3	4.3	14.9
日中活動系サービス (n=51)	70.6	9.8	52.9	2.0	7.8
居住系サービス (n=29)	62.1	6.9	41.4	13.8	17.2
相談支援サービス (n=21)	57.1	19.0	33.3	0.0	19.0
障害児通所支援サービス (n=25)	4.0	64.0	16.0	0.0	20.0

#### (4) 継続してサービスを利用することが困難な方（複数回答）

継続してサービスを利用することが困難な方については、「5年以内に難しくなる方がいる」が28.7%、「すでに難しい方が1～4名いる」が23.0%、「すでに難しい方が5名以上いる」が10.3%となっている。

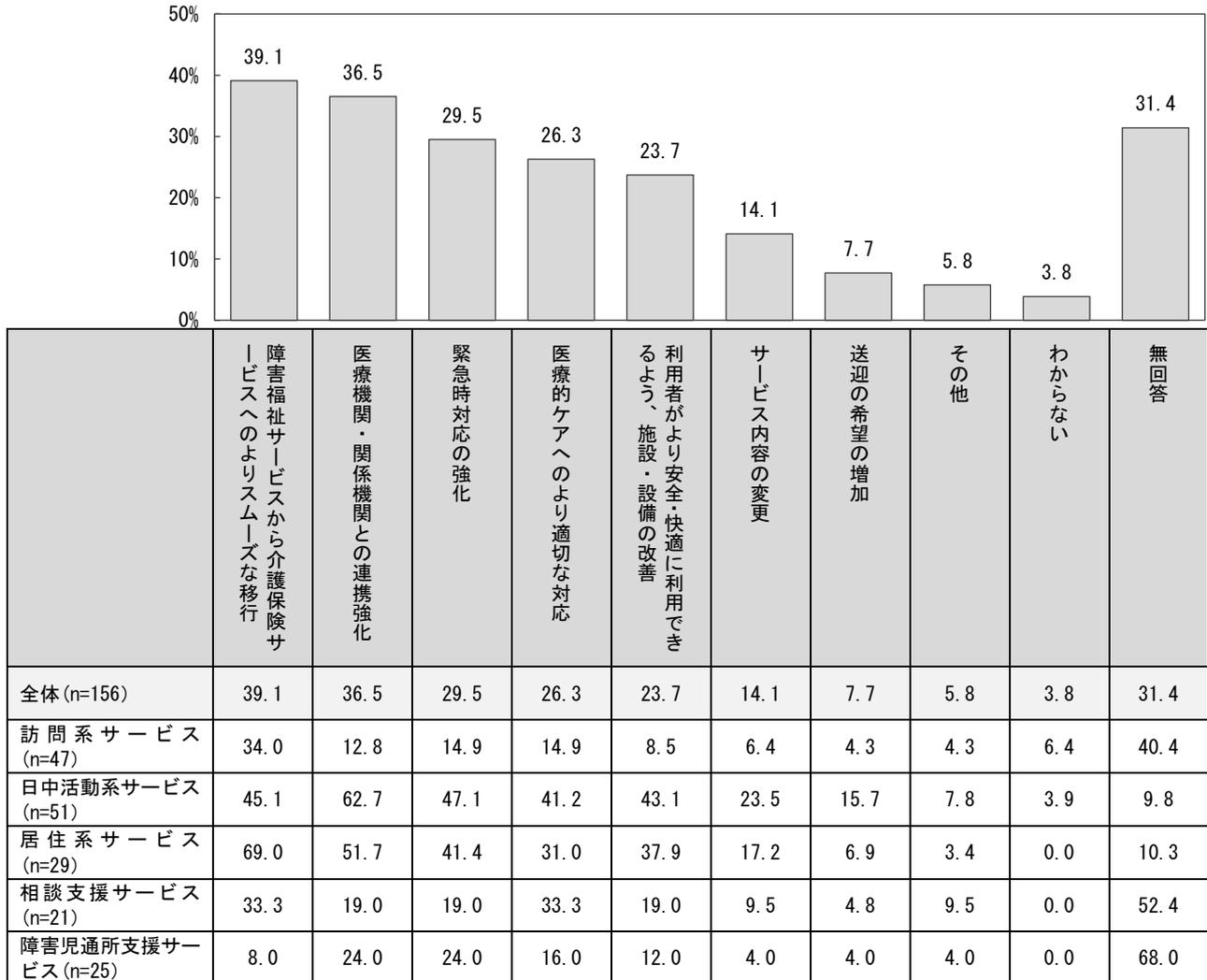


※ベース：生活介護・短期入所（ショートステイ）・就労移行支援・就労継続支援（A型）・就労継続支援（B型）・共同生活援助（グループホーム）を提供している事業所

### (5) 高齢化・重度化に伴う利用者ニーズ（複数回答）

利用者の高齢化・重度化に伴い高まってきているニーズは、「障害福祉サービスから介護保険サービスへのよりスムーズな移行」が39.1%と最も多く、次いで「医療機関・関係機関との連携強化」が36.5%、「緊急時対応の強化」が29.5%となっている。

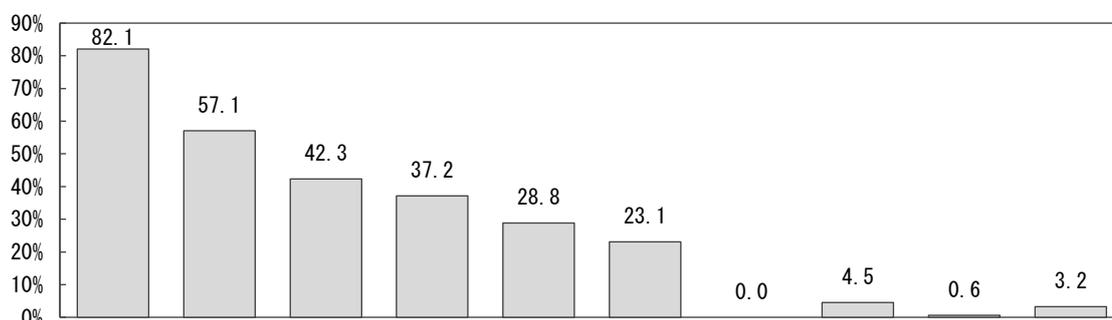
サービス分類別にみると、訪問系サービス、居住系サービスでは「障害福祉サービスから介護保険サービスへのよりスムーズな移行」がそれぞれ34.0%、69.0%と最も多くなっている。日中活動系サービスでは「医療機関・関係機関との連携強化」が62.7%と最も多くなっている。



※ベース：生活介護・短期入所（ショートステイ）・就労移行支援・就労継続支援（A型）・就労継続支援（B型）・共同生活援助（グループホーム）を提供している事業所

## (6) 問題が生じた場合の相談先（複数回答）

問題が生じた場合の相談先については、「練馬区」が82.1%と最も多く、次いで「法人本部」が57.1%、「相談支援事業所」が42.3%となっている。

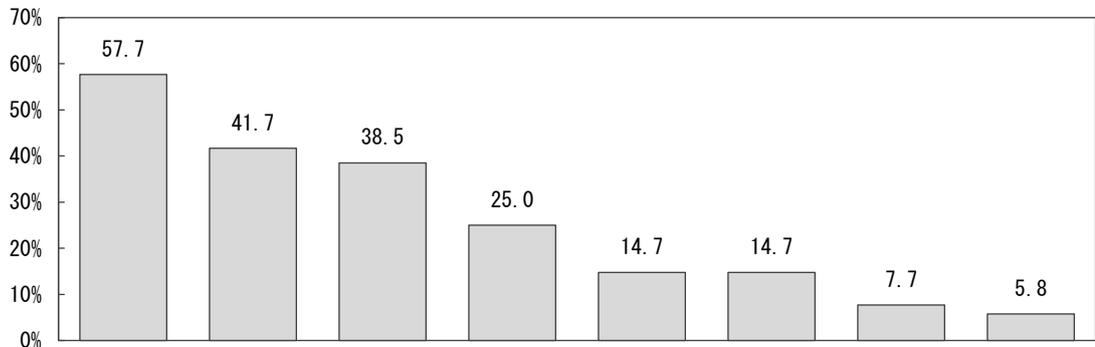


	練馬区	法人本部	相談支援事業所	東京都	他の事業所	障害者地域生活支援センター (基幹相談支援センター)	国	その他	どこにも相談したことはない	無回答
全数 (n=156)	82.1	57.1	42.3	37.2	28.8	23.1	0.0	4.5	0.6	3.2
訪問系サービス (n=47)	78.7	29.8	53.2	31.9	10.6	27.7	0.0	2.1	0.0	0.0
日中活動系サービス (n=51)	82.4	74.5	54.9	29.4	43.1	21.6	0.0	5.9	0.0	3.9
居住系サービス (n=29)	82.8	86.2	34.5	65.5	34.5	13.8	0.0	10.3	0.0	0.0
相談支援サービス (n=21)	81.0	47.6	9.5	23.8	23.8	52.4	0.0	0.0	0.0	19.0
障害児通所支援サービス (n=25)	84.0	60.0	20.0	60.0	20.0	4.0	0.0	0.0	4.0	0.0

## (7) 問題が生じた場合の相談内容（複数回答）

問題が生じた場合の相談内容については、「困難な事例への対応に関すること」が57.7%と最も多く、次いで「事業所の運営の支援に関すること」が41.7%となっている。

サービス分類別にみると、障害児通所支援サービスを除いたいずれのサービスにおいても「困難な事例への対応に関すること」が最も多くなっている。



	困難な事例への対応に関すること	事業所の運営の支援に関すること	利用者からの苦情や要望等への対応に関すること	人材の確保・質の向上に関すること	サービスの拡充に関すること	技術的な支援に関すること	その他	無回答
全体 (n=156)	57.7	41.7	38.5	25.0	14.7	14.7	7.7	5.8
訪問系サービス (n=47)	59.2	14.3	44.9	16.3	8.2	10.2	10.2	4.1
日中活動系サービス (n=51)	66.7	51.0	39.2	35.3	21.6	11.8	5.9	5.9
居住系サービス (n=29)	62.1	55.2	37.9	31.0	20.7	24.1	10.3	0.0
相談支援サービス (n=21)	61.9	38.1	42.9	19.0	19.0	14.3	4.8	19.0
障害児通所支援サービス (n=25)	40.0	68.0	24.0	40.0	20.0	12.0	4.0	4.0

## (8) 障害者地域活動支援センターに期待すること（自由回答）

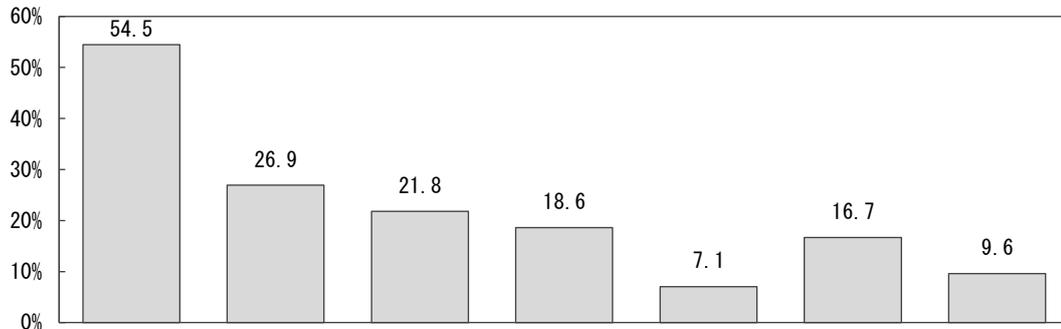
主な回答内容は、次のとおりである。

- ・ 困難事例に関する相談、介入
- ・ 相談支援事業所のサポート
- ・ 個別の課題に対する相談
- ・ 児童向けの気軽に参加できるイベント
- ・ サービス担当者会議の開催
- ・ 相談員一人の相談支援事業所に対する、代替相談員の確保の体制
- ・ 地域生活支援拠点としての軸
- ・ 障害当事者にとっての身近な窓口
- ・ 日中活動以外の利用者の居場所（共同カフェ、憩いの場提供など）
- ・ 高齢障害者の対応について詳しく伺いたい
- ・ ショートステイ先や体験できる施設の紹介
- ・ 児童～成人～高齢期と、障害にわたる支援を見据えた体制作り

## 6 その他

### (1) コンプライアンスの取組（複数回答）

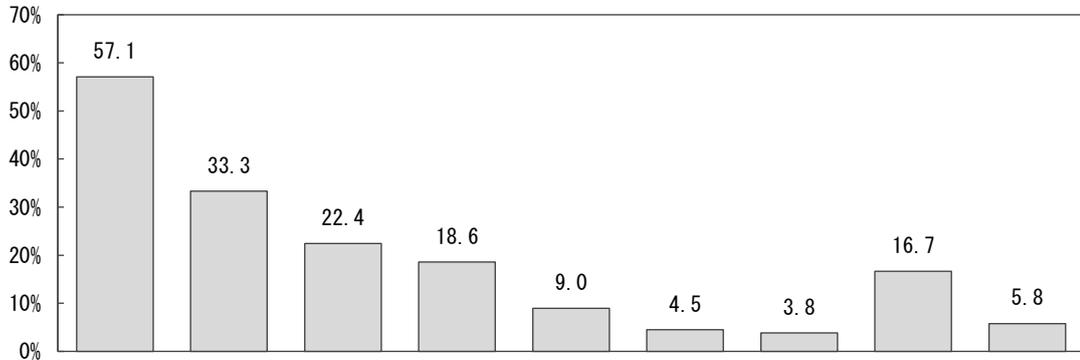
コンプライアンスの取組については、「職員に対して、コンプライアンス教育を行っている」が54.5%と最も多く、次いで「定期的に職員のコンプライアンスのセルフチェックを行っている」が26.9%となっている。



	職員に対して、コンプライアンス教育を行っている	定期的に職員のコンプライアンスのセルフチェックを行っている	法人・事業所内に、内部通報制度を作っている	法人・事業所内に、コンプライアンス委員会等の組織を作っている	その他	特に取り組んでいることはない	無回答
全体 (n=156)	54.5	26.9	21.8	18.6	7.1	16.7	9.6
訪問系サービス (n=47)	63.8	21.3	17.0	10.6	6.4	12.8	8.5
日中活動系サービス (n=51)	54.9	31.4	33.3	21.6	11.8	13.7	9.8
居住系サービス (n=29)	51.7	24.1	20.7	20.7	6.9	13.8	6.9
相談支援サービス (n=21)	33.3	19.0	9.5	19.0	4.8	33.3	23.8
障害児通所支援サービス (n=25)	48.0	28.0	12.0	24.0	4.0	28.0	0.0

## (2) ICT機器の活用

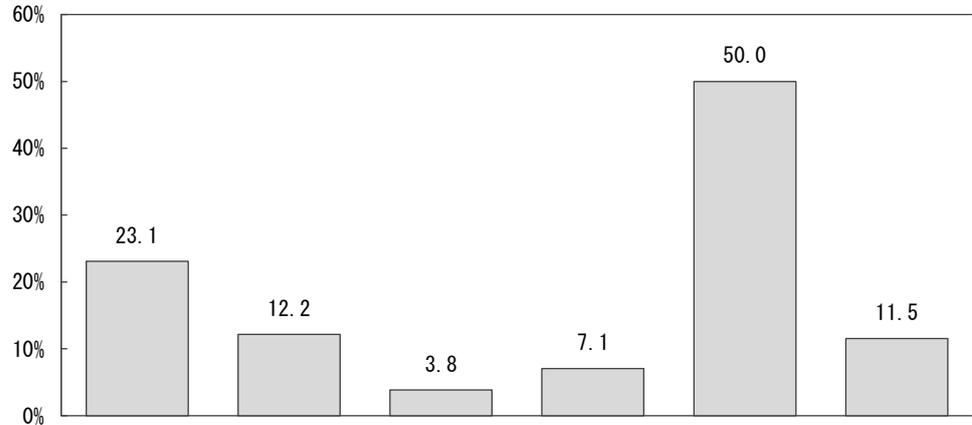
事業所でのICT機器の活用について、「パソコンで利用者情報（個別支援計画等）を共有している」が57.1%と最も多く、次いで「記録から障害福祉サービス請求までを一元化したシステムを利用している」が33.3%となっている。



	パソコンで利用者情報（個別支援計画等）を共有している	記録から障害福祉サービス請求までを一元化したシステムを利用している	グループウェア等のシステムで事業所内の報告・連絡・相談を行っている	給与計算、シフト管理、勤怠管理を一元化したシステムを利用している	タブレット端末等で利用者情報（個別支援計画等）を共有している	情報共有システム等を用いて他事業者とデータ連携している	その他	いずれも行っていない	無回答
全体 (n=156)	57.1	33.3	22.4	18.6	9.0	4.5	3.8	16.7	5.8
訪問系サービス (n=47)	36.2	40.4	12.8	27.7	12.8	6.4	4.3	19.1	6.4
日中活動系サービス (n=51)	76.5	31.4	23.5	17.6	5.9	5.9	3.9	9.8	5.9
居住系サービス (n=29)	62.1	27.6	34.5	13.8	6.9	6.9	6.9	20.7	0.0
相談支援サービス (n=21)	66.7	28.6	33.3	14.3	9.5	9.5	0.0	0.0	19.0
障害児通所支援サービス (n=25)	56.0	36.0	32.0	20.0	8.0	4.0	4.0	24.0	0.0

### (3) 意思決定支援

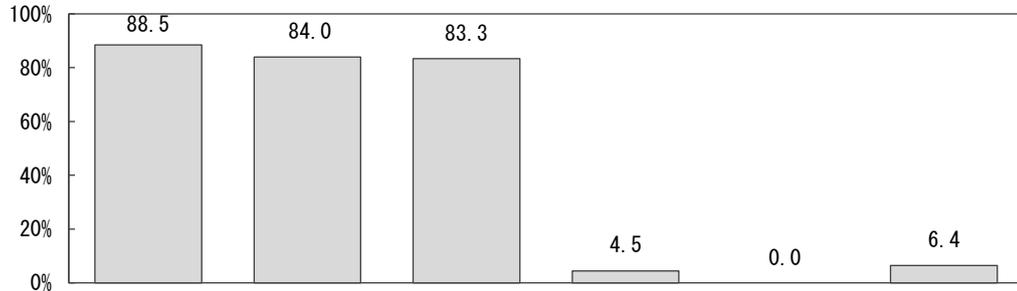
意思決定支援の取組状況について、「いずれも行っていない」が50.0%と最も多く、次いで「意思決定支援に関する研修を受講している」が23.1%、「意思決定支援ガイドラインを用いて事業所内で勉強会を行っている」が12.2%となっている。



	意思決定支援に関する研修を受講している	意思決定支援ガイドラインを用いて事業所内で勉強会を行っている	意思決定支援に関して手順やマニュアル等を定めている	その他	いずれも行っていない	無回答
全体 (n=156)	23.1	12.2	3.8	7.1	50.0	11.5
訪問系サービス (n=47)	4.3	14.9	10.6	0.0	63.8	10.6
日中活動系サービス (n=51)	39.2	11.8	0.0	13.7	37.3	11.8
居住系サービス (n=29)	27.6	17.2	0.0	13.8	44.8	6.9
相談支援サービス (n=21)	42.9	14.3	0.0	0.0	33.3	19.0
障害児通所支援サービス (n=25)	16.0	8.0	4.0	0.0	72.0	8.0

#### (4) 障害者虐待防止についての取組状況

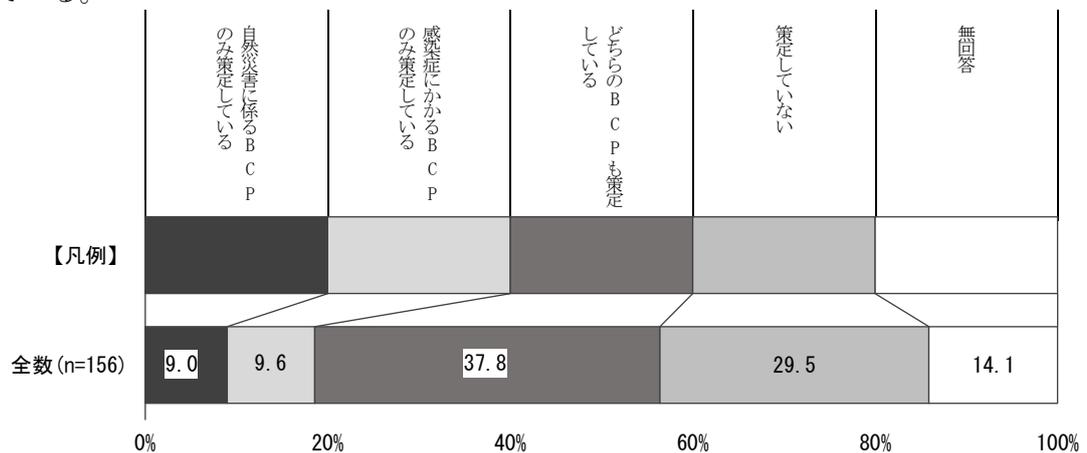
障害者虐待防止についての取組状況は、「従業員への研修実施」が88.5%と最も多く、次いで「虐待防止のための責任者の設置」が84.0%、「虐待防止委員会の設置および委員会の検討結果の従業員への周知」が83.3%となっている。



	従業員への研修実施	虐待防止のための責任者の設置	虐待防止委員会の設置および委員会の検討結果の従業員への周知	その他	特に取り組んでいることはない	無回答
全体 (n=156)	88.5	84.0	83.3	4.5	0.0	6.4
訪問系サービス (n=47)	83.0	70.2	68.1	2.1	0.0	6.4
日中活動系サービス (n=51)	90.2	88.2	90.2	3.9	0.0	7.8
居住系サービス (n=29)	89.7	82.8	86.2	10.3	0.0	6.9
相談支援サービス (n=21)	76.2	71.4	71.4	4.8	0.0	19.0
障害児通所支援サービス (n=25)	88.0	92.0	96.0	12.0	0.0	4.0

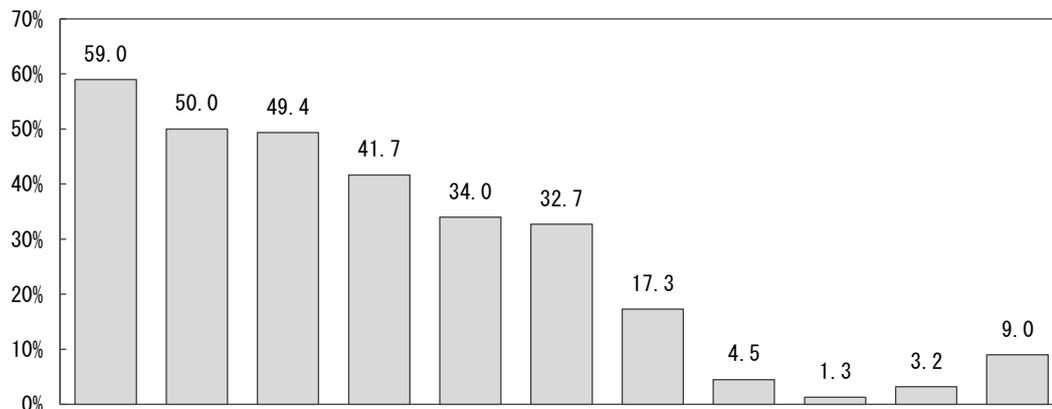
#### (5) BCPの策定状況

BCPの策定状況については、「感染症にかかるBCPのみ策定している」が9.6%、「自然災害に係るBCPのみ策定している」が9.0%、「どちらのBCPも策定している」が37.8%、「策定していない」が29.5%、「無回答」が14.1%となっている。



## (6) 災害時の対策（複数回答）

大規模災害時を想定した利用者の安否確認等の取組は、「定期的に防災訓練を実施している」が59.0%と最も多く、次いで「ふだんから被災情報収集および職員への連絡体制を確認している」が50.0%となっている。



	定期的に防災訓練を実施している	ふだんから被災情報収集および職員への連絡体制を確認している	ふだんから利用者・職員ともに避難経路・避難所を確認している	職員および利用者の防災知識の向上を図っている	ふだんから利用者の安否確認方法について確認している	ふだんから利用者と家族の連絡体制について確認している	関係機関との緊急連絡体制を構築している	地域住民（自主防災組織等）との連携体制を構築している	その他	特に取り組んでいることはない	無回答
全体 (n=156)	59.0	50.0	49.4	41.7	34.0	32.7	17.3	4.5	1.3	3.2	9.0
訪問系サービス (n=47)	21.3	53.2	19.1	34.0	40.4	38.3	17.0	0.0	0.0	8.5	10.6
日中活動系サービス (n=51)	78.4	51.0	72.5	62.7	33.3	43.1	23.5	9.8	0.0	0.0	9.8
居住系サービス (n=29)	75.9	44.8	62.1	41.4	27.6	17.2	24.1	6.9	3.4	0.0	6.9
相談支援サービス (n=21)	47.6	47.6	42.9	33.3	9.5	14.3	19.0	9.5	0.0	4.8	23.8
障害児通所支援サービス (n=25)	88.0	44.0	60.0	32.0	32.0	28.0	4.0	4.0	4.0	0.0	4.0

## (7) 区の障害者施策等への意見・要望（自由回答）

主な回答内容は、次のとおりである。

（情報提供）

- ・身体障害者・知的障害者のネットワーク会議開催

（福祉サービス等）

- ・受給者証の申請から発効までの時間の短縮
- ・介助スキルを教えてもらえる窓口
- ・日中一時支援、移動支援の給付費の向上
- ・発達に問題のあるお子さんに関して、幼稚園や保育園と連携して支援できる仕組み
- ・通所施設から短期入所施設の移動支援
- ・重度の方が入れるグループホームの増加

（経済的支援）

- ・家賃に対する補助の仕組みを創設

（その他）

- ・ライフステージの変化に応じた相談体制の構築
- ・障害者への住まいへの支援
- ・大人も子どもも安心してくつろげ、相談もできる場の創設
- ・基幹相談支援センターの強化を図るための体制整備
- ・福祉サービスと介護サービスをつなぐ仕組み

## 資料 使用した調査票



# 生活と福祉に関するアンケート

## ■ あなた(あて名の方ご本人)のことについて

問1 あなたの性別と年齢をお答えください。

なお、回答しにくいと感じる場合は、回答いただかなくて結構です。

性別 1 男性 2 女性 3 ( ) 年齢  歳

問2 この調査票はどなたが記入されますか。(○は1つ)

- 1 本人が自分一人で記入
- 2 本人に聞いて家族や介助者が代筆
- 3 本人の意向を考えながら家族や介助者が記入

問3 現在、あなたはどこで暮らしていますか。(○は1つ)

- 1 自分の持ち家(購入マンションも含む)
- 2 親など家族の持ち家(購入マンションも含む)
- 3 公営住宅
- 4 アパート、賃貸マンション、借家
- 5 グループホーム
- 6 社宅、会社の寮
- 7 福祉施設
- 8 病院に入院している
- 9 その他( )

問4 現在、あなたと一緒に暮らしている人はどなたですか。(○はいくつでも)

- 1 自分一人だけで暮らしている
- 2 配偶者(夫または妻)
- 3 息子、娘(息子または娘の配偶者も含む)
- 4 父、母
- 5 祖父、祖母
- 6 兄弟、姉妹
- 7 その他( )
- 8 グループホーム等での集団生活

問5 あなたご本人の収入源は何ですか。(○はいくつでも)

- 1 就労による収入
- 2 年金・手当
- 3 生活保護費
- 4 家族などからの仕送り
- 5 その他( )
- 6 収入はない

問6 あなたの世帯の、主な生計維持者(もともとも収入が多い方)はどなたですか。(○は1つ)  
※「3 父」「4 母」とお答えの場合には、年齢(令和5年6月1日現在)をご記入ください。

- 1 あなたご本人
- 2 あなたの配偶者(夫・妻)
- 3 父 →  歳
- 4 母 →  歳
- 5 子
- 6 祖父・祖母
- 7 兄弟・姉妹
- 8 その他( )



問7 身体障害者手帳に記載された障害の程度をお答えください。(○は1つ)

- 1 1級
- 2 2級
- 3 3級
- 4 4級
- 5 5級
- 6 6級

問8 身体障害者手帳に記載されている障害は次のどれですか。あてはまる障害の番号を「1番目」の欄に記入してください。障害の種類が2つ以上記載されている場合は、記載の順番にしたがって「1番目」と「2番目」を記入してください。

<ol style="list-style-type: none"> <li>1 視覚障害</li> <li>2 聴覚障害</li> <li>3 平衡機能障害</li> <li>4 音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害</li> <li>5 肢体不自由 (上肢、下肢、乳幼児期以前の非進行性の脳病変による運動機能障害)</li> <li>6 肢体不自由(体幹)</li> <li>7 心臓、じん臓、呼吸器、ぼうこう、直腸、小腸、肝機能、免疫の機能の障害</li> <li>8 その他( )</li> </ol>	↑	1番目
	↑	2番目

問9 身体障害者手帳を初めて取得されたのは何歳の頃ですか。

年齢  歳頃

問10 あなたは、以下の手帳をお持ちですか。お持ちの方は等級にも○をつけてください。(○はいくつでも)

- 1 愛の手帳 → ( 1度 2度 3度 4度 )
- 2 精神障害者保健福祉手帳 → ( 1級 2級 3級 )
- 3 これらの手帳は持っていない

問11 あなたは、以下のように診断されたことがありますか。(○はいくつでも)

- 1 発達障害(自閉スペクトラム症、AD/HD、学習障害など)
- 2 高次脳機能障害(失語症含む)
- 3 難病
- 4 強度行動障害
- 5 特にない

問12 あなたは、障害支援区分の認定を受けていますか。認定を受けている方は、現在の区分にも○をつけてください。(○は1つ)

- 1 受けている → ( 区分1 区分2 区分3 区分4 区分5 区分6 )
- 2 受けていない



問13-1 あなたは現在、日常生活をおくるために、医療的ケアを必要としていますか。(○は1つ)

1 必要   2 必要ではない → 問14へ進む

【問13-2、問13-3は、問13-1で「1 必要」と回答した方におたずねします。】

問13-2 どのような医療的ケアが必要ですか。(○はいくつでも)

1 経管栄養	6 気管カニューレ
2 胃ろう	7 導尿
3 腸ろう	8 人工呼吸器
4 たん等の吸引	9 気管切開
5 吸入	10 その他( )

問13-3 介助者が不在の時などの短期入所（ショートステイ）の利用状況についておたずねします。(○はいくつでも)

1 区内の短期入所(ショートステイ)を利用している
2 区外の短期入所(ショートステイ)を利用している
3 利用したいが医療的ケアが理由で受け入れ先がない
4 利用の必要がない
5 その他( )

■ 介助・援助の状況について

【すべての方におたずねします。】

問14 ふだん、あなたを介助・援助しているのはどなたですか。(○はいくつでも)

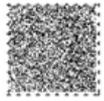
1 とくに介助等は受けていない → 問17-1へ進む

2 配偶者(夫または妻)	8 病院の職員(看護師・精神保健福祉士等)
3 父、母	9 施設の職員
4 息子、娘(息子、娘の配偶者も含む)	10 訪問看護師
5 祖父、祖母	11 ホームヘルパー
6 兄弟、姉妹	12 その他( )
7 行政の職員(ワーカー・保健師等)	

最も長く介助・援助している人はどなたですか。その方が2～6の場合、年齢を教えてください。

↑   (問14の選択肢の番号を記入)

年齢   歳



【問15、問16は、問14で「2」～「12」を回答した方におたずねします。】

問15 どのようなときに介助・援助を受けていますか。(○はいくつでも)

1 食事	7 外出
2 トイレ	8 服薬
3 入浴	9 医療的ケアに関わる介助
4 衣服の着脱	10 他の人と意思疎通を図りたいとき
5 家の中の移動	11 金銭管理
6 家事(調理、掃除、洗濯)	12 その他( )

問16 主に介助・援助している方が、病気のときや、外出しなければならぬ場合はどのようにしたいと思いますか。(○はいくつでも)

1 同居している他の家族に頼みたい
2 同居していない、他の家族や親せきに頼みたい
3 介護や家事援助などを行うホームヘルプサービスを利用したい
4 訪問看護を利用したい
5 施設への短期入所(ショートステイ)を利用したい
6 近所の人や友人・知人に頼みたい
7 今までそのようなことはなかったもので、よくわからない
8 その他( )

【すべての方におたずねします。】

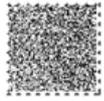
問17-1 あなたは、ふだんの生活の中で、必要とする介助・援助を受けていると思いますか。(○は1つ)

1 必要だが、受けていない介助・援助がある
2 必要とする介助・援助は受けていると思う
3 特に介助・援助を必要としていない
4 その他( )

→ 問18-1へ進む

【問17-1で「1 必要だが、受けていない介助・援助がある」と回答した方におたずねします。】

問17-2 必要だが、受けていない介助・援助は、どのようなことですか。(自由記入)



【すべての方におたずねします。】

問 18-1 地域生活支援拠点の機能のうち、「体験の機会・場」についておたずねいたします。

「体験の機会・場」の利用を希望しますか。(○は1つ)

地域生活支援拠点とは、障害児者の重度化・高齢化や「親亡き後」を見据え、居住支援のための機能(「相談」「緊急時の受入れ・対応」「体験の機会・場」「専門的人材の確保・養成」「地域の体制づくり」)を地域の実情に応じて整備し、障害者の生活を地域全体で支えるサービス提供体制のことです。  
 地域生活支援拠点における体験とは、入居を前提とした体験利用でなく、1か月程度グループホームでの生活を体験することで、将来の生活のイメージをつかむ目的のものを指します。

1 希望する → 問 19へ進む

2 希望しない

3 わからない → 問 19へ進む

【問 18-1で「2 希望しない」と回答した方におたずねします。】

問 18-2 希望しない理由をおたずねいたします。

- 1 将来的にグループホームの利用を希望していない
- 2 体験利用のイメージがわからない
- 3 体験利用にあたっての費用負担が難しい
- 4 体験利用期間中の日中活動先への通所が難しい
- 5 その他( )



■ 日中の過ごし方について

【すべての方におたずねします。】

問 19 あなたは、平日の昼間、主にどこで(何をして)過ごしていますか。(○は1つ)

- 1 幼稚園や保育園、学校などに通っている → 問 20へ進む
- 2 働いている(就労移行支援・就労継続支援事業所などの作業所も含む) → 問 22へ進む
- 3 施設(福祉園など)で介護・訓練を受けている
- 4 病院や診療所のデイケアなどを利用している
- 5 障害者地域生活支援センター(きらら、すてっぷ、ういんぐ、さくら)に通っている → 問 27へ進む
- 6 介護保険のデイサービスを利用している
- 7 自宅に多い
- 8 その他( ) → 問 29へ進む

■ 教育について

【問 20、問 21は、問 19で「1 幼稚園や保育園、学校などに通っている」と回答した方におたずねします。】

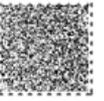
問 20 主たる通園・通学先はどこですか。(○は1つ)

- |              |          |           |
|--------------|----------|-----------|
| 1 幼稚園        | 5 特別支援学級 | 9 専門学校・大学 |
| 2 保育園        | 6 通常の学級  | 10 その他( ) |
| 3 児童発達支援事業所等 | 7 高等学校   |           |
| 4 特別支援学校     | 8 職業訓練校  |           |

問 21 幼稚園・学校などに通っていて、もっと充実してほしいことはありませんか。(○はいくつでも)

- |                         |                          |
|-------------------------|--------------------------|
| 1 通いやすくしてほしい(通学手段の改善など) | 5 放課後の居場所づくりを充実してほしい     |
| 2 施設・設備などを充実してほしい       | 6 夏休みなど長期休みの際の取組を充実してほしい |
| 3 介助体制を充実してほしい          | 7 その他( )                 |
| 4 先生・生徒の理解などが深まってほしい    | 8 特に困っていることはない           |

【次は問 29へ進んでください。】



■ 雇用・就労について

【問22～問26は、問19で「2 働いている」と回答した方におたずねします。】

問22 仕事の形態は次のうちどれですか。(○は1つ)

- |                     |                    |
|---------------------|--------------------|
| 1 自営業               | 5 内職               |
| 2 家業の手伝い            | 6 就労移行支援・就労継続支援事業所 |
| 3 会社・団体等の正規職員       | 7 その他( )           |
| 4 非正規職員(契約、パート、派遣等) |                    |

問23 仕事の内容は次のうちどれですか。(○は1つ)

- |                     |                    |
|---------------------|--------------------|
| 1 管理的業務             | 9 サービスの業務          |
| 2 研究・技術の業務          | 10 警備・保安の業務        |
| 3 法務・経営・文化芸術等の専門的業務 | 11 農林漁業の業務         |
| 4 医療・看護・保健の業務       | 12 製造・修理・塗装・製図等の業務 |
| 5 保育・教育の業務          | 13 配送・輸送・機械運転の業務   |
| 6 事務的業務             | 14 建築・土木・電気工業の業務   |
| 7 販売・営業の業務          | 15 運搬・清掃・包装・選別等の業務 |
| 8 福祉・介護の業務          | 16 その他( )          |

問24 あなたの職場はどこにありますか。(○は1つ)

- |                |              |
|----------------|--------------|
| 1 練馬区内         | 4 東京都外       |
| 2 23区内(練馬区を除く) | 5 在宅で仕事をしている |
| 3 東京都内         |              |

問25 仕事で得た収入は1年にどれくらいですか(給与・賃金など)。(○は1つ)

- |                |                 |
|----------------|-----------------|
| 1 2万円未満        | 6 100万円～300万円未満 |
| 2 2～5万円未満      | 7 300万円～500万円未満 |
| 3 5万円～20万円未満   | 8 500万円～700万円未満 |
| 4 20万円～50万円未満  | 9 700万円以上       |
| 5 50万円～100万円未満 | 10 収入はない        |

問26 仕事をす上で不安や不満がありますか。(○はいくつでも)

- |                  |                       |
|------------------|-----------------------|
| 1 収入が少ない         | 9 職場での身分が不安定          |
| 2 仕事が多い          | 10 トイレなど障害者用の設備が十分でない |
| 3 仕事が多岐にわたる      | 11 昇給や昇進が平等ではない       |
| 4 自分にあった内容の仕事がない | 12 通勤が大変              |
| 5 1日の就労時間が長い     | 13 食事やトイレの介助が必要       |
| 6 1週間の就労日数が多い    | 14 その他( )             |
| 7 障害への理解が足りない    | 15 特に不安や不満はない         |
| 8 人間関係が苦手        |                       |

【次は問29へ進んでください。】

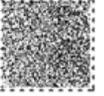
【問27～問28は、問19で「7」と回答した方におたずねします。】

問27 働いていない理由は次のうちどれですか。(○はいくつでも)

- |                        |                      |
|------------------------|----------------------|
| 1 体調がよくないから            | 7 仕事が多岐にわたるから        |
| 2 働くこと、体調が悪いときに休みにくいから | 8 仕事があるから            |
| 3 働くこと、通院しにくいから        | 9 高齢だから              |
| 4 通勤が難しいから             | 10 仕事を始める年齢に達していないから |
| 5 職場の理解が得られないと思うから     | 11 障害の程度や症状のため       |
| 6 やりたい仕事が見つからないから      | 12 その他( )            |

問28 今後、働いてみたいと思いますか。(○は1つ)

- |                 |                    |
|-----------------|--------------------|
| 1 働きたい          | 4 高齢のため働くことを考えていない |
| 2 働きたいが、働けないと思う | 5 わからない            |
| 3 働きたくない        |                    |



【すべての方におたずねします。】

問 29 あなたは、障害のある方が働くためにどのような環境を整えていることが大切だと思いますか。(〇はいくつでも)

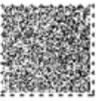
- |    |  |
|----|--|
| 1  | 自分の家の近くに働く場があること                               |
| 2  | 自分の家の中で、通勤することなく働けること                          |
| 3  | 健康状態にあわせた働き方ができること                             |
| 4  | 障害のある方にあった仕事が用意されること                           |
| 5  | 就労支援機関(レインボーワーク、就労移行支援事業所等)が充実していること           |
| 6  | 生活支援・余暇支援が充実していること                             |
| 7  | 事業主や職場の人たちが、障害者雇用について十分理解していること                |
| 8  | 職場の施設や設備が障害のある方にも利用できるように配慮されていること             |
| 9  | ジョブコーチ <sup>※</sup> の支援を受けながら働けること             |
| 10 | 同じような障害のある仲間と一緒に、あるいは交替で働けること                  |
| 11 | 在宅テレワークの環境を整えるなどICT <sup>※</sup> を活用できるようにすること |
| 12 | 通勤の同行や業務中の食事・トイレの介助が受けられるようにすること               |
| 13 | その他( )   |
| 14 | わからない  |

※ ジョブコーチ:企業就労や企業で働き続けるために、障害者と企業との間に入って支援する人

※ ICT:情報や通信に関する技術の総称

問 30 平日、昼間の活動が終わった後や休日ほどのように過ごしたいですか。(〇はいくつでも)

- |   |   |
|---|---|
| 1 | 障害者地域生活支援センター(きらら・すてっぷ・ういんぐ・さくら)の講座などのプログラムに参加したい |
| 2 | 地区区民館、図書館などの区立施設で過ごしたい                            |
| 3 | 買い物や散歩などに出かけたい                                    |
| 4 | 支援者が訪問して余暇活動ができるなど自宅で支援を受けながら過ごしたい                |
| 5 | 日中通っている福祉施設で利用時間を延長して過ごしたい                        |
| 6 | 日中通っている福祉施設以外で過ごしたい                               |
| 7 | 自宅で過ごしたい  |
| 8 | その他( )  |
| 9 | わからない   |



■ 外出や社会参加の状況について

問 31 外出する際に利用する手段を教えてください。(〇はいくつでも)

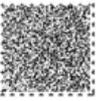
- |   |            |    |              |
|---|------------|----|--------------|
| 1 | 徒歩         | 6  | 家族などが運転する自動車 |
| 2 | 車椅子        | 7  | バス           |
| 3 | 自転車        | 8  | 電車           |
| 4 | バイク、スクーター  | 9  | タクシー         |
| 5 | 自分で運転する自動車 | 10 | その他( )       |

問 32 外出の際に困っていることがありますか。(〇はいくつでも)

- |    |                                 |
|----|---------------------------------|
| 1  | 付き添ってくれる人がいない                   |
| 2  | 他人との会話が難しい                      |
| 3  | 他人の視線が気になる                      |
| 4  | 必要などに、周りの人の手助け・配慮が足りない          |
| 5  | 歩道が狭く、放置自転車などの障害物が多いなど、歩道が歩きにくい |
| 6  | 建物などに段差が多く、利用しにくい               |
| 7  | 車を駐車するところがない                    |
| 8  | 気軽に利用できる移動手段が少ない                |
| 9  | 電車やバスなどが利用しづらい                  |
| 10 | 障害者用のトイレ(オストメイト対応、大人用ベッド含む)が少ない |
| 11 | その他( )                          |
| 12 | 特に困っていることはない                    |

問 33 あなたは、これからどのような活動をしたしたいと思いますか。(〇はいくつでも)

- |   |               |    |              |
|---|---------------|----|--------------|
| 1 | 文化芸術活動        | 7  | 個人的な趣味や学習の活動 |
| 2 | スポーツ・レクリエーション | 8  | 講座や講演会などへの参加 |
| 3 | 旅行            | 9  | 地域の行事やお祭     |
| 4 | ボランティア活動      | 10 | その他( )       |
| 5 | 障害者団体の活動      | 11 | 特に活動したくない    |
| 6 | 趣味などのサークル活動   |    |              |



問34 あなたは、問33のような活動に参加するためにはどのような支援が必要だと思いますか。(○はいくつでも)

1 活動についての情報が提供されること	6 適切な指導者がいること
2 一緒に行く仲間がいること	7 障害のある方に配慮した施設や設備があること
3 活動する場所が近くにあること	8 介助者・援助者がいること
4 外出のための手段が確保されていること	9 その他( )
5 障害にあった対応があること	10 特になし

■ 健康状況や医療について

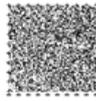
問35 健康管理や医療について、困ったり不便に感じたことはありませんか。(○はいくつでも)

1 特につらさを感じることがない
2 近所に診てくれる医師がいない
3 専門的な治療を行う医療機関がない
4 通院や健康診断のときに付き添いがいない
5 往診を頼める医師がいない
6 定期的に健康診断を受けられない
7 医療機関とのコミュニケーションがとれない
8 障害のために症状が正確に伝わらず、必要な治療が受けられない
9 受診手続きなど、障害のある方への配慮が不十分
10 医療機関の建物が障害のある方への配慮が不十分
11 医療費の負担が大きすぎる
12 休日・夜間の相談や治療をしてもらえる医療機関が少ない
13 その他( )

■ 相談や情報の入手について

問36 あなたは、悩みごとや心配ごとがあるとき、家族や親せき以外にどのようなところに相談していますか。(○はいくつでも)

1 総合福祉事務所	11 学校教育支援センター
2 保健相談所	12 子ども家庭支援センター
3 障害者地域生活支援センター	13 病院・診療所
(きらら・すてっぷ・ういんぐ・さくら)	14 学校・職場
4 権利擁護センター ぽっとサポートねりま	15 障害者団体
5 民生委員・児童委員	16 友人・知人
6 障害者相談員	17 ホームヘルパー
7 児童相談所	18 インターネットの掲示板(民間サイト)など
8 福祉施設	19 その他( )
9 相談支援事業所	20 相談できる場所はない
10 こども発達支援センター	21 相談の必要はない



問37 福祉サービスなどの情報をどこから得ていますか。(○はいくつでも)

1 ねりま区報	8 病院・診療所
2 区のホームページ	9 相談支援事業所
3 インターネットのサイト(区のホームページ以外)	10 民生委員・児童委員
4 区の障害者福祉のしおり	11 障害者団体
5 総合福祉事務所・保健相談所	12 家族・親せき
6 障害者地域生活支援センター	13 友人・知人
(きらら・すてっぷ・ういんぐ・さくら)	14 その他( )
7 学校、職場、施設	15 わからず

問38 日常生活に必要な情報を得る際に、あなたはパソコンなどの情報通信機器 (ICT 機器) をどの程度利用していますか。(それぞれ○は1つ)

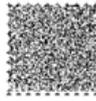
① パソコン	1 よく使う	2 まあ使う	3 使わない	4 持っていない
② スマートフォン	1 よく使う	2 まあ使う	3 使わない	4 持っていない
③ タブレット端末	1 よく使う	2 まあ使う	3 使わない	4 持っていない
④ その他	1 よく使う	2 まあ使う	3 使わない	4 持っていない

問39 あなたは、ふだん周囲の方々とコミュニケーションのために、どのような手段・機器等を利用していますか。(○はいくつでも)

1 パソコンのメール	8 補聴機器(補聴器・人工内耳など)
2 携帯/スマートフォンのメール・SNS*	9 触手話
3 電話(固定・携帯/スマートフォン)	10 指文字・指文字
4 携帯用会話補助装置*	11 意志伝達装置
5 手話・手話通訳	12 文字盤
6 読話	13 コミュニケーションボード
7 筆談・要約筆記	14 その他( )
	15 特に使用している機器はない

\* SNS(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)とは、Twitter(ツイッター)や Facebook(フェイスブック)等インターネットを介して友人・知人など利用者と情報発信・やりとりができるサービスです。

\* 携帯用会話補助装置とは、言葉を音声または文章に変換する、または言葉を拡声する機能を有する携帯式機器(携帯端末等で利用するためのアプリケーションソフトを含む。)



問 40 円滑なコミュニケーションの実現や情報入手のために、どのようなことを充実するとよいと思いますか。(〇はいくつでも)

- 1 点字による情報提供を増やす
- 2 音声による情報提供を増やす
- 3 パソコン/携帯メール・SNSによる情報提供を増やす
- 4 手話通訳・要約筆記を充実する
- 5 公共施設の案内・誘導をわかりやすくする
- 6 電光掲示板や自動販売機など字幕による情報提供を増やす
- 7 コミュニケーション支援機器の種類・使い方についての情報提供や相談の機会を増やす
- 8 コミュニケーションを支援する人を増やす
- 9 その他( )
- 10 特にない

■ 福祉サービスについて

問 41 あなたは、この1年くらいの間、次のサービスを利用したことがありますか。(〇はいくつでも)

- 1 ホームヘルプなどの訪問系サービス
- 2 訪問看護などの医療系サービス
- 3 短期入所(ショートステイ)・緊急一時保護
- 4 補装具費の支給・修理
- 5 日常生活用具の給付・レンタル
- 6 住宅設備改善費の給付
- 7 福祉タクシー券の交付、自動車燃料費の助成等
- 8 移動支援・同行援護
- 9 訪問入浴サービスなどの入浴サービス
- 10 自立訓練(入浴、食事等の訓練)などの自立した生活のために必要な支援
- 11 就労移行支援・就労継続支援・生活介護などの日中活動系サービス
- 12 就労定着支援など働くための支援
- 13 グループホームなどの居住系サービス
- 14 児童発達支援・放課後等デイサービスなど
- 15 手話通訳者・要約筆記者の派遣
- 16 その他( )
- 17 1～15のサービスを利用したことがない



問 42-1 あなたは、現在必要だと思ふサービスを十分利用していますか。(〇は1つ)

- 1 十分利用している
  - 2 十分ではないが、ほぼ利用している
  - 3 あまり利用していない
  - 4 その他( )
  - 5 わからない
  - 6 サービスを利用する必要がない
- } → 問 43-1 へ進む  
} → 問 43-1 へ進む

→【問 42-1 で「3 あまり利用していない」と回答した方におたずねします。】

問 42-2 必要だと思ふサービスを「あまり利用していない」理由は何か。(〇はいくつでも)

- 1 自己負担が大きいため
- 2 支給要件に該当しないから
- 3 必要とするサービスがないから
- 4 どのようなサービスがあるかわからないから
- 5 利用の仕方がわからないから
- 6 個別のニーズに対応できないから
- 7 サービスに空きがなく利用できないから
- 8 医療的ケアが理由で受け入れ先がない
- 9 その他( )
- 10 わからない





問 47 障害福祉サービスと介護保険サービスの両方のサービスを利用して、何か困っていることはありますか。(○はいくつでも)

- 1 サービスの支給量が減ってしまった
- 2 同じサービス提供事業所を利用し続けることができず、介護保険事業所に変更することになった
- 3 利用者自己負担が増えた
- 4 障害福祉サービスの上乗せの相談手続きが難しかった
- 5 介護保険サービスでは障害特性を理解した対応が受けられなくなった
- 6 その他( )
- 7 障害福祉サービスは利用していない(介護保険サービスのみの利用)
- 8 特に困っていることはない

■ 将来について

【すべての方におたずねします。】

問 48 今後、日中をどのようにして過ごしたいと思えますか。(○はいくつでも)

- 1 学校に通いたい
- 2 一般企業などで働きたい
- 3 就労移行支援・就労継続支援事業所などで働きたい(福祉的就労)
- 4 就労のための訓練・支援を受け(就労移行支援)、企業就労を目指したい
- 5 自立した日常生活が送れるよう、自立訓練を受けて過ごしたい
- 6 医療機関で機能訓練、看護、介護、日常生活の支援などを受けながら過ごしたい
- 7 福祉園などの通所施設で、身辺の介護などを受けながらさまざまな活動を行いたい
- 8 自宅で過ごしたい
- 9 その他( )
- 10 わからない

問 49 あなたは、5年後・10年後・20年後に、それぞれのよう暮らし方を希望しますか。第1希望・第2希望について、右の枠に項目の番号を記入してください。

【5年後】についてお答えください。

- 1 ひとりで暮らしたい
- 2 家族と一緒に暮らしたい
- 3 グループホームで暮らしたい
- 4 施設に入所して暮らしたい
- 5 その他( )
- 6 わからない



第1希望	第2希望
------	------

【10年後】についてお答えください。

- 1 ひとりで暮らしたい
- 2 家族と一緒に暮らしたい
- 3 グループホームで暮らしたい
- 4 施設に入所して暮らしたい
- 5 その他( )
- 6 わからない



第1希望	第2希望
------	------

【20年後】についてお答えください。

- 1 ひとりで暮らしたい
- 2 家族と一緒に暮らしたい
- 3 グループホームで暮らしたい
- 4 施設に入所して暮らしたい
- 5 その他( )
- 6 わからない

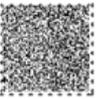
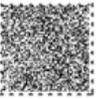


第1希望	第2希望
------	------

【5年後、10年後、20年後のいずれかで「1 ひとりで暮らしたい」と回答した方におたずねします。】

問 50 ひとりで暮らすために必要なことはどのようなことですか。(○はいくつでも)

- 1 ひとりで暮らすための手続きへの手助け
- 2 ひとりで暮らすための費用
- 3 バリアフリーに対応した物件
- 4 障害者に理解のある不動産業者(または貸主)
- 5 保証人や緊急連絡先の確保
- 6 定期的に安否確認を受けられるサービス
- 7 家事などの生活力向上のための支援
- 8 金銭管理の支援
- 9 障害福祉サービスの充実(具体的な内容: )
- 10 その他( )
- 11 わからない



問51 今後も練馬区に住み続けたいと思いますか。(○は1つ)

- 1 住み続けたい      2 区外に移転したい      3 わからない

問52 問51のように答えた理由は何ですか。(自由記入)

■ 災害対策について

問53-1 あなたは、最寄の避難拠点\* (区立小中学校) の場所をご存じですか。(○は1つ)

\*練馬区では、災害時に自宅で生活することができない場合の避難場所として、全区立小中学校を指定しており、避難拠点と呼んでいます。なお、避難拠点は居住地による指定はありません。お住まいの地域にかかわらず避難ができます。

1 知っている

2 知らない → 問54へ進む

→【問53-1で「1 知っている」と回答した方におたずねします。】

問53-2 あなたは、災害時にその避難拠点まで自力で避難することができますか。(○は1つ)

- 1 できると思う      2 できないと思う      3 その他( )

【すべての方におたずねします。】

問54 災害に備えて、または災害時に、どのような対策が必要だと思いますか。(○はいくつでも)

- 1 避難しやすい避難所を整備する
- 2 障害のある方が防災訓練等に参加するように促す
- 3 日頃から避難方法のアドバイスや情報提供を行う
- 4 緊急通報システムを整備する
- 5 避難時の支援体制、地域で助け合える体制を整備する
- 6 避難時に障害者用設備(トイレ、ベッドなど)を配置する
- 7 避難時に人工透析や人工呼吸器、在宅酸素など生命安全・維持装置を確保する
- 8 避難時において障害者に配慮した情報提供を行う
- 9 避難時の介助人などを確保する
- 10 避難所での手話通訳者、ガイドヘルパーなどを確保する
- 11 避難所で補装具等の貸出しを行う
- 12 その他( )
- 13 特にない



■ 権利擁護について

問55 障害があることで、差別や人権侵害を受けていると感じることがありますか。(○は1つ)

- 1 いつも感じる      3 ほとんど感じることはない  
2 たまに感じる      4 わからない

問56 地域で暮らす上で、障害に対して理解を得られていると感じますか。(○は1つ)

- 1 十分得られていると感じる      4 まったく得られていないと感じる  
2 時々得られていないと感じる      5 わからない  
3 あまり得られていないと感じる

問57 あなたは、障害および障害のある方への区民の理解を深めるためには、何が必要だと思いますか。(○はいくつでも)

- 1 障害への理解を深めるための広報・啓発を充実する
- 2 ボランティア活動や障害理解を深める活動をしている団体を支援する
- 3 障害がある方との交流を通じた障害理解の機会を増やす
- 4 学校における福祉教育・人権教育を充実する
- 5 障害のある方の社会参加のための支援を充実する
- 6 福祉施設が地域住民との交流を進める
- 7 障害のある方自らが、積極的に地域活動に参加する
- 8 障害のある方自らが、必要な手助け等を周囲に伝える
- 9 障害や発達に課題のある子どもへの支援の充実
- 10 その他( )
- 11 わからない
- 12 特にない



問 58-1 あなたは、今まで周囲に対して「合理的配慮」を求めたことがありますか。(○は1つ)

合理的配慮とは、障害のある方が、必要な配慮や手助けについて意思を伝えたととき、役所や会社・お店などが、負担が重すぎない範囲で対応することをいいます。

《合理的配慮の具体例》

- 書類を記入するとき、代わりに書くことに問題がない場合は、その人の意思を十分に確認しながら代わりに書く。
- 絵や写真のカードやタブレット端末などを使い、障害特性に合った方法で説明する。
- 段差がある場合に、携帯のスクリーンなどを使って補助する。

1 ある →問 59-1 へ進む

2 **ない**

3 その他( ) →問 59-1 へ進む

→【問 58-1 で「2 ない」と回答した方におたずねします。】

問 58-2 「合理的配慮」を求めたことがないのはどのような理由からですか。(○はいくつでも)

- 1 合理的配慮を必要とする場面・機会にあっていない
- 2 そのときには、合理的配慮を求めるとを思いつかなかった
- 3 合理的配慮を求めたかったが、周囲のことを考えて遠慮してしまった
- 4 合理的配慮を求めたかったが、配慮を求めるとを言い出しにくかった
- 5 合理的配慮について知らなかった
- 6 その他( )

【すべての方におたずねします。】

問 59-1 あなたは、今後の状況によって成年後見制度を利用しますか(利用する予定ですか)。(○は1つ)

※ 成年後見制度とは、自分で十分な判断ができない人のために、後見人等を選任して本人の意思決定を助け、生活や財産などの権利を守る制度です。選ばれた後見人等は、本人の意思を尊重し、心身の状態に配慮しながら必要な代理行為を行い、財産を適正に管理します。練馬区では、練馬区社会福祉協議会の権利擁護センター「ほっとサポートねりま」を成年後見制度の推進機関と位置づけています。

1 現在利用している

2 今後利用したい

3 **利用したいと思わない**

4 わからない

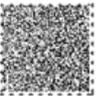
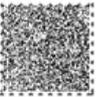
→問 60 へ進む

→問 60 へ進む

→【問 59-1 で「3 利用したいと思わない」と回答した方におたずねします。】

問 59-2 成年後見制度を利用しない(したくない)理由は何ですか。(○はいくつでも)

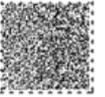
- 1 手続きが難しい
- 2 費用負担が大きい
- 3 後見人が選任されるまでに時間がかかる
- 4 制度のしくみがよくわからない
- 5 十分な支援が受けられるかわからない
- 6 その他( )
- 7 必要がない



【すべての方におたずねします。】

問 60 今後、障害者施策を充実させるためには、どのようなことが必要だと思いますか。  
(〇はいくつでも)

- |    |                                    |
|----|------------------------------------|
| 1  | 障害の早期発見・早期療育に努めること                 |
| 2  | 障害のある方とない方の交流を進め、相互理解を深めること        |
| 3  | 障害のある子どもそれぞれの特徴や発達に応じた教育を進めること     |
| 4  | 障害のある方の働く場の確保や働き続けるための支援を充実すること    |
| 5  | ホームヘルパーの派遣など在宅生活支援サービスを充実すること      |
| 6  | 区内で利用できる施設を整備すること                  |
| 7  | 障害者や高齢者にやさしいまちづくりを進めること            |
| 8  | 障害のある方の住まいとしてグループホームを整備すること        |
| 9  | 公営住宅や民間住宅など住まいを確保するための支援を充実すること    |
| 10 | 文化芸術、スポーツ、レクリエーション活動に参加できるよう支援すること |
| 11 | 障害のある当事者による活動を支援すること               |
| 12 | ボランティア活動を充実すること                    |
| 13 | 障害者施策や福祉に関する情報提供を充実すること            |
| 14 | 相談体制を充実し、適切な支援をすること                |
| 15 | サービスの利用手続きをしやすいようにするため、受付窓口を充実すること |
| 16 | 当事者のみでなく、家族を支える支援を充実すること           |
| 17 | その他( )                             |
| 18 | 特になし                               |



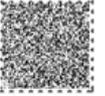
問61 新型コロナウイルス感染症拡大により、感染症流行前と比べて令和5年6月1日時点で、あなたの暮らしにどのような影響がありましたか。(〇はいくつでも)

	増え た	変 化 し な い	減 ら な い	変 化 し な い
	①	2	3	4
回答例				
1	1	2	3	4
2	1	2	3	4
3	1	2	3	4
4	1	2	3	4
5	1	2	3	4
6	1	2	3	4
7	1	2	3	4
8	1	2	3	4
9	1	2	3	4

最後に、この調査を通じて選択肢や自由記入欄だけでは表現しきれなかったことや、ご意見・ご要望、次期計画に盛り込みたいことなどがありましたら、自由にお書きください。

調査にご協力いただき誠にありがとうございました。

「あて名の方ご本人」へのおたずねは以上です。  
記入もれがないかも一度お確かめのうえ、同封の返信用封筒（切手は不要です）に入れて、  
7月10日（月）までにお近くのポストに投函してください。  
もし、差し支えなければ、ふだんあて名の方ご本人を主に介助・援助されている方のご意向  
もお聞かせください。



このページは、ふだん「あて名の方ご本人」を介助・援助しているご家族の方がお答えください。

■ 介助・援助者の意向

問 62 あて名の方ご本人を主に介助・援助する方の性別・ご年齢・続柄について、当てはまるものにそれぞれ教えてください。(○はそれぞれ1つ)  
なお、回答しにくいと感じる場合は、回答いただかなくて結構です。

性別 (○は1つ)	1 男性	2 女性	3 ( )
年齢 (○は1つ)	1 20 歳未満	5 50 歳代	
	2 20 歳代	6 60 歳代	
	3 30 歳代	7 70 歳代	
	4 40 歳代	8 80 歳以上	
続柄 (○は1つ)	1 夫	7 父	
	2 妻	8 母	
	3 息子	9 兄弟	
	4 娘	10 孫	
	5 子の夫	11 その他( )	
	6 子の妻		

問 63 あなたの現在の健康状態はいかがですか。(○は1つ)

1 よい	3 ぶつう	5 よくない
2 まあよい	4 あまりよくない	

問 64-1 あなたの就労・就学状況を教えてください。(○は1つ)

1 正規社員	} →問 64-2 へ進む
2 非正規社員	
3 パート・アルバイト	
4 学生 →問 65 へ進む	
5 無職 →問 64-2 へ進む	
6 その他( )	

【問 64-1 で「1」～「3」、または「5」、または「6」のいずれかを回答した方におたずねします。】

問 64-2 あなたの今後の就労意向を教えてください。(○は1つ)

1 現在と同様の形で働きたい	4 パート・アルバイトとして働きたい
2 正規社員として働きたい	5 わからない
3 非正規社員として働きたい	6 働きたくない

問 65 あて名の方ご本人を介助・援助するにあたって、困っていることはありませんか。(○はいくつでも)

1 介助・援助の方法がわからない	11 孤独感がある
2 福祉サービス等の情報が不足している	12 精神的な負担が大きい
3 福祉サービス等が十分に利用できない	13 経済的な負担が大きい
4 余暇など自分の時間が持てない	14 他にも介助の必要な家族・親族がいる
5 ちよつとした外出ができない	15 他の家族の援助が足りない
6 仕事に出られない	16 隣近所の人との関係づくりが難しい
7 長期的な外出ができない	17 何かの際に相談や介助を頼める人がいない
8 睡眠不足である	18 その他( )
9 身体的な負担が大きい	19 特にない
10 年長的に負担が大きい	

問 66-1 現在、あて名の方ご本人以外に、他の方の介護や子育て等をしていますか。(○は1つ)

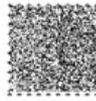
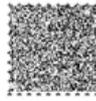
1 している	2 していない →問 67 へ進む
--------	-------------------

問 66-2 「他の方の介護や子育て等をしている」と回答した方におたずねします。あて名の方ご本人からみて、その方はどのような関係にあたりますか。(○はいくつでも)

1 兄弟・姉妹	3 祖父・祖母	5 その他( )
2 父・母	4 子	

問 66-3 「他の方の介護や子育て等をしている」と回答した方におたずねします。その方が介助・援助を必要とするのはどのような理由からですか。(○はいくつでも)

1 病気のため	4 育児のため
2 障害のため	5 その他( )
3 高齢のため	



問 67 家族等支援として、区に充実してほしい施策は何ですか。(〇はいくつでも)

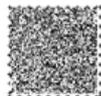
- |  |
|--|
| 1 区からの情報提供を増やす                               |
| 2 家族等の休養目的のショートステイを充実させる                     |
| 3 家族等に対する相談体制を充実させる                          |
| 4 障害特性の理解や、適切な対応をするための知識・方法を学ぶ家族向けプログラムを実施する |
| 5 家族同士の交流や情報交換の場・機会をつくる                      |
| 6 その他( )                                     |
| 7 特にない                                       |

最後に、練馬区の障害者施策などについて、ご意見・ご要望がございましたら、自由にお書きください。

--

調査にご協力いただき誠にありがとうございました。

同封の返信用封筒（切手は不要）に入れ、7月10日（月）までにご投函ください。



# 生活と福祉に関するアンケート

■ あなた（あて名の方ご本人）のことについて

問1 あなたの性別と年齢をお答えください。  
 なお、答えにくいと感じる場合は、お答えいただけなくて結構です。

性別	1 男性	2 女性	3 ( )
年齢	[ ] 歳		

問2 このアンケートはだれが書いていますか。(○は1つ)

1 自分ひとりで書いている
2 本人に聞いて家族や介助者が代筆
3 本人の意向を考えたながら家族や介助者が記入

問3 現在、あなたはどこで暮らしていますか。(○は1つ)

1 自分の持ち家(購入マンションも含む)	6 住宅、会社の寮
2 親など家族の持ち家(購入マンションも含む)	7 福祉施設
3 公営住宅	8 病院に入院している
4 アパート、賃貸マンション、借家	9 その他( )
5 グループホーム	

問4 現在、あなたと一緒に暮らしている人はだれですか。(○はいくつでも)

1 ひとりで暮らしている	5 おじいさん、おばあさん
2 夫または妻	6 兄弟、姉妹
3 子ども(息子、娘)	7 その他( )
4 お父さん、お母さん	8 グループホームなどで暮らしている

問5 あなたご本人の収入の種類は何ですか。(○はいくつでも)

1 働いた収入	4 家族のお金
2 年金・手当	5 その他( )
3 生活保護費	6 収入はない

問6 あなたの世帯の、主な生計維持者(もつとも収入が多い方)はどなたですか。(○は1つ)  
 ※「3 お父さん」「4 お母さん」とお答えの場合は、年齢(令和5年6月1日現在)をご記入ください。

1 あなたご本人	5 子ども(息子、娘)
2 夫または妻	6 おじいさん、おばあさん
3 お父さん → [ ] 歳	7 兄弟、姉妹
4 お母さん → [ ] 歳	8 その他( )

問7 愛の手帳には何度と書かれていますか。(○は1つ)

1 1度	2 2度	3 3度	4 4度
------	------	------	------

問8 愛の手帳を何歳から持っていますか。

年齢 [ ] 歳ごろ

問9 あなたは、愛の手帳のほかに持っている手帳はありますか。持っている方は等級にも○をつけてください。(○はいくつでも)

1 身体障害者手帳	→ ( 1級 2級 3級 4級 5級 6級 )
2 精神障害者保健福祉手帳	→ ( 1級 2級 3級 )
3 これらの手帳は持っていない	

【問10は、身体障害者手帳を持っている方がお答えください。】

問10 身体障害者手帳に記載されている障害は次のどれですか。あてはまる障害の番号を「1番目」の欄に記入してください。障害の種類が2つ以上記載されている場合は、記載の順番にしたがって「1番目」と「2番目」を記入してください。

1 視覚障害	1番目 [ ]
2 聴覚障害	↑
3 平衡機能障害	
4 音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害	
5 肢体不自由	2番目 [ ]
(上肢、下肢、乳幼児期以前の非進行性の脳病変による運動機能障害)	↑
6 肢体不自由(体幹)	
7 心臓、じん臓、呼吸器、ぼうこう、直腸、小腸、肝臓、免疫の機能の障害	
8 その他( )	

【すべての方におたずねします。】

問11 あなたは、以下のように病院などで言われたことがありますか。(○はいくつでも)

1 発達障害(自閉スペクトラム症、A/D/H/D、学習障害など)	3 難病
2 高次脳機能障害(失語症含む)	4 強度行動障害
	5 言われたことはない

問12 あなたは、障害支援区分の認定を受けていますか。認定を受けている方は、現在の区分にも○をつけてください。(○は1つ)

1 受けている	→ ( 区分1 区分2 区分3 区分4 区分5 区分6 )
2 受けていない	

問13-1 あなたは現在、日常生活をおくるために、医療的ケアを必要としていますか。(○は1つ)

1 必要  2 必要ではない  → 問14へ進む

【問12、問13-3は、問13-1で「1 必要」と答えた方におたずねします。】

問13-2 どのような医療的ケアが必要ですか。(○はいくつでも)

1 経管栄養  6 気管カニューレ   
 2 胃ろう  7 導尿管   
 3 腸ろう  8 人工呼吸器   
 4 たん等の吸引  9 気管切開   
 5 吸引  10 その他( )

問13-3 あなたを補助している人がいない時などの短期入所(ショートステイ)の利用についておたずねします。(○はいくつでも)

1 区内の短期入所(ショートステイ)を利用している   
 2 区外の短期入所(ショートステイ)を利用している   
 3 利用したいが医療的ケアが理由で受け入れ先がない   
 4 利用の必要がない   
 5 その他( )

■ 手助けについて

【すべての方におたずねします。】

問14 ふだん、あなたを補助している人はだれですか。(○はいくつでも)

1 とくに手助けはしてもらっていない → 問17-1へ進む   
 2 夫または妻  8 病院   
 3 お父さん、お母さん  9 施設   
 4 子ども(息子、娘)  10 訪問看護師   
 5 おじいさん、おばあさん  11 ホームヘルパー   
 6 兄弟、姉妹  12 その他( )   
 7 総合福祉事務所、保健相談所

最も長く手助けしている人はだれですか。その方が2～6の場合、年齢を教えてください。

年齢  歳

問14の番号を書いてください

【問15、問16は、問14で「2」～「12」と答えた方におたずねします。】

問15 どのようなときに手助けをしてもらっていますか。(○はいくつでも)

1 食事  7 外出   
 2 トイレ  8 薬をのむ   
 3 お風呂  9 医療的ケアに関わる介助   
 4 着替え  10 他の人とコミュニケーションをとりたいとき   
 5 家の中の移動  11 お金の管理   
 6 家事(調理、掃除、洗濯)  12 その他( )

問16 あなたを手助けしている方が、病気のときや、外出しなければならぬときなどは、どのようにしたいと思いますか。(○はいくつでも)

1 いっしょに住んでいられるほかの家族にたのみたい   
 2 いっしょに住んでいないほかの家族や親せきにたのみたい   
 3 ホームヘルプサービスを利用したい   
 4 訪問看護を利用したい   
 5 施設への短期入所(ショートステイ)を利用したい   
 6 近所の人や友だち、知り合いにたのみたい   
 7 いままでそのようなことはなかったため、よくわからない   
 8 その他( )

【すべての方におたずねします。】

問17-1 あなたは、ふだんの生活の中で、必要とする手助けをしてもらっていると意思ですか。(○は1つ)

1 必要だが、してもらっていない手助けがある   
 2 必要とする手助けをもらっていると思う   
 3 特に手助けを必要としない  → 問18-1へ進む  
 4 その他( )

【問17-1で「1 必要だが、してもらっていない手助けがある」と答えた方におたずねします。】

問17-2 必要だが、してもらっていない手助けは、どのようなことですか。(自由記入)

【すべての方におたずねします。】

問18-1 地域生活支援拠点の機能のうち、「体験の機会・場」についておうかがいします。  
「体験の機会・場」の利用を希望しますか。(○は1つ)

地域生活支援拠点とは、障害児者の重度化・高齢化や「親亡き後」を身振え、居住支援のための機能（相談「緊急時の受け入れ」対応「体験の機会・場」「専門的人材の確保・養成」「地域の体制づくり」）を地域の実情に応じて整備し、障害者の生活を地域全体で支えるサービス提供体制のことです。  
地域生活支援拠点における体験とは、入居を前提とした体験利用でなく、1か月程度グループホームでの生活を体験することで、将来の生活のイメージをつかむ目的のものを指します。

- 1 希望する → 問19へ進む
- 2 希望しない
- 3 わからない → 問19へ進む

→ 問18-1で「2 希望しない」と答えた方におたずねします。】

問18-2 希望しない理由はなんですか。

- 1 これからもグループホームの利用を希望していない
- 2 体験利用のイメージがわからない
- 3 体験利用にあたってのお金の負担が難しい
- 4 体験利用の間に日中に活動しているところへ行くことが難しい
- 5 その他( )

【すべての方におたずねします。】

問19 あなたは、平日の昼間、どこにいますか。(○は1つ)

- 1 幼稚園や保育園、学校 → 問20へ進む
- 2 会社など(就労移行支援・就労継続支援など作業所も含む) → 問22へ進む
- 3 施設(福祉園など)
- 4 病院、診療所
- 5 障害者地域生活支援センター(きらら・すてっぷ・ういんぐ・さくら) → 問27へ進む
- 6 介護保険のデイサービスを利用している
- 7 自分の家
- 8 その他( ) → 問29へ進む

【問20、問21は、問19で「1 幼稚園や保育園、学校」と答えた方におたずねします。】

問20 あなたは、主にどこに通っていますか。(○は1つ)

- 1 幼稚園
- 2 保育園
- 3 児童発達支援事業所など
- 4 特別支援学校
- 5 特別支援学級
- 6 通常の学級
- 7 高等学校
- 8 職業訓練校
- 9 専門学校・大学
- 10 その他( )

問21 幼稚園・学校などに通っていて、もっとよくしてほしいことはなんですか。(○はいくつでも)

- 1 通いやすくしてほしい(通学手段の改善など)
- 2 使いやすい施設してほしい
- 3 介助をうけやすくしてほしい
- 4 先生・生徒にもっと障害のことをわかってほしい
- 5 放課後の取組を充実してほしい
- 6 夏休みなど長い休みのときの取組を充実してほしい
- 7 その他( )
- 8 特に困っていることはない

【次は問29へ進んでください】

■ 雇用・就労について

【問22～問26は、問19で「2 会社など」と答えた方におたずねします。】

問22 仕事の働き方は次のうちどれですか。(○は1つ)

1 自営業	5 内職
2 家業の手伝い	6 就労移行支援・就労継続支援事業所
3 会社・団体などの正規職員	7 その他( )
4 非正規職員(契約、パート、派遣など)	

問23 仕事の内容は次のうちどれですか。(○は1つ)

1 管理的業務	9 サービスの業務
2 研究・技術の業務	10 警備・保安の業務
3 法務・経営・文化芸術等の専門的業務	11 農林漁業の業務
4 医療・看護・保健の業務	12 製造・修理・塗装・製図等の業務
5 保育・教育の業務	13 配送・輸送・機械運転の業務
6 事務的業務	14 建築・土木・電気工業の業務
7 販売・営業の業務	15 運搬・清掃・包装・選別等の業務
8 福祉・介護の業務	16 その他( )

問24 あなたの職場はどこにありますか。(○は1つ)

1 練馬区内	4 東京都外
2 23区内(練馬区を除く)	5 在宅で仕事をしている
3 東京都内	

問25 この1年間に、働いてもらったお金(給料・工賃)はいくらですか。(○は1つ)

1 2万円未満	6 100万円～300万円未満
2 2～5万円未満	7 300万円～500万円未満
3 5万円～20万円未満	8 500万円～700万円未満
4 20万円～50万円未満	9 700万円以上
5 50万円～100万円未満	10 収入はない

問26 仕事の不安や不満がありますか。(○はいくつでも)

1 収入が少ない	9 今の職場ですと働けるかどうかかわからない
2 仕事が多すぎずかしい	10 トイレなどがつかいにくい
3 仕事が体力的にきつい	11 給料がふえない
4 自分にあつた内容の仕事がない	12 通うのがたいへん
5 1日の仕事時間が長い	13 食事やトイレに手助けが必要
6 1週間の仕事日数が多い	14 その他( )
7 障害のことをなかなかわかってくれない	15 特に不安や不満はない
8 職場の人たちとうまくいかない	

【次は問29へ進んでください】

【問27～問28は、問19で「3」～「7」と答えた方におたずねします。】

問27 働いていない理由は次のうちどれですか。(○はいくつでも)

1 体調がよくないから	7 仕事が難しすぎるから
2 勤くと、体調が悪いときに休みにくいから	8 家事があるから
3 勤くと、通院しにくいから	9 高齢だから
4 通勤が難しいから	10 仕事をすすめる年齢に達していないから
5 職場の理解が得られないと思うから	11 障害の程度や症状のため
6 やりたい仕事が見つからないから	12 その他( )

問28 今後、働いてみたいと思いますか。(○は1つ)

1 働きたい	4 高齢のため働くことを考えていない
2 働きたいが、働けないと思う	5 わからない
3 働きたくない	

【すべての方におたずねします。】

問29 あなたは、障害のある方が働くためににはどのようなことが大切だと思いますか。  
(○はいくつでも)

- |    |   |
|----|---|
| 1  | 家の近くに働くところがあること                           |
| 2  | 通勤はしないで、家の中で働けること                         |
| 3  | からだの調子にあわせて働けること                          |
| 4  | 仕事の内容が障害のある方にあること                         |
| 5  | 就労支援をおこなうところ(インボーク、就労移行支援事業所など)が充実していること  |
| 6  | 生活支援・余暇支援が充実していること                        |
| 7  | 事業主や職場のスタッフが、障害のある方と働くことについて十分わかってくれていること |
| 8  | 職場の施設や設備が使いやすいようになっていること                  |
| 9  | ジョブコーチ*の支援を受けながら働けること                     |
| 10 | 同じような障害のある仲間と仕事を分け合ったり、交代で働くなど、無理なく働けること  |
| 11 | 在宅テレワークの環境を整えるなどICT**を活用できるようにすること        |
| 12 | 通勤の手助けや任事中に食事・トイレの手助けが受けられるようにすること        |
| 13 | その他( )                                    |
| 14 | わからない                                     |

\* ジョブコーチ: 企業就労や企業で働き続けるために、障害者と企業との間に入って支援する人

\*\* ICT: 情報や通信に関する技術のこと

問30 昼間の活動が終わった後やお休みの日は何をしたいですか (○はいくつでも)

- |   |   |
|---|---|
| 1 | 障害者地域生活支援センター(きらら・すてっぷ・ういんぐ・さくら)の講座などのプログラムに参加したい |
| 2 | 地区区民館 図書館などの区立施設で過ごしたい                            |
| 3 | 買い物や散歩などに出かけたい                                    |
| 4 | 支援者が訪問して余暇活動ができるなど自宅で支援を受けながら過ごしたい                |
| 5 | 通っている施設でもっと過ごしたい                                  |
| 6 | 通っている施設以外で過ごしたい                                   |
| 7 | 家で過ごしたい   |
| 8 | その他( )  |
| 9 | わからない   |

■ 外出や社会参加の状況について

問31 出かけるときの方法を教えてください。(○はいくつでも)

- |    |            |
|----|------------|
| 1  | 歩く         |
| 2  | 車椅子        |
| 3  | 自転車        |
| 4  | バイク、スクーター  |
| 5  | 自分で運転する車   |
| 6  | 家族などが運転する車 |
| 7  | バス         |
| 8  | 電車         |
| 9  | タクシー       |
| 10 | その他( )     |

問32 出かけるとき、困っていることがありますか。(○はいくつでも)

- |    |                                     |
|----|-------------------------------------|
| 1  | つきそってくれる人がいない                       |
| 2  | まわりの人と話すのがむずかしい                     |
| 3  | まわりの人の目が気になる                        |
| 4  | まわりの人の手助け・配慮が足りない                   |
| 5  | 歩道が狭かったり、自転車が置いてあつたりして、歩道が歩きにくい     |
| 6  | 建物などに段差が多く、利用しにくい                   |
| 7  | 車を停めるところがない                         |
| 8  | 気軽に利用できる移動手段が少ない(福祉タクシーなど)          |
| 9  | 電車やバスなどが利用しづらい                      |
| 10 | トイレが使いにくい、少ない(オストメイト対応トイレ、大人用ベッドなど) |
| 11 | その他( )                              |
| 12 | 特に困っていることはない                        |

問33 次の活動の中で、あなたがこれからしたいことはありますか。(○はいくつでも)

- |    |               |
|----|---------------|
| 1  | 文化芸術活動        |
| 2  | スポーツ・レクリエーション |
| 3  | 旅行            |
| 4  | ボランティア活動      |
| 5  | 障害者団体の活動      |
| 6  | 趣味などのサークル活動   |
| 7  | 個人的な趣味や学習の活動  |
| 8  | 講座や講演会などへの参加  |
| 9  | 地域の行事やお祭      |
| 10 | その他( )        |
| 11 | 特にしたいことはない    |

問34 あなたは、問33のような活動に参加するためにはどのような手助けが必要だと感じますか。  
(○はいくつでも)

- |    |                       |
|----|-----------------------|
| 1  | 活動についてのおしらせがあること      |
| 2  | いっしょに行く仲間がいること        |
| 3  | 活動する場所が近くにあること        |
| 4  | 外出のための手助け・サービスがあること   |
| 5  | 障害にあった対応ができること        |
| 6  | きちんと教えてくれる人がいること      |
| 7  | 障害のある方が使いやすい施設などがあること |
| 8  | 手助けをしてくれる人がいること       |
| 9  | その他( )                |
| 10 | 特にない                  |

■ 健康状況や医療について

問35 健康管理や医療について、困ったり不便に感じたことはありませんか。(○はいくつでも)

- |    |                               |
|----|-------------------------------|
| 1  | 特に困っていることはない                  |
| 2  | 近所に診てくれるお医者さんがいない             |
| 3  | 専門的な治療を行う病院・診療所がない            |
| 4  | 通院や健康診査のときにつきそいがれない           |
| 5  | 任診をたのめるお医者さんがいない              |
| 6  | 定期的に健康診査を受けられない               |
| 7  | 病院・診療所とのコミュニケーションがとれない        |
| 8  | 障害のために症状が正確に伝わらず、必要な治療が受けられない |
| 9  | 受診手続きなどがわかりにくい                |
| 10 | 病院・診療所の建物が使いにくい               |
| 11 | 医療費の負担が大きい                    |
| 12 | 休日・夜間の相談や治療をしてくれる病院・診療所が少ない   |
| 13 | その他( )                        |

■ 相談や情報の入手について

問36 あなたは、悩みごとや心配ごとがあるとき、家族や親せき以外にどのようなところに相談していますか。(○はいくつでも)

- |    |                      |    |                      |
|----|----------------------|----|----------------------|
| 1  | 総合福祉事務所              | 11 | 学校教育支援センター           |
| 2  | 保健相談所                | 12 | 子ども家庭支援センター          |
| 3  | 障害者地域生活支援センター        | 13 | 病院、診療所               |
|    | (きさら・すてつぷう・ういんぐ・さくら) | 14 | 学校、職場                |
| 4  | 権利擁護センター ぼっとサポートねりま  | 15 | 障害者団体                |
| 5  | 民生委員・原董委員            | 16 | 友だち、知り合い             |
| 6  | 障害者相談員               | 17 | ホームヘルパー              |
| 7  | 原董相談所                | 18 | インターネットの掲示板(民間サイト)など |
| 8  | 福祉施設                 | 19 | その他( )               |
| 9  | 相談支援事業所              | 20 | 相談できるところはない          |
| 10 | こども発達支援センター          | 21 | 相談の必要はない             |

問37 福祉サービスなどの情報をどこで知りますか。(○はいくつでも)

- |   |                         |    |           |
|---|-------------------------|----|-----------|
| 1 | ねりま区報                   | 9  | 相談支援事業所   |
| 2 | 区のホームページ                | 10 | 民生委員、原董委員 |
| 3 | インターネットのサイト(区のホームページ以外) | 11 | 障害者団体     |
| 4 | 区の障害者福祉のしおり             | 12 | 家族、親せき    |
| 5 | 総合福祉事務所、保健相談所           | 13 | 友だち、知り合い  |
| 6 | 障害者地域生活支援センター           | 14 | その他       |
|   | (きさら・すてつぷう・ういんぐ・さくら)    | 15 | わからぬ      |
| 7 | 学校、職場、施設                |    |           |
| 8 | 病院、診療所                  |    |           |

問38 生活に必要な情報を得る際に、あなたはパソコンなどをどれくらい利用していますか。(それぞれ○は1つ)

- |   |          |   |      |   |      |   |      |   |        |
|---|----------|---|------|---|------|---|------|---|--------|
| ① | パソコン     | 1 | よく使う | 2 | まあ使う | 3 | 使わない | 4 | 持っていない |
| ② | スマートフォン  | 1 | よく使う | 2 | まあ使う | 3 | 使わない | 4 | 持っていない |
| ③ | タブレット型端末 | 1 | よく使う | 2 | まあ使う | 3 | 使わない | 4 | 持っていない |
| ④ | その他      | 1 | よく使う | 2 | まあ使う | 3 | 使わない | 4 | 持っていない |

問39 あなたは、ふだん周り人との会話のために、どのような方法・機器等を利用していますか。(○はいくつでも)

- |   |                   |    |                  |
|---|-------------------|----|------------------|
| 1 | パソコンのメール          | 8  | 補聴機器(補聴器・人工内耳など) |
| 2 | 携帯/スマートフォン・SNS    | 9  | 触手話              |
| 3 | 電話(固定・携帯/スマートフォン) | 10 | 指文字・指文字          |
| 4 | 携帯用会話補助装置         | 11 | 意志伝達装置           |
| 5 | 手話・手話通訳           | 12 | 文字盤              |
| 6 | 話話                | 13 | コミュニケーションボード     |
| 7 | 筆談 要約筆記           | 14 | その他( )           |
|   |                   | 15 | 特に使用していない機器はない   |

※ SNS(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)とは、Twitter(ツイッター)や Facebook(フェイスブック)等インターネットでやりとりができるサービスです。  
 ※ 携帯用会話補助装置とは、言葉を音声または文章に変換する、または言語を拡張する機能を持つ携帯式機器(携帯端末等で利用するためのアプリケーションソフトウェアを含む。)

問40 周り人との会話をしやすくしたり、情報を簡単に手に入れるために、どのようなことをもっと良くするといいですか。(〇はいくつでも)

- 1 点字による情報提供を増やす
- 2 音声による情報提供を増やす
- 3 パソコン/携帯メール・SNSによる情報提供を増やす
- 4 手話通訳・要約筆記を充実する
- 5 公共施設の案内・誘導をわかりやすくする
- 6 電光掲示板や自動販売機など字幕による情報提供を増やす
- 7 コミュニケーション支援機器の種類・使い方についての情報提供や相談の機会を増やす
- 8 コミュニケーションを支援する人を増やす
- 9 その他( )
- 10 特にない

福祉サービスについて

問41 あなたは、この1年くらいの間に次のサービスを利用しましたか。(〇はいくつでも)

- 1 ホームヘルプなどの訪問系サービス
- 2 訪問看護などの医療系サービス
- 3 短期入所(ショートステイ)・緊急一時保護
- 4 補装具費の支給・修理
- 5 日常生活用具の給付・レンタル
- 6 住宅設備改善費の給付
- 7 福祉タクシー券の交付・自動車燃料費の助成など
- 8 移動支援・同行援護
- 9 訪問入浴サービスなどの入浴サービス
- 10 自立訓練(入浴、食事等の訓練)などの自立した生活のために必要な支援
- 11 就労移行支援・就労継続支援・生活介護などの日中活動系サービス
- 12 就労定着支援など働くための支援
- 13 グループホームなどの居住系サービス
- 14 原簿発達支援・放課後等デイサービスなど
- 15 手話通訳者・要約筆記者の派遣
- 16 その他( )
- 17 1～15のサービスを利用したことがない

問42-1 あなたは、現在必要だと感じるサービスを十分利用していますか。(〇はいくつ)

- 1 十分利用している → 問43-1へ進む
- 2 十分ではないが、ほぼ利用している
- 3 あまり利用していない
- 4 その他( )
- 5 わからない → 問43-1へ進む
- 6 サービスを利用する必要がない

→【問42-1で「3 あまり利用していない」と答えた方におたねします。】

問42-2 必要だと思うサービスを「あまり利用していない」理由はなんですか。(〇はいくつでも)

- 1 自己負担が大きいため
- 2 支給要件にあてはまらないから
- 3 必要とするサービスがないから
- 4 どのようなサービスがあるかわからないから
- 5 利用の仕方がわからないから
- 6 個別のニーズに対応できないから
- 7 サービスに空きがなく利用できないから
- 8 医療的ケアが理由で受け入れ先がない
- 9 その他( )
- 10 わからない



問47 障害福祉サービスと介護保険サービスの両方のサービスを利用して、何か困っていることはありますか。(○はいくつでも)

- 1 サービスの支給量が減ってしまっ
- 2 同じサービス提供事業所を利用し続けることができず、介護保険事業所に変更することになった
- 3 利用者自己負担が増えた
- 4 障害福祉サービスの上乗せの相談手続きが難しかった
- 5 介護保険サービスでは障害特性を理解した対応が受けられなくなった
- 6 その他( )
- 7 障害福祉サービスは利用していない(介護保険サービスのみの利用)
- 8 特に困っていることはない

■ 将来について

【すべての方におたずねします。】

問48 今後、日中をどのようにして過ごしたいと思えますか。(○はいくつでも)

- 1 学校に通いたい
- 2 会社などで働きたい
- 3 就労移行支援・就労継続支援事業所などで働きたい
- 4 働くための訓練・支援を受け、会社で働くことをめざしたい
- 5 自立した日常生活が送れるよう、自立訓練などを受けたい
- 6 病院、診療所で機能訓練、看護、介護、日常生活の支援などを受けながら過ごしたい
- 7 福祉団などの通所施設で、手助けを受けながらさまざまな活動を行いたい
- 8 自分の家で過ごしたい
- 9 その他( )
- 10 わからない

問49 あなたは、5年後・10年後・20年後に、それぞれのどのような暮らし方を希望しますか。第1希望・第2希望について、右の枠に項目の番号を記入してください。

【5年後】についてお答えください。

- 1 ひとりで暮らしたい
- 2 家族と一緒に暮らしたい
- 3 グループホームで暮らしたい
- 4 施設に入所して暮らしたい
- 5 その他( )
- 6 わからない

第1希望

第2希望

【10年後】についてお答えください。

- 1 ひとりで暮らしたい
- 2 家族と一緒に暮らしたい
- 3 グループホームで暮らしたい
- 4 施設に入所して暮らしたい
- 5 その他( )
- 6 わからない

第1希望

第2希望

【20年後】についてお答えください。

- 1 ひとりで暮らしたい
- 2 家族と一緒に暮らしたい
- 3 グループホームで暮らしたい
- 4 施設に入所して暮らしたい
- 5 その他( )
- 6 わからない

第1希望

第2希望

【5年後、10年後、20年後のいずれかで「ひとりで暮らしたい」と答えた方におたずねします。】

問50 ひとりで暮らすために必要なことはどのようなことですか。(○はいくつでも)

- 1 ひとりで暮らすための手続きへの手助け
- 2 ひとりで暮らすための費用
- 3 バリアフリーに対応した物件
- 4 障害者に理解のある不動産業者(または貸主)
- 5 保証人や緊急連絡先の確保
- 6 定期的に安否確認を受けられるサービス
- 7 家事などの生活力向上のための支援
- 8 金銭管理の支援
- 9 障害福祉サービスの充実(具体的な内容)
- 10 その他( )
- 11 わからない

問51 今後も練馬区に住みつづけたいと思えますか。(○は1つ)

- 1 住みつづけたい      2 区外に引っこしたい      3 わからない

問52 問51のように思った理由を書いてください。(自由記入)

■ 災害対策について

問53-1 あなたは、最高の避難拠点※(区立小中学校)の場所をご存じですか。(○は1つ)

※練馬区では、災害時に自宅で生活することができない場合の避難場所として、全区立小中学校を指定しており、避難拠点と呼んでいます。なお、避難拠点は居住地による指定はありません。お住まいの地域にかかわらず避難ができます。

- 1 知っている      2 知らない      →問54へ進む

→【すべての方におたずねします。】

問53-2 あなたは、災害時にその避難拠点までひとりで避難することができですか。(○は1つ)

- 1 できると思う      2 できないと思う      3 その他( )

【すべての方におたずねします。】

問54 災害が起きたときのために、どのような準備が必要だと思いますか。(○はいくつでも)

- 1 避難しやすい避難所を整備する
- 2 障害のある方に防災訓練などへの参加をすすめる
- 3 日頃から避難方法などを知らせる
- 4 緊急通報システムをつくる
- 5 地域で助け合える体制をつくる
- 6 避難時に障害者用設備(トイレ、ベッドなど)を配置する
- 7 避難時に人工透析や人工呼吸器、在宅酸素など生命安全・維持装置を用意する
- 8 避難時において、障害者がわかるようお知らせをする
- 9 避難時の介助人などを用意する
- 10 避難所での手話通訳者、ガイドヘルパーなどを用意する
- 11 避難所で補装具などの貸出しを行う
- 12 その他( )
- 13 特にない

■ 権利擁護について

問55 障害があることで、差別されたり、いやな思いをしたことがありますか。(○は1つ)

- 1 いつもある      3 ほとんどない  
2 たまにある      4 わからない

問56 地域で暮らす上で、障害のことをわかってもらえていると感じますか。(○は1つ)

- 1 十分わかってもらえていると感じる      4 まったくわかってもらえていないと感じる  
2 時々わかってもらえていないと感じる      5 わからない  
3 あまりわかってもらえていないと感じる

問57 あなたは、障害および障害のある方のことを、まわりの人にもっとわかってもらうためには、何が必要だと思いますか。(○はいくつでも)

- 1 障害についてのお知らせや講演会などを充分におこなう
- 2 ボランティア活動や障害理解を深める活動をしている団体を支援する
- 3 障害のある方との交流を通じた障害理解の機会を増やす
- 4 学校における福祉教育・人権教育をすすめる
- 5 障害のある方の社会参加をすすめる
- 6 福祉施設が地域住民との交流をすすめる
- 7 障害のある方目らが、積極的に地域活動に参加する
- 8 障害のある方目らが、必要な手助けをまわりの人に伝える
- 9 障害や発達に課題のある子どもへの支援の充実
- 10 その他( )
- 11 わからない
- 12 特にない

問58-1 あなたは、今まで周囲に対して「合理的配慮※」を求めたことがありますか。(○は1つ)

※ 合理的配慮とは、障害のある方が、必要な配慮や手助けについて意思を伝えたととき、役所や会社・お店などが、負担が重すぎない範囲で対応することです。

《合理的配慮の具体例》

- 書類を記入するとき、代わりに書くことに問題がない場合は、その人の意思を十分に確認しながら代わりに書く。
- 絵や写真のカードやタブレット端末などを使い、障害特性に合った方法で説明する。
- 段差がある場合に、携帯のスクリーンなどを使って補助する。

1 ある → 問59-1へ進む

2 ない → 問59-1へ進む

3 その他( ) → 問59-1へ進む

→【問58-1で「2 ない」と答えた方におたずねします。】

問58-2 「合理的配慮」を求めたことがないのほどどのような理由からですか。(○はいくつでも)

- 1 合理的配慮を必要とする場面・機会に合ったことがない
- 2 そのときには、合理的配慮を求めたことを思い浮かばなかった
- 3 合理的配慮を求めたかったが、周囲のことを考えて遠慮してしまった
- 4 合理的配慮を求めたかったが、配慮を求めることを言い出しにくかった
- 5 合理的配慮について知らなかった
- 6 その他( )

【すべての方におたずねします。】

問59-1 あなたは、今後の状況によって成年後見制度を利用しますか(利用するつもりですか)。(○は1つ)

※ 成年後見制度とは、自分で十分な判断ができない人のために、後見人等を選んで本人の意思決定を助け、生活や財産などの権利を守る制度です。選ばれた後見人等は、本人の意思を尊重し、心身の状態に配慮しながら必要な代理行為を行い、財産を適正に管理します。線馬区では、線馬区社会福祉協議会の権利擁護センター「ほっとサポートねりま」を成年後見制度の推進機関と位置づけています。

1 現在利用している → 問60へ進む

2 今後利用したい → 問60へ進む

3 利用したいと思わない → 問60へ進む

4 わからない → 問60へ進む

→【問59-1で「3 利用したいと思わない」と答えた方におたずねします。】

問59-2 成年後見制度を利用しない(したくない)理由はなんですか。(○はいくつでも)

- 1 手続きがむずかしい
- 2 費用負担が大きすぎる
- 3 後見人が選ばれたら時間に時間がかかる
- 4 制度のしくみがよくわからない
- 5 十分な支援が受けられないからわからない
- 6 その他( )
- 7 必要がない

問61 新型コロナウイルス感染症拡大により、感染症流行前と比べて令和5年6月1日時点で、あなたの暮らしにどのような影響がありましたか。(〇はいくつでも)

増えた点	変化しな	減った点	影響なし		
	①	2	3	4	
1	家族との会話や連絡の回数(電話などを含む)	1	2	3	4
2	友人、知人との会話や連絡の回数(電話などを含む)	1	2	3	4
3	生活に必要な外出の頻度(買い物・食事・医療機関の受診など)	1	2	3	4
4	社会参加の外出の回数(余暇活動・ボランティア・スポーツなど)	1	2	3	4
5	不安やストレスを感じる回数(神経過敏、気分の落ち込みなどを含む)	1	2	3	4
6	孤立・孤独を感じる回数	1	2	3	4
7	ICT(パソコン、スマートフォン、タブレット型端末)の使用回数	1	2	3	4
8	障害福祉サービス(訪問サービス)の利用回数	1	2	3	4
9	障害福祉サービス(通所系サービス)の利用回数	1	2	3	4

このアンケートの中の選択肢や自由記入欄だけでは書ききれなかったことや、ご意見・ご要望、次期計画に盛り込みたいことなどがありませんでしたら、自由に書き添えてください。

調査にご協力いただき誠にありがとうございました。

「あて名の方ご本人」へのおたずねは以上です。  
 記入もれがないかももう一度お確かめのうえ、同封の返信用封筒(切手はいりません)に入れ、7月10日(月)までにお近くの郵便ポストに入れてください。  
 もし、差し支えなければ、ふだんあて名の方ご本人を主に手助けされている方のご意向もお聞かせください。

■ 障害者施策全般について

【すべての方におたずねします。】

問60 今後、障害者施策を充実させるためには、どのようなことが必要だと感じますか。(〇はいくつでも)

- 1 障害の早期発見・早期療育に努めること
- 2 障害のある方とない方の交流をすすめる、お互いの理解を深めること
- 3 障害のある子どもそれぞれ状況や発達にあった教育をおこなうこと
- 4 障害のある方の働くところを用意し、仕事を続けられるように努めること
- 5 ホームヘルパーの派遣など自宅での生活を支えるサービスに力をいれること
- 6 区内で利用できる施設をつくり増やすこと
- 7 障害者や高齢者にやさしいまちづくりをすすめること
- 8 障害のある方の住まいとしてグループホームを増やすこと
- 9 公営住宅や民間住宅など住まいを確保するための手助けに力をいれること
- 10 文化芸術、スポーツ、レクリエーション活動に参加できるような手助けすること
- 11 障害のある当事者による活動を手助けすること
- 12 ボランティア活動をすすめること
- 13 障害者施策や福祉に関するおしらせを充分におこなうこと
- 14 相談しやすいようにすること
- 15 サービスの利用手続きをやすくするため、受付窓口を増やすこと
- 16 本人だけでなく、家族を支える手助けを充分におこなうこと
- 17 その他( )
- 18 特になし

このページは、ふだん「あて名の方ご本人」を介助・援助しているご家族の方がお答えください。

■ 介助・援助者の意向

問62 あて名の方ご本人を主に介助・援助する方の性別・ご年齢・続柄について、当てはまるものにそれぞれ教えてください。(○はそれぞれ1つ)  
なお、回答しにくいと感じる場合は、回答しただけで結構です。

性別 (○は1つ)	1 男性	2 女性	3 ( )
年齢 (○は1つ)	1 20歳未満	5 50歳代	
	2 20歳代	6 60歳代	
	3 30歳代	7 70歳代	
	4 40歳代	8 80歳以上	
続柄 (○は1つ)	1 夫	7 父	
	2 妻	8 母	
	3 息子	9 兄弟	
	4 娘	10 孫	
	5 子の夫	11 その他( )	
	6 子の妻		

問63 あなたの現在の健康状態はいかがですか。(○は1つ)

1 よい                    3 ふつう                    5 よくない  
2 まあよい            4 あまりよくない

問64-1 あなたの就労・就学状況を教えてください。(○は1つ)

1 正規社員	} → 問64-2へ進む	4 学生 → 問65へ進む
2 非正規社員		5 無職
3 パート・アルバイト		6 その他( ) → 問64-2へ進む

【問64-1で「1」～「3」、または「5」、または「6」のいずれかをお答えの方にお答えねします。】

問64-2 あなたの今後の就労意向を教えてください。(○は1つ)

1 現在と同様の形で働きたい	4 パート・アルバイトとして働きたい
2 正規社員として働きたい	5 わからない
3 非正規社員として働きたい	6 働きたくない

問65 あて名の方ご本人を介助・援助するにあたって、困っていることはありませんか。(○はいくつでも)

1 介助・援助の方法がわからない	11 孤独感がある
2 福祉サービス等の情報が不足している	12 精神的な負担が大きい
3 福祉サービス等が十分に利用できない	13 経済的な負担が大きい
4 余暇など自分の時間が持てない	14 他にも介助が必要な家族・親族がいる
5 ちよつとした外出ができない	15 他の家族の援助が足りない
6 仕事に出られない	16 隣近所の人との関係づくりが難しい
7 真柄的な外出ができない	17 何かの際に相談や介助を頼める人がいない
8 睡眠不足である	18 その他 ( )
9 身体的な負担が大きい	19 特にない
10 年齢的に負担が大きい	

問66-1 現在、あて名の方ご本人以外に、他の方の介護や子育てなどをしていますか。(○はいくつでも)

1 している                    2 していない → 問67へ進む

問66-2 「他の方の介護や子育て等をしている」と答えた方におたずねします。あて名の方ご本人からみて、その方はどのような関係にあたりますか。(○はいくつでも)

1 兄弟・姉妹	4 子
2 父・母	5 その他 ( )
3 祖父・祖母	

問66-3 「他の方の介護や子育て等をしている」と答えた方におたずねします。その方が介助・援助を必要とするのはどのような理由からですか。(○はいくつでも)

1 病気のため	4 育児中のため
2 障害のため	5 その他 ( )
3 高齢のため	

問67 家族等支援として、区に充実してほしい施策は何ですか。(〇はいくつでも)

- |   |  |
|---|--|
| 1 | 区からの情報提供を増やす                               |
| 2 | 家族等の休業目的のショートステイや一時保護を充実させる                |
| 3 | 家族等に対する相談体制を充実させる                          |
| 4 | 障害特性の理解や、適切な対応をするための知識・方法を学ぶ家族向けプログラムを実施する |
| 5 | 家族同士の交流や情報交換の場・機会をつくる                      |
| 6 | その他( )                                     |
| 7 | 持たない                                       |

最後に、練馬区の障害者施策などについて、ご意見・ご要望がございましたら、自由にお書きください。

--

調査にご協力いただき誠にありがとうございました。

同封の返信用封筒(切手は不要)に入れ、7月10日(月)までにご投函ください。

## 生活と福祉に関するアンケート

### ■ あなた(あて名の方ご本人)のことについて

問1 あなたの性別と年齢をお答えください。  
 なお、回答しにくいと感じる場合は、回答しただけで結構です。

性別 1 男性 2 女性 3 ( ) 年齢  歳

問2 この調査票はどなたが記入されますか。(○は1つ)

1 本人が自分一人で記入  
 2 本人に聞いて家族や介助者が代筆  
 3 本人の意向を考えながら家族や介助者が記入

問3 現在、あなたはどこで暮らしていますか。(○は1つ)

1 自分の持ち家(購入マンションも含む) 6 社宅、会社の寮  
 2 親など家族の持ち家(購入マンションも含む) 7 福祉施設  
 3 公営住宅 8 病院に入院している  
 4 アパート、賃貸マンション、借家 9 その他( )  
 5 グループホーム

問4 現在、あなたと一緒に暮らしている人はどなたですか。(○はいくつでも)

1 自分一人だけで暮らしている 5 祖父、祖母  
 2 配偶者(夫または妻) 6 兄弟、姉妹  
 3 息子、娘(息子または娘の配偶者も含む) 7 その他( )  
 4 父、母 8 グループホーム等での集団生活

問5 あなたご本人の収入源は何ですか。(○はいくつでも)

1 就労による収入 4 家族などからの仕送り  
 2 年金・手当 5 その他( )  
 3 生活保護費 6 収入はない

問6 あなたの世帯の、主な生計維持者(もともとも収入が多い方)はどなたですか。(○は1つ)  
 ※「3 父」「4 母」とお答えの場合には、年齢(令和5年6月1日現在)をご記入ください。

1 あなたご本人 5 子  
 2 あなたの配偶者(夫・妻) 6 祖父・祖母  
 3 父 →  歳 7 兄弟・姉妹  
 4 母 →  歳 8 その他( )

問7 さしつかえなければ、あなたの診断名に○をつけてください。また、難病と診断されている方は、その部分にも○をつけてください。(○はいくつでも)

- |                           |                                |
|---------------------------|--------------------------------|
| 1 統合失調症                   | 6 発達障害(自閉スペクトラム症、AD/HD、学習障害など) |
| 2 気分障害(うつ病、躁うつ病など)        | 7 パーソナリティ障害                    |
| 3 依存症(薬物、アルコールなど)         | 8 摂食障害(拒食症、過食症など)              |
| 4 認知症(アルツハイマー、血管性、その他を含む) | 9 その他( )                       |
| 5 高次脳機能障害                 | 10 難病                          |

問8 精神疾患にかかわる病気の発症年齢は何歳の時ですか。覚えていない方は、精神疾患にかかわる病気の診断を受けたときの初診時の年齢を記入してください。

年齢  歳頃

問9 あなたは、以下の手帳をお持ちですか。お持ちの方は等級にも○をつけてください。(○はいくつでも)

- |                 |                         |
|-----------------|-------------------------|
| 1 精神障害者保健福祉手帳   | → ( 1級 2級 3級 )          |
| 2 身体障害者手帳       | → ( 1級 2級 3級 4級 5級 6級 ) |
| 3 愛の手帳          | → ( 1度 2度 3度 4度 )       |
| 4 これらの手帳は持っていない |                         |

→【問10は、「2 身体障害者手帳」をお持ちの方におたずねします。】

問10 身体障害者手帳に記載されている障害は次のどれですか。あてはまる障害の番号を「1 番目」の欄に記入してください。障害の種類が2つ以上記載されている場合は、記載の順番にしたがって「1 番目」と「2 番目」を記入してください。

1 視覚障害	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">                 1 番目 <input style="width: 100px; height: 20px;" type="text"/> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">                 2 番目 <input style="width: 100px; height: 20px;" type="text"/> </div>
2 聴覚障害	
3 平衡機能障害	
4 音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害	
5 肢体不自由 (上肢、下肢、乳幼児期以前の非進行性の脳病変による運動機能障害)	
6 肢体不自由(体幹)	
7 心臓、じん臓、呼吸器、ぼうこう、直腸、小腸、肝機能、免疫の機能の障害	
8 その他( )	

問11 あなたは、障害支援区分の認定を受けていますか。  
 認定を受けている方は、現在の区分にも○をつけてください。(○は1つ)

- 1 受けている → ( 区分1 区分2 区分3 区分4 区分5 区分6 )  
 2 受けていない

問12-1 あなたは現在、日常生活をおくるために、医療的ケアを必要としていますか。(○は1つ)

1 必要  2 必要ではない → 問13へ進む

【問12-2、問12-3は、問12-1で「1 必要」と回答した方におたずねします。】

問12-2 どのような医療的ケアが必要ですか。(○はいくつでも)

1 経管栄養	6 気管カニューレ
2 胃ろう	7 導尿
3 腸ろう	8 人工呼吸器
4 たん等の吸引	9 気管切開
5 吸入	10 その他( )

問12-3 介助者が不在の時などの短期入所(ショートステイ)の利用状況についておたずねします。(○はいくつでも)

1 区内の短期入所(ショートステイ)を利用している
2 区外の短期入所(ショートステイ)を利用している
3 利用したいが医療的ケアが理由で受け入れ先がない
4 利用の必要がない
5 その他( )

■ 介助・援助の状況について

【すべての方におたずねします。】

問13 ふだん、あなたを介助・援助しているのはどなたですか。(○はいくつでも)

1 とくに介助等は受けていない → 問16-1へ進む

2 配偶者(夫または妻)	8 病院の職員(看護師・精神保健福祉士等)
3 父、母	9 施設の職員
4 息子、娘(息子、娘の配偶者も含む)	10 訪問看護師
5 祖父、祖母	11 ホームヘルパー
6 兄弟、姉妹	12 その他( )
7 行政の職員(ワーカー・保健師等)	

最も長く介助・援助している人はどなたですか。その方が2～6の場合、年齢を教えてください。

↑  (問13の選択肢の番号を記入)

年齢  歳

【問14、問15は、問13で「2」～「12」を回答した方におたずねします。】

問14 どのようなときに介助・援助を受けていますか。具合が悪くなったときのみ受けている場合でも○をつけてください。(○はいくつでも)

1 部屋の整理・整頓・掃除	6 服薬
2 衣類の洗濯	7 医療的ケアに関わる介助
3 日用品の買い物	8 他の人と意思疎通を図りたいとき
4 食事のしたく	9 金銭管理
5 外出(通院を含む)	10 その他( )

問15 主に介助・援助している方が、病気のときや、外出しなければならぬ場合はどのようにしたいと思いますか。(○はいくつでも)

1 同居している他の家族に頼みたい
2 同居していない、他の家族や親せきに頼みたい
3 介護や家事援助などを行うホームヘルプサービスを利用したい
4 訪問看護を利用したい
5 施設への短期入所(ショートステイ)を利用したい
6 近所の人や友人・知人に頼みたい
7 今までそのようなことはなかったもので、よくわからない
8 その他( )

【すべての方におたずねします。】

問16-1 あなたは、ふだんの生活の中で、必要とする介助・援助を受けていると思いますか。(○は1つ)

1 必要だが、受けていない介助・援助がある
2 必要とする介助・援助を受けていると思う
3 特に介助・援助を必要としていない
4 その他( )

→ 問17-1へ進む

【問16-1で「1 必要だが、受けていない介助・援助がある」と回答した方におたずねします。】

問16-2 必要だが、受けていない介助・援助は、どのようなことですか。(自由記入)

【すべての方におたずねします。】

問 17-1 地域生活支援拠点の機能のうち、「体験の機会・場」についておたずねいたします。

「体験の機会・場」の利用を希望しますか。(○は1つ)

地域生活支援拠点とは、障害児者の重度化・高齢化や「親亡き後」を見据え、居住支援のための機能(「相談」「緊急時の受入れ・対応」「体験の機会・場」「専門的人材の確保・養成」「地域の体制づくり」)を地域の実情に応じて整備し、障害者の生活を地域全体で支えるサービス提供体制のことです。  
 地域生活支援拠点における体験とは、入居を前提とした体験利用でなく、1か月程度グループホームでの生活を体験することで、将来の生活のイメージをつかむ目的のものを指します。

1 希望する → 問 18へ進む  
 2 希望しない  
 3 わからない → 問 18へ進む

【問 17-1で「2 希望しない」と回答した方におたずねします。】

問 17-2 希望しない理由をおたずねいたします。

1 将来的にグループホームの利用を希望していない  
 2 体験利用のイメージがわからない  
 3 体験利用にあたっての費用負担が難しい  
 4 体験利用期間中の日中活動先への通所が難しい  
 5 その他( )

■ 日中の過ごし方について

【すべての方におたずねします。】

問 18 あなたは、平日の昼間、主にどこで(何をして)過ごしていますか。(○は1つ)

1 幼稚園や保育園、学校などに通っている → 問 19へ進む  
 2 働いている(就労移行支援・就労継続支援事業所などの作業所も含む) → 問 21へ進む  
 3 施設(福祉園など)で介護・訓練を受けている  
 4 病院や診療所のデイケアなどを利用している  
 5 障害者地域生活支援センター(きらら、すてっぷ、ういんぐ、さくら)に通っている → 問 26へ進む  
 6 介護保険のデイサービスを利用している  
 7 自宅に多いことが多い  
 8 その他( ) → 問 28へ進む

■ 教育について

【問 19、問 20 は、問 18 で「1 幼稚園や保育園、学校などに通っている」と回答した方におたずねします。】

問 19 主たる通園・通学先はどこですか。(○は1つ)

1 幼稚園 5 特別支援学級 9 専門学校・大学  
 2 保育園 6 通常の学級 10 その他( )  
 3 児童発達支援事業所等 7 高等学校  
 4 特別支援学校 8 職業訓練校

問 20 幼稚園・学校などに通っていて、もっと充実してほしいことはありますか。(○はいくつでも)

1 通いやすくしてほしい(通学手段の改善など) 5 放課後の居場所づくりを充実してほしい  
 2 施設・設備などを充実してほしい 6 夏休みなど長期休みの際の取組を充実してほしい  
 3 介助体制を充実してほしい 7 その他( )  
 4 先生・生徒の理解などが深まってほしい 8 特に困っていることはない

【次は問 28へ進んでください。】

■ 雇用・就労について

【問 21～問 25 は、問 18 で「2 働いている」と回答した方におたずねします。】

問 21 仕事の形態は次のうちどれですか。(○は1つ)

1 自営業 5 内職  
 2 家業の手伝い 6 就労移行支援・就労継続支援事業所  
 3 会社・団体等の正規職員 7 その他( )  
 4 非正規職員(契約、パート、派遣等)

問 22 仕事の内容は次のうちどれですか。(○は1つ)

1 管理的業務 9 サービスの業務  
 2 研究・技術の業務 10 警備・保安の業務  
 3 法務・経営・文化芸術等の専門的業務 11 農林漁業の業務  
 4 医療・看護・保健の業務 12 製造・修理・塗装・製図等の業務  
 5 保育・教育の業務 13 配送・輸送・機械運転の業務  
 6 事務的業務 14 建築・土木・電気工業の業務  
 7 販売・営業の業務 15 運搬・清掃・包装・運別等の業務  
 8 福祉・介護の業務 16 その他( )

問23 あなたの職場はどこにありますか。(○は1つ)

- |                |              |
|----------------|--------------|
| 1 練馬区内         | 4 東京都外       |
| 2 23区内(練馬区を除く) | 5 在宅で仕事をしている |
| 3 東京都内         |              |

問24 仕事で得た収入は1年にどれくらいですか(給与・賞金など)。(○は1つ)

- |                |                 |
|----------------|-----------------|
| 1 2万円未満        | 6 100万円～300万円未満 |
| 2 2～5万円未満      | 7 300万円～500万円未満 |
| 3 5万円～20万円未満   | 8 500万円～700万円未満 |
| 4 20万円～50万円未満  | 9 700万円以上       |
| 5 50万円～100万円未満 | 10 収入はない        |

問25 仕事をす上で不安や不満がありますか。(○はいくつでも)

- |                  |                          |
|------------------|--------------------------|
| 1 収入が少ない         | 8 人間関係が苦手                |
| 2 仕事が多い          | 9 職場での身分が不安定             |
| 3 仕事が多岐にわたる      | 10 職場の施設・設備が症状に十分対応していない |
| 4 自分にあった内容の仕事がない | 11 昇給や昇進が平等ではない          |
| 5 1日の就業時間が長い     | 12 通勤が大変                 |
| 6 1週間の就業日数が多い    | 13 その他( )                |
| 7 精神疾患への理解が足りない  | 14 特に不安や不満はない            |

【次は問28へ進んでください。】

【問26～問27は、問18で「3」～「7」を回答した方におたずねします。】

問26 働いていない理由は次のうちどれですか。(○はいくつでも)

- |                       |                      |
|-----------------------|----------------------|
| 1 体調がよくないから           | 7 仕事が難しそうだから         |
| 2 働く時、体調が悪いときに休みにくいから | 8 家事があるから            |
| 3 働く時、通院しにくいから        | 9 高齢だから              |
| 4 通勤が難しいから            | 10 仕事をすする年齢に達していないから |
| 5 職場の理解が得られないと思うから    | 11 精神疾患の程度や症状のため     |
| 6 やりたくない仕事が見つからないから   | 12 その他( )            |

問27 今後、働いてみたいと思いますか。(○は1つ)

- |                 |                    |
|-----------------|--------------------|
| 1 働きたい          | 4 高齢のため働くことを考えていない |
| 2 働きたいが、働けないと思う | 5 わからない            |
| 3 働きたくない        |                    |

【すべての方におたずねします。】

問28 あなたは、精神疾患のある方が働くためにはどのような環境が整っていることが大切だと思いますか。(○はいくつでも)

- |   |
|---|
| 1 自分の家の近くに働く場があること                      |
| 2 自分の家の中で、通勤することなく働けること                 |
| 3 健康状態にあわせて働き方ができること                    |
| 4 精神疾患のある方にとっての仕事が用意されること               |
| 5 就労支援機関(レインボーワーク、就労移行支援事業所等)が充実していること  |
| 6 生活支援・余暇支援が充実していること                    |
| 7 事業主や職場の人たちが、精神疾患のある方の雇用について十分理解していること |
| 8 職場の施設や設備が精神疾患のある方にも利用できるように配慮されていること  |
| 9 ジョブコーチの支援を受けながら働けること                  |
| 10 同じような精神疾患のある仲間と一緒に、あるいは交替で働けること      |
| 11 在宅テレワークの環境を整えるなどICT※を活用できるようにすること    |
| 12 その他( )                               |
| 13 わからない                                |

※ ジョブコーチ:企業就労や企業で働き続けるために、障害者と企業との間に入って支援する人

※ ICT:情報や通信に関する技術の総称

問29 平日、昼間の活動が終わった後や休日にはどのような過ごし方ですか。(○はいくつでも)

- |   |
|---|
| 1 障害者地域生活支援センター(きらら・すてっぷ・ういんぐ・さくら)の講座などのプログラムに参加したい |
| 2 地区区民館、図書館などの区立施設で過ごしたい                            |
| 3 買い物や散歩などに出かけたい                                    |
| 4 支援者が訪問して余暇活動ができるなど自宅で支援を受けながら過ごしたい                |
| 5 日中通っている福祉施設で利用時間を延長して過ごしたい                        |
| 6 日中通っている福祉施設以外で過ごしたい                               |
| 7 自宅で過ごしたい  |
| 8 その他( )  |
| 9 わからない   |

■ 外出や社会参加の状況について

問30 外出する際に利用する手段を教えてください。(○はいくつでも)

- |              |                |
|--------------|----------------|
| 1 徒歩         | 6 家族などが運転する自動車 |
| 2 車椅子        | 7 バス           |
| 3 自転車        | 8 電車           |
| 4 バイク、スクーター  | 9 タクシー         |
| 5 自分で運転する自動車 | 10 その他( )      |

問31 外出の際に困っていることがありますか。(○はいくつでも)

- |                          |
|--------------------------|
| 1 付き添ってくれる人がいない          |
| 2 他人との会話が難しい             |
| 3 他人の視線が気になる             |
| 4 必要などに、周りの人の手助け・配慮が足りない |
| 5 その他( )                 |
| 6 特に困っていることはない           |

問32 あなたは、これからのどのような活動をしたいと思いますか。(○はいくつでも)

- |                 |                |
|-----------------|----------------|
| 1 文化芸術活動        | 7 個人的な趣味や学習の活動 |
| 2 スポーツ・レクリエーション | 8 講座や講演会などへの参加 |
| 3 旅行            | 9 地域の行事やお祭     |
| 4 ボランティア活動      | 10 その他( )      |
| 5 障害者団体の活動      | 11 特に活動したくない   |
| 6 趣味などのサークル活動   |                |

問33 あなたは、問32のような活動に参加するためにはどのような支援が必要だと思いますか。

(○はいくつでも)

- |                      |                           |
|----------------------|---------------------------|
| 1 活動についての情報が提供されること  | 6 適切な指導者がいること             |
| 2 一緒に行く仲間がいること       | 7 精神疾患のある方に配慮した施設や設備があること |
| 3 活動する場所が近くにあること     | 8 介助者・援助者がいること            |
| 4 外出のための手段が確保されていること | 9 その他( )                  |
| 5 精神疾患の症状にあった対応があること | 10 特にない                   |

■ 健康状況や医療について

問34 精神疾患での、受療状況を教えてください。(○は1つ)

- |                    |              |
|--------------------|--------------|
| 1 通院している           | 3 入院している     |
| 2 訪問診療(往診)してもらっている | 4 入院・通院していない |

問35 精神疾患での入院歴はありますか。ある場合は入院期間にも○をしてください。(○は1つ)

- |   |
|---|
| 1 ない  |
| 2 ある →( 1 3か月未満 2 3か月～1年未満 3 1年～3年未満 4 3年以上 ) |

問36 健康管理や医療について、困ったり不便に感じたことはありませんか。(○はいくつでも)

- |                                   |
|-----------------------------------|
| 1 特に困っていることはない                    |
| 2 近所に診てくれる医師がいない                  |
| 3 専門的な治療を行う医療機関がない                |
| 4 通院や健康診査のときに付き添いがいない             |
| 5 往診を頼める医者がいない                    |
| 6 定期的に健康診査を受けられない                 |
| 7 医療機関とのコミュニケーションがとれない            |
| 8 精神疾患のために症状が正確に伝わらず、必要な治療が受けられない |
| 9 受診手続きなど、精神疾患のある方への配慮が不十分        |
| 10 医療機関の建物が精神疾患のある方に配慮した構造になっていない |
| 11 医療費の負担が大きい                     |
| 12 休日・夜間の相談や治療をしてくれる医療機関が少ない      |
| 13 その他( )                         |

■ 相談や情報の入手について

問 37 あなたは、悩みごとや心配ごとがあるとき、家族や親せき以外にどのようなところに相談していますか。(○はいくつでも)

- |    |                                      |    |                      |
|----|--------------------------------------|----|----------------------|
| 1  | 総合福祉事務所                              | 11 | 学校教育支援センター           |
| 2  | 保健相談所                                | 12 | 子ども家庭支援センター          |
| 3  | 障害者地域生活支援センター<br>(きらら・すてっぷ・ういんぐ・さくら) | 13 | 病院・診療所               |
| 4  | 権利擁護センター ぽっとサポートねりま                  | 14 | 学校・職場                |
| 5  | 民生委員・児童委員                            | 15 | 障害者団体                |
| 6  | 障害者相談員                               | 16 | 友人・知人                |
| 7  | 児童相談所                                | 17 | ホームヘルパー              |
| 8  | 福祉施設                                 | 18 | インターネットの掲示板(民間サイト)など |
| 9  | 相談支援事業所                              | 19 | その他( )               |
| 10 | 子ども発達支援センター                          | 20 | 相談できるところはない          |
|    |                                      | 21 | 相談の必要はない             |

問 38 福祉サービスなどの情報をどこから得ていますか。(○はいくつでも)

- |   |                                      |    |           |
|---|--------------------------------------|----|-----------|
| 1 | ねりま区報                                | 8  | 病院・診療所    |
| 2 | 区のホームページ                             | 9  | 相談支援事業所   |
| 3 | インターネットのサイト(区のホームページ以外)              | 10 | 民生委員・児童委員 |
| 4 | 区の障害者福祉のしおり                          | 11 | 障害者団体     |
| 5 | 総合福祉事務所・保健相談所                        | 12 | 家族・親せき    |
| 6 | 障害者地域生活支援センター<br>(きらら・すてっぷ・ういんぐ・さくら) | 13 | 友人・知人     |
| 7 | 学校、職場、施設                             | 14 | その他( )    |
|   |                                      | 15 | わからない     |

問 39 日常生活に必要な情報を得る際に、あなたはパソコンなどの情報通信機器 (ICT 機器) をどの程度利用していますか。(それぞれ○は1つ)

- |   |          |   |      |   |      |   |      |   |        |
|---|----------|---|------|---|------|---|------|---|--------|
| ① | パソコン     | 1 | よく使う | 2 | まあ使う | 3 | 使わない | 4 | 持っていない |
| ② | スマートフォン  | 1 | よく使う | 2 | まあ使う | 3 | 使わない | 4 | 持っていない |
| ③ | タブレット型端末 | 1 | よく使う | 2 | まあ使う | 3 | 使わない | 4 | 持っていない |
| ④ | その他( )   | 1 | よく使う | 2 | まあ使う | 3 | 使わない | 4 | 持っていない |

問 40 あなたは、ふだん周囲の方々とコミュニケーションのために、どのような手段・機器等を利用していますか。(○はいくつでも)

- |   |                    |    |                  |
|---|--------------------|----|------------------|
| 1 | パソコンのメール           | 8  | 補聴機器(補聴器・人工内耳など) |
| 2 | 携帯/スマートフォンメール・SNS* | 9  | 触手話              |
| 3 | 電話(固定・携帯/スマートフォン)  | 10 | 指文字・指点字          |
| 4 | 携帯用会話補助装置*         | 11 | 意志伝達装置           |
| 5 | 手話・手話通訳            | 12 | 文字盤              |
| 6 | 読話                 | 13 | コミュニケーションボード     |
| 7 | 筆談・要約筆記            | 14 | その他( )           |
|   |                    | 15 | 特に使用している機器はない    |

\* SNS(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)とは、Twitter(ツイッター)や Facebook(フェイスブック)等インターネットを介して友人・知人など利用者と情報発信・やりとりができるサービスです。

\* 携帯用会話補助装置とは、言葉を音声または文章に変換する、または言葉を拡声する機能を有する携帯式機器(携帯端末等で利用するためのアプリケーションソフトを含む。)

問 41 円滑なコミュニケーションの実現や情報入手のために、どのようなことを充実するとよいと思いますか。(○はいくつでも)

- |    |   |
|----|---|
| 1  | 点字による情報提供を増やす                           |
| 2  | 音声による情報提供を増やす                           |
| 3  | パソコン/携帯メール・SNSによる情報提供を増やす               |
| 4  | 手話通訳・要約筆記を充実する                          |
| 5  | 公共施設の案内・誘導をわかりやすくする                     |
| 6  | 電光掲示板や自動販売機など字幕による情報提供を増やす              |
| 7  | コミュニケーション支援機器の種類・使い方についての情報提供や相談の機会を増やす |
| 8  | コミュニケーションを支援する人を増やす                     |
| 9  | その他( )                                  |
| 10 | 特にない                                    |

■ 福祉サービスについて

問 42 あなたは、この1年くらいの間に次のサービスを利用したことがありますか。(○はいくつでも)

- 1 ホームヘルプなどの訪問系サービス
- 2 訪問看護などの医療系サービス
- 3 短期入所(ショートステイ)・緊急一時保護
- 4 障害者地域生活支援センター(きらら・すてっぷ・ういんぐ・さくら)
- 5 自立訓練(入浴、食事等の訓練)などの自立した生活のために必要な支援
- 6 就労移行支援・就労継続支援・生活介護などの日中活動系サービス
- 7 就労定着支援など働くための支援
- 8 グループホームなどの居住系サービス
- 9 児童発達支援・放課後等デイサービスなど
- 10 病院や診療所のデイケア
- 11 その他( )
- 12 1～10のサービスを利用したことがない

問 43-1 あなたは、現在必要だと思うサービスを十分利用していますか。(○は1つ)

- 1 十分利用している
- 2 十分ではないが、ほぼ利用している } → 問 44-1へ進む
- 3 あまり利用していない
- 4 その他( )
- 5 わからない } → 問 44-1へ進む
- 6 サービスを利用する必要がない

【問 43-1で「3 あまり利用していない」と回答した方におたずねします。】

問 43-2 必要だと思うサービスを「あまり利用していない」理由は何ですか。(○はいくつでも)

- 1 自己負担が大きいため
- 2 支給要件に該当しないから
- 3 必要とするサービスがないから
- 4 どのようなサービスがあるかわからないから
- 5 利用の仕方がわからないから
- 6 個別のニーズに対応できないから
- 7 サービスに空きがなく利用できないから
- 8 医療的ケアが理由で受け入れ先がない
- 9 その他( )
- 10 わからない

【すべての方におたずねします。】

問 44-1 次のサービスの中で、今後も引き続き利用したい、あるいは新たに利用したいと思うサービスはありますか。(○はいくつでも)

- 1 ホームヘルプなどの訪問系サービス
- 2 訪問看護などの医療系サービス
- 3 短期入所(ショートステイ)・緊急一時保護
- 4 障害者地域生活支援センター(きらら・すてっぷ・ういんぐ・さくら) → 問 45へ進む
- 5 自立訓練や自立生活援助など自立した生活のために必要な支援
- 6 就労移行支援・就労継続支援・生活介護などの日中活動系サービス
- 7 就労定着支援、(仮称)就労選択支援など働くための支援
- 8 グループホームなどの居住系サービス → 問 44-2へ
- 9 児童発達支援・放課後等デイサービスなど
- 10 病院や診療所のデイケア } → 問 45へ進む
- 11 その他( )
- 12 1～10の中に利用したいサービスはない

【問 44-1で「8 グループホームなどの居住系サービス」と回答した方におたずねします。】

問 44-2 グループホームを利用するとき、必要なことはどのようなことですか。(○はいくつでも)

- 1 練馬区内にあること
- 2 家族がいる場所に近いか
- 3 日中活動している場所や通院先に近いか
- 4 主に夜間や休日、グループホームの職員が相談や介護を行うこと
- 5 主に夜間や休日、グループホームの職員以外のヘルパーが相談や介護を行うこと
- 6 その他( )
- 7 わからない

【すべての方におたずねします。】

問 45 サービスを利用しやすくするために、どのようなことが必要だと思いますか。改善が必要だと思うサービスの名前と必要だと思うことをお書きください。

改善が必要なサービスの名前	必要だと思うこと
↑	
↑	
↑	

【問 46 は、40 歳以上の方におたずねします。】

問 46 あなたは、介護保険のサービスを利用していますか。(○はいくつでも)

- |                               |
|-------------------------------|
| 1 訪問介護(ホームヘルプ)を利用している         |
| 2 通所介護(デイサービス)を利用している         |
| 3 短期入所(ショートステイ)を利用している        |
| 4 その他( )                      |
| 5 介護保険サービスは利用していない → 問 49 へ進む |

【問 47、問 48 は、介護保険サービスを利用している方におたずねします。】

問 47 あなたは、介護保険の要介護認定を受けたことがありますか。ある場合には、要介護度にも○をつけてください。(○は1つ)

- |  |
|--|
| 1 ない   |
| 2 ある →   |
| 1 要支援1    2 要支援2                               |
| 3 要介護1    4 要介護2    5 要介護3    6 要介護4    7 要介護5 |
| 8 わからない  |

問 48 障害福祉サービスと介護保険サービスの両方のサービスを利用していて、何か困っていることはありますか。(○はいくつでも)

- |   |
|---|
| 1 サービスの支給量が減ってしまった                            |
| 2 同じサービス提供事業所を利用し続けることができず、介護保険事業所に変更することになった |
| 3 利用者自己負担が増えた                                 |
| 4 障害福祉サービスの乗せの相談手続きが難しかった                     |
| 5 介護保険サービスでは障害特性を理解した対応が受けられなくなった             |
| 6 その他( )                                      |
| 7 障害福祉サービスは利用していない(介護保険サービスのみのみ利用)            |
| 8 特に困っていることはない                                |

【すべての方におたずねします。】

問 49 今後、日中をどのようにして過ごしたいと思えますか。(○はいくつでも)

- |   |
|---|
| 1 学校に通いたい                               |
| 2 一般企業などで働きたい                           |
| 3 就労移行支援・就労継続支援事業所などで働きたい(福祉的就労)        |
| 4 就労のための訓練・支援を受け(就労移行支援)、企業就労を目指したい     |
| 5 自立した日常生活が送れるよう、自立訓練を受けて過ごしたい          |
| 6 医療機関で機能訓練、看護、介護、日常生活の支援などを受けながら過ごしたい  |
| 7 福祉圏などの通所施設で、身辺の介護などを受けながらさまざまな活動を行いたい |
| 8 自宅で過ごしたい                              |
| 9 その他( )                                |
| 10 わからない                                |

問 50 あなたは、5年後・10年後・20年後に、それぞれのような暮らし方を希望しますか。  
第1希望・第2希望について、右の枠に項目の番号を記入してください。

【5年後】についてお答えください。

- 1 ひとりで暮らしたい
- 2 家族と一緒に暮らしたい
- 3 グループホームで暮らしたい
- 4 施設に入所して暮らしたい
- 5 その他( )
- 6 わからない



第1希望

第2希望

【10年後】についてお答えください。

- 1 ひとりで暮らしたい
- 2 家族と一緒に暮らしたい
- 3 グループホームで暮らしたい
- 4 施設に入所して暮らしたい
- 5 その他( )
- 6 わからない



第1希望

第2希望

【20年後】についてお答えください。

- 1 ひとりで暮らしたい
- 2 家族と一緒に暮らしたい
- 3 グループホームで暮らしたい
- 4 施設に入所して暮らしたい
- 5 その他( )
- 6 わからない



第1希望

第2希望

【5年後、10年後、20年後のいずれかで「ひとりで暮らしたい」と回答した方におたずねします。】

問 51 ひとりで暮らすために必要なことはどのようなことですか。(〇はいくつでも)

- 1 ひとりで暮らすための手続きへの手助け
- 2 ひとりで暮らすための費用
- 3 精神疾患の方に理解のある不動産業者(または貸主)
- 4 保証人や緊急連絡先の確保
- 5 定期的に安否確認を受けられるサービス
- 6 家事などの生活力向上のための支援
- 7 金銭管理の支援
- 8 障害福祉サービスの充実(具体的な内容: )
- 9 その他( )
- 10 わからない

問 52 今後も練馬区に住み続けたいと思いますか。(〇は1つ)

- |          |            |         |
|----------|------------|---------|
| 1 住み続けたい | 2 区外に移転したい | 3 わからない |
|----------|------------|---------|

問 53 問 52 のように答えた理由は何ですか。(自由記入)



問 59-1 あなたは、今まで周囲に対して「合理的配慮」を求めたことがありますか。(○は1つ)

合理的配慮とは、障害のある方が、必要な配慮や手助けについて意思を伝えたととき、役所や会社・お店などが、負担が重すぎない範囲で対応することをいいます。

《合理的配慮の具体例》

- 書類を記入するとき、代わりに書くことに問題がない場合は、その人の意思を十分に確認しながら代わりに書く。
- 絵や写真のカードやタブレット端末などを使い、障害特性に合った方法で説明する。
- 段差がある場合に、携帯のスクリーンなどを使って補助する。

1 ある →問 60-1 へ進む

2 ない  
3 その他( ) →問 60-1 へ進む

→【問 59-1 で「2 ない」と回答した方におたずねします。】

問 59-2 「合理的配慮」を求めたことがないのはどのような理由からですか。(○はいくつでも)

- 1 合理的配慮を必要とする場面・機会にあっていない
- 2 そのときには、合理的配慮を求めるとを思いつかなかった
- 3 合理的配慮を求めたかったが、周囲のことを考えて遠慮してしまった
- 4 合理的配慮を求めたかったが、配慮を求めるとを言い出しにくかった
- 5 合理的配慮について知らなかった
- 6 その他( )

【すべての方におたずねします。】

問 60-1 あなたは、今後の状況によって成年後見制度を利用しますか(利用する予定ですか)。(○は1つ)

※ 成年後見制度とは、自分で十分な判断ができない人のために、後見人等を選任して本人の意思決定を助け、生活や財産などの権利を守る制度です。選ばれた後見人等は、本人の意思を尊重し、心身の状態に配慮しながら必要な代理行為を行い、財産を適正に管理します。練馬区では、練馬区社会福祉協議会の権利擁護センター「ほっとサポートねりま」を成年後見制度の推進機関と位置づけています。

- 1 現在利用している
  - 2 今後利用したい
  - 3 利用したいと思わない
  - 4 わからない
- 問 61 へ進む  
→問 61 へ進む

→【問 60-1 で「3 利用したいと思わない」と回答した方におたずねします。】

問 60-2 成年後見制度を利用しない(したくない)理由は何ですか。(○はいくつでも)

- 1 手続が難しい
- 2 費用負担が大きい
- 3 後見人が選任されるまでに時間がかかる
- 4 制度のしくみがよくわからない
- 5 十分な支援が受けられるかわからない
- 6 その他( )
- 7 必要がない

■ 障害者施策全般について ■

【すべての方におたずねします。】

問 61 今後、障害者施策を充実させるためには、どのようなことが必要だと思いますか。  
(〇はいくつでも)

- |    |                                    |
|----|------------------------------------|
| 1  | 障害の早期発見・早期療育に努めること                 |
| 2  | 障害のある方とない方の交流を進め、相互理解を深めること        |
| 3  | 障害のある子どもそれぞれに状況や発達に応じた教育を進めること     |
| 4  | 障害のある方の働く場の確保や働き続けるための支援を充実すること    |
| 5  | ホームヘルパーの派遣など在宅生活支援サービスを充実すること      |
| 6  | 区内で利用できる施設を整備すること                  |
| 7  | 障害者や高齢者にやさしいまちづくりを進めること            |
| 8  | 障害のある方の住まいとしてグループホームを整備すること        |
| 9  | 公営住宅や民間住宅など住まいを確保するための支援を充実すること    |
| 10 | 文化芸術、スポーツ、レクリエーション活動に参加できるよう支援すること |
| 11 | 障害のある当事者による活動を支援すること               |
| 12 | ボランティア活動を充実すること                    |
| 13 | 障害者施策や福祉に関する情報提供を充実すること            |
| 14 | 相談体制を充実し、適切な支援をすること                |
| 15 | サービスの利用手続きをしやすいようにするため、受付窓口を充実すること |
| 16 | 当事者のみでなく、家族を支える支援を充実すること           |
| 17 | その他( )                             |
| 18 | 特にない                               |

問 62 新型コロナウイルス感染症拡大により、感染症流行前と比べて令和5年6月1日時点で、あなたの暮らしにどのような影響がありましたか。(〇はいくつでも)

	増えた	変化しな	減った	かわらない
	①	2	3	4
回答例				
1	家族との会話や連絡の頻度(電話などを含む)	1	2	3
2	友人・知人との会話や連絡の頻度(電話などを含む)	1	2	3
3	生活に必要な外出の頻度(買い物・食事・医療機関の受診など)	1	2	3
4	社会参加の外出の頻度(余暇活動・ボランティア・スポーツなど)	1	2	3
5	不安やストレスを感じる頻度(神経過敏、気分の落ち込みなどを含む)	1	2	3
6	孤立・孤独を感じる頻度	1	2	3
7	ICT(パソコン、スマートフォン、タブレット型端末)の使用	1	2	3
8	障害福祉サービス(訪問サービス)の利用頻度	1	2	3
9	障害福祉サービス(通所系サービス)の利用頻度	1	2	3

最後に、この調査を通じて選択肢や自由記入欄だけでは表現しきれなかったことや、ご意見・ご要望、次期計画に盛り込みたいことなどがありましたら、自由にお書きください。

調査にご協力いただき誠にありがとうございました。

「あて名の方ご本人」へのおたずねは以上です。

記入もれがないかもう一度お確かめのうえ、同封の返信用封筒(切手は不要です)に入れて、7月10日(月)までにお近くのポストに投函してください。

もし、差し支えなければ、ふだんあて名の方ご本人を主に介助・援助されている方のご意向もお聞かせください。

このページは、ふだん「あて名の方ご本人」を介助・援助しているご家族の方がお答えください。

■ 介助・援助者の意向

問 63 あて名の方ご本人を主に介助・援助する方の性別・ご年齢・続柄について、当てはまるものにそれぞれ教えてください。(○はそれぞれ1つ)  
なお、回答しにくいと感じる場合は、回答いただかなくて結構です。

性別 (○は1つ)	1 男性	2 女性	3 ( )
年齢 (○は1つ)	1 20 歳未満	5 50 歳代	
	2 20 歳代	6 60 歳代	
	3 30 歳代	7 70 歳代	
	4 40 歳代	8 80 歳以上	
続柄 (○は1つ)	1 夫	7 父	
	2 妻	8 母	
	3 息子	9 兄弟	
	4 娘	10 孫	
	5 子の夫	11 その他( )	
	6 子の妻		

問 64 あなたの現在の健康状態はいかがですか。(○は1つ)

1 よい	3 ぶつう	5 よくない
2 まあよい	4 あまりよくない	

問 65-1 あなたの就労・就学状況を教えてください。(○は1つ)

1 正規社員	} →問 65-2 へ進む	4 学生 →問 66 へ進む
2 非正規社員		5 無職
3 パート・アルバイト		6 その他( )

【問 65-1 で「1」～「3」、または「5」、または「6」のいずれかを回答した方におたずねします。】

問 65-2 あなたの今後の就労意向を教えてください。(○は1つ)

1 現在と同様の形で働きたい	4 パート・アルバイトとして働きたい
2 正規社員として働きたい	5 わからない
3 非正規社員として働きたい	6 働きたくない

問 66 あて名の方ご本人を介助・援助するにあたって、困っていることはありませんか。(○はいくつでも)

1 介助・援助の方法がわからない	11 孤独感がある
2 福祉サービス等の情報が不足している	12 精神的な負担が大きい
3 福祉サービス等が十分に利用できない	13 経済的な負担が大きい
4 余暇など自分の時間が持てない	14 他にも介助の必要な家族・親族がいる
5 ちよつとした外出ができない	15 他の家族の援助が足りない
6 仕事に出られない	16 隣近所の人との関係づくりが難しい
7 長期的な外出ができない	17 何かの際に相談や介助を頼める人がいない
8 睡眠不足である	18 その他( )
9 身体的な負担が大きい	19 特にない
10 年齢的に負担が大きい	

問 67-1 現在、あて名の方ご本人以外に、他の方の介護や子育て等をしていますか。(○は1つ)

1 している	2 していない →問 68 へ進む
--------	-------------------

問 67-2 「他の方の介護や子育て等をしている」と回答した方におたずねします。あて名の方ご本人からみて、その方はどのような関係にあたりますか。(○はいくつでも)

1 兄弟・姉妹	3 祖父・祖母	5 その他
2 父・母	4 子	( )

問 67-3 「他の方の介護や子育て等をしている」と回答した方におたずねします。その方が介助・援助を必要とするのはどのような理由からですか。(○はいくつでも)

1 病気のため	4 育児中のため
2 障害のため	5 その他( )
3 高齢のため	

問 68 家族等支援として、区に充実してほしい施策は何ですか。(〇はいくつでも)

- |  |
|--|
| 1 区からの情報提供を増やす                               |
| 2 家族等の休養目的のショートステイを充実させる                     |
| 3 家族等に対する相談体制を充実させる                          |
| 4 障害特性の理解や、適切な対応をするための知識・方法を学ぶ家族向けプログラムを実施する |
| 5 家族同士の交流や情報交換の場・機会をつくる                      |
| 6 その他( )                                     |
| 7 特にない                                       |

最後に、練馬区の障害者施策などについて、ご意見・ご要望がございましたら、自由にお書きください。

--

調査にご協力いただき誠にありがとうございました。

同封の返信用封筒（切手は不要）に入れ、7月10日（月）までにご投函ください。

# 生活と福祉に関するアンケート

## ■ あなた(あて名の方ご本人)のことについて

問1 あなたの性別と年齢をお答えください。

なお、回答しにくいと感じる場合は、回答いただかなくて結構です。

性別 1 男性 2 女性 3 ( ) 年齢  歳

問2 この調査票はどなたが記入されますか。(○は1つ)

- 1 本人が自分一人で記入
- 2 本人に聞いて家族や介助者が代筆
- 3 本人の意向を考えながら家族や介助者が記入

問3 現在、あなたはどこで暮らしていますか。(○は1つ)

- 1 自分の持ち家(購入マンションも含む)
- 2 親など家族の持ち家(購入マンションも含む)
- 3 公営住宅
- 4 アパート、賃貸マンション、借家
- 5 グループホーム、ケアホーム
- 6 社宅、会社の寮
- 7 福祉施設
- 8 病院に入院している
- 9 その他( )

問4 現在、あなたと一緒に暮らしている人はどなたですか。(○はいくつでも)

- 1 自分一人だけで暮らしている
- 2 配偶者(夫または妻)
- 3 息子、娘(息子または娘の配偶者も含む)
- 4 父、母
- 5 祖父、祖母
- 6 兄弟、姉妹
- 7 その他( )
- 8 グループホーム等での集団生活

問5 あなたご本人の収入源は何ですか。(○はいくつでも)

- 1 就労による収入
- 2 年金・手当
- 3 生活保護費
- 4 家族などからの仕送り
- 5 その他( )
- 6 収入はない

問6 あなたの世帯の、主な生計維持者(もともとも収入が多い方)はどなたですか。(○は1つ)  
※「3 父」「4 母」とお答えの場合は、年齢(令和5年6月1日現在)をご記入ください。

- 1 あなたご本人
- 2 あなたの配偶者(夫・妻)
- 3 父 →  歳
- 4 母 →  歳
- 5 子
- 6 祖父・祖母
- 7 兄弟・姉妹
- 8 その他( )

問7 現在罹患している主な難病の疾病名を別紙の「東京都難病医療費等助成制度の対象疾病一覧」の中から番号を選んで2つまでご記入いただくか、疾病名をご記入ください。

疾病番号	疾病名	疾病番号	疾病名
1		2	

問8 問7で記載した難病の発症年齢と、医療費助成を初めて申請した年齢を記入してください。

	医療費助成	
	発症年齢	申請した年齢
1	歳頃	歳頃
2	歳頃	歳頃

問9 あなたは、以下の手帳をお持ちですか。お持ちの方は等級にも○をつけてください。(○はいくつでも)

- 1 身体障害者手帳 → ( 1級 2級 3級 4級 5級 6級 )
- 2 愛の手帳 → ( 1度 2度 3度 4度 )
- 3 精神障害者保健福祉手帳 → ( 1級 2級 3級 )
- 4 これらの手帳は持っていない

→【問10は、「1 身体障害者手帳」をお持ちの方におたずねします。】

問10 身体障害者手帳に記載されている障害は次のどれですか。あてはまる障害の番号を「1 番目」の欄に記入してください。障害の種類が2つ以上記載されている場合は、記載の順番にしたがって「1 番目」と「2 番目」を記入してください。

- 1 視覚障害
- 2 聴覚障害
- 3 平衡機能障害
- 4 音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害
- 5 肢体不自由  
(上肢、下肢、乳幼児期以前の非進行性の脳病変による運動機能障害)
- 6 肢体不自由(体幹)
- 7 心臓、じん臓、呼吸器、ぼうこう、直腸、小腸、肝機能、免疫の機能の障害
- 8 その他( )

1 番目

2 番目

問11 あなたは、障害支援区分の認定を受けていますか。

認定を受けている方は、現在の区分にも○をつけてください。(○は1つ)

- 1 受けている → ( 区分1 区分2 区分3 区分4 区分5 区分6 )
- 2 受けていない

問12-1 あなたは現在、日常生活をおくるために、医療的ケアを必要としていますか。(○は1つ)

1 必要    2 必要ではない → 問13へ進む

【問12-2、問12-3は、問12-1で「1 必要」と回答した方におたずねします。】

問12-2 どのような医療的ケアが必要ですか。(○はいくつでも)

1 経管栄養 6 気管カニューレ  
 2 胃ろう 7 導尿  
 3 腸ろう 8 人工呼吸器  
 4 たん等の吸引 9 気管切開  
 5 吸入 10 その他( )

問12-3 介助者が不在の時などの短期入所（ショートステイ）の利用状況についておたずねします。(○はいくつでも)

1 区内の短期入所(ショートステイ)を利用している  
 2 区外の短期入所(ショートステイ)を利用している  
 3 利用したいが医療的ケアが理由で受け入れ先がない  
 4 利用の必要がない  
 5 その他( )

■ 介助・援助の状況について

【すべての方におたずねします。】

問13 ふだん、あなたを介助・援助しているのはどなたですか。(○はいくつでも)

1 とくに介助等は受けていない → 問16-1へ進む

2 配偶者(夫または妻) 8 病院の職員(看護師・精神保健福祉士等)  
 3 父、母 9 施設の職員  
 4 息子、娘(息子、娘の配偶者も含む) 10 訪問看護師  
 5 祖父、祖母 11 ホームヘルパー  
 6 兄弟、姉妹 12 その他( )  
 7 行政の職員(ワーカー・保健師等)

最も長く介助・援助している人はどなたですか。その方が

↑

2～6の場合、年齢を教えてください。

年齢  歳

(問13の選択肢の番号を記入)

【問14、問15は、問13で「2」～「12」を回答した方におたずねします。】

問14 どのようなときに介助・援助を受けていますか。(○はいくつでも)

1 食事 7 外出  
 2 トイレ 8 服薬  
 3 入浴 9 医療的ケアに関わる介助  
 4 衣服の着脱 10 他の人と意思疎通を図りたいとき  
 5 家の中の移動 11 金銭管理  
 6 家事(調理、掃除、洗濯) 12 その他( )

問15 主に介助・援助している方が、病気のときや、外出しなければならぬ場合はどのようにしたいと思いますか。(○はいくつでも)

1 同居している他の家族に頼みたい  
 2 同居していない他の家族や親せきに頼みたい  
 3 介護や家事援助などを行うホームヘルプサービスを利用したい  
 4 訪問看護を利用したい  
 5 施設への短期入所(ショートステイ)を利用したい  
 6 近所の人や友人・知人に頼みたい  
 7 今までそのようなことはなかったもので、よくわからない  
 8 その他( )

【すべての方におたずねします。】

問16-1 あなたは、ふだんの生活の中で、必要とする介助・援助を受けていると思いますか。(○は1つ)

1 必要だが、受けていない介助・援助がある  
 2 必要とする介助・援助は受けていないと思う → 問17-1へ進む  
 3 特に介助・援助を必要としていない  
 4 その他( )

→【問16-1で「1 必要だが、受けていない介助・援助がある」と回答した方におたずねします。】

問16-2 必要だが、受けていない介助・援助は、どのようなことですか。(自由記入)

【すべての方におたずねします。】

問 17-1 地域生活支援拠点の機能のうち、「体験の機会・場」についておたずねいたします。

「体験の機会・場」の利用を希望しますか。(○は1つ)

地域生活支援拠点とは、障害児者の重度化・高齢化や「親亡き後」を見据え、居住支援のための機能(「相談」「緊急時の受入れ・対応」「体験の機会・場」「専門的人材の確保・養成」「地域の体制づくり」)を地域の実情に応じて整備し、障害者の生活を地域全体で支えるサービス提供体制のことです。地域生活支援拠点における体験とは、入居を前提とした体験利用でなく、1か月程度グループホームでの生活を体験することで、将来の生活のイメージをつかむ目的のものを指します。

1 希望する → 問 18 へ進む

2 希望しない

3 わからない → 問 18 へ進む

→【問 17-1 で「2 希望しない」と回答した方におたずねします。】

問 17-2 希望しない理由をおたずねいたします。

- 1 将来的にグループホームの利用を希望していない
- 2 体験利用のイメージがわからない
- 3 体験利用にあたっての費用負担が難しい
- 4 体験利用期間中の日中活動先への通所が難しい
- 5 その他( )

■ 日中の過ごし方について

【すべての方におたずねします。】

問 18 あなたは、平日の昼間、主にどこで (何をして) 過ごしていますか。(○は1つ)

- 1 学校などに通っている → 問 19 へ進む
- 2 働いている → 問 21 へ進む
- 3 病院や施設で療養している
- 4 障害者地域生活支援センター(きらら、すてっぷ、ういんぐ、さくら)を利用している
- 5 介護保険のデイサービスを利用している
- 6 自宅で療養している
- 7 その他( )

→ 問 26 へ進む

■ 教育について

【問 19、問 20 は、問 18 で「1 学校などに通っている」と回答した方におたずねします。】

問 19 主たる通学先はどこですか。(○は1つ)

- 1 特別支援学校
- 2 特別支援学級
- 3 通常の学級
- 4 高等学校
- 5 職業訓練校
- 6 専門学校・大学
- 7 その他( )

問 20 学校などに通っていて、もっと充実してほしいことはありますか。(○はいくつでも)

- 1 通いやすくしてほしい(通学手段の改善など)
- 2 施設・設備などを充実してほしい
- 3 介助体制を充実してほしい
- 4 先生・生徒の理解などが深まってほしい
- 5 放課後の居場所づくりを充実してほしい
- 6 夏休みなど長期休みの際の取組を充実してほしい
- 7 その他( )
- 8 特に困っていることはない

【次は問 26 へ進んでください。】

■ 雇用・就労について

【問21～問25は、問18で「2 働いている」と回答した方におたずねします。】

問21 仕事の形態は次のうちどれですか。(○は1つ)

- |                     |                    |
|---------------------|--------------------|
| 1 自営業               | 5 内職               |
| 2 家業の手伝い            | 6 就労移行支援・就労継続支援事業所 |
| 3 会社・団体等の正規職員       | 7 その他( )           |
| 4 非正規職員(契約、パート、派遣等) |                    |

問22 仕事の内容は次のうちどれですか。(○は1つ)

- |                     |                    |
|---------------------|--------------------|
| 1 管理的業務             | 9 サービスの業務          |
| 2 研究・技術の業務          | 10 警備・保安の業務        |
| 3 法務・経営・文化芸術等の専門的業務 | 11 農林漁業の業務         |
| 4 医療・看護・保健の業務       | 12 製造・修理・塗装・製図等の業務 |
| 5 保育・教育の業務          | 13 配送・輸送・機械運転の業務   |
| 6 事務的業務             | 14 建築・土木・電気工業の業務   |
| 7 販売・営業の業務          | 15 運搬・清掃・包装・選別等の業務 |
| 8 福祉・介護の業務          | 16 その他( )          |

問23 あなたの職場はどこにありますか。(○は1つ)

- |                |              |
|----------------|--------------|
| 1 練馬区内         | 4 東京都外       |
| 2 23区内(練馬区を除く) | 5 在宅で仕事をしている |
| 3 東京都内         |              |

問24 仕事で得た収入は1年にどれくらいですか(給与・賞金など)。(○は1つ)

- |                |                 |
|----------------|-----------------|
| 1 2万円未満        | 6 100万円～300万円未満 |
| 2 2～5万円未満      | 7 300万円～500万円未満 |
| 3 5万円～20万円未満   | 8 500万円～700万円未満 |
| 4 20万円～50万円未満  | 9 700万円以上       |
| 5 50万円～100万円未満 | 10 収入はない        |

問25 仕事をす上で不安や不満がありますか。(○はいくつでも)

- |                  |                          |
|------------------|--------------------------|
| 1 収入が少ない         | 9 職場での身分が不安定             |
| 2 仕事が多い          | 10 職場の施設・設備が病状に十分対応していない |
| 3 仕事が多岐にわたる      | 11 昇給や昇進が平等ではない          |
| 4 自分にあった内容の仕事がない | 12 通勤が大変                 |
| 5 1日の就労時間が長い     | 13 食事やトイレの介助が必要          |
| 6 1週間の就労日数が多い    | 14 その他( )                |
| 7 難病への理解が足りない    | 15 特に不安や不満はない            |
| 8 人間関係が苦手        |                          |

【すべての方におたずねします。】

問26 あなたは、難病患者の方が働くためにどのような環境が整っていることが大切だと思いますか。(○はいくつでも)

- |   |
|---|
| 1 自分の家の近くに働く場があること                                |
| 2 自分の家の中で、通勤することなく働けること                           |
| 3 健康状態にあわせて働き方ができること                              |
| 4 難病患者の方の健康状態にあった仕事を用意されること                       |
| 5 就労支援機関(レインボーク、就労移行支援事業所等)が充実していること              |
| 6 生活支援・余暇支援が充実していること                              |
| 7 事業主や職場の人たちが、難病の方の雇用について十分理解していること               |
| 8 職場の施設や設備が難病の方にも利用しやすいように配慮されていること               |
| 9 ジョブコーチ <sup>※</sup> の支援を受けながら働けること              |
| 10 同じような健康状態の方と一緒に、あるいは交替で働けること                   |
| 11 在宅テレワークの環境を整えるなどICT <sup>※</sup> を活用できるようにすること |
| 12 通勤の同行や業務中の食事・トイレの介助が受けられるようにすること               |
| 13 その他( )   |
| 14 わからない  |

※ ジョブコーチ: 企業就労や企業で働き続けるために、障害者と企業との間に入って支援する人

※ ICT: 情報や通信に関する技術の総称

■ 外出や社会参加の状況について

問27 外出する際に利用する手段を教えてください。(○はいくつでも)

- |              |                |
|--------------|----------------|
| 1 徒歩         | 6 家族などが運転する自動車 |
| 2 車椅子        | 7 バス           |
| 3 自転車        | 8 電車           |
| 4 バイク、スクーター  | 9 タクシー         |
| 5 自分で運転する自動車 | 10 その他( )      |

問28 外出の際に困っていることがありますか。(○はいくつでも)

- |                                   |
|-----------------------------------|
| 1 付き添ってくれる人がいない                   |
| 2 他人との会話が難しい                      |
| 3 他人の視線が気になる                      |
| 4 必要などに、周りの人の手助け・配慮が足りない          |
| 5 歩道が狭く、放置自転車などの障害物が多いなど、歩道が歩きにくい |
| 6 建物などに段差が多く、利用しにくい               |
| 7 車を駐車するところがない                    |
| 8 気軽に利用できる移動手段が少ない                |
| 9 電車やバスなどが利用しづらい                  |
| 10 障害者用トイレ(オストメイト対応、大人用ベッド含む)が少ない |
| 11 その他( )                         |
| 12 特に困っていることはない                   |

問29 あなたは、これからのどのような活動をしたいと思いますか。(○はいくつでも)

- |                 |                |
|-----------------|----------------|
| 1 文化芸術活動        | 7 個人的な趣味や学習の活動 |
| 2 スポーツ・レクリエーション | 8 講座や講演会などへの参加 |
| 3 旅行            | 9 地域の行事やお祭     |
| 4 ボランティア活動      | 10 その他( )      |
| 5 難病団体・患者会の活動   | 11 特に活動したくない   |
| 6 趣味などのサークル活動   |                |

問30 あなたは、問29のような活動に参加するためにはどのような支援が必要だと思いますか。(○はいくつでも)

- |                      |                         |
|----------------------|-------------------------|
| 1 活動についての情報が提供されること  | 6 適切な指導者がいること           |
| 2 一緒に行く仲間がいること       | 7 難病患者の方に配慮した施設や設備があること |
| 3 活動する場所が近くにあること     | 8 介助者・援助者がいること          |
| 4 外出のための手段が確保されていること | 9 その他( )                |
| 5 難病患者の方にあった対応があること  | 10 特にない                 |

■ 健康状況や医療について

問31 難病疾病で、主となる(最も頻度の高い)受療状況を教えてください。(○は1つ)

- |                    |
|--------------------|
| 1 通院している           |
| 2 訪問診療(往診)してもらっている |
| 3 入院している           |
| 4 入院・通院していない       |

問32 難病疾病での入院歴はありますか。ある場合は入院期間にも○をしてください。(○は1つ)

- |                                       |
|---------------------------------------|
| 1 ない                                  |
| 2 ある → ( 3か月未満 3か月～1年未満 1年～3年未満 3年以上) |

【問33は、通院している方におたずねします。】

問33 通院する際の介助は必要ですか。(○は1つ)

- |           |               |
|-----------|---------------|
| 1 介助は必要ない | 2 付添いなどの介助が必要 |
|-----------|---------------|

問34 健康管理や医療について、困ったり不便に感じたことはありませんか。(○はいくつでも)

- |    |                              |
|----|------------------------------|
| 1  | 特に困っていることはない                 |
| 2  | 近所に診てくれる医師がいらない              |
| 3  | 専門的な治療を行う医療機関がない             |
| 4  | 通院や健康診査のときに付き添いがれない          |
| 5  | 住診を頼める医者がいない                 |
| 6  | 定期的に健康診査を受けられない              |
| 7  | 医療機関とのコミュニケーションがとれない         |
| 8  | 症状が正確に伝わらず、難病の方への配慮が不十分      |
| 9  | 受診手続きなど、難病の建物が必要治療を受けられない    |
| 10 | 医療機関の建物が難病患者の方に配慮した構造になっていない |
| 11 | 医療費の負担が大き                    |
| 12 | 休日・夜間の相談や治療をしてくれる医療機関が少ない    |
| 13 | その他( )                       |

■ 相談や情報の入手について

問35 あなたは、悩みごとや心配ごとがあるとき、家族や親せき以外にどのようなところに相談していますか。(○はいくつでも)

- |    |                                      |
|----|--------------------------------------|
| 1  | 総合福祉事務所                              |
| 2  | 保健相談所                                |
| 3  | 障害者地域生活支援センター<br>(きらら・すてっぷ・ういんぐ・さくら) |
| 4  | 権利擁護センター ぽっとサポートねりま                  |
| 5  | 民生委員・児童委員                            |
| 6  | 難病情報センター                             |
| 7  | 児童相談所                                |
| 8  | 福祉施設                                 |
| 9  | 相談支援事業所                              |
| 10 | こども発達支援センター                          |
| 11 | 学校教育支援センター                           |
| 12 | 子ども家庭支援センター                          |
| 13 | 病院・診療所                               |
| 14 | 学校・職場                                |
| 15 | 患者団体・患者会                             |
| 16 | 友人・知人                                |
| 17 | ホームヘルパー                              |
| 18 | インターネットの掲示板(民間サイト)など                 |
| 19 | その他( )                               |
| 20 | 相談できるところはない                          |
| 21 | 相談の必要はない                             |

問36 福祉サービスなどの情報をどこから得ていますか。(○はいくつでも)

- |    |                                      |
|----|--------------------------------------|
| 1  | ねりま区報                                |
| 2  | 区のホームページ                             |
| 3  | インターネットのサイト(区のホームページ以外)              |
| 4  | 区の障害者福祉のしおり                          |
| 5  | 総合福祉事務所・保健相談所                        |
| 6  | 障害者地域生活支援センター<br>(きらら・すてっぷ・ういんぐ・さくら) |
| 7  | 学校、職場、施設                             |
| 8  | 病院・診療所                               |
| 9  | 相談支援事業所                              |
| 10 | 民生委員・児童委員                            |
| 11 | 患者団体・患者会                             |
| 12 | 家族・親せき                               |
| 13 | 友人・知人                                |
| 14 | その他( )                               |
| 15 | わからぬ                                 |

問37 日常生活に必要な情報を得る際に、あなたはパソコンなどの情報通信機器 (ICT 機器) をどの程度利用していますか。(それぞれ○は1つ)

- |   |         |      |   |      |   |      |   |        |
|---|---------|------|---|------|---|------|---|--------|
| ① | パソコン    | よく使う | 2 | まあ使う | 3 | 使わない | 4 | 持っていない |
| ② | スマートフォン | よく使う | 2 | まあ使う | 3 | 使わない | 4 | 持っていない |
| ③ | タブレット端末 | よく使う | 2 | まあ使う | 3 | 使わない | 4 | 持っていない |
| ④ | その他( )  | よく使う | 2 | まあ使う | 3 | 使わない | 4 | 持っていない |

問38 あなたは、ふだん周囲の方々とコミュニケーションのために、どのような手段・機器等を利用していますか。(○はいくつでも)

- |    |                     |
|----|---------------------|
| 1  | パソコンのメール            |
| 2  | 携帯/スマートフォンのメール・SNS※ |
| 3  | 電話(固定・携帯/スマートフォン)   |
| 4  | 携帯用会話補助装置※          |
| 5  | 手話・手話通訳             |
| 6  | 読 話                 |
| 7  | 筆談・要約筆記             |
| 8  | 補聴機器(補聴器・人工内耳など)    |
| 9  | 触 手話                |
| 10 | 指文字・指点字             |
| 11 | 意志伝達装置              |
| 12 | 文字盤                 |
| 13 | コミュニケーションボード        |
| 14 | その他( )              |
| 15 | 特に使用している機器はない       |

※ SNS(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)とは、Twitter(ツイッター)や Facebook(フェイスブック)等インターネットを介して友人・知人など利用者と情報発信・やりとりができるサービスです。

※ 携帯用会話補助装置とは、言葉を音声または文章に変換する、または言葉を拡声する機能を有する携帯式機器(携帯端末等で利用するためのアプリケーションソフトを含む。)

問 39 円滑なコミュニケーションの実現や情報入手のために、どのようなことを充実するとよいと思いますか。(〇はいくつでも)

- 1 点字による情報提供を増やす
- 2 音声による情報提供を増やす
- 3 パソコン/携帯メール・SNSによる情報提供を増やす
- 4 手話通訳・要約筆記を充実する
- 5 公共施設の案内・誘導をわかりやすくする
- 6 電光掲示板や自動販売機など字幕による情報提供を増やす
- 7 コミュニケーション支援機器の種類・使い方についての情報提供や相談の機会を増やす
- 8 コミュニケーションを支援する人を増やす
- 9 その他( )
- 10 特にない

■ 福祉サービスについて

問 40 あなたは、この1年くらいの間、次のサービスを利用したことありますか。(〇はいくつでも)

- 1 ホームヘルプなどの訪問系サービス
- 2 訪問看護などの医療系サービス
- 3 短期入所(ショートステイ)・緊急一時保護
- 4 補装具費の支給・修理
- 5 日常生活用具の給付・レンタル
- 6 住宅設備改善費の給付
- 7 福祉タクシー券の交付、自動車燃料費の助成等
- 8 移動支援・同行援護
- 9 訪問入浴サービスなどの入浴サービス
- 10 グループホームなどの居住系サービス
- 11 日中一時支援
- 12 手話通訳者・要約筆記者の派遣
- 13 介護保険のサービス
- 14 その他( )
- 15 1～13のサービスを利用したことがない

問 41-1 あなたは、現在必要だと思ふサービスを十分利用していますか。(〇は1つ)

- 1 十分利用している
  - 2 十分ではないが、ほぼ利用している
  - 3 あまり利用していない
  - 4 その他( )
  - 5 わからない
  - 6 サービスを利用する必要がない
- 1 → 問 42-1 へ進む  
2 → 問 42-1 へ進む  
3 → 問 42-1 へ進む  
4 → 問 42-1 へ進む  
5 → 問 42-1 へ進む  
6 → 問 42-1 へ進む

【問 41-1 で「あまり利用していない」と回答した方におたずねします。】

問 41-2 必要だと思ふサービスを「あまり利用していない」理由は何か。(〇はいくつでも)

- 1 自己負担が大きいため
- 2 支給要件に該当しないから
- 3 必要とするサービスがないから
- 4 どのようなサービスがあるかわからないから
- 5 利用の仕方がわからないから
- 6 個別のニーズに対応できないから
- 7 サービスに空きがなく利用できないから
- 8 医療的ケアが理由で受け入れ先がない
- 9 その他( )
- 10 わからない

【すべての方におたずねします。】

問 42-1 次のサービスのうち、今後も引き続き利用したい、あるいは新たに利用したいと思うサービスはありますか。(○はいくつでも)

1 ホームヘルプなどの訪問系サービス	} → 問 43 へ進む
2 訪問看護などの医療系サービス	
3 短期入所(ショートステイ)・緊急一時保護	
4 補装具費の支給・修理	
5 日常生活用具の給付・レンタル	
6 住宅設備改善費の給付	
7 福祉タクシー券の交付、自動車燃料費の助成等	
8 移動支援・同行援護	
9 訪問入浴サービスなどの入浴サービス	
10 グループホームなどの居住系サービス	
11 日中一時支援	} → 問 42-4 へ進む
12 手話通訳者・要約筆記者の派遣	
13 介護保険のサービス	
14 その他( )	
15 1～13の中に利用したいサービスはない	

【問 42-2、問 42-3 は、問 42-1 で「9 入浴サービス」と回答した方におたずねします。】

問 42-2 必要だと思う入浴サービスは次のうちどれですか。(○はいくつでも)

1 ヘルパーを利用して自宅の浴室での入浴
2 訪問入浴サービスによる入浴
3 福祉施設等での機械浴や介助浴
4 ヘルパー等の介助者との公衆浴場などでの入浴
5 その他( )

問 42-3 身近な福祉施設で機械浴などのバリアフリー設備がある入浴設備を利用できる場合、あなたは利用したいと思いますか。(○はいくつでも)

1 ヘルパー等の介助があれば利用したい
2 送迎があれば利用したい
3 家族・知人の介助があれば利用したい
4 利用したくない
5 その他( )

【問 42-1 で「10 グループホームなどの居住系サービス」と回答した方におたずねします。】

問 42-4 グループホームを利用するとき、必要なことはどのようなことですか。(○はいくつでも)

1 練馬区内にあること
2 家族がいる場所に近いか
3 日中活動している場所や通院先に近いか
4 主に夜間や休日、グループホームの職員が相談や介護を行うこと
5 主に夜間や休日、グループホームの職員以外のヘルパーが相談や介護を行うこと
6 その他( )
7 わからない

【すべての方におたずねします。】

問 43 サービスを利用しやすくするために、どのようなことが必要だと思いますか。改善が必要だと思うサービスの名前と必要だと思うことをお書きください。

改善が必要なサービスの名前	必要だと思うこと
↑	
↑	
↑	

問 44 今あるサービス以外で、どんなサービスや施策が必要だと思いますか。(自由記入)

--

【問 45 は、40 歳以上の方におたずねします。】

問 45 あなたは、介護保険のサービスを利用していますか。(○はいくつでも)

1 訪問介護(ホームヘルプ)を利用している
2 通所介護(デイサービス)を利用している
3 短期入所(ショートステイ)を利用している
4 その他( )
5 介護保険サービスは利用していない → 問 48 へ進む

【問 46、問 47 は、介護保険サービスを利用している方におたずねします。】

問 46 あなたは、介護保険の要介護認定を受けたことがありますか。ある場合には、要介護度に  
も○をつけてください。(○は1つ)

1 ない	
2 ある →	1 要支援1   2 要支援2   3 要介護1   4 要介護2   5 要介護3   6 要介護4   7 要介護5   8 わからない

問 47 障害福祉サービスと介護保険サービスの両方のサービスを利用して、何か困っている  
ことはありますか。(○はいくつでも)

1 サービスの支給量が減ってしまった	
2 同じサービス提供事業所を利用し続けることができず、介護保険事業所に変更することになった	
3 利用者自己負担が増えた	
4 障害福祉サービスの上乗せの相談手続きが難しかった	
5 介護保険サービスでは障害特性を理解した対応が受けられなくなった	
6 その他( )	
7 障害福祉サービスは利用していない(介護保険サービスのみ利用)	
8 特に困っていることはない	

■ 将来について

【すべての方におたずねします。】

問 48 あなたは、5年後・10年後・20年後に、それぞれのどのような暮らし方を希望しますか。  
第1希望・第2希望について、右の枠に項目の番号を記入してください。

【5年後】についてお答えください。

1 ひとりで暮らしたい	
2 家族と一緒に暮らしたい	
3 グループホームで暮らしたい	
4 施設に入所して暮らしたい	
5 その他( )	
6 わからない	

第1希望	第2希望
------	------

【10年後】についてお答えください。

1 ひとりで暮らしたい	
2 家族と一緒に暮らしたい	
3 グループホームで暮らしたい	
4 施設に入所して暮らしたい	
5 その他( )	
6 わからない	

第1希望	第2希望
------	------

【20年後】についてお答えください。

1 ひとりで暮らしたい	
2 家族と一緒に暮らしたい	
3 グループホームで暮らしたい	
4 施設に入所して暮らしたい	
5 その他( )	
6 わからない	

第1希望	第2希望
------	------

【5年後、10年後、20年後のいずれかで「1 ひとり暮らしのために必要なのはどのようなことですか。(○はいくつでも)】

問 49 ひとりで暮らすために必要なことはどのようなことですか。(○はいくつでも)

1	ひとりで暮らすための手続きへの手助け
2	ひとりで暮らすための費用
3	バリアフリーに対応した物件
4	難病患者に理解のある不動産業者(または貸主)
5	保証人や緊急連絡先の確保
6	定期的に安否確認を受けられるサービス
7	家事などの生活力向上のための支援
8	金銭管理の支援
9	障害福祉サービスの充実(具体的な内容: )
10	その他( )
11	わからない

問 50 今後も練馬区に住み続けたいと思いますか。(○は1つ)

1	住み続けたい
2	区外に移転したい
3	わからない

問 51 問 50 のように答えた理由は何ですか。(自由記入)

■ 災害対策について

問 52-1 あなたは、最寄の避難拠点※(区立小中学校)の場所をご存じですか。(○は1つ)  
 ※練馬区では、災害時に自宅で生活することができない場合の避難場所として、全区立小中学校を指定しており、避難拠点と呼んでいます。なお、避難拠点は居住地による指定はありません。お住まいの地域にかかわらず避難ができます。

1	知っている
2	知らない → 問 53へ進む

→【問 52-1 で「1 知っている」と回答した方におたずねします。】

問 52-2 あなたは、災害時にその避難拠点まで自力で避難することができますか。(○は1つ)

1	できると思う
2	できないと思う
3	その他( )

【すべての方におたずねします。】

問 53 災害に備えて、または災害時に、どのような対策が必要だと思いますか。(○はいくつでも)

1	避難しやすい避難所を整備する
2	難病患者の方にも防災訓練等に参加するように促す
3	日頃から避難方法のアドバイスや情報提供を行う
4	緊急通報システムを整備する
5	避難時の支援体制、地域で助け合える体制を整備する
6	避難時に障害者用設備(トイレ、ベッドなど)を配置する
7	避難時に人工透析や人工呼吸器、在宅酸素など生命安全維持装置を確保する
8	避難時において難病患者の方に配慮した情報提供を行う
9	避難時の介助人などを確保する
10	避難所での手話通訳者、ガイドヘルパーなどを確保する
11	避難所で補装具等の貸出しを行う
12	その他( )
13	特にない

■ 権利擁護について

問 54 難病を理由として、差別や人権侵害を受けていると感じることがありますか。(○は1つ)

1	いつも感じる
2	たまに感じる
3	ほとんど感じることはない
4	わからない

問 55 地域で暮らす上で、難病に対して理解を得られていると感じますか。(○は1つ)

1	十分得られていると感じる
2	時々得られていないと感じる
3	あまり得られていないと感じる
4	まったく得られていないと感じる
5	わからない

問56 あなたは、難病および難病患者の方への区民の理解を深めるためには、何が必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

- 1 難病への理解を深めるための広報・啓発を充実する
- 2 ボランティア活動や難病理解を深める活動をしている団体を支援する
- 3 難病患者の方との交流を通じた難病理解の機会を増やす
- 4 学校における福祉教育・人権教育を充実する
- 5 難病患者の方の社会参加のための支援を充実する
- 6 福祉施設が地域住民との交流を進める
- 7 難病患者の方自らが、積極的に地域活動に参加する
- 8 難病患者の方自らが、必要な手助け等を周囲に伝える
- 9 発達に課題のある子どもへの支援の充実
- 10 その他( )
- 11 わからない
- 12 特にない

問57-1 あなたは、今まで周囲に対して「合理的配慮」を求めたことがありますか。(〇はいくつ)

- 合理的配慮とは、障害のある方が、必要な配慮や手助けについて意思を伝えたととき、役所や会社・お店などが、負担が重すぎない範囲で対応することをいいます。
- 《合理的配慮の具体例》
- 書類を記入するとき、代わりに書くことに問題がない場合は、その人の意思を十分に確認しながら代わりに書く。
  - 絵や写真のカードやタブレット端末などを使い、障害特性に合った方法で説明する。
  - 段差がある場合に、携帯のステップなどを使って補助する。

- 1 ある → 問 58-1 へ進む
- 2 ない
- 3 その他( ) → 問 58-1 へ進む

【問57-1で「2 ない」と回答した方におたずねします。】

問57-2 「合理的配慮」を求めたことがないのはどのような理由からですか。(〇はいくつでも)

- 1 合理的配慮を必要とする場面・機会にあつたことがない
- 2 そのときには、合理的配慮を求めたことを思い浮かばなかった
- 3 合理的配慮を求めたかったが、周囲のことを考えて遠慮してしまった
- 4 合理的配慮を求めたかったが、配慮を求めたことを言い出しにくかった
- 5 合理的配慮について知らなかった
- 6 その他( )

【すべての方におたずねします。】

問58-1 あなたは、今後の状況によって成年後見制度を利用しますか(利用する予定ですか)。(〇はいくつ)

※ 成年後見制度とは、自分で十分な判断ができない人のために、後見人等を選任して本人の意思決定を助け、生活や財産などの権利を守る制度です。選ばれた後見人等は、本人の意思を尊重し、心身の状態に配慮しながら必要な代理行為を行い、財産を適正に管理します。練馬区では、練馬区社会福祉協議会の権利擁護センター「ほっとサポートねりま」を成年後見制度の推進機関と位置づけています。

- 1 現在利用している
  - 2 今後利用したい
  - 3 利用したいと思わない
  - 4 わからない
- 問 59 へ進む
- 問 59 へ進む

【問58-1で「3 利用したいと思わない」と回答した方におたずねします。】

問58-2 成年後見制度を利用しない(したくない)理由は何ですか。(〇はいくつでも)

- 1 手続きが難しい
- 2 費用負担が大きい
- 3 後見人が選任されるまでに時間がかかる
- 4 制度のしくみがよくわからない
- 5 十分な支援が受けられるかわからない
- 6 その他( )
- 7 必要がない

【すべての方におたずねします。】

問59 今後、障害者施策を充実させるためには、どのようなことが必要だと思いますか。  
(〇はいくつでも)

- |    |                                    |
|----|------------------------------------|
| 1  | 障害の早期発見・早期療育に努めること                 |
| 2  | 障害のある方とない方の交流を進め、相互理解を深めること        |
| 3  | 障害のある子どもそれぞれに状況や発達に応じた教育を進めること     |
| 4  | 障害のある方の働く場の確保や働き続けるための支援を充実すること    |
| 5  | ホームヘルパーの派遣など在宅生活支援サービスを充実すること      |
| 6  | 区内で利用できる施設を整備すること                  |
| 7  | 障害者や高齢者にやさしいまちづくりを進めること            |
| 8  | 障害のある方の住まいとしてグループホームを整備すること        |
| 9  | 公営住宅や民間住宅など住まいを確保するための支援を充実すること    |
| 10 | 文化芸術、スポーツ、レクリエーション活動に参加できるよう支援すること |
| 11 | 障害のある当事者による活動を支援すること               |
| 12 | ボランティア活動を充実すること                    |
| 13 | 障害者施策や福祉に関する情報提供を充実すること            |
| 14 | 相談体制を充実し、適切な支援をすること                |
| 15 | サービスの利用手続きをしやすいようにするため、受付窓口を充実すること |
| 16 | 当事者のみでなく、家族を支える支援を充実すること           |
| 17 | その他( )                             |
| 18 | 特になし                               |

問60 新型コロナウイルス感染症拡大により、感染症流行前と比べて令和5年6月1日時点で、あなたの暮らしにどのような影響がありましたか。(〇はいくつでも)

	回答例	増えた	変化しな	減った	わからない
		①	2	3	4
1	家族との会話や連絡の頻度(電話などを含む)	1	2	3	4
2	友人・知人との会話や連絡の頻度(電話などを含む)	1	2	3	4
3	生活に必要な外出の頻度(買い物・食事・医療機関の受診など)	1	2	3	4
4	社会参加の外出の頻度(余暇活動・ボランティア・スポーツなど)	1	2	3	4
5	不安やストレスを感じる頻度(神経過敏、気分の落ち込みなどを含む)	1	2	3	4
6	孤立・孤独を感じる頻度	1	2	3	4
7	ICT(パソコン、スマートフォン、タブレット型端末)の使用	1	2	3	4
8	障害福祉サービス(訪問サービス)の利用頻度	1	2	3	4
9	障害福祉サービス(通所系サービス)の利用頻度	1	2	3	4

最後に、この調査を通じて選択肢や自由記入欄だけでは表現しきれなかったことや、ご意見・ご要望、次期計画に盛り込みたいことなどがありましたら、自由にお書きください。

調査にご協力いただき誠にありがとうございました。

「あて名の方ご本人」へのおたずねは以上です。

記入もれがないかもう一度お確かめのうえ、同封の返信用封筒(切手は不要です)に入れて、7月10日(月)までにお近くのポストに投函してください。

もし、差し支えなければ、ふだんあて名の方ご本人を主に介助・援助されている方のご意向もお聞かせください。

このページは、ふだん「あて名の方ご本人」を介助・援助しているご家族の方がお答えください。

■ 介助・援助者の意向

問 61 あて名の方ご本人を主に介助・援助する方の性別・ご年齢・続柄について、当てはまるものにそれぞれ教えてください。(○はそれぞれ1つ)  
なお、回答しにくいと感じる場合は、回答いただかなくて結構です。

性別 (○は1つ)	1 男性	2 女性	3 ( )
年齢 (○は1つ)	1 20 歳未満	5 50 歳代	
	2 20 歳代	6 60 歳代	
	3 30 歳代	7 70 歳代	
	4 40 歳代	8 80 歳以上	
続柄 (○は1つ)	1 夫	7 父	
	2 妻	8 母	
	3 息子	9 兄弟	
	4 娘	10 孫	
	5 子の夫	11 その他( )	
	6 子の妻		

問 62 あなたの現在の健康状態はいかがですか。(○は1つ)

1 よい	3 ぶつう	5 よくない
2 まあよい	4 あまりよくない	

問 63-1 あなたの就労・就学状況を教えてください。(○は1つ)

1 正規社員	} →問 63-2 へ進む	4 学生 →問 64 へ進む
2 非正規社員		5 無職
3 パート・アルバイト		6 その他( )

【問 63-1 で「1」～「3」、または「5」、または「6」のいずれかを回答した方におたずねします。】

問 63-2 あなたの今後の就労意向を教えてください。(○は1つ)

1 現在と同様の形で働きたい	4 パート・アルバイトとして働きたい
2 正規社員として働きたい	5 わからない
3 非正規社員として働きたい	6 働きたくない

問 64 あて名の方ご本人を介助・援助するにあたって、困っていることはありませんか。(○はいくつでも)

1 介助・援助の方法がわからない	11 孤独感がある
2 福祉サービス等の情報が不足している	12 精神的な負担が大きい
3 福祉サービス等が十分に利用できない	13 経済的な負担が大きい
4 余暇など自分の時間が持てない	14 他にも介助の必要な家族・親族がいる
5 ちよつとした外出ができない	15 他の家族の援助が足りない
6 仕事に出られない	16 隣近所の人との関係づくりが難しい
7 長期的な外出ができない	17 何かの際に相談や介助を頼める人がいない
8 睡眠不足である	18 その他( )
9 身体的な負担が大きい	19 特にない
10 年齢的に負担が大きい	

問 65-1 現在、あて名の方ご本人以外に、他の方の介護や子育て等をしていますか。(○は1つ)

1 している	2 していない →問 66 へ進む
--------	-------------------

問 65-2 「他の方の介護や子育て等をしている」と回答した方におたずねします。あて名の方ご本人からみて、その方はどのような関係にあたりますか。(○はいくつでも)

1 兄弟・姉妹	3 祖父・祖母	5 その他( )
2 父・母	4 子	

問 65-3 「他の方の介護や子育て等をしている」と回答した方におたずねします。その方が介助・援助を必要とするのはどのような理由からですか。(○はいくつでも)

1 病気のため	4 育児のため
2 障害のため	5 その他( )
3 高齢のため	

問 66 家族等支援として、区に充実してほしい施策は何ですか。(〇はいくつでも)

- |   |
|---|
| 1 区からの情報提供を増やす                                |
| 2 家族等の休養目的のショートステイを充実させる                      |
| 3 家族等に対する相談体制を充実させる                           |
| 4 難病患者の方の理解や適切な対応をするための知識・方法を学ぶ家族向けプログラムを実施する |
| 5 家族同士の交流や情報交換の場・機会をつくる                       |
| 6 その他( )                                      |
| 7 特にない  |

最後に、練馬区の障害者施策などについて、ご意見・ご要望がございましたら、自由にお書きください。

--

調査にご協力いただき誠にありがとうございました。

同封の返信用封筒（切手は不要）に入れ、7月10日（月）までにご投函ください。

# 生活と福祉に関するアンケート

■ あなた（あて名の方ご本人）のことに ついて

- 問1 あなたの性別と年齢をお答えください。  
 なお、答えにくいと感じる場合は、お答えいただけなくて結構です。
- |    |      |      |       |    |       |
|----|------|------|-------|----|-------|
| 性別 | 1 男性 | 2 女性 | 3 ( ) | 年齢 | [ ] 歳 |
|----|------|------|-------|----|-------|
- 問2 このアンケートはだれが書いていますか。(○は1つ)
- |   |                      |
|---|----------------------|
| 1 | 自分ひとりで書いている          |
| 2 | 本人に聞いて家族や職員が代筆       |
| 3 | 本人の意向を 考えながら家族や職員が記入 |
- 問3 あなたは、現在の施設に入ってからどのくらいになりますか。(○は1つ)
- |   |          |   |           |
|---|----------|---|-----------|
| 1 | 1年未満     | 3 | 5年以上10年未満 |
| 2 | 1年以上5年未満 | 4 | 10年以上     |
- 問4 あなたの住んでいる施設はどこにありますか。(○は1つ)
- |   |      |   |              |   |      |   |      |
|---|------|---|--------------|---|------|---|------|
| 1 | 練馬区内 | 2 | 23区内(練馬区を除く) | 3 | 東京都内 | 4 | 東京都外 |
|---|------|---|--------------|---|------|---|------|
- 問5 あなたご本人の収入の種類は何ですか。(○はいくつでも)
- |   |       |   |        |
|---|-------|---|--------|
| 1 | 働いた収入 | 4 | 家族のお金  |
| 2 | 年金・手当 | 5 | その他( ) |
| 3 | 生活保護費 | 6 | 収入はない  |
- 問6 あなたは、以下の手帳をお持ちですか。お持ちの手帳の等級にも○をつけてください。(○はいくつでも)
- |   |             |        |    |      |    |    |      |
|---|-------------|--------|----|------|----|----|------|
| 1 | 愛の手帳        | → ( 1度 | 2度 | 3度   | 4度 | 5度 | 6度 ) |
| 2 | 身体障害者手帳     | → ( 1級 | 2級 | 3級   | 4級 | 5級 | 6級 ) |
| 3 | 精神障害者保健福祉手帳 | → ( 1級 | 2級 | 3級 ) |    |    |      |

問7 手帳を何歳のころから持っていますか。あてはまるものに年齢を書いてください。

- |             |    |       |
|-------------|----|-------|
| 愛の手帳        | 年齢 | [ ] 歳 |
| 身体障害者手帳     | 年齢 | [ ] 歳 |
| 精神障害者保健福祉手帳 | 年齢 | [ ] 歳 |

【問8は、身体障害者手帳を持っている方にお答えください。】

問8 身体障害者手帳に記載されている障害は次のどれですか。あてはまる障害の番号を「1番目」の欄に記入してください。障害の種類が2つ以上記載されている場合は、記載の順番にしたがって「1番目」と「2番目」を記入してください。

- |   |   |     |
|---|---|-----|
| 1 | 視覚障害                                      | 1番目 |
| 2 | 聴覚障害                                      |     |
| 3 | 平衡機能障害                                    |     |
| 4 | 音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害                       |     |
| 5 | 肢体不自由<br>(上肢、下肢、乳幼児期以前の非進行性の脳病変による運動機能障害) | 2番目 |
| 6 | 肢体不自由(体幹)                                 |     |
| 7 | 心臓、じん臓、呼吸器、ぼうこう、直腸、小腸、肝機能、免疫の機能の障害        |     |
| 8 | その他( )                                    |     |

【すべての方におたずねします。】

問9 あなたは、以下のようにな病院などで言われたことがありますか。(○はいくつでも)

- |   |                        |   |           |
|---|------------------------|---|-----------|
| 1 | 発達障害(自閉スペクトラム症、AD/H/D、 | 3 | 雑病        |
| 2 | 高次脳機能障害(失語症含む)         | 4 | 強度行動障害    |
|   |                        | 5 | 言われたことはない |

問10 あなたは、障害支援区分の認定を受けていますか。

認定を受けている方は、現在の区分にも○をつけてください。(○は1つ)

- |   |        |         |     |     |     |     |       |
|---|--------|---------|-----|-----|-----|-----|-------|
| 1 | 受けている  | → ( 区分1 | 区分2 | 区分3 | 区分4 | 区分5 | 区分6 ) |
| 2 | 受けていない |         |     |     |     |     |       |

問11-1 あなたは現在、日常生活をおくるために、医療的ケアを必要としていますか。  
(○は1つ)

1 必要 → 問12へ進む  
2 必要ではない → 問12へ進む

→【問11-2は、問11-1で「1 必要」と答えた方におたずねします。】

問11-2 どのような医療的ケアが必要ですか。(○はいくつでも)

1 経管栄養  
2 胃ろう  
3 腸ろう  
4 たん等の吸引  
5 吸入  
6 気管カニューレ  
7 導尿  
8 人工呼吸器  
9 気管切開  
10 その他( )

問12 今後、働いてみたいと思いますか。(○は1つ)

1 働きたい  
2 働きたいが、働けないと思う → 問13へ進む  
3 働きたくない  
4 高齢のため働くことを考えていない  
5 わからない

→【問13は、問12で「2 働きたいが、働けないと思う」と答えた方におたずねします。】

問13 働きたいが、働けないと思う理由は何ですか。(自由記入)

【すべての方におたずねします。】

問14 あなたは、障害のある方が働くためにはどのようなことが大切だと思いますか。  
(○はいくつでも)

1 家の近くに働くところがあること  
2 通勤はしないで、家の中で働けること  
3 からの調子にあわせて働けること  
4 仕事の内容が障害のある人にあっていること  
5 就労支援をおこなうところ(インボーク、就労移行支援事業所など)が充実していること  
6 生活支援・余暇支援が充実していること  
7 事業主や職場の人たちが、障害のある人と働くことについて十分わかってくれていること  
8 職場の施設や設備が使いやすいようにしていること  
9 ジョブコーチの支援を受けながら働けること  
10 同じような障害のある仲間と仕事を分け合ったり、交代で働くなど、無理なく働けること  
11 在宅テレワークの環境を整えるなどICTを活用できるようにすること  
12 通勤の手助けや任事中に食事・トイレの手助けが受けられるようにすること  
13 その他( )  
14 わからない

※ ジョブコーチ:企業就労や企業で働き続けるために、障害者と企業との間に入って支援する人  
※ ICT:情報や通信に関する技術のこと

問15 出かけるときの方法を教えてください。(○はいくつでも)

1	歩く
2	車椅子
3	自転車
4	バイク、スクーター
5	自分で運転する車
6	家族などが運転する車
7	バス
8	電車
9	タクシー
10	その他( )

問16 出かけるとき、困っていることがありますか。(○はいくつでも)

1	つきそってくれる人がいない
2	まわりの人と話すのがむずかしい
3	まわりの人の目が気になる
4	まわりの人の手助け・配慮が足りない
5	歩道が狭かったり、自転車が置いてあつたりして、歩道が歩きにくい
6	建物などに段差が多く、利用しにくい
7	車を停めるところがない
8	気軽に利用できる移動手段が少ない
9	(福祉タクシーなど) 電車やバスなどが利用しづらい
10	トイレが使いにくい、少ない
11	(オストメイト対応トイレ、大人用ベッドなど) その他( )
12	特に困っていることはない

問17 次の活動の中で、あなたがこれからしたいことはなですか。(○はいくつでも)

1	文化芸術活動
2	スポーツ・レクリエーション
3	旅行
4	ボランティア活動
5	障害者団体の活動
6	趣味などのサークル活動
7	個人的な趣味や学習の活動
8	講座や講演会などへの参加
9	地域の行事やお祭
10	その他( )
11	特にしたいことはない

問18 あなたは、問17のような活動に参加するためにはどのような手助けが必要だと感じますか。(○はいくつでも)

1	活動についてのおしらせがあること
2	いっしょに行く仲間がいること
3	活動する場所が近くにあること
4	外出のための手助け・サービスがあること
5	障害にあった対応ができること
6	きちんと教えてくれる人がいること
7	障害のある方が使いやすい施設などがあること
8	手助けをしてくれる人がいること
9	その他( )
10	特にない

問19 あなたは、悩みごとや心配ごとがあるとき、家族や親せき以外にどのようなところに相談していますか。(○はいくつでも)

1	総合福祉事務所
2	保健相談所
3	障害者地域生活支援センター
4	(きらら・すてつぷ・ういんぐ・さくら) 権利擁護センター ぽっとサポートねりま
5	民生委員・原董委員
6	障害者相談員
7	原董相談所
8	福祉施設
9	相談支援事業所
10	こども発達支援センター
11	学校教育支援センター
12	子ども家庭支援センター
13	病院、診療所
14	学校、職場
15	障害者団体
16	友だち、知り合い
17	ホームヘルパー
18	インターネットの掲示板(民間サイト)など
19	その他( )
20	相談できるところはない
21	相談の必要はない

問20 福祉サービスなどの情報をどこで知りますか。(○はいくつでも)

1	ねりま区報
2	区のホームページ
3	インターネットのサイト(区のホームページ以外)
4	区の障害者福祉のしおり
5	総合福祉事務所、保健相談所
6	障害者地域生活支援センター
7	(きらら・すてつぷ・ういんぐ・さくら) 学校、職場、施設
8	病院、診療所
9	相談支援事業所
10	民生委員、児童委員
11	障害者団体
12	家族、親せき
13	友だち、知り合い
14	その他( )
15	わからな

問21 生活に必要な情報を得る際に、あなたはパソコンなどをどれくらい利用していますか。(それぞれ○は1つ)

①	パソコン	よく使う	2	まあ使う	3	使わない	4	持っていない
②	スマートフォン	よく使う	2	まあ使う	3	使わない	4	持っていない
③	タブレット端末	よく使う	2	まあ使う	3	使わない	4	持っていない
④	その他( )	よく使う	2	まあ使う	3	使わない	4	持っていない

問22 あなたは、ふだん周りにとの会話のために、どのような方法・機器等を利用していますか。(○はいくつでも)

- 1 パソコンのメール
- 2 携帯/スマートフォン/メール・SNS※
- 3 電話(固定・携帯/スマートフォン)
- 4 携帯用会話補助装置※
- 5 手話・手話通訳
- 6 読話
- 7 筆談・要約筆記
- 8 補聴機器(補聴器・人工内耳など)
- 9 触手話
- 10 指文字・指点字
- 11 意志伝達装置
- 12 文字盤
- 13 コミュニケーションボード
- 14 その他( )
- 15 特に使用している機器はない

※ SNS(ソーシャル・ネットワーク・サービス)とは、Twitter(ツイッター)やFacebook(フェイスブック)等インターネットの利用者同士でやりとりができるサービスです。

※ 携帯用会話補助装置とは、言葉を音声または文章に変換する、または言葉を拡張する機能を有する携帯式機器(携帯端末等)で利用するためのアプリケーションソフトを含む。

問23 周りにとの会話をしやすくしたり、情報を簡単に手に入れるために、どのようなことをもっと良くするといいですか。(○はいくつでも)

- 1 点字による情報提供を増やす
- 2 音声による情報提供を増やす
- 3 パソコン/携帯メール・SNSによる情報提供を増やす
- 4 手話通訳・要約筆記を充実する
- 5 公共施設の案内・誘導をわかりやすくする
- 6 電光掲示板や自動販売機など字幕による情報提供を増やす
- 7 コミュニケーション支援機器の種類・使い方についての情報提供や相談の機会を増やす
- 8 コミュニケーションを支援する人を増やす
- 9 その他( )
- 10 特にない

【すべての方におたずねします。】

問24 今後、日中をどのようにして過ごしたいと思えますか。(○はいくつでも)

- 1 今いる施設で過ごしたい
- 2 学校に通いたい
- 3 会社などで働きたい
- 4 就労移行支援・就労継続支援事業所などで働きたい
- 5 働くための訓練・支援を受け、会社で働くことをめざしたい
- 6 自立した日常生活が送れるよう、自立訓練などを受けたい
- 7 病院、診療所で機能訓練、看護、介護、日常生活の支援などを受けながら過ごしたい
- 8 福祉園などの通所施設で、手助けを受けながらさまざまな活動を行いたい
- 9 自分の家で過ごしたい
- 10 その他( )
- 11 わからない

問25 あなたは、5年後・10年後・20年後に、それぞれのようなくらし方を希望しますか。第1希望・第2希望について、右の枠に項目の番号を記入してください。

【5年後】についてお答えください。

- 1 ひとりで暮らしたい
- 2 家族と一緒に暮らしたい
- 3 グループホームで暮らしたい
- 4 施設に入所したまま暮らしたい
- 5 その他( )
- 6 わからない

第1希望

第2希望

【10年後】についてお答えください。

- 1 ひとりで暮らしたい
- 2 家族と一緒に暮らしたい
- 3 グループホームで暮らしたい
- 4 施設に入所したまま暮らしたい
- 5 その他( )
- 6 わからない

第1希望

第2希望

【20年後】についてお答えください。

- 1 ひとりで暮らしたい
- 2 家族と一緒に暮らしたい
- 3 グループホームで暮らしたい
- 4 施設に入所したまま暮らしたい
- 5 その他( )
- 6 わからない

第1希望

第2希望

【問25の「5年後」「10年後」「20年後」のいずれかで、「1 ひとりで暮らしたい」「2 家族と暮らしたい」「3 グループホームで暮らしたい」と答えた方におたずねします。】

問26 どのような手助けや環境が必要になると思えますか。(○はいくつでも)

(地域で暮らすまでに)	(地域で暮らし続けるために)
1 日常生活ができるための訓練をすること	8 家族の理解があること
2 施設や病院以外で暮らす体験ができること	9 介助者がいること
3 バリアフリーに対応した物件、グループホームなどの住宅を充実させること	10 働いて収入が得られる、収入額が増えること
4 アパートなどの入居時に保証人になってくれる人がいること	11 地域住民が障害・障害者に理解があること
5 自分の家の改修	12 困ったときに相談できる人がいること
6 ひとりで暮らすための手続きへの手助け	13 ホームヘルパー、ショートステイなどの福祉サービスが受けられること
7 ひとりで暮らすための費用	14 休日・夜間の緊急時に受診できる医療機関が身近にあること
	15 障害者に理解のある不動産業者(または貸主)
	16 定期的に安否確認を受けられるサービス
	17 家事などの生活方向上のための支援
	18 金銭管理の支援
	19 その他( )
	20 特になし

問27 今後、練馬区に住みたいと思えますか。(○は1つ)

1 住みたい	2 住みたいと思わない	3 わからない
--------	-------------	---------

問28 問27のように思った理由を書いてください。(自由記入)

--

■ 権利擁護について ■

問29 障害があることで、差別されたり、いやな思いをしたことがありますか。(○は1つ)

1 いつもある	3 ほとんどない
2 たまにある	4 わかららない

問30 あなたは、障害および障害のある方のことを、まわりの人にもっとわかってもらうためには、何が必要だと思いますか。(○はいくつでも)

1 障害についてのお知らせや講演会などを充分におこなう
2 ボランティア活動や障害理解を深める活動をしている団体を支援する
3 障害のある方との交流を通じた障害理解の機会を増やす
4 学校における福祉教育・人権教育をすすめる
5 障害のある方の社会参加をすすめる
6 福祉施設が地域住民との交流をすすめる
7 障害のある方自らが、積極的に地域活動に参加する
8 障害のある方自らが、必要な手助けをまわりの人に伝える
9 障害や発達に課題のある子どもへの支援の充実
10 その他( )
11 わかららない
12 特になし

【すべての方におたずねします。】

※ 成年後見制度とは、自分で十分な判断ができない人のために、後見人等を選んで本人の意思決定を助け、生活や財産などの権利を守る制度です。選ばれた後見人等は、本人の意思を尊重し、心身の状態に配慮しながら必要な代理行為を行い、財産を適正に管理します。練馬区では、練馬区社会福祉協議会の権利擁護センター「ほっとサポートねりま」を成年後見制度の推進機関と位置づけています。

- 書類を記入するとき、代わりに書くことに問題がない場合は、その人の意思を十分に確認しながら代わりに書く。
- 絵や写真のカードやタブレット端末などを使い、障害特性に合った方法で説明する。
- 段差がある場合に、携帯のスロープなどを使って補助する。

1 ある → 問32-1へ進む

2 ない → 問32-1へ進む

3 その他( ) → 問32-1へ進む

【問31-1で「2 ない」と答えた方におたずねします。】

問31-2 「合理的配慮」を求めたことがないのほどどのような理由からですか。(○はいくつでも)

- 1 合理的配慮を必要とする場面・機会にであったことがない
- 2 そのときには、合理的配慮を求めたことを思い浮かばなかった
- 3 合理的配慮を求めたかったが、周囲のことを考えて遠慮してしまった
- 4 合理的配慮を求めたかったが、配慮を求めることを言い出しにくかった
- 5 合理的配慮について知らなかった
- 6 その他( )

【すべての方におたずねします。】

問32-1 あなたは、今後の状況によって成年後見制度を利用しますか(利用するつもりですか)。(○は1つ)

※ 成年後見制度とは、自分で十分な判断ができない人のために、後見人等を選んで本人の意思決定を助け、生活や財産などの権利を守る制度です。選ばれた後見人等は、本人の意思を尊重し、心身の状態に配慮しながら必要な代理行為を行い、財産を適正に管理します。練馬区では、練馬区社会福祉協議会の権利擁護センター「ほっとサポートねりま」を成年後見制度の推進機関と位置づけています。

1 現在利用している → 問33へ進む

2 今後利用したい → 問33へ進む

3 利用したいと思わない → 問33へ進む

4 わからない → 問33へ進む

【問32-1で「3 利用したいと思わない」と答えた方におたずねします。】

問32-2 成年後見制度を利用しない(したくない)理由はなんですか。(○はいくつでも)

- 1 手続きがむずかしい
- 2 費用負担が大きすぎる
- 3 後見人が選ばれるまでに時間がかかる
- 4 制度のしくみがよくわからない
- 5 十分な支援が受けられるかわからない
- 6 その他( )
- 7 必要がない

■ 障害者施策全般について ■

【すべての方におたずねします。】

問33 今後、障害者施策を充実させるためには、どのようなことが必要だと思いますか。

(○はいくつでも)

- |    |                                      |
|----|--------------------------------------|
| 1  | 障害の早期発見・早期療育に努めること                   |
| 2  | 障害のある方とない方の交流をすすめる、お互いの理解を深めること      |
| 3  | 障害のある子どもそれぞれの状況や発達にあった教育をおこなうこと      |
| 4  | 障害のある方の働くところを用意し、仕事を続けられるように努めること    |
| 5  | ホームヘルパーの派遣など自宅での生活を支えるサービスに力をいれること   |
| 6  | 区内で利用できる施設をつくり増やすこと                  |
| 7  | 障害者や高齢者にやさしいまちづくりをすすめること             |
| 8  | 障害のある方の住まいとしてグループホームを増やすこと           |
| 9  | 公営住宅や民間住宅など住まいを確保するための手助けに力をいれること    |
| 10 | 文化芸術、スポーツ、レクリエーション活動に参加できるような手助けすること |
| 11 | 障害のある当事者による活動を手助けすること                |
| 12 | ボランティア活動をすすめること                      |
| 13 | 障害者施策や福祉に関するおしらせを充分におこなうこと           |
| 14 | 相談しやすいようにすること                        |
| 15 | サービスの利用手続きをしやすいようにするため、受付窓口を増やすこと    |
| 16 | 本人だけではなく、家族を支える手助けを充分におこなうこと         |
| 17 | その他( )                               |
| 18 | 特になし                                 |

問34 新型コロナウイルス感染症拡大により、感染症流行前と比べて令和5年6月1日時点で、あなたの暮らしにどのような影響がありましたか。(○はいくつでも)

増えた点	変化しな	減った点	わからない
①	2	3	4
1	1	2	3
2	1	2	3
3	1	2	3
4	1	2	3
5	1	2	3
6	1	2	3
7	1	2	3
8	1	2	3
9	1	2	3

このアンケートの中の選択肢や自由記入欄だけでは書ききれなかったことや、ご意見・ご要望、次期計画に盛り込みたいことなどがありませんら、自由にお書きください。

調査にご協力いただき誠にありがとうございました。

「あて名の方ご本人」へのおたずねは以上です。  
 記入もれがないかももう一度お確かめのうえ、同封の返信用封筒（切手はいりません）に入れ、7月10日（月）までにお近くの郵便ポストに入れてください。  
 もし、差し支えなければ、ふだんあて名の方ご本人を主に手助けされている方のご意向もお聞かせください。

このページは、ふだん「あて名の方ご本人」を介助・援助しているご家族の方がお答えください。

■ 介助・援助者の意向

問35 あて名の方ご本人が、今後施設を出て、地域で暮らすことの可能性についてお答えください。(○は1つ)

1 条件が整えば可能だと思ふ  
 2 難しいと思ふ → 問38へ進む  
 3 その他( ) } → 自由記入へ進む  
 4 わからない

→ 問36、問37は、問35で「1 条件が整えば可能だと思ふ」と答えた方におたずねします。

問36 あて名の方ご本人は、地域でどのように暮らすことがよいと思えますか。(○は1つ)

1 ひとり暮らし  
 2 いまの家族と一緒に暮らす  
 3 グループホームで共同生活  
 4 その他( )

問37 地域で暮らすためには、どのような支援や環境が必要になると思えますか。(○はいくつでも)

〔地域で暮らすまでに〕

1 日常生活ができるための訓練をすること  
 2 施設や病院以外で暮らす体験ができること  
 3 バリアフリーに対応した物件、グループホームなどの住宅を充実させること  
 4 アパートなどの入居時に保証人になってくれる人がいること  
 5 自分の家の改修  
 6 ひとりで暮らすための手続きへの手助け  
 7 ひとりで暮らすための費用

〔地域で暮らし続けるために〕

8 家族の理解があること  
 9 介助者がいること  
 10 働いて収入が得られる、収入額が増えること  
 11 地域住民が障害・障害者に理解があること  
 12 困ったときに相談できる人がいること  
 13 ホームヘルパー、ショートステイなどの福祉サービスが受けられること  
 14 休日・夜間の緊急時に受診できる医療機関が身近にあること  
 15 障害者に理解のある不動産業者(または貸主)  
 16 定期的に安否確認を受けられるサービス  
 17 家事などの生活力向上のための支援  
 18 金銭管理の支援  
 19 その他( )  
 20 持っていない

【問35で、地域で暮らすことが「2 難しいと思ふ」と答えた方におたずねします。】

問38 差し支えなければ、施設からの退所が難しいと思ふ理由を教えてください。(自由記入)

(自由記入欄)

最後に、練馬区の障害者施策などについて、ご意見・ご要望がございましたら、自由にお書きください。

(自由記入欄)

調査にご協力いただき誠にありがとうございました。

同封の返信用封筒(切手は不要)に入れ、7月10日(月)までにご投函ください。

# 生活と福祉に関するアンケート

## ■ あなた（あて名の方ご本人）のことについて

問1 お子さんの性別と年齢をお答えください。

性別 1 男性 2 女性 3 ( ) 年齢 ( ) 歳

問2 この調査票はどなたが記入されますか。お子さんから見た続き柄でご記入ください。(〇は1つ)

- 1 父親
- 2 母親
- 3 祖父
- 4 祖母
- 5 その他( )

問3 現在、お子さんと一緒に暮らしている人はどなたですか。お子さんから見た続き柄でご記入ください。(〇はいくつでも)

- 1 父親
- 2 母親
- 3 祖父
- 4 祖母
- 5 兄弟、姉妹
- 6 その他( )

問4 お子さんは、以下の手帳をお持ちですか。お持ちの方は等級にも〇をつけてください。(〇はいくつでも)

- 1 愛の手帳 → ( 1度 2度 3度 4度 )
- 2 身体障害者手帳 → ( 1級 2級 3級 4級 5級 6級 )
- 3 精神障害者保健福祉手帳 → ( 1級 2級 3級 )
- 4 これらの手帳は持っていない

【問5は、身体障害者手帳を持っている方にお答えください。】

問5 身体障害者手帳に記載されている障害は次のどれですか。あてはまる障害の番号を「1番目」の欄に記入してください。障害の種類が2つ以上記載されている場合は、記載の順番にしたがって「1番目」と「2番目」を記入してください。

- 1 視覚障害
- 2 聴覚障害
- 3 平衡機能障害
- 4 音声機能・言語機能・そしゃく機能の障害
- 5 肢体不自由 (上肢、下肢、乳幼児期以前の非進行性の脳病変による運動機能障害)
- 6 肢体不自由(体幹)
- 7 心臓、じん臓、呼吸器、ぼうこう、直腸、小腸、肝機能、免疫の機能の障害
- 8 その他( )

1番目

2番目

【問6は、「愛の手帳」もしくは「身体障害者手帳」を持っている方がお答えください。】

問6 「愛の手帳」または「身体障害者手帳」を何歳のころから持っていますか。あてはまるほうに年齢を書いてください。

愛の手帳 年齢 ( ) 歳ごろ

身体障害者手帳 年齢 ( ) 歳ごろ

【すべての方におたずねします。】

問7 お子さんは、以下のように診断されたことがありますか。(〇はいくつでも)

- 1 発達障害(自閉スペクトラム症、AD/HD、学習障害など)
- 2 高次脳機能障害(失語症含む)
- 3 難病
- 4 強度行動障害
- 5 特にない

問8-1 お子さんは現在、日常生活をおくるために、医療的なケアを必要としていますか。(〇は1つ)

- 1 必要
- 2 必要ではない → 問9へ進む

【問8-2、問8-3は、問8-1で「1 必要」と回答した方におたずねします。】

問8-2 どのような医療的ケアが必要ですか。(〇はいくつでも)

- 1 経管栄養
- 2 胃ろう
- 3 腸ろう
- 4 たん等の吸引
- 5 吸入
- 6 気管カニューレ
- 7 導尿
- 8 人工呼吸器
- 9 気管切開
- 10 その他( )

問8-3 介助者が不在の時のなどの短期入所(ショートステイ)の利用状況についておたずねします。(〇はいくつでも)

- 1 区内の短期入所(ショートステイ)を利用している
- 2 区外の短期入所(ショートステイ)を利用している
- 3 利用したいが医療的ケアが理由で受け入れ先がない
- 4 利用の必要がない
- 5 その他( )

■ 介助・援助の状況について

【すべての方におたずねします。】

問9 ふだん、お子さんを介助・援助しているのはどなたですか。(○はいくつでも)

1 とくに介助等は受けていない → 問12-1へ進む

2 父

3 母

4 祖父、祖母

5 訪問看護師

6 ホームヘルパー

7 その他( )

最も長く介助・援助している人 → (問9の選択肢の番号を記入)

はどなたですか。その方が

2~4の場合、年齢を教えてください。

年齢  歳

【問10、問11は、問9で「2」~「7」を回答した方におたずねします。】

問10 お子さんは、どのようなときに介助・援助が必要ですか。(○はいくつでも)

1 食事

2 トイレ

3 入浴

4 衣服の着脱

5 家の中の移動

6 外出

7 服薬

8 医療的ケアに関わる介助

9 他の人と意思疎通を図りたいとき

10 その他( )

問11 あなた（お子さんを介助・援助している方）が、病気のとときや、外出しなければならぬ場合はどのようにしたいと思いますか。(○はいくつでも)

1 同居している他の家族に頼みたい

2 同居していない他の家族や親せきに頼みたい

3 介護や家事援助などを行うホームヘルプサービスを利用したい

4 訪問看護を利用したい

5 施設への短期入所(ショートステイ)を利用したい

6 近所の人や友人・知人に頼みたい

7 子育てサービスを利用したい

8 今までそのようなことはなかったもので、よくわからない

9 その他( )

【すべての方におたずねします。】

問12-1 お子さんは、ふだんの生活の中で、必要とする介助・援助を受けていると思いますか。(○は1つ)

1 必要だが、受けていない介助・援助がある

2 必要とする介助・援助は受けていると思う → 問13へ進む

3 特に介助・援助を必要としていない

4 その他( )

→【問12-1で「1 必要だが、受けていない介助・援助がある」と回答した方におたずねします。】

問12-2 必要だが、受けていない介助・援助は、どのようなことですか。(自由記入)

■ 日中の過ごし方について

【すべての方におたずねします。】

問13 お子さんは平日の昼間、児童発達支援の他に、どこで過ごしていますか。(○は1つ)

1 幼稚園に通っている

2 保育園に通っている

3 自宅にすることが多い

4 その他( )

■ 教育について

【問14は、現在、幼稚園または保育園に通っている方におたずねします。】

問14 幼稚園・保育園に通っていて、もっと充実してほしいことはありませんか。(○はいくつでも)

1 通いややすくしてほしい(通学手段の改善など)

2 施設・設備などを充実してほしい

3 介助体制を充実してほしい

4 先生・生徒の理解などが深まってほしい

5 夏休みなど長期休みの際の取組を充実してほしい

6 その他( )

7 特に困っていることはない

■ 外出や社会参加の状況について

【すべての方におたずねします。】

問15 外出する際に利用する手段を教えてください。(○はいくつでも)

- |              |                |
|--------------|----------------|
| 1 徒歩         | 6 家族などが運転する自動車 |
| 2 車椅子        | 7 バス           |
| 3 自転車        | 8 電車           |
| 4 バイク、スクーター  | 9 タクシー         |
| 5 自分で運転する自動車 | 10 その他( )      |

問16 あなたがお子さんを連れて外出する際に困っていることがありますか。(○はいくつでも)

- |                                   |
|-----------------------------------|
| 1 ほかに手伝ってくれる人がいない                 |
| 2 他人の視線が気になる                      |
| 3 必要ときに、周りの人の手助け・配慮が足りない          |
| 4 歩道が狭く、放置自転車などの障害物が多いなど、歩道が歩きにくい |
| 5 建物などに段差が多く、利用しにくい               |
| 6 車を駐車するところがない                    |
| 7 気軽に利用できる移動手段が少ない                |
| 8 電車やバスなどが利用しづらい                  |
| 9 バリアフリートイレが少ない                   |
| 10 その他( )                         |
| 11 特に困っていることはない                   |

問17 あなたは、これからお子さんにどのような活動をさせたいと思いますか。

(○はいくつでも)

- |                 |               |
|-----------------|---------------|
| 1 文化芸術活動        | 5 地域の行事やお祭    |
| 2 スポーツ・レクリエーション | 6 その他( )      |
| 3 旅行            | 7 特に活動させなくてよい |
| 4 ならい事などの活動     |               |

問18 お子さんが問17のような活動に参加するためにはどのような支援が必要だと思えますか。(○はいくつでも)

- |                      |                |
|----------------------|----------------|
| 1 活動についての情報が提供されること  | 5 適切な指導者がいること  |
| 2 一緒に行く仲間がいること       | 6 介助者・援助者がいること |
| 3 活動する場所が近くにあること     | 7 その他( )       |
| 4 外出のための手段が確保されていること | 8 特にない         |

■ 健康状況や医療について

問19 お子さんの健康管理や医療について、困ったり不便に感じたことはありませんか。(○はいくつでも)

- |                                 |
|---------------------------------|
| 1 特に困っていることはない                  |
| 2 近所に診てくれる医師がいない                |
| 3 専門的な治療を行う医療機関がない              |
| 4 往診を頼める医者がいない                  |
| 5 定期的に健康診断を受けられない               |
| 6 医療機関とのコミュニケーションがとれない          |
| 7 障害のために症状が正確に伝わらず、必要な治療が受けられない |
| 8 受診手続きなど、障害のある方への配慮が不十分        |
| 9 医療機関の建物が障害のある方に配慮した構造になっていない  |
| 10 休日・夜間の相談や治療をしてくれる医療機関が少ない    |
| 11 その他( )                       |

■ 相談や情報の入手について

問20 あなたは、悩みごとや心配ごとがあるとき、家族や親せき以外にどのようなところに相談していますか。(○はいくつでも)

- |                                       |                         |
|---------------------------------------|-------------------------|
| 1 総合福祉事務所                             | 11 学校教育支援センター           |
| 2 保健相談所                               | 12 子ども家庭支援センター          |
| 3 障害者地域生活支援センター<br>(きらら・すてっぷ・ういんぐ・くら) | 13 病院・診療所               |
| 4 権利擁護センター ほっとサポートねりま                 | 14 学校・職場                |
| 5 民生委員・児童委員                           | 15 障害者団体                |
| 6 障害者相談員                              | 16 友人・知人                |
| 7 児童相談所                               | 17 ホームヘルパー              |
| 8 福祉施設                                | 18 インターネットの掲示板(民間サイト)など |
| 9 相談支援事業所                             | 19 その他( )               |
| 10 こども発達支援センター                        | 20 相談できるところはない          |
|                                       | 21 相談の必要はない             |

問21 福祉サービスなどの情報をどこから得ていますか。(○はいいくつでも)

- |   |                         |    |           |
|---|-------------------------|----|-----------|
| 1 | ねりま区報                   | 8  | 病院・診療所    |
| 2 | 区のホームページ                | 9  | 相談支援事業所   |
| 3 | インターネットのサイト(区のホームページ以外) | 10 | 民生委員・児童委員 |
| 4 | 区の障害者福祉のしおり             | 11 | 障害者団体     |
| 5 | 総合福祉事務所・保健相談所           | 12 | 家族・親せき    |
| 6 | 障害者地域生活支援センター           | 13 | 友人・知人     |
| 7 | (きらら・すてっぷ・ういんぐ・さくら)     | 14 | その他( )    |
|   | 学校、職場、施設                | 15 | わからない     |

問22 お子さんは、ふだん周囲の方々とのコミュニケーションのために、どのような手段・機器等を利用していますか。(○はいいくつでも)

- |   |                  |    |                |
|---|------------------|----|----------------|
| 1 | 携帯用会話補助装置※       | 7  | 指文字・指点字        |
| 2 | 手話・手話通訳          | 8  | 意志伝達装置         |
| 3 | 読話               | 9  | 文字盤            |
| 4 | 筆談・要約筆記          | 10 | コミュニケーションボード   |
| 5 | 補聴機器(補聴器・人工内耳など) | 11 | その他( )         |
| 6 | 触手話              | 12 | 特に使用していない機器はない |

※ 携帯用会話補助装置とは、言葉を音声または文章に変換する、または言語を拡声する機能を有する携帯式機器(携帯端末等で利用するためのアプリケーションソフトを含む。)

問23 円滑なコミュニケーションの実現や情報入手のために、どのようなことを充実するとよいと思いますか。(○はいいくつでも)

- |    |   |
|----|---|
| 1  | 点字による情報提供を増やす                           |
| 2  | 音声による情報提供を増やす                           |
| 3  | パソコン/携帯メール・SNS※による情報提供を増やす              |
| 4  | 手話通訳・要約筆記を充実する                          |
| 5  | 公共施設の案内、誘導をわかりやすくする                     |
| 6  | 電光掲示板や自動販売機など字幕による情報提供を増やす              |
| 7  | コミュニケーション支援機器の種類・使い方についての情報提供や相談の機会を増やす |
| 8  | コミュニケーションを支援する人を増やす                     |
| 9  | その他( )                                  |
| 10 | 特にない                                    |

※ SNS(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)とは、Twitter(ツイッター)やFacebook(フェイスブック)等インターネットを介して友人・知人など利用者同士で情報発信・やりとりができるサービスです。

■ 福祉サービスについて

問24 お子さんは、この1年くらいの間に次の間に次のサービスを利用したことがありますか。(○はいいくつでも)

- |    |                       |
|----|-----------------------|
| 1  | ホームヘルプなどの訪問系サービス      |
| 2  | 訪問看護などの医療系サービス        |
| 3  | 短期入所(ショートステイ)・緊急一時保護  |
| 4  | 補装具費の支給・修理            |
| 5  | 日常生活用具の給付・レンタル        |
| 6  | 住宅設備改善費の給付            |
| 7  | 福祉タクシー券の交付、自動車燃料費の助成等 |
| 8  | 移動支援・同行援護             |
| 9  | 訪問入浴サービスなどの入浴サービス     |
| 10 | 児童発達支援                |
| 11 | 手話通訳者・要約筆記者の派遣        |
| 12 | ファミリーサポート             |
| 13 | その他( )                |
| 14 | 1～12のサービスを利用していない     |

問25-1 お子さんは、現在必要だと思うサービスを十分利用していますか。(○は1つ)

- |   |                  |              |
|---|------------------|--------------|
| 1 | 十分利用している         | } → 問26-1へ進む |
| 2 | 十分ではないが、ほぼ利用している |              |
| 3 | あまり利用していない       | } → 問26-1へ進む |
| 4 | その他( )           |              |
| 5 | わからない            |              |
| 6 | サービスを利用する必要がない   |              |

【問25-1で「3 あまり利用していない」と回答した方におたずねします。】

問25-2 必要だと思うサービスを「あまり利用していない」理由は何ですか。(○はいいくつでも)

- |   |                      |    |                    |
|---|----------------------|----|--------------------|
| 1 | 自己負担が大きいため           | 6  | 個別のニーズに対応できないから    |
| 2 | 支給要件に該当しないから         | 7  | サービスに空きがなく利用できないから |
| 3 | 必要とするサービスがないから       | 8  | 医療的ケアが理由で受け入れ先がない  |
| 4 | どのようなサービスがあるかわからないから | 9  | その他( )             |
| 5 | 利用の仕方がわからないから        | 10 | わからない              |

【すべての方におたずねします。】

問 26-1 次のサービスのうち、今後も引き続き利用したい、あるいは新たに利用したいと思うサービスはありますか。(○はい/×でも)

1 ホームヘルプなどの訪問系サービス	→ 問 27 へ進む
2 訪問看護などの医療系サービス	
3 短期入所(ショートステイ)・緊急一時保護	
4 補装具費の支給・修理	
5 日常生活用具の給付・レンタル	
6 住宅設備改善費の給付	
7 福祉タクシー券の交付、自動車燃料費の助成等	
8 移動支援・同行援護	
9 訪問入浴サービスなどの入浴サービス	
10 児童発達支援・放課後等デイサービスなど	
11 手話通訳者・要約筆記者の派遣	
12 ファミリーサポート	
13 その他( )	
14 1～12の中に利用したいサービスはない	

→【問 26-2、問 26-3 は、問 26-1 で「9 入浴サービス」と回答した方におたずねします。】

問 26-2 必要だと思う入浴サービスは次のうちどれですか。(○はい/×でも)

1 ヘルパーを利用して自宅の浴室での入浴
2 訪問入浴サービスによる入浴
3 福祉施設等での機械浴や介助浴
4 その他( )

問 26-3 身近な福祉施設で機械浴などのバリアフリー設備がある入浴設備を利用できる場合、あなたはお子さんと利用したいと思いますか。(○はい/×でも)

1 ヘルパー等の介助があれば利用したい
2 送迎があれば利用したい
3 家族・知人の介助があれば利用したい
4 利用したくない
5 その他( )

【すべての方におたずねします。】

問 27 サービスを利用しやすくするために、どのようなことが必要だと思いますか。改善が必要だと思ふサービスの名前と必要だと思うことをお書きください。

改善が必要なサービスの名前	必要だと思うこと
	→
	→
	→

■ 将来について

問 28 今後も練馬区に住み続けたいと思いますか。(○は1つ)

1 住み続けたい	2 区外に移転したい	3 わからない
----------	------------	---------

問 29 問 28 のように答えた理由は何か。(自由記入)

--

■ 災害対策について

問 30-1 あなたは、最寄の避難拠点\* (区立小中学校) の場所をご存じですか。(○は1つ)

\*練馬区では、災害時に自宅で生活することができない場合の避難場所として、全区立小中学校を指定しており、避難拠点と呼んでいます。なお、避難拠点は居住地による指定はありません。お住まいの地域にかかわらず避難ができます。

1 知っている	2 知らない → 問 31 へ進む
---------	-------------------

→【問 30-1 で「1 知っている」と回答した方におたずねします。】

問 30-2 あなたは、災害時にお子さんとその避難拠点まで自力で避難することができますか。(○は1つ)

1 できると思う	2 できないと思う	3 その他( )
----------	-----------	----------

【すべての方におたずねします。】

問31 災害に備えて、または災害時に、どのような対策が必要だと思いますか。(○はいくつでも)

- 1 避難しやすい避難所を整備する
- 2 障害のある方が防災訓練等に参加するように促す
- 3 日頃から避難方法のアドバイスや情報提供を行う
- 4 緊急通報システムを整備する
- 5 避難時の支援体制、地域で助け合える体制を整備する
- 6 避難時に障害者用設備(トイレ、ベッドなど)を配置する
- 7 避難時に人工透析や人工呼吸器、在宅酸素など生命安全・維持装置を確保する
- 8 避難時において障害者に配慮した情報提供を行う
- 9 避難時の介助人などを確保する
- 10 避難所での手話通訳者、ガイドヘルパーなどを確保する
- 11 避難所で補装具等の貸出しを行う
- 12 その他( )
- 13 特にない

■ 権利擁護について

問32 地域で暮らす上で、障害に対して理解を得られていると感じますか。(○はいくつ)

- 1 十分得られていると感じる
- 2 時々得られていないと感じる
- 3 あまり得られていないと感じる
- 4 まったく得られていないと感じる
- 5 わからない

問33 あなたは、障害および障害のある方への区民の理解を深めるためには、何が必要だと思いますか。(○はいくつでも)

- 1 障害への理解を深めるための広報・啓発を充実する
- 2 ボランティア活動や障害理解を深める活動をしている団体を支援する
- 3 障害がある方との交流を通じた障害理解の機会を増やす
- 4 学校における福祉教育・人権教育を充実する
- 5 障害のある方の社会参加のための支援を充実する
- 6 福祉施設が地域住民との交流を進める
- 7 障害のある方自らが、積極的に地域活動に参加する
- 8 障害のある方自らが、必要な手助け等を周囲に伝える
- 9 障害や発達に課題のある子どもへの支援の充実
- 10 その他( )
- 11 わからない
- 12 特にない

問34-1 あなたは、今まで周囲に対して「合理的配慮」を求めたことがありますか。(○はいくつ)

合理的配慮とは、障害のある方が、必要な配慮や手助けについて意思を伝えたととき、役所や会社・お店などが、負担が重すぎない範囲で対応することをいいます。

《合理的配慮の具体例》

- 書類を記入するとき、代わりに書くことに問題がない場合は、その人の意思を十分に確認しながら代わりに書く。
- 絵や写真のカードやタブレット端末などを使い、障害特性に合った方法で説明する。
- 段差がある場合に、携帯のスロープなどを使って補助する。

- 1 ある →問 35へ進む
- 2  ない ) →問 35へ進む
- 3 その他( )

【問34-1で「2 ない」と回答した方におたずねします。】

→問 34-2 「合理的配慮」を求めたことがないのはどのような理由からですか。(○はいくつでも)

- 1 合理的配慮を必要とする場面・機会にあっていない
- 2 そのときには、合理的配慮を求めるとを思いつかなかった
- 3 合理的配慮を求めたかったが、周囲のことを考えて遠慮してしまったり
- 4 合理的配慮を求めたかったが、配慮を求めるとを言い出しにくかった
- 5 合理的配慮について知らなかった
- 6 その他( )

■ 介助・援助者の意向

問 35 あなたのお子さんを主に介助・援助する方の性別・ご年齢・続柄について、当てはまるものにそれぞれ教えてください。(○はそれぞれ1つ)  
なお、回答しにくいと感じる場合は、回答したかなくなくて結構です。

性別 (○は1つ)	1 男性	2 女性	3 ( )
年齢 (○は1つ)	1 20 歳未満	5 50 歳代	
	2 20 歳代	6 60 歳代	
	3 30 歳代	7 70 歳代	
	4 40 歳代	8 80 歳以上	
続柄 (○は1つ)	1 夫	7 父	
	2 妻	8 母	
	3 息子	9 兄弟	
	4 娘	10 孫	
	5 子の夫	11 その他( )	
	6 子の妻		

問 36 あなたの現在の健康状態はいかがですか。(○は1つ)

1 よい	3 ぶつう	5 よくない
2 まあよい	4 あまりよくない	

問 37-1 あなたの就労・就学状況を教えてください。(○は1つ)

1 正規社員	4 学生 → 問 38 へ進む
2 非正規社員	5 無職 → 問 37-2 へ進む
3 パート・アルバイト	6 その他( )

【問 37-1 で「1」～「3」、または「5」、または「6」のいずれかを回答した方におたずねします。】

問 37-2 あなたの今後の就労意向を教えてください。(○は1つ)

1 現在と同様の形で働きたい	4 パート・アルバイトとして働きたい
2 正規社員として働きたい	5 わからない
3 非正規社員として働きたい	6 働きたくない

問 38 あなたがお子さんを介助・援助するにあたって、困っていることはありませんか。(○はいくつでも)

1 介助・援助の方法がわからない	11 孤独感がある
2 福祉サービス等の情報が不足している	12 精神的な負担が大きい
3 福祉サービス等が十分に利用できない	13 経済的な負担が大きい
4 余暇など自分の時間が持てない	14 他にも介助の必要な家族・親族がいる
5 ちよつとした外出ができない	15 他の家族の援助が足りない
6 仕事に出られない	16 隣近所の人との関係づくりが難しい
7 長期的な外出ができない	17 何かの際に相談や介助を頼める人がいない
8 睡眠不足である	18 その他( )
9 身体的な負担が大きい	19 特にない
10 年齢的に負担が大きい	

問 39-1 現在、お子さん以外に、他の方の介護や子育て等をしていますか。(○は1つ)

1 している	2 していない → 問 40 へ進む
--------	--------------------

問 39-2 「他の方の介護や子育て等をしている」と回答した方におたずねします。お子さんからみて、その方はどのような関係にあたりますか。(○はいくつでも)

1 兄弟・姉妹	3 祖父・祖母
2 父・母	4 その他( )

問 39-3 「他の方の介護や子育て等をしている」と回答した方におたずねします。その方が介助・援助を必要とするのはどのような理由からですか。(○はいくつでも)

1 病気のため	4 育児のため
2 障害のため	5 その他( )
3 高齢のため	

問40 家族等支援として、区に充実してほしい施策は何ですか。(〇はいくつでも)

- 1 区からの情報提供を増やす
- 2 家族等の休養目的のショートステイを充実させる
- 3 家族等に対する相談体制を充実させる
- 4 障害特性の理解や、適切な対応をするための知識・方法を学ぶ家族向けプログラムを実施する
- 5 家族同士の交流や情報交換の場・機会をつくる
- 6 その他( )
- 7 特にない

■ 障害者施策全般について

問41 今後、障害者施策を充実させるためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

- 1 障害の早期発見・早期療育に努めること
- 2 障害のある方とない方の交流を進め、相互理解を深めること
- 3 障害のある子どもそれぞれに状況や発達に応じた教育を進めること
- 4 障害のある方の働く場の確保や働き続けるための支援を充実すること
- 5 ホームヘルパーの派遣など在宅生活支援サービスを充実すること
- 6 区内で利用できる施設を整備すること
- 7 障害者や高齢者にやさしいまちづくりを進めること
- 8 障害のある方の住まいとしてグループホームを整備すること
- 9 公営住宅や民間住宅など住まいを確保するための支援を充実すること
- 10 文化芸術、スポーツ、レクリエーション活動に参加できるような支援すること
- 11 障害のある当事者による活動を支援すること
- 12 ボランティア活動を充実すること
- 13 障害者施策や福祉に関する情報提供を充実すること
- 14 相談体制を充実し、適切な支援をすること
- 15 サービスの利用手続きをしやすいようにするため、受付窓口を充実すること
- 16 当事者のみでなく、家族を支える支援を充実すること
- 17 その他( )
- 18 特にない

問42 新型コロナウイルス感染症拡大により、感染症流行前と比べて令和5年6月1日時点で、あなたの暮らしにどのような影響がありましたか。(〇はいくつでも)

	増えた	変化しな	減った	わからない
回答例	①	2	3	4
1 家族との会話や連絡の頻度(電話などを含む)	1	2	3	4
2 友人・知人との会話や連絡の頻度(電話などを含む)	1	2	3	4
3 生活に必要な外出の頻度(買い物・食事・医療機関の受診など)	1	2	3	4
4 社会参加の外出の頻度(余暇活動・ボランティア・スポーツなど)	1	2	3	4
5 不安やストレスを感じる頻度(神経過敏、気分の落ち込みなどを含む)	1	2	3	4
6 孤立・孤独を感じる頻度	1	2	3	4
7 ICT(パソコン、スマートフォン、タブレット型端末)の使用	1	2	3	4
8 障害福祉サービス(訪問サービス)の利用頻度	1	2	3	4
9 障害福祉サービス(通所系サービス)の利用頻度	1	2	3	4

最後に、この調査を通じて選択肢や自由記入欄だけでは表現しきれなかったことや、ご意見・ご要望、次期計画に盛り込みたいことなどがありましたら、自由にお書きください。

調査にご協力いただき誠にありがとうございました。

同封の返信用封筒(切手は不要)に入れ、7月10日(月)までにご投函ください。

問1 差し支えなければ、事業所名と住所をご記入ください。

事業所名	
住所	

問2 貴事業所の経営主体をお聞きます。(○は1つ)

1 社会福祉法人	4 企業(株式会社・有限会社等)
2 医療法人	5 特定非営利活動法人(NPO法人)
3 一般社団法人・一般財団法人	6 その他( )

問3 貴事業所の所在地をお聞きます。(○は1つ)

1 練馬圏域 (郵便番号が「176」から始まる地域)
2 光が丘圏域 (郵便番号が「179」から始まる地域)
3 石神井圏域 (郵便番号が「177」から始まる地域)
4 大泉圏域 (郵便番号が「178」から始まる地域)

問4 貴事業所の開業年をお聞きます。

昭和 ・ 平成 ・ 令和  年

問5 貴事業所で提供している障害福祉サービス、児童福祉法に基づく障害児サービス等を選んで○をつけてください。(○はいくつでも)

1 居宅介護	16 自立生活援助
2 重度訪問介護	17 共同生活援助(グループホーム)
3 同行援護	18 地域移行支援
4 行動援護	19 地域定着支援
5 療養介護	20 計画相談支援
6 生活介護	21 児童発達支援
7 短期入所(ショートステイ)	22 医療型児童発達支援
8 重度障害者等包括支援	23 放課後等デイサービス
9 施設入所支援	24 居宅訪問型児童発達支援
10 自立訓練(機能訓練)	25 保育所等訪問支援
11 自立訓練(生活訓練)	26 障害児相談支援
12 就労移行支援	27 地域活動支援センター事業
13 就労継続支援(A型)	28 移動支援事業
14 就労継続支援(B型)	29 日中一時支援事業
15 就労定着支援	30 その他( )

－ 生活と福祉に関するアンケート ご協力をお願い －

日ごろより、練馬区の障害福祉行政の推進につきまして、ご理解、ご協力をいただき、厚く御礼申し上げます。

この調査は、障害福祉サービス等を提供している事業所の皆様を対象に、障害福祉に関する施策検討のための基礎資料を得ることを目的として実施します。結果については統計的に処理し、回答内容について目的以外に利用することはありません。

お忙しいところ誠に恐縮ですが、このアンケート調査の趣旨をご理解いただき、ご協力をお願い申し上げます。

練馬区

《 記入にあたってのお願い 》

1. お答えは、あてはまる選択肢の番号に○をつけていただくものです。なお、「その他」の場合は( )の中に具体的な内容も記入してください。
2. お答えは、「1つだけ」選んでいただくものと、「いくつでも」選んでいただくものと、また、自由に記入いただくものがあります。
3. 質問によっては、ある条件にあてはまる事業所だけにお答えをお願いするものがありますので、説明にしたがってお答えください。
4. 答えたくない質問については、無理に答える必要はありません。

ご記入が終わったアンケート用紙は、お手数ですが7月10日(月)までに、同封の返信用封筒(切手は不要です)に入れ、お近くのポストに投函してください。

調査の実施は、株式会社シティ・プランニングに委託しています。お問い合わせは、下記連絡先までお願いいたします。

[ アンケート調査に関するお問い合わせ先 ]

株式会社シティ・プランニング アンケート担当  
 電話: 03-5620-4371 F A X: 03-5620-4391  
 (受付時間: 平日10時～17時) メール: cplan@cplan.co.jp

[ 調査の実施主体 (依頼元) ]

練馬区 福祉部 障害者施策推進課 事業計画担当係  
 練馬区豊玉北6-12-1

問6 貴事業所で提供しているサービスのうち、利用定員が定められているサービスがあります。また、サービスごとに利用定員をご記入ください。

サービス	障害種類	利用者数	うち練馬区民数	定員数
問5の選択肢番号	身体障害	人	人	人
	知的障害	人	人	人
	精神障害	人	人	人
	発達障害	人	人	人
	難病	人	人	人
	その他	人	人	人

問7 貴事業所でサービスを提供している利用者数をお聞きます。問5で答えられた提供サービスごとに、障害別にご記入ください。重複障害の方については、主たる障害についてお答えください。(令和5年6月1日時点)

サービス	障害種類	利用者数	うち練馬区民数	サービス	障害種類	利用者数	うち練馬区民数
問5の選択肢番号	身体障害	人	人	問5の選択肢番号	身体障害	人	人
	知的障害	人	人		知的障害	人	人
	精神障害	人	人		精神障害	人	人
	発達障害	人	人		発達障害	人	人
	難病	人	人		難病	人	人
	その他	人	人		その他	人	人

サービス	障害種類	利用者数	うち練馬区民数
問5の選択肢番号	身体障害	人	人
	知的障害	人	人
	精神障害	人	人
	発達障害	人	人
	難病	人	人
	その他	人	人

問8 令和5年6月1日時点の職員数をご記入ください。

合計職員数	(内訳)	
	常勤	非常勤
人	人	人

問8-1 令和5年6月1日時点の職種別の職員数の内訳をご記入ください。

(合計人数は、問8の「合計職員数」と一致します)

(業務している職員については、主として従事する職種にのみ記入ください)

生活支援員 <sup>1)</sup>	介護職員 <sup>2)</sup> (ヘルパー)	サービス管理責任者 サービス提供責任者 児童発達支援管理責任者	相談支援専門員
人	人	人	人
看護師	栄養士	理学療法士	作業療法士
人	人	人	人
事務職員	管理者	医師・嘱託医	その他
人	人	人	人
			職業指導員 <sup>3)</sup>
			人

※1 社会福祉士、精神保健福祉士、保育士などの有資格者および無資格者を含む。

※2 介護福祉士、実務者研修(研修終了)、介護職員初任者研修等の有資格者。

※3 社会福祉士、精神保健福祉士、保育士などの有資格者および無資格者を含む。

問8-2 令和5年6月1日時点の経験年数(貴事業所での年数に限らず)別の職員数の内訳をご記入ください。(合計人数は、問8の「合計職員数」と一致します)

6か月未満	6か月以上 1年未満	1年以上 3年未満	3年以上 5年未満	5年以上 10年未満	10年以上
人	人	人	人	人	人

※職員ごとの正確な経験年数がわからなければ、おおよそで結構ですので、問8の「合計職員数」と一致させてください。

■ 運営状況について

【問9は、利用定員が定められている事業所にお聞きます。】

問9 貴事業所における令和5年3月から令和5年5月までの平均的な利用率はおおよそ何%  
くらいでしたか。

%

問 10 貴事業所の昨年度の事業の収支状況をお聞きます。事業所全体の状況と、問5で選択した提供している事業それぞれについてお答えください。

(○はそれぞれ1つ)

貴事業所の収支状況	1 黒字だった 2 ほぼ収支が均衡した 3 やや赤字だった 4 大幅な赤字だった 5 その他( )
事業ごとの収支状況	1 黒字だった 2 ほぼ収支が均衡した 3 やや赤字だった 4 大幅な赤字だった 5 その他( )
事業ごとの収支状況	1 黒字だった 2 ほぼ収支が均衡した 3 やや赤字だった 4 大幅な赤字だった 5 その他( )
事業ごとの収支状況	1 黒字だった 2 ほぼ収支が均衡した 3 やや赤字だった 4 大幅な赤字だった 5 その他( )

問 11 事業を運営する上での課題は何ですか。(○はいくつでも)

1 新規利用者の獲得が困難	9 スタッフが短期間で離職してしまう
2 利用者一人あたりの利用量が少ない	10 スタッフの人材育成
3 設備・スタッフなどが不足し、量的に利用者のニーズに応えられない	11 責任者など中堅人材の確保・育成
4 利用者や家族がサービスをよく理解していない	12 他のサービス事業所との競合が激しい
5 利用者の心身状態の把握が難しい	13 他のサービス事業所との連携
6 利用者からの苦情や事故への対応	14 医療機関との連携
7 訪問や送迎が非効率(エリアが広い等)	15 自立支援給付費等のサービスの報酬が低い
8 スタッフの確保	16 医療的ケアへの対応
	17 その他( )
	18 特に課題はない

問 12-1 現在、職員の過不足の状況は次のどれにあたりますか。(○は1つ)

1 大変不足している	4 適当である	→問 13 へ進む
2 不足している	5 過剰である	
3 やや不足している		

【問 12-2、12-3は、問 12-1で「1 大変不足している」「2 不足している」「3 やや不足している」と回答した事業所にお聞きします。】

問 12-2 不足している職員の職種は何ですか。不足人数もお答えください。(○はいくつでも)

1 生活支援員	( ) 人	7 理学療法士	( ) 人
2 介護職員(ヘルパー)	( ) 人	8 作業療法士	( ) 人
3 サービス管理責任者・サービス提供責任者・児童発達支援管理責任者	( ) 人	9 職業指導員	( ) 人
4 相談支援専門員	( ) 人	10 事務職員	( ) 人
5 看護師	( ) 人	11 管理者	( ) 人
6 栄養士	( ) 人	12 医師・嘱託医	( ) 人
		13 その他( )	( ) 人

問 12-3 貴事業所では、職員が不足していることによって、事業所の運営に何か支障が出ていますか。(○はいくつでも)

1 事業の縮小を余儀なくされている	( )
2 事業の継続が困難になっている	
3 サービスの量・質の低下を招き、利用者のニーズに応えきれなくなっている	
4 利用者の受け入れを減らしている	
5 配置欠如減算により収入が減っている	
6 その他( )	
7 職員は不足しているが、特に事業所の運営に支障はない	

[すべての事業所にお聞きします。]

問13 貴事業所の、この1年間(令和4年4月1日～令和5年3月31日まで)での採用者数と離職者数をご記入ください。また、離職者については、勤務年数の内訳についても人数をご記入ください。

※該当職種の中で、該当者がいない欄は「0」(ゼロ)を記入してください。

職種	＜採用＞		＜離職＞	
	雇用形態	採用者数	1年未満	1年以上3年未満
ア 障害児者支援施設職員	無期	人	人	人
	有期	人	人	人
イ 障害児者居宅介護従事者(ホームヘルパー)	無期	人	人	人
	有期	人	人	人
ウ 生活支援員	無期	人	人	人
	有期	人	人	人
エ 相談支援専門員	無期	人	人	人
	有期	人	人	人
オ ガイドヘルパー	無期	人	人	人
	有期	人	人	人
カ OT・ST・PT等	無期	人	人	人
	有期	人	人	人
キ 看護職員	無期	人	人	人
	有期	人	人	人
ク サービス提供責任者 サービス管理責任者	無期	人	人	人
	有期	人	人	人

問14 貴事業所では、人材確保のための取り組みをしていますか。(〇はいくつでも)

1 求人誌などに人材広告を掲載した	7 知人経由・人づてで探した
2 インターネットの求人サイトを利用した	8 ボランティアを受け入れた
3 人材募集のチラシを配布した	9 勤務条件(夜勤回数、勤務時間帯など)を改善した
4 ハローワークを通じて募集した	10 給与・報酬を改善した
5 福祉専門学校等で求人を行った	11 福利厚生(育休、介護休暇など)を改善した
6 練馬福祉人材育成・研修センターの人材確保事業を利用した	12 その他( )
	13 特にしていない

問15 貴事業所では、処遇改善加算を取得していますか。(〇は1つ)

1 取得した	2 取得していない	3 現在申請している
--------	-----------	------------

問16 貴事業所では、人材育成のためにどのようなことに取り組んでいますか。(〇はいくつでも)

1 資格取得のための支援(費用面など)	5 スキルアップに対し報酬制度を設置
2 外部研修への参加支援(費用面など)	6 中堅・ベテラン職員に育成を経験させる
3 事業所での研修実施	7 その他( )
4 研修計画の策定	8 特に取り組んでいない

問17 貴事業所では、早期離職防止や定着促進のためにどのような取り組みをしていますか。(〇はいくつでも)

1 労働時間(時間帯・総労働時間)の希望	6 キャリアに応じた給与体系を整備している
2 育児・介護などの休暇制度の活用を推奨している	7 新人の指導担当・アドバイザーを置いている
3 能力や仕事ぶりを評価し、配置や処遇に反映している	8 子育て支援を行っている
4 心身の健康管理に力を入れている	9 その他( )
5 福利厚生を充実させ、職場内の交流を深めている	10 特にしていない

問18 貴事業所の職員が、過去1年間に参加した研修内容をお聞きます。(〇はいくつでも)

1 障害福祉サービス制度全般に関する研修	8 障害の特性に関する研修
2 障害者の権利擁護に関する研修	9 サービス管理責任者指導者養成・児童発達支援管理責任者研修
3 職場のメンタルヘルスに関する研修	10 相談支援従事者指導者養成研修
4 苦情対応に関する研修	11 都が実施する集団指導
5 成年後見制度に関する研修	12 区が実施する集団指導
6 自立支援給付の請求に関する説明会・研修	13 その他( )
7 利用者支援等に係る実務研修	14 参加した研修はない

問 19-1 練馬福祉人材育成・研修センターの研修について、貴事業所の人材育成等への効果はありますか。(○は1つ)

- |            |                  |
|------------|------------------|
| 1 効果がある    | 4 効果がない          |
| 2 一部効果がある  | 5 センターを利用したことがない |
| 3 あまり効果がない | 6 わからない          |

【19-1で、「5 センターを利用したことがない」と回答した事業所にお聞きします。】

- 問 19-2 利用したことのない理由は何ですか。(○はいくつでも)
- |                    |                     |
|--------------------|---------------------|
| 1 センターがあることを知らなかった | 4 利用したいが時間的余裕がない    |
| 2 利用方法がわからない       | 5 利用したいが代替職員が確保できない |
| 3 利用したい研修内容がない     | 6 その他( )            |

問 20 人材確保・人材育成について、練馬区に取り組んでほしいことはどのようなことですか。自由にお書きください。(自由記入)

■ サービスの提供状況について

問 21 貴事業所におけるサービスの提供体制についてお聞きます。提供しているサービスごとに記入ください。

サービス名	1か月平均のサービス提供可能量	1か月平均の実際のサービス提供量
1 居宅介護	時間	時間
2 重度訪問介護	時間	時間
3 同行援護	時間	時間
4 行動援護	時間	時間
5 療養介護	人	人
6 生活介護	日	日
7 短期入所(ショートステイ)	日	日
8 重度障害者等包括支援	時間	時間
9 施設入所支援	人	人
10 自立訓練(機能訓練)	日	日
11 自立訓練(生活訓練)	日	日
12 就労移行支援	日	日
13 就労継続支援(A型)	日	日
14 就労継続支援(B型)	日	日
15 就労定着支援	日	日
16 自立生活援助	日	日
17 共同生活援助(グループホーム)	人	人
18 地域移行支援	人	人
19 地域定着支援	人	人
20 計画相談支援	人	人
21 児童発達支援	日	日
22 医療型児童発達支援	日	日
23 放課後等デイサービス	日	日
24 居宅訪問型児童発達支援	日	日
25 保育所等訪問支援	日	日
26 障害児相談支援	人	人
27 地域活動支援センター事業	日	日
28 移動支援事業	時間	時間
29 日中一時支援事業	日	日
30 その他( )	( )	( )

※ 単位が「時間」または「日」の場合は、「延べ時間」または「延べ日数」

※ (例)「7 短期入所(ショートステイ)」で1日につき2名、月曜～金曜の受け入れが可能な場合、「1か月平均のサービス提供可能量」は「40日」(2名×週5日×4週)とご記入ください。

※ 単位が「人」の場合は、「実人数」

問 22-1 これまでに、問 21 で回答したサービスを提供しようとして、できなかったことはありますか。(○は1つ)

1 ある	2 ない
------	------

→問 22-2 サービスを提供しようとしてできなかった理由は何ですか。(自由記入)

[問 23-1 は、指定特定相談支援事業所以外の事業所にお聞きします。]

問 23-1 貴事業所は、特定相談支援事業所の指定をとる予定はありますか。(○は1つ)

1 今後、指定をとる予定である→問 24-1へ進む

2 指定をとる予定はない

→問 23-2 特定相談支援事業所の指定をとる予定がないのはなぜですか。(○はいくつでも)

1 職員体制が整わない	5 事業所の場所の確保ができない
2 相談支援専門員がいらない	6 収益性の確保ができない
3 指定の取り方がわからない	7 その他( )
4 資金の調達ができない	

問 24-1 貴事業所では、障害福祉サービス・介護保険サービス以外に行っている、または今後行いたいサービスや、地域連携や社会貢献活動はありますか。(○はいくつでも)

1 居場所の提供	5 農福連携
2 社会教育の機会の提供	6 行っていない
3 LINE、メール等による相談	7 その他( )
4 講座等の区民への障害理解啓発活動	

[問 24-2 は、障害福祉サービス・介護保険サービス以外に行っている、または今後行いたいサービスや、地域連携や社会貢献活動がある事業所にお聞きます。]

問 24-2 サービスや、地域連携や社会貢献活動の具体的内容をお書きください。

問 25 貴事業所では、介護保険サービスを提供していますか。提供しているサービスがあれば、次の中から選んで○をつけてください。(○はいくつでも)

<居宅サービス>	<地域密着型サービス>
1 訪問サービス	7 訪問・通所型サービス
2 通所サービス	8 認知症対応型サービス
3 短期入所サービス	9 施設・特定施設型サービス
<施設サービス>	10 その他
4 特別養護老人ホーム	[
5 介護老人保健施設	
6 介護療養型医療施設	

【問 26 は、居宅介護・重度訪問介護・生活介護・自立訓練・児童発達支援・放課後等デイサービス・短期入所を提供している事業所にお聞きします。】

問 26 貴事業所では、「共生型サービス」※の指定を受ける予定はありますか。(○は1つ)

- 1 既に指定を受けている
- 2 今後、指定を受ける予定である
- 3 指定を受ける予定はない
- 4 その他( )

※高齢者と障害児者が同一事業所でサービスを受けやすくするため、介護保険又は障害福祉のいずれかの指定を受けた事業所がもう一方の制度における指定を受けやすくする制度

問 27 「共生型サービス」の指定を受ける予定がある場合、どのようなサービスを提供していくお考えですか。既に指定を受けている場合には、そのサービスも含めてお答えください。(○はいくつでも)

- 1 ホームヘルプ(訪問介護)
- 2 デイサービス(通所介護、療養通所介護)
- 3 ショートステイ(短期入所生活介護)
- 4 その他( )

問 28 貴事業所では、今後、新たに障害福祉サービス等への参入を検討していますか。新たに参入を検討しているサービス等がありましたら○をつけてください。(○はいくつでも)

- 1 居宅介護
- 2 重度訪問介護
- 3 同行援護
- 4 行動援護
- 5 療養介護
- 6 生活介護
- 7 短期入所(ショートステイ)
- 8 重度障害者等包括支援
- 9 施設入所支援
- 10 自立訓練(機能訓練)
- 11 自立訓練(生活訓練)
- 12 就労移行支援
- 13 就労継続支援(A型)
- 14 就労継続支援(B型)
- 15 就労定着支援
- 16 就労選択支援(仮称)
- 17 自立生活援助
- 18 共同生活援助(グループホーム)
- 19 地域移行支援
- 20 地域定着支援
- 21 計画相談支援
- 22 児童発達支援
- 23 医療型児童発達支援
- 24 放課後等デイサービス
- 25 居宅訪問型児童発達支援
- 26 保育所等訪問支援
- 27 障害児相談支援
- 28 地域活動支援センター事業
- 29 移動支援事業
- 30 日中一時支援事業
- 31 その他( )
- 32 新たに参入を検討しているサービス等はない

問 29 貴事業所では、サービス向上のためにどのようなことに取り組んでいますか。(○はいくつでも)

- 1 サービス提供のガイドライン、マニュアルを作成している
- 2 事故防止のためにヒヤリ・ハット事例の収集・共有を図っている
- 3 利用者や家族に対し満足度調査を行っている
- 4 積極的に外部評価を受けている(ISO、第三者評価等)
- 5 独自の自己評価を実施している
- 6 管理者が直接サービス提供の状況を確認し指導している
- 7 現場のスタッフが自発的に問題事例(生活問題等)に関するケース検討会などを行っている
- 8 現場スタッフに任せている
- 9 意見箱を設置している
- 10 各種研修会、学習会・セミナーの実施や参加
- 11 その他( )
- 12 特に取り組んでいることはない

問 30 貴事業所では、サービス利用について、利用者やご家族からどのような苦情や要望を受けられることが多いですか。(○はいくつでも)

- 1 利用できる回数や日数が少ない
- 2 利用日などが希望通りにならない
- 3 サービス内容に不満がある
- 4 職員間の申し送りが不十分
- 5 利用したいサービスが利用できない
- 6 金銭的な利用者負担が大きい
- 7 障害の状況・特性を十分に理解してもらえない
- 8 その他( )
- 9 特に苦情や要望を受けることはない

問 31-1 貴事業所では、ここ数年、利用者が「高齢化している」あるいは「障害が重度化している」と感じていますか。(○はいくつでも)

- |   |                         |
|---|-------------------------|
| 1 | 利用者が高齢化が進んでいる           |
| 2 | 利用者の障害の重度化が進んでいる        |
| 3 | 利用者が高齢化や障害の重度化を感じることはない |
| 4 | その他( )                  |

→ [問 31-2、31-3は、生活介護・短期入所(ショートステイ)・就労移行支援・就労継続支援(A型)・就労継続支援(B型)・共同生活援助(グループホーム)を提供している事業所にお聞きします。]

問 31-2 貴事業所では、利用者が「高齢化している」あるいは「障害が重度化している」ことによって、継続してサービスを利用することが難しい方が増えていますか。

- |   |                |
|---|----------------|
| 1 | すでに難しい方が5名以上いる |
| 2 | すでに難しい方が1~4名いる |
| 3 | 5年以内に難しくなる方がいる |
| 4 | わからない          |
| 5 | その他( )         |

問 31-3 利用者が高齢化、障害の重度化に伴い、どのような利用者ニーズが高まってきているでしょうか。実際に貴事業所で高齢化・重度化が進んでいない場合でも、将来の利用者の高齢化・重度化を想定してお答えください。(○はいくつでも)

- |   |                               |
|---|-------------------------------|
| 1 | 障害福祉サービスから介護保険サービスへのよりスムーズな移行 |
| 2 | 医療的ケアへのより適切な対応                |
| 3 | 利用者がより安全・快適に利用できるよう、施設・設備の改善  |
| 4 | 医療機関・関係機関との連携強化               |
| 5 | 緊急時対応の強化                      |
| 6 | 送迎の希望の増加                      |
| 7 | サービス内容の変更                     |
| 8 | その他( )                        |
| 9 | わからない                         |

問 32 何か問題が生じた場合に、相談する先はどこですか。(○はいくつでも)

- |   |                               |   |               |
|---|-------------------------------|---|---------------|
| 1 | 練馬区                           | 6 | 法人本部          |
| 2 | 東京都                           | 7 | 他の事業所         |
| 3 | 国                             | 8 | その他( )        |
| 4 | 相談支援事業所                       | 9 | どこにも相談したことはない |
| 5 | 障害者地域生活支援センター<br>(基幹相談支援センター) |   |               |

問 33 問 32 で相談されたのは、主にどのような内容ですか。(○はいくつでも)

- |   |                       |
|---|-----------------------|
| 1 | 事業所の運営の支援に関する事        |
| 2 | 人材の確保・質の向上に関する事       |
| 3 | サービスの拡充に関する事          |
| 4 | 技術的な支援に関する事           |
| 5 | 困難な事例への対応に関する事        |
| 6 | 利用者からの苦情や要望等への対応に関する事 |
| 7 | その他( )                |

問 34 障害者地域生活支援センターは基幹相談支援センターに位置付けられており、相談体制の中核を担う機関です。今後、障害者地域生活支援センターに期待することはどのようなことですか。ご自由にお書きください。(自由記入)

--

問 35 貴運営法人及び貴事業所では、コンプライアンスについてどのように取り組みをしていますか。(〇はいくつでも)

- 1 職員に対して、コンプライアンス教育を行っている
- 2 定期的に職員のコンプライアンスのセルフチェックを行っている
- 3 法人・事業所内に、内部通報制度を作っている
- 4 法人・事業所内に、コンプライアンス委員会等の組織を作っている
- 5 その他( )
- 6 特に取り組んでいることはない

問 36 貴事業所では、次のような ICT 機器を活用していますか。(〇はいくつでも)

- 1 記録から障害福祉サービス請求までを一元化したシステムを利用している
- 2 給与計算、ソフト管理、勤怠管理を一元化したシステムを利用している
- 3 グループウェア等のシステムで事業所内の報告・連絡・相談を行っている
- 4 パソコンで利用者情報(個別支援計画等)を共有している
- 5 タブレット端末等で利用者情報(個別支援計画等)を共有している
- 6 情報共有システム等を用いて他事業者とデータ連携している
- 7 その他( )
- 8 いずれも行っていない

問 37 貴事業所では、意思決定支援について取り組みを行っていますか。(〇はいくつでも)

- 1 意思決定支援に関する研修を受講している
- 2 意思決定支援ガイドラインを用いて事業所内で勉強会を行っている
- 3 意思決定支援に関して確認手順やマニュアル等を定めている
- 4 その他( )
- 5 いずれも行っていない

問 38 障害者虐待防止の推進のため、令和4年度から運営基準に従業者への研修実施等を盛り込むことが義務づけられました。現在の取組状況をおたずねします。(〇はいくつでも)

- 1 従業者への研修実施
- 2 虐待防止委員会の設置および委員会の検討結果の従業者への周知
- 3 虐待防止のための責任者の設置
- 4 その他( )
- 5 特に取り組んでいることはない

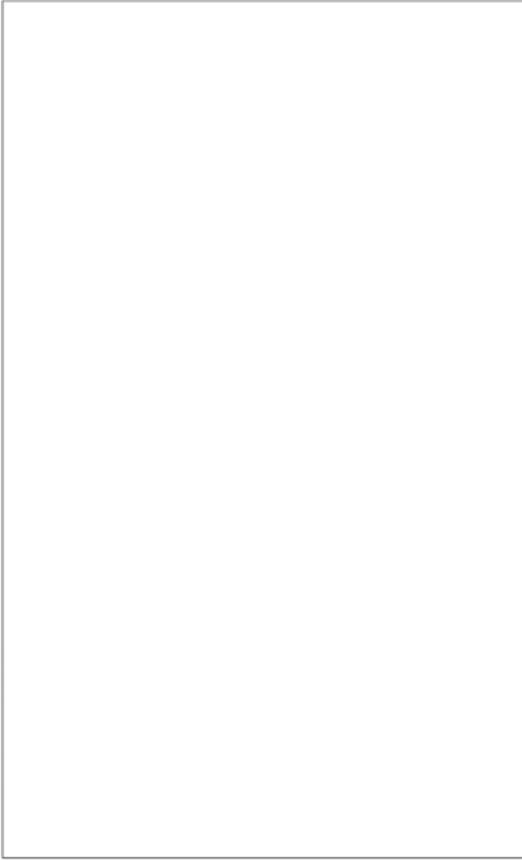
問 39 災害が発生した場合であっても、利用者に対して必要なサービスが安定的・継続的に提供されることが重要なことから、運営基準において、令和6年度から業務継続に向けた計画等(BCP)の策定や研修の実施、訓練の実施等を義務付けられます。現在の策定状況をおたずねします。

- 1 自然災害に係るBCPのみ策定している
- 2 感染症にかかるとのBCPのみ策定している
- 3 どちらのBCPも策定している
- 4 策定していない

問 40 貴事業所では、大規模災害時を想定した利用者の安否確認等について、どのような取り組みを進めていますか。(〇はいくつでも)

- 1 ふだんから被災情報収集および職員への連絡体制を確認している
- 2 ふだんから利用者の安否確認方法について確認している
- 3 ふだんから利用者や家族の連絡体制について確認している
- 4 ふだんから利用者・職員ともに避難経路・避難所を確認している
- 5 関係機関との緊急連絡体制を構築している
- 6 地域住民(自主防災組織等)との連絡体制を構築している
- 7 職員および利用者の防災知識の向上を図っている
- 8 定期的に防災訓練を実施している
- 9 その他( )
- 10 特に取り組んでいることはない

問41 練馬区の障害者施策などについて、ご意見・ご要望がございましたら、自由にお書きください。(自由記入)



調査にご協力いただき誠にありがとうございました。

同封の返信用封筒(切手は不要)に入れ、7月10日(月)までにご投函ください。



練馬区障害者基礎調査報告書

令和5年（2023年）10月

編集・発行 練馬区福祉部障害者施策推進課

〒176-8501 東京都練馬区豊玉北6丁目12番1号

電話 03-5984-4602（直通）

FAX 03-5984-1215

E-mail SHOGAISISAKU02@city.nerima.tokyo.jp



